

深谷市

じょう

しき

めん

# 上敷免遺跡

一般国道17号深谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告

— V —

(第2分冊)

1993

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



第72号住居跡



第19号住居跡出土遺物



第66号住居跡出土遺物



第75号住居跡出土遺物

# 目次

序  
例言  
凡例

(第1分冊)

I	調査の概要	1
1	発掘調査に至るまでの経過	1
2	発掘調査および整理・報告書刊行事業の組織	2
3	発掘調査および整理・報告書作成作業の経過	3
4	発掘調査の方法	4
II	遺跡の立地と環境	6
III	縄文・弥生時代の遺構と遺物	13
1	縄文時代の遺構と遺物	16
2	弥生時代の遺構と遺物	16
IV	谷及びグリッドの出土遺物	38
1	谷	38
2	グリッド	85
3	土製品・玉類	103
4	石器	105
V	縄文・弥生時代のまとめ	115
1	土器について	115
2	底部圧痕について	147
3	石器について	158

(第2分冊)

VI	古墳時代以降の遺構と遺物	175
1	第1発掘区	175
2	第2発掘区	405

(第3分冊)

3	第3発掘区	639
4	第4発掘区	813

(第4分冊)

5	第5発掘区	897
6	第6発掘区	1097
7	石製品	1153
8	土製品	1167
9	鉄製品	1175
10	表採遺物	1181
VII	まとめ	1182
VIII	附篇	1207

# 插图目次

## 【第2分册】

第132图	第1号发掘区全测图	176	第169图	第12・13号住居迹(1)	218
第133图	第1号住居迹(1)	177	第170图	第12・13号住居迹(2)	219
第134图	第1号住居迹出土遺物(1)	178	第171图	第12・13号住居迹(3)	220
第135图	第1号住居迹(2)・出土遺物(2)	179	第172图	第12号住居迹出土遺物(1)	221
第136图	第2号住居迹出土遺物	180	第173图	第12号住居迹出土遺物(2)	222
第137图	第2号住居迹	181	第174图	第12号住居迹出土遺物(3)	223
第138图	第3号住居迹	182	第175图	第12号住居迹出土遺物(4)	224
第139图	第3号住居迹出土遺物(1)	183	第176图	第12号住居迹出土遺物(5)	225
第140图	第3号住居迹出土遺物(2)	184	第177图	第12号住居迹出土遺物(6)	226
第141图	第4号住居迹(1)	185	第178图	第12号住居迹出土遺物(7)	227
第142图	第4号住居迹(2)	186	第179图	第12号住居迹出土遺物(8)	228
第143图	第4号住居迹出土遺物	187	第180图	第12号住居迹出土遺物(9)	229
第144图	第5号住居迹(1)	188	第181图	第12号住居迹出土遺物(10)	230
第145图	第5号住居迹(2)	189	第182图	第12号住居迹出土遺物(11)	231
第146图	第5号住居迹出土遺物(1)	190	第183图	第9～13号住居迹近景	235
第147图	第5号住居迹出土遺物(2)	191	第184图	第14号住居迹	236
第148图	第6号住居迹	193	第185图	第14号住居迹出土遺物(1)	237
第149图	第6号住居迹出土遺物(1)	194	第186图	第14号住居迹出土遺物(2)	238
第150图	第6号住居迹出土遺物(2)	195	第187图	第15号住居迹(1)	240
第151图	第1～5号住居迹近景	195	第188图	第15号住居迹(2)	241
第152图	第7号住居迹(1)	197	第189图	第15号住居迹(3)	242
第153图	第7号住居迹出土遺物(1)	198	第190图	第15号住居迹出土遺物(1)	243
第154图	第7号住居迹(2)・出土遺物(2)	199	第191图	第15号住居迹出土遺物(2)	244
第155图	第8号住居迹(1)	201	第192图	第15号住居迹出土遺物(3)	245
第156图	第8号住居迹(2)	202	第193图	第16号住居迹遺物出土状況	247
第157图	第8号住居迹出土遺物(1)	203	第194图	第16号住居迹	248
第158图	第8号住居迹出土遺物(2)	204	第195图	第16号住居迹出土遺物(1)	249
第159图	第8号住居迹出土遺物(3)	205	第196图	第16号住居迹出土遺物(2)	250
第160图	第9・10号住居迹(1)	208	第197图	第17号住居迹	252
第161图	第9・10号住居迹(2)	209	第198图	第17号住居迹出土遺物	253
第162图	第9号住居迹出土遺物(1)	210	第199图	第18号住居迹	255
第163图	第9号住居迹出土遺物(2)	211	第200图	第18号住居迹出土遺物(1)	256
第164图	第9号住居迹出土遺物(3)	212	第201图	第18号住居迹出土遺物(2)	257
第165图	第9号住居迹出土遺物(4)	213	第202图	第19号住居迹 カマド周辺遺物出土状況	257
第166图	第10号住居迹出土遺物	213	第203图	第19号住居迹(1)	259・260
第167图	第11号住居迹	216	第204图	第19号住居迹(2)	261
第168图	第11号住居迹出土遺物	217	第205图	第19号住居迹出土遺物(1)	262

第206図	第19号住居跡出土遺物(2)……………	263	第245図	第31号住居跡小鍛冶跡……………	314
第207図	第19号住居跡出土遺物(3)……………	264	第246図	第31号住居跡(1)……………	315・316
第208図	第19号住居跡出土遺物(4)……………	265	第247図	第31号住居跡(2)……………	317
第209図	第19号住居跡出土遺物(5)……………	266	第248図	第31号住居跡出土遺物(1)……………	318
第210図	第19号住居跡出土遺物(6)……………	267	第249図	第31号住居跡出土遺物(2)……………	319
第211図	第19号住居跡出土遺物(7)……………	268	第250図	第31号住居跡出土遺物(3)……………	320
第212図	第19号住居跡出土遺物(8)……………	269	第251図	第31号住居跡出土遺物(4)……………	321
第213図	第20号住居跡(1)……………	275	第252図	第32号住居跡(1)……………	325
第214図	第20号住居跡(2)……………	276	第253図	第32号住居跡(2)……………	326
第215図	第20号住居跡出土遺物……………	277	第254図	第32号住居跡出土遺物……………	327
第216図	第21号住居跡(1)……………	279	第255図	第34号住居跡……………	329・330
第217図	第21号住居跡(2)……………	280	第256図	第34号住居跡出土遺物(1)……………	331
第218図	第21号住居跡出土遺物……………	281	第257図	第34号住居跡出土遺物(2)……………	332
第219図	第22号住居跡(1)……………	282	第258図	第34号住居跡出土遺物(3)……………	333
第220図	第22号住居跡(2)……………	283	第259図	第34号住居跡遺物出土状況……………	335
第221図	第22号住居跡出土遺物(1)……………	284	第260図	第33号住居跡・出土遺物……………	336
第222図	第22号住居跡出土遺物(2)……………	285	第261図	第35号住居跡・出土遺物……………	337
第223図	第22号住居跡出土遺物(3)……………	286	第262図	第36号住居跡(1)・第48号住居跡……………	338
第224図	第22号住居跡出土遺物(4)……………	287	第263図	第36号住居跡(2)……………	339
第225図	第22号住居跡出土遺物(5)……………	288	第264図	第36号住居跡出土遺物……………	340
第226図	第23・24号住居跡……………	292・293	第265図	第37号住居跡……………	342
第227図	第23号住居跡出土遺物(1)……………	294	第266図	第37号住居跡出土遺物……………	343
第228図	第23号住居跡出土遺物(2)……………	295	第267図	第38号住居跡……………	345
第229図	第23号住居跡出土遺物(3)・ 第24号住居跡出土遺物……………	296	第268図	第37号住居跡カマド……………	345
第230図	第25号住居跡(1)……………	298	第269図	第38号住居跡出土遺物……………	346
第231図	第25号住居跡(2)・出土遺物……………	299	第270図	第39・40号住居跡……………	347
第232図	第26号住居跡……………	301	第271図	第39号住居跡出土遺物(1)……………	348
第233図	第26号住居跡出土遺物……………	302	第272図	第39号住居跡出土遺物(2)……………	349
第234図	第27号住居跡……………	303	第273図	第42号住居跡遺物出土状況……………	349
第235図	第27号住居跡出土遺物……………	304	第274図	第40号住居跡出土遺物(1)……………	350
第236図	第29号住居跡(1)……………	306	第275図	第40号住居跡出土遺物(2)……………	351
第237図	第29号住居跡(2)……………	307	第276図	第40号住居跡出土遺物(3)……………	352
第238図	第29号住居跡出土遺物(1)……………	308	第277図	第40号住居跡出土遺物(4)……………	353
第239図	第29号住居跡出土遺物(2)……………	309	第278図	第41・42号住居跡(1)……………	357
第240図	第29号住居跡出土遺物(3)……………	310	第279図	第41号住居跡(2)……………	358
第241図	第30号住居跡……………	311	第280図	第41号住居跡出土遺物(1)……………	359
第242図	第30号住居跡出土遺物……………	312	第281図	第41号住居跡出土遺物(2)……………	360
第243図	第28号住居跡・出土遺物……………	313	第282図	第41号住居跡出土遺物(3)……………	361
第244図	第31号住居跡遺物出土状況……………	314	第283図	第42号住居跡出土遺物(1)……………	362
			第284図	第42号住居跡出土遺物(2)……………	363

第285図	第42号住居跡出土遺物(3)……………	364	第324図	第50号住居跡……………	408
第286図	第41号住居跡出土遺物(4)……………	364	第325図	第50号住居跡出土遺物……………	409
第287図	第43・44・45・46号住居跡……………	368	第326図	第51号住居跡……………	410
第288図	第43号住居跡……………	369	第327図	第51号住居跡出土遺物(1)……………	411
第289図	第44号住居跡……………	370	第328図	第51号住居跡出土遺物(2)……………	412
第290図	第45号住居跡……………	371	第329図	第51号住居跡出土遺物(3)……………	413
第291図	第44号住居跡出土遺物……………	371	第330図	第52号住居跡・出土遺物……………	415
第292図	第46号住居跡……………	372	第331図	第53号住居跡……………	416
第293図	第43号住居跡出土遺物……………	373	第332図	第53号住居跡出土遺物(1)……………	417
第294図	第45号住居跡出土遺物……………	374	第333図	第53号住居跡出土遺物(2)……………	418
第295図	第46号住居跡出土遺物(1)……………	375	第334図	第53号住居跡出土遺物(3)……………	419
第296図	第46号住居跡出土遺物(2)……………	376	第335図	第54号住居跡……………	421
第297図	第46号住居跡出土遺物(3)……………	377	第336図	第54号住居跡出土遺物(1)……………	422
第298図	第43・44・45・46号住居跡全景……………	379	第337図	第54号住居跡出土遺物(2)……………	423
第299図	第47号住居跡(1)……………	380	第338図	第55号住居跡……………	425
第300図	第47号住居跡(2)……………	381	第339図	第55号住居跡出土遺物(1)……………	426
第301図	第47号住居跡出土遺物……………	382	第340図	第55号住居跡出土遺物(2)……………	427
第302図	第148号住居跡……………	384	第341図	第56号住居跡……………	429
第303図	第148号住居跡出土遺物(1)……………	385	第342図	第56号住居跡出土遺物(1)……………	430
第304図	第148号住居跡出土遺物(2)……………	386	第343図	第56号住居跡出土遺物(2)……………	431
第305図	第148号住居跡出土遺物(3)……………	387	第344図	第57号住居跡(1)……………	432
第306図	第149号住居跡……………	390	第345図	第57号住居跡(2)……………	433
第307図	第149号住居跡出土遺物……………	391	第346図	第57号住居跡出土遺物(1)……………	434
第308図	第150号住居跡・出土遺物……………	392	第347図	第57号住居跡出土遺物(2)……………	435
第309図	第151・152号住居跡・ 第151号住居跡出土遺物……………	393	第348図	第57号住居跡出土遺物(3)……………	436
第310図	第153・155号住居跡……………	394	第349図	第57号住居跡出土遺物(4)……………	437
第311図	第153号住居跡出土遺物……………	395	第350図	第58号住居跡……………	439
第312図	第155号住居跡出土遺物……………	395	第351図	第58号住居跡出土遺物(1)……………	440
第313図	第23・148～155号住居跡近景……………	397	第352図	第58号住居跡出土遺物(2)……………	441
第314図	第154号住居跡……………	398	第353図	第59・76号住居跡……………	442・443
第315図	第1号井戸跡遺物出土状況……………	398	第354図	第59号住居跡出土遺物(1)……………	444
第316図	第1号井戸・出土遺物……………	399	第355図	第59号住居跡出土遺物(2)……………	445
第317図	第1発掘区土坑……………	400	第356図	第76号住居跡出土遺物……………	447
第318図	第8号土坑・出土遺物……………	401	第357図	第60号住居跡……………	448
第319図	第1号溝……………	402	第358図	第60号住居跡出土遺物……………	449
第320図	第1発掘区谷部・出土遺物……………	403	第359図	第61号住居跡(1)……………	450
第321図	第1発掘区グリップ出土遺物……………	404	第360図	第61号住居跡(2)……………	451
第322図	第2発掘区全測図……………	406	第361図	第61号住居跡出土遺物(1)……………	452
第323図	第49号住居跡……………	407	第362図	第61号住居跡出土遺物(2)……………	453
			第363図	第61号住居跡出土遺物(3)……………	454

第364図	第61号住居跡出土遺物(4)……………	455	第404図	第73号住居跡出土遺物(1)……………	508
第365図	第61号住居跡出土遺物(5)……………	456	第405図	第73号住居跡出土遺物(2)……………	509
第366図	第61号住居跡出土遺物(6)……………	457	第406図	第74号住居跡……………	511・512
第367図	第62・63号住居跡……………	460	第407図	第74号住居跡出土遺物(1)……………	513
第368図	第62号住居跡出土遺物(1)……………	461	第408図	第74号住居跡出土遺物(2)……………	514
第369図	第62号住居跡出土遺物(2)……………	462	第409図	第74号住居跡出土遺物(3)……………	515
第370図	第63号住居跡出土遺物……………	462	第410図	第75号住居跡(1)……………	519
第371図	第64号住居跡……………	464	第411図	第75号住居跡(2)……………	520
第372図	第64号住居跡出土遺物(1)……………	465	第412図	第75号住居跡出土遺物(1)……………	521
第373図	第64号住居跡出土遺物(2)……………	466	第413図	第75号住居跡出土遺物(2)……………	522
第374図	第64号住居跡出土遺物(3)……………	467	第414図	第75号住居跡出土遺物(3)……………	523
第375図	第65号住居跡……………	469	第415図	第75号住居跡出土遺物(4)……………	524
第376図	第65号住居跡出土遺物……………	470	第416図	第75号住居跡出土遺物(5)……………	525
第377図	第66号住居跡……………	471	第417図	第75号住居跡出土遺物(6)……………	526
第378図	第66号住居跡出土遺物(1)……………	473	第418図	第77号住居跡……………	530
第379図	第66号住居跡出土遺物(2)……………	474	第419図	第77号住居跡出土遺物……………	531
第380図	第66号住居跡出土遺物(3)……………	475	第420図	第78号住居跡……………	533
第381図	第66号住居跡出土遺物(4)……………	476	第421図	第78号住居跡出土遺物(1)……………	534
第382図	第66号住居跡出土遺物(5)……………	477	第422図	第78号住居跡出土遺物(2)……………	535
第383図	第66号住居跡出土遺物(6)……………	478	第423図	第78号住居跡出土遺物(3)……………	536
第384図	第66号住居跡出土遺物(7)……………	479	第424図	第78号住居跡出土遺物(4)……………	537
第385図	第66号住居跡出土遺物(8)……………	480	第425図	第79号住居跡……………	541
第386図	第67号住居跡……………	486	第426図	第79号住居跡出土遺物(1)……………	542
第387図	第67号住居跡出土遺物……………	487	第427図	第79号住居跡出土遺物(2)……………	543
第388図	第68・69号住居跡……………	489	第428図	第80・92号住居跡……………	544
第389図	第68号住居跡出土遺物……………	490	第429図	第80号住居跡出土遺物……………	545
第390図	第70号住居跡遺物出土状況……………	490	第430図	第92号住居跡出土遺物……………	545
第391図	第70号住居跡(1)……………	491	第431図	第81号住居跡……………	547
第392図	第70号住居跡(2)……………	492	第432図	第81号住居跡出土遺物……………	548
第393図	第70号住居跡出土遺物(1)……………	493	第433図	第82号住居跡……………	550・551
第394図	第70号住居跡出土遺物(2)……………	494	第434図	第82号住居跡出土遺物……………	552
第395図	第70号住居跡出土遺物(3)……………	495	第435図	第83・99号住居跡……………	553
第396図	第71号住居跡(1)……………	498	第436図	第99号住居跡出土遺物(1)……………	554
第397図	第71号住居跡(2)……………	499	第437図	第99号住居跡出土遺物(2)……………	555
第398図	第71号住居跡出土遺物……………	500	第438図	第83号住居跡出土遺物……………	555
第399図	第72号住居跡付近の噴砂……………	500	第439図	第84号住居跡……………	557・558
第400図	第72号住居跡……………	502・503	第440図	第84号住居跡出土遺物(1)……………	559
第401図	第72号住居跡出土遺物……………	504	第441図	第84号住居跡出土遺物(2)……………	560
第402図	第73号住居跡(1)……………	506	第442図	第85号住居跡……………	563
第403図	第73号住居跡(2)……………	507	第443図	第85号住居跡出土遺物(1)……………	564

第444図	第85号住居跡出土遺物(2)……………	565	第484図	第2号井戸出土遺物(1)……………	614
第445図	第86号住居跡……………	567	第485図	第2号井戸出土遺物(2)……………	615
第446図	第86号住居跡出土遺物……………	568	第486図	第3・4号井戸出土遺物……………	618
第447図	第87号住居跡……………	569	第487図	第2発掘区土坑(1)……………	619
第448図	第87号住居跡出土遺物(1)……………	570	第488図	第2発掘区土坑(2)……………	620
第449図	第87号住居跡出土遺物(2)……………	571	第489図	第2発掘区土坑(3)……………	621
第450図	第88号住居跡……………	572	第490図	第2発掘区土坑(4)……………	622
第451図	第88号住居跡出土遺物(1)……………	573	第491図	第2発掘区土坑出土遺物(1)……………	623
第452図	第88号住居跡出土遺物(2)……………	574	第492図	第2発掘区土坑出土遺物(2)……………	624
第453図	第89号住居跡・出土遺物……………	576	第493図	第2発掘区土坑出土遺物(3)……………	625
第454図	第90号住居跡……………	578	第494図	第19号土坑出土遺物(1)……………	626
第455図	第90号住居跡出土遺物……………	579	第495図	第19号土坑出土遺物(2)……………	627
第456図	第91号住居跡……………	580	第496図	第2号溝……………	632
第457図	第91号住居跡出土遺物……………	581	第497図	第3号溝……………	633
第458図	第93号住居跡……………	582	第498図	第4号溝……………	634
第459図	第93号住居跡出土遺物(1)……………	583	第499図	第5・6・7・8・9号溝……………	635
第460図	第93号住居跡出土遺物(2)……………	584	第500図	第2発掘区溝出土遺物……………	636
第461図	第94号住居跡カマド周辺……………	584	第501図	第2発掘区ピット出土遺物……………	637
第462図	第94号住居跡……………	586			
第463図	第94号住居跡出土遺物……………	587			
第464図	第95号住居跡・出土遺物……………	589			
第465図	第96・97号住居跡……………	590			
第466図	第96号住居跡出土遺物(1)……………	591			
第467図	第96号住居跡出土遺物(2)……………	592			
第468図	第96号住居跡出土遺物(3)……………	593			
第469図	第97号住居跡遺物出土状況……………	595			
第470図	第97号住居跡出土遺物……………	596			
第471図	第98号住居跡……………	598			
第472図	第98号住居跡出土遺物(1)……………	599			
第473図	第98号住居跡出土遺物(2)……………	600			
第474図	第100号住居跡出土遺物……………	602			
第475図	第100号住居跡……………	603			
第476図	第1号掘立柱建物跡……………	604			
第477図	第2号掘立柱建物跡……………	605			
第478図	第3号掘立柱建物跡……………	606			
第479図	第4号掘立柱建物跡……………	607			
第480図	第5号掘立柱建物跡……………	608			
第481図	掘立柱建物跡出土遺物……………	609			
第482図	第2・3号井戸……………	612			
第483図	第4号井戸……………	613			

# 図版目次

【第2分冊】	第20号住居跡
巻頭図版2 第72号住居跡	第21号住居跡
第19号住居跡出土遺物	第22号住居跡
巻頭図版3 第66号住居跡出土遺物	第22号住居跡遺物出土状況
第75号住居跡出土遺物	第23号住居跡
図版62 第1発掘区航空写真(1)	第23号住居跡
第1発掘区航空写真(2)	図版68 第25号住居跡
図版63 第1発掘区全景	第26号住居跡
第1号住居跡	第27号住居跡
第1号住居跡カマド	第28号住居跡
第2号住居跡	第29号住居跡
第3号住居跡	第29号住居跡遺物出土状況
図版64 第4号住居跡	第30号住居跡
第4号住居跡カマド	第30号住居跡遺物出土状況
第5号住居跡	図版69 第31号住居跡
第6号住居跡	第32号住居跡
第7号住居跡	第33号住居跡
第7号住居跡カマド	第34号住居跡
第8号住居跡	第35号住居跡
第8号住居跡カマド	第36号住居跡
図版65 第8号住居跡貯蔵穴	第37号住居跡
第10号住居跡	第38号住居跡
第12・13号住居跡	図版70 第39号住居跡
第12・13号住居跡遺物出土状況	第40号住居跡
第14号住居跡	第40号住居跡貯蔵穴
第14号住居跡遺物出土状況	第41号住居跡
第11号住居跡	第41号住居跡遺物出土状況
第15号住居跡	第42号住居跡
図版66 第15号住居跡カマド	第42号住居跡貯蔵穴
第15号住居跡貯蔵穴A	第43号住居跡
第15号住居跡貯蔵穴B	図版71 第44号住居跡
第16号住居跡	第45号住居跡
第17号住居跡	第46号住居跡
第18号住居跡	第47号住居跡
第18号住居跡遺物出土状況	第148号住居跡
第19号住居跡	第148号住居跡貯蔵穴
図版67 第19号住居跡	第149号住居跡
第19号住居跡遺物出土状況	第1号井戸

図版72	第1発掘区	土師器	坏類(1)		第59号住居跡
図版73	第1発掘区	土師器	坏類(2)		第59号住居跡遺物出土状況
図版74	第1発掘区	土師器	坏類(3)		第60号住居跡
図版75	第1発掘区	土師器	坏類(4)		第61号住居跡
図版76	第1発掘区	土師器	坏類(5)		第61号住居跡遺物出土状況
図版77	第1発掘区	土師器	高坏(1)	図版98	第62・63号住居跡
図版78	第1発掘区	土師器	高坏(2)		第64号住居跡
図版79	第1発掘区	土師器	高坏(3)		第64号住居跡遺物出土状況
図版80	第1発掘区	土師器	高坏(4)・甕類(1)・ 鉢他		第65号住居跡
図版81	第1発掘区	土師器	他・須恵器 甗		第66号住居跡遺物出土状況
図版82	第1発掘区	土師器	鉢・甕類(2)他		第67号住居跡
図版83	第1発掘区	土師器	甕類(3)		第68号住居跡
図版84	第1発掘区	土師器	甕類(4)他	図版99	第70号住居跡
図版85	第1発掘区	土師器	甕類(5)		第71号住居跡
図版86	第1発掘区	土師器	甕類(6)		第72号住居跡
図版87	第1発掘区	土師器	甕類(7)		第73号住居跡
図版88	第1発掘区	土師器	甕類(8)		第73号住居跡カマド
図版89	第1発掘区	土師器	甕類(9)		第73号住居跡貯蔵穴
図版90	第1発掘区	土師器	甕類(10)		第75号住居跡
図版91	第1発掘区	土師器	甕類(11)		第75号住居跡貯蔵穴
図版92	第1発掘区	土師器	甕類(12)	図版100	第77号住居跡
図版93	第1発掘区	土師器	甕類(13)		第78号住居跡
図版94	第1発掘区	土師器	甗・支脚		第78号住居跡遺物出土状況
図版95	第2発掘区全景				第78号住居跡カマド
	第49号住居跡				第78号住居跡貯蔵穴
	第50号住居跡				第79号住居跡
	第51号住居跡				第79号住居跡貯蔵穴
	第51号住居跡遺物出土状況				第81号住居跡
図版96	第52号住居跡			図版101	第82号住居跡
	第53号住居跡				第82号住居跡カマド
	第53号住居跡遺物出土状況				第84号住居跡カマド
	第53号住居跡貯蔵穴				第84号住居跡子持勾玉出土状況
	第54号住居跡				第85号住居跡
	第55号住居跡				第85号住居跡カマド
	第56号住居跡				第87号住居跡
	第56号住居跡遺物出土状況				第87号住居跡カマド
図版97	第57号住居跡			図版102	第87号住居跡編物石出土状況
	第57号住居跡遺物出土状況				第88号住居跡
	第58号住居跡				第88号住居跡カマド



## Ⅵ 古墳時代以降の遺構と遺物

### 1 第1発掘区

第1発掘区は、全発掘区域の東端、X軸のメ～と（+23.050～+23.140）、Y軸の355～378（-47.646～-48.384）にあたる。遺構確認面における標高は平均32.6mである。発掘区中央に現道が東西に走り、工事の関係でこの部分の調査は第3発掘区の調査終了後に行なわれている。そのため発掘区中央に位置している第148～155号住居跡の遺構番号は第3発掘区に続いて振られている。地形的には発掘区の東端で検出されている大きな谷に向かってごく緩やかに傾斜している。東側に隣接する新屋敷東遺跡とはこの谷によって分けられている。またこの谷を古代の榛沢郡と幡羅郡の境界とする説もある。

発掘区の西半分にあたるY軸の372～377の範囲は瓦生産のための土取りによって大規模な削平を受けている。そのため遺構はおもに発掘区の東半分からのみ確認されている。しかし地形が平坦であり、また第2発掘区の遺構分布から、本来の遺構の分布は均一であったものと推定される。噴砂の亀裂は各所に認められ、特に東半部においてはその影響が激しい。なかには遺構の平面形状が大きく歪められているものもある。

第1発掘区で検出されている遺構は、住居跡56軒（第1～48号・第148～155号）・土坑8基（第1～8号）・井戸跡1基（第1号）・溝1条（第1号）である。遺構の掘り込みは比較的東側の方が深い。これは谷に向かう緩やかな斜面であることと、西側の削平によるものと思われる。現道下の部分については、南側に調査の際に掘り込んだ排水溝が平行して走っている。また現道工事の際に削平されており、遺構の残存状態は悪い。

住居跡は、発掘区東端部においては谷に沿って構築され、遺跡（集落）の端にあたることも影響して重複は少ない。これに対して発掘区中央部においては重複が激しい。カマドは確認されているほとんどのものが北側もしくは東側の辺に造られ、南側が1軒、西側が2軒認められている。これらの時期別の内訳は、古墳時代中期14軒、古墳時代後期30軒、奈良時代5軒、平安時代前半3軒、不明4軒である。

井戸跡は、第47号住居跡に掘り込まれている。土坑は5基（第1～5号）が谷に沿って集中し、ほかは分散している。遺物は第8号土坑のみ検出されている。溝は谷に平行し、遺物は出土していない。第1～5号土坑と溝は分布地点から、谷に関係するものと推測される。

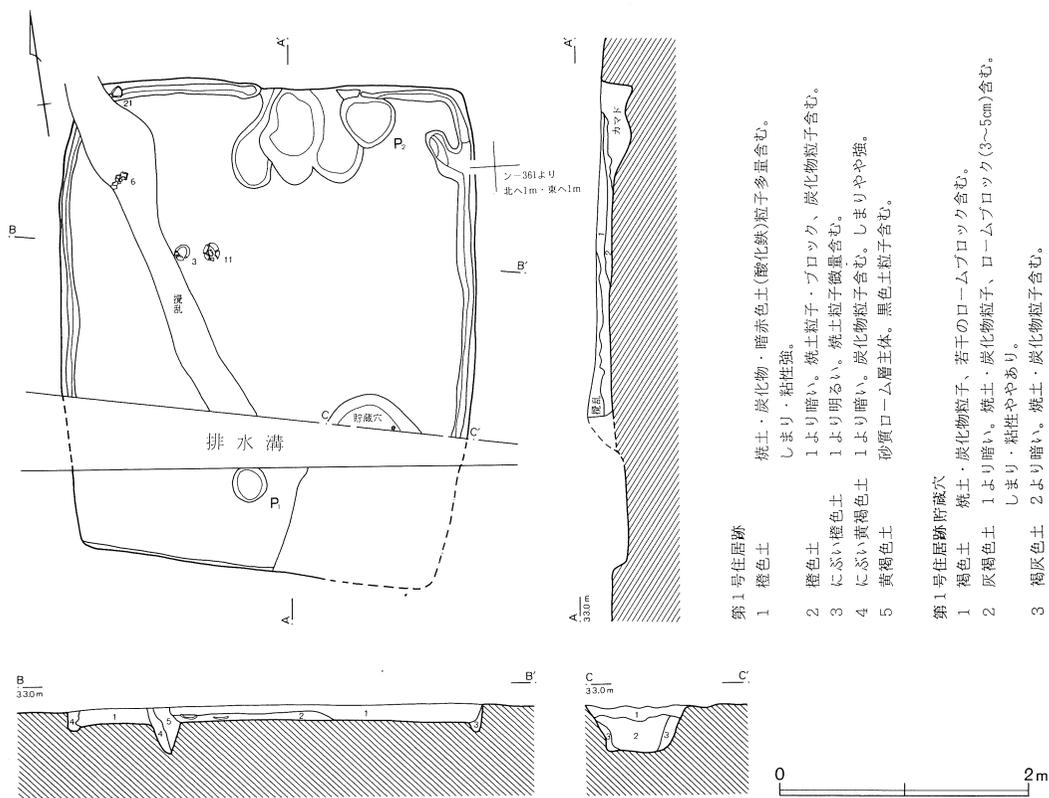
#### (1) 住居跡

##### 第1住居跡（第133図）

スー361Gridに位置している。南東コーナー部および北西コーナー部から南東コーナー部にかかる溝状の攪乱を受けている。規模は主軸辺3.89m・短辺3.36m、深さ0.01～0.13mであり、主軸方位はN-3°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁を除いて幅0.08～0.14m、深さ0.03～



第132图 第1发掘区全测图

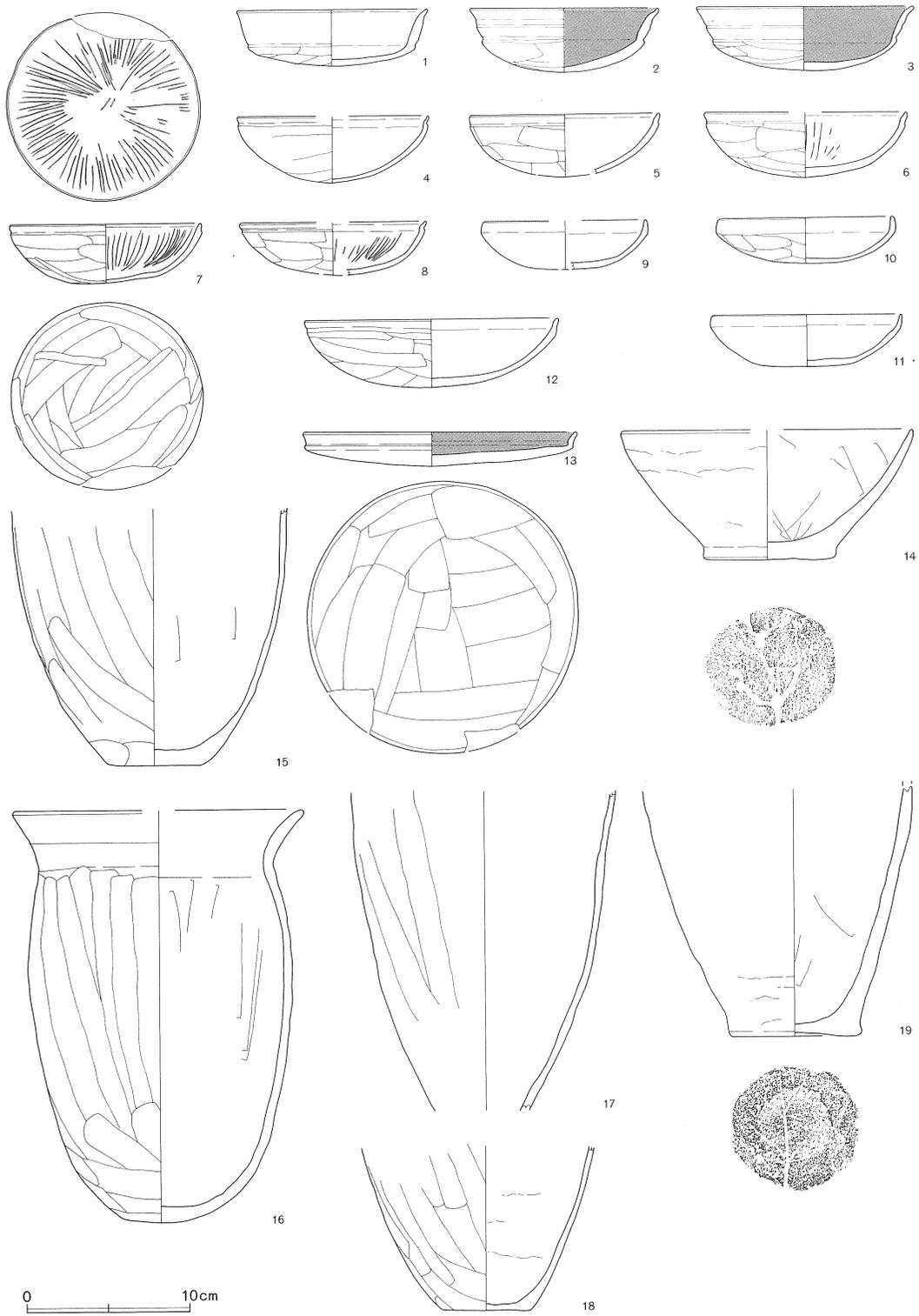


第133図 第1号住居跡(1)

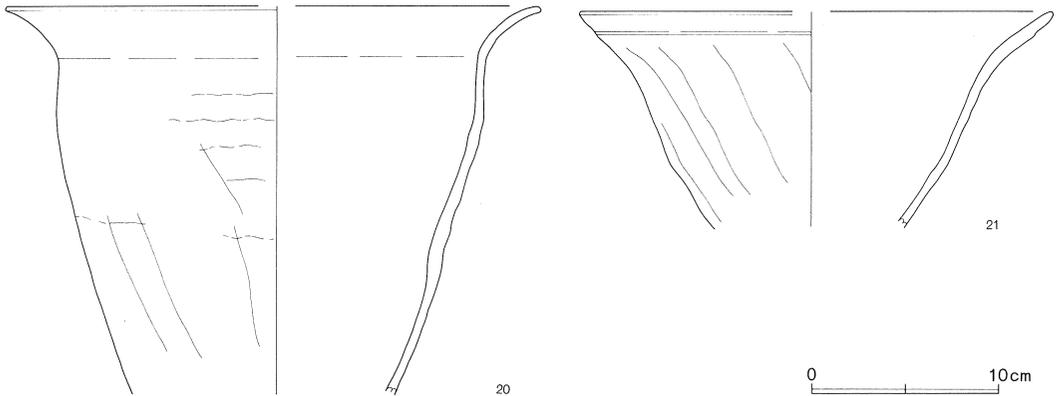
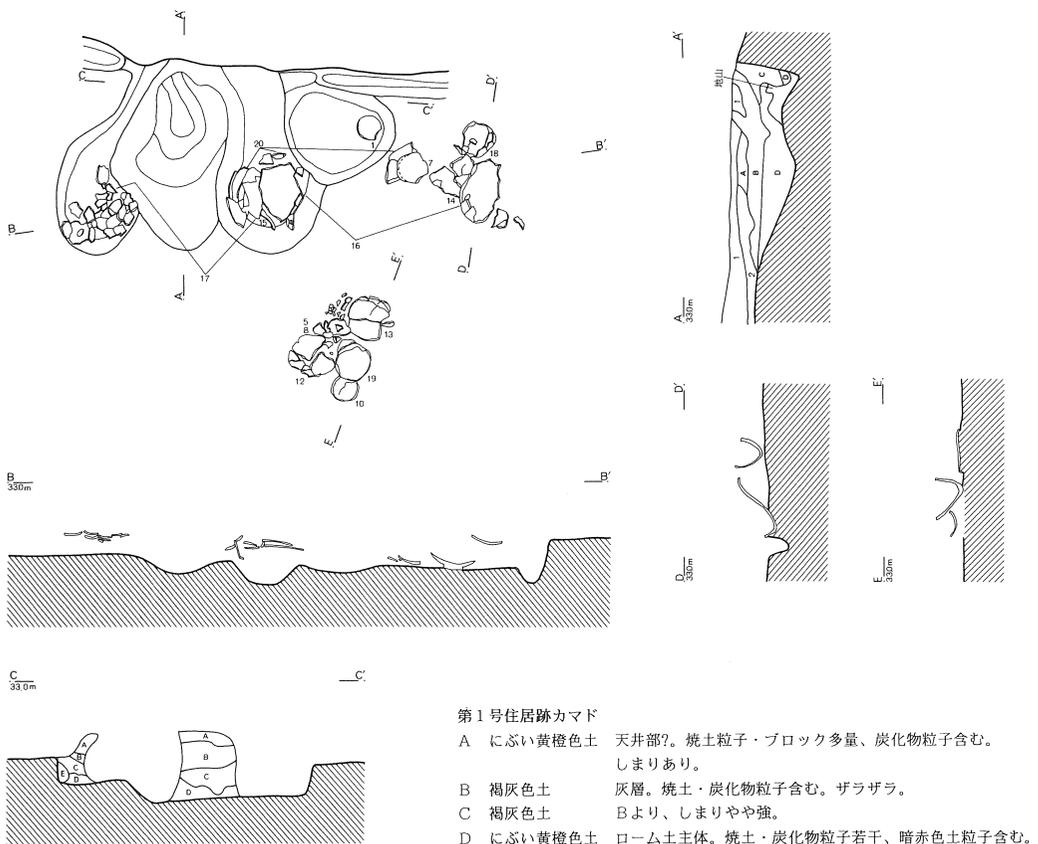
0.07mの壁溝が廻っている。カマドは北壁の中央やや東よりに構築され、全長0.75m、焚き口幅0.53mを測る。煙道部は検出されていない。袖部は地山を掘り残して形成され、燃烧部は不整形を呈している。摺り鉢状に掘り込まれ、火床面中央部は隆起している。貯蔵穴は円形で、南東コーナー部に位置している。ピットは2基検出されているが、用途等は明確ではない。遺物はカマドおよび周辺部から出土し、その多くは土師器である。ほかに須恵器2片、灰釉陶器1片がある。

### 第2号住居跡 (第137図)

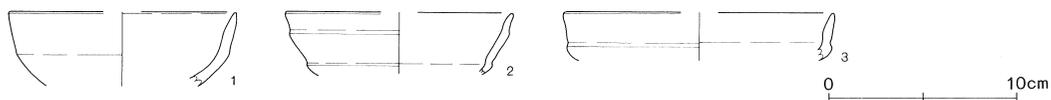
スー360、ンー360Gridに位置し、第1号溝によって南半分が切られている。東西3.27m、深さ0.10~0.14mで、主軸方位はN-34°-Wを測る。カマドは北壁中央に構築され、現存長1.11m、焚き口幅0.55mである。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は不整形を呈している。火床面は両端が浅いピット状に掘り窪められ、階段状に立ち上がっている。煙道部は燃烧部に比べて幅が狭く、先端部は発掘区域外にかかっている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は北西コーナー部と北辺のカマドの東側に存在している。幅0.03~0.22m、深さ0.05~0.08mの規模をもっている。ピットは4基確認されているが、柱穴は明確ではない。貯蔵穴は検出されていない。遺物はたいへん少なく、図示し得たものは坏形土器3点のみである。



第134图 第1号住居跡出土遺物(1)



第135図 第1号住居跡(2)・出土遺物(2)



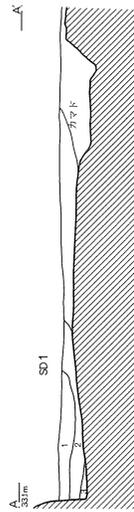
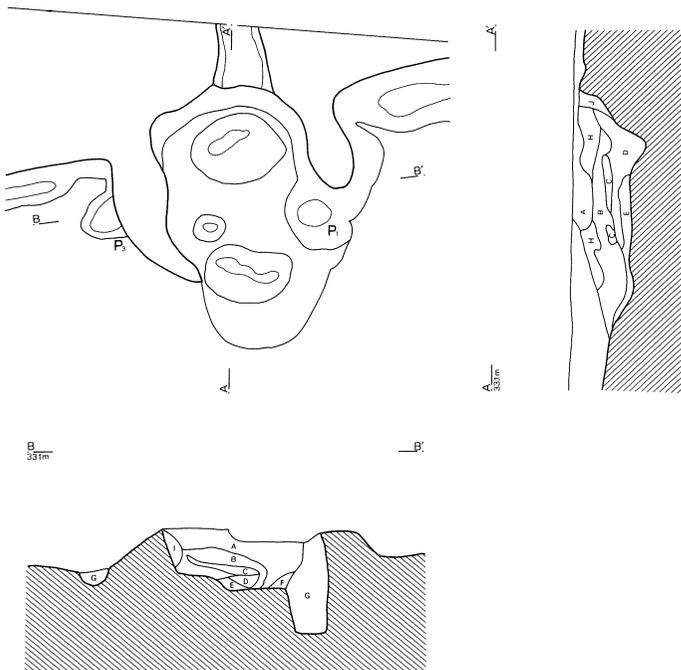
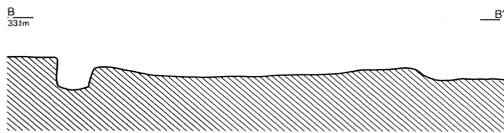
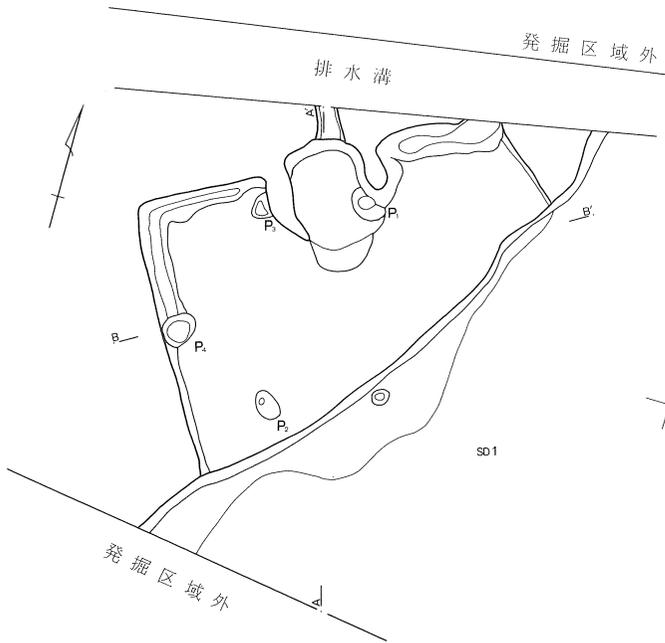
第136図 第2号住居跡出土遺物

第1号住居跡 (第134・135図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.8 高3.5	B+W+W'	(内)橙~浅黄橙 (外)黒褐	100	No.6。
2	坏	口11.6 高3.9	B+W	(内)黒(外)橙	50	内面黒色
3	坏	口13.3 高3.9	B+W+W'	(内)黒(外)橙	100	No.11。内面黒色
4	坏	口(13.3) 高4.1	B+R	橙	30	
5	坏	口11.6	B+W	橙	70	No.14。
6	坏	口(12.4) 高4.0	B+W' 多	橙	50	No.10。放射状暗文
7	坏	口11.8 高3.7	B+W	橙	90	No.4。放射状暗文
8	坏	口(11.5)	B	橙	50	No.14。放射状暗文
9	坏	口(10.0)	W	(内)橙 (外)明黄橙	20	風化が著しい
10	坏	口10.6 高2.8	B+W+W'	橙	100	No.15。
11	坏	口11.6 高3.2	B	橙	100	No.12。風化が著しい
12	坏	口15.6 高4.2	B多+W	橙	90	No.13。
13	盤	口16.8 高2.1	B+R+W	(内)黒 (外)橙	95	No.17。内面黒色
14	鉢	口(18.0) 底8.0 高8.0	W	橙	80	No.3。底部木葉痕 底部周辺に砂粒を多く含む粘土付着
15	甕	底5.8	W	(内)にふい橙 (外)橙	30	No.3・8。底部ケズリ
16	甕	口(18.0) 底4.7 高25.3	B多+R+W多	橙	70	No.2。底部ケズリ
17	甕		W	橙	胴部 30	No.8。
18	甕	底5.4	R+W	(内)浅黄橙 (外)橙	下半部 80	No.1。底部ケズリ
19	甕	底8.0	R+W多	橙	50	No.16。底部木葉痕
20	甕	口(28.6)	W	橙	30	No.7。外面に粘土紐積み上げ痕
21	甌	口(25.2)	W	(内)黒 (外)橙~黒	上半部 30	No.5・9。内外面黒変

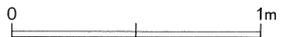
第2号住居跡 (第136図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.2)	R多	(内)淡橙 (外)にふい橙	10	風化が著しい
2	坏	口(12.2)	R多+W'	橙	10	風化が著しい
3	坏	口(14.4)	W	橙	10	風化



第2号住居跡カマド

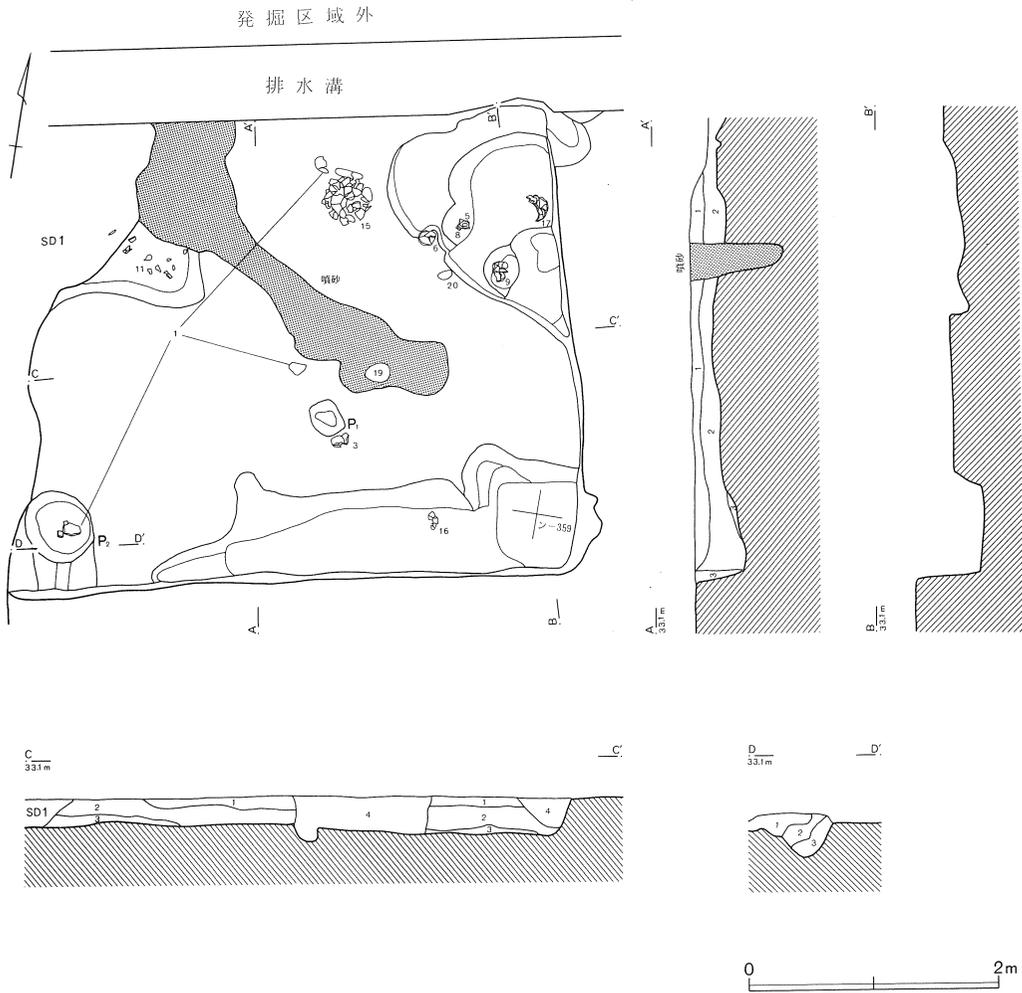
- A 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- B 褐灰色土 A近似。
- C 褐色土 焼土粒子多く含む。しまりやや強。
- D 赤褐色土 焼土主体。しまり強。
- E 褐色土 Cより焼土・炭化物粒子少ない。
- F 褐色土 粘性ある炭化物粒子微量含む。しまりやや強。
- G 褐色土 Aよりやや明るい。
- H にぶい褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまり強。
- I 橙色土 焼土粒子・ブロック多く含む。しまりややあり。
- J 橙色土 焼土と近似。焼土粒子若干含む。しまり・粘性あり。
- K にぶい橙色土 炭化物粒子若干、ローム質土多く含む。



第2号住居跡

- 1 褐灰色土 焼土・炭化物粒子含む。しまり強。
- 2 褐灰色土 焼土・炭化物粒子含む。
- 3 橙色土 粘土質土主体。しまり・粘性強。

第137図 第2号住居跡



第3号住居跡

- 1 褐色土 暗赤褐色土粒子多く、若干の焼土・炭化物粒子含む。しまり強。
- 2 明褐色土 1より黄褐色味強。若干の焼土・炭化物粒子含む。
- 3 黄褐色土 黄褐色土主体。砂質粒子多く混入。
- 4 褐色土 1近似。焼土・炭化物・暗赤褐色土粒子含む。

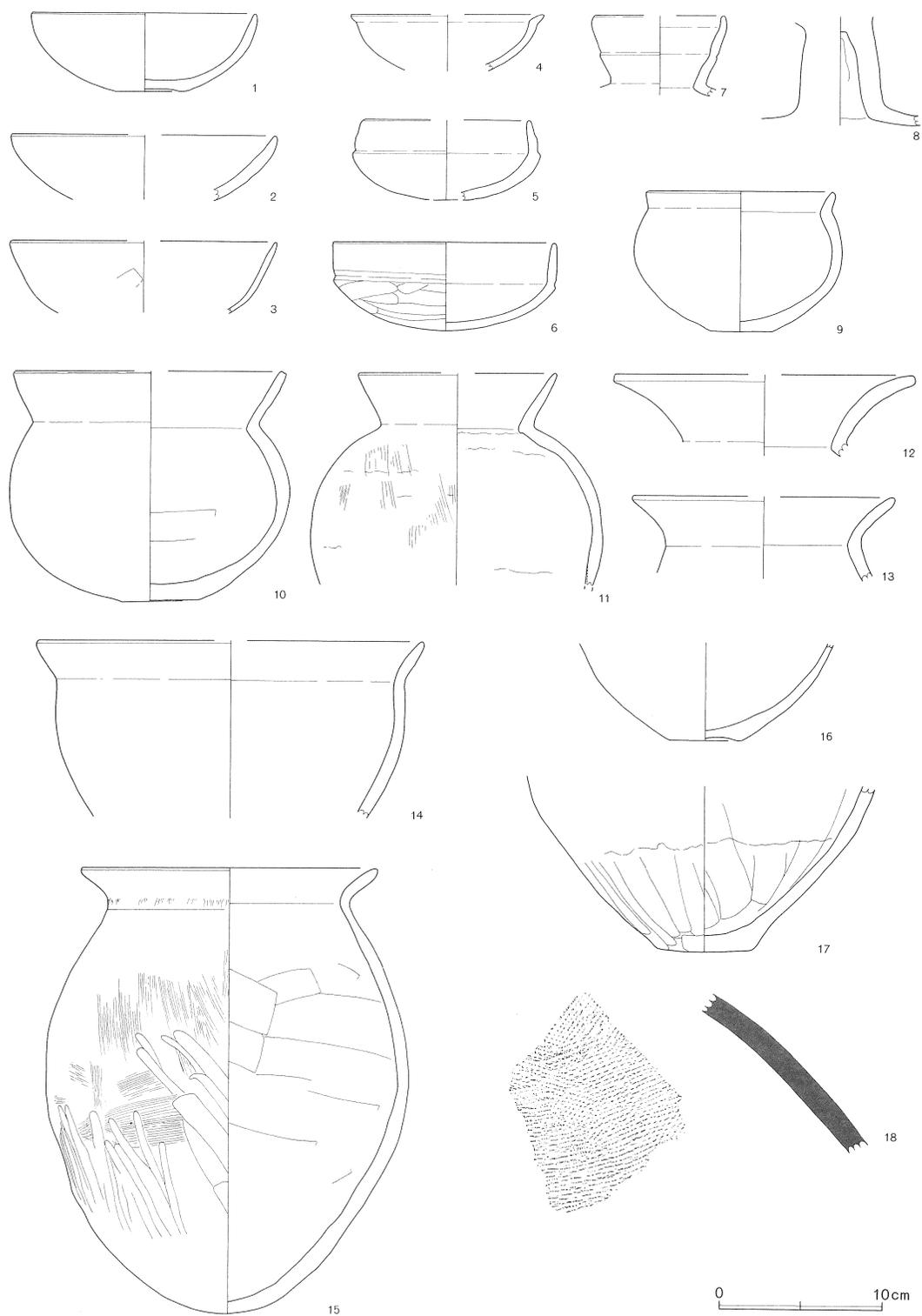
第3号住居跡ピット D-D'

- 1 褐灰色土 砂質。若干のローム粒子、灰褐色粘土含む。
- 2 にぶい黄褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性あり。
- 3 にぶい黄橙色土 2近似。やや明るく砂質。

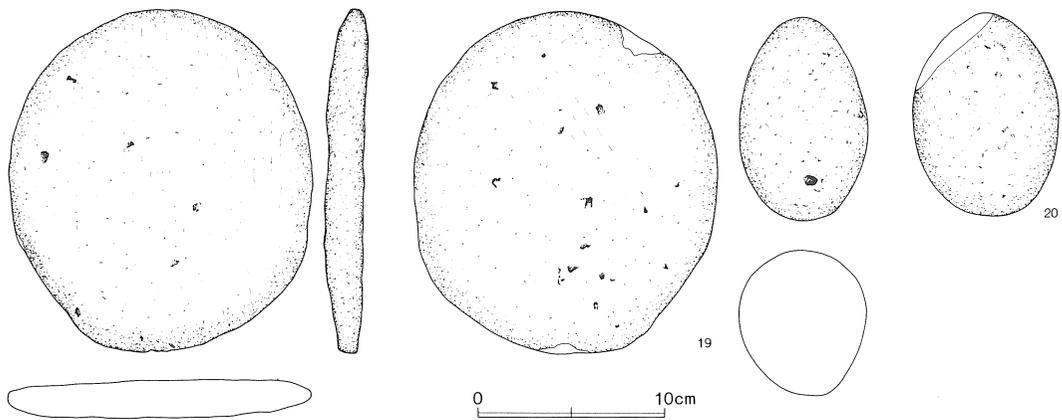
第138図 第3号住居跡

第3号住居跡 (第138図)

スー358・359、シ-358・359Gridに位置している。西側を第1号溝によって切られ、北側が発掘区域外にかかっている。規模は明確ではないが、大型の住居跡であったものと推定される。南壁の方位はN-79°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁に沿って幅0.75m、深さ0.2mの溝状の落ち込みがある。ピットは2基検出され、深さは0.1~0.3mと浅い。溝状に入り込んでいる噴砂の亀裂の影響によって、床面に段差が生じている。カマド・貯蔵穴は検出されていない。遺物は中



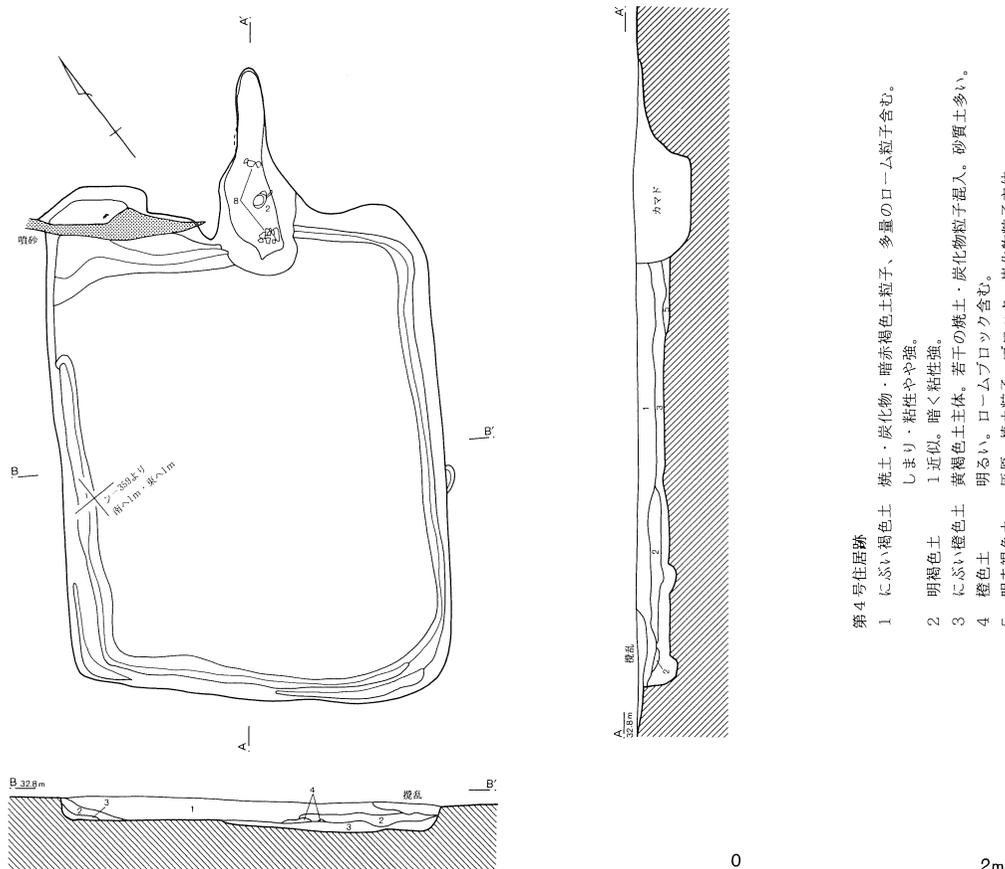
第139图 第3号住居跡出土遺物(1)



第140図 第3号住居跡出土遺物(2)

第3号住居跡(第139・140図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口14.8 底4.2 高4.9	R+W	橙	95	No.6・7・10。風化が著しい
2	坏	口(16.2)	R	橙	30	風化が著しい
3	坏	口(16.4)	R多	(内)橙 (外)褐灰	30	No.8。
4	坏	口(11.8)	W	橙	10	風化が著しい
5	坏	口(10.2)	R多	橙	40	No.2。風化が著しい
6	坏	口13.6 高5.4	B+R多	(内)浅黄橙 (外)橙	80	No.4。内面風化
7	壺	口(8.0)	R+W	橙	口縁 20	
8	高坏		R+W多	橙～にふい橙	脚部 70	No.12。外面風化が著しい
9	碗	口11.7 底3.8 高8.6	R多	橙～明赤褐	50	No.3。風化が著しい
10	壺	口(16.6) 底4.8 高19.1	R多+W	橙	30	風化が著しい
11	壺	口(12.2)	R多+W	橙	30	No.11。粘土紐積み上げ痕明瞭
12	壺	口(13.2)	B多+R+W+W'	浅黄橙	口縁 10	風化が著しい
13	甕	口(16.0)	R+W+W'	にふい橙	口縁 10	風化が著しい
14	甕	口(23.8)	R多+W	橙	20	風化が著しい
15	甕	口18.2 高27.3	R多	橙～浅黄橙	80	No.5。
16	甕	底4.2	R多+W	(内)橙 (外)にふい橙	底部 30	No.9。風化が著しい
17	甕	底5.8	R多+W多	明赤褐～暗赤褐	40	No.1。粘土紐積み上げ痕明瞭
18	甕		B多+W少	(内)灰 (外)暗灰		外面平行タタキ 内面ナデ

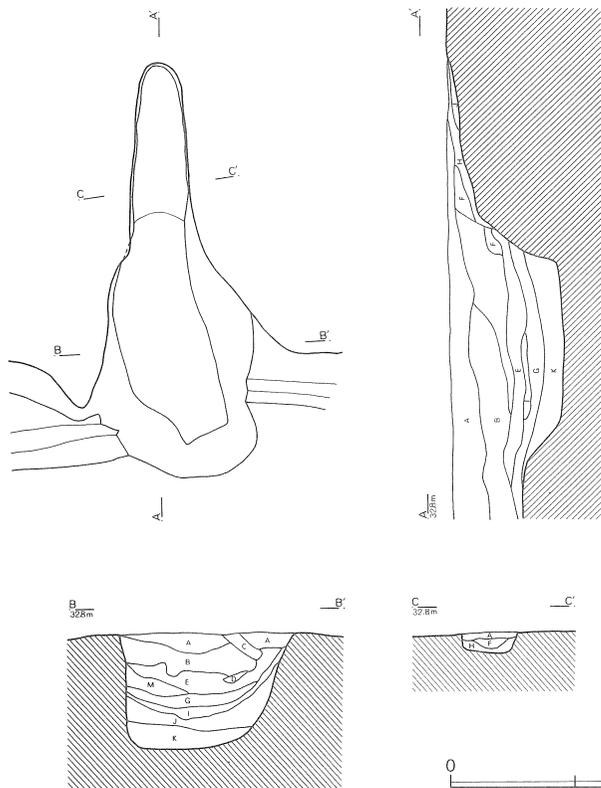


第141図 第4号住居跡(1)

中央床面直上から出土し、図示し得たもののほかに須恵器2片がある。19・20は磨石で、19は16.3×18.2×2.1cm、970g、20は6.9×10.9×7.7cm、645gを測る。

#### 第4号住居跡 (第141・142図)

スー358、ンー358Gridに位置している。第3号住居跡から続いている噴砂の亀裂によって、北コーナー部が変形されている。規模は主軸辺4.06m・短辺3.12m、深さ0.24~0.27mであり、主軸方位はN-33°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.12~0.36m、深さ0.04~0.05mの壁溝がほぼ全周している。カマドは北壁中央に構築され、全長1.64m、焚き口幅0.52mである。燃烧部が壁外に掘り込まれ、袖部は検出されていない。燃烧部は摺り鉢状に掘り窪められ、不整形を呈している。火床面はよく焼け、急激に立ち上がって煙道部に続いている。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物は少なく、ほかに土錘1点、須恵器3片が出土している。



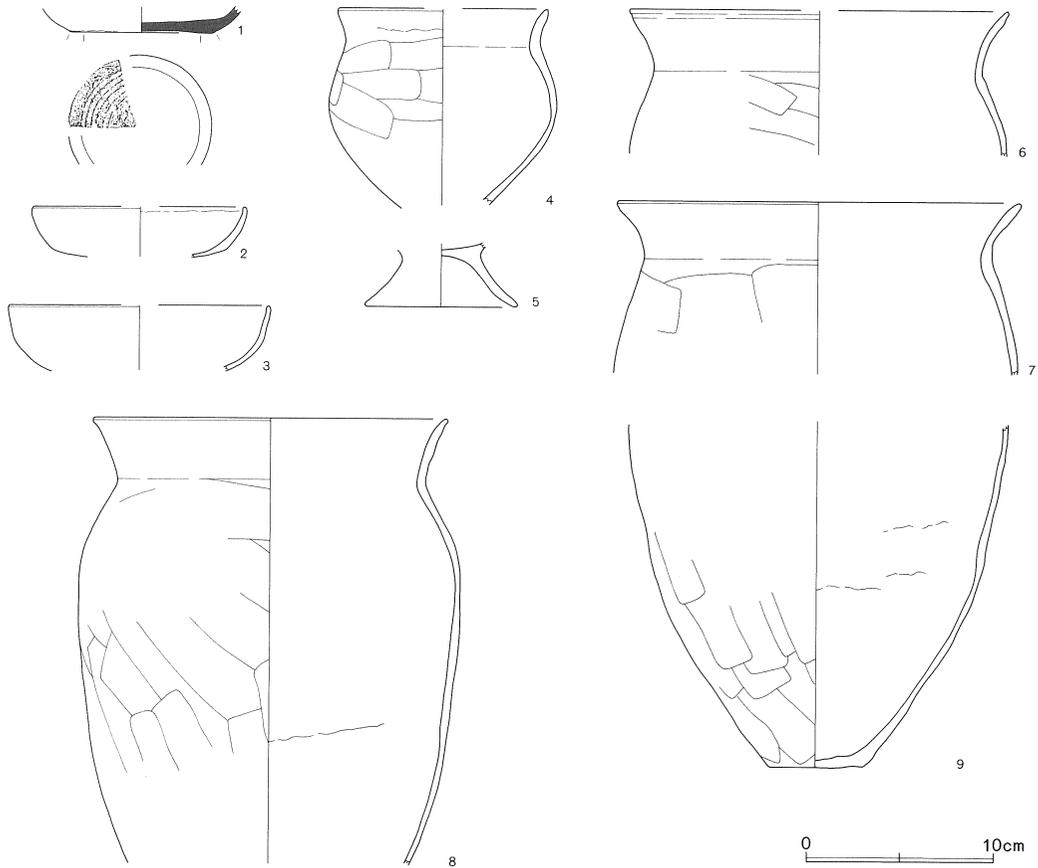
第4号住居跡カマド

- A 粘土質 プロック状。
- B にぶい橙色土 焼土粒子・ブロック多い。しまり・粘性弱。
- C 褐色土 B近似。焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性やや強。
- D 褐色土 Eよりやや明るく、土質近似。
- E 明赤褐色土 焼土・炭化物粒子主体。
- F 褐色土 焼土粒子・ブロック含み、やや粗い。
- G 明赤褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。粘性強。
- H 明赤褐色土 灰原。焼土粒子・ブロック、炭化物粒子主体。
- I 黄褐色土 粘土質層。焼土粒子・ブロック均一。しまり・粘性やや強。
- J 黄褐色土 B近似。焼土・炭化物粒子若干含む。しまりやや強。
- K 明赤褐色土 焼土・炭化物粒子含み、ローム粒子多い。

第142図 第4号住居跡(2)

第4号住居跡(第143図)

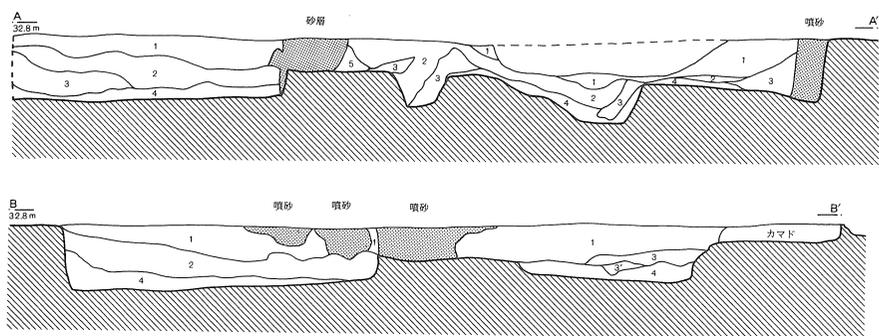
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	底(7.8)	W+針	灰	底部 20	回転糸切り離し後、周辺ヘラケズリ
2	坏	口(11.4)	B	橙	30	No.1.
3	坏	口(14.0)	B+R	橙	10	風化が著しい
4	甕	口(11.2)	B+W多	橙~暗赤褐	30	風化が著しい
5	台付甕	台8.2	B多+W	橙	脚部 70	
6	甕	口(20.2)	B+R	橙	口縁 10	風化が著しい
7	甕	口21.6	R+W多	橙	口縁 80	内面風化
8	甕	口19.0	R+W	橙~にぶい橙	40	No.2・3・カマド。内面風化が著しい
9	甕	底5.0	B+W	(内)にぶい橙 (外)橙	胴部 40	カマド。内面風化



第143図 第4号住居跡出土遺物

### 第5号住居跡（第144・145図）

スー358・ン—357・358、い—357・358Gridに位置し、北西コーナー部が発掘区域外にかかっている。第3号住居跡から連なる噴砂による影響が激しく、平面形態が大きく歪められ、床面には段差が生じている。規模は主軸辺5.53m・長辺6.80m、深さ0.17~0.62mを測るが、本来の規模は若干小さいものと思われる。主軸方位はN—66°—Eである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は確認されていない。カマドは東壁中央に2基並んで構築されている。南側がカマドA、北側がカマドBである。カマドBは煙道部のみが検出されている。現存長1.04mを測り、攪乱を受けている。カマドBの存在は本住居跡が拡張もしくは建替えられたことを示唆している。これに伴ってカマドBが廃絶され、新たにカマドAが造り替えられたものと推定される。カマドAには噴砂の亀裂が入り込み、大きく歪められている。そのため、十分な調査が行なえなかった。現全長2.15m、焚き口幅0.38mを測り、地山を掘り残している袖部が一部のみ確認されている。火床面は平坦で、急激に立ち上がって煙道部へ続いている。噴砂の影響がなければ、比較的残存状態の良いカマドであったと推測される。貯蔵穴は検出されていない。ピットは3基で、柱穴はみられない。遺物は噴砂の影響を受けていない北側の部分でおもに出土し、図示し得たもののほかに編物石が1点ある。

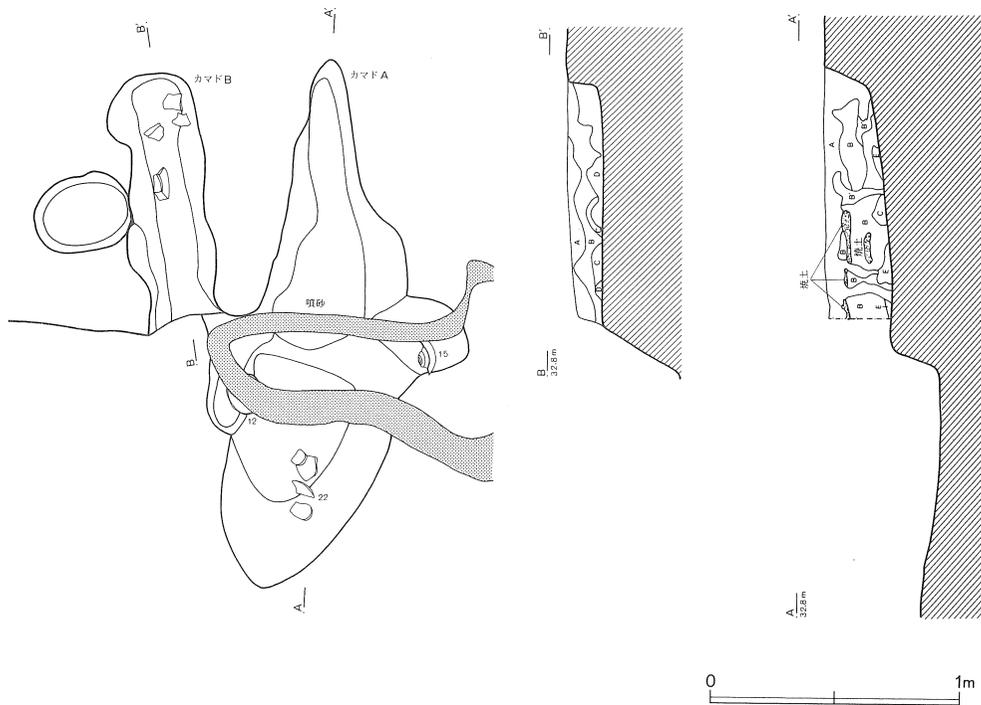


第5号住居跡

- 1 にぶい褐色土 砂質土。細かい焼土・炭化物・ローム粒子均一で多い。
- 2 にぶい褐色土 1より暗い。焼土・炭化物・ローム粒子含む。砂質土多い。しまりやや強、粘性欠。
- 3 にぶい褐色土 2より暗く、焼土・炭化物粒子が細かく、少ない。しまり強。
- 3' にぶい褐色土 3近似。やや暗く、粘性あり。
- 4 橙色土 ローム・砂粒子主体。しまり・粘性強。
- 5 橙色土 ロームブロック含む、しまり・粘性強。
- 6 明褐色土 地山風化。黄褐色土主体。



第144図 第5号住居跡(1)



第5号住居跡カマドA

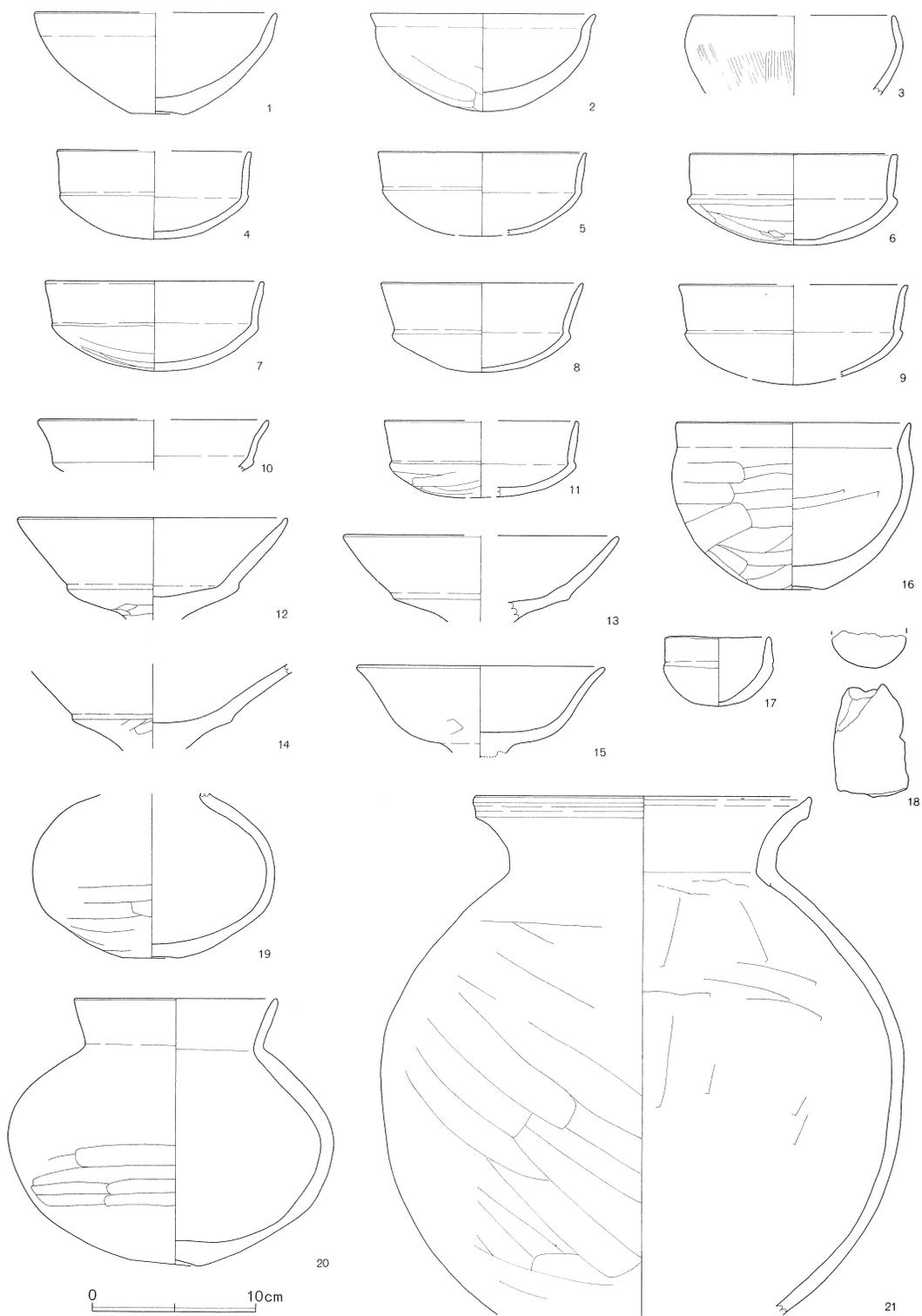
- A 橙色土 若干の焼土・ローム・砂粒子含む。しまり強。
- B にぶい褐色土 若干の焼土・炭化物粒子含む。ローム粒子がたまっている。
- C 橙色土 Bより焼土ブロック多い(天井部の崩壊がみられる)。
- D 褐色土 砂質層。焼土ブロック含む。しまり弱。
- E 褐色土 砂質の黄褐色土ローム層。

第5号住居跡カマドB

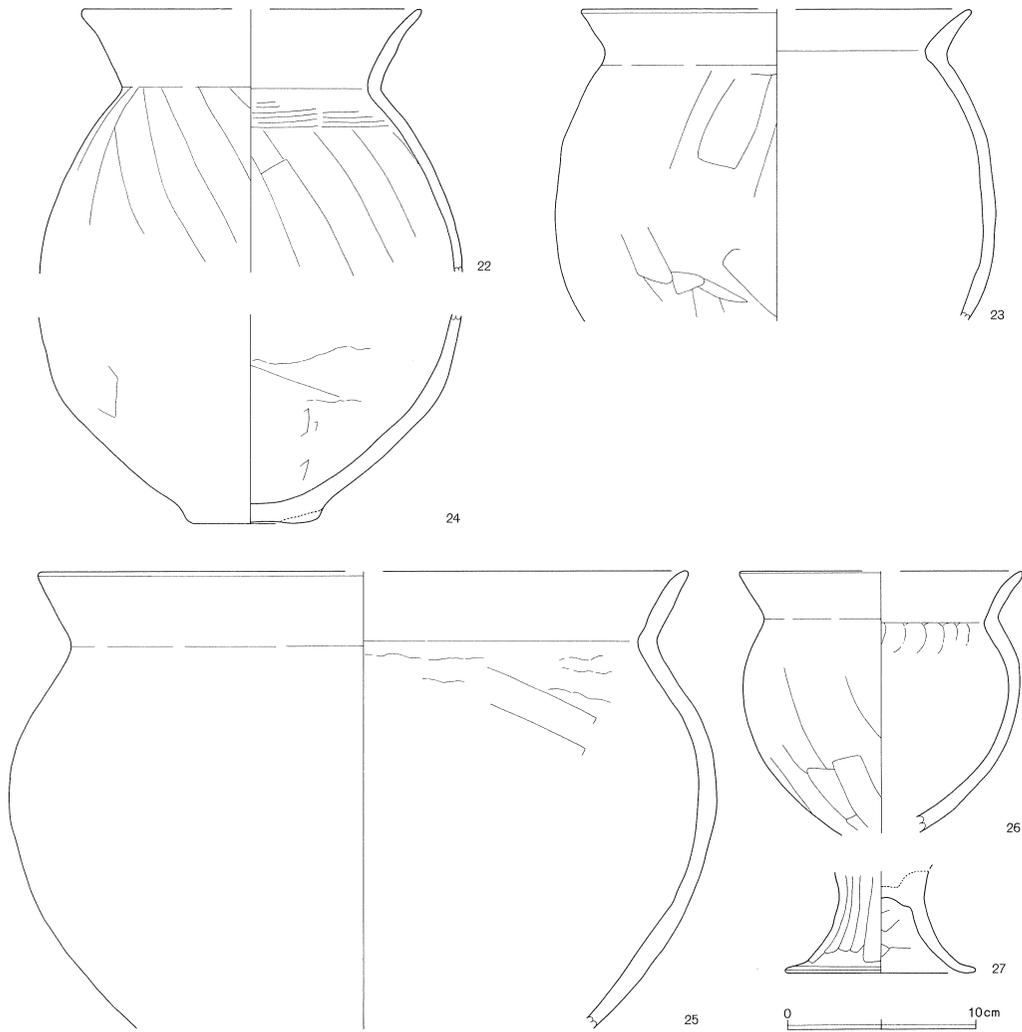
- A にぶい褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまりやや弱。
- B にぶい褐色土 焼土粒子・ブロック多い。しまりやや弱、粘性弱。
- C 明赤褐色土 焼土層。
- D 明褐色土 ローム・砂粒子主体。若干の焼土・炭化物粒子混入。



第145図 第5号住居跡(2)



第146图 第5号住居跡出土遺物(1)



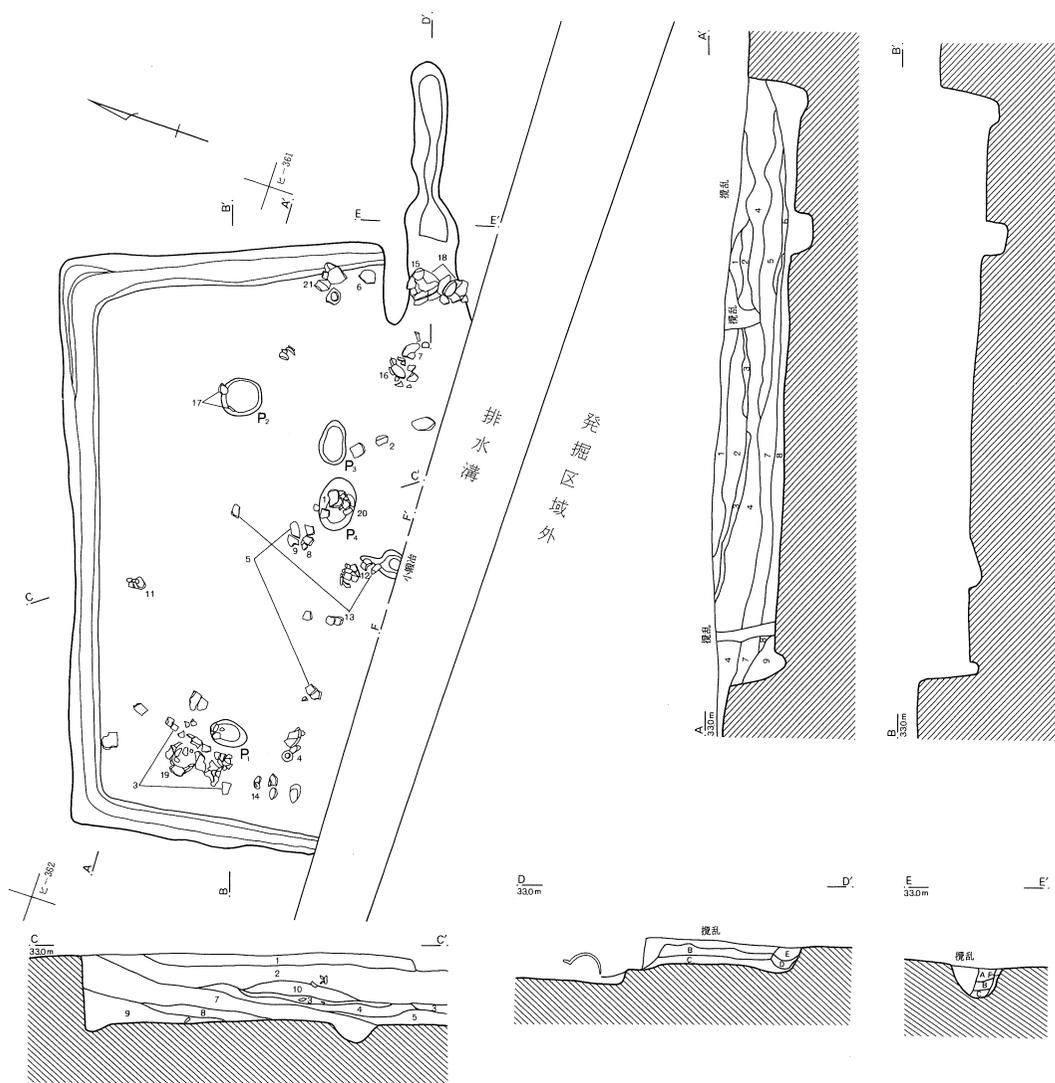
第147図 第5号住居跡出土遺物(2)

### 第6号住居跡 (第148図)

エー360・361、ヒー361Gridに位置している。南半部が発掘区域外にかかっているが、残存状態は比較的よい。規模は主軸辺4.85m、深さ0.36~0.51mで、主軸方位はN-70°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.13~0.29m、深さ0.05~0.13mの壁溝がほぼ全周している。カマドは東壁に構築され、全長2.13m、焚き口幅0.53mの規模をもっている。袖部は地山を掘り残し、燃焼部で「ハ」の字に開いている。火床面は平坦で、急激に立ち上がって煙道部へ続いている。煙道部は燃焼部に比べて幅が狭い。支脚には高坏形土器の脚が転用されている。特筆すべきことは、住居跡中央部から小鍛冶跡が検出されている。一部が発掘区域外にかかっているが、イチジク状の平面形態で幅0.23mを測る。フィゴの羽口には高坏形土器の脚を再利用し、スラグが付着している。貯蔵穴は検出されておらず、4基のピットのうちP1・P2は柱穴である。貼床は堅くしまっている。遺

第5号住居跡(第146・147区)

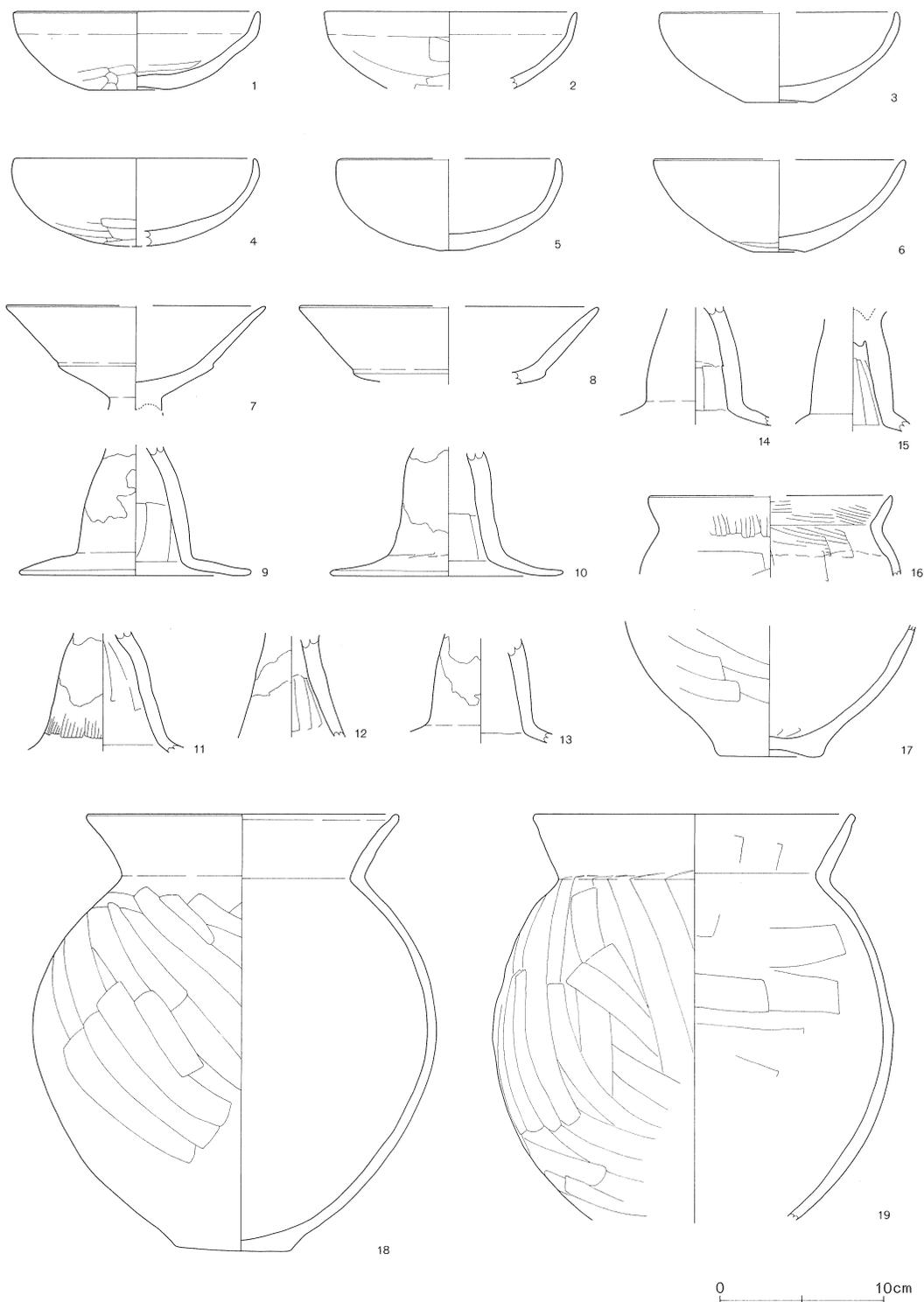
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	椀	口(14.8) 底3.2 高6.2	R多+W	橙	70	No.16・17。風化が著しい
2	椀	口13.8 高6.0	B+R多+W多	橙	90	No.4。内面風化が著しい 外面に黒色部分
3	椀	口(12.2)	B+R+W	(内)橙 (外)にふい赤褐	30	
4	坏	口(12.0) 高5.4	R多	橙	20	外面風化
5	坏	口12.8	R多	橙	50	風化が著しい
6	坏	口12.6 高5.5	R多	橙	80	No.11。
7	坏	口13.4 高5.5	R多	橙	80	底部黒斑
8	坏	口12.4 高5.5	R多	橙	70	No.6。風化が著しい
9	坏	口(14.0)	R多+W	橙	30	風化が著しい
10	坏	口(14.2)	R	橙	10	
11	坏	口(12.0)	R多	橙	10	内面風化
12	高坏	口16.5	B+R+W多	橙～灰赤	坏部 90	No.23。全体的に黒変
13	高坏	口(16.8)	R+W	橙	坏部 20	
14	高坏		R	橙	坏部 40	No.15。風化
15	高坏	口15.2	R+W	(内)明赤褐 (外)橙	坏部 50	No.26。内外面に黒色部分
16	椀	口14.4 底3.8 高10.2	R多	橙～にふい橙	80	No.1。
17	ミニチュ ア	口6.4 高4.2	R多	にふい橙	90	No.3。底部ケズリ
18	支脚		R多+W	明赤褐	40	風化が著しい
19	壺	底3.4	R多	橙	胴部 100	No.28。風化が著しい
20	小型壺	口12.4 底4.0 高16.3	R多	橙	80	No.8・13。風化が著しい
21	壺	口20.6	B+W	橙	40	No.34。
22	甗	口(13.2)	W多+礫	にふい橙	口縁 30	No.24。胴部中位に黒色部分
23	甗	口(20.8)	R多+W+W' 多	橙	20	No.18。内面風化
24	壺	底7.0	R+W'+礫多	(内)淡橙 (外)にふい橙	下半部 30	No.12。風化
25	壺	口(34.8)	R+W	橙	40	No.27。風化が著しい
26	甗	口(15.0)	R+礫多	橙	40	No.32。内面に指頭圧痕
27	高坏	脚10.2	B+R+W	橙	脚部 40	坏部と脚部の接合痕が明瞭



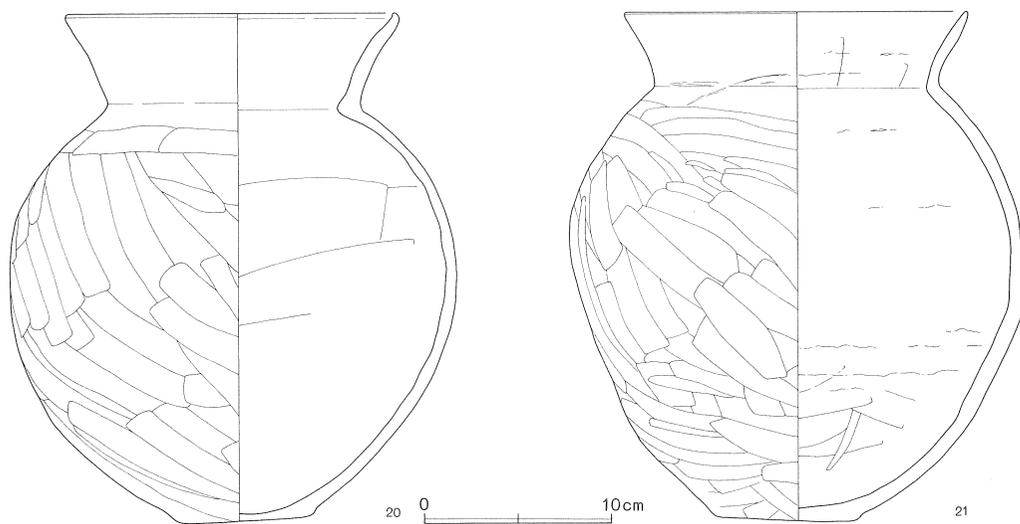
第6号住居跡

- 1 黄茶褐色土 茶褐色土粒子(3mm)含む。しまり・粘性あり。
- 2 黄褐色土 焼土粒子(2~3mm)少量、炭化物粒子(3mm)微量含む。  
しまり・粘性あり。
- 3 暗灰褐色土 焼土粒子(3~10mm)、極多量の炭化物粒子(微粒~5mm)含む。  
しまりあり、粘性やや弱。
- 4 褐色土 焼土粒子(3~5mm)、少量の炭化物粒子(3mm)含む。しまり・粘性あり。
- 5 黄灰褐色土 炭化物粒子(2~3mm)微量含む。しまり・粘性あり。
- 6 灰褐色土 炭化物粒子(微粒~5mm)極多量含む。しまりあり、粘性やや弱。
- 7 暗褐色土 焼土粒子(3mm)微量、炭化物微粒子含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 7よりやや砂質強、やや暗い。多量の炭化物粒子(3mm)含む。  
しまり・粘性あり。
- 9 暗黄褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 10 黄褐色土 焼土・炭化物粒子なし。黄色土粒子(2~10mm)多量含む。  
しまり・粘性あり。

第148図 第6号住居跡



第149图 第6号住居跡出土遺物(1)



第150図 第6号住居跡出土遺物(2)

第6号住居跡カマド

- A 黒褐色土 少量の焼土粒子、炭化物粒子含む。しまり・粘性あり。
- B 暗灰黄色土 少量の焼土粒子(3mm)、炭化物微粒子含む。しまり・粘性あり。
- C 黄褐色土 焼土粒子(1cm)多量、炭化物粒子(3mm)少量含む。  
しまり・粘性あり。
- D 黄褐色土 少量の焼土粒子(3~5mm)、炭化物微粒子含む。しまり・粘性あり。
- E 黄灰色土 焼土・炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- F 赤褐色土 良く焼けた焼土主体。しまりあり、粘性欠。

第6号住居跡小鍛冶 F-F'

- 1 青灰色土 還元焰を受け、良く焼けしまった層。
- 2 暗赤色土 還元層をとりまく地山が酸化した層。
- 3 暗黄褐色土 地山。



第151図 第1~5号住居跡近景

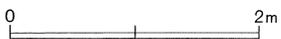
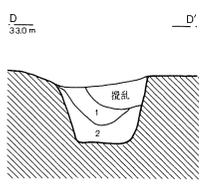
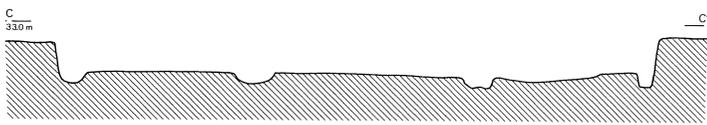
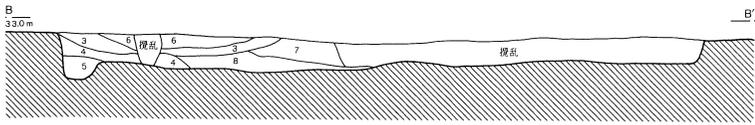
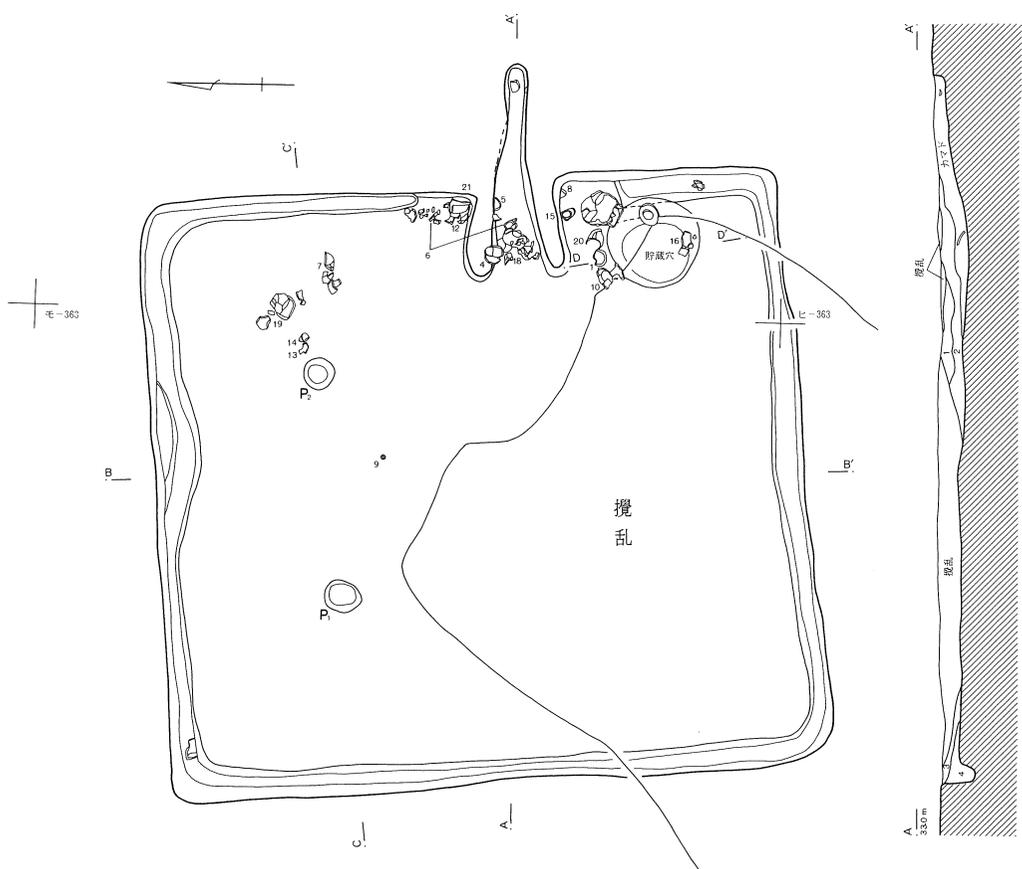
第6号住居跡(第149・150図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口15.0 底4.8 高4.6	R多+W	橙	60	No.18。
2	坏	口15.4	B+W	橙～にふい橙	40	No.16。
3	碗	口(14.4) 底4.0 高5.5	R多	橙	50	No.39・44。風化が著しい
4	坏	口14.6	R+W	橙	50	No.30・32。
5	坏	口(13.4) 底1.4 高5.6	B+R多+W	橙	60	No.20・29。
6	碗	口(15.4) 底3.0 高5.6	R多	(内)浅黄橙 (外)橙	40	No.3。
7	高坏	口(15.8)	R+W	橙	坏部 30	No.8。風化が著しい
8	高坏	口(18.2)	R多	赤～淡赤橙	坏部 30	No.19。
9	高坏	脚14.2	B+W'	橙	脚部 90	No.21。羽口転用 スラグ付着
10	高坏	脚14.2	R+W	橙	脚部 60	羽口転用 スラグ付着
11	高坏		B+W多	橙	脚部 80	No.23。羽口転用 スラグ付着
12	高坏		R多+W	(内)明赤褐 (外)橙	脚部 70	No.25。羽口転用 スラグ付着
13	高坏		R多	橙	脚部 80	No.22・24。羽口転用 スラグ付着
14	高坏		R+W	橙	脚部 90	No.37。外面風化が著しい
15	高坏		R多+W' 多	橙	脚部 70	No.2。坏部と脚部の接合痕明瞭
16	小型甕	口(14.8)		赤	口縁 40	No.9。粘土紐積み上げ痕明瞭
17	甕	底6.8	B+R+礫多	(内)浅黄橙 (外)橙	底部 30	No.48・49。底部外面黒色
18	甕	口19.0 底7.0 高26.6 胴24.7	R+W+礫	にふい赤褐～にふい黄橙	70	No.1・2。胴部黒斑
19	甕	口19.6 胴24.5	R多+W+礫	橙	70	No.41。胴部外面黒色部分
20	壺	口17.8 底7.5 高27.1 胴23.8	R+W+礫	橙	95	No.51。胴部黒斑
21	甕	口18.2 底7.5 高27.2 胴24.2	R+礫多	橙～明赤褐	80	No.4。胴部黒斑 粘土紐積み上げ痕明瞭

物はカマド、小鍛冶跡周辺、西側コーナー部から出土し、ほかに須恵器1片、編物石1点がある。また一部に、床面より浮いた状態で厚さ2～5cmの炭化物層が確認されている。

第7号住居跡(第152・154図)

エー362・363、ヒー362・363Gridに位置し、南半部は大きく攪乱を受けている。規模は主軸辺4.97m・長辺5.13m、深さ0.19～0.30mであり、主軸方位はN-84°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、攪乱部分については明確ではないが、壁溝は全周しているものと想定している。北辺中央部において内側に湾曲し、幅0.15～0.39m、深さ0.03～0.11mの規模をもっている。カマドは東壁中央やや南側に構築され、全長1.60m、焚き口幅0.43mを測る。袖部は地山を掘り残し、燃焼



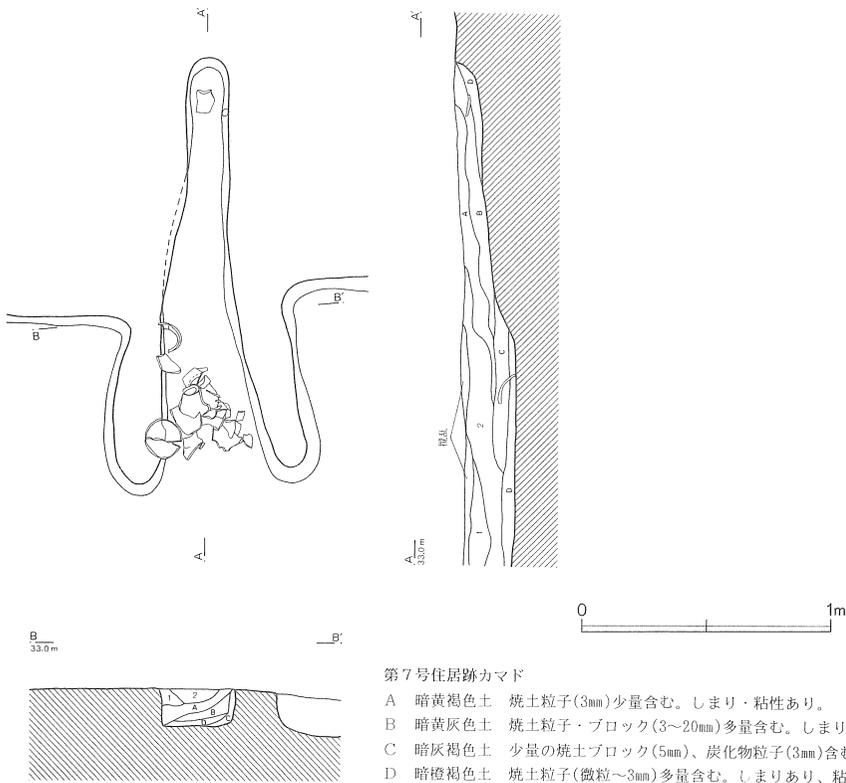
第7号住居跡

- 1 暗黄色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗黄褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗黄灰色土 焼土粒子(微粒~3mm)、少量の炭化物粒子(2~3mm)含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗灰褐色土 砂粒少量含む。しまりあり、粘性やや欠。
- 6 暗茶褐色土 焼土粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 7 暗灰褐色土 炭化物粒子(1~2mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 8 灰茶褐色土 焼土粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。

第152図 第7号住居跡(1)

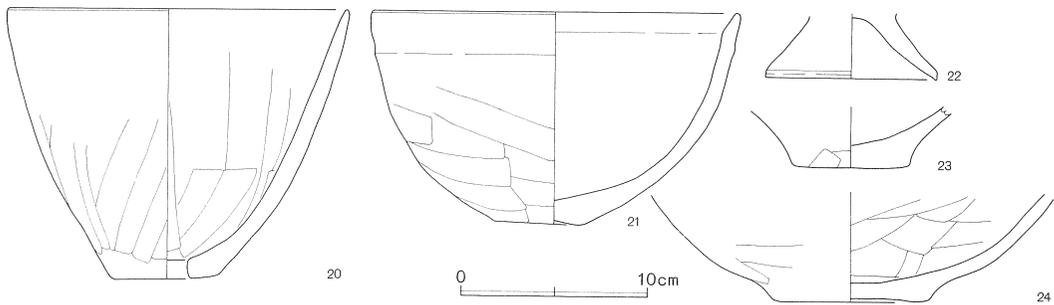


第153图 第7号住居跡出土遺物(1)



第7号住居跡カマド

- A 暗黄褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- B 暗黄灰色土 焼土粒子・ブロック(3~20mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- C 暗灰褐色土 少量の焼土ブロック(5mm)、炭化物粒子(3mm)含む。しまり・粘性あり。
- D 暗橙褐色土 焼土粒子(微粒~3mm)多量含む。しまりあり、粘性弱。



第154図 第7号住居跡(2)・出土遺物(2)

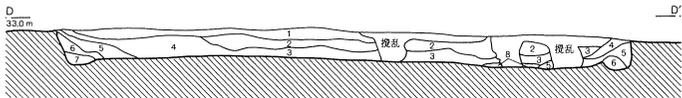
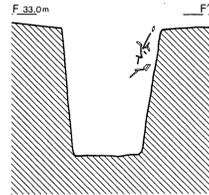
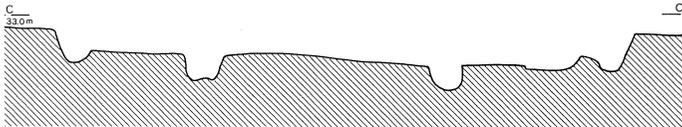
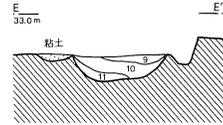
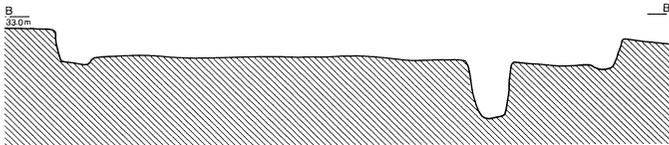
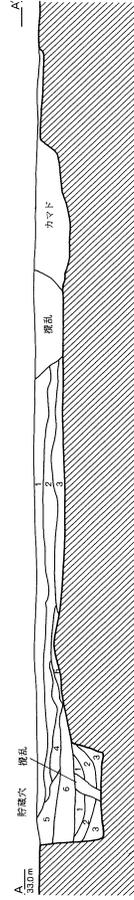
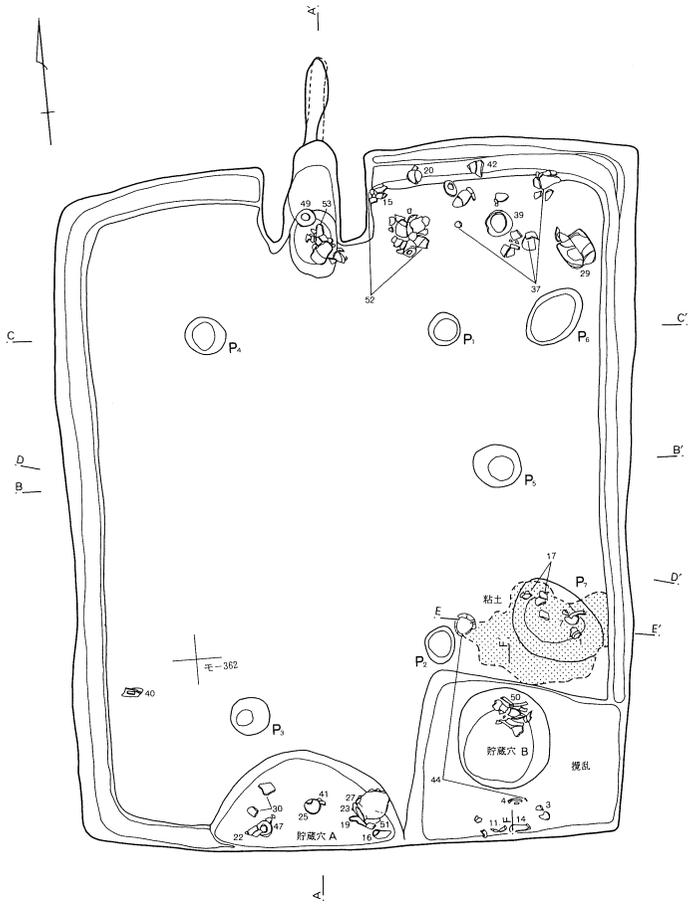
部で「ハ」の字に開いている。火床面はよく焼けており、摺り鉢状にわずかに窪んでいる。緩やかに立ち上がって煙道部に続き、煙出部は熱を受けてよく焼けている。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に位置している。円形で、南北0.79m・東西0.73m、深さ0.55mを測る。2基検出されているピットは柱穴で、これと対応する2基のピットは攪乱のため確認されていない。貼床はカマドの周辺部では顕著に認められているが、ほかはあまりしっかりしていない。遺物はカマドおよび周辺部から出土している。

第7号住居跡(第153・154図)

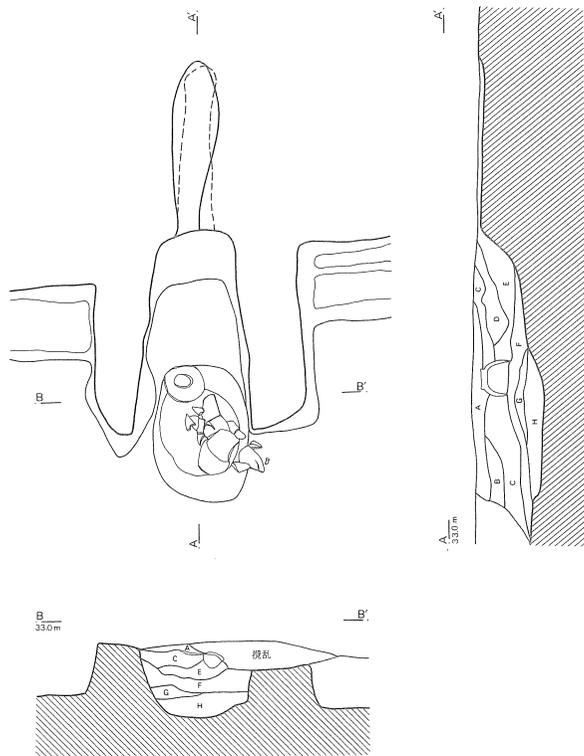
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.0 底3.6 高4.0	R多	明赤褐	90	No.19.底部外面に黒色部分
2	坏	口(14.0)	R+W	橙	20	口縁部内面が帯状に黒変
3	坏	口(13.5)	R+W	橙	25	風化
4	椀	口14.2 底3.8 高5.8	R多+W	(内)にふい橙 (外)橙	100	No.15.風化が著しい
5	椀	口14.0 底4.5 高5.6	R多	橙	95	No.13・14.内面風化が著しい
6	椀	口15.4 底4.4 高5.6	R多+W	橙～暗赤褐	50	No.9・17.風化が著しい
7	椀	口15.4 底4.0 高5.9	R多	橙	100	No.7.風化が著しい
8	椀	口15.2 高5.8	R多	橙	100	No.23.風化 外面に黒色部分
9	高坏	口(13.8)	R	橙	坏部 20	No.29・カマド.風化が著しい 黒斑
10	高坏	口(15.2) 脚13.0 高13.0	R多	橙	80	No.18.風化
11	高坏	口17.4 脚14.2 高15.7	R多	橙	70	カマド。
12	高坏	口(18.0)	R多	橙	坏部 10	No.11.
13	高坏		R多+W	(内)にふい橙 (外)明赤褐	坏部 30	No.4.内面風化
14	高坏		R多+W	橙	脚部 40	坏部・脚部の接合痕明瞭
15	小型甕	口11.8 底3.4 高10.7 胴13.4	R多	橙	100	No.22.底部ケズリ 外面風化 底部付近に黒斑
16	小型甕	口13.0 底5.2 高13.0 胴15.4	R+W	橙	100	No.2.底部ケズリ
17	小型甕	口(15.6) 底6.6 高16.6 胴15.8	砂多	橙	50	底部ケズリ 胴部外面下半に黒色部分が帯状に廻る 粘土紐積み上げ痕
18	甕	口17.4 底7.2 高25.0 胴22.4	R+砂	橙	70	No.16.底部ケズリ 胴部黒斑 粘土紐積み上げ痕明瞭
19	甕	底8.0	R+砂多	(内)にふい橙 (外)明赤褐	底部 30	No.1・2.底部ケズリ 内面風化
20	甕	口18.2 底5.6 高14.4	R多+W	橙	100	No.20.胴部外面下半に黒色部分
21	鉢	口19.6 底4.4 高11.3	R多	橙～明赤褐	95	No.12.底部ケズリ 内面風化が著しい
22	高坏	脚(9.2)	R	にふい橙	脚部 80	風化が著しい
23	甕	底5.2	W+砂	(内)にふい橙 (外)明赤褐	底部 40	底部ケズリ 風化が著しい
24	壺	底8.2	砂多	(内)橙 (外)にふい橙	底部 30	底部ケズリ 胴部外面黒色

第8号住居跡(第155・156図)

ヒー361・362、モー361・362Gridに位置し、南東コーナー部が攪乱されている。覆土には多量の焼土粒子・ブロックが含まれている。規模は主軸辺5.57m・短辺4.57m、深さ0.20～0.25mで、主軸方位はN-4°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝はほぼ全周している。壁溝の規模は幅0.17～0.38m、深さ0.01～0.06mである。カマドは北壁中央に構築され、全長0.79m、焚き口



第155图 第8号住居跡(1)



第8号住居跡カマド

- A 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- B 暗茶褐色土 焼土粒子(5~10mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- C 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm~10cm)多量、炭化物粒子(3~5mm)しまり・粘性あり。
- D 暗褐色土 焼土・ブロック(2~5cm)極多量含む。しまりあり、粘性欠。
- E 暗灰色土 極多量の炭化物微粒子、焼土粒子(5~20mm)含む。しまり・粘性あり。
- F 暗灰褐色土 焼土粒子(5~10mm)多量、炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- G 灰黒色土 焼土粒子(3~10mm)多量、炭化物微粒子極多量含む。しまりあり、粘性弱。
- H 褐色土 焼土粒子極多量、炭化物粒子少量含む。しまりあり。

第8号住居跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗黄灰色土 焼土粒子(5~10mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm~10cm)多量、炭化物粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 5 茶褐色土 少量の焼土粒子(5~10mm)、炭化物粒子(2~3mm)含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗黄褐色土 細粒砂少量含む。しまり・粘性強。
- 7 暗黄褐色土 少量の焼土・炭化物微粒子、細粒砂含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 焼土主体。しまり・粘性あり。
- 9 暗黄灰色土 焼土粒子(1cm)少量、炭化物粒子(1~2cm)多量含む。しまり・粘性あり。
- 10 暗灰褐色土 極多量の焼土(微粒~5cm)・炭化物(微粒~2cm)含む。しまりあり、粘性弱。
- 11 灰褐色土 焼土粒子(3~10mm)少量、炭化物粒子(微量~1cm)多量含む。しまり・粘性あり。

第8号住居跡貯蔵穴A

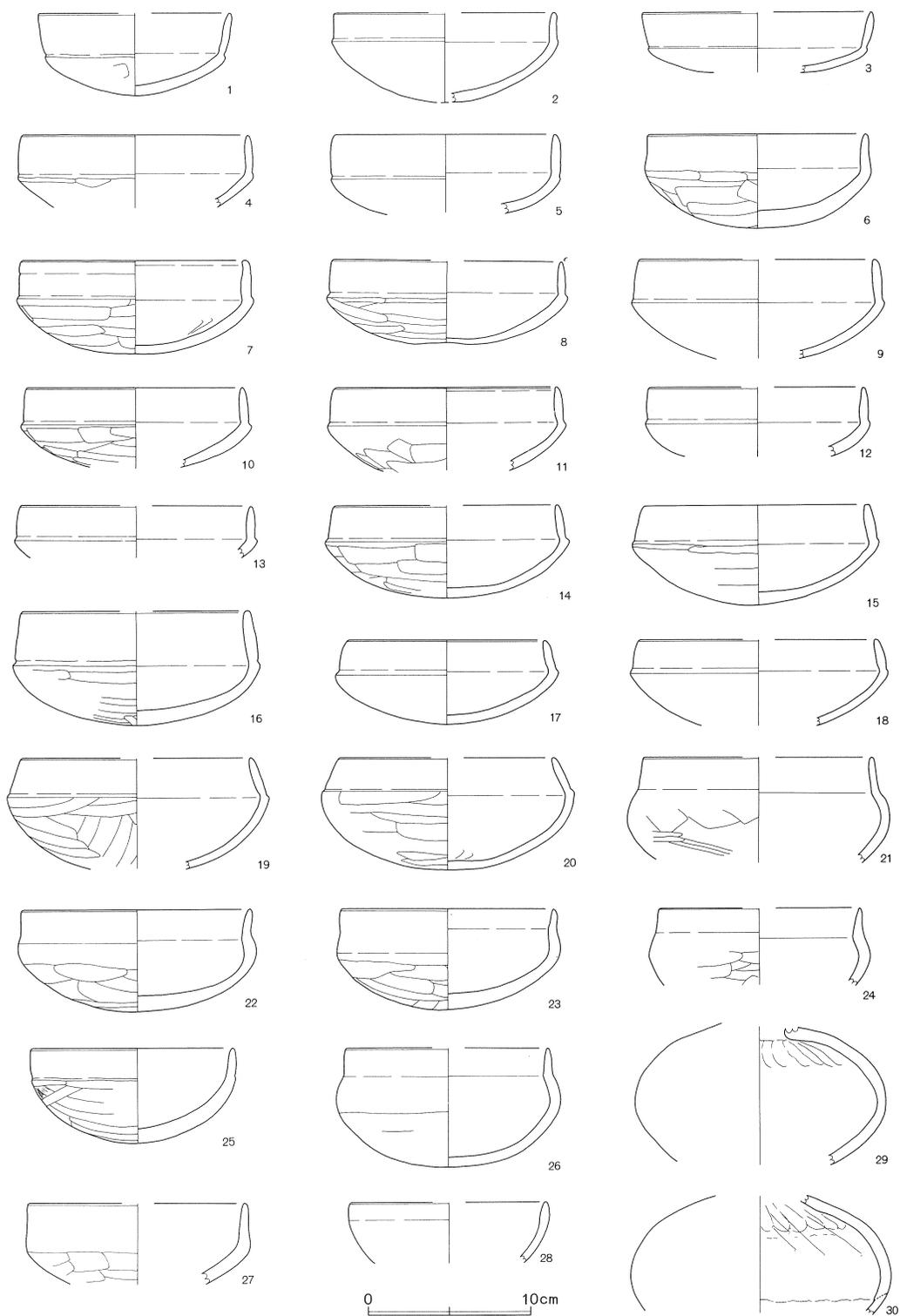
- 1 暗褐色土 少量の焼土微粒子、炭化物粒子(5mm)、黄白色粘土粒子(2~3cm)含む。しまり・粘性強。
- 2 茶褐色土 焼土粒子(3~10mm)多量、極多量の炭化物(5~10mm)黄白色粘土粒子(5~20mm)含む。しまり・粘性強。
- 3 黄灰色土 焼土粒子(3mm)少量、炭化物微粒子含む。しまり・粘性あり。

第8号住居跡貯蔵穴B

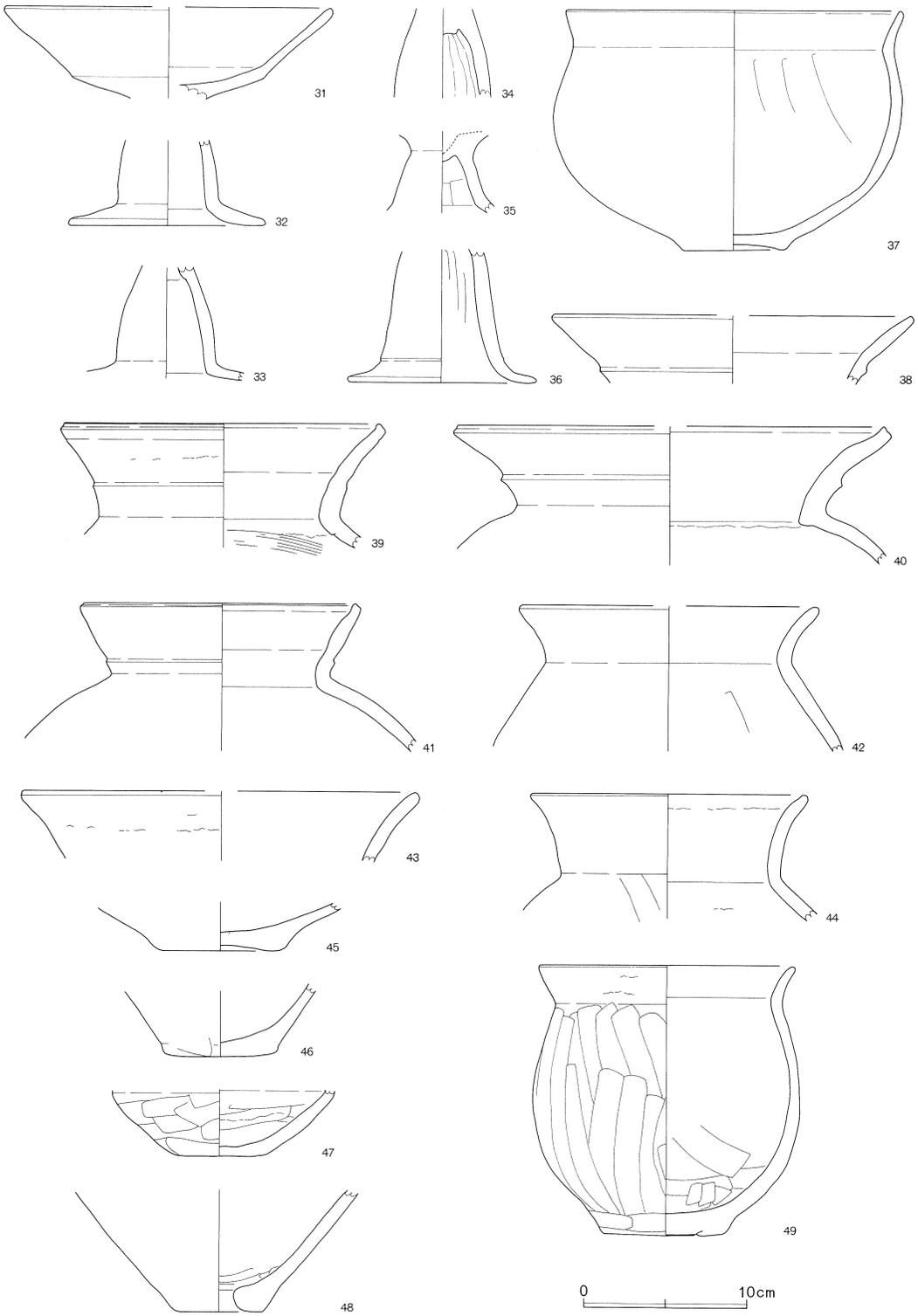
- 1 暗茶褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性弱。

第156図 第8号住居跡(2)

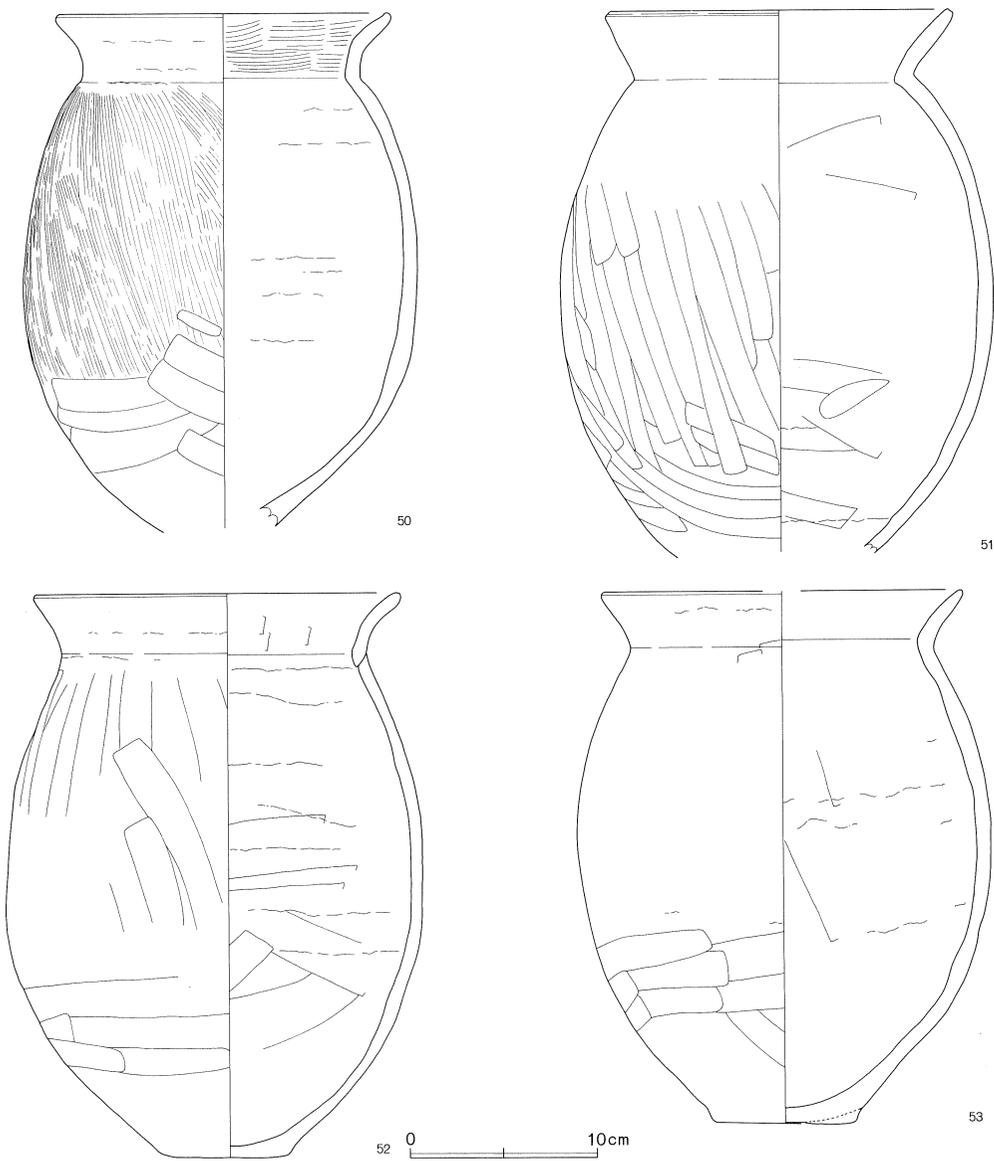
幅0.45mの規模を有している。内壁はきわめてよく焼けている。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は隅丸長方形を呈している。摺り鉢状に掘り込まれ、火床面から急激に立ち上がって煙道部に続いている。煙道部の幅は燃烧部に比べてたいへん狭い。貯蔵穴は2基検出されている。貯蔵穴Aは南壁に接し、南北0.81m・東西1.54m、深さ0.28mを測る半円形である。貯蔵穴Bは南東部コーナーに位置し、上方部は攪乱されている。円形で、南北0.80m・東西0.74m、深さは1.03mと深い。ピットは7基確認されている。東壁際のP7上に黄白色粘土が固まって検出されている。自然科学的な



第157图 第8号住居跡出土遺物(1)



第158图 第8号住居跡出土遺物(2)



第159図 第8号住居跡出土遺物(3)

分析を行なっていないが、土器製作のためのものと推測される。貼床はほぼ全面に施されているが、床面には凹凸が認められる。遺物はカマド・貯蔵穴およびカマドの東側の部分に集中して出土している。ほかに須恵器2片、編物石1点がある。

#### 第9・10号住居跡 (第160・161図)

第9・10号住居跡は、い-356・357、ろ-356・357Gridに位置している。新旧関係は第10号住居跡より第9号住居跡の方が古い。第9号住居跡の北西コーナー部が発掘区域外にかかり、南部の遺

第8号住居跡(第157~159図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(11.8) 高5.0	R多	橙	40	No.1・ピット1。風化が著しい
2	坏	口(13.6)	B+R	明赤褐	40	風化
3	坏	口(14.0)	R多+W	橙	20	No.22。風化が著しい
4	坏	口14.0	R+W	(内)橙 (外)にふい赤褐	30	No.24。内面風化 外面と口縁部内面黒色
5	坏	口13.6	R多	橙	30	風化が著しい
6	坏	口13.4 高5.7	R多	橙	70	
7	坏	口13.8 高5.7	R多	橙	50	No.2・ピット1。
8	坏	口(14.0) 高5.0	R多	にふい橙	20	
9	坏	口(14.2)	R	橙	10	風化が著しい
10	坏	口13.2	R多	橙	40	外面黒色
11	坏	口13.6	R多	橙	30	No.26。
12	坏	口(13.2)	R	橙	30	風化が著しい
13	坏	口(14.0)	R多+W	橙	10	風化が著しい
14	坏	口(13.6) 高5.6	R多+W+W'	(内)にふい橙 (外)橙	50	No.25。内面風化
15	坏	口13.8 高6.1	R多	明赤褐	70	No.5。
16	坏	口(14.0) 高7.0	R+W	(内)橙 (外)明赤褐	40	No.29。
17	坏	口12.0 高5.2	R多	橙~にふい橙	90	No.6・7・ピット1。風化が著しい
18	坏	口(14.5)	R多	橙	20	風化が著しい
19	坏	口(14.0)	R多	橙	30	No.3。
20	坏	口(13.1) 高6.9	R多	橙	40	No.8。
21	碗	口(14.0)		(内)橙 (外)にふい赤褐	20	外面に黒色部分
22	坏	口14.0 高6.2	R多	橙	80	No.32。
23	坏	口13.0 高6.1	R多	(内)橙 (外)暗赤褐	90	No.4・貯蔵穴。外面黒色
24	坏	口(12.2)	R	橙	10	内面風化
25	坏	口12.4 高5.8	R	明赤褐	95	No.9・貯蔵穴。
26	碗	口(12.4) 高7.3	R	橙	40	No.35。
27	坏	口(13.2)	R	橙~にふい橙	30	No.5・貯蔵穴。
28	坏	口(12.0)	R	橙	10	風化が著しい
29	壺	胴15.4	R多	橙	胴部 90	No.19・34。風化

30	壺	胴16.0	R	橙	胴部 40	No.10・11・貯蔵穴。外面風化 粘土紐積み上げ痕明瞭
31	高坏	口(20.0)	R多+W	橙	坏部 40	風化が著しい
32	高坏	脚(12.0)		橙	脚部 20	内面黒色
33	高坏		R	橙	脚部 70	外面風化
34	高坏		R	橙	脚部 40	外面風化
35	高坏			橙	脚部 70	坏部と脚部の接合痕明瞭 外面風化
36	高坏	脚(11.6)		浅黄橙	脚部 10	風化が著しい
37	鉢	口20.6 底6.4 高14.7 胴21.6	R多	(内)浅黄橙 (外)橙	70	No.13・16・17。底部ケズリ
38	壺	口(21.8)	R多	橙	口縁 10	風化が著しい
39	壺	口19.2	R+砂多	橙	口縁 90	No.15。
40	壺	口(26.0)	R+W+砂	橙	口縁 20	No.33。風化が著しい
41	壺	口16.6	R	橙	口縁 50	No.8・貯蔵穴。風化が著しい
42	甕	口(18.4)	砂多	橙	口縁 10	No.12。風化が著しい
43	甕	口(24.2)	砂多	橙～にふい赤褐	口縁 30	風化が著しい 外面に粘土紐積み上げ痕明瞭
44	甕	口(17.0)	R+W	明赤褐	口縁 80	No.20・23。
45	甕	底8.0	R多	橙	底部 70	底部ケズリ 外面黒色 風化が著しい
46	甕	底6.8	砂多	橙	底部 70	底部ケズリ 風化が著しい
47	壺	底5.6	R多	橙	底部 100	No.31。底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕明瞭
48	甕	底5.6 孔2.7	R+W	橙	底部 100	外面風化
49	小型甕	口15.6 底7.5 高16.6 胴16.4	W+砂多	橙	70	No.1・カマド。底部ケズリ
50	甕	口18.0 胴20.8	R+砂多	橙	90	No.1・貯蔵穴。
51	甕	口18.0 胴23.2	R+W+砂多	橙	90	No.1・2・貯蔵穴。胴部黒斑
52	甕	口19.6 底7.0 高30.1 胴22.4	W多+砂多	橙	90	No.3・9。底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕明瞭
53	甕	口(19.2) 底7.6 高28.5 胴22.4	R+砂多	橙～にふい橙	80	No.2・カマド。底部周辺に粘土貼付 粘土紐積み上げ痕明瞭

構上半部は攪乱を受けている。

第9号住居跡は、東西6.55m・南北5.81m、深さ0.14～0.70mの規模をもつ。想定される主軸方位はN—87°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は南壁のみ確認されている。幅は0.09～0.20m、深さは0.01～0.02mある。ピットは4基のうち3基が柱穴である。カマド・貯蔵穴は検出されていない。本住居跡のカマドは第10号住居跡と重複している東壁に構築されていたものと推測することもできる。しかし遺物の年代や住居跡中央やや北よりの床面から焼土が集中して検出されていることから、この部分が炉跡となる確率も高い。もしカマドが設置されていれば、初源期の

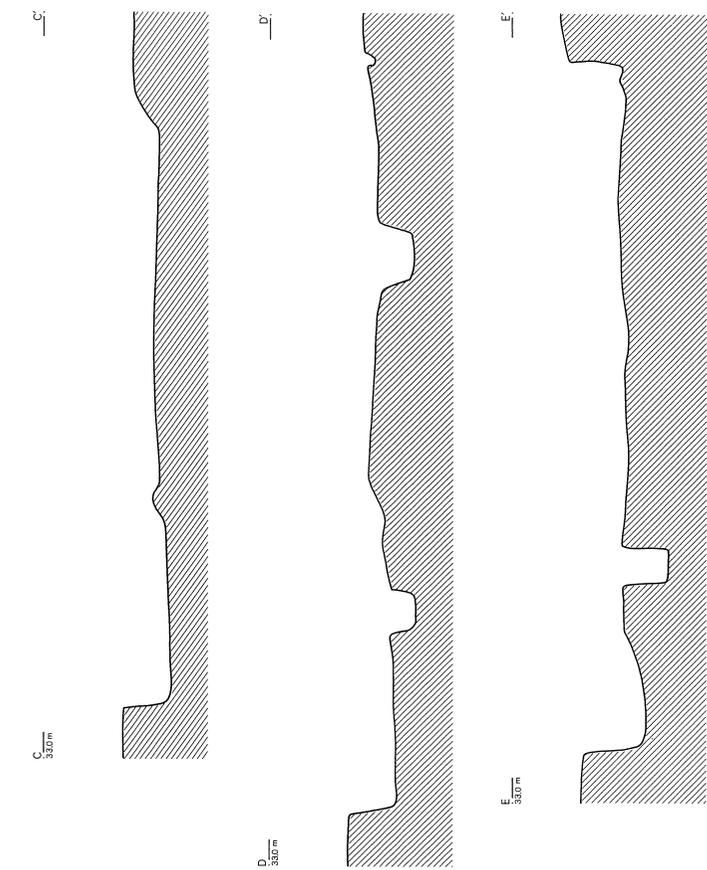


第9号住居跡

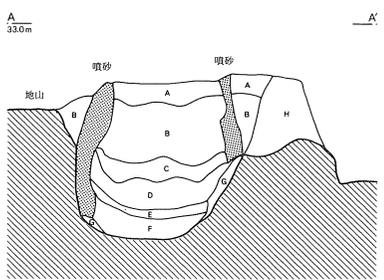
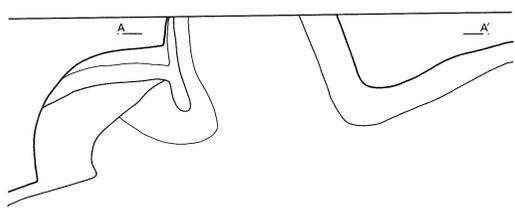
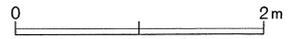
- 1 やや暗い。炭化物・ローム粒子均一。しまりあり。
- 2 1より暗い。焼土・炭化物・ローム粒子含む。しまり強。
- 3 2より暗い。焼土・炭化物粒子やや多く含む。粘性あり。
- 3' 明るい。黄褐色土わずかに含む。

- 4 焼土粒子・炭化物多く含む。
- 5 3' 近似。しまりやや弱、粘性弱。
- 6 焼土・炭化物・ローム粒子含む。灰褐色・粘性あり。

第160図 第9・10号住居跡(1)



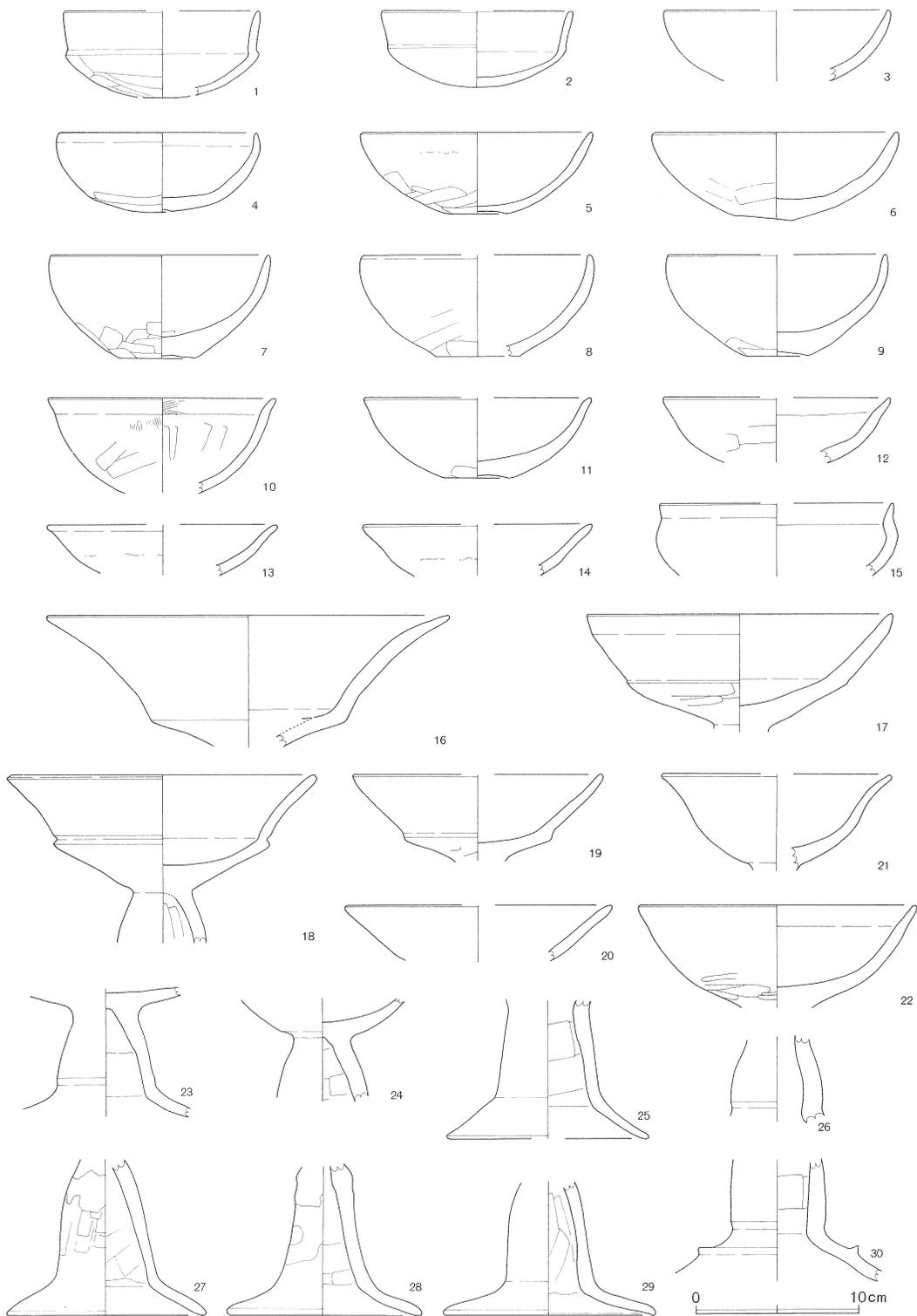
- 第10号住居跡
- 1 灰褐色土 ローム粒子均一、若干の焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性やや強。
  - 2 にぶい黄褐色土 1 近似。ローム粒多、黄褐色味強。
  - 3 にぶい黄褐色土 焼土・炭化物粒子やや多く含む。しまり・粘性強。
  - 4 にぶい黄褐色土 肥床。堅緻な褐色ロームブロック。粘土質土層。しまり・粘性強。
  - 5 灰黄褐色土 粘土質土層。しまり・粘性強。
  - 6 にぶい黄褐色土 3 近似。焼土・炭化物粒子少。しまり・粘性やや弱。
  - 7 にぶい黄褐色土 3 近似。焼土・炭化物・ローム粒子やや多く含む。
  - 8 黄褐色土 焼土・炭化物・ローム粒子均一に多く含む。しまり・粘性あり。
  - 8' 黄褐色土 8 よりやや暗い。
  - 9 黄褐色土 8 より焼土・炭化物粒子多く含む。



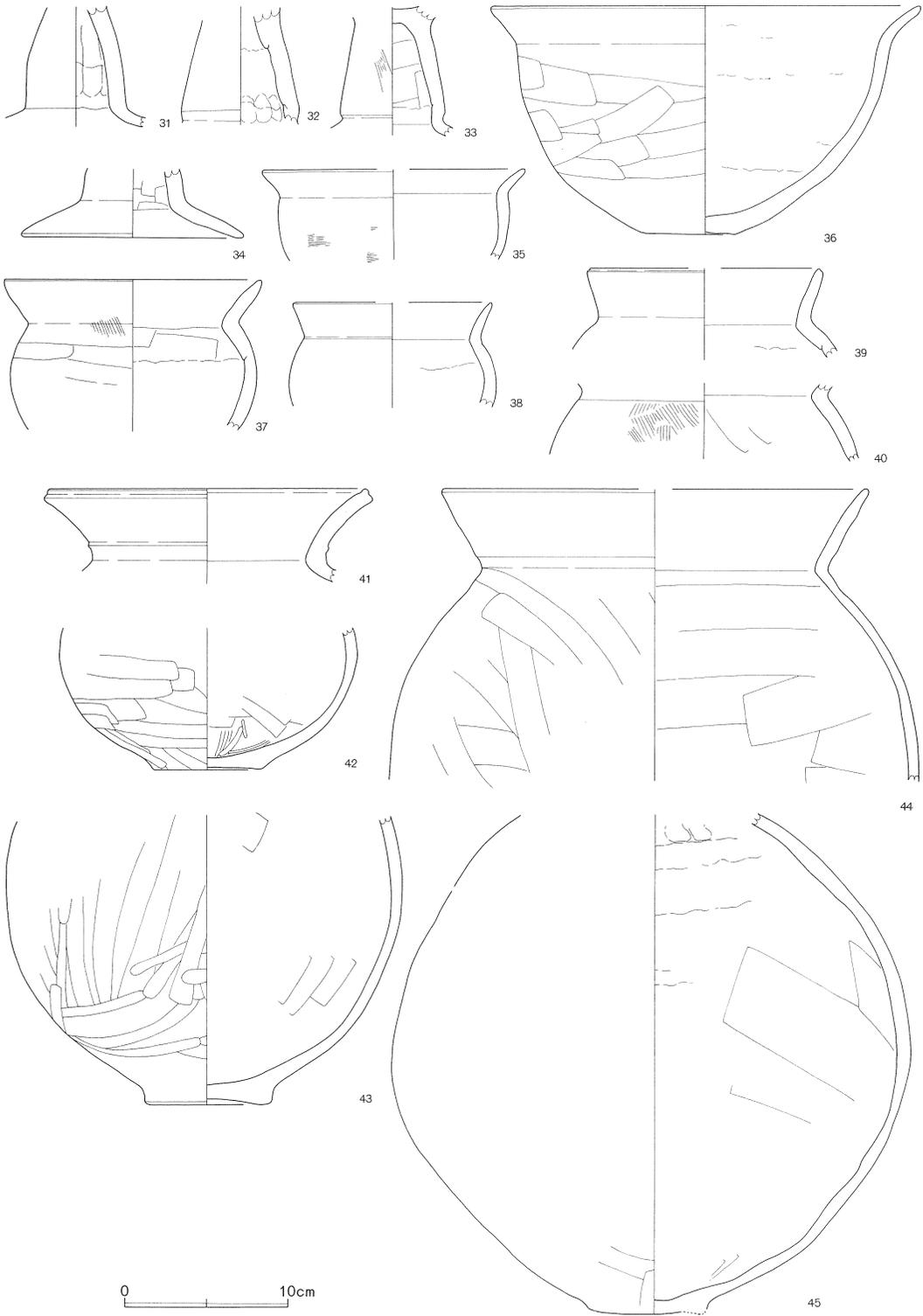
- 第10号住居跡カマド
- A にぶい黄褐色土 若干の焼土・炭化物粒子含む。
  - B にぶい黄褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまり・粘性強。
  - C にぶい黄褐色土 焼土・炭化物粒子含む。2より粘性強。
  - D にぶい黄褐色土 焼土・炭化物粒子含む。3より粘性強。
  - E にぶい黄褐色土 焼土層。焼土粒子・ブロック多く含む。
  - F にぶい茶褐色土 灰層。炭化物粒子主体。焼土粒子混入。
  - G 褐灰色土 5 近似。焼土層。
  - H 黄褐色土 ローム粒子、焼土・炭化物粒子多く含む。



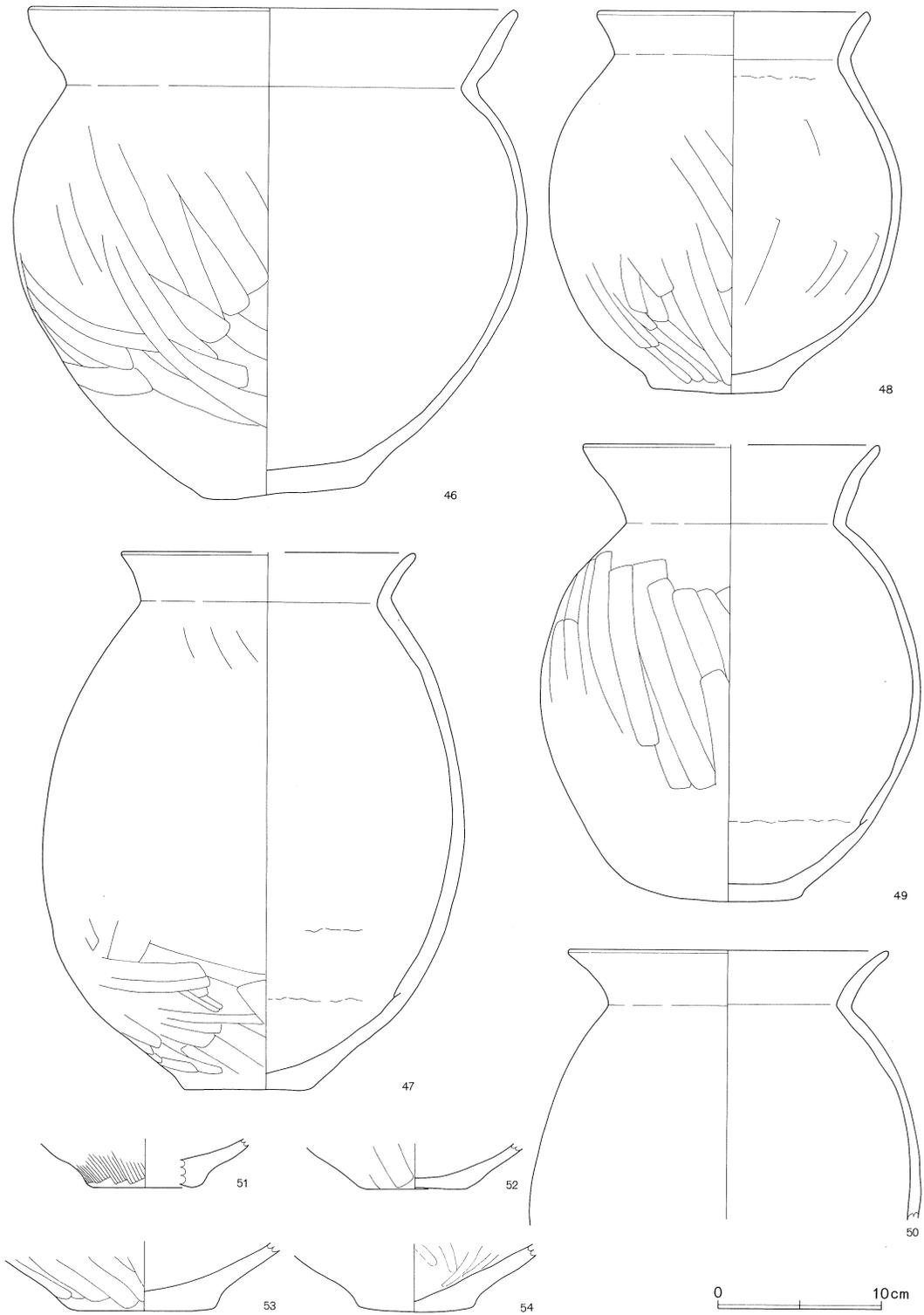
第161図 第9・10号住居跡(2)



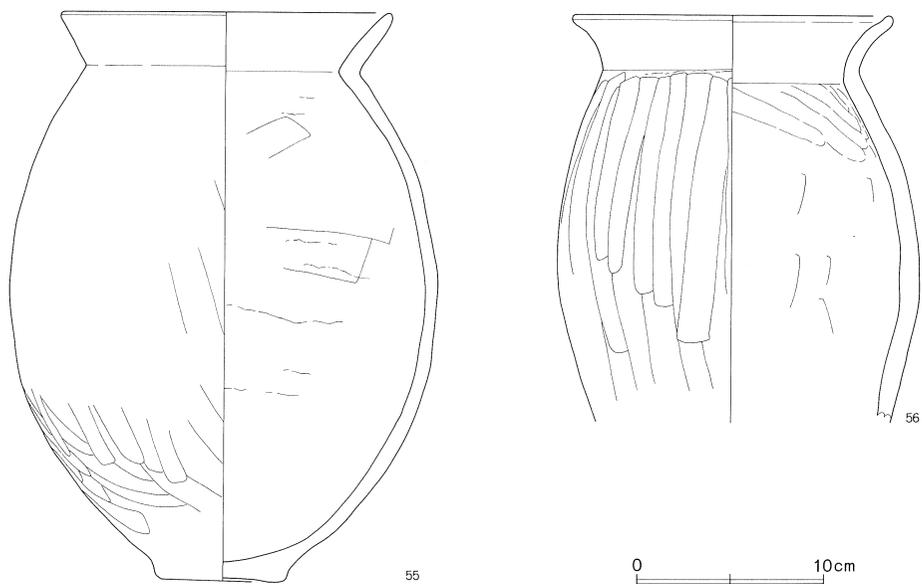
第162图 第9号住居跡出土遺物(1)



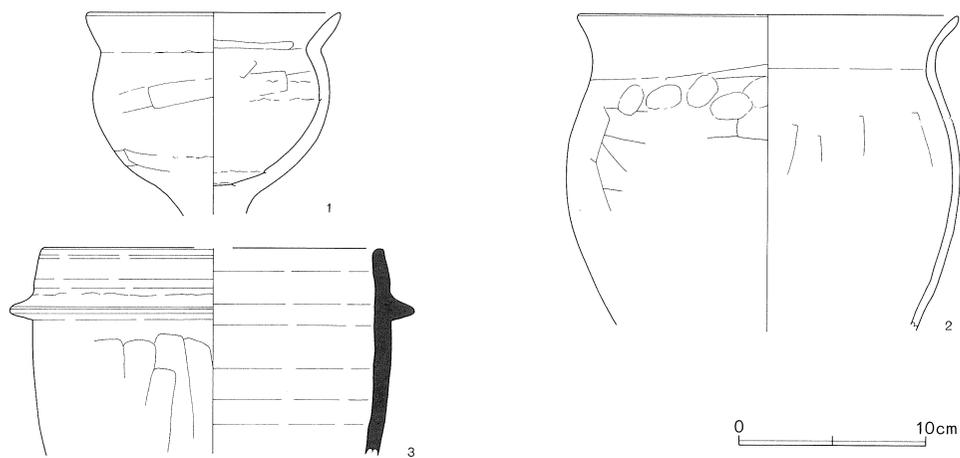
第163图 第9号住居跡出土遺物(2)



第164图 第9号住居跡出土遺物(3)



第165図 第9号住居跡出土遺物(4)



第166図 第10号住居跡出土遺物

第9号住居跡 (第162~165図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.0)	R	橙	30	内面風化
2	坏	口(11.7) 高4.7	R多	にふい橙	30	風化が著しい
3	坏	口(13.8)	W	にふい橙	20	風化が著しい
4	坏	口12.0 底1.0 高4.9	B+R	橙	70	No.16。内面風化
5	碗	口14.2 底3.5 高5.0	R多	橙	50	No.7。内面風化

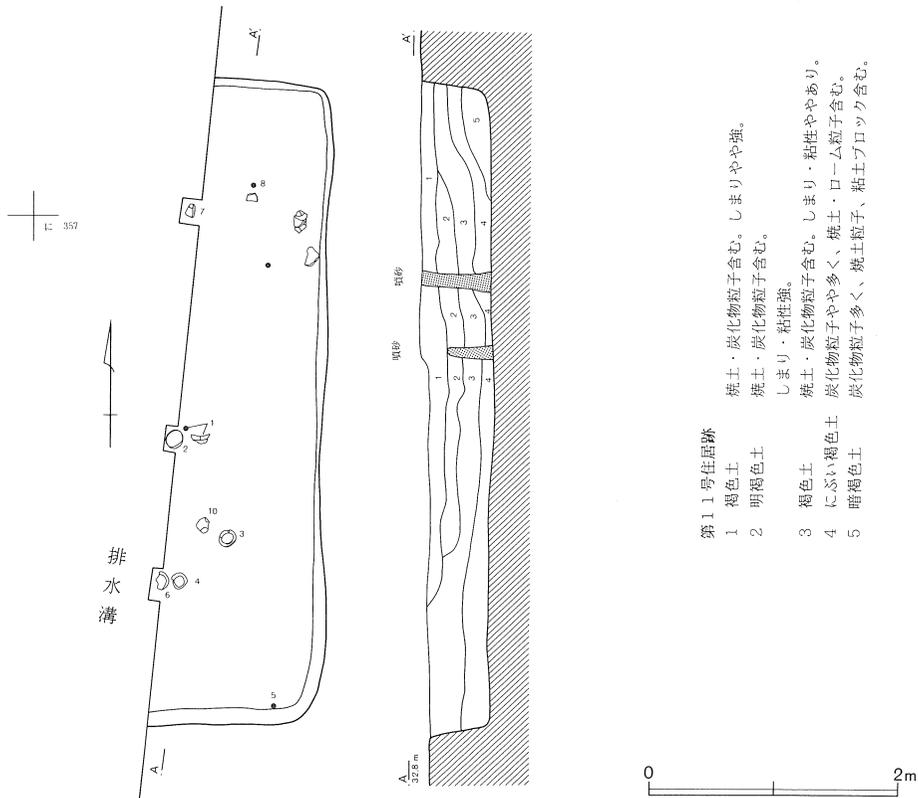
6	椀	口15.0 底3.5 高5.3	R多	橙～浅橙	100	No.24・25。内面風化
7	椀	口13.2 底4.5 高6.3	B	橙	95	No.14。底部ケズリ
8	椀	口(14.0)		橙	10	No.3。風化
9	椀	口(13.2) 底3.8 高6.2		橙	70	風化が著しい
10	椀	口14.0	R+W	橙	30	
11	椀	口(14.0) 底4.0 高5.0	R	橙	30	風化が著しい
12	坏	口(14.0)	B	橙	20	風化
13	坏	口(14.1)	R	橙～淡橙	20	風化が著しい
14	坏	口(14.0)	R多	にふい橙	坏部 20	風化が著しい
15	椀	口(14.2)	R	橙	30	風化が著しい
16	高坏	口24.7	R多	橙	坏部 50	口縁部と体部の接合痕明瞭 風化が著しい
17	高坏	口18.7	R多	橙	坏部 80	No.54。口縁部外面黒斑
18	高坏	口18.6	R多	橙	坏部 40	外面風化
19	高坏	口(15.3)	B+R+W	橙	坏部 20	No.10。
20	高坏	口(16.4)	R多	橙	坏部 10	風化が著しい
21	高坏	口(14.0)	R+W	橙	坏部 40	
22	高坏	口17.0	R	橙	坏部 60	No.49・55。内面風化
23	高坏		R多	橙	脚部 70	No.40。風化が著しい
24	高坏		砂	明赤褐	20	風化
25	高坏	脚(12.4)	R多	橙	脚部 30	
26	高坏		R	橙	脚部 70	No.3。
27	高坏	脚12.2	R多	橙	脚部 80	No.22。羽口転用 スラグ・スス付着
28	高坏	脚12.0	R	橙	40	No.1。羽口転用 スラグ付着
29	高坏	脚13.0	R	橙	脚部 30	No.2。
30	高坏		R	(内)橙 (外)明黄褐	脚部 20	No.15。外面風化
31	高坏		R	橙	脚部 80	No.33。外面風化が著しい
32	高坏			橙	脚部 80	No.4。外面風化
33	高坏		R	暗赤灰	脚部 70	No.17。
34	高坏	脚13.6	R+W	橙	脚裾部 40	
35	鉢	口(16.2)	R多	橙	口縁 20	風化

36	鉢	口26.2 底5.6 高13.9		橙	80	No.34・35・36。底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕
37	小型甕	口15.6	R多	橙	50	粘土紐積み上げ痕
38	小型甕	口(12.2)	R+W	(内)灰褐 (外)橙	口縁 20	No.9。風化が著しい
39	小型甕	口(14.0)	R多	橙	口縁 20	風化が著しい
40	甕		B	浅黄橙	10	
41	壺	口19.2	B+R+W	浅黄橙	口縁 90	No.45。
42	小型壺	底6.6	R多	橙	底部 50	底部ケズリ
43	甕	底7.8 胴24.3	R	(内)橙 (外)明赤褐	胴部 60	No.52。底部ケズリ
44	甕	口(26.0)	W多+砂多	明赤褐	上半部 30	No.37・39。
45	甕	底(7.2) 胴31.8		橙~浅黄橙	胴部 70	No.28・32・43。底部ケズリ 外面風化が著しい 粘土紐積み上げ痕
46	甕	口29.6 底9.5 高29.7 胴31.4	R+W多	橙~にふい橙	50	No.43。底部ケズリ 胴部黒斑
47	甕	口(18.0) 底7.6 高33.0 胴25.8	砂多	橙	70	No.41・42。底部ケズリ 風化 底部内面黒色
48	甕	口16.6 底8.0 高23.4 胴21.5	W	橙~にふい赤褐	70	No.3。底部ケズリ 内面黒色
49	甕	口(18.0) 底7.8 高28.0 胴23.4	W	にふい橙	70	底部ケズリ 胴部外面黒色
50	甕	口19.6	B+砂多	淡橙	30	No.31。風化
51	甕	底(7.0)	砂多	(内)褐灰 (外)橙	底部 30	内面風化
52	甕	底6.2	W多+砂多	(内)灰黄褐 (外)明赤褐	底部 60	底部ケズリ
53	甕	底9.0	R多+W	橙	底部 100	底部ケズリ 内面風化
54	甕	底7.0	R多	橙	底部 100	No.2。底部ケズリ
55	甕	口17.6 底7.0 高30.4 胴23.0	W+砂多	橙	80	No.18・19。風化 底部ケズリ 胴部黒斑 粘土紐積み上げ痕
56	甕	口17.0 胴19.4	B+R+砂	浅黄橙	60	No.19。

第10号住居跡 (第166図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	台付鉢	口13.6	R	橙	60	No.5。
2	甕	口20.4 胴21.0	砂多	橙~にふい橙	上半部 50	肩部外面に指頭押
3	羽釜	口(18.2)	B	灰白	口縁 30	

ものである。またプランは明確ではないが、住居跡中央部に小鍛冶状の痕跡が認められている。フイゴの羽口に再利用されたと思われる、スラグが付着している高坏形土器の脚も検出されている。このことから小鍛冶が営まれていた可能性が高い。遺物は全面に広がっているが、特に西壁際付近には集中して出土している。ほかに編物石2点がある。

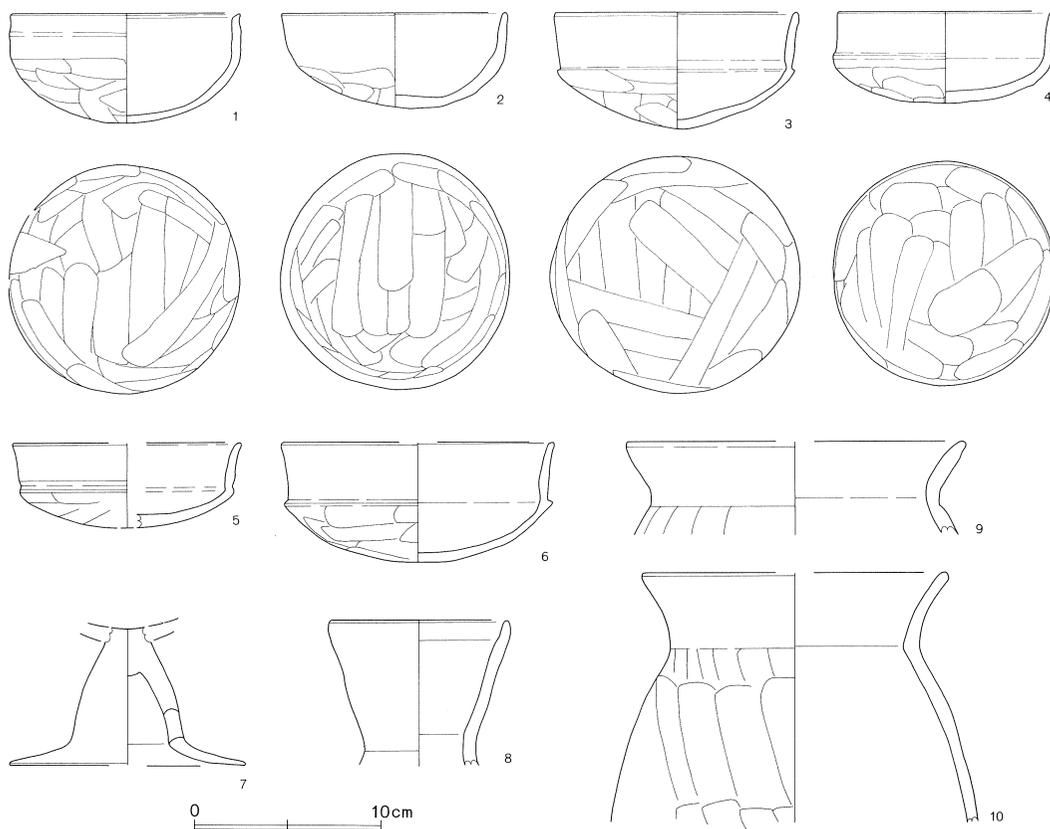


第167図 第11号住居跡

第10号住居跡の南西コーナー部は攪乱のため明確ではない。規模は主軸辺3.08m・長辺3.50m、深さ0.03～0.22mで、主軸方位はN-74°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。カマドは東壁中央に構築されている。焚き口幅は0.45mで、燃烧部が壁外に掘り込まれている。袖部は確認されていない。火床面は比較的よく焼けている。煙道部は発掘区域外にかかり、燃烧部には噴砂の亀裂が入り込んでおり、残存状態はあまりよいとはいえない。貯蔵穴・ピット・壁溝等の施設は検出されていない。堅くしまっている貼床が施されている。遺物は少ない。

### 第11号住居跡 (第167図)

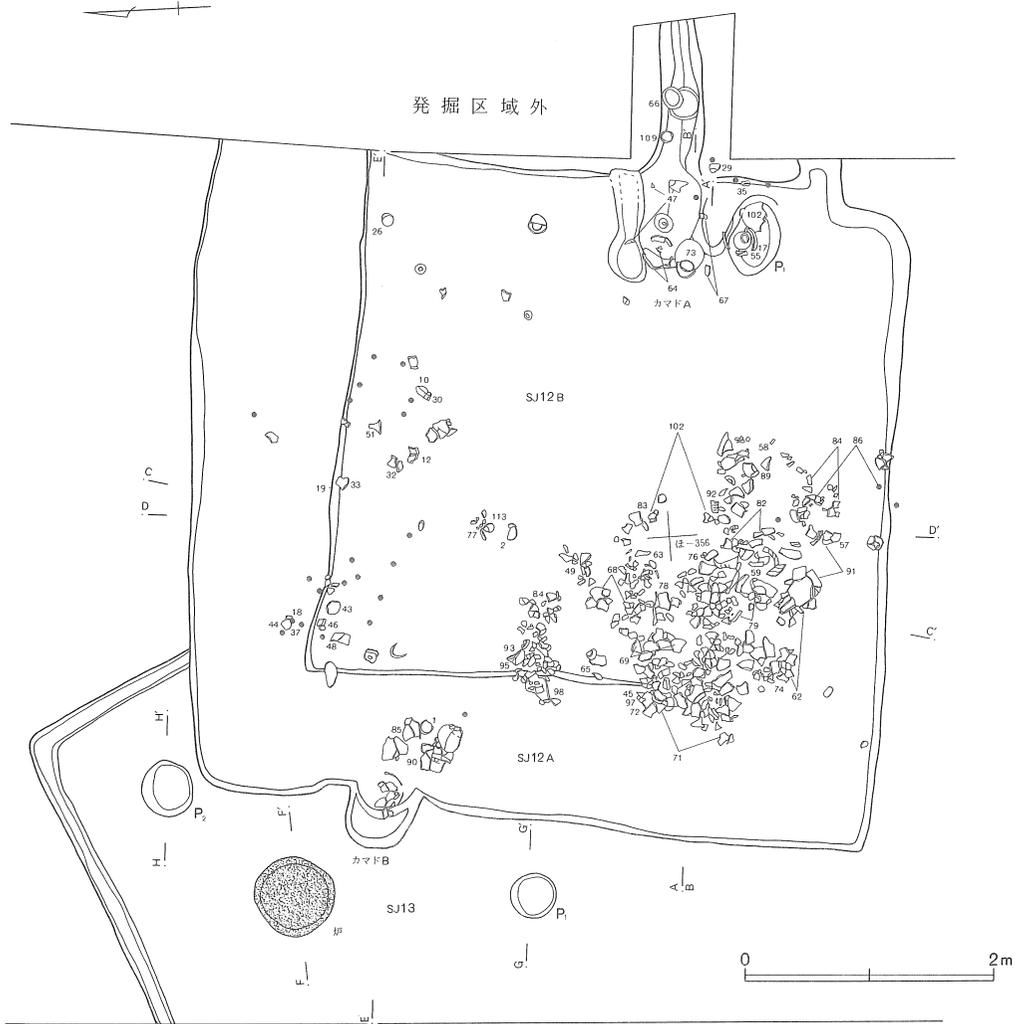
は-356、に-356Gridに位置している。大半は発掘区域外にかかり、東壁付近のみ確認されている。噴砂の亀裂が入り込んでいるが、大きな影響を及ぼしてはいない。規模は、南北5.17m・深さ0.41～0.68mで、東壁の方位はN-1°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。カマド・貯蔵穴・ピット・壁溝等の施設は検出されていない。貼床は全面に施され、その直上には厚さ1～2cm程度の炭化物層が認められている。炭化物は繊維がきわめて良好に残存している。東壁際はよく焼けており、遺構確認面において多量の焼土ブロックが幅2cmほどの帯状に確認されている。



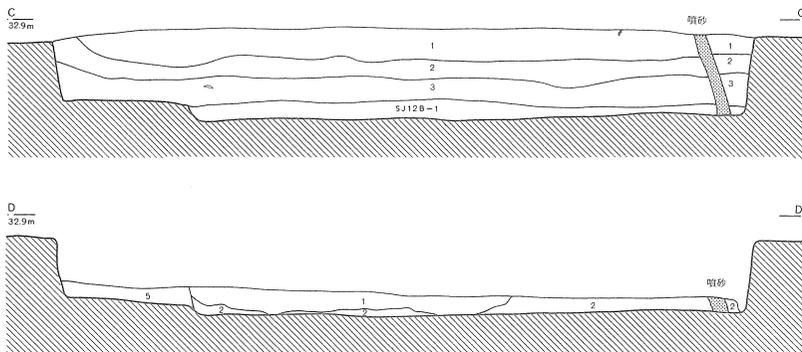
第168図 第11号住居跡出土遺物

第11号住居跡 (第168図)

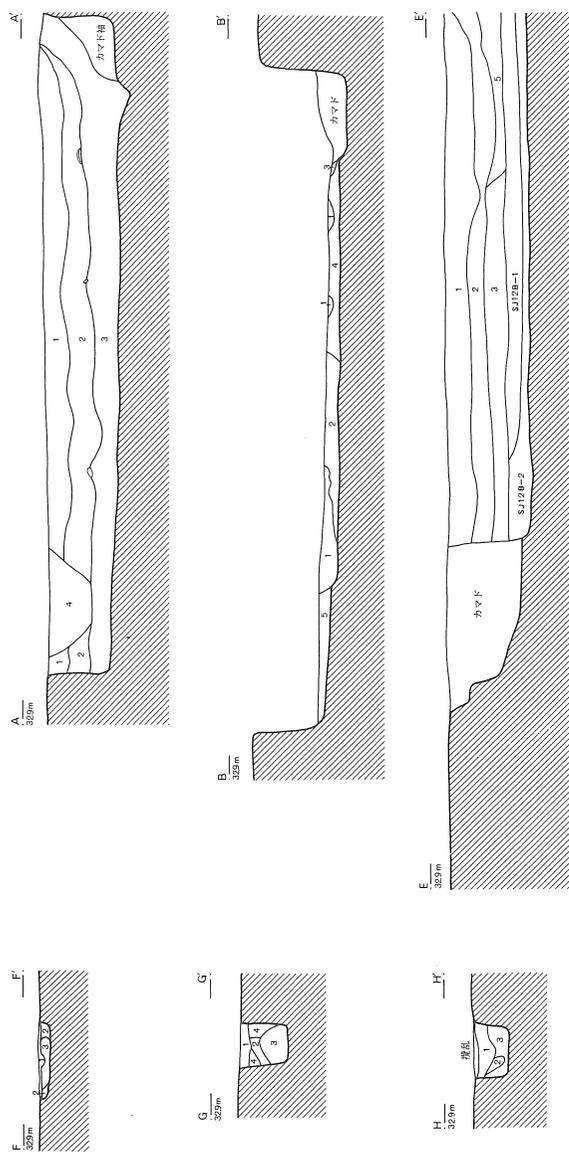
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.2 高5.7	W	橙～浅黄橙	100	No.8・9. 胎土密 外面に黒斑
2	坏	口12.2 高5.1	W+W' 多	橙～明赤褐	100	No.7. 内外面に円形の黒斑
3	坏	口13.0 高6.2	W+W'	橙～赤橙	100	No.11.
4	坏	口11.5 高4.9	W多+W'+砂多	橙	100	No.13. 器面粗 外面に黒斑
5	坏	口(12.2)	R+W+W'	(内)橙 (外)橙～浅黄橙	20	No.14. 外面に黒斑
6	坏	口(14.6) 高6.4	R多+W	橙	60	No.12.
7	高坏	脚(12.6)	W+W'	橙	脚部 50	No.3.
8	壺	口9.7	B+R+W'	橙	口縁 50	No.2. 内外面にうすい黒色部分
9	甕	口(18.2)	B多+W'+砂多	黄橙	口縁 25	
10	甕	口(16.4)	W'+砂多	浅黄橙	上半部 15	No.10. 内外面に黒色部分



排水溝



第169図 第12・13号住居跡(1)



第12A号住居跡

- 1 にぶい黄褐色土 若干の焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性弱。
- 2 にぶい黄褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまり・粘性弱。
- 2' にぶい黄褐色土 2よりやや暗い。
- 3 にぶい黄褐色土 2よりやや明るい。焼土粒子含む。
- 4 にぶい黄褐色土 焼土・炭化物・ローム粒子含む。しまり・粘性弱。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまりあり。
- 6 褐色土 ローム粒子含む。しまり・粘性あり。

第12B号住居跡

- 1 暗褐色土 炭化物粒子含む。しまり・粘性強。
- 2 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性あり。
- 3 赤色土 焼土粒子主体。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒子主体。若干の焼土・炭化物粒子含む。
- 5 黄褐色土 二次堆積ローム主体。

第13号住居跡炉跡

- 1 赤褐色土 焼土層。炭化物粒子混入。
- 2 黄褐色土 ローム土主体。若干の炭化物粒子混入。
- 3 黄褐色土 ローム土主体。若干の炭化物粒子混入。

第13号住居跡ピット

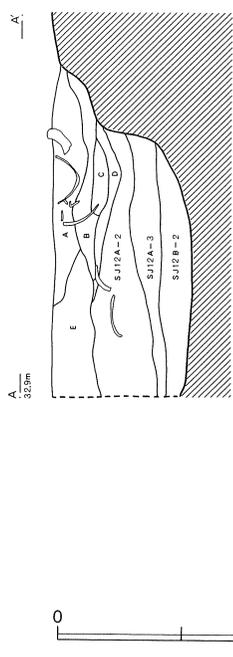
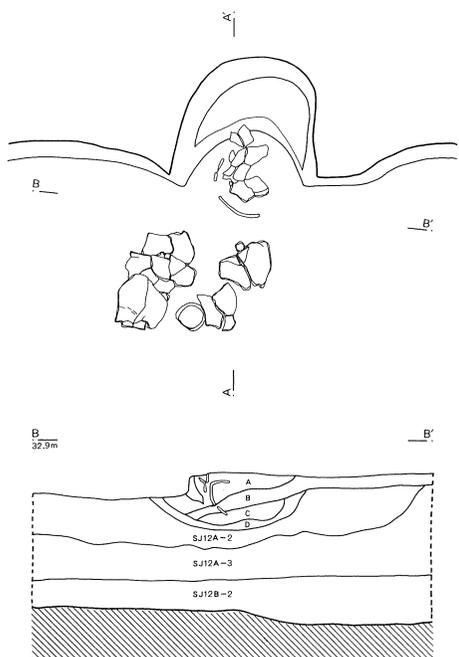
- 1 明褐色土 若干の炭化物粒子含む。しまりやや弱、粘性あり。
- 2 明褐色土 1よりやや暗い。若干の炭化物粒子含む。しまり弱。
- 3 黄褐色土 ローム土主体。砂粒子若干混入。しまりやや強。
- 4 黄褐色土 ローム土主体。しまり・粘性あり。

第170図 第12・13号住居跡(2)

第12・13号住居跡 (第169・170・171図)

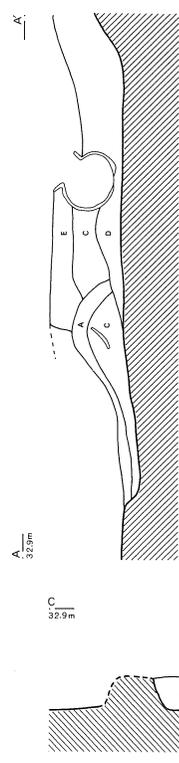
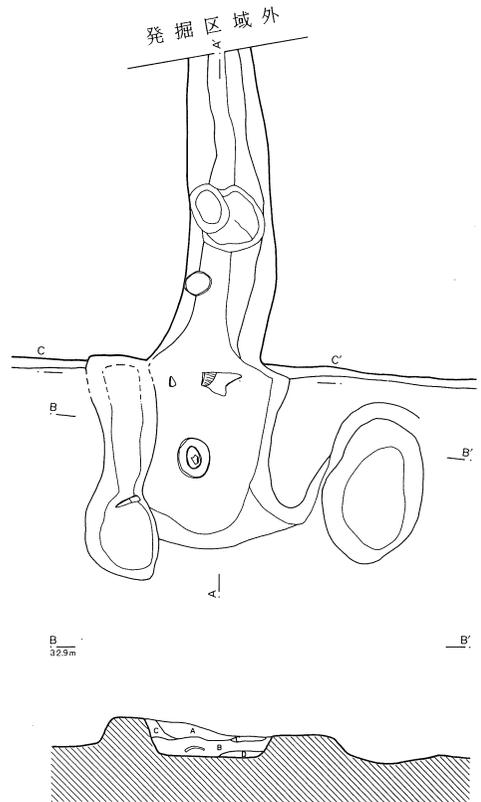
発掘区域の幅が狭い、に-355・356、ほ-355・356Gridに位置し、東西が発掘区域外にかかっている。新旧関係は、第12号住居跡が第13号住居跡よりも新しい。

第12号住居跡は2基のカマドが設置され、床面に段差があることから、2軒の住居跡として調査を行なっている。規模が大きく、東壁にカマド(カマドA)が構築されている住居跡を第12A号住居跡、規模が小さく、西壁にカマド(カマドB)が構築されている住居跡を第12B号住居跡として把握していた。しかし東壁・南壁が一致し、西壁・北壁が平行関係にあることから、整理作業段階



第12A号住居跡カマド

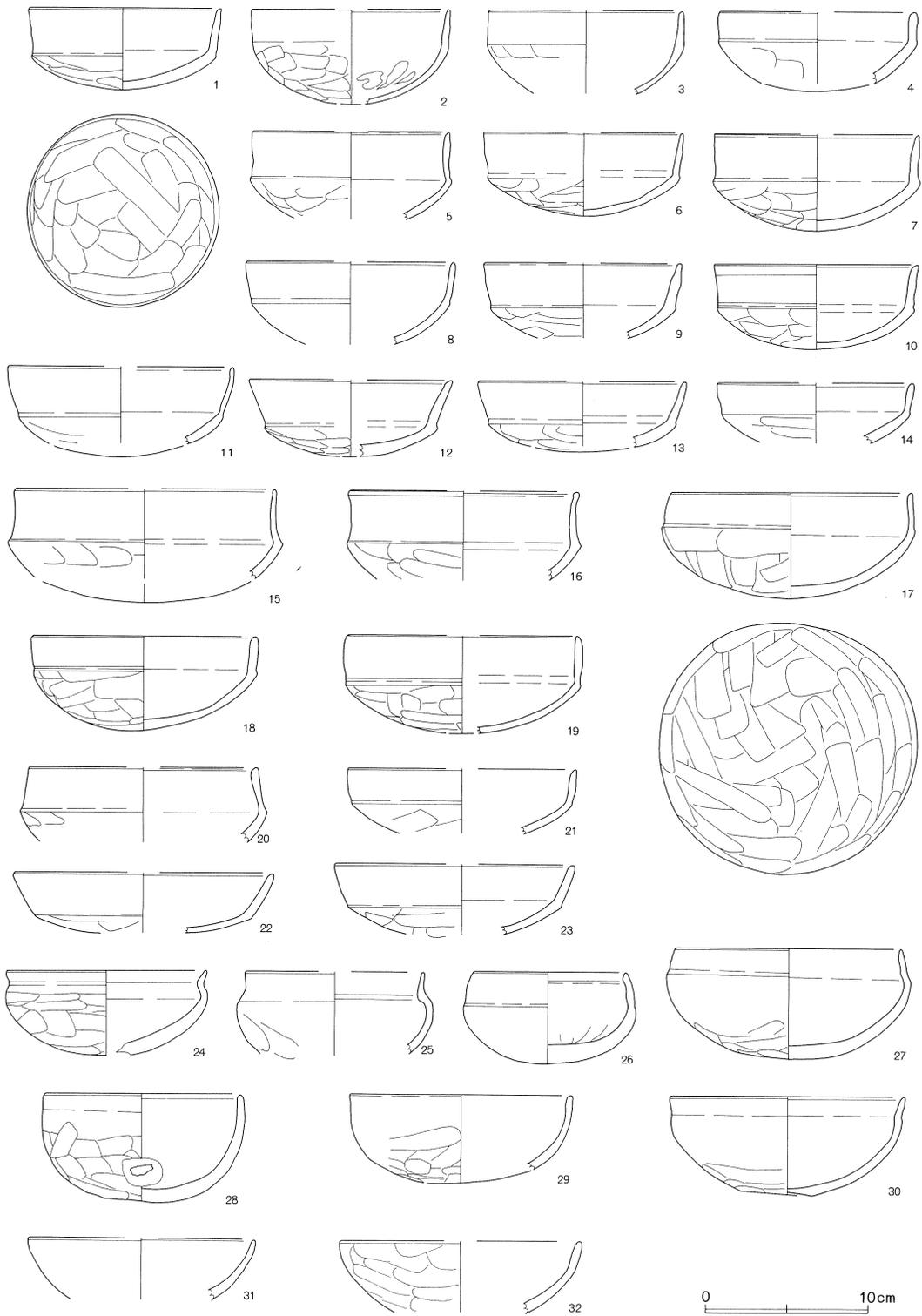
- A 暗褐色土 焼土・炭化物粒子やや多く含む。しまり・粘性弱。
- B 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性弱。
- C 暗褐色土 焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性ややあり。
- D 黒褐色土 焼土・炭化物粒子主体。しまり・粘性弱。
- E にぶい黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。やや細かく、しまり・粘性強。



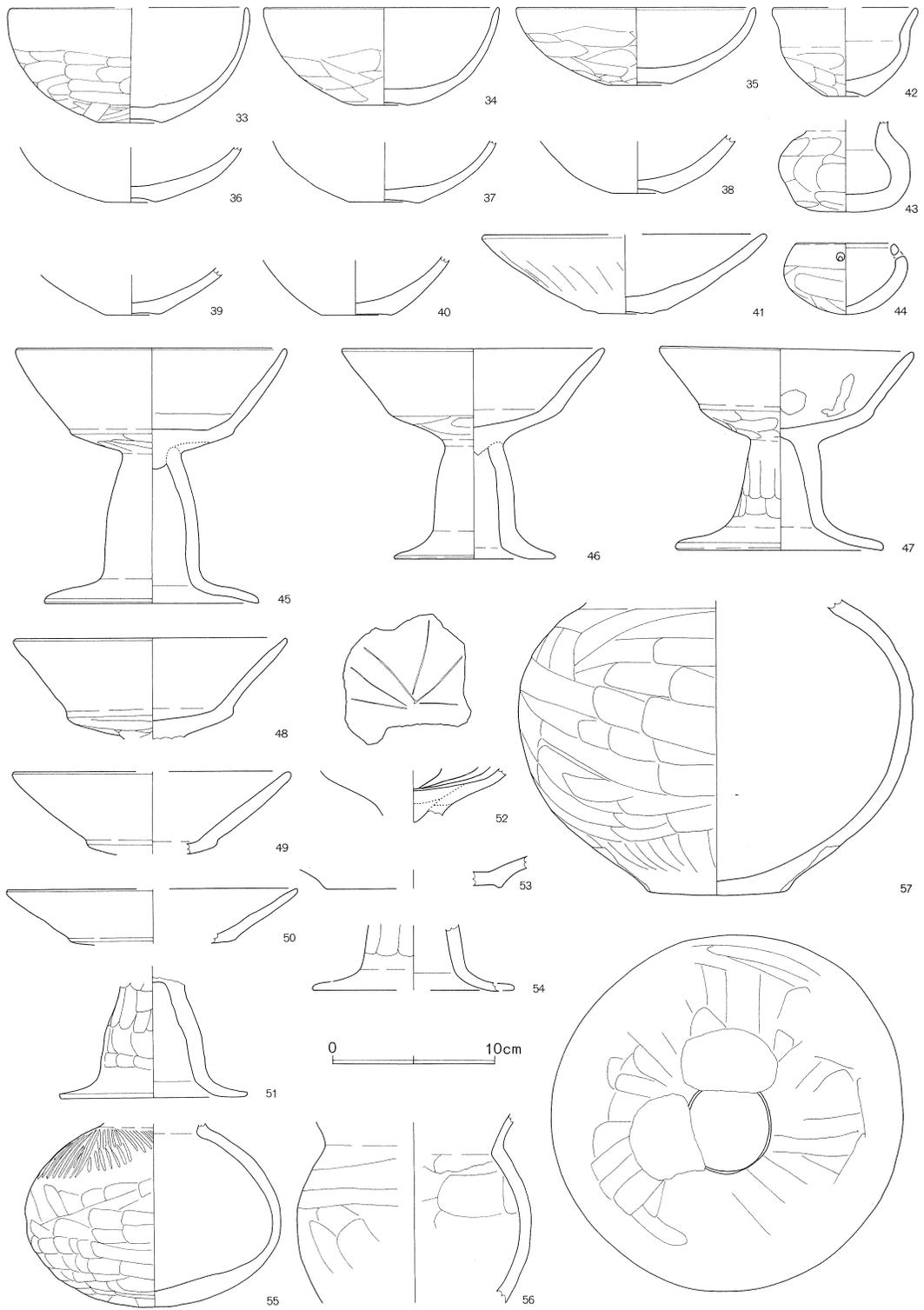
第12B住居跡カマド

- A 赤褐色土 焼土ブロック、炭化物粒子多く含む。
- A' 赤褐色土 Aよりローム粒子多く含む。
- B 黒灰色土 灰層。
- C 赤色土 天井部焼土層の崩壊。固く焼きしまった焼土層。
- D 黄褐色土 ローム土主体。焼土・炭化物粒子多く含む。
- E 黄褐色土 二次堆積ローム土主体。若干の焼土・炭化物粒子混入。

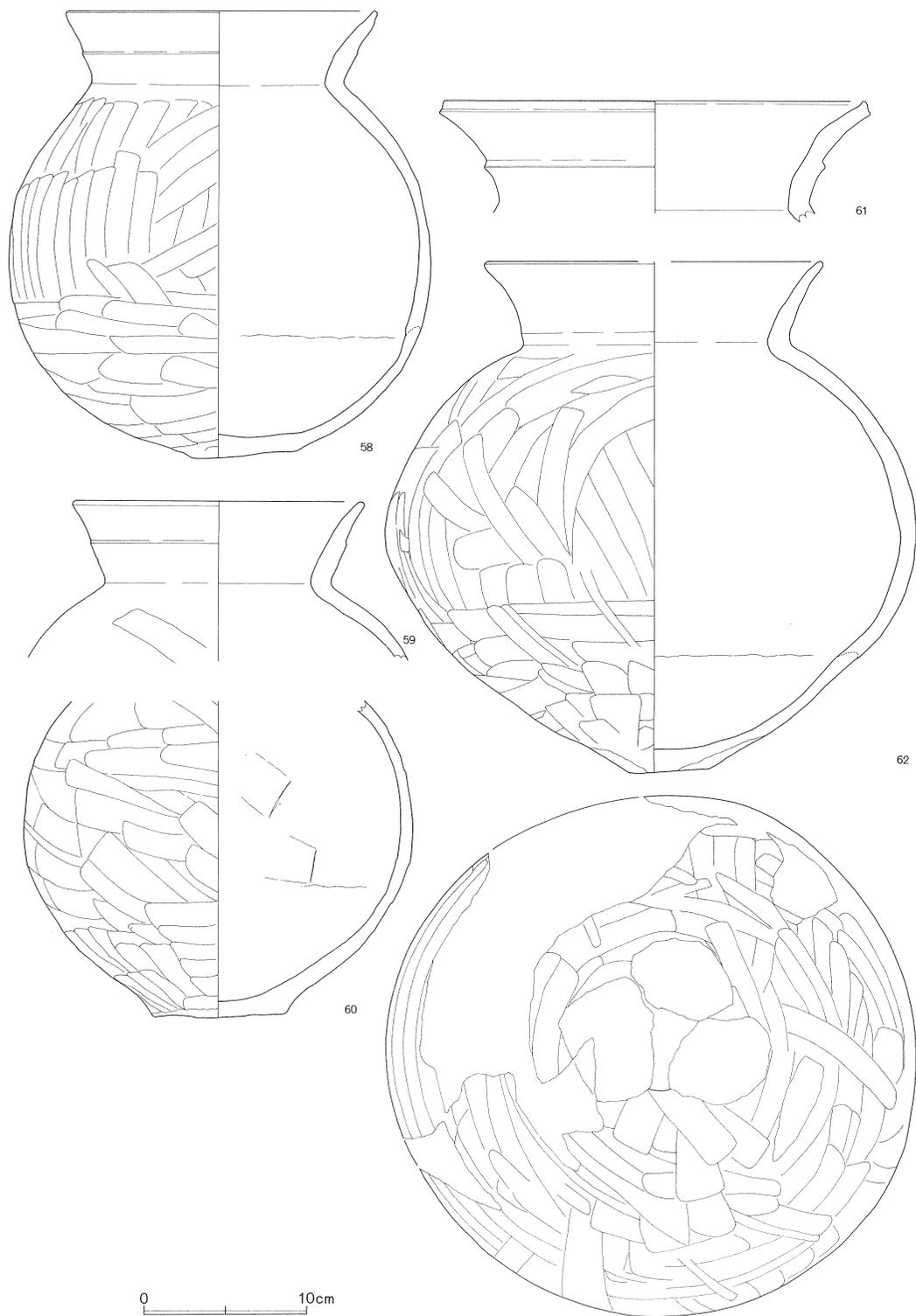
第171図 第12・13号住居跡(3)



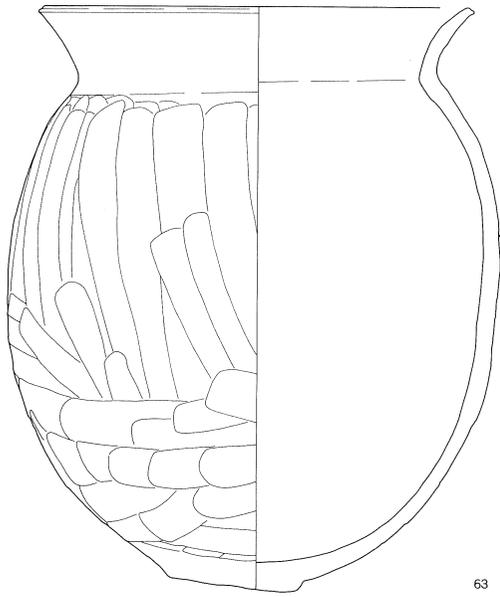
第172图 第12号住居跡出土遺物(1)



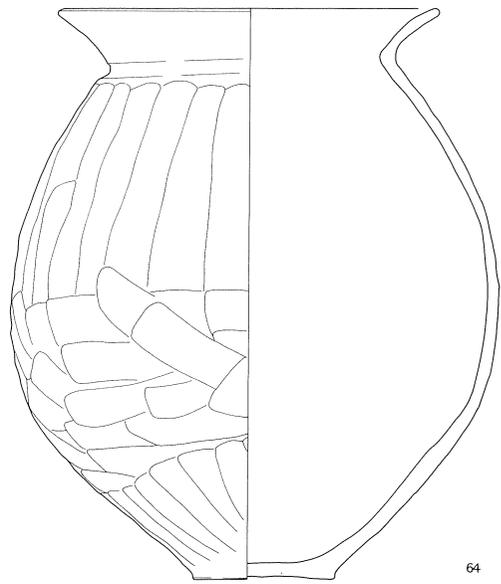
第173图 第12号住居跡出土遺物(2)



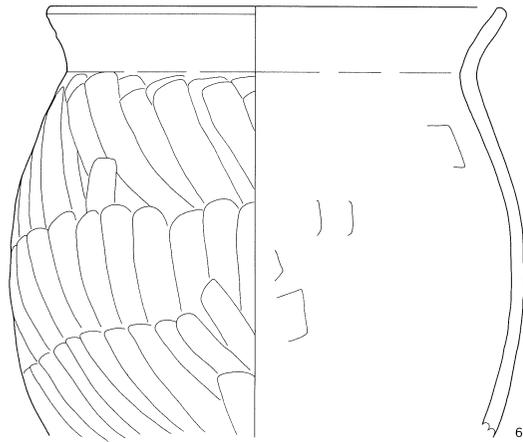
第174図 第12号住居跡出土遺物(3)



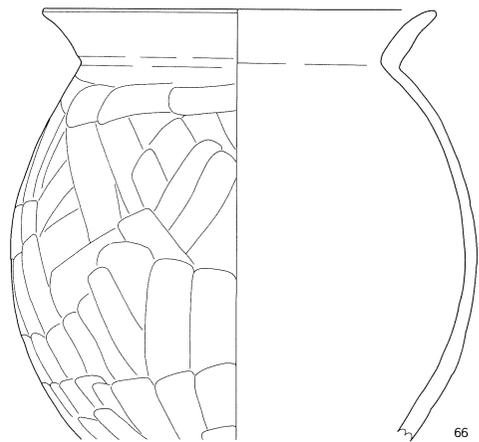
63



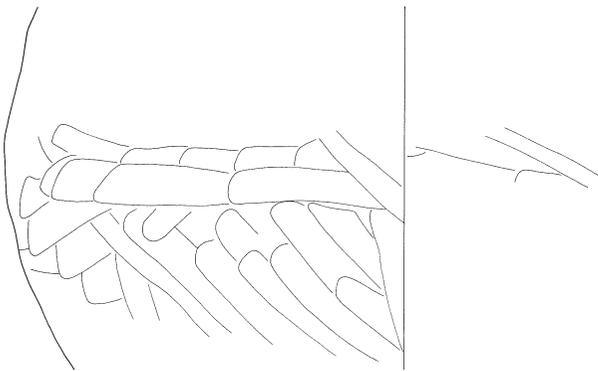
64



65



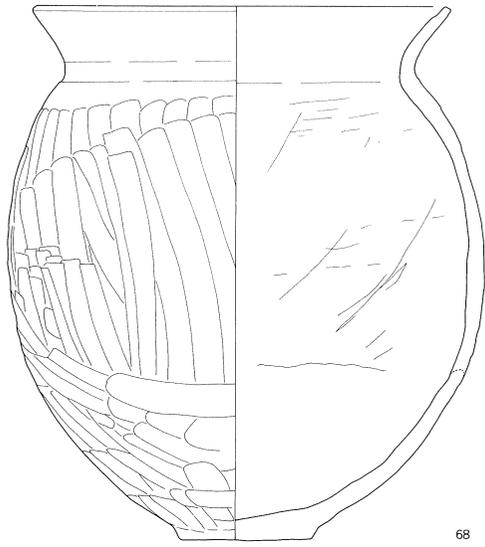
66



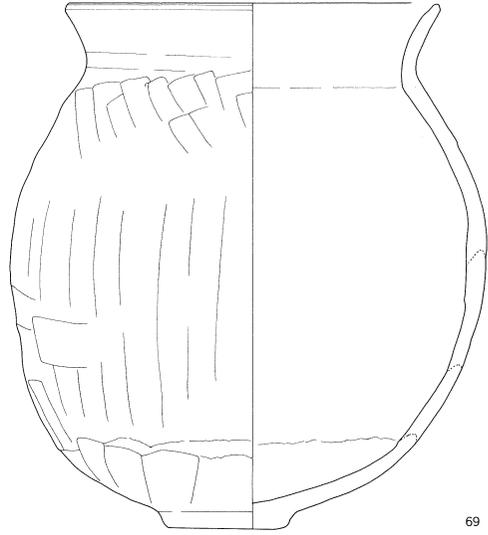
67

0 10cm

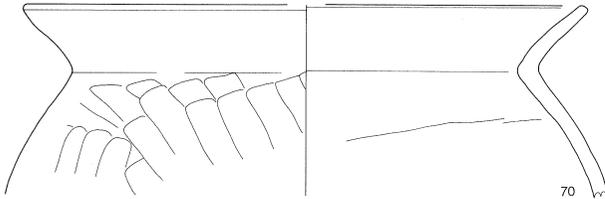
第175图 第12号住居跡出土遺物(4)



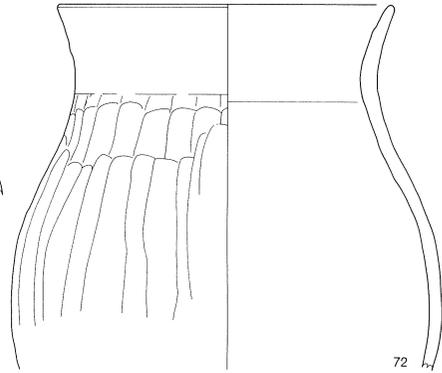
68



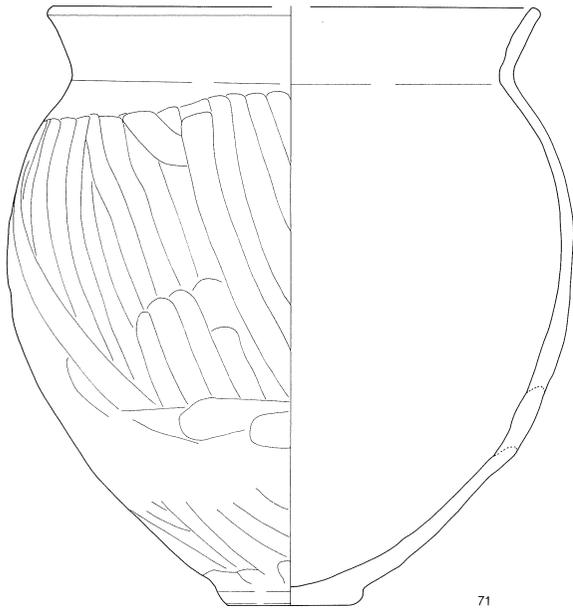
69



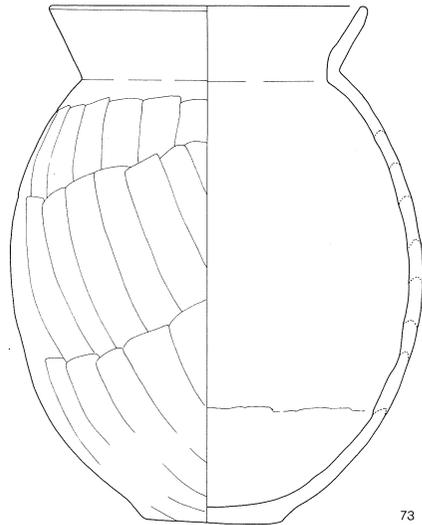
70



72



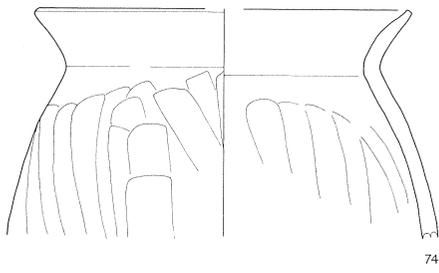
71



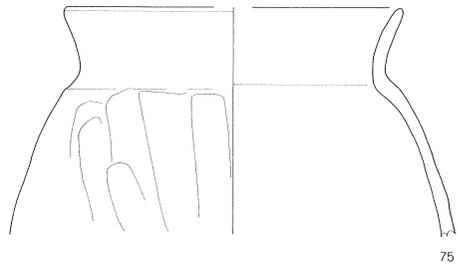
73

0 10cm

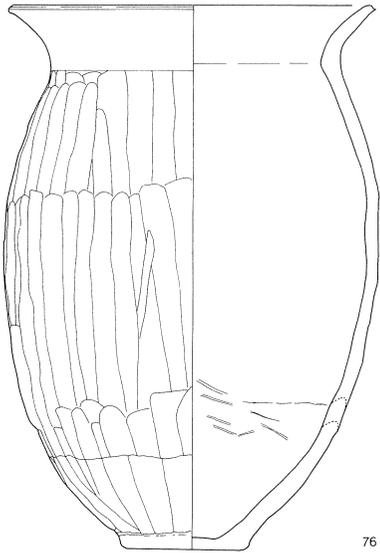
第176图 第12号住居跡出土遺物(5)



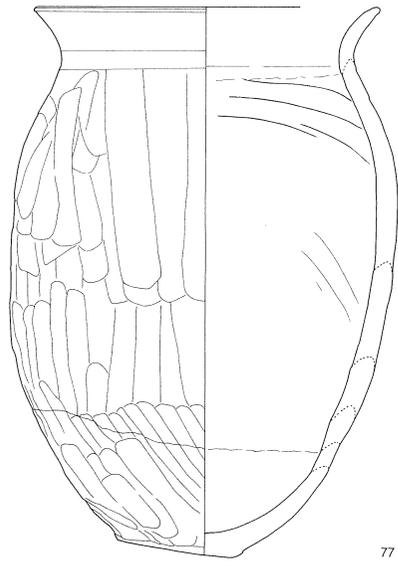
74



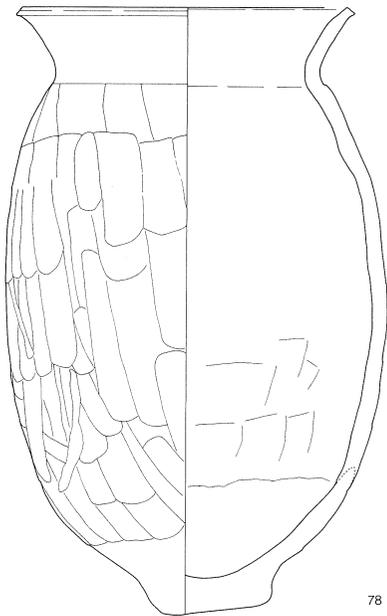
75



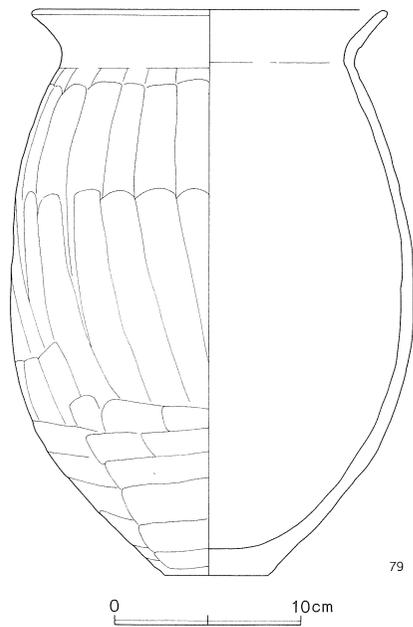
76



77



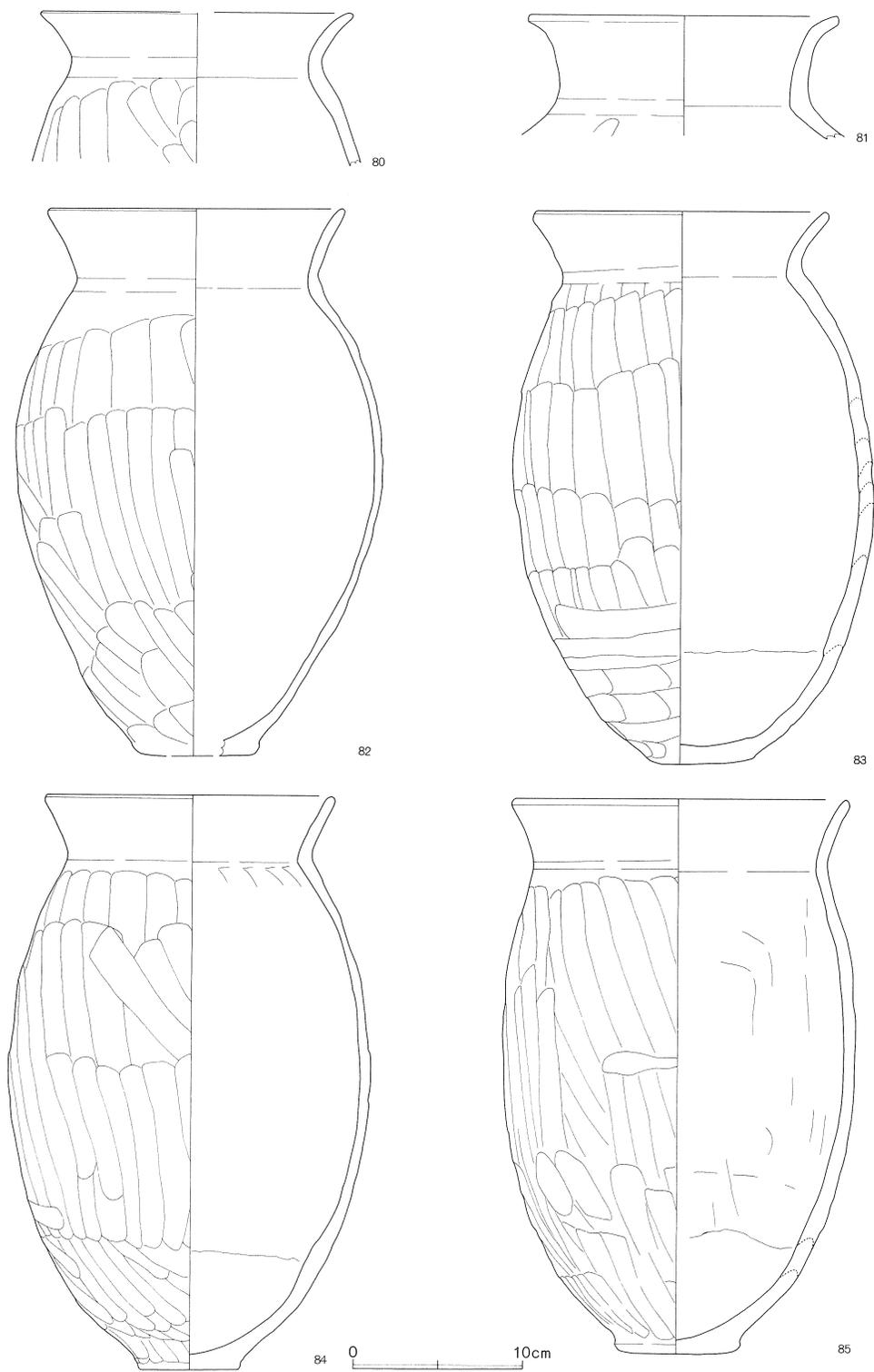
78



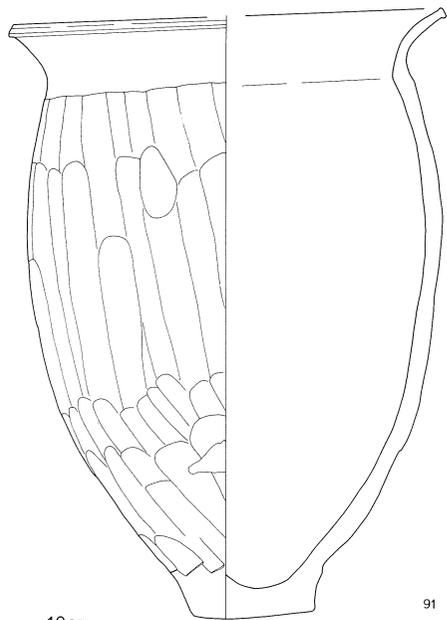
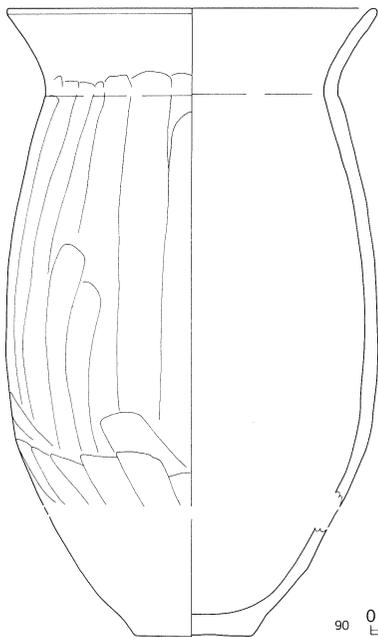
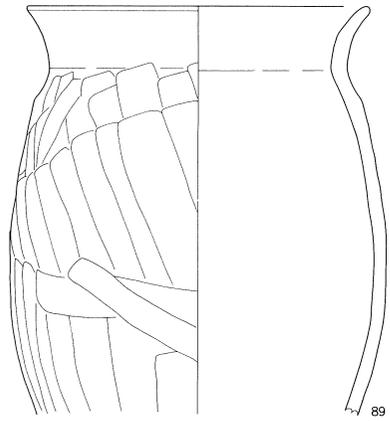
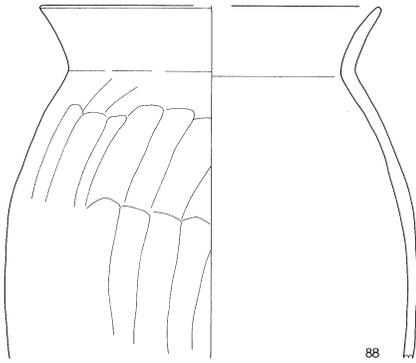
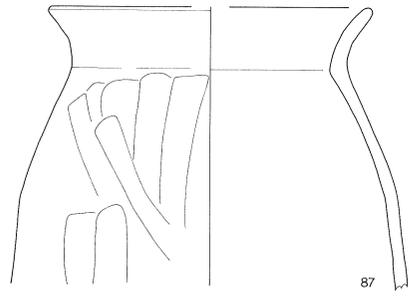
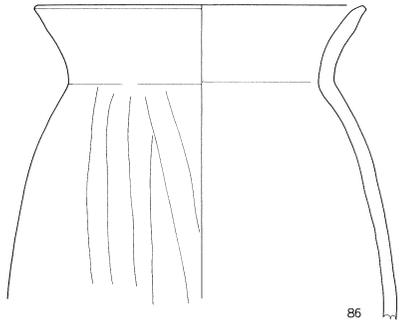
79

0 10cm

第177図 第12号住居跡出土遺物(6)

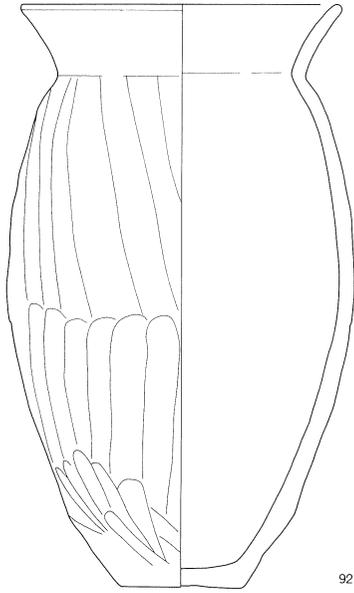


第178图 第12号住居跡出土遺物(7)

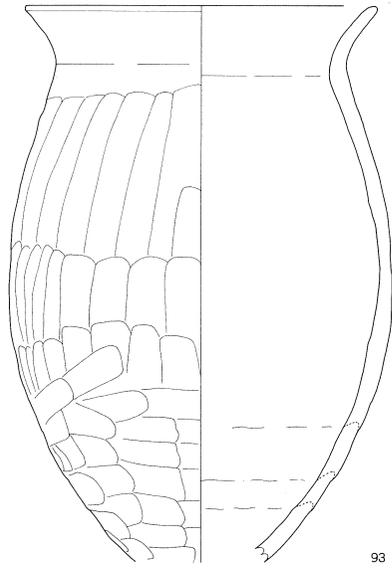


90 0 10cm

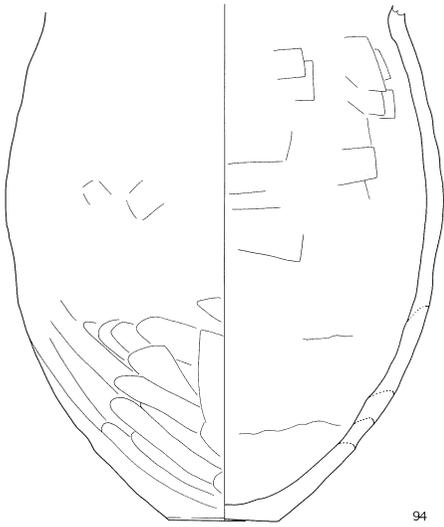
第179图 第12号住居跡出土遺物(8)



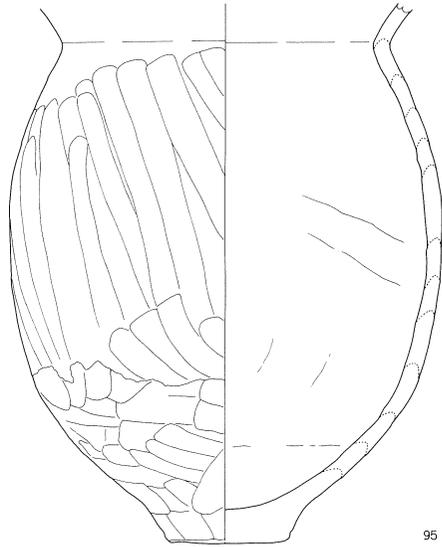
92



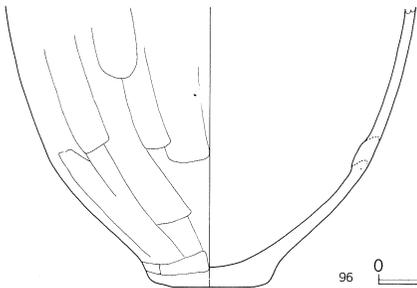
93



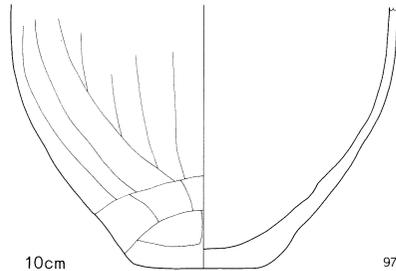
94



95



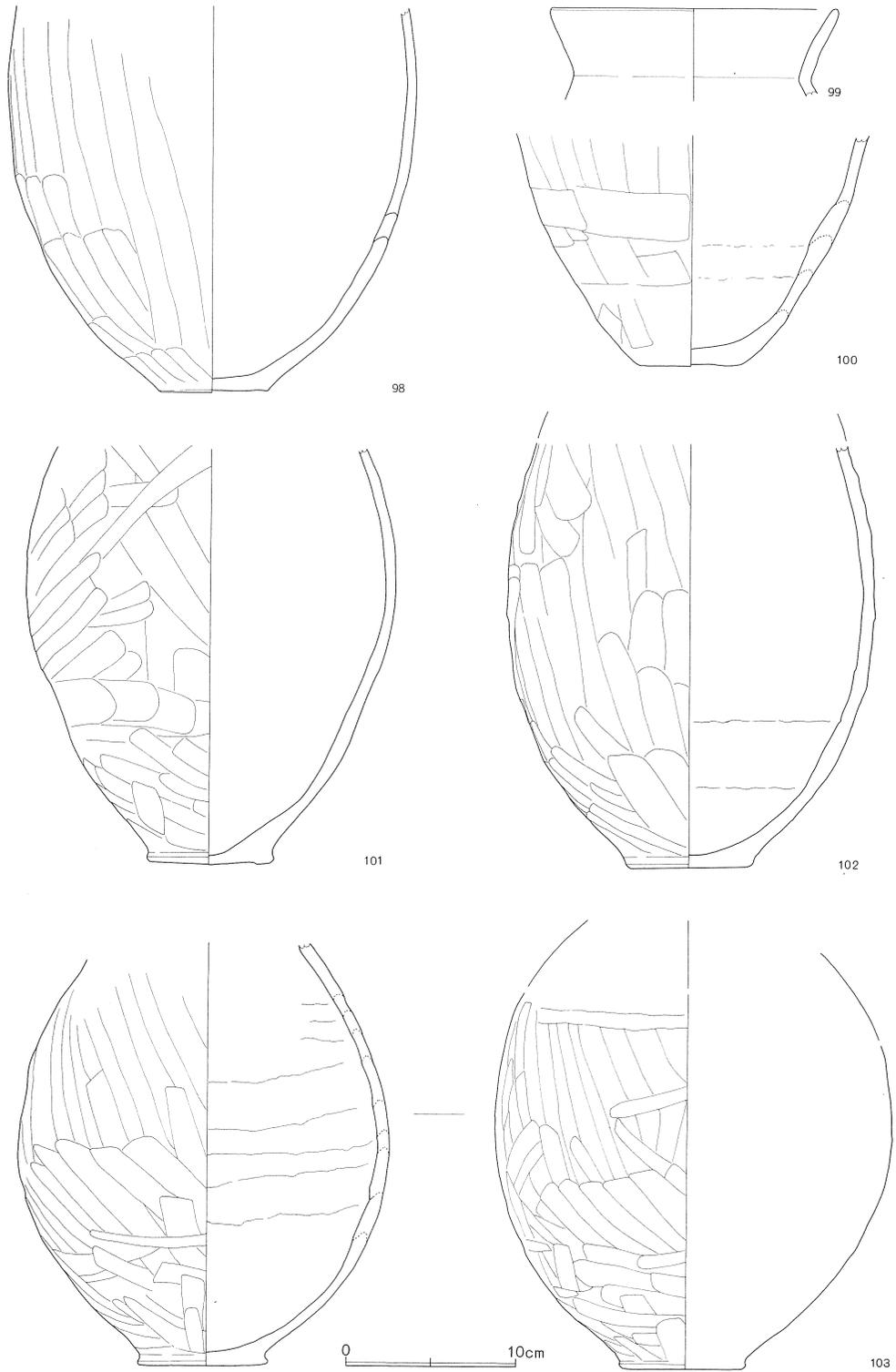
96



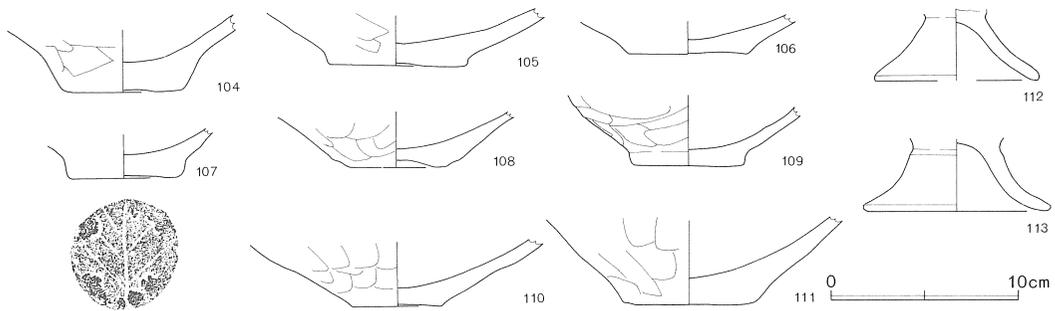
97



第180图 第12号住居跡出土遺物(9)



第181图 第12号住居跡出土遺物(10)



第182図 第12号住居跡出土遺物(11)

第12号住居跡 (第172~182図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口10.8 高5.0	R+W'	橙	100	No.5・カマド。
2	坏	口(12.2)	R+W'	橙～浅黄橙	40	No.20。内面に黒色の付着物 外面に黒色部分
3	坏	口(12.0)	B+R	黄橙～にふい黄橙	30	
4	坏	口(10.0)	B	橙	15	
5	坏	口(12.1)	B+R	(内)橙 (外)にふい橙～浅黄橙	30	
6	坏	口(12.2) 高5.1	R+W	(内)橙 (外)橙～黄橙	40	外面に黒色部分
7	坏	口(6.3) 高6.0	B+W'	橙～浅黄橙	60	カマド。外面に黒色部分
8	坏	口(17.0)	B+R多	橙～浅黄橙	30	風化 内外面にうすい黒色部分
9	坏	口(12.2)	R+W	橙～明赤褐	40	
10	坏	口12.6 高5.2	B+W	(内)浅黄橙 (外)橙～浅黄橙	50	No.13。
11	坏	口(14.0)	B+W	(内)にふい橙 (外)淡橙～明赤橙	20	内外面に黒色部分
12	坏	口(12.6)	R+W	(内)橙 (外)明赤褐	40	内外面に黒色部分
13	坏	口(12.8)	B+R多	(内)橙～黄橙 (外)橙	30	
14	坏	口(12.2)	W	明赤褐	20	
15	坏	口(16.0)	B+W' 多	(内)橙～淡橙 (外)橙	20	内外面に黒色部分
16	坏	口(14.2)	W'	橙	20	外面と口縁部黒色部分
17	坏	口14.9 高6.5	W+W'	橙	90	No.83。
18	坏	口14.0 高5.7	R多	(内)橙 (外)橙～浅黄橙	80	No.2。外面に黒色部分
19	坏	口(14.2)	B+W	(内)橙～明赤褐 (外)橙	40	No.69。内外面に黒色部分
20	坏	口(14.2)	B	橙～にふい橙	15	内外面に黒色部分
21	坏	口(14.2)	B+R	黄橙～浅黄橙	20	内外面に黒色部分

22	坏	口(16.0)	B+R多	(内)浅黄橙～にふ い橙 (外)橙	15	外面に黒色部分
23	坏	口(15.8)	R	橙～黄橙	30	
24	碗	口(12.2)	R+W'	(内)橙 (外)橙～浅黄橙	40	外面に黒色部分
25	碗	口(11.2)	W	(内)橙～明赤橙 (外)橙～にふい橙	20	
26	碗	口9.3 高5.6	R+W'	(内)橙 (外)橙～浅黄橙	100	No.16。外面に黒色部分
27	碗	口14.0 高6.8	B+W+W'	橙～黄橙	100	No.12。外面に黒色部分
28	碗	口12.2 高6.7	W多+W'	橙～にふい橙	95	焼成後穿孔 外面に黒色部分
29	碗	口(13.8)	R+W'	黄橙～浅黄橙	75	No.26。外面に黒色部分
30	碗	口14.4 底4.4 高5.7	R+W多+W'	(内)橙～にふい橙 (外)橙～にふい橙	90	No.13。外面に黒色部分
31	坏	口(7.0)	B+W'	橙	20	風化
32	坏	口(15.0)	R+W	橙	30	No.10。
33	碗	口(14.6) 底1.8 高7.1	R多+W+砂	橙～明赤褐	60	底部ケズリ 外面に黒色部分
34	碗	口14.5 底3.2 高6.0	R+W+W'	赤橙	90	底部ケズリ
35	碗	口14.8 底3.8 高4.8	B+W' +砂	橙～明赤褐	95	No.84。底部ケズリ 外面に黒色部分
36	碗	底(3.0)	B	明赤褐	20	底部ケズリ 内外面に黒色部分
37	碗	底4.5	W'	(内)橙 (外)赤褐	50	No.55。底部ケズリ 内外面に黒色部分
38	碗	底(3.0)	W+W'	にふい橙	底部 30	底部ケズリ
39	碗	底(3.4)	B+R	(内)明赤褐 (外)橙	底部 30	底部ケズリ 風化 内外面にうすい黒色部分
40	甕	底4.2	R	(内)橙～灰褐 (外)橙	底部 50	底部ケズリ 風化
41	鉢	口(17.6) 底3.2 高4.9	W	橙～赤褐	25	風化が著しい
42	碗	口(9.0) 底2.8 高5.5	R+W'	橙～浅黄橙	40	底部内外面に黒色部分
43	ミニチュ ア		W+W'	(内)橙 (外)橙～赤褐	70	No.4。内外面に黒色部分多い
44	ミニチュ ア	口6.0 高4.4	B+R	橙～浅黄橙	100	No.1。焼成前2孔1対 外面に黒色部分
45	高坏	口(16.6) 脚13.2 高15.7	R多+W多+W'	橙	70	No.54。
46	高坏	口16.2 脚(10.0) 高13.0	R多+W	橙～明赤褐	80	No.3。坏部外面に黒色部分
47	高坏	口15.7 脚(12.8) 高12.5	R多+W+W'	橙～黄橙	85	No.1・2・3・4・5・カマドB。坏部内面に黒色の付着物
48	高坏	口16.9	W+W' 多	橙～赤褐	坏部 100	No.5。内外面に黒色部分
49	高坏	口(17.2)	R多+W	橙	坏部 25	No.33。
50	高坏	口(17.8)	R多+W'	橙～にふい橙	口縁 15	No.68。内外面に黒色部分
51	高坏	脚11.6	B+W'	橙	脚部 70	No.9。内外面に黒色部分

52	高坏	胴16.0	B+R	橙～明赤褐	坏部 30	放射状の沈線
53	高坏	胴14.4	R	橙～黄橙	坏部 10	風化
54	高坏	脚(12.4)	W+W'	橙～にふい橙	脚部 30	
55	壺		B多+R多	橙	胴部 100	No.83。底部外面に黒色部分
56	小型甕		B+W多+W'	(内)橙～赤橙 (外)明赤橙～赤橙	胴部 25	
57	壺	底(8.8)	R多+W+W'	橙	胴部 70	No.47。底部ケズリ 部分的に剥離 胴部下半に黒色部分
58	壺	口19.1 底6.5 高27.3 胴25.8	B+R多	橙	70	No.41。底部ケズリ 胴部下半に黒色部分
59	壺	口17.8	B+W' 多	橙	口縁 70	No.50。
60	壺	底8.5	B+R多	橙～浅黄橙	胴部 70	No.1・カマド'。底部ケズリ 外面に黒色部分
61	壺	口13.2	B多+W多+砂	(内)橙～にふい橙 (外)橙～浅黄橙	口縁 100	内外面にうすい黒色部分
62	壺	口(20.8) 底(5.0) 高31.1 胴32.4	B+R多	橙	80	No.48・52。底部剥離 胴部外面下半に黒色部分
63	甕	口23.3 底7.0 高31.2 胴26.2	B+W多+砂	橙	90	No.35。底部ケズリ 内面黒色 胴部外面下半に黒色部分が帯状に回る
64	甕	口20.4 底7.1 高30.5 胴26.1	B+R+砂	浅黄橙～明褐灰	90	No.22・81。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
65	甕	口24.6 胴27.5	B+R+砂	橙～浅黄橙	上半部 60	No.31。胴部内外面に黒色部分
66	甕	口21.0 胴25.0	B多+R+W多+砂多	橙～浅黄橙	上半部 80	No.6・カマド' B。内外面にうすい黒色部分
67	壺	胴(42.8)	B多+W+砂	橙～浅黄橙	胴部 40	No.24・25。内外面に黒色部分
68	甕	口22.4 底7.0 高28.5 胴25.5	B+R+W多	橙～にふい橙	80	No.32・36。底部ケズリ 内外面に黒色部分 粘土紐積み上げ痕
69	甕	口20.0 底6.4 高28.1 胴25.4	B+W	橙	95	No.37・39。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
70	甕	口(30.2)	B多+R+W'	(内)にふい橙～褐灰 (外)橙～にふい	口縁 20	
71	甕	口(26.5) 底6.7 高32.0 胴30.2	B+R+砂	橙～にふい橙	80	No.53・54。底部ケズリ 器面粗 内外面に黒色部分
72	甕	口18.0 胴23.1	R+W+砂多	橙～浅黄橙	上半部 60	No.54。胴部外面に黒色部分
73	甕	口17.1 底7.3 高27.6 胴22.0	B多+W多+砂多	橙～黄橙	100	No.23。底部ケズリ 内外面に黒色部分
74	甕	口(20.2)	B+砂	(内)にふい橙～黄橙 (外)橙～にふい橙	上半部 40	No.52。内外面に黒色部分
75	甕	口(18.2)	B+W+砂多	橙	上半部 30	風化
76	甕	口19.7 底6.8 高29.1 胴20.0	B多+R多+砂	浅黄橙～明赤褐	90	No.40。底部ケズリ 胴部外面下半に黒色部分が帯状に廻る
77	甕	口18.5 底6.3 高29.4 胴20.6	B+W+砂	橙	70	No.18。底部ケズリ 胴部・底部黒色
78	甕	口18.1 底5.8 高32.5 胴20.4	B多+砂	橙～浅黄橙	90	No.38。製作時の基台未調整 胴部外面下半に黒色部分が帯状に廻る
79	甕	口19.0 底5.6 高30.2 胴21.5	B多+R+砂	にふい橙～浅黄橙	80	No.49・51。底部ケズリ 内外面に黒色部分 胴部外面下半に黒色部分が帯状に廻る
80	甕	口(18.4)	B多+砂多	橙	上半部 30	器面粗
81	甕	口18.2	B+R多	橙～淡橙	口縁 50	内外面にうすい黒色部分

82	甕	口17.5 底(7.1) 高32.1 胴21.5	B+R	(内)にふい橙 (外)浅黄橙	70	No.45・46。底部ケズリ 胴部外面黒色
83	甕	口17.4 底5.9 高32.5 胴21.1	R多+W	橙～明赤褐	90	No.34。底部ケズリ 風化 胴部外面下半に黒色部分が帯状に廻る
84	甕	口17.1 底5.8 高33.8 胴21.3	B+W+砂	橙～にふい橙	85	No.30。底部ケズリ 胴部外面下半に黒色部分
85	甕	口19.9 底7.4 高32.6 胴20.6	B多+R	(内)浅黄橙 (外)にふい橙	70	No.2・3・カマド。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
86	甕	口17.8	B多+R+砂	橙～にふい橙	上半部 50	No.47・79。
87	甕	口(17.4)	B+R多+砂	(内)浅黄橙～褐灰 (外)浅黄橙～にふい橙	上半部 30	内外面に黒色部分
88	甕	口(18.4) 胴(22.2)	R多+W	橙～明赤褐	上半部 30	
89	甕	口18.4 胴20.1	B多+R+W多+砂多	橙～浅黄橙	上半部 60	No.43。胴部外面に黒色部分
90	甕	口19.6 底6.2 胴20.0	B多+R+W' 多	(内)にふい橙～浅黄橙 (外)にふい橙～灰白	70	No.4・カマド。底部ケズリ 内外面に黒色部分
91	甕	口(23.4) 底6.5 高32.0	B多+砂	橙	50	No.47・48。製作時の基台未調整 外面が全体的にうすい黒色
92	甕	口17.1 底6.6 高31.1 胴18.5	B+W'	(内)明赤褐 (外)橙～にふい橙	80	No.44。底部ケズリ 内外面に黒色部分
93	甕	口18.8 胴20.4	R+W多+砂	浅黄橙	70	No.29。胴部外面に黒色部分 粘土紐積み上げ痕
94	甕	底6.0	R多+W+W'	橙～にふい橙	胴部 50	No.43・47。底部ケズリ 胴部外面下半黒色
95	甕	底6.6	B+砂	橙	70	No.29。底部ケズリ 胴部外面下半黒色
96	甕	底3.6	B多+W'+砂	橙	下半部 70	底部ケズリ 内外面に黒色部分
97	甕	底7.4	B+砂	(内)にふい橙 (外)浅黄橙	下半部 60	No.54。底部ケズリ 内面風化 内外面に黒色部分
98	甕	底(6.4)	B+W'+砂多	浅黄橙	下半部 40	No.28。底部ケズリ 胴部外面うすい黒色
99	甕	口17.0	W多+W'+砂	橙～浅黄橙	口縁 70	風化
100	甕	底6.2	B多+砂	にふい橙～浅黄橙	下半部 60	底部ケズリ 外面に黒色部分
101	甕	底7.4	B+W	橙	下半部 60	底部ケズリ 内外面に黒色部分
102	甕	底7.5	B+R+W+砂	橙～黄橙	胴部 80	No.34・44。底部ケズリ 胴部外面下半黒色 粘土紐積み上げ痕
103	甕	底7.6	B	浅黄橙	胴部 90	No.27。底部ケズリ 胴部断面橢円形 胴部外面下半黒色 粘土紐積み上げ痕
104	甕	底6.4	B多+砂	橙～浅黄橙	底部 70	底部ケズリ 外面に黒色部分
105	甕	底7.4	R多+W多	(内)明褐灰 (外)橙～にふい橙	底部 75	底部ケズリ 外面に黒色部分
106	甕	底(6.4)	W+W'	(内)褐灰 (外)橙	底部 30	底部ケズリ 風化
107	甕	底6.1	W多+砂	(内)浅黄橙 (外)橙～黄橙	底部 100	底部木葉痕 風化
108	甕	底5.2	B+W+砂多	橙～浅黄橙	底部 70	底部ケズリ 外面に黒色部分
109	甕	底6.0	R+W+W' 多	橙～明赤褐	底部 100	No.7・カマドB。底部ケズリ 外面に黒色部分
110	甕	底(8.8)	B+R	(内)明赤褐 (外)にふい黄橙	底部 25	底部ケズリ
111	甕	底7.0	B+W	明赤褐～橙	底部 80	底部ケズリ 外面に黒色部分

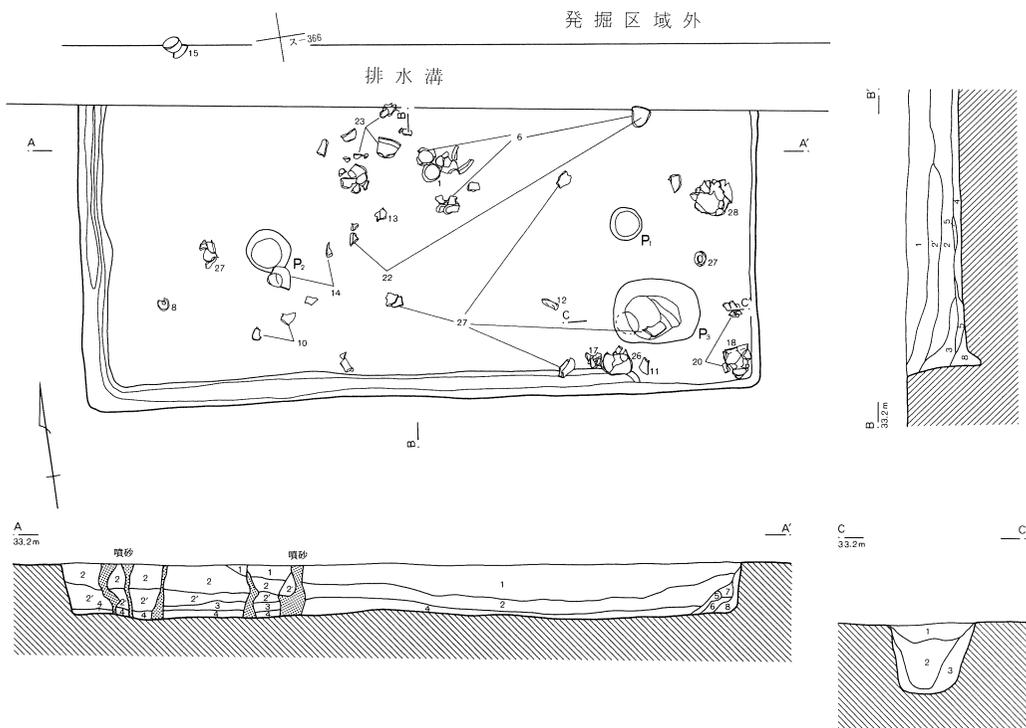
112	台付甕	台(8.9)	B+R	橙～浅黄橙	脚部 60	風化
113	台付甕	台10.0	B+R	橙～にふい橙	脚部 90	No.19. 風化

において第12A号住居跡は第12B号住居跡が拡張されたものと判断した。カマドBが煙道部のみ確認されていることから傍証されよう。床面は深い第12B号住居跡を埋めて、第12A号住居跡の床面を形成している。第12A号住居跡の規模は、主軸辺5.39m・長辺5.64m、深さ0.57m、第12B号住居跡は主軸辺4.03m・長辺4.44m、深さ0.72mで、主軸方位はN-84°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝・貯蔵穴は検出されていない。カマドAは煙道部先端が発掘区域外にかかり、現存長1.98m、焚き口幅0.41mを測る。袖部は地山を掘り残して形成されている。燃烧部は方形を呈し、摺り鉢状に掘り窪められている。カマドBは煙道部と燃烧部の一部が確認され、焚き口幅は0.48mを測る。覆土は第12A号住居跡堆積層に流れ込んでいる。遺物は南西コーナー部付近に集中し、拡張前後の2段階に分類される土器が混在して出土している。

第13号住居跡は大部分が発掘区域外にかかり、また第12号住居跡と重複している。そのため北東コーナー部が残存するのみで、深さは0.05mと浅い。壁溝が廻っていることから、辛うじて住居跡として確認できた。壁溝の規模は、幅0.12～0.17m、深さ0.06～0.11mを測る。カマドは構築されておらず、0.63×0.65m、深さ0.12mを測る炉跡が北東コーナー部付近に検出されている。ピットは2基確認されている。遺物は出土していない。



第183図 第9～13号住居跡近景

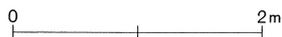


第14号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・ローム・砂粒子含む。しまり強、粘性弱。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子、木炭片極多量含む。しまりやや弱、粘性弱。
- 2' 暗褐色土 やや暗い。焼土・炭化物粒子多く含む。
- 2'' 暗褐色土 やや明るい。焼土・炭化物粒子多く含む。
- 3 茶褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまり弱。
- 4 黄褐色土 若干の炭化物粒子含む。しまりあり、粘性強。
- 5 赤褐色土 焼土主体。炭化材混入。しまりややあり。
- 6 黄褐色土 7よりローム粒子やや多く含む。
- 7 茶褐色土 若干の焼土・炭化物粒子含む。しまり・粘性あり。
- 8 黄褐色土 二次堆積ローム主体。しまり・粘性強。

第14号住居跡ピット3

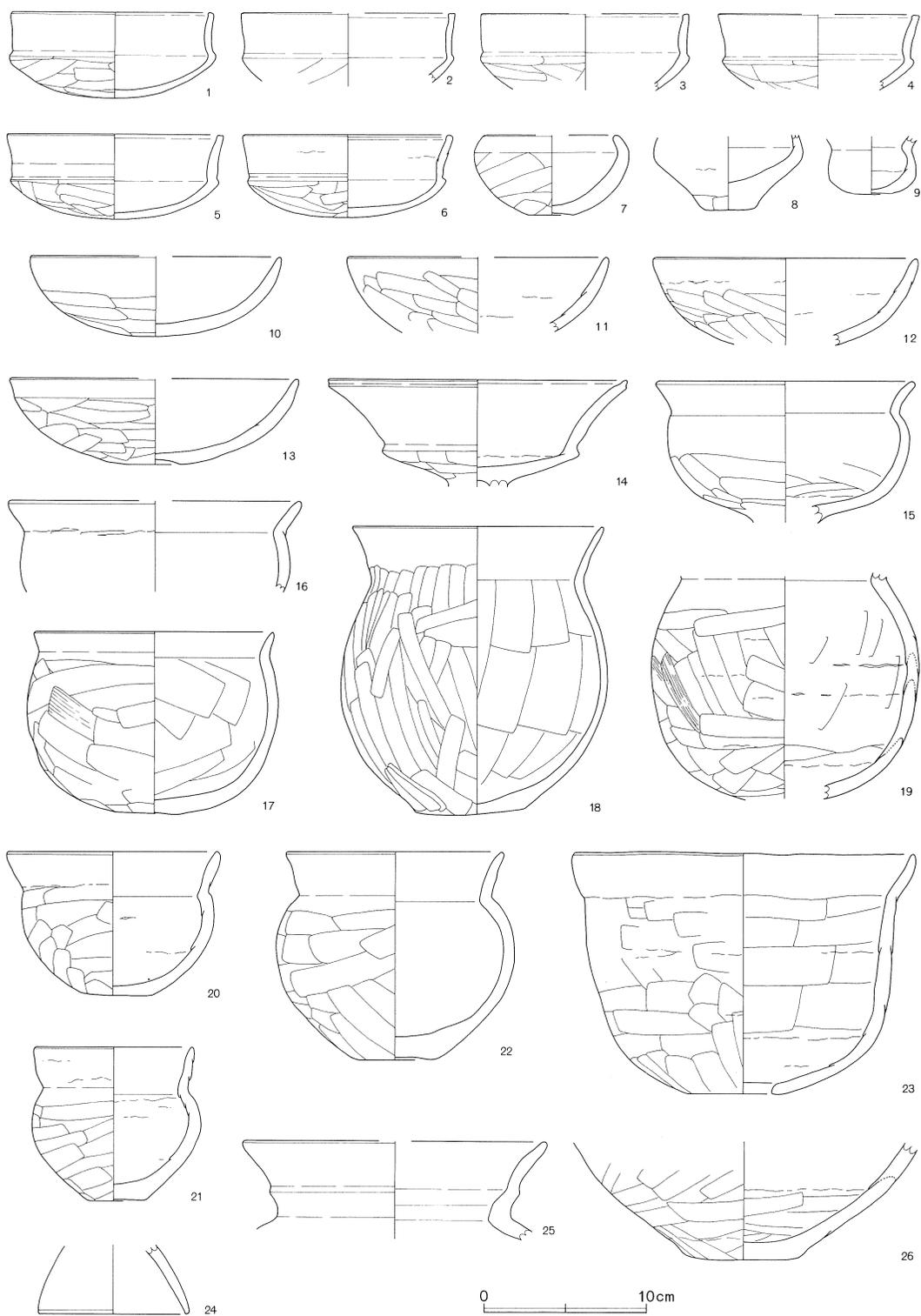
- 1 褐色土 炭化物、灰色砂粒含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 灰色砂粒若干含む。しまりあり。
- 3 褐色土 灰色砂粒多く含む。しまりあり。



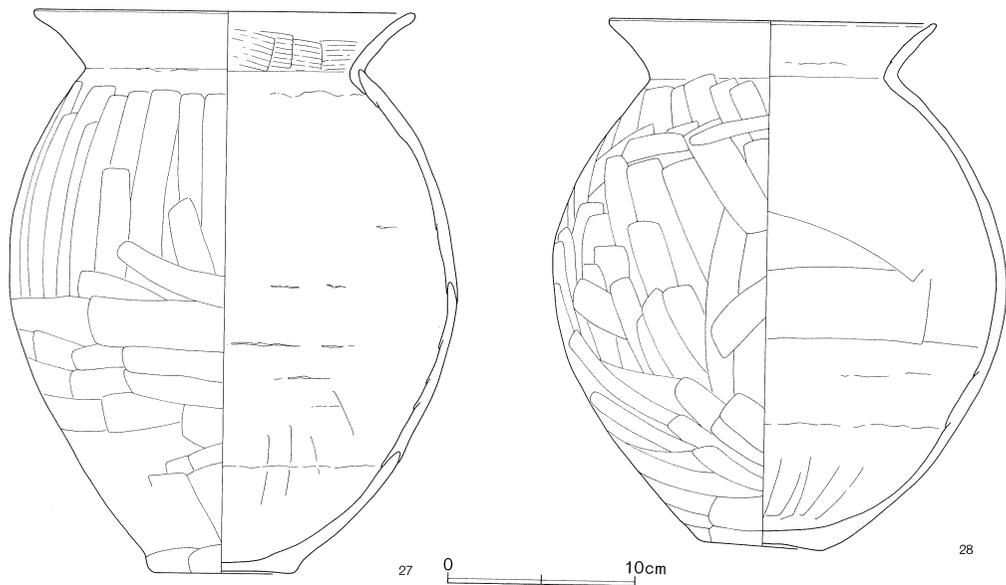
第184図 第14号住居跡

第14号住居跡 (第184図)

セー365・366Gridに位置し、北半部は発掘区域外にかかっている。噴砂の亀裂が入り込み、床面には若干の段差が生じている。東西5.45m、深さ0.36~0.46mの規模を有し、西壁はN-7°Eに向けている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は西壁・南壁に廻っている。壁溝の規模は、幅0.18~0.24m、深さ0.10mを測る。ピットは3基確認されている。カマド・貯蔵穴等の施設は検出されていない。床面直上に焼土・炭化物が存在していることから、火災住居跡の可能性もある。遺物は散在し、特に南東コーナー部からは甕形土器類がまとまって出土している。



第185图 第14号住居跡出土遺物(1)



第186図 第14号住居跡出土遺物(2)

第14号住居跡(第185・186図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.5 高5.3	B+R+W	橙	100	No.21。
2	坏	口(13.0)	R多+W	橙	20	
3	坏	口(12.6)	R	橙	30	
4	坏	口(12.4)	R	橙~にふい赤褐	20	
5	坏	口13.2 高5.2	R多+W	橙	70	
6	坏	口13.0 高5.0	R多+W	橙	90	No.20・23・36。内面風化
7	ミニチュア	口(8.2) 底2.6 高4.9	R多+W	橙	30	
8	ミニチュア	底3.2	R+W	橙	下半部 60	No.1。外面風化
9	ミニチュア	底(2.2)	B+R+W	(内)橙(外)明黄褐	30	外面風化
10	坏	口(15.2) 高5.0	R	橙	20	No.3・4。内面風化
11	坏	口(16.0)	R多+W'	橙	20	No.30。内面風化
12	坏	口16.0	R多+W	橙~にふい橙	40	No.26。
13	坏	口(17.8) 底3.2 高5.3	R多+W	橙	20	No.12。内面風化
14	高坏	口18.4	R多+W	橙	坏部 80	No.5・8。内面風化
15	高坏	口15.8	B+R多+W	橙	坏部 90	No.38。内面風化
16	碗	口(18.0)	R	橙	口縁 30	No.11。風化

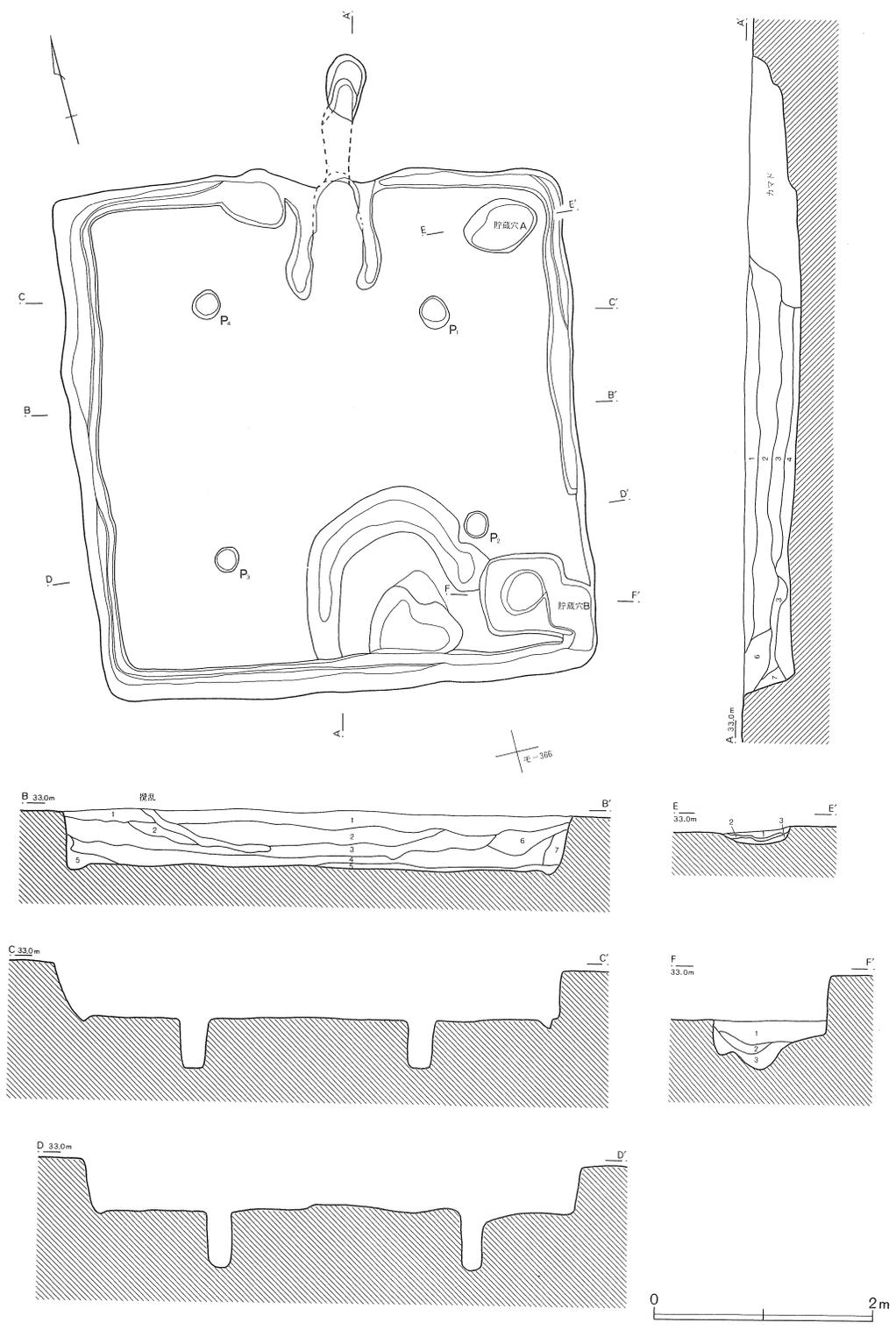
17	椀	口14.8 底3.5 高11.1 胴15.4	B+R+W	橙	80	No.28.底部ケズリ
18	小型甕	口15.4 底6.8 高17.6 胴16.4	砂	橙～浅黄橙	80	No.31.底部ケズリ
19	小型壺	胴(16.4)	R+W	橙	胴部 40	粘土紐積み上げ痕
20	小型甕	口13.0 底4.2 高8.8	R多+W	橙	80	No.32・37.底部ケズリ
21	小型甕	口10.0 底3.3 高9.4 胴10.4	R多+W	橙	80	底部ケズリ
22	小型甕	口13.4 底4.6 高12.7 胴14.7	R	にふい橙	60	No.36.底部ケズリ 内面風化
23	甕	口21.0 底5.2 高14.7	R多+W	橙	70	No.15・16・17.粘土紐積み上げ痕
24	台付甕	台9.2	R	橙	脚部 70	風化
25	壺	口(18.6)	R多+W	橙	口縁 20	
26	壺	底7.2	R+W+砂	にふい橙	底部 80	No.29.底部ケズリ
27	甕	口20.4 底7.8 高29.9 胴24.0	R多+砂	橙～浅黄橙	70	No.2・10・25・27・33・39.底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕
28	甕	口17.4 底6.4 高27.8 胴24.2	B+R+W+W'	(内)橙 (外)にふい黄橙	80	No.34.底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕

#### 第15号住居跡 (第187・188・189図)

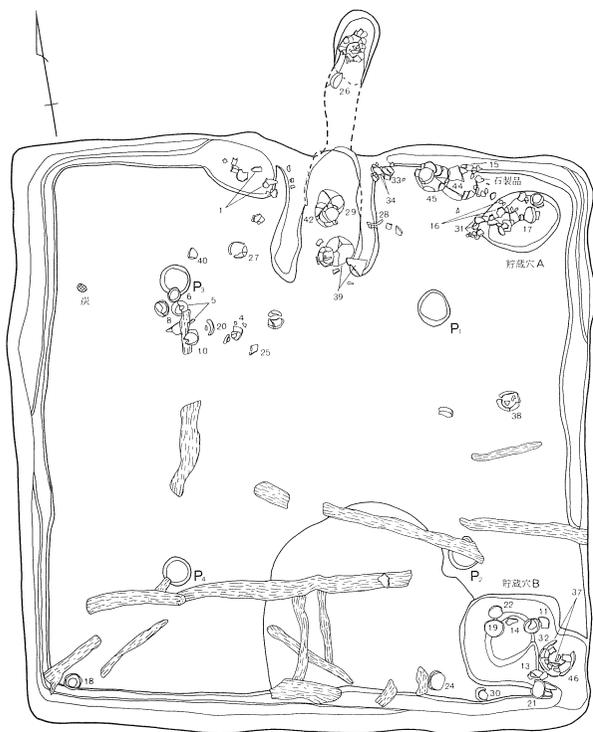
モ-365・366、セ-366Gridに位置し、南壁が第19号住居跡北西コーナー部と接している。床面には炭化材が散在していることから、焼失住居跡と考えられる。覆土にも焼土・炭化物が多量に含まれている。規模は主軸辺4.80m・短辺4.67m、深さ0.43～0.50mであり、主軸方位はN-9°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、幅0.10～0.37m、深さ0.02～0.03mの壁溝がほぼ全周している。カマドは北壁中央に構築され、全長2.26m、焚き口幅0.41mの規模をもっている。袖部は地山を掘り残して形成し、燃烧部は隅丸長方形を呈している。火床面はよく焼けており、平坦面から立ち上がって煙道部に続いている。煙道の天井部が一部残っており、高さは0.2～0.3m程度である。煙道部床面は煙出部に向かって緩やかな傾斜を上り、いったん立ち上がって煙出部に達している。煙出部分に土器が集中して検出されており、煙出口部に使用されていたものと思われる。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に位置している貯蔵穴Aと、南東コーナー部に位置している貯蔵穴Bの2基が確認されている。貯蔵穴Aは楕円形で、南北0.48m・東西0.67m、深さ0.16m、貯蔵穴Bは方形で、南北0.72m・東西1.05m、深さ0.48mを測る。4基のピットはすべて柱穴である。南西コーナー部には黄白色の粘土が3～4cmほど堆積し、炭化物・赤色粒子が多量に含まれている。貼床が全面に施されており、カマドに対向している南壁際は隆起している。位置から住居跡の入口部である可能性が高い。遺物はカマドおよび2基の貯蔵穴とその周辺部から出土している。

#### 第16号住居跡 (第194図)

ヒ-364・モ-364・365Gridに位置している。第17・18号住居跡と重複し、新旧関係は第17・18号住居跡よりも新しい。北東コーナー部は調査時に排水溝によって壊されている。規模は主軸辺5.75m・短辺4.11m、深さ0.18～0.23mで、主軸方位はN-116°-Eを測る。壁はやや傾斜をもつ



第187図 第15号住居跡(1)



第15号住居跡

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。砂粒混入。しまりあり、粘性弱。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。砂粒混入。しまりあり、粘性弱。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多量に含む。しまり・粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 炭化物粒子、炭化物多く、焼土粒子若干含む。しまりあり、粘性強。
- 5 黄褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。ローム粒子混入。しまりあり、粘性強。
- 6 褐色土 3類似。ローム土粒子若干含む。しまりあり、粘性ややあり。
- 7 黄褐色土 ローム粒子含む。しまりあり、粘性強。

第15号住居跡貯蔵穴A

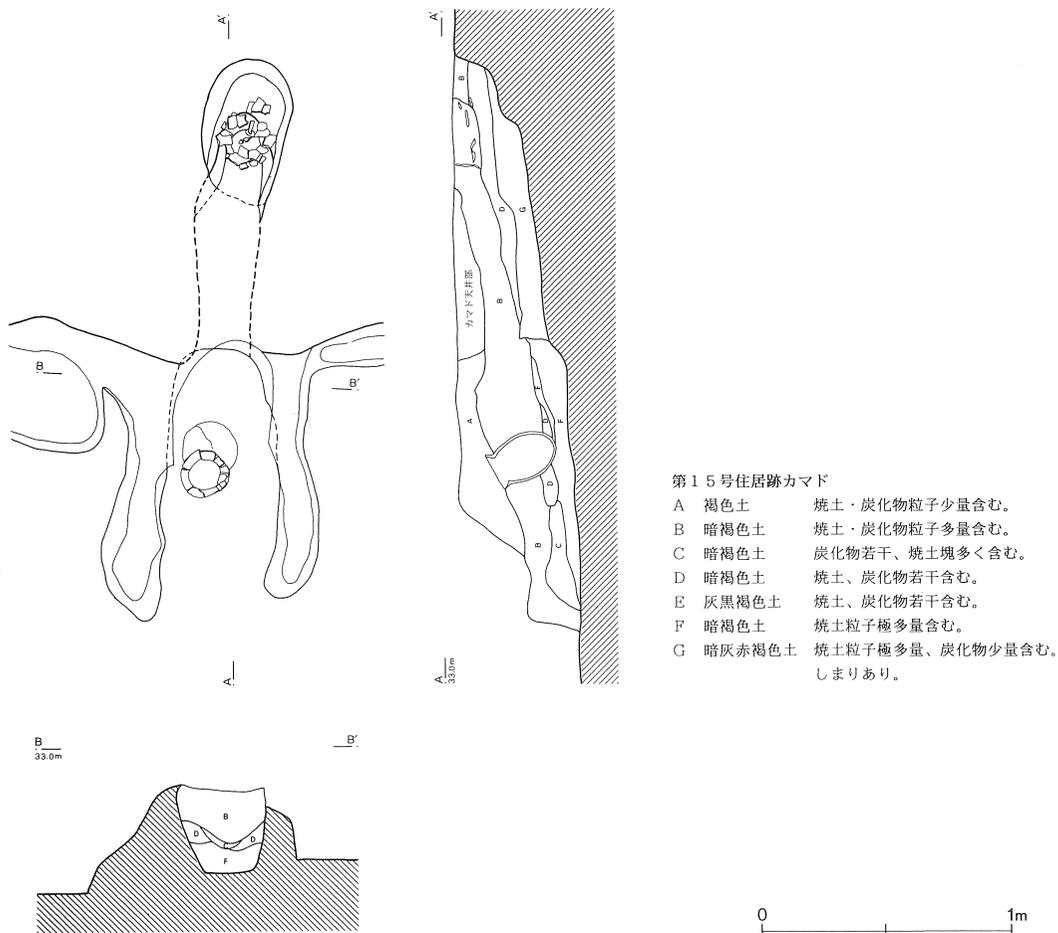
- 1 褐色土 灰色砂粒子多く、焼土粒子、炭化物含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 灰色砂粒子若干、焼土粒子、炭化物含む。しまりあり。
- 3 灰褐色土 灰色砂粒子多く、炭化物含む。軟質。

第15号住居跡貯蔵穴B

- 1 褐色土 若干の灰色砂粒子、焼土・炭化物粒子微量含む。軟質。
- 2 褐色土 炭化物多く、焼土粒子若干含む。
- 3 暗黄褐色土 灰色砂・焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。



第188図 第15号住居跡(2)

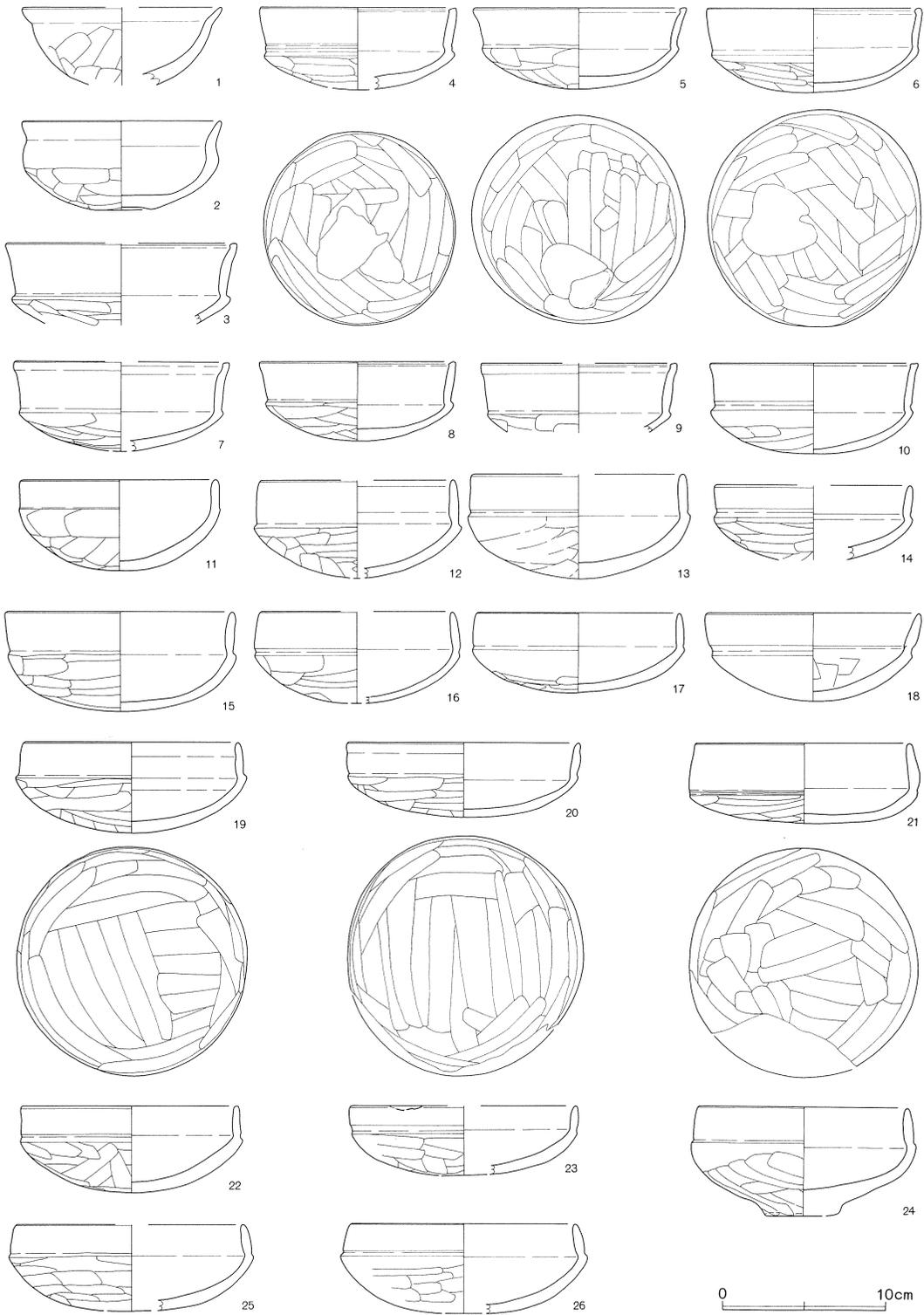


第189図 第15号住居跡(3)

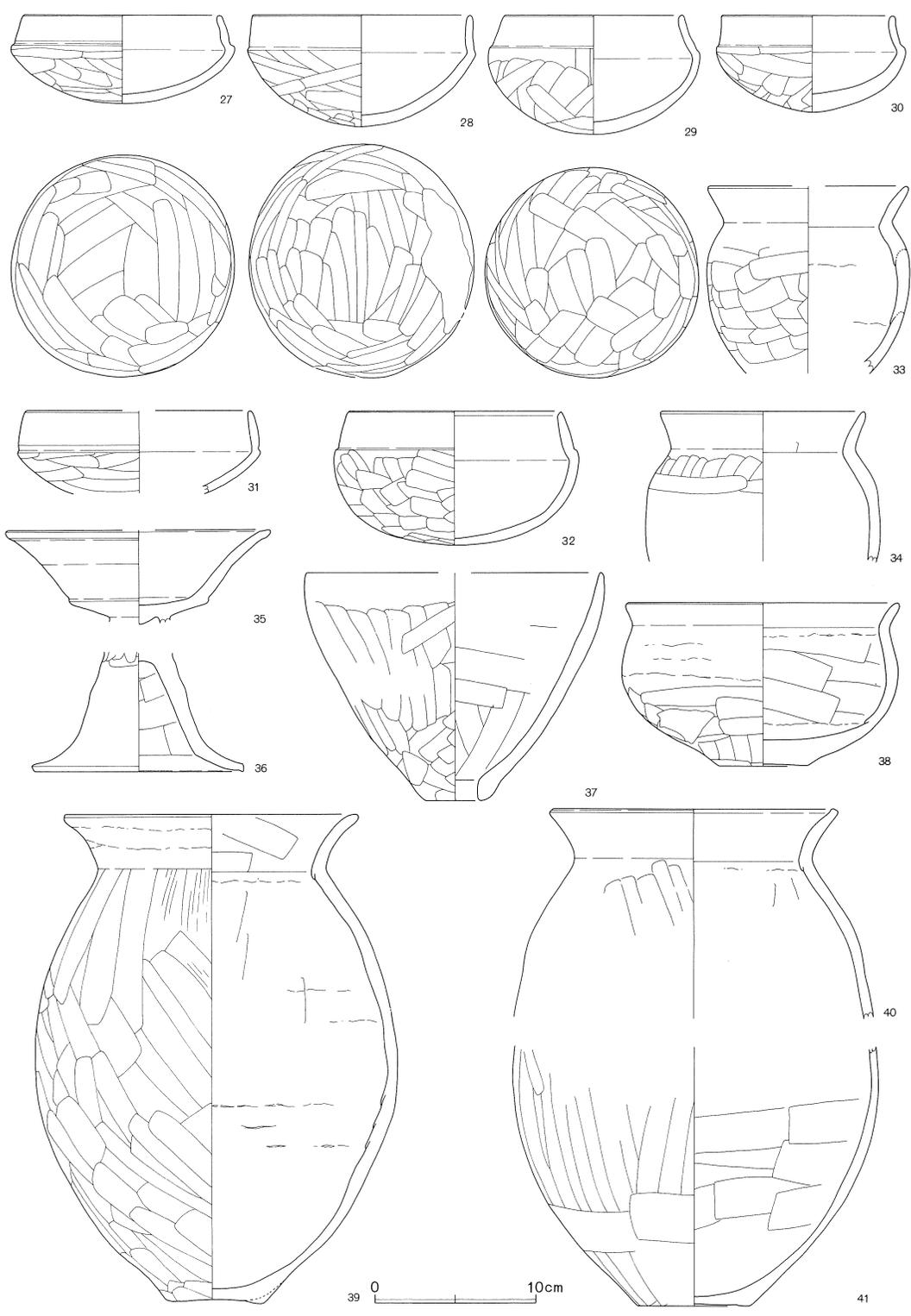
て立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは東壁南よりに構築され、全長0.92m、焚き口幅0.42mを測る。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は方形を呈している。また袖部先端にピットが検出されている。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に位置している。円形で、南北0.41m・東西0.39m、深さ0.26mの規模をもっている。柱穴は確認されていない。遺物は床面のほぼ全面から出土し、石製勾玉1点、石製白玉1点、編物石2点がある。また床面直上から炭化物が検出されている。

### 第17号住居跡 (第197図)

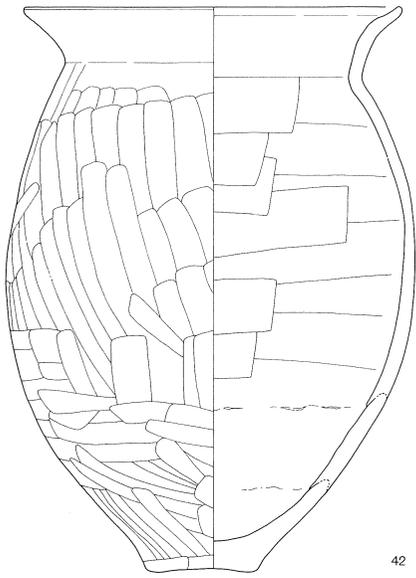
モー364・365Gridに位置している。第16・18号住居跡と重複し、新旧関係は第16号住居跡より古く、第18号住居跡より新しい。カマドは確認されていない。規模は東西4.62m・南北4.26m、深さ0.09~0.25mで、長軸辺の方位はN-95°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。貯蔵穴は南東コーナー部に位置している。南北0.83m・東西1.00m、深さ0.40mで、不整形を呈している。ピットは10基検出され、P1~P4が主柱穴である。南西コーナー部から南壁中央



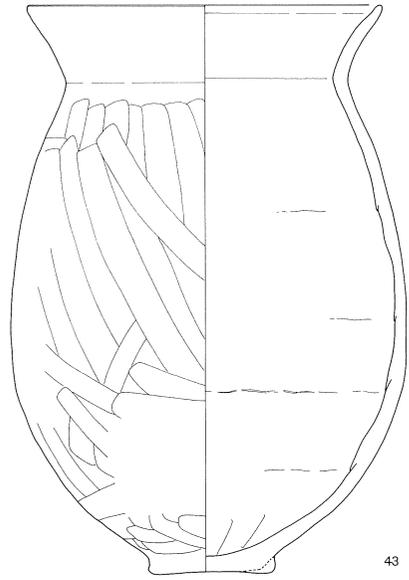
第190图 第15号住居跡出土遺物(1)



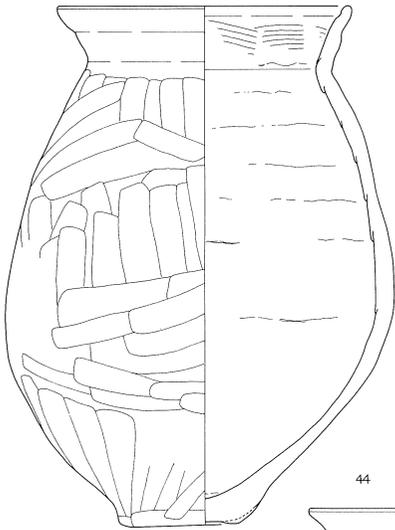
第191图 第15号住居跡出土遺物(2)



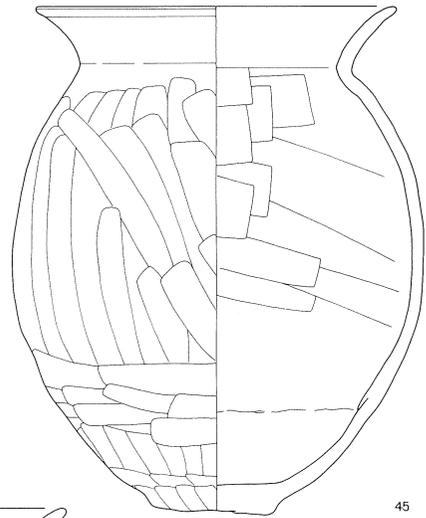
42



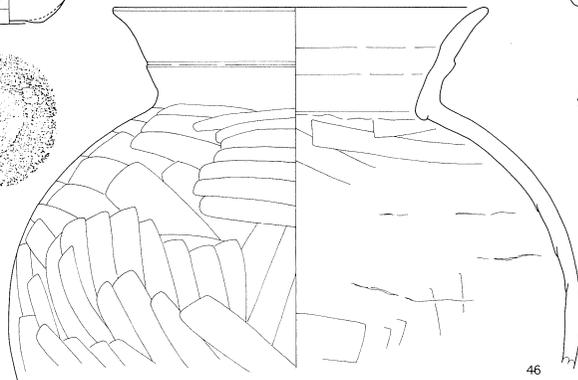
43



44



45



46



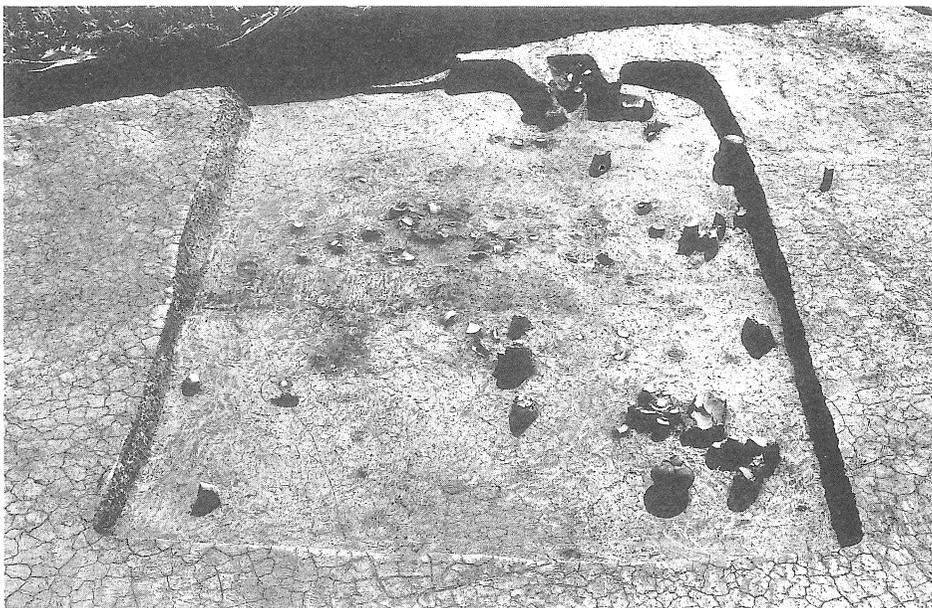
0 10cm

第192図 第15号住居跡出土遺物(3)

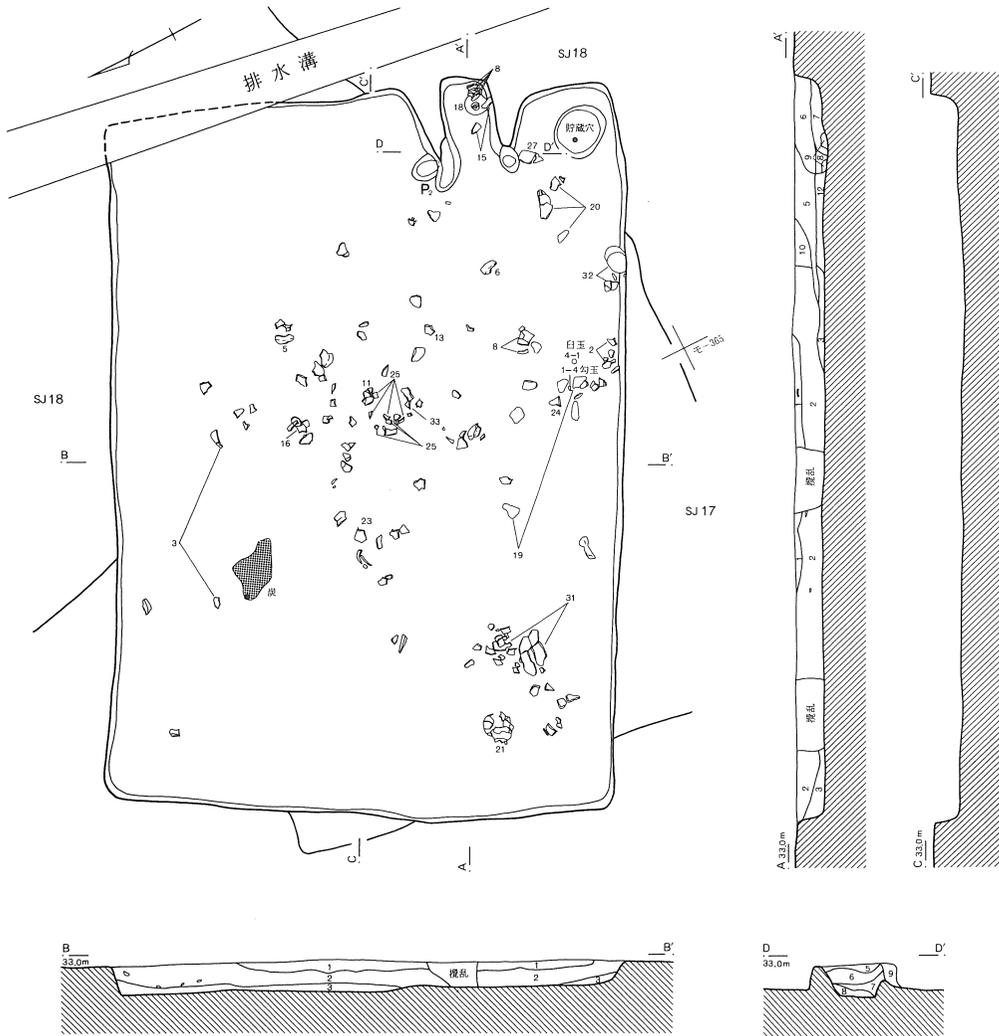
第15号住居跡(第190~192区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	碗	口(12.2)	R多+W	橙	30	No.45・46。内面風化
2	碗	口12.0 底3.5 高5.5	R多+W	橙	80	底部ケズリ
3	坏	口(14.0)	B	橙	20	
4	坏	口12.0	B+R+W	橙	80	No.32。
5	坏	口13.0 高5.0	B+R	橙~浅黄橙	90	No.35・37。
6	坏	口13.2 高5.2	R	橙	90	No.39。
7	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	40	
8	坏	口12.0 高4.9	B+R多	橙	100	No.38。
9	坏	口(12.0)	R+W	橙	30	
10	坏	口12.6 高5.5	B+R多	橙	90	No.34。
11	坏	口12.0 高5.6	B+W	にふい赤褐	50	No.50。
12	坏	口(11.8)	R	橙	30	No.84。
13	坏	口(13.0) 高6.4	R	橙	50	No.3。
14	坏	口(12.0)	R多+W	明赤褐	20	No.53。
15	坏	口14.0 高6.1	R	明赤褐	80	No.16。
16	坏	口(11.8)	R多+W	橙	40	No.64・65・68。
17	坏	口12.4 高4.8	R	橙~にふい黄橙	90	No.57。風化
18	坏	口13.0 高5.4	R多+W	橙	100	No.9。風化
19	坏	口13.2 高5.5	R多+W	橙	100	No.55。
20	坏	口14.4 高4.6	B+R+W	橙	80	No.33。
21	坏	口13.2 高5.0	R多+W	橙	80	No.1。
22	坏	口13.4 高5.3	R+W	橙	80	No.54。
23	坏	口(14.0)	R	明赤褐	10	
24	碗	口12.6 底4.5 高6.7	R多+W	明赤褐	100	No.8。製作時の基台未調整
25	坏	口(14.0)	R	橙	20	No.30。内面風化
26	坏	口13.8	R多+W	明赤褐	50	No.92。
27	坏	口12.2 高5.5	R多+W	明赤褐	90	No.40。
28	坏	口13.5 高6.9	R多+W	明赤褐	90	No.23。
29	坏	口11.0 高7.4	R多+W	橙	100	No.90。

30	坏	口10.6 高11.0	R多+W	橙	60	No.2。
31	坏	口(13.8)	R	にふい赤褐	30	No.12・64・66。
32	椀	口13.2 高8.3	B+R多	橙	70	No.5。
33	小型甕	口(12.4)	R多+W	橙	20	No.76。内面風化
34	小型甕	口12.6	R	明赤褐	上半部 30	No.77・78。内面風化
35	高坏	口(16.4)	W	淡橙	坏部 60	
36	高坏	脚(13.0)	R多+W	橙	脚部 30	
37	甕	口(18.2) 底3.4 高14.1	W	橙～明赤褐	40	No.5・6。外面黒斑
38	鉢	口17.0 底5.6 高10.1	R+W	にふい赤褐	70	No.10。底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕
39	甕	口18.2 底6.0 高30.0 胴22.3	砂	橙	90	No.25・28。底部周辺に粘土貼付 胴部外面に黒斑 粘土紐積み上げ痕明瞭
40	甕	口17.8	R+砂多	浅黄橙	上半部 60	No.41。
41	甕	底7.0	R+砂多	橙	下半部 40	No.60・貯蔵穴B。底部周辺に粘土貼付
42	甕	口20.3 底5.8 高30.0 胴21.8	R多+W+砂	(内)浅黄橙 (外)橙～浅黄橙	90	No.82。底部ケズリ
43	甕	口19.0 底6.7 高30.3 胴21.0	砂	橙	40	底部周辺に粘土貼付 粘土紐積み上げ痕
44	甕	口15.6 底6.5 高27.6 胴20.6	砂	橙	80	No.17・貯蔵穴B。底部周辺に粘土貼付 胴部外面中位に黒色部分 粘土紐積み上げ痕明瞭
45	甕	口19.2 底6.5 高27.0 胴22.0	砂	にふい橙	90	No.18。底部周辺に粘土貼付
46	壺	口20.0 胴30.5	W	明赤褐	上半部 70	No.4。粘土紐積み上げ痕



第193図 第16号住居跡遺物出土状況

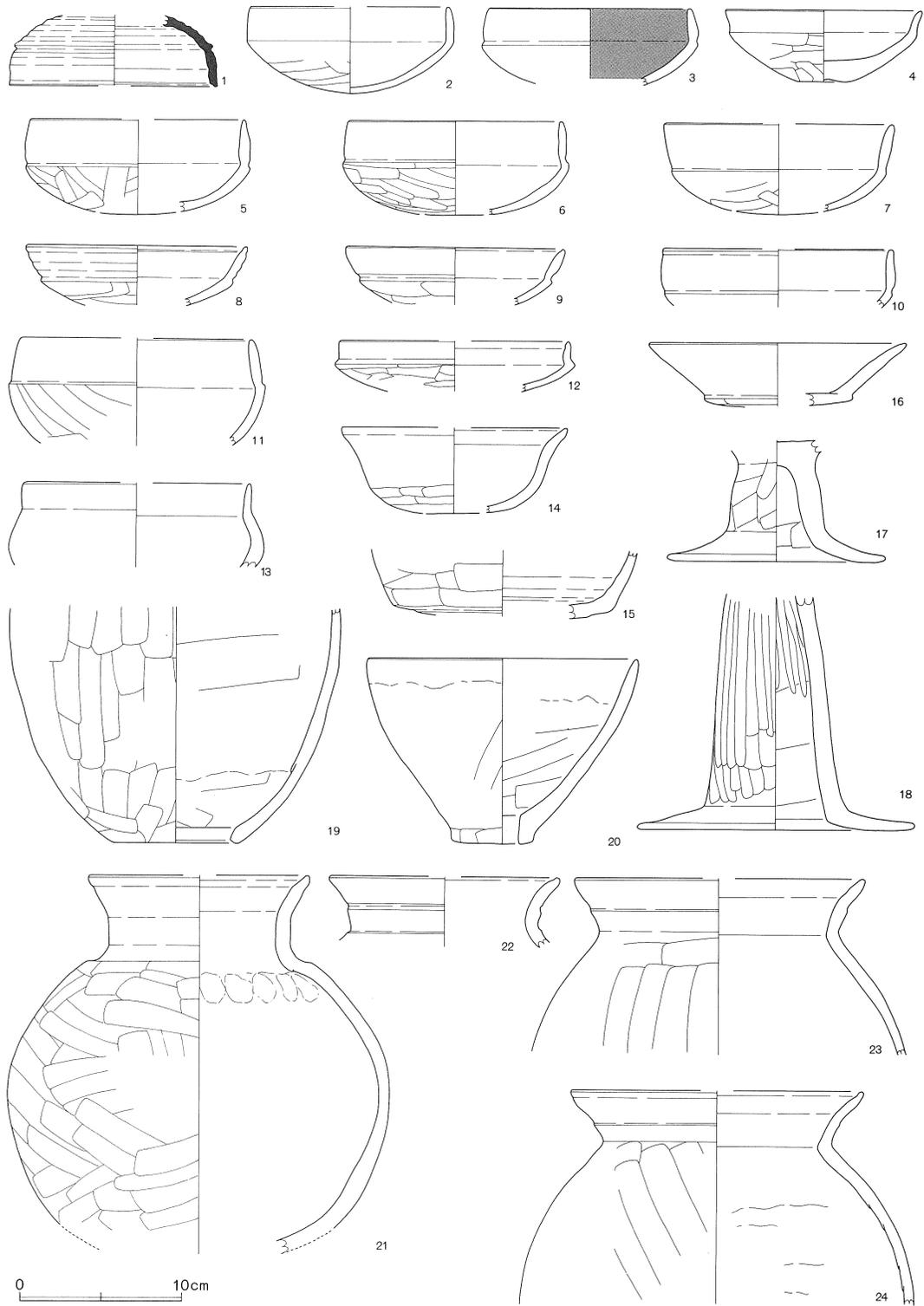


第16号住居跡

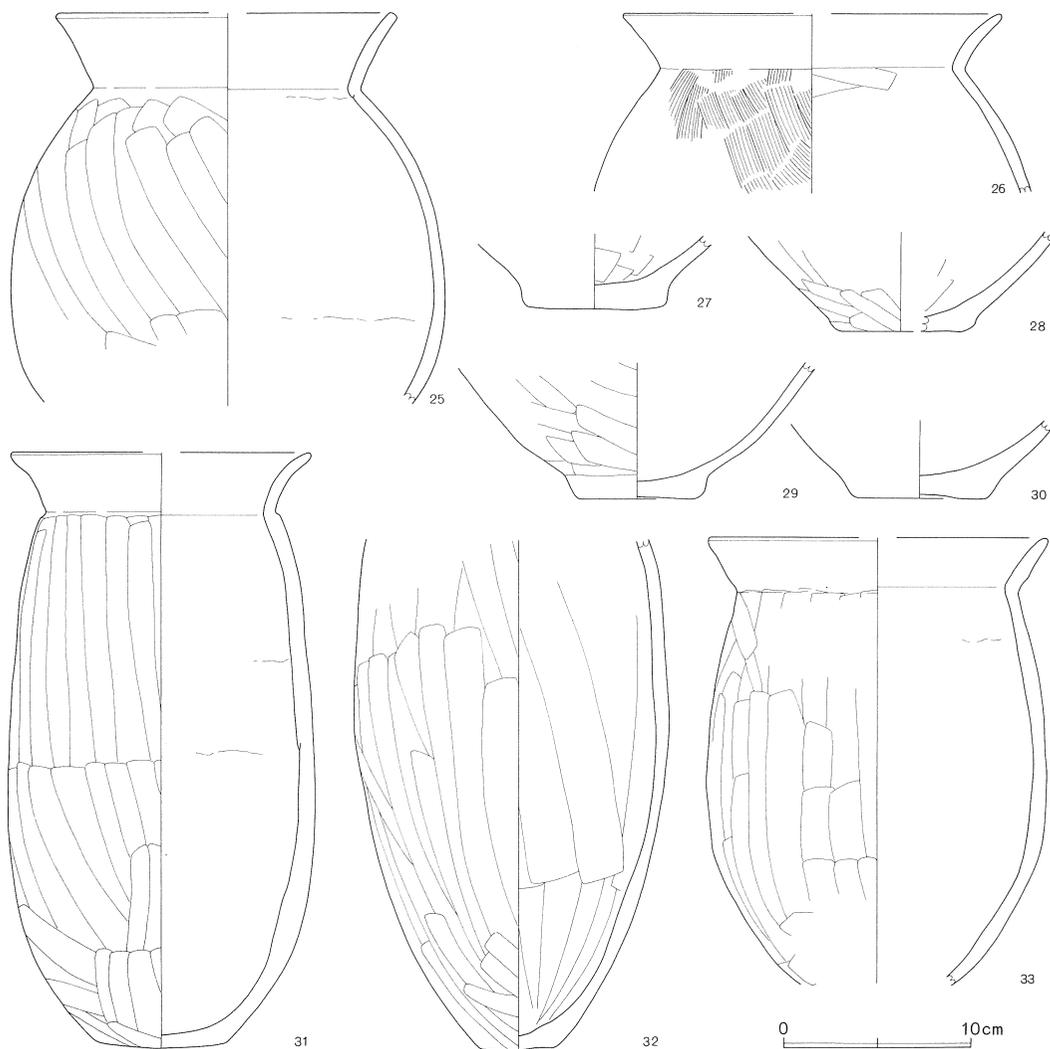
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりややあり、粘性弱。
- 2 暗褐色土 1より黄色い。焼土・炭化物・ローム粒子含む。
- 3 黄褐色土 ローム粒子主体。しまり・粘性弱。
- 4 茶褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまり弱。
- 5 明赤褐色土 焼土・ローム粒子含む。
- 6 赤褐色土 焼土・炭化物・ローム粒子含む。しまりやや弱、粘性弱。
- 7 黄褐色土 ローム土主体。しまり・粘性あり。
- 8 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子含む。
- 9 褐色土 焼土・炭化物粒子含む。
- 10 住居跡覆土1と同じ。
- 11 住居跡覆土2と同じ。
- 12 住居跡覆土3と同じ。



第194図 第16号住居跡



第195図 第16号住居跡出土遺物(1)



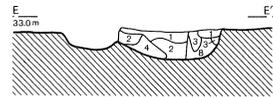
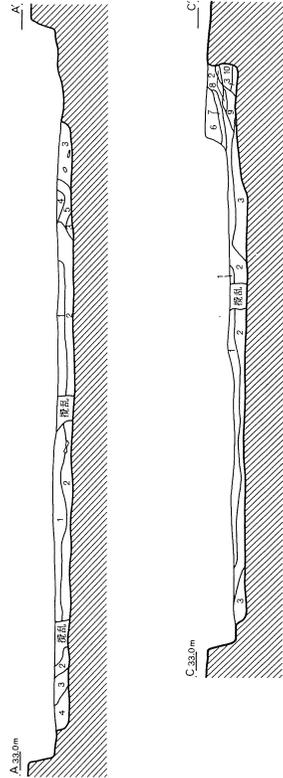
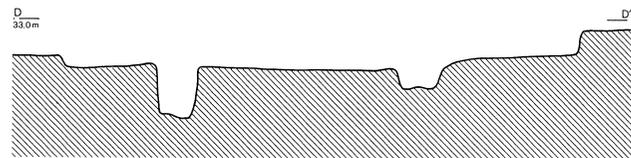
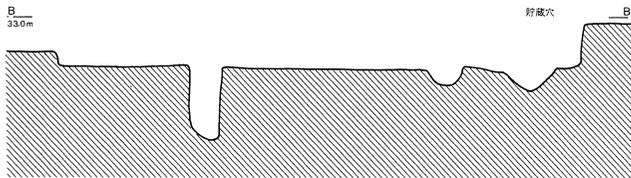
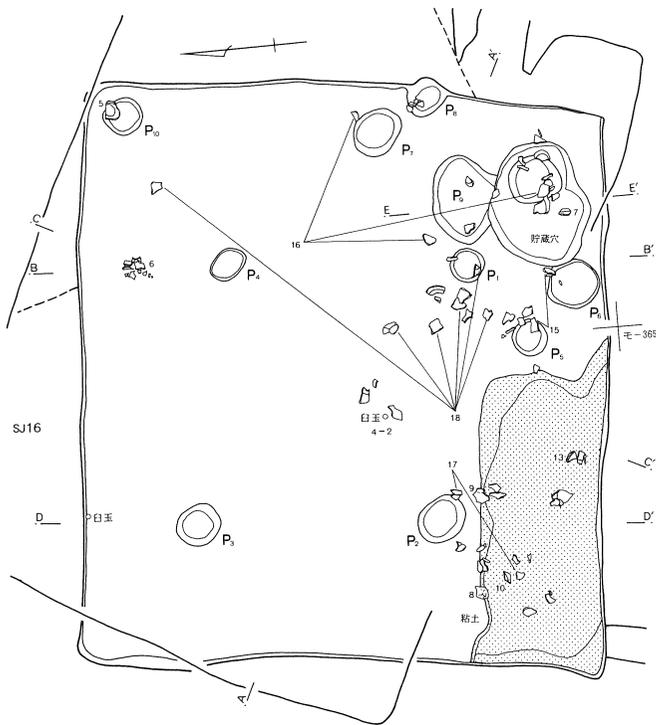
第196図 第16号住居跡出土遺物(2)

第16号住居跡(第195・196図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(12.8)	R+W	灰	20	
2	坏	口(12.2) 高5.4	R	(内)橙 (外)にふい橙	40	No.5・14。
3	坏	口12.2	R多+W	(内)黒(外)橙	70	No.42・55。
4	坏	口12.0 底3.0 高4.4	R+W	橙	60	
5	坏	口(13.2)	W	橙	30	No.61。
6	坏	口13.0	R	橙~褐灰	30	No.22。風化
7	坏	口(14.0)	R	橙	10	

8	坏	口13.6	B多+R+W	橙	80	No.83-84・85・86・87。
9	坏	口13.4	R	橙	40	No.20・105。
10	坏	口(14.0)	W	橙	口縁 30	
11	坏	口(14.0)	R多+W	橙～浅黄橙	30	No.65。
12	坏	口(14.0)	R	橙	20	
13	椀	口(14.0)	R+W	橙	20	No.103。
14	椀	口(13.8)	R	(内)浅黄橙 (外)橙	10	風化
15	鉢		R多+W	にふい橙	40	No.81・82。底部外面周辺のみナデ
16	高坏	口15.8	R多+砂	にふい橙～にふい赤褐	坏部 50	No.53。内面風化
17	高坏	脚(13.4)	R多+W多+W' 多	橙	脚部 30	
18	高坏	脚17.0	R多+W	橙～にふい橙	脚部 100	No.88。
19	甑	底7.4	B+R多+W	浅黄橙～にふい黄橙	下半部 40	No.4・34。外面に黒色部分
20	甑	口16.4 底5.0 高6.4	R多+W	橙	80	No.78・79。風化 胴部外面中位に黒色部分
21	壺	口13.6 胴23.5	B+R多+W	明赤褐	70	No.37。内面風化 胴部外面中位に黒斑
22	壺	口(14.2)	R+W	橙～黒褐	口縁 20	
23	甕	口(18.0)	R+砂	淡黄橙	口縁 20	No.47。内面風化
24	甕	口(18.0)	R+砂	淡黄橙	口縁 10	No.18。内面風化 粘土組織み上げ痕
25	甕	口(18.2) 胴23.2	R多+W多	橙～にふい黄橙	上半部 70	No.66・70・71・72・74・97・98。胴部内外面中位に帯状にスス付着
26	甕	口(20.0)	W多+砂	橙～暗赤褐	口縁 20	No.45。
27	甕	底7.6	砂	(内)にふい橙 (外)橙	底部 100	No.80。底部ケズリ 外面風化
28	甕	底7.4	砂	(内)にふい橙 (外)黒褐	底部 50	
29	甕	底6.8	R+W+砂	橙	底部 40	底部ケズリ 内面風化
30	甕	底7.0	R+砂多	にふい褐	底部 50	底部ケズリ 風化
31	甕	口(16.0) 底7.0 高31.7	R+砂多	橙	70	No.32・33。底部ケズリ 内面風化
32	甕	底4.0	R+砂多	浅黄橙	下半部 90	No.1・4。底部ケズリ
33	甕	口(18.0)	W+砂	(内)浅黄橙 (外)橙	30	No.99。内面風化

部にかけて粘土塊が確認されている。用途・性格等については明確ではないが、位置からカマドに関連したものである可能性もある。遺物は貯蔵穴および粘土塊周辺からおもに出土し、ほかに石製白玉1点がある。



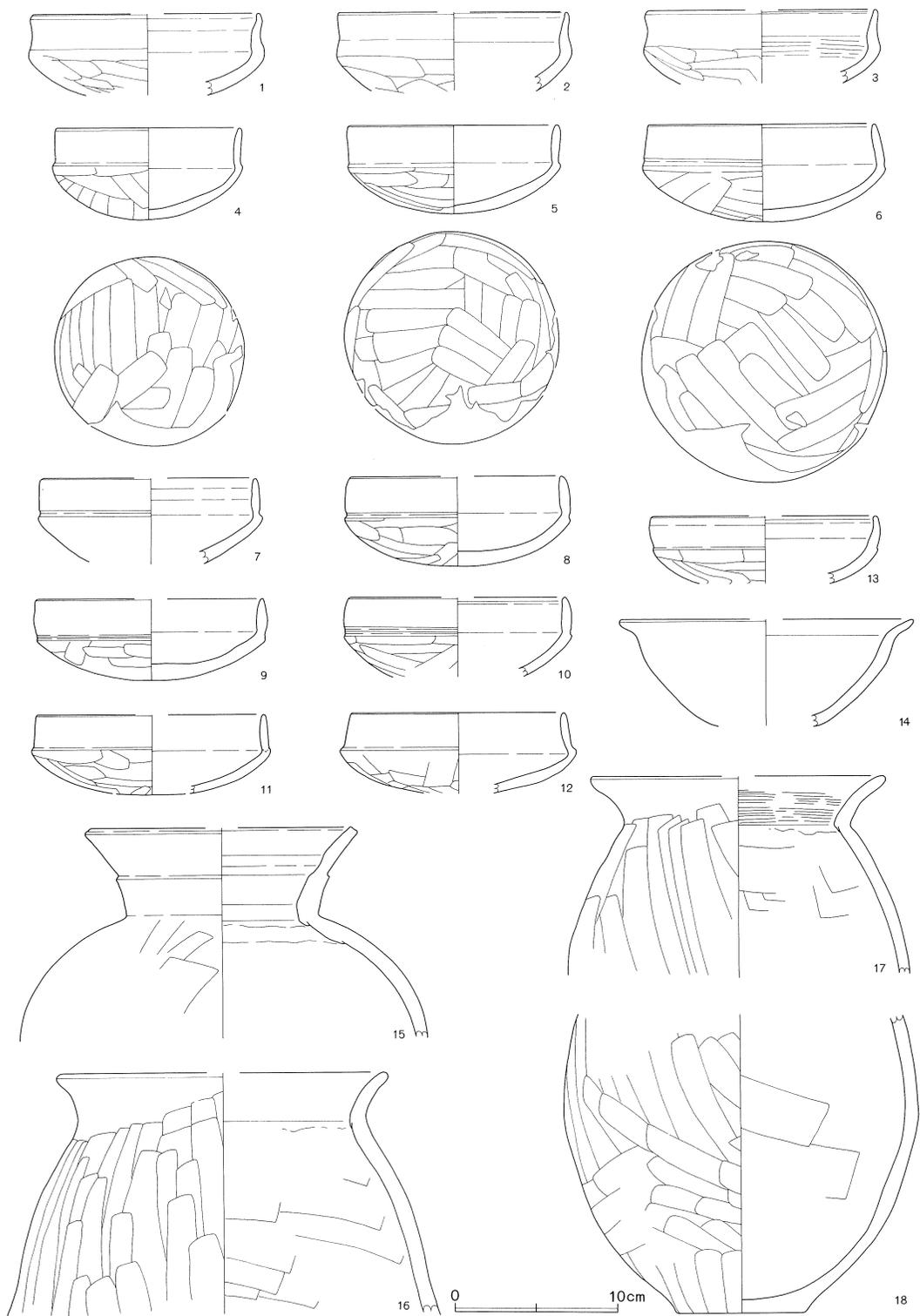
第17号住居跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子(3mm)少量、炭化物粒子(5mm)多く含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗黄褐色土 焼土微粒子、少量の炭化物微粒子含む。しまり・粘性強。
- 3 黄褐色土 ローム粒子含む。しまり・粘性強。
- 4 暗褐色土 焼土微粒子、少量の炭化物微粒子含む。しまり・粘性あり。
- 5 茶褐色土 焼土粒子(3~10mm)、多量の炭化物粒子(5~7mm)含む。しまり・粘性あり。
- 6 褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 7 暗赤褐色土 焼土粒子(5~10mm)極多量、炭化物粒子多量含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗赤色土 焼土層。炭化物粒子(3mm)少量含む。しまりあり、粘性やや弱。
- 9 暗黄褐色土 炭化物粒子(3mm)少量、赤色粒子(5mm)含む。しまり・粘性あり。
- 10 暗灰色土 焼土粒子(1cm)、炭化物微粒子多量含む。しまりあり、粘性やや弱。

第17号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土ブロック(2~3cm)少量、炭化物粒子(5~10mm)極多量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗黄褐色土 炭化物粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性強。
- 3 暗茶褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗黄灰色土 やや砂質。炭化物粒子(5mm)微量含む。しまりあり、粘性やや弱。

第197図 第17号住居跡



第198图 第17号住居跡出土遺物

第17号住居跡 (第198図)

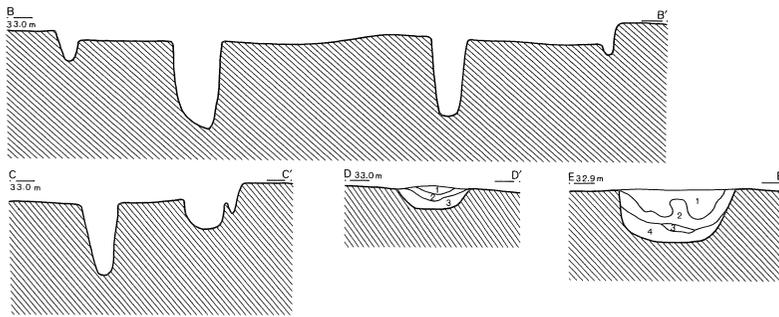
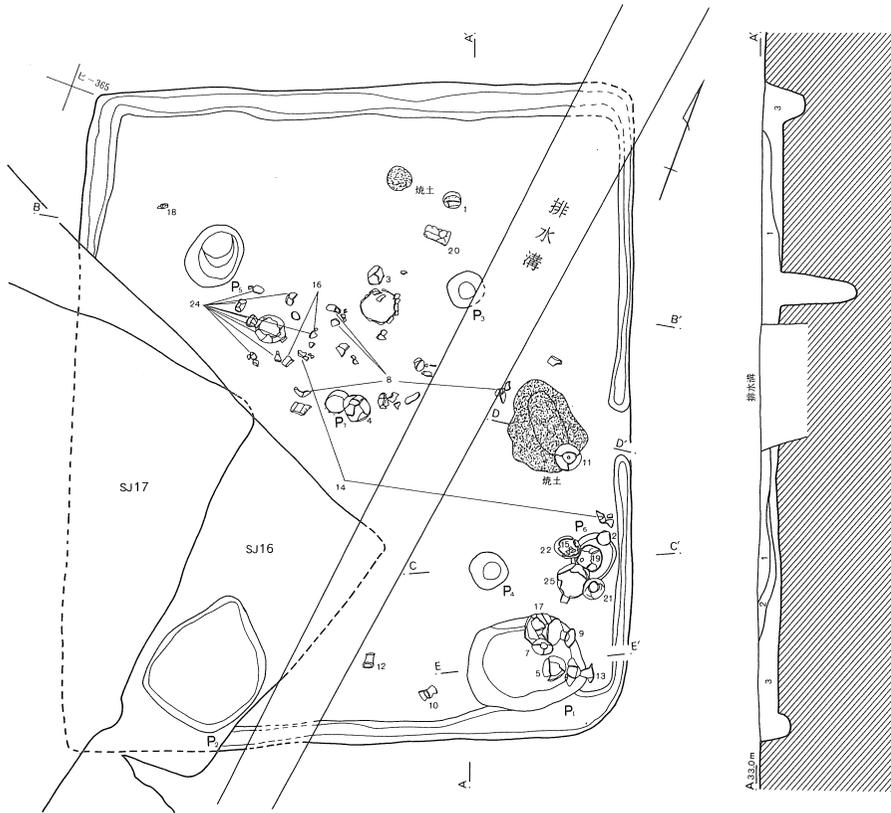
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0)	R	にふい橙	10	内面風化
2	坏	口(14.0)	R	(内)にふい赤褐 (外)橙	30	
3	坏	口(14.0)	R	橙～にふい橙	30	
4	坏	口11.2 高5.6	R多+W	橙～浅黄橙	80	
5	坏	口12.8 高5.4	R多+W	橙	80	No.2. 内面風化
6	坏	口14.0 高6.0	R	橙	70	No.1.
7	坏	口(13.0)	R多+W	橙	40	No.44. 外面風化
8	坏	口(13.0) 高5.5	R	橙	60	No.8.
9	坏	口(13.8) 高5.0	W	橙～にふい橙	30	No.11. 内面風化
10	坏	口(13.2)	R	(内)橙 (外)にふい橙	20	No.13.
11	坏	口(14.0)	R	橙～黒褐	20	
12	坏	口13.0	W	橙	30	内面風化
13	坏	口(13.8)	R+W	(内)褐灰 (外)にふい橙	20	No.20. 内面風化
14	鉢	口(18.0)	R	橙～浅黄橙	10	No.22. 風化
15	壺	口(16.6)	R多+W	橙～浅黄橙	上半部 30	No.36・38. 粘土紐積み上げ痕
16	甕	口(20.2)	砂	橙	上半部 30	No.24・40・46. 口縁部風化
17	甕	口(18.0)	砂多	橙～灰白	口縁 20	No.7・15.
18	甕	底8.0 胴21.8	R+W多	(内)黒褐 (外)にふい橙	下半部 40	No.19・28・58・22・29. 底部ケズリ

第18号住居跡 (第199図)

モ-364、セ-364Gridに位置し、第16・17号住居跡と重複している。新旧関係は第16・17号住居跡よりも古い。規模は南北5.25m・東西4.47m、深さ0.12～0.16mで、長軸の方位はN-18°-Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。幅0.09～0.29m、深さ0.08～0.19mの壁溝がほぼ全周している。焼土塊が東壁中央部付近に検出され、この部分には壁溝が廻っていない。これを炉跡とするならば最終段階のものである。明確ではないが、壁溝が途切れていることから、構造は不明であるけれども、原初的なカマドである可能性も残されている。ピットは7基検出されている。なかでもP1・P2は、位置および規模から貯蔵穴と把握すべきかもしれない。

第19号住居跡 (第203・204図)

エ-364・365・366、ヒ-364・365・366、モ-365・366Gridに位置している。規模は主軸辺9.15m・短辺8.79m、深さ0.29～0.44mで、周辺に位置している住居跡に比べて群を抜いている。主軸方位はN-12°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁を除いて、幅0.17～0.53m、深さ



第18号住居跡

- 1 暗茶褐色土 炭化物ブロック(3cm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 茶褐色土 多量の焼土微粒子、炭化物粒子(3mm)含む。しまりあり、粘性やや弱。
- 3 褐色土 焼土粒子(3mm)、少量の炭化物粒子(3mm)含む。しまり・粘性あり。

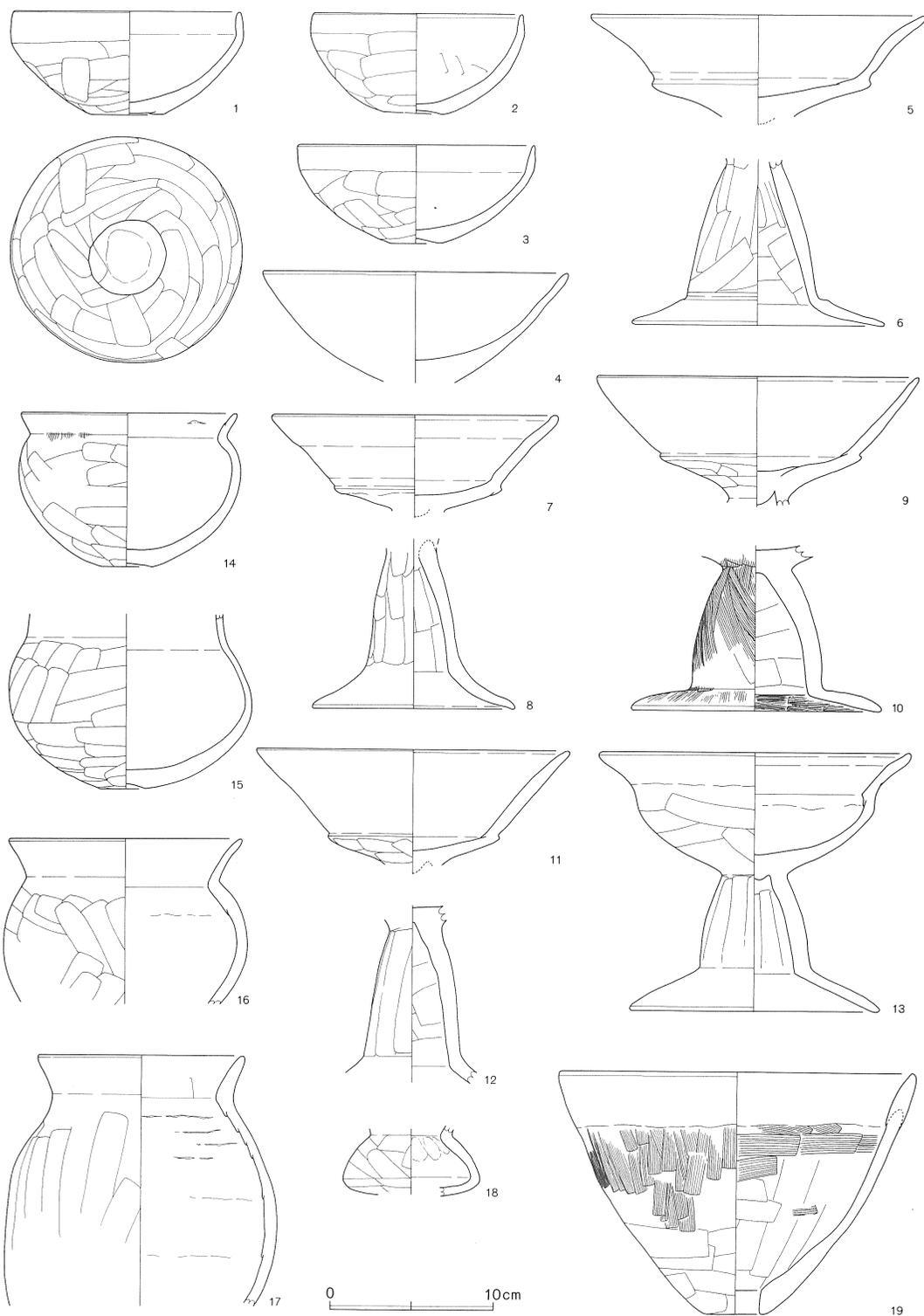
第18号住居跡ピット D-D'

- 1 焼土
- 2 赤褐色土 焼土粒子・ブロック多量含む。しまりあり。
- 3 灰黄褐色土 焼土粒子わずかに含む。しまりあり。

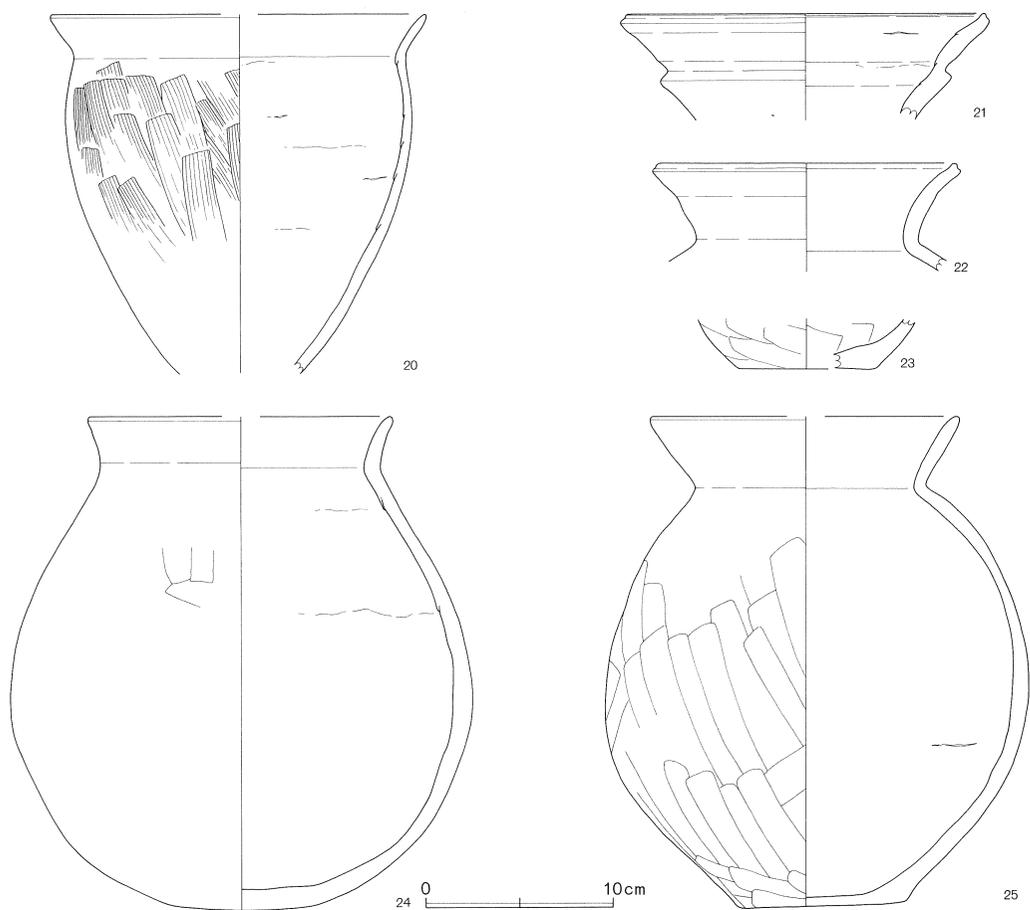
第18号住居跡ピット E-E'

- 1 暗褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗黄褐色土 炭化物粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子(5~10mm)少量含む。砂粒多。しまり・粘性やや弱。
- 4 暗黄色土 黄白色粘土ブロック(2cm)少量含む。しまり・粘性あり。

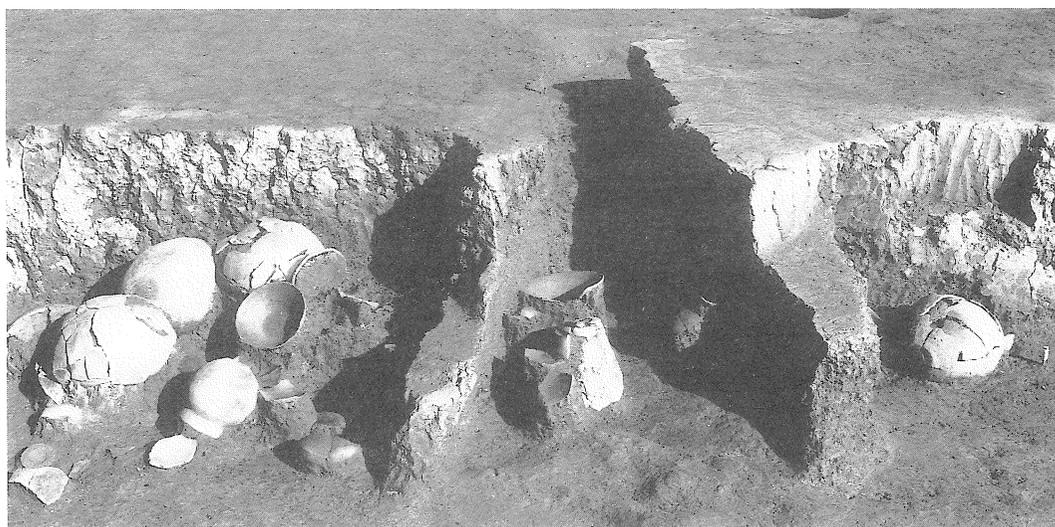
第199図 第18号住居跡



第200図 第18号住居跡出土遺物(1)



第201図 第18号住居跡出土遺物(2)

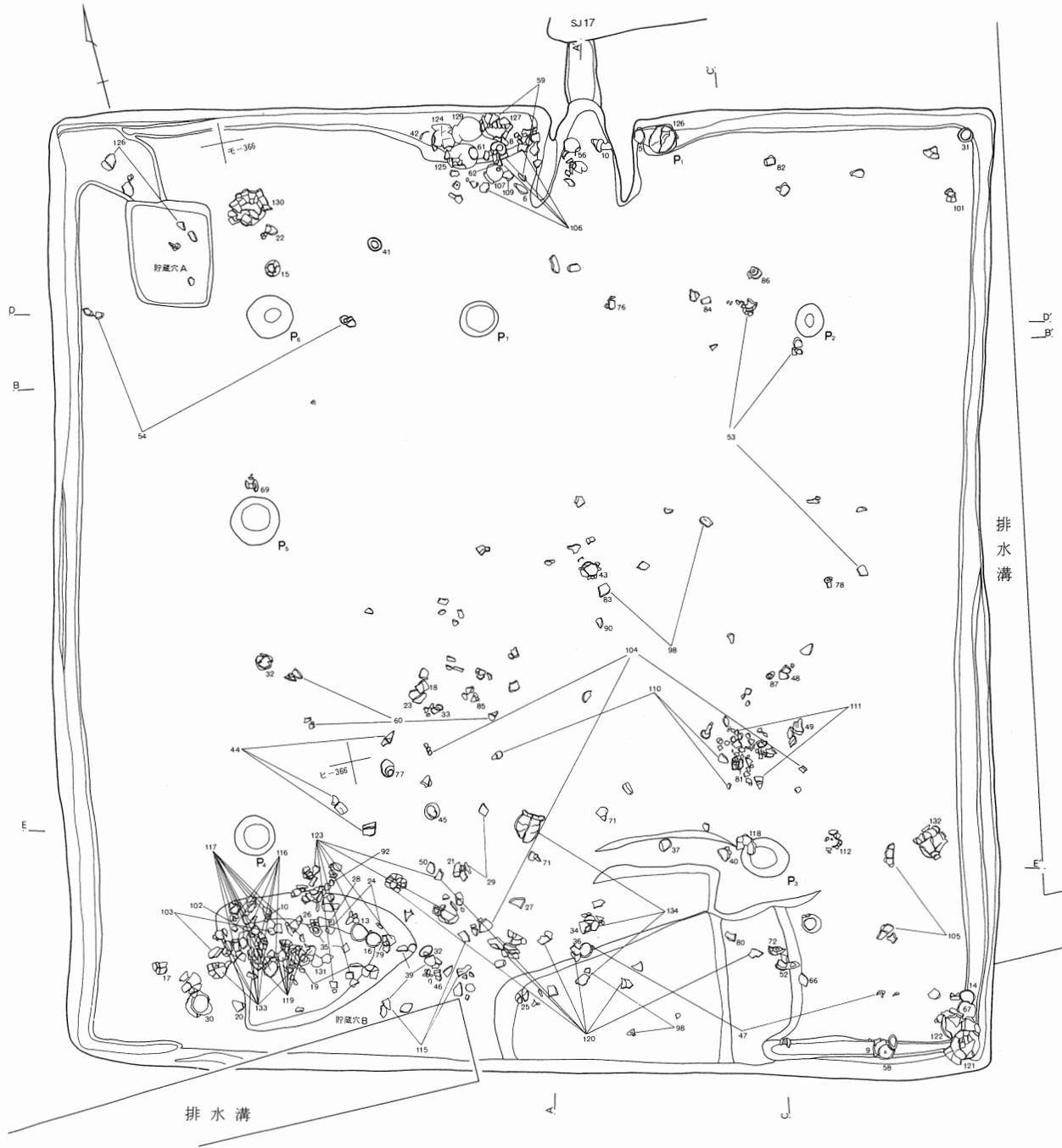


第202図 第19号住居跡カマド周辺遺物出土状況

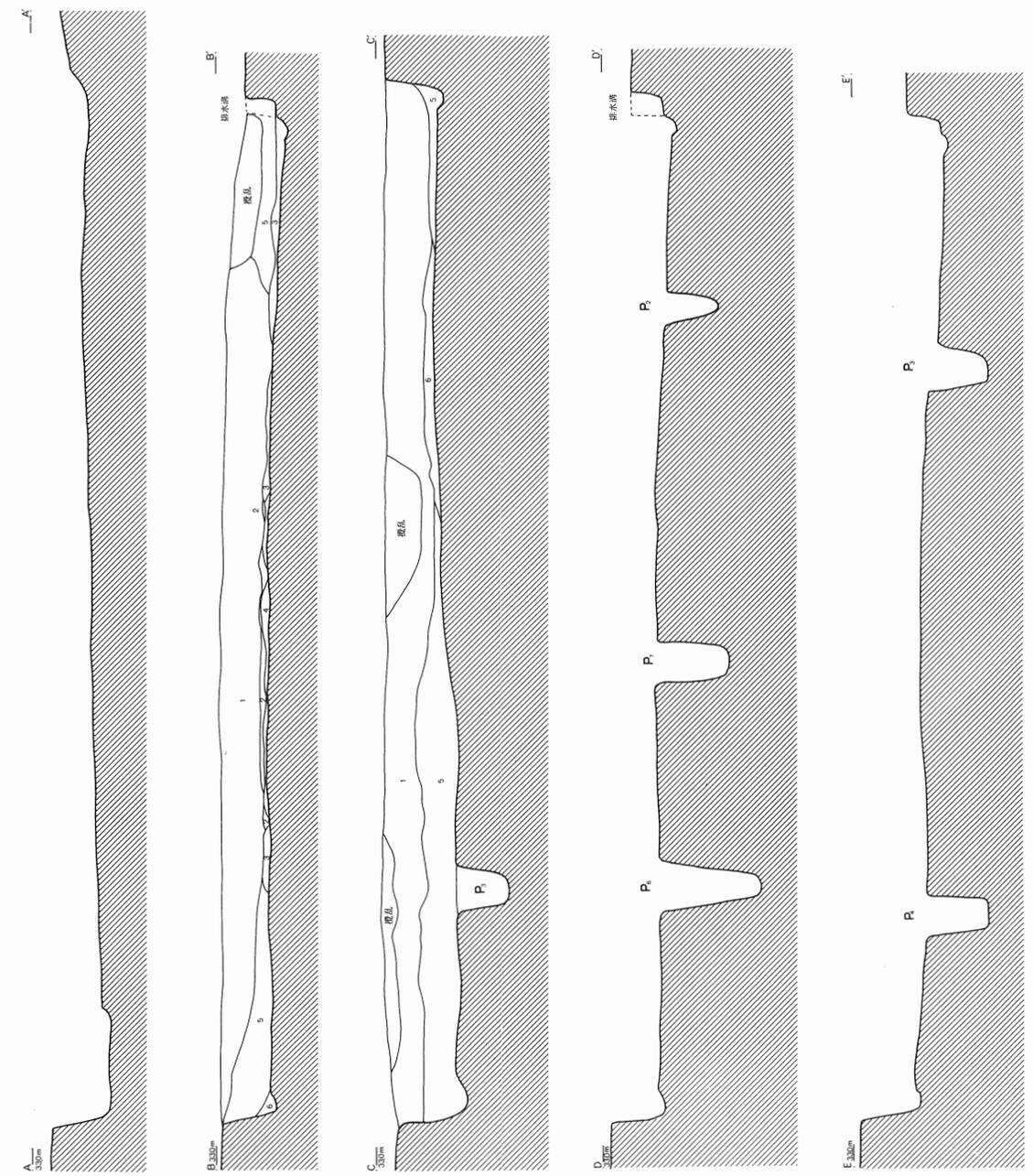
第18号住居跡 (第200・201区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.8 底4.4 高6.3	R多	橙～にぶい橙	100	No.40。底部周辺に粘土貼付 外面に黒斑
2	坏	口12.6 底3.4 高6.1	B+R多+W	橙～浅黄橙	80	No.46。底部ケズリ 外面に黒色部分
3	坏	口(14.6) 底3.0 高6.0	R多+W	(内)灰白 (外)橙～にぶい橙	50	No.37。底部ケズリ 口縁部内面に黒色部分 が帯状に廻る
4	高坏	口18.6	R多+W	橙	坏部 90	No.27。外面風化
5	高坏	口20.4	R多+W	橙	坏部 90	No.55。口縁部外面に黒色部分
6	高坏	脚(15.4)	R多	橙	脚部 30	風化
7	高坏	口17.4	R多+W多	(内)橙～黒 (外)明 赤褐～にぶい赤褐	坏部 100	No.54。内面に黒色部分が帯状に廻る
8	高坏	脚12.4	R多+W多	橙	脚部 90	No.18・19・24・42。風化
9	高坏	口19.6	R多+W	橙～にぶい橙	坏部 90	No.52。口縁部に黒変部分
10	高坏	脚(15.2)	R多+W	橙	脚部 40	No.57。
11	高坏	口19.2	R+W多	橙	坏部 100	No.44。外面風化
12	高坏		W多	(内)黒褐 (外)橙	脚部 80	No.58。
13	高坏	口19.0 脚15.2 高15.8	R	橙	80	No.56。
14	碗	口13.0 底3.0 高9.4	R多+W	明赤褐	40	No.12・45。内面風化 底部内面に黒色部分
15	小型壺	底2.6 胴14.8	R多+W	浅黄橙	80	No.48。内面風化
16	小型壺	口14.2 胴(14.8)	R多	橙	上半部 40	No.11・15。内面風化
17	甕	口12.6 胴(16.6)	R+W+W' 多	橙～灰白	上半部 70	No.53。粘土紐積み上げ痕明瞭
18	ミニチュ ア		R	橙	40	No.1。
19	甕	口21.8 底3.6 高14.8	R+W	橙～浅黄橙	70	No.47。
20	甕	口(20.0)	R多+W	橙	10	No.39。内面風化
21	壺	口19.6	R+W	明赤褐～暗赤褐	口縁 90	No.51。
22	壺	口16.2	R+W+砂	橙	口縁 100	No.49。
23	甕	底7.2	R+W' 多	(内)にぶい橙 (外)橙	底部 80	外面風化が著しい
24	甕	口16.2 底7.6 高26.3 胴24.6	R+W+W' 多	(内)黒～灰白 (外)橙～にぶい褐	60	No.3・4・5・8・10・15・17。風化が著しい
25	甕	口16.4 底9.0 高26.1 胴22.6	W多	橙～灰白	70	No.50。底部ケズリ 内面風化 胴部下 半黒変

0.02～0.20mの壁溝が廻っている。カマドは北壁中央に構築されている。煙道部先端が第17号住居跡によって切られ、焚き口幅0.65mを測る。袖部は地山を掘り残し、燃烧部で大きく「ハ」の字に開いている。貯蔵穴は2基設置され、カマドの西側の北西コーナー部の貯蔵穴Aと、南西コーナー部の貯蔵穴Bが検出されている。貯蔵穴Aは方形で、南北1.02m・東西0.80m、深さ0.13m、貯蔵穴Bは不整形を呈し、南北1.30m・東西1.65m、深さ0.22mを測る。7基のピットのうち、P1以外

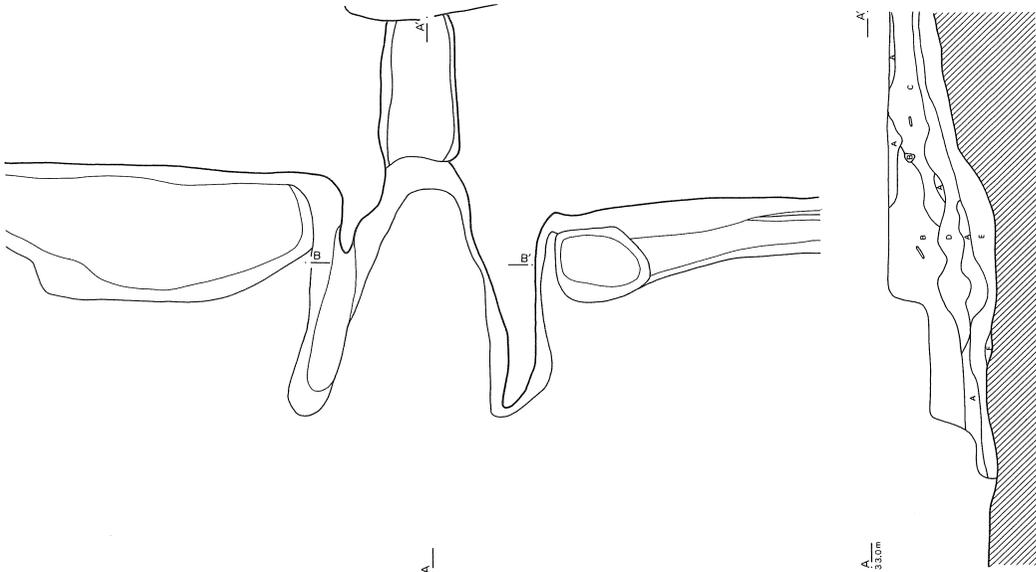


- 第19号住居跡
- 1 茶褐色土 焼土・炭化物粒子微量、暗灰色砂粒子含む。しまりあり、粘性弱。
  - 2 黒褐色土 焼土粒子若干、炭化物多量、茶褐色粒子含む。しまり・粘性あり。
  - 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまり・粘性あり。



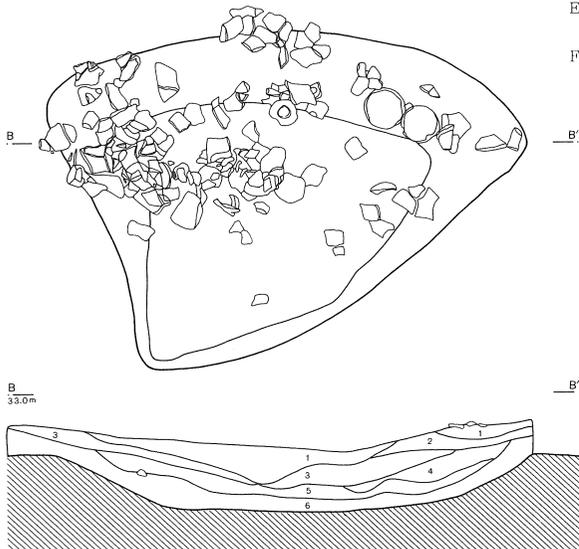
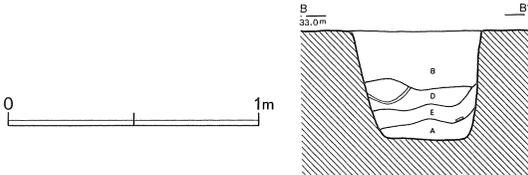
- 4 茶褐色土 若干の焼土・炭化物粒子、暗灰色砂粒子多量含む。しまりあり、粘性弱
- 5 暗茶褐色土 暗灰色砂・暗褐色土粒子若干含む。しまりあり、粘性弱。
- 6 暗褐色土 暗灰色砂粒子若干含む。しまりあり、粘性弱。

第203図 第19号住居跡(1)



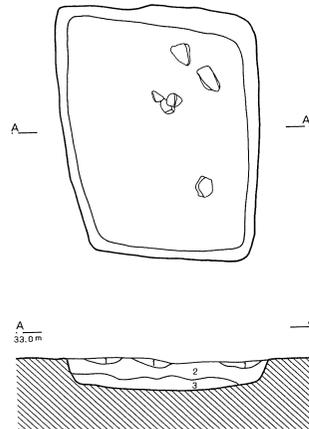
第19号住居跡カマド

- A 橙色土 よく焼けた焼土層。しまりあり、粘性弱。
- B 暗黄褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- C 暗黄褐色土 Bよりも明るい。焼土粒子(微粒~10mm)多く含む。しまり・粘性あり。
- D 暗褐色土 焼土ブロック(2~3cm)多量、炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- E 暗灰色土 焼土ブロック(3~4cm)多く、炭化物微粒子極多量含む。しまり・粘性弱。
- F 暗赤褐色土 よく焼けた焼土層。ブロック状。凹凸がある。



第19号住居跡貯蔵穴B B-B'

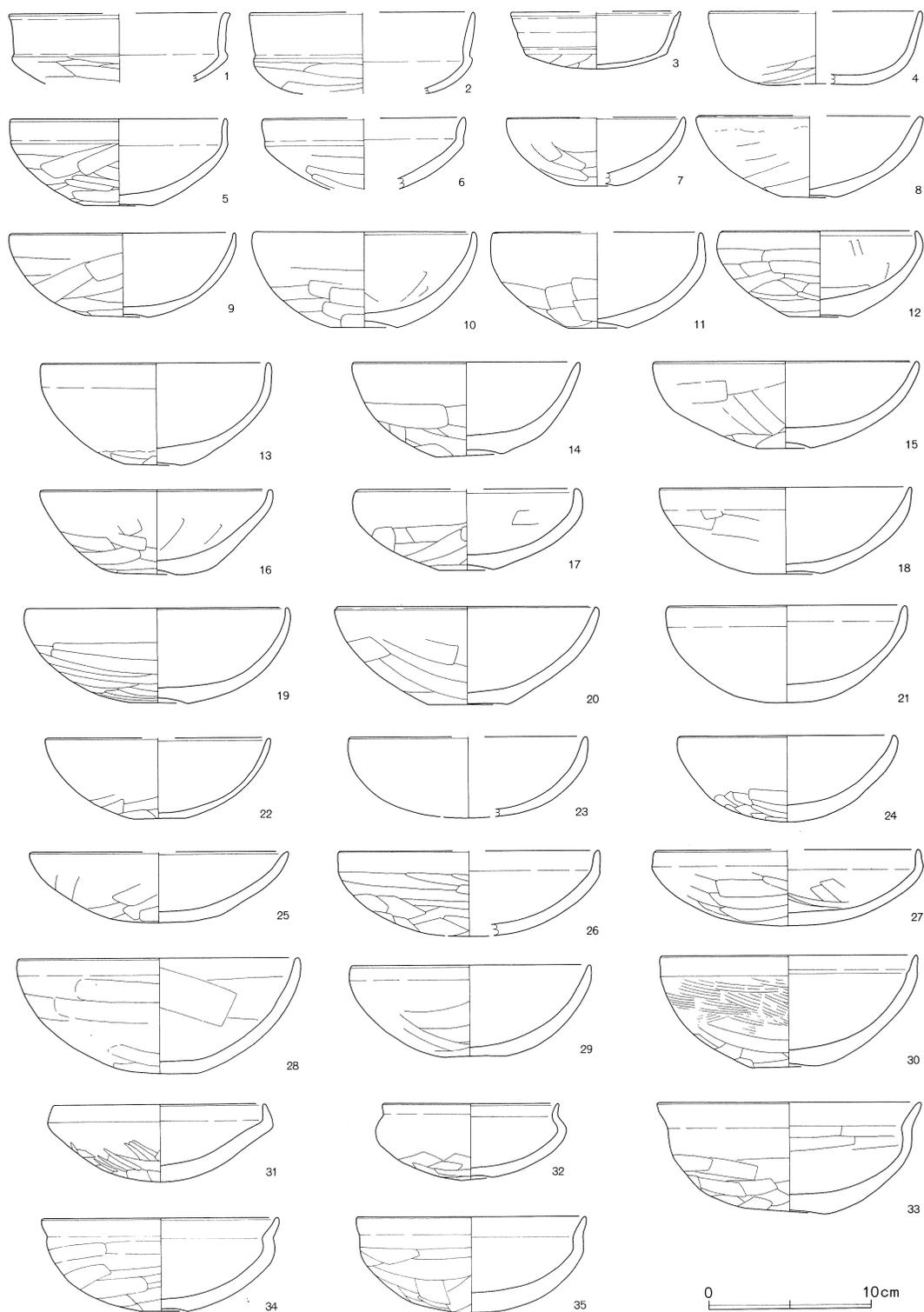
- 1 暗茶褐色土 炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黄褐色土 ローム粒子多く含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗黄褐色土 焼土粒子(3~5mm)、少量の炭化物粒子(3mm)含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗黄色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗灰色土 炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。



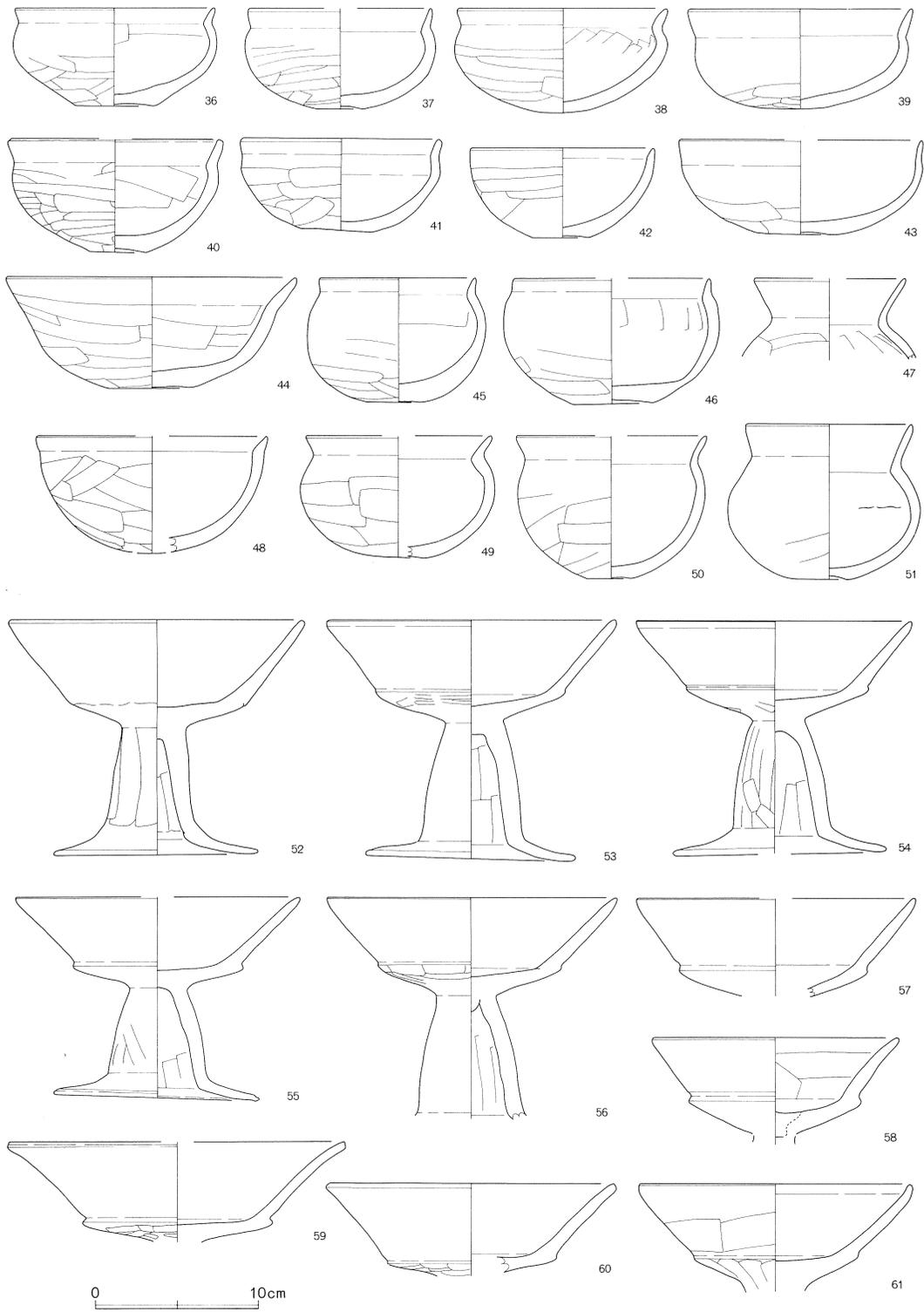
第19号住居跡貯蔵穴A A-A'

- 1 茶褐色土 焼土粒子、焼土塊、炭化物多く含む。しまりあり。
- 2 灰褐色土 灰色砂粒子多く、炭化物、焼土粒子若干含む。しまりあり。
- 3 灰褐色土 灰色砂粒子若干含む。しまりあり。

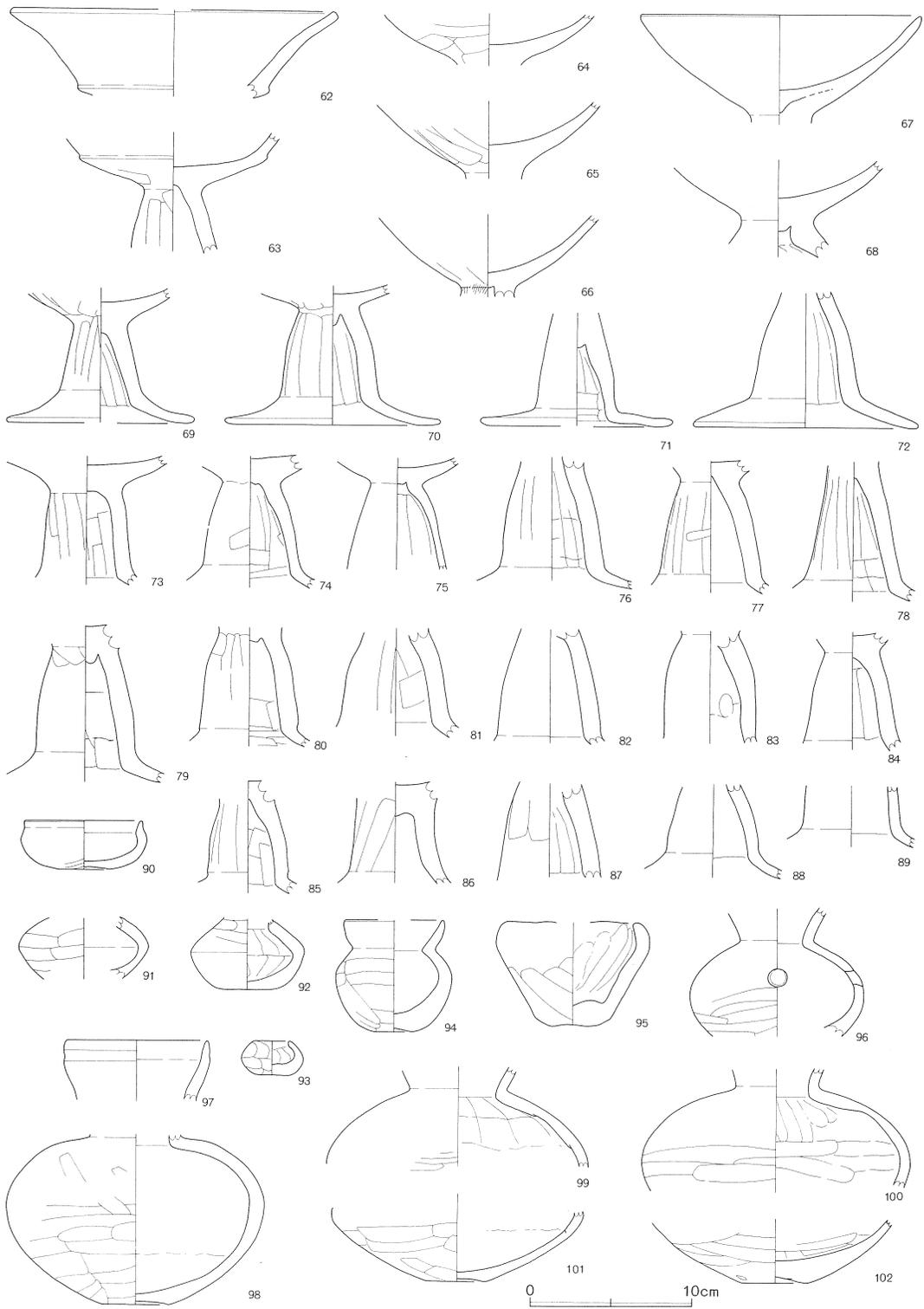
第204図 第19号住居跡(2)



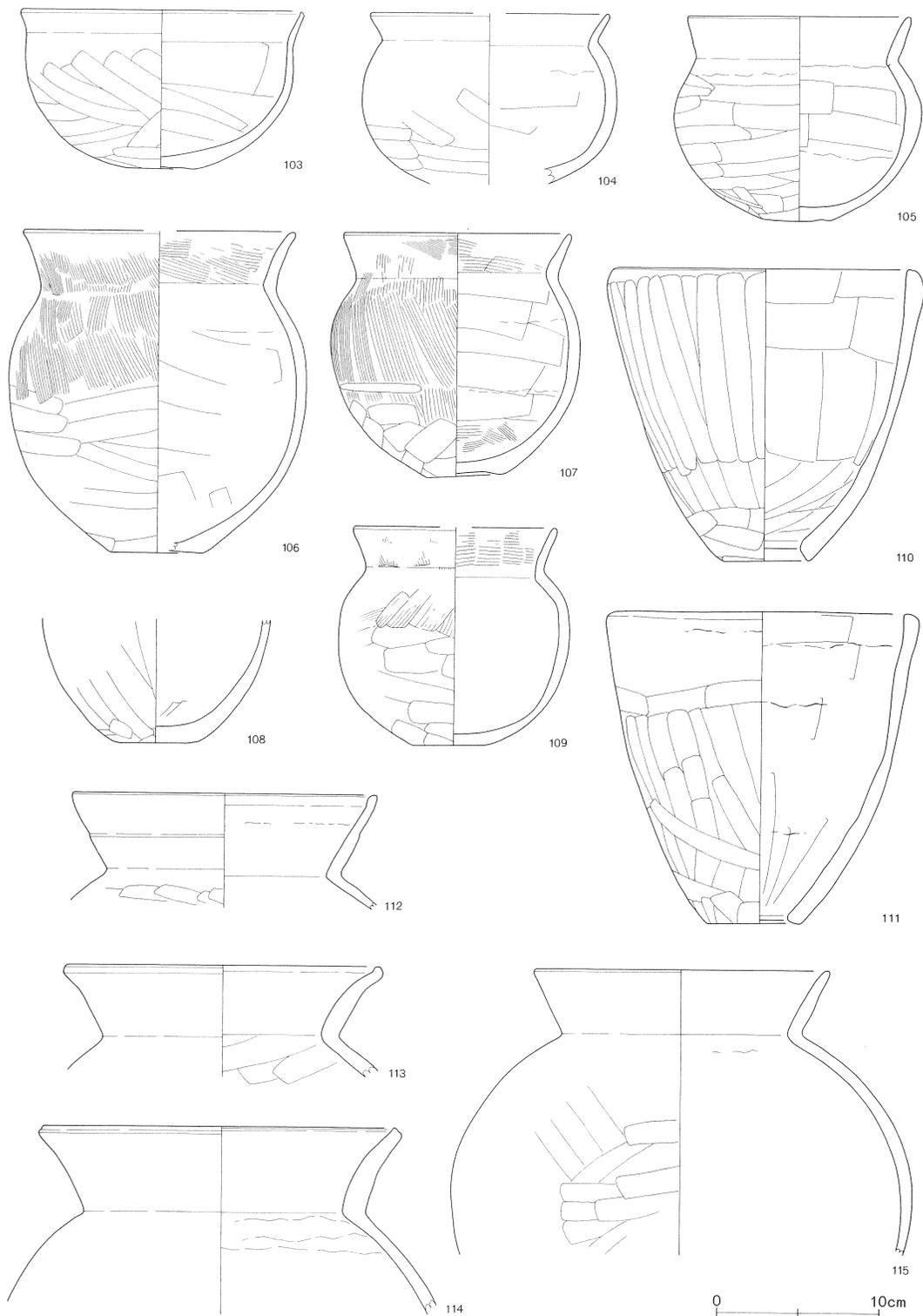
第205図 第19号住居跡出土遺物(1)



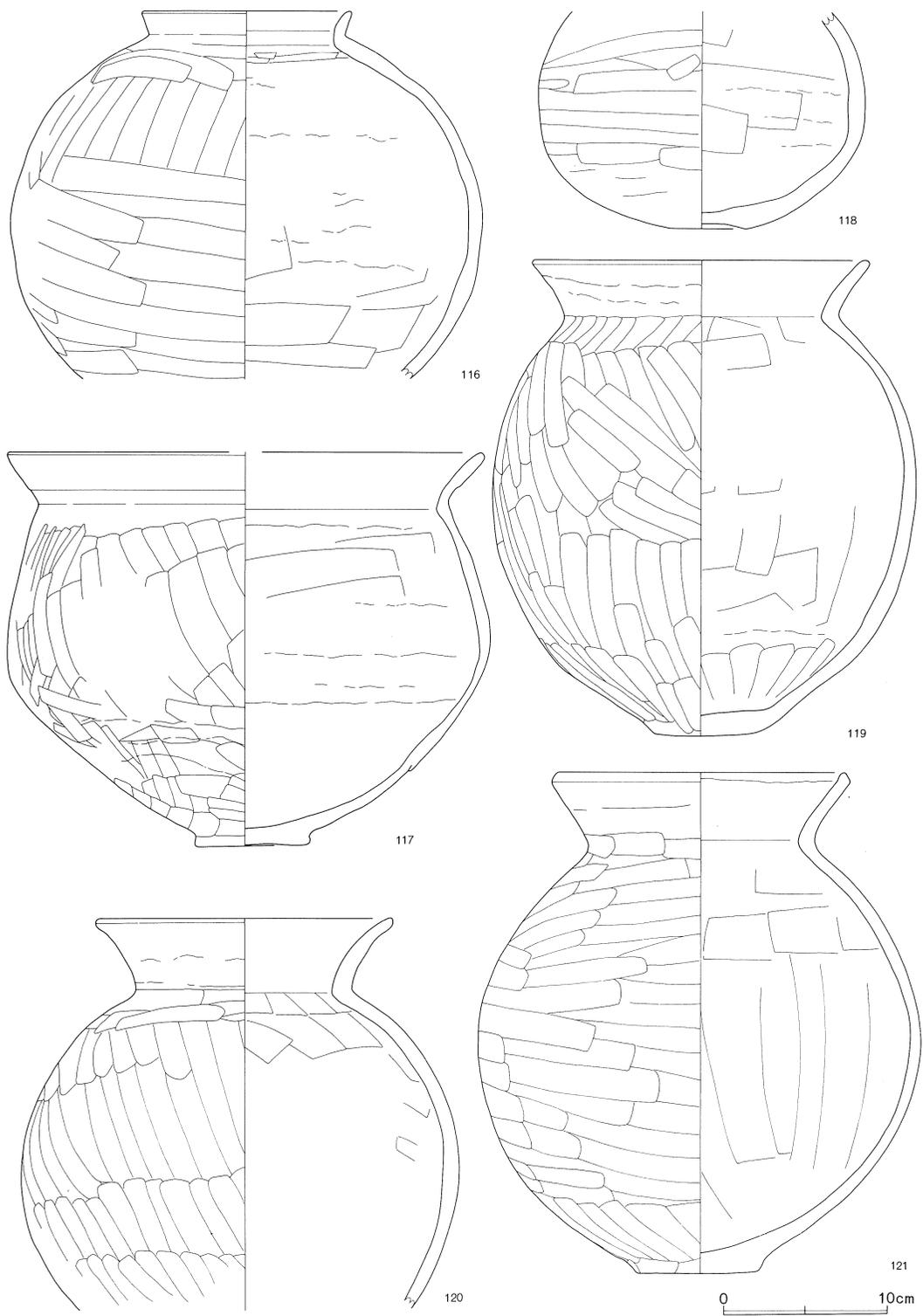
第206图 第19号住居跡出土遺物(2)



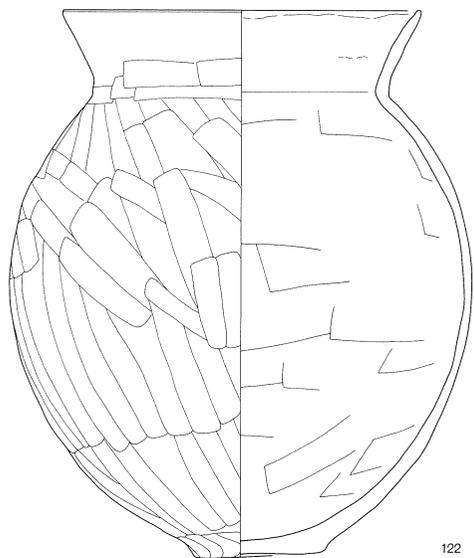
第207图 第19号住居跡出土遺物(3)



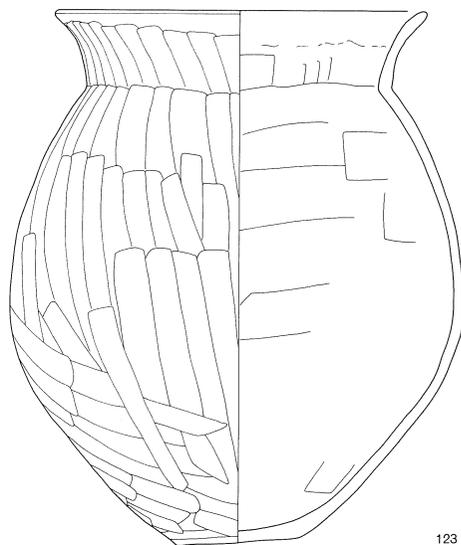
第208図 第19号住居跡出土遺物(4)



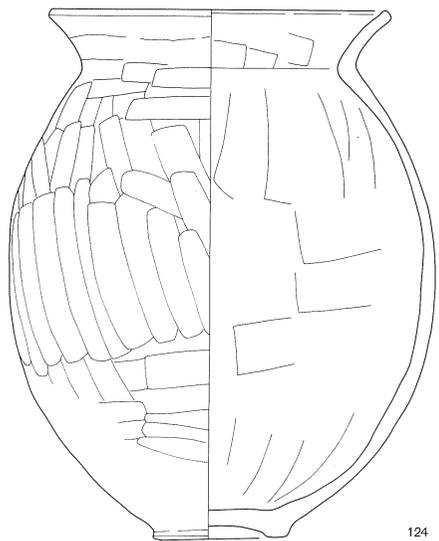
第209图 第19号住居跡出土遺物(5)



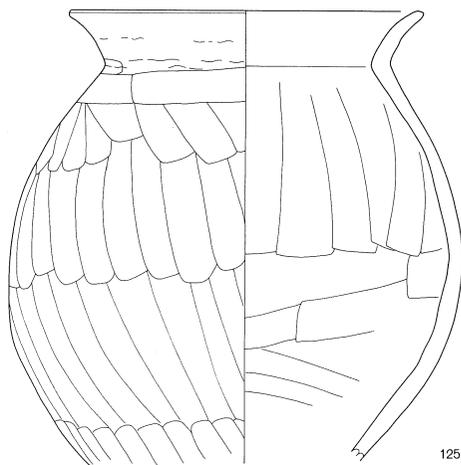
122



123



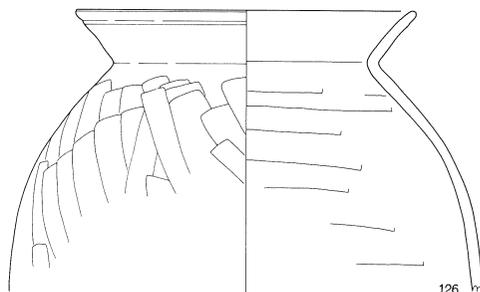
124



125

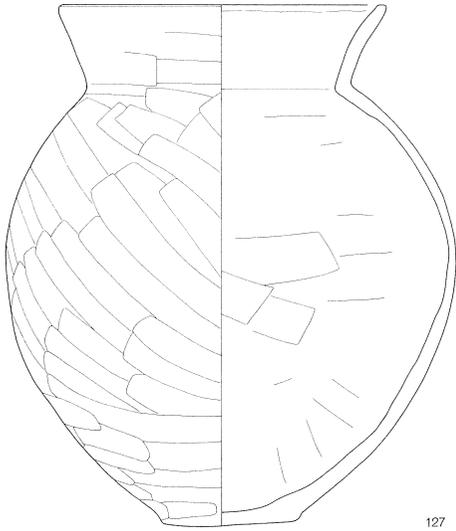


0 10cm

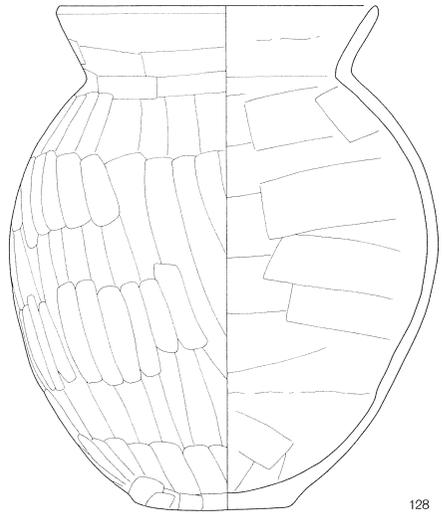


126

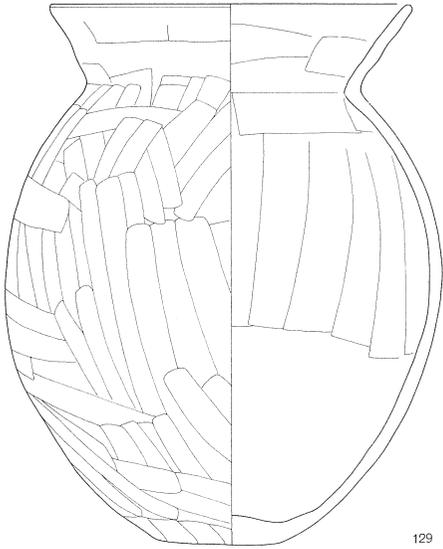
第210图 第19号住居跡出土遺物(6)



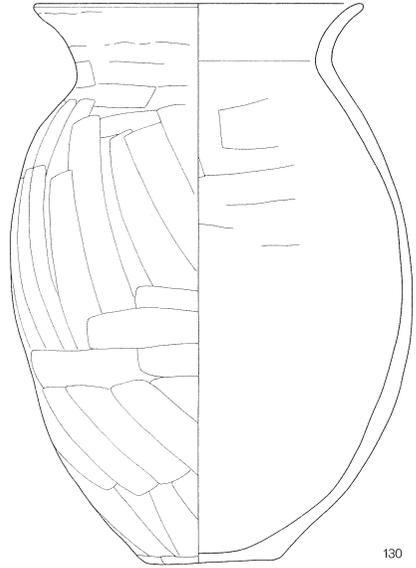
127



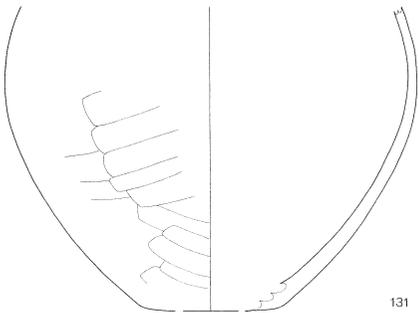
128



129



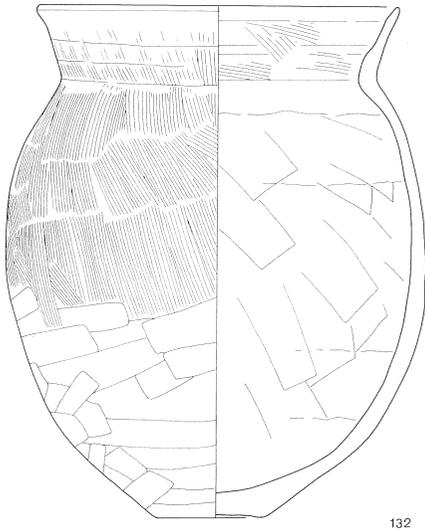
130



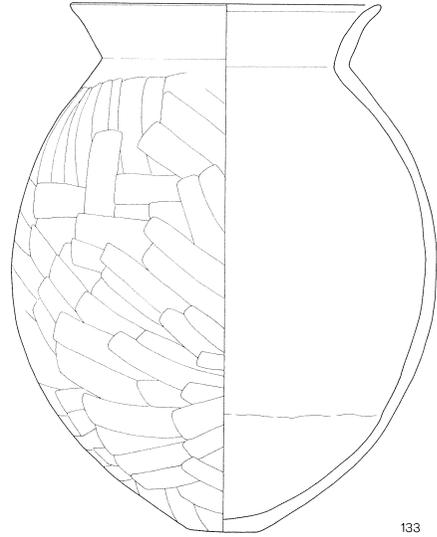
131



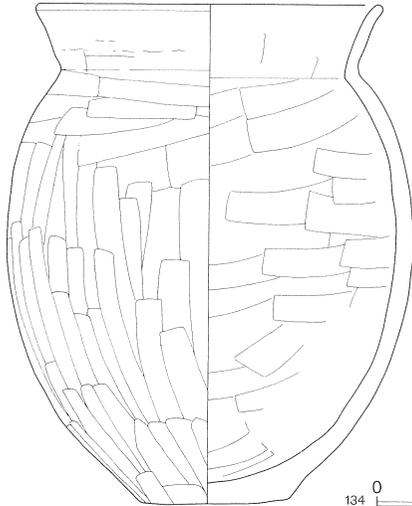
第211图 第19号住居跡出土遺物(7)



132

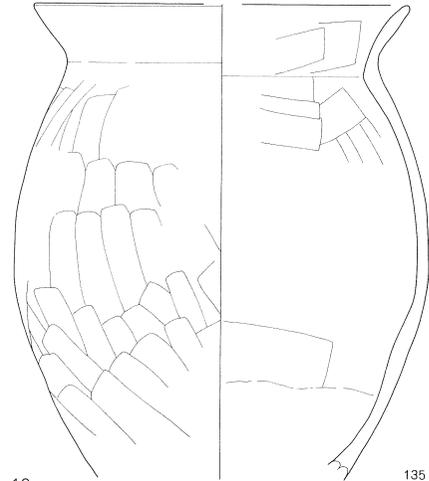


133



0 10cm

134



135

第212図 第19号住居跡出土遺物(8)

は柱穴である。カマドに対向する南壁際中央部は、床面が馬蹄形状に盛り上がっている。堅くしまっており、この部分が入り部であったと考えられる。遺物はたいへん多く出土し、ほかに打製石斧1点、編物石7点がある。

#### 第20号住居跡 (第213・214図)

モ-367、セ-367Gridに位置し、第22・30号住居跡と重複している。新旧関係は第22・30号住居跡よりも新しい。規模は主軸辺4.63m・長辺4.73m、深さ0.28~0.43mで、主軸方位はN-59°-Wを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、幅0.15~0.32m、深さ0.06~0.10mの壁溝がほぼ全周

第19号住居跡 (第205~212区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.6)	R多+W	橙	20	内面風化
2	坏	口(13.8)	R	橙	20	内面風化
3	坏	口10.4 高3.5	B+R+W+W' 少	橙	50	口縁端面トリ 外面に黒色部分
4	坏	口(13.0)	R多	にふい橙~浅黄橙	20	外面に黒色部分
5	坏	口13.2 底4.0 高5.3	R	橙	95	No.236・カマド。
6	坏	口(12.4)	R	橙	40	No.202・カマド。
7	坏	口(11.0) 底(2.3) 高(4.2)	B	赤橙~淡橙	50	内面風化
8	坏	口(14.0) 底3.2 高5.0	R	橙~にふい橙	30	No.240。内面風化
9	坏	口13.8 底3.8 高5.1	R多	橙~にふい黄橙	70	No.319。内面風化
10	坏	口13.5 底4.0 高5.8	R	明赤褐	70	No.224・225・226。
11	坏	口(12.8) 底3.6 高5.9	R多	橙	30	風化
12	坏	口12.0 底3.6 高5.2	R+砂	橙	95	底部ケズリ
13	坏	口14.0 底3.2 高6.3	砂	橙	100	No.51。風化 口縁部外面に黒色部分
14	坏	口13.8 底3.8 高5.7	B+R+W	橙	80	No.311。外面に黒色部分
15	坏	口16.2 底3.0 高5.4	R	橙~にふい橙	100	No.171。内面風化 口縁部黒色部分
16	坏	口14.3 底5.2 高5.2	R	橙	80	No.53。
17	坏	口(13.6) 底3.4 高5.0	R	(内)浅黄橙 (外)橙	50	No.1。内面風化
18	坏	口15.4 底4.2 高5.3	R多+W	橙~浅黄橙	70	No.127。風化
19	坏	口16.0 底3.4 高5.8	R多	橙	90	No.57・276。
20	坏	口16.2 底5.0 高6.0	R多+W	明赤褐	80	No.3。
21	坏	口13.6 高6.0	R	橙~淡黄橙	70	No.77。風化
22	坏	口(13.6) 底3.2 高5.0	R	橙	25	No.172。風化が著しい
23	坏	口(14.5)	R多	橙	30	No.125。風化が著しい
24	坏	口13.2 高5.2	R	橙	90	No.41・54。内面風化
25	坏	口(15.9) 高4.3	W	橙	30	No.86。内面風化
26	坏	口(16.0)	R多	橙	40	No.62。
27	坏	口(16.2) 高4.6	R多	橙	40	No.96。
28	椀	口17.0 底4.4 高7.1	R多	(内)橙 (外)明赤褐	80	No.42。口縁部内面黒色
29	椀	口14.8 底4.0 高5.6	R	橙~淡黄橙	80	No.77・99。風化が著しい

30	椀	口15.6 底4.0 高6.8	R	橙	95	No.250。内面黒色
31	椀	口12.8 高4.8	R	橙	95	No.194。
32	椀	口10.9 底1.8 高4.7	R	明赤褐	90	No.123。風化
33	椀	口16.2 底4.6 高6.6	R+W	橙	70	No.126。
34	椀	口14.6 底3.0 高5.7	R多+W	橙	90	No.105。底部ケズリ
35	椀	口14.0 高5.9	R多	(内)橙 (外)にふい橙	80	No.39・50。風化
36	椀	口12.2 底4.6 高6.0	W多+W' 多	明赤褐	70	No.93。底部ケズリ
37	椀	口(11.2) 底2.8 高6.1	R多+W	橙～明黄褐	50	No.108。内面風化
38	椀	口12.8 高6.4	R	橙	90	No.254。
39	椀	口13.6 高6.1	R多	橙～明赤褐	70	No.60・67・70。
40	椀	口(13.2) 底3.2 高6.9	R多	橙～淡橙	70	No.112。
41	椀	口12.0 底4.2 高5.6	R	橙	100	No.176。内面風化が著しい
42	椀	口11.2 底3.4 高5.5	R	橙	95	No.222・カマド。風化
43	椀	口(15.0) 底3.6 高5.8	R	橙	70	No.147。風化が著しい
44	椀	口17.8 底5.0 高6.8	B+R多+W	橙～浅黄橙	90	No.63・64・124。風化 外面に黒色部分
45	椀	口9.6 底3.3 高7.6	R	橙	90	No.101。
46	椀	口12.0 底4.8 高7.7	R	橙	40	No.263。
47	小型壺	口(9.2)	R多	橙～明赤褐	口縁 70	No.94・315。胴部に黒色部分
48	椀	口(14.1)	R多	明赤褐	40	No.154。内面風化
49	小型壺	口(11.4)	R多+W	明赤褐	70	No.119。内面風化
50	小型壺	口(11.6) 底2.5 高8.8	R多	明赤褐	30	No.74。内面風化
51	小型壺	口10.0 底3.0 高9.5	R多+W	明赤褐	70	外面風化
52	高坏	口17.8 脚12.6 高14.4	R+W+W'	橙	90	No.287。坏部内面風化が著しい 口縁端部面トリ
53	高坏	口17.8 脚(13.0) 高14.6	B+R多	橙	70	No.186・187・249。
54	高坏	口16.8 脚(13.0) 高14.3	R多	(内)にふい橙 (外)橙	80	No.162・174・175。坏部内面風化 口縁部に黒色部分
55	高坏	口(17.4) 脚(12.6) 高12.3	R多	明赤褐	70	脚端部に沈線
56	高坏	口17.8	R	橙	80	No.227・カマド。
57	高坏	口(17.0)	R多	橙	坏部 60	
58	高坏	口15.1	R多	橙～にふい橙	坏部 70	No.318。坏部と脚部の接合痕明瞭
59	高坏	口(20.6)	R	明赤褐	坏部 40	No.204・246・カマド。口縁端部面トリ

60	高坏	口17.4	R多	橙	坏部 80	No.121・122・129。口縁端部面トリ
61	高坏	口16.5	R多	明赤褐	坏部 90	No.218・カマド。内面風化
62	高坏	口(20.2)	R	橙	坏部 20	No.239・カマド。
63	高坏			橙	坏部 20	内面風化
64	高坏			橙	坏部 40	内面風化
65	高坏		R	橙	坏部 60	No.4。
66	高坏		R	橙	坏部 40	No.288。風化が著しい
67	高坏	口17.2	R	(内)にふい橙 (外)明赤褐	坏部 100	No.323。脚部との接合痕明瞭
68	高坏			橙	坏部 30	No.188。
69	高坏	脚(11.6)	R+W	橙	脚部 80	No.161。
70	高坏	脚13.4	R	橙	脚部 90	No.283。内外面風化
71	高坏	脚(12.0)	R多	(内)にふい橙 (外)橙	脚部 60	No.97。外面風化
72	高坏	脚14.0	R	橙	脚部 60	No.286。外面風化
73	高坏		R	橙	脚部 80	風化
74	高坏		R	橙	脚部 70	
75	高坏		W	橙	脚部 30	外面風化
76	高坏		R	橙	脚部 80	No.179。
77	高坏		R	橙	脚部 80	No.104。
78	高坏		R+W多	橙	脚部 80	No.248。
79	高坏		R	橙	脚部 90	No.255。
80	高坏		R	橙	脚部 80	No.285。
81	高坏		R	橙	脚部 70	No.301。
82	高坏			橙	脚部 80	No.190。
83	高坏			橙	脚部 80	No.145。
84	高坏		W	橙	脚部 80	No.182。外面風化が著しい
85	高坏		R	橙	脚部 80	No.130。
86	高坏		R	にふい黄橙	脚部 70	風化
87	高坏		R	橙	脚部 80	No.153。外面風化
88	高坏		R	橙	脚部 70	No.280・281。風化が著しい
89	高坏			橙	脚部 10	風化が著しい

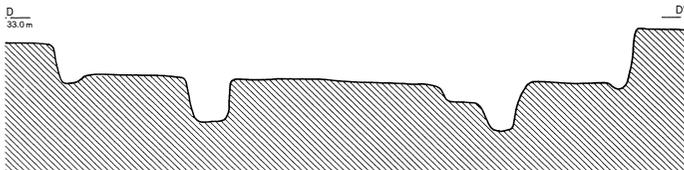
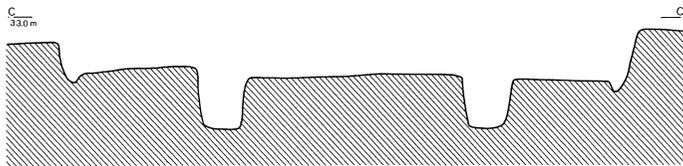
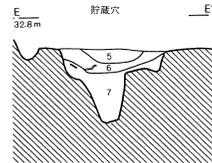
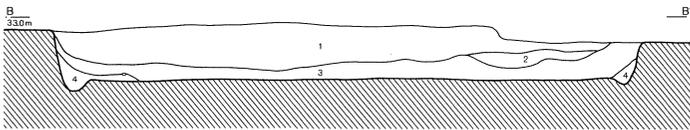
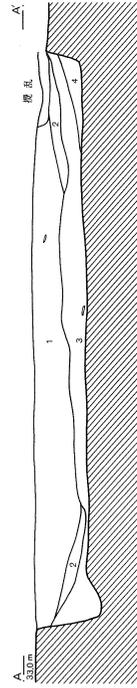
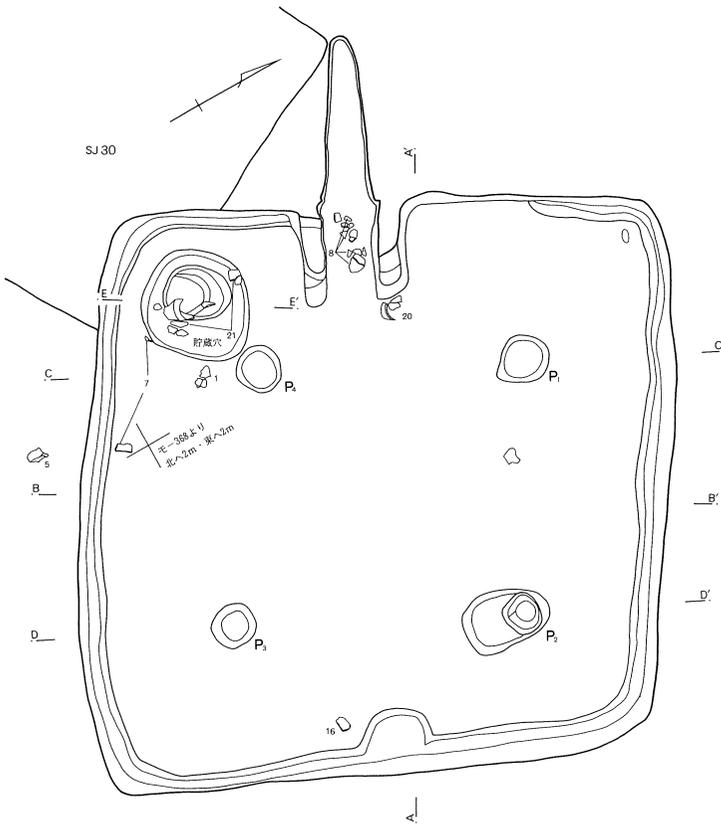
90	ミニチュア	口7.2 底3.0 高3.0	R多	明赤褐	50	No.144。
91	ミニチュア		R多	にふい橙	胴部 30	風化が著しい
92	ミニチュア	底3.2 最大7.0	R多	橙	胴部 50	No.45。内面黒色
93	ミニチュア	口2.6 底2.0 高2.1 最大3.8	R	にふい黄橙	50	
94	ミニチュア	口(6.0) 底(2.2) 高6.9	R多	橙	40	風化
95	手捏土器	口(8.0) 底4.2 高6.4	R	にふい橙	80	外面と内面下半に黒色部分
96	はそう	胴(10.7)	R	橙	20	風化が著しい
97	小型壺	口8.8	R	橙	口縁 70	風化
98	埴	底4.0 胴15.8	R	橙～浅黄橙	胴部 40	No.146・157。
99	埴		R	橙～浅黄橙	胴部 10	外面風化
100	埴	胴16.6	R	橙	胴部 20	No.7。
101	埴	底3.5	R	にふい橙	下半部 40	No.192。
102	埴	底4.0	R	橙	底部 90	No.270。
103	鉢	口17.0 底4.0 高9.7	R+砂多	橙	60	No.6・20。底部ケズリ
104	鉢	口(14.6) 胴15.6	R	橙	60	No.79・103・287。内面風化
105	小型甕	口13.6 底4.3 高12.5 胴15.2	R	橙～にふい橙	80	No.290・292。底部ケズリ 胴部外面下半に黒色部分 粘土紐積み上げ痕
106	甕	口(16.6) 底5.6 高19.7 胴18.2	R	橙	30	No.201・207・208・210。底部ケズリ
107	小型甕	口14.0 底4.6 高14.9 胴15.3	R	橙	90	No.215。底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕
108	小型甕	底5.2	R多	(内)橙 (外)淡橙	底部 60	底部ケズリ 底部付近に黒色部分
109	小型甕	口(12.4) 底4.5 高13.4 胴(14.1)	R	橙～赤褐	40	No.203・カマド。底部ケズリ 胴部内面風化
110	甕	口18.6 底5.2 高17.9	R多	橙	80	No.100・298・306。外面下半に黒色部分
111	甕	口19.0 底5.6 高19.0	R	橙	80	No.299・306。外面中位に黒色部分 粘土紐積み上げ痕
112	壺	口18.6	R+W+砂	橙	口縁 50	No.291。
113	壺	口19.2	R多+W	橙	口縁 80	
114	壺	口21.5	R多+W	橙	口縁 80	
115	壺	口18.2 胴28.4	R多	橙	上半部 60	No.78・81・264。粘土紐積み上げ痕
116	壺	口12.8 胴29.0	W多	橙～にふい黄橙	70	No.5・14・15・22・26・33・266。内面風化 粘土紐積み上げ痕明瞭
117	甕	口(29.0) 底7.2 高24.1 胴29.5	R+砂多	橙	70	No.6・7・8・11・12・13・16・17・18・19・21・23・27・30。底部ケズリ 内面黒色 含有物の違いによる粘土紐積み上げ休止痕明瞭
118	壺	底4.6 胴20.0	R	橙	胴部 80	No.113。底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕

119	甕	口20.6 高29.0	底6.5 胴25.8	B+W	橙～浅黄橙	90	No.29・32・34・271・273・274・277・278・279。底部ケズリ 胴部に黒色部分
120	甕	口18.2	胴26.8	B+R多+W	橙	70	No.65・75・79・85・92・95・107・111。
121	甕	口18.2 高30.5	底7.4 胴27.0	B+R多+W	橙	100	No.309。底部ケズリ 胴部中位に黒色部分
122	甕	口19.0 高29.2	底7.0 胴24.6	R多+W多	にふい赤褐	90	No.310。底部ケズリ
123	甕	口19.8 高28.4	底6.4 胴24.4	R多+砂多	にふい橙～明赤褐	80	No.44・49・55・73・76・256・257。底部ケズリ 胴部中位に黒色部分
124	甕	口18.2 高28.3	底7.2 胴22.6	B+R+W	浅黄橙	80	No.221・カマド。底部周辺に粘土貼付 胴部外面に黒斑
125	甕	口18.9	胴24.2	B+砂	橙～浅黄橙	70	No.223・カマド。胴部外面に黒色部分
126	甕	口18.2		R多+砂多	橙～にふい黄橙	口縁 50	No.167・170。
127	甕	口17.4 高27.8	底7.2 胴24.0	R+砂	にふい橙	90	No.219・カマド。底部ケズリ 胴部中位に黒色部分
128	甕	口17.2 高26.9	底8.4 胴22.9	R+砂	にふい橙	90	No.237・カマド。底部ケズリ 胴部中位に黒色部分
129	甕	口19.4 高28.9	底6.4 胴23.4	R+W多+砂	にふい橙	100	No.220・カマド。底部ケズリ
130	甕	口17.6 高29.8	底7.0 胴21.4	R多+砂多	にふい橙	90	No.173。底部ケズリ 内面に黒色部分
131	甕	底(7.4)		R多+W	(内)にふい黄橙 (外)明赤褐	胴部 50	No.262。内面風化 胴部外面に黒色部分
132	甕	口19.2 高27.3	底5.8 胴22.5	R多	橙	90	No.294。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分 粘土紐積み上げ痕
133	甕	口16.6 高28.2	底4.0 胴22.6	W多	にふい橙～にふい褐	70	No.4・9・10・24・31・39・267・268。底部ケズリ 外面に黒色部分
134	甕	口18.5 高26.6	底8.0 胴21.6	B+R	橙～灰白	80	No.91・98・282。底部ケズリ 外面にスス附着
135	甕	口(20.0)	胴22.0	B+R	(内)にふい黄橙 (外)橙～にふい黄橙	30	

している。カマドは西壁に構築され、しっかりした造りである。全長2.13m、焚き口幅0.45mを測り、袖部は地山を掘り残している。燃烧部は長方形に掘り込まれ、火床面も平坦である。貯蔵穴はカマド南側の南西コーナー部に位置している。南北0.84m・東西0.86m、深さ0.60mで、隅丸方形を呈している。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。遺物は比較的少なく、ほかに編物石1点が出土している。

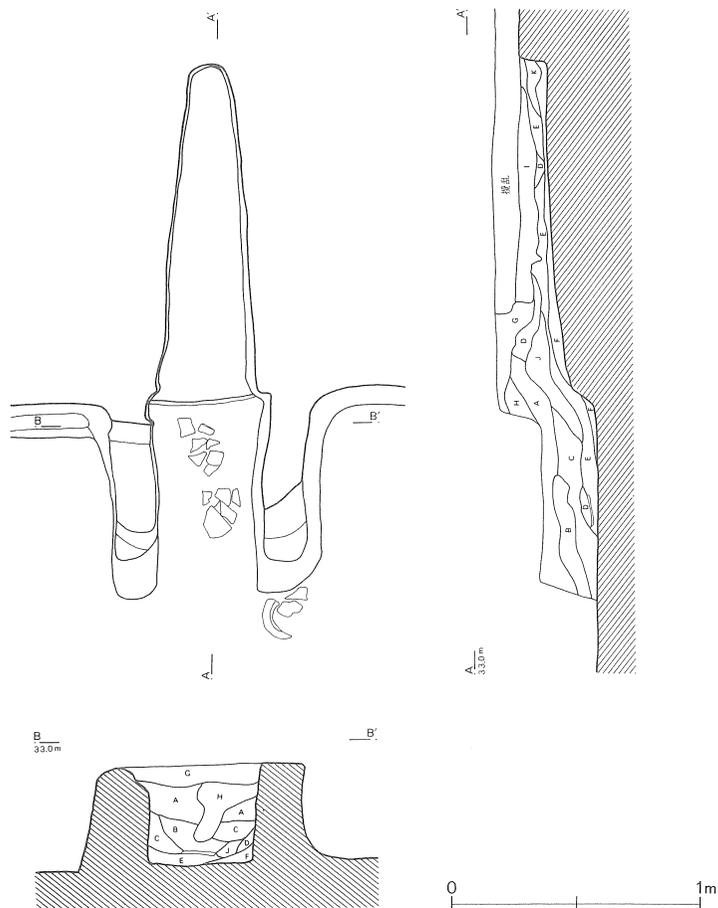
#### 第21号住居跡 (第216・217図)

セー367・368、スー367Gridに位置し、第22号住居跡と重複している。新旧関係は第22号住居跡よりも新しい。規模は主軸辺4.54m・長辺5.52m、深さ0.03～0.13mで、主軸方位はN—87°—Eを測る。削平のため掘り込みが浅く、壁溝は廻っていない。カマドは東壁中央に構築され、全長2.36m、焚き口幅0.42mを測る。袖部は地山を掘り残し、火床面はよく焼けている。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に位置している。南北0.81m・東西0.69m、深さ0.63mで、楕円形を呈している。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。遺物はカマドおよび貯蔵穴から出土し、石製白玉1点、土玉3点がある。



- 第20号住居跡
- 1 暗黄褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 暗黄色土 焼土粒子(5mm)多く含む。しまり・粘性あり。
  - 3 暗褐色土 焼土粒子(5mm)少量、炭化物粒子(5mm)含む。しまり・粘性あり。
  - 4 褐色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
  - 5 褐色土 焼土粒子わずかに含む。
  - 6 暗褐色土 焼土粒子、炭化物多く含む。
  - 7 灰褐色土 灰色砂粒子多量含む。

第213図 第20号住居跡(1)



第20号住居跡カマド  
 A 暗黄褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。  
 B 暗黄褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。  
 C 暗黄褐色土 焼土粒子(3~5mm)多量、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。  
 D 橙色土 よく焼ひしまった焼土主体。  
 E 暗灰色土 炭化物主体。しまり・粘性弱。  
 F 暗黄灰色土 焼土粒子若干含む。  
 G 褐色土 焼土粒子わずかに含む。  
 H 暗黄褐色土 Aよりやや明るい。焼土・炭化物粒子少量含む。  
 I 暗茶褐色土 焼土粒子(5mm)多量含む。しまりあり、粘性強。  
 J 暗灰褐色土 焼土ブロック(3~4cm)少量含む。しまり・粘性あり。  
 K 暗褐色土 焼土ブロック(2~3cm)少量含む。しまり・粘性あり。

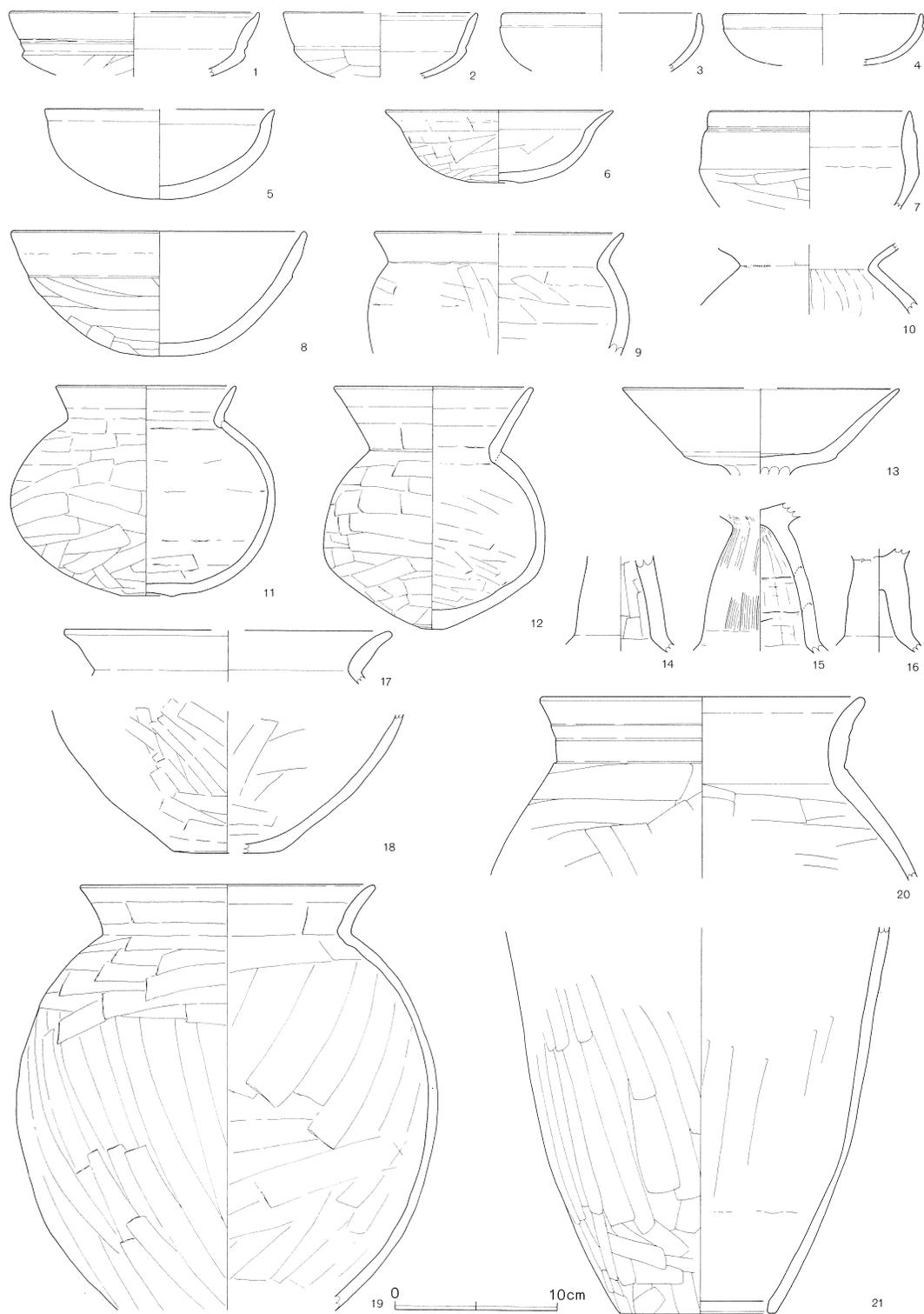
第214図 第20号住居跡(2)

### 第22住居跡 (第219・220図)

モ-367、セ-367・368、ス-367Gridに位置し、第20・21号住居跡と重複している。規模は、主軸辺6.33m・短辺6.12m、深さ0.21~0.38mで、主軸方位はN-34°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.07~0.52m、深さ0.11~0.58mの壁溝が途切れながら廻っている。カマドは北東壁中央に構築され、現存長1.98m、焚き口幅0.52mを測る。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は方形を呈している。貯蔵穴はカマド西側に位置している。楕円形で、南北0.71m・東西0.63m、深さ0.34mの規模である。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。貼床はしっかりしているが、噴砂の亀裂によって凹凸がある。北東コーナー部床面直上に焼土が確認されている。遺物はカマド周辺部から出土し、石製白玉2点、土製不明品1点がある。

### 第23・24号住居跡 (第226図)

ス-368・369、ン-368・369Gridに位置している。第23号住居跡の大部分は現道下にあり、2回



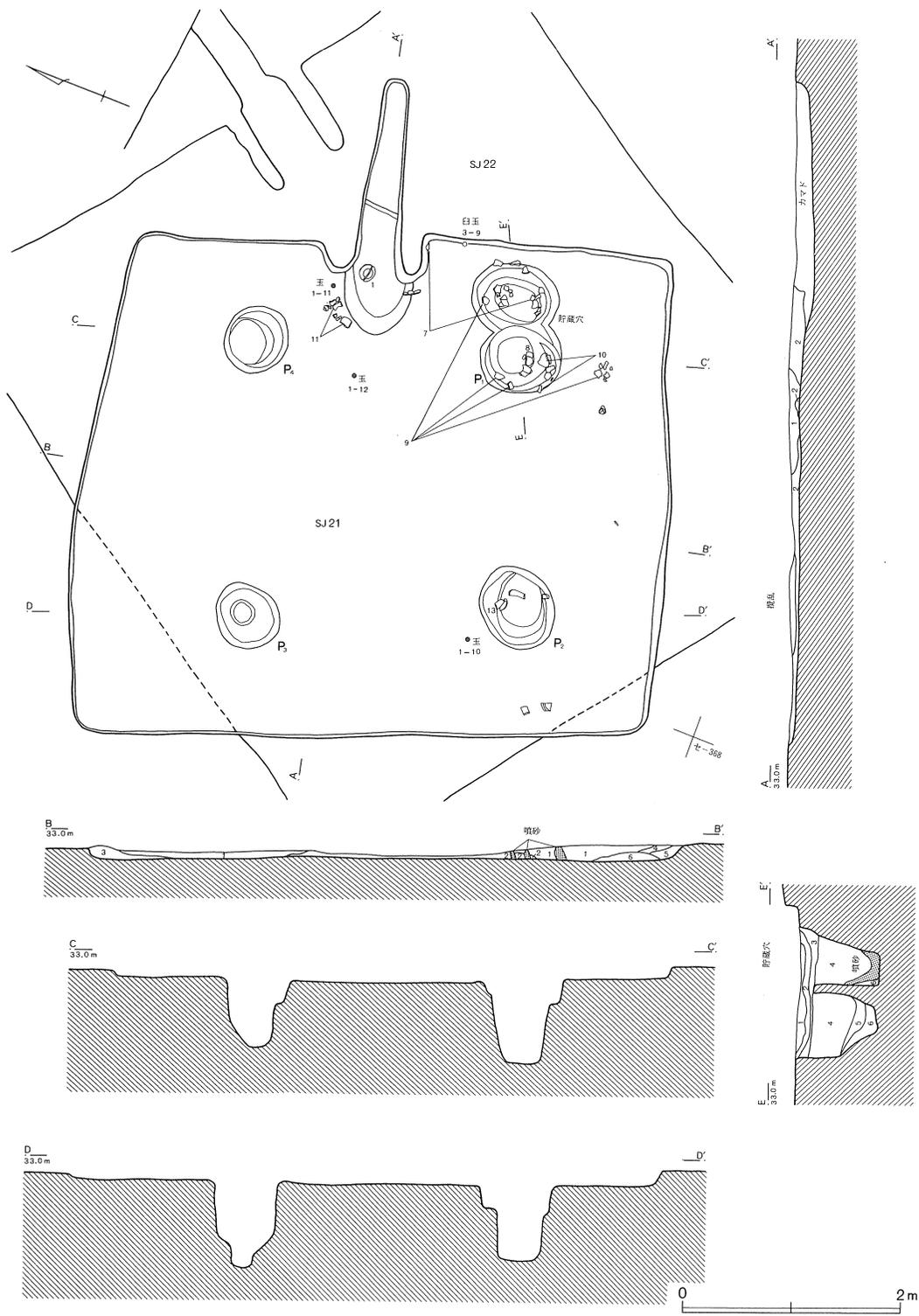
第215图 第20号住居跡出土遺物

第20号住居跡 (第215区)

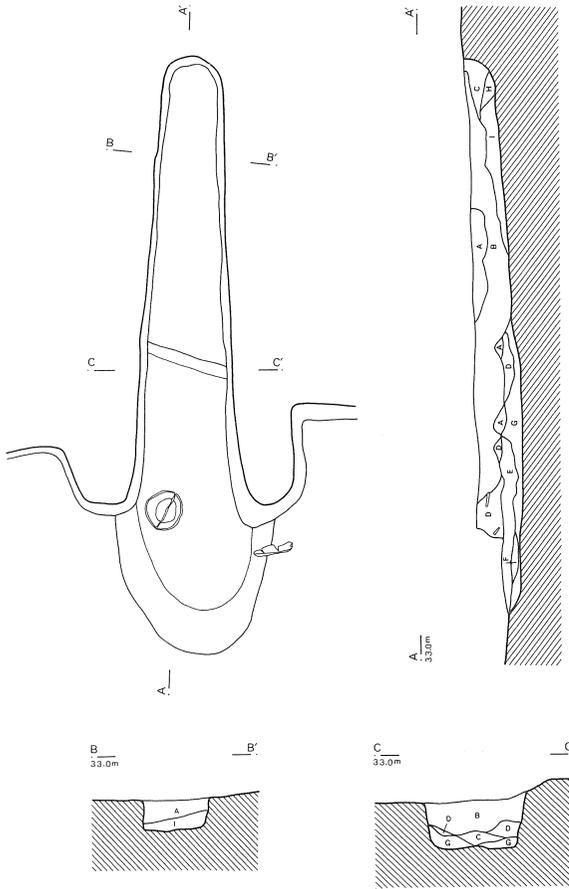
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(15.4)	B+R	にふい橙	30	No.3。
2	坏	口(12.0)	B	浅黄橙	10	
3	坏	口(12.2)	R	橙	20	風化が著しい
4	坏	口(12.2)	R	橙	20	風化が著しい
5	坏	口(14.2) 高5.5	R	橙～にふい黄橙	30	No.9。風化が著しい
6	坏	口(7.0) 底3.4 高4.4	R多+W+W'	明赤褐	30	外面に黒色部分
7	坏	口12.2	B+R	橙	60	No.2・4。
8	碗	口18.2 高7.6	R+砂多	橙	80	No.11・12・16・18・カマド。底部外面に黒色部分
9	碗	口(15.6)	B+W+W'	橙	口縁 30	No.16。
10	小型壺		B	(内)橙 (外)浅黄橙	頸部 10	
11	小型壺	口11.2 底3.2 高12.9 胴16.4	B+W	(内)橙 (外)橙～明赤褐	90	No.32。内外面に黒色部分
12	小型壺	口12.4 底1.4 高14.9 胴14.2	W+W'	(内)橙～明赤褐 (外)橙～にふい橙	100	No.50。胴部下半に黒色部分
13	高坏	口(17.0)	R多	(内)橙 (外)橙～黄橙	坏部 40	No.3。風化が著しい
14	高坏		R	橙	脚部 20	風化が著しい
15	高坏		B+W	(内)橙 (外)橙～黄橙	脚部 60	No.15。
16	高坏		R	橙	脚部 60	No.1。
17	甕	口(20.2)	砂	浅黄橙	口縁 10	
18	甕	底(6.6)	W'	(内)橙 (外)橙～明赤褐	底部 20	内外面に黒色部分
19	甕	口18.2 胴26.1	W+砂多	(内)浅黄橙 (外)橙～浅黄橙	上半部 50	No.14・20・46。内外面にうすい黒色部分
20	壺	口20.0	R多+砂	橙	口縁 80	No.19。
21	甌	底9.7	R	橙～浅黄橙	50	No.7・10。外面にスス付着

に分けて調査を行なっている。そのため道路建設による削平を大きく受け、カマド周辺部のみ貼床が検出されているにすぎない。第23号住居跡は第153・155号住居跡と、第24号住居跡は第28号住居跡と重複している。新旧関係は、第23号住居跡は第24・153・155号住居跡より新しく、第24号住居跡は第28号住居跡よりも古い。

第23号住居跡は主軸方向に拡張され、これに伴う壁溝（幅0.04～0.41m、深さ0.09～0.19m）が2条検出されている。規模は拡張後が主軸辺5.40m・長辺5.94m、深さ0.09～0.22m、拡張前は主軸辺4.29mであり、主軸方位はN-35°-Eを測る。カマドは北壁に構築され、全長が1.63m、焚き口幅は0.75mある。袖部は地山を掘り残しているが規模は小さい。燃烧部は鶏卵形で、深く掘り込まれている。煙道部は短い。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に位置し、南北1.08m・東西



第216图 第21号住居跡(1)



第21号住居跡カマド

- A 褐色土 暗赤色焼土ブロック(3~5cm)多量含む。しまり・粘性あり。
- B 褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- C 暗灰褐色土 焼土粒子(3mm)少量、炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性あり。
- D 暗茶褐色土 焼土ブロック(5~30mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- E 暗灰色土 焼土ブロック(5~20mm)、多量の炭化物微粒子含む。しまり・粘性やや弱。
- F 暗灰色土 炭化物微粒子極多量含む。しまり・粘性弱。
- G 暗赤褐色土 焼土主体。しまりあり、粘性あり。
- H 暗黄褐色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- I 暗茶褐色土 焼土粒子(10mm)多く含む。しまり・粘性あり。

第21号住居跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子(3mm)、少量の炭化物微粒子含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗黄褐色土 炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗茶褐色土 焼土粒子(3~10mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗褐色土 焼土粒子(3~10mm)、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。

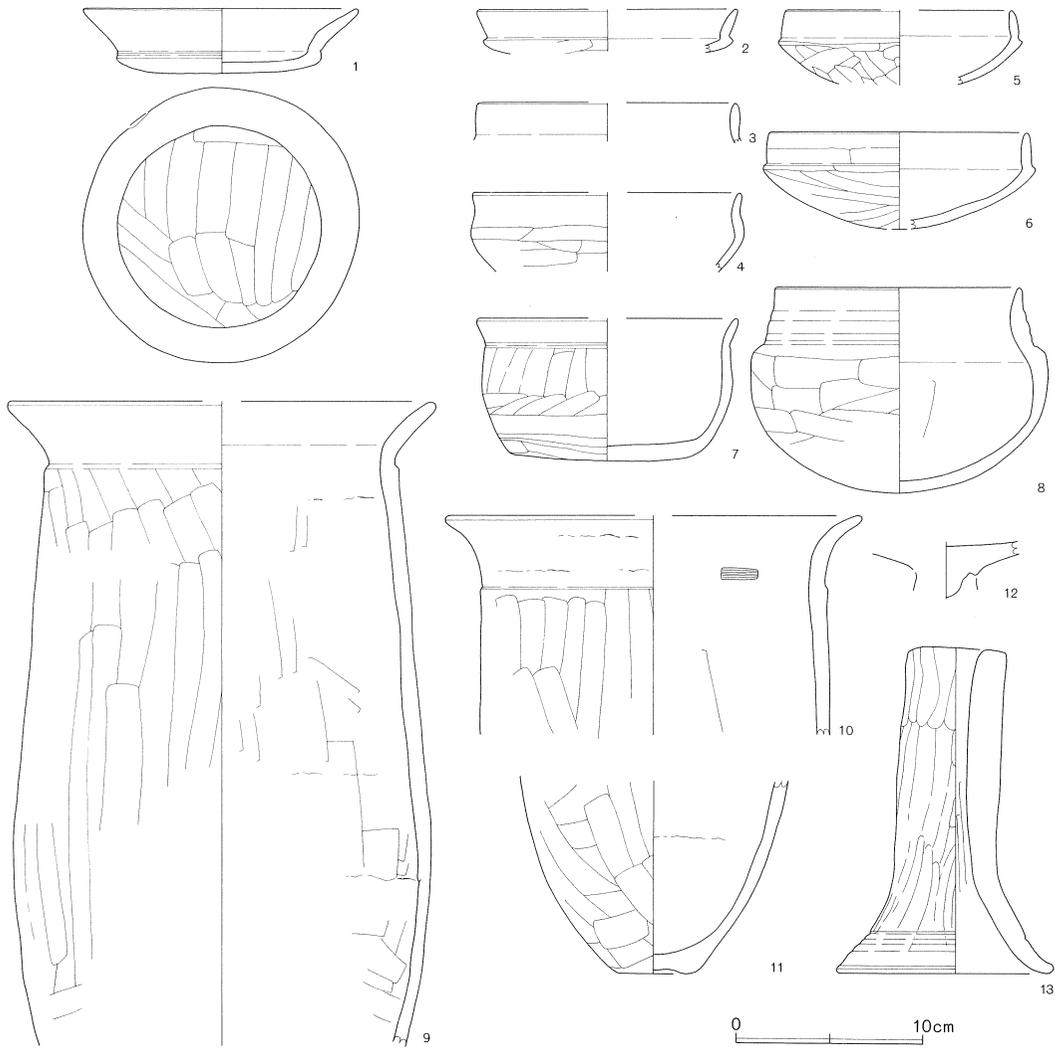
第21号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗灰色土 炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗灰褐色土 焼土粒子(3mm)、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗茶褐色土 焼土粒子(3~5mm)、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗黄褐色土 焼土粒子(3mm)微量含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗灰褐色土 焼土粒子(3mm)微量含む。しまり・粘性あり。

第217図 第21号住居跡(2)

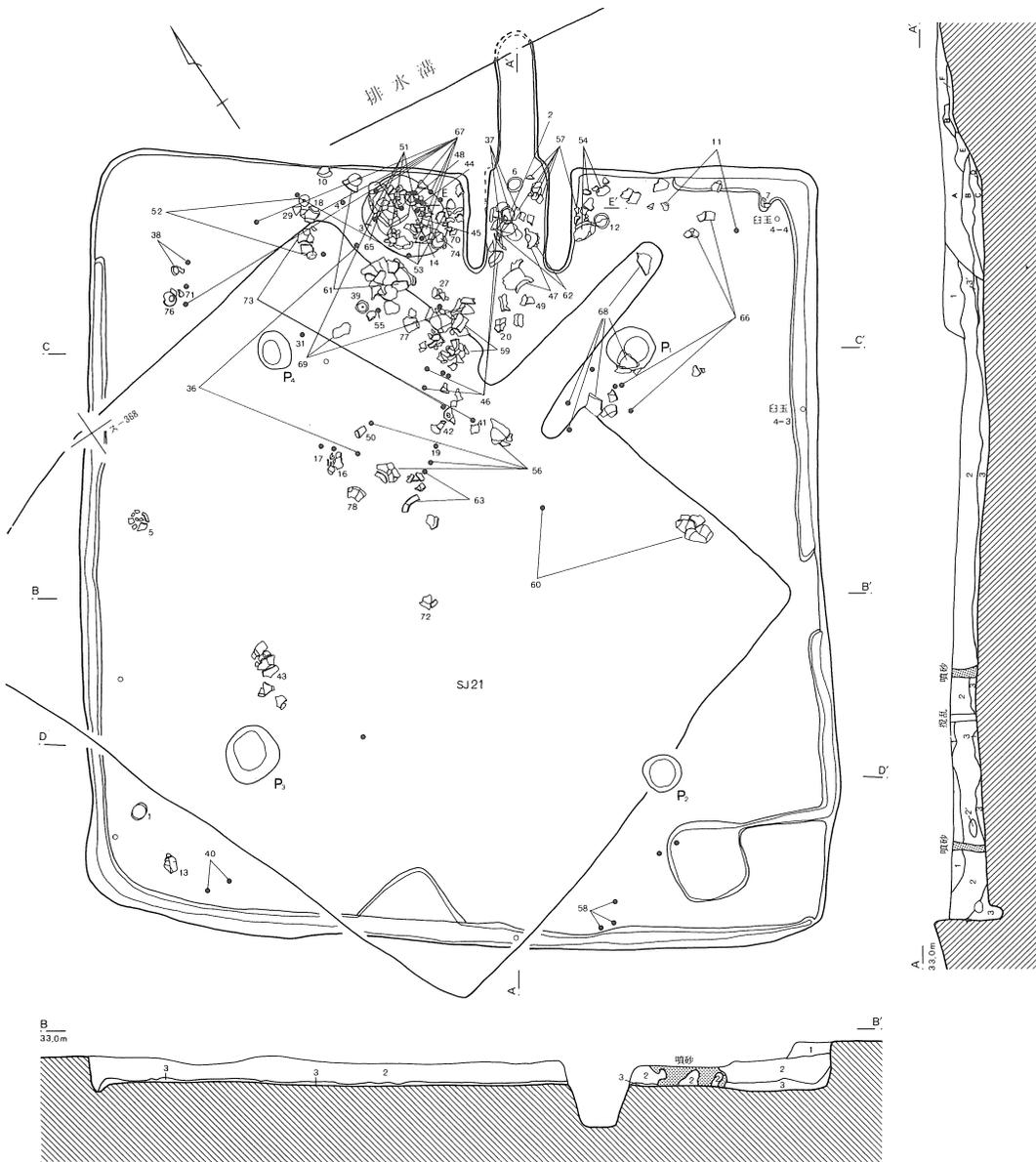
第21号住居跡(第218図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口14.7 高3.5	B多+R	橙	100	No.1.
2	坏	口(14.0)	B+R	(内)橙 (外)浅黄橙	10	内面風化
3	坏	口(13.8)		橙	口縁 30	
4	坏	口(14.4)	R	橙	30	風化が著しい
5	坏	口(12.0)	B	浅黄橙	30	



第218図 第21号住居跡出土遺物

6	坏	口13.6	R	(内)橙 (外)にふい黄橙	20	外面に黒色部分
7	碗	口(14.0) 底9.6 高7.6	砂	橙	50	No.13・28。内面黒色
8	碗	口13.0 高11.0	砂	橙～褐灰	80	No.14。外面に黒色部分
9	甗	口(22.8)	B	橙	30	No.12・17・18・19。粘土紐積み上げ痕
10	甗	口(22.2)	B	にふい橙	口縁 10	No.15・16。外面黒色
11	甗	底4.0	砂	(内)橙 (外)淡橙	底部 80	No.2・4。底部ケズリ 外面に黒色部分 内面風化
12	高坏		W	(内)橙 (外)にふい橙	坏部 10	坏部と脚部の接合痕明瞭
13	支脚	上端5.2 下端11.6 高17.4	R+W	橙	70	No.24。

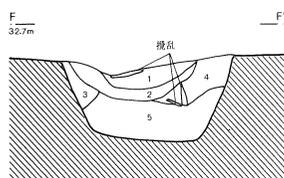
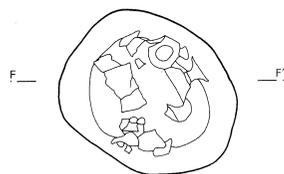
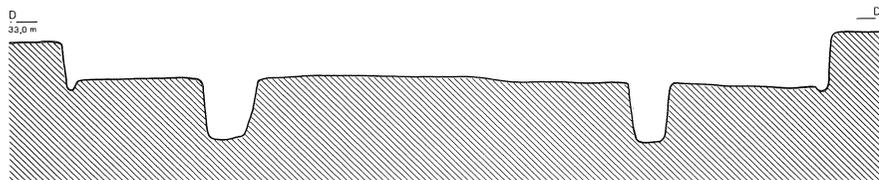
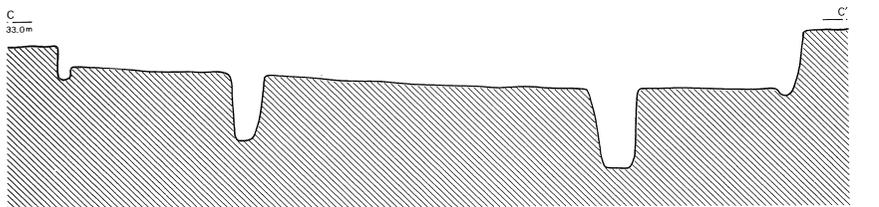


第22号住居跡

- 1 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 2' 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子集中部分。
- 3 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。軟質。
- 3' 黒褐色土 炭化物主体。焼土ブロック若干混入。軟質。

0 2m

第219図 第22号住居跡(1)



第22号住居跡カマド

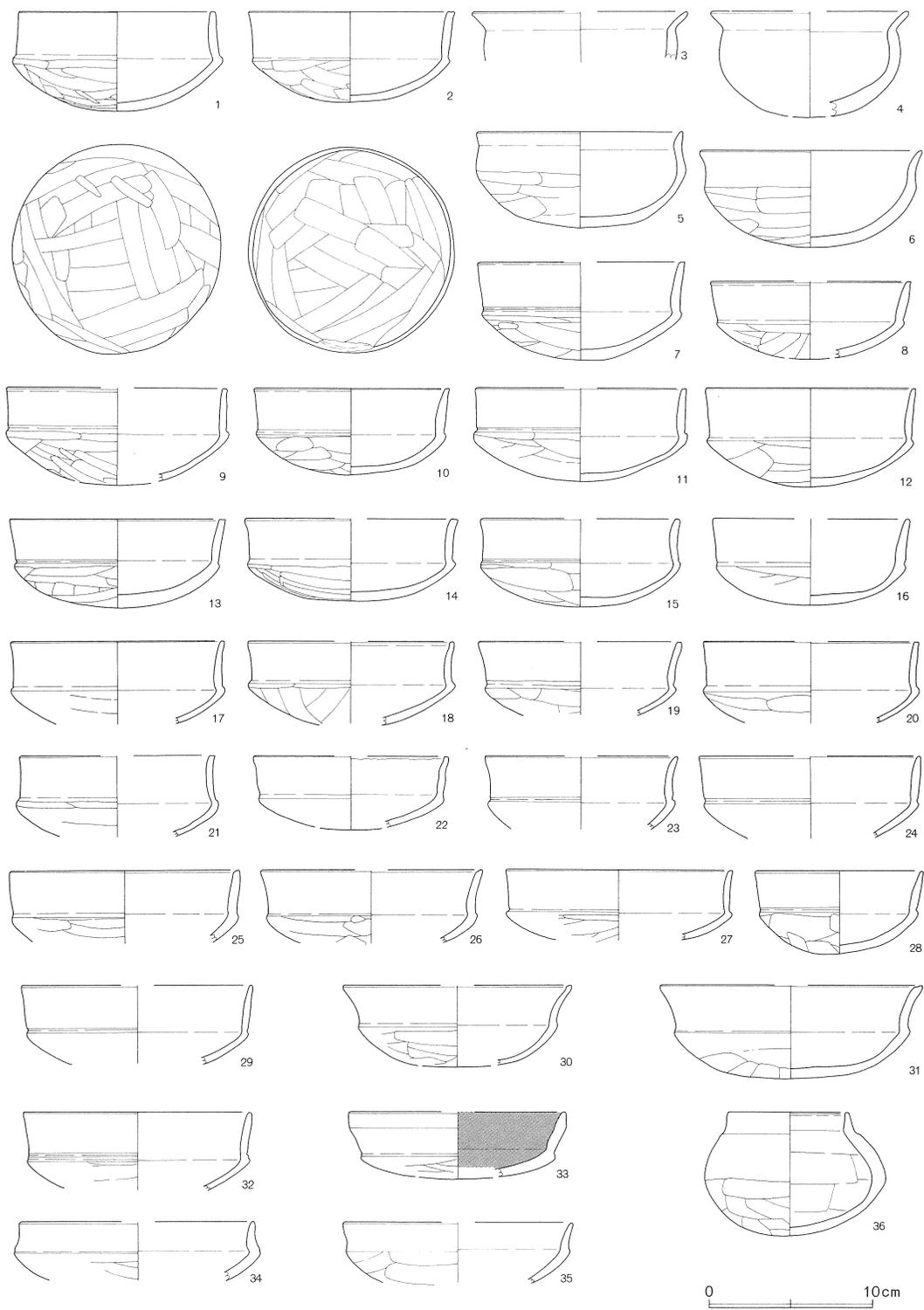
- A 暗灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物若干含む。しまりあり。
- B 暗赤褐色土 焼土粒子・ブロック主体。しまり弱。
- C 暗灰色土 灰層。焼土・炭化物粒子若干含む。しまり弱、軟質。
- D 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。軟質。
- E 暗灰赤褐色土 焼土粒子多く含む。しまりあり。
- F 灰褐色土 灰、焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。

第22号住居跡貯蔵穴

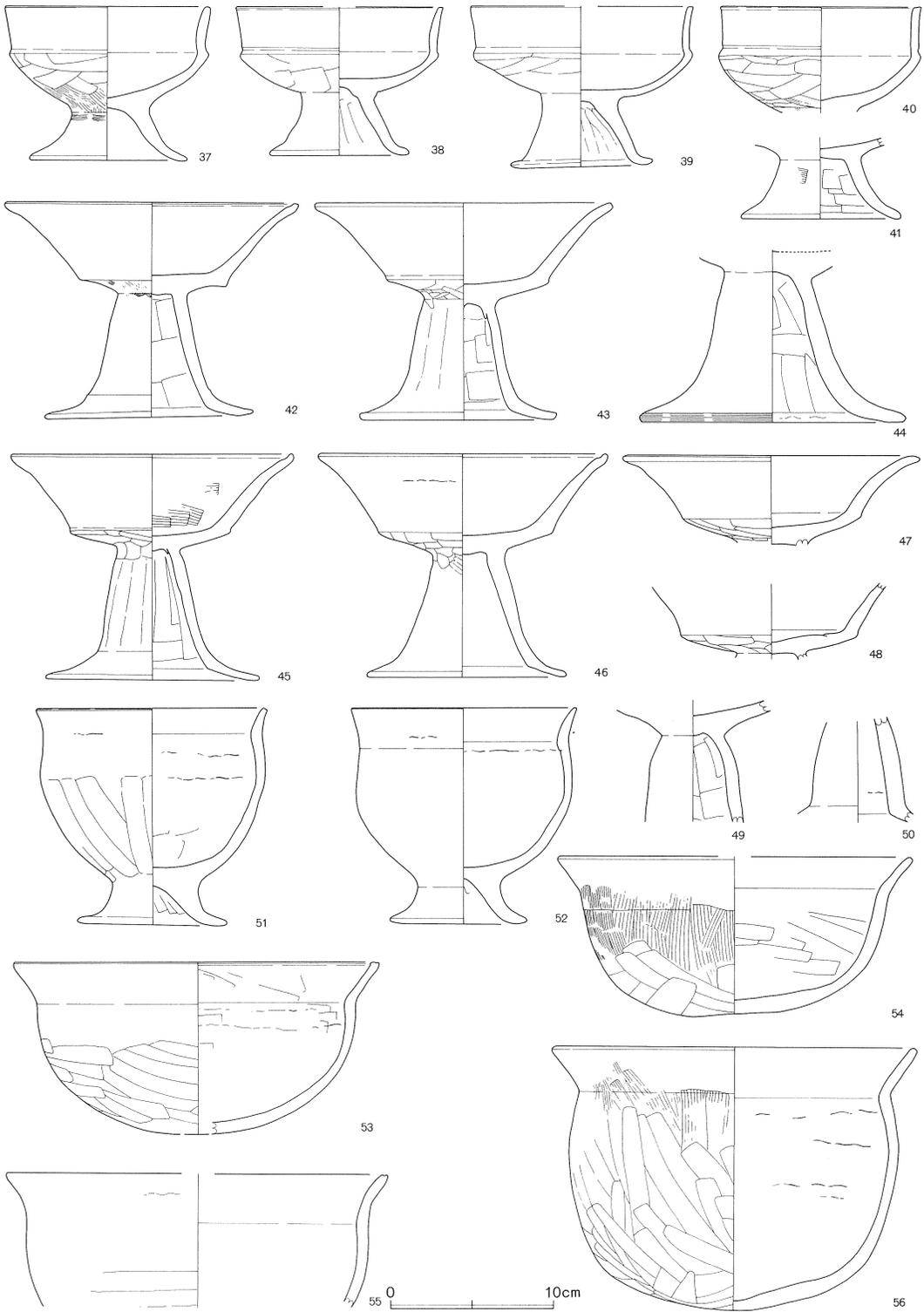
- 1 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 2 暗灰色土 焼土・炭化物粒子多く含む。一部焼土ブロック混入。しまり弱。
- 3 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 4 灰色土 焼土・炭化物粒子若干含む。黄褐色土ブロック混入。しまり弱。
- 5 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまり弱。



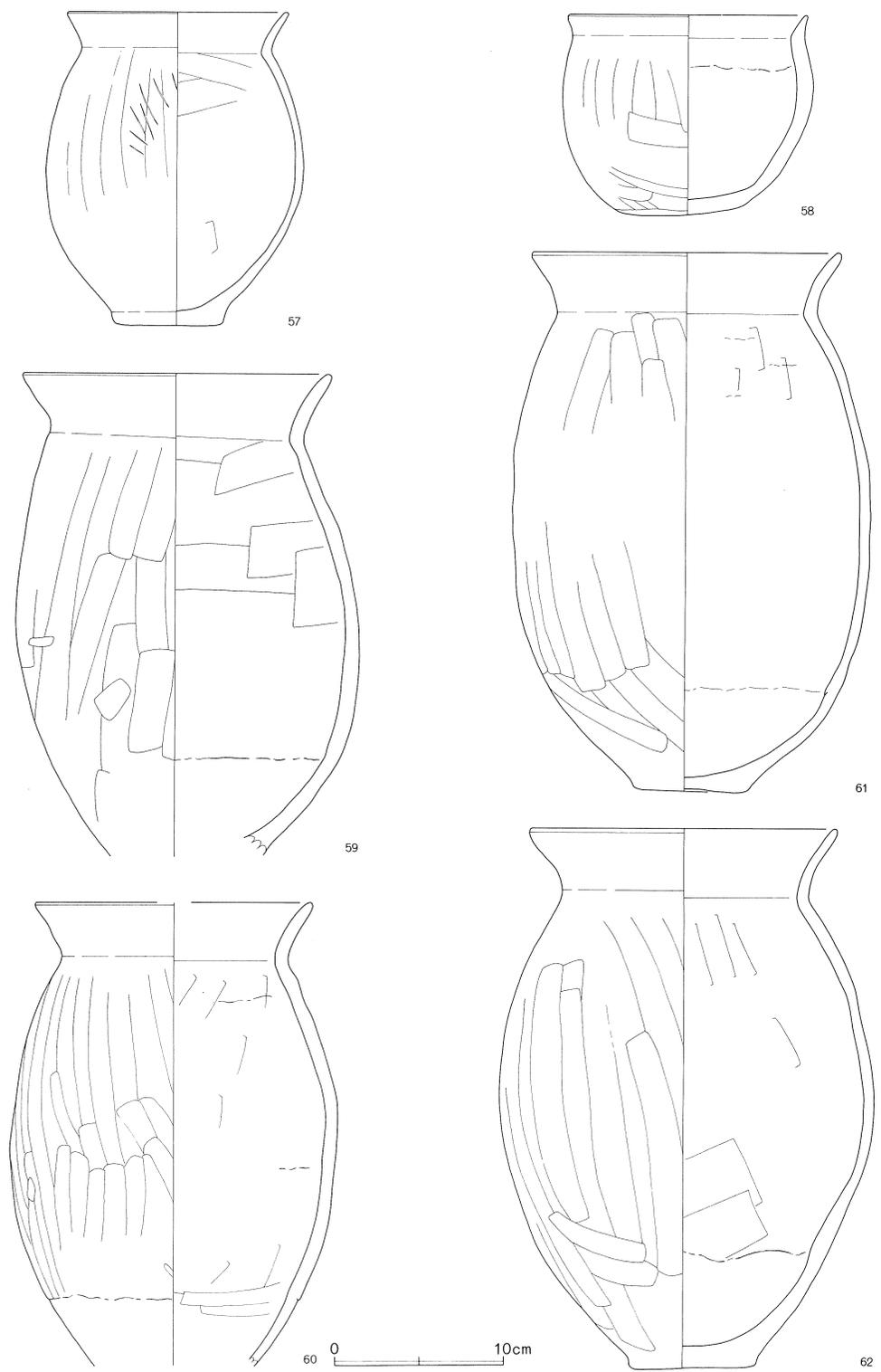
第220図 第22号住居跡(2)



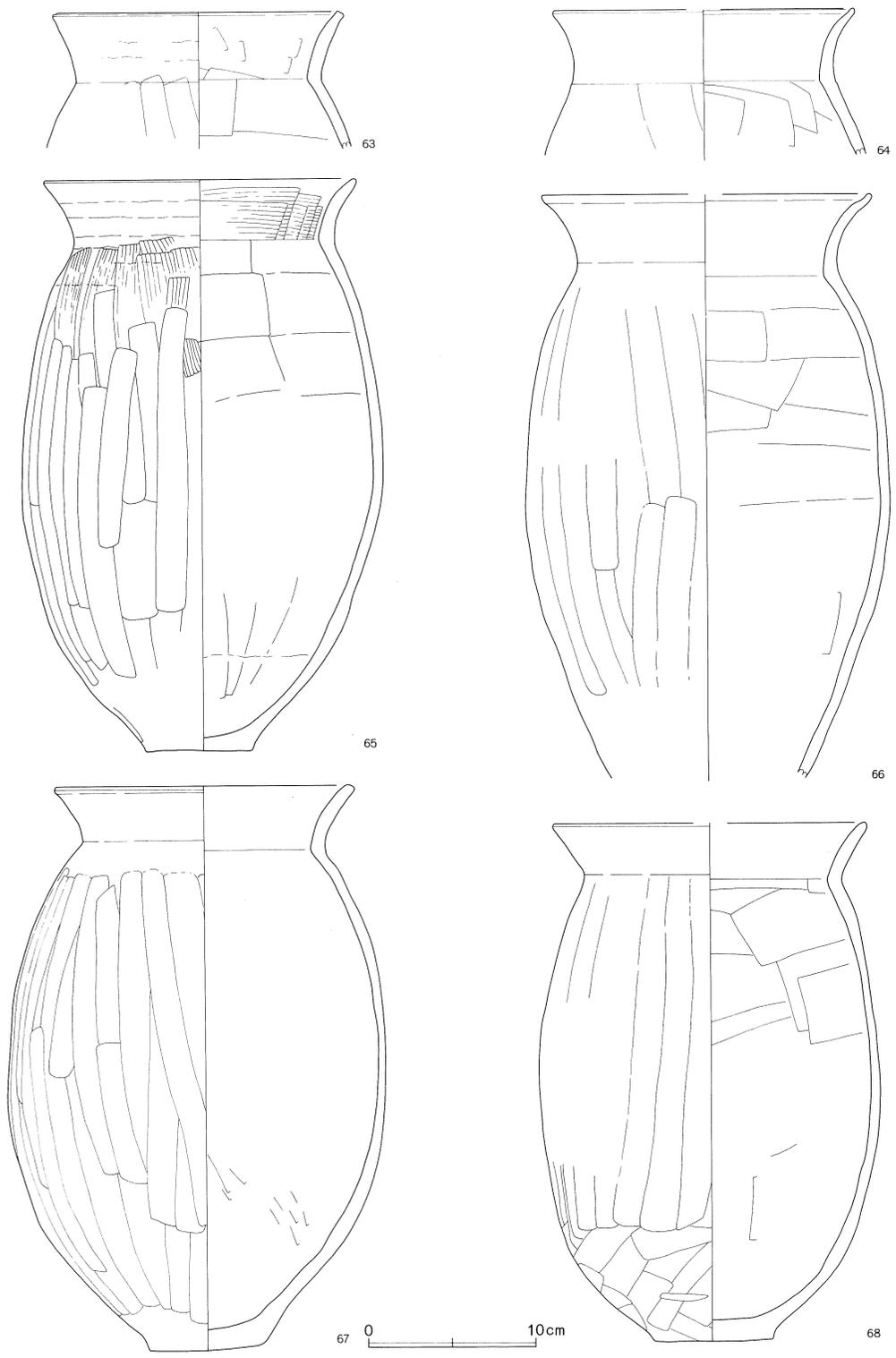
第221图 第22号住居跡出土遺物(1)



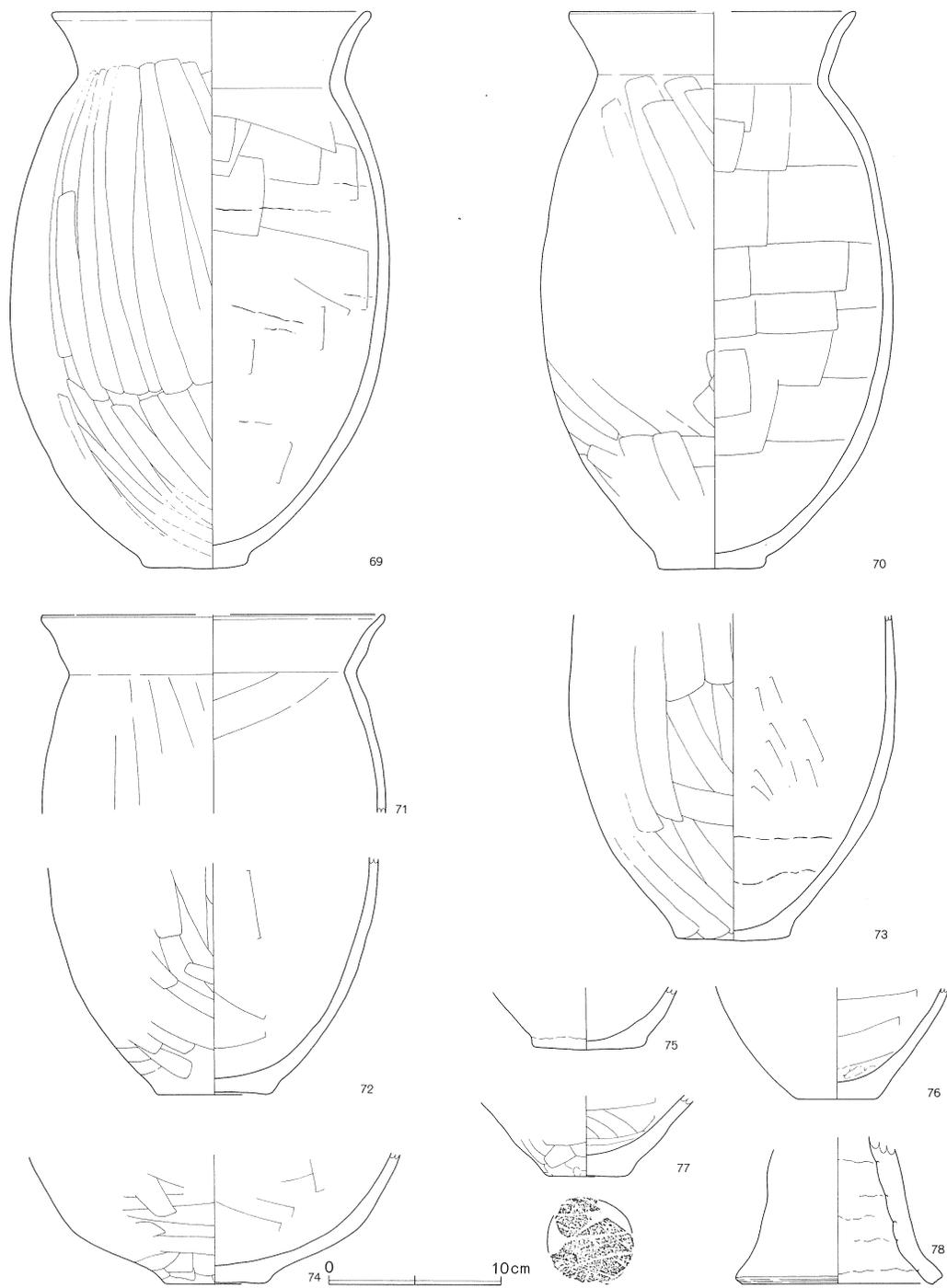
第222図 第22号住居跡出土遺物(2)



第223図 第22号住居跡出土遺物(3)



第224図 第22号住居跡出土遺物(4)



第225图 第22号住居跡出土遺物(5)

第22号住居跡 (第221~225区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.0 高6.1	R	橙	100	No.11。口縁端面トリ 外面に黒色部分
2	坏	口12.6 高5.5	B+R+W	橙	100	No.129。口縁端面トリ 内面に黒色の付着物
3	碗	口(13.2)	R	赤	口縁 40	No.137・カマド・貯蔵穴。
4	碗	口(12.0)	R	赤	20	No.37。風化
5	碗	口12.6 高5.9	R	橙	70	No.21。外面に黒色部分
6	碗	口13.5 高5.9	R	橙	100	No.86。外面に黒色部分
7	坏	口(12.6) 高6.0	R	橙	40	No.123。口縁端面トリ
8	坏	口(12.2)	R	淡橙	20	口縁端面トリ
9	坏	口(13.5)	R+W	橙	30	口縁端面トリ
10	坏	口12.0 高5.3	R	橙	60	No.38。口縁端面トリ
11	坏	口(13.0) 高5.7	B	橙	30	No.116・119。口縁端面トリ
12	坏	口12.8 高6.1	R	橙	95	No.127。
13	坏	口13.2 高5.4	B	橙	100	No.9。口縁端面トリ
14	坏	口(13.0) 高5.0	R	橙~にふい赤褐	30	No.144・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分
15	坏	口(12.2) 高5.4	R	橙	30	風化 外面黒色
16	坏	口(12.0) 高5.3	R	橙	30	No.63。風化
17	坏	口13.0	R	橙	40	No.63。風化
18	坏	口(12.6)	R	橙	40	No.32。内面風化
19	坏	口(12.5)	B+R多+W	橙	30	No.68。
20	坏	口(13.1)	R	にふい橙	20	No.100。口縁端面トリ
21	坏	口(12.0)		にふい橙	20	口縁端面トリ
22	坏	口(12.0)	R	橙	30	風化が著しい
23	坏	口(11.8)	R	橙	20	口縁端面トリ 風化が著しい
24	坏	口(13.5)	R+W	橙	30	風化が著しい
25	坏	口14.0	R	橙	10	口縁端面トリ
26	坏	口(13.6)	R	橙	20	口縁端面トリ
27	坏	口14.0	R	橙	30	No.81。内面風化
28	坏	口10.2 高5.1	B+R多	橙	90	
29	坏	口(14.2)	R	橙	40	No.30・カマド。風化が著しい

30	坏	口(14.0)	R	(内)橙 (外)にふい橙	10	口縁端部面トリ
31	坏	口(16.0) 高5.7	R	橙	40	No.51。口縁端部面トリ 内面風化
32	坏	口14.0	R多+W	橙	20	口縁端部面トリ 風化が著しい
33	坏	口(13.2)	B	(内)黒 (外)赤	60	内面黒色
34	坏	口(14.2)	R+W	橙	10	外面に黒色部分
35	坏	口(14.0)	R	橙～にふい橙	20	風化が著しい
36	碗	口7.3 高7.5	R	にふい橙	80	No.36-60。口縁端部面トリ
37	高坏	口12.5 脚9.6 高9.4	R	橙	80	No.91-92-93。口縁端部面トリ
38	高坏	口(12.6) 脚8.6 高9.1	B+R多	橙	50	No.25-26。口縁端部面トリ 口縁部外面に黒斑
39	高坏	口(13.6) 脚9.8 高9.9	R	橙	70	No.53。口縁端部面トリ
40	高坏	口12.2	R	にふい赤褐	坏部 80	No.7-8。口縁端部面トリ
41	高坏	脚9.7	B+R	(内)黒褐 (外)橙	脚部 100	No.102。内面黒色
42	高坏	口18.0 脚12.8 高13.2	R	(内)にふい橙 (外)橙	70	No.69。
43	高坏	口18.2 脚12.2 高13.3	R	浅黄橙	90	No.12。口縁端部面トリ
44	高坏	脚16.2	R	橙	脚部 80	No.140-142・貯蔵穴。
45	高坏	口17.2 脚13.1 高13.8	B+R	橙～浅黄橙	80	No.143・貯蔵穴。
46	高坏	口17.7 脚12.3 高13.6	R	橙～にふい黄橙	70	No.73-76-90-94。
47	高坏	口18.2	R	橙	坏部 90	No.95-96。
48	高坏		B+R	橙	坏部 80	No.141・貯蔵穴。
49	高坏		R	橙	脚部 60	No.98。外面風化
50	高坏		R	橙	脚部 80	No.59。風化が著しい
51	高坏	口14.0 脚9.2 高13.3	R	橙	90	No.42-43-136・貯蔵穴。口縁端部面トリ 粘土紐積み上げ痕
52	高坏	口13.8 脚8.4 高13.2	B+R	橙	50	No.29-34。風化が著しい
53	鉢	口22.4	B+R多	橙	30	No.28-85-131。口縁端部面トリ 粘土紐 積み上げ痕
54	鉢	口(21.6) 底5.3 高9.6	R	橙	50	No.122-124-126。底部外面黒色
55	鉢	口(23.4)	R+W	橙	30	No.55。内面黒色
56	鉢	口22.4 高16.1	R	橙	70	No.58-64-65-103。粘土紐積み上げ痕
57	小型甕	口13.0 底6.6 高18.5 胴15.2	R+砂多	赤～明褐灰	60	No.87-88-89-91-125・カマド。底部ケズリ 風化が著しい 口縁部と底部に黒色 部分
58	小型甕	口14.2 底7.0 高11.8	B多+R多+W	橙	70	No.3-4-5。底部ケズリ 底部外面黒色
59	甕	口18.2 胴20.3	R+砂多	明赤褐	60	No.77-78。

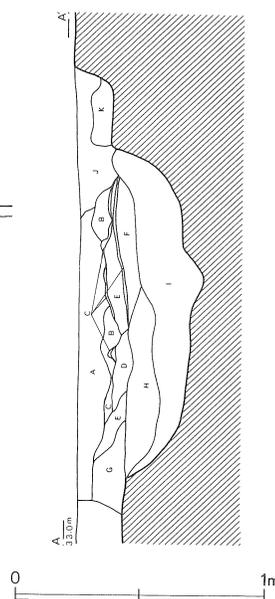
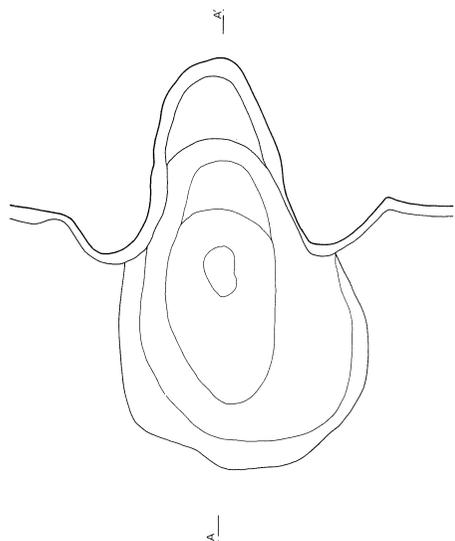
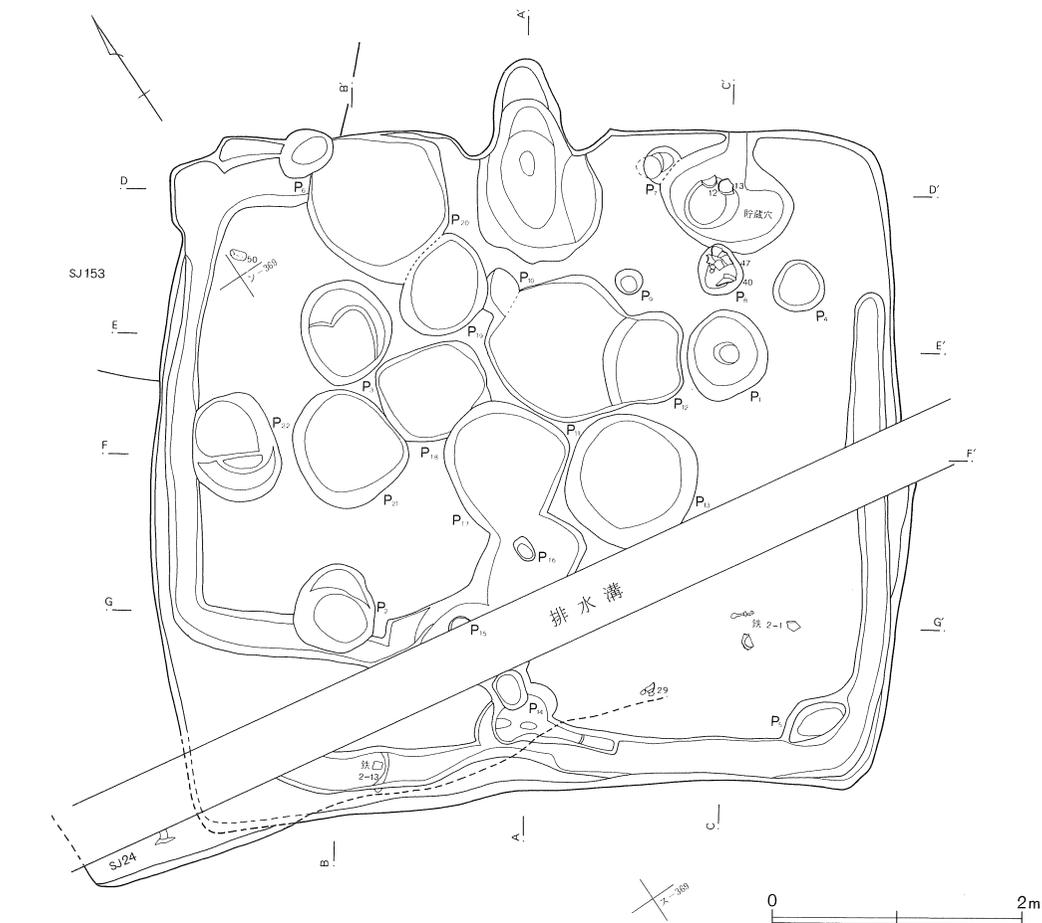
60	甕	口(16.4) 胴19.4	砂	橙~にふい橙	70	No.16・17・139・貯蔵穴。胴部下半が赤褐色を呈する
61	甕	口18.4 底7.0 高31.7 胴21.4	R多+砂多	橙	90	No.39・50。底部ケズリ 風化
62	甕	口18.2 底7.5 高31.8 胴22.2	B+R+W	橙	80	No.93・128・カマド。底部ケズリ 口縁部・胴部外面に黒色部分
63	甕	口17.4	R	浅黄橙	口縁 40	No.19・66。
64	甕	口(18.0)	R+砂	橙	口縁 10	
65	甕	口18.5 底6.4 高34.0 胴21.6	R	にふい橙	90	No.138・貯蔵穴。底部ケズリ 胴部内外面に黒色部分
66	甕	口(19.6) 胴21.8	R	橙	30	No.107・108・114・115。胴部下半に黒色部分
67	甕	口18.0 底7.0 高33.6 胴22.4	B+R多	橙	90	No.23・27・31・41・45・46・48・130・132・カマド・貯蔵穴。底部ケズリ 胴部外面下半に黒色部分
68	甕	口(18.7) 底7.2 高30.9 胴20.4	砂	橙	70	No.104・105・106・110・113。底部ケズリ 胴部・底部外面に黒色部分
69	甕	口18.2 底6.2 高32.2 胴22.0	R多+砂	橙	90	No.40・52・79・カマド。底部ケズリ 胴部外面下半に黒色部分
70	甕	口(16.6) 底6.2 高32.2 胴20.4	R+砂	にふい橙	70	No.84・カマド。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
71	甕	口(20.0)	W	橙	口縁 20	No.24。
72	甕	底6.8	砂	(内)橙~にふい橙 (外)赤褐	底部 40	No.14。底部ケズリ 底部外面に黒色部分
73	甕	底6.5	B+R+W	(内)橙 (外)にふい橙	下半部 60	No.33・70・101。底部ケズリ 外面に黒色部分
74	壺	底6.0	R	橙	底部 30	No.135・貯蔵穴。底部ケズリ
75	甕	底6.5	R	(内)にふい黄橙 (外)にふい橙	底部 50	底部ケズリ 外面風化が著しい
76	甕	底4.6	W'+砂	(内)にふい黄橙 (外)浅黄橙	底部 80	No.22。外面に黒色部分 外面風化
77	甕	底4.6	砂	橙	底部 80	No.56。底部木葉痕
78	支脚	下端12.0	R	橙	脚部 90	No.20。粘土紐積み上げ痕明瞭

0.95m、深さ0.67mを測る楕円形である。ピットはP1~P3が拡張後の柱穴で、ほかは床下土坑状のものである。遺物は鉄製の鎌1点、不明品1点、8.1×9.8×4.5cm・500gの磨石1点、編物石4点が出土している。

第24号住居跡は第23号住居跡との重複と道路建設の削平によって、南西コーナー部のみ検出されている。そのため規模等の詳細は不明で、出土遺物も少ない。

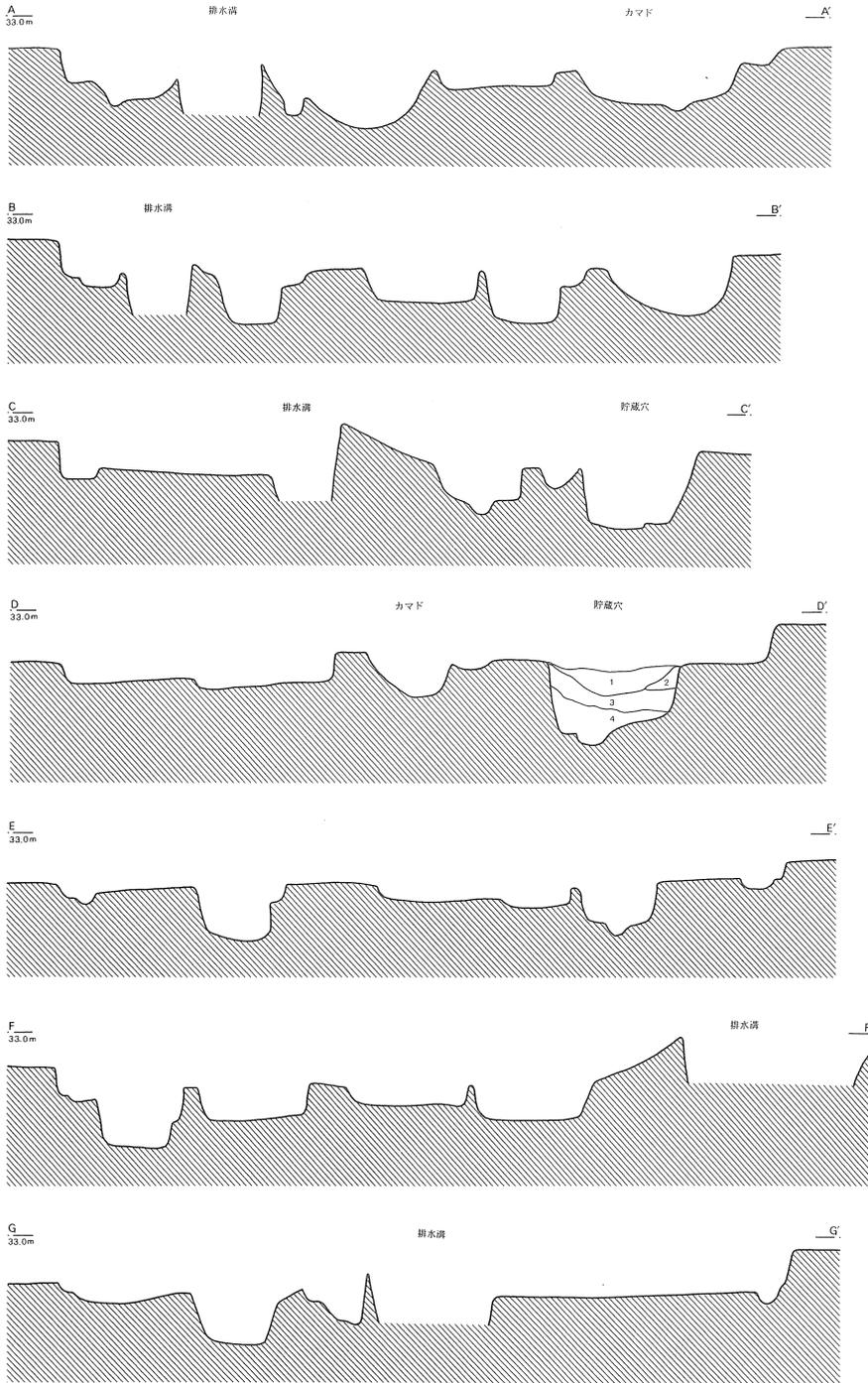
#### 第25号住居跡 (第230・231図)

モ—369、セ—369・370、ス—369Gridに位置し、重複する第29・34号住居跡よりも新しい。噴砂の亀裂によって、床面の凹凸が激しい。規模は主軸辺3.61m・長辺6.47m、深さ0.16~0.98mで、主軸辺が極端に短い。主軸方位はN—46°—Wを測る。壁溝は廻っていない。カマドは北西壁に構築され、全長0.99m、焚き口幅0.61mである。地山を掘り残した袖部で、燃烧部は鶏卵形を呈している。円形の貯蔵穴がカマド東脇に設置され、南北0.75m・東西0.70m、深さ0.34mの規模である。ピットは4基検出されている。遺物は少なく、ほかに縄文土器3片が出土している。



- 第23号住居跡カマド
- A 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子少量含む。
  - B 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(10~30mm)、炭化物粒子、灰多く含む。
  - C 黒色土 炭化物主体。焼土粒子わずかに含む。軟質。
  - D 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(10~20mm)少量、炭化物、灰多く含む。
  - E 灰色土 灰層。焼土・炭化物粒子少量含む。軟質。
  - F 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
  - G 灰褐色土 焼土・炭化物粒子、灰わずかに、黄白色土粒子少量含む。
  - H 暗灰色土 焼土粒子・ブロック、灰褐色土粒子少量、灰、炭化物多く含む。軟質。
  - I 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、灰少量含む。しまりあり。
  - J 黄白色土 焼土粒子・ブロック、炭化物・灰褐色土粒子少量含む。しまりあり。
  - K 黄白色土 焼土粒子、炭化物ブロック主体。黄白色土粒子混入。しまりあり。

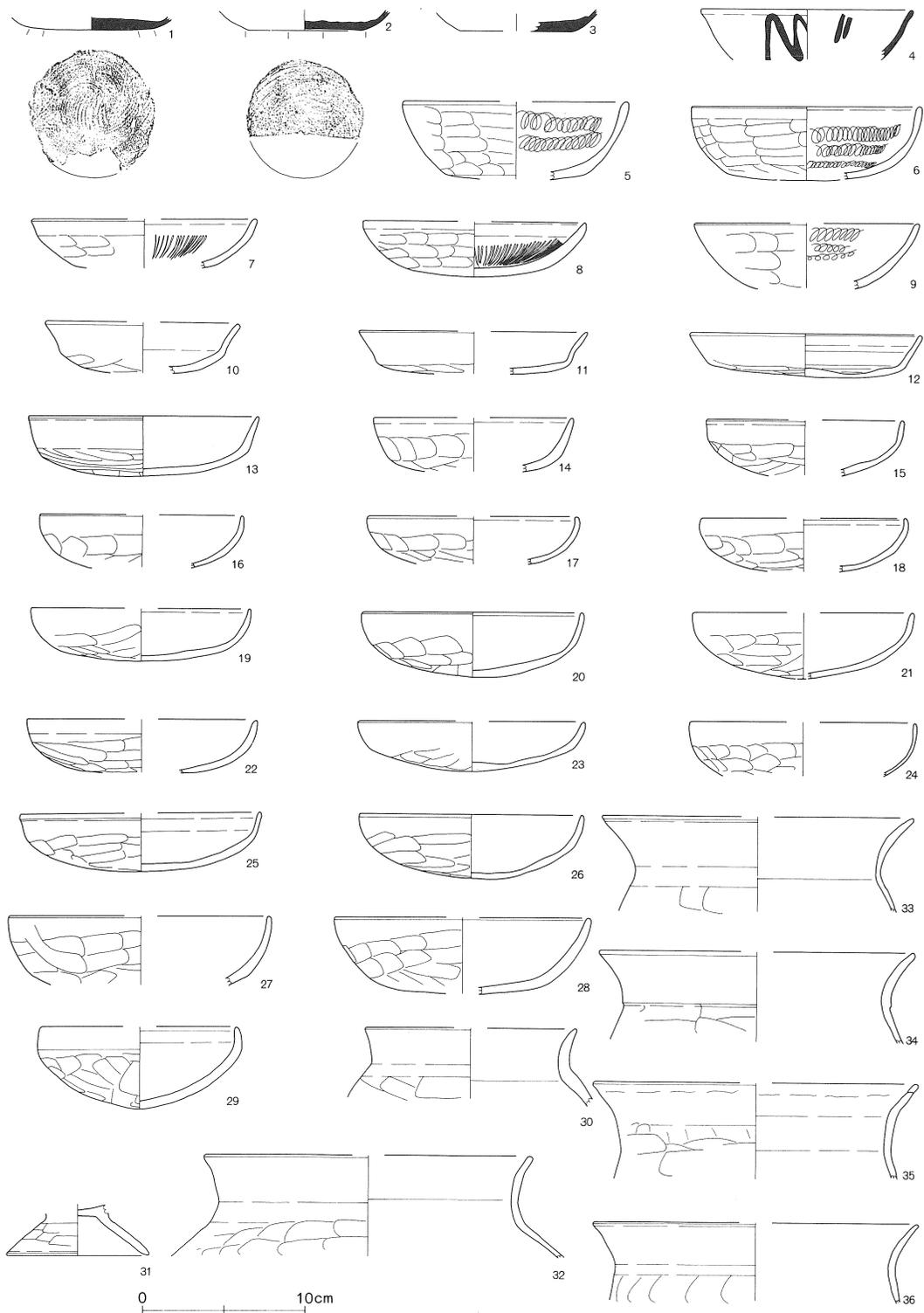
第226図



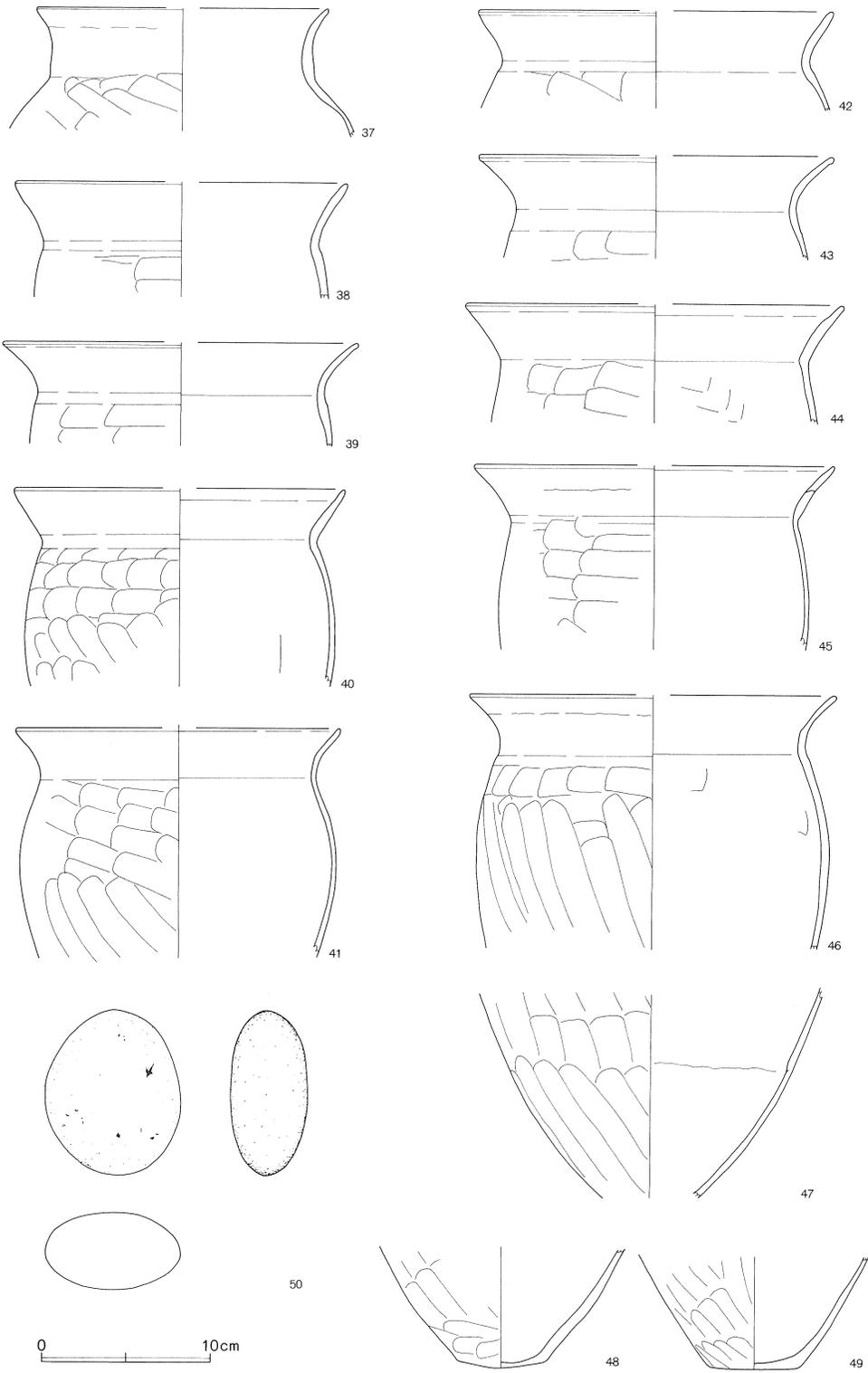
第23号住居跡貯蔵穴

1 灰褐色土 炭化物が部分的に層をなす。  
 2 灰褐色土 炭化物が部分的に層をなす。  
 3 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)少量、炭化物粒子わずかに含む。  
 4 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子わずかに含む。砂質。

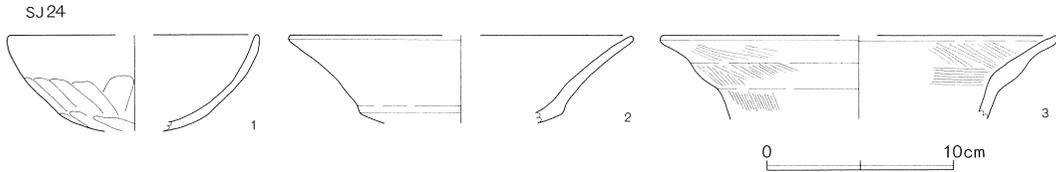
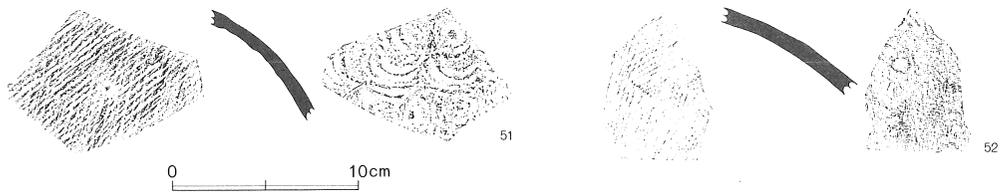




第227图 第23号住居跡出土遺物(1)



第228图 第23号住居跡出土遺物(2)



第229図 第23号住居跡出土遺物(3)・第24号住居跡出土遺物

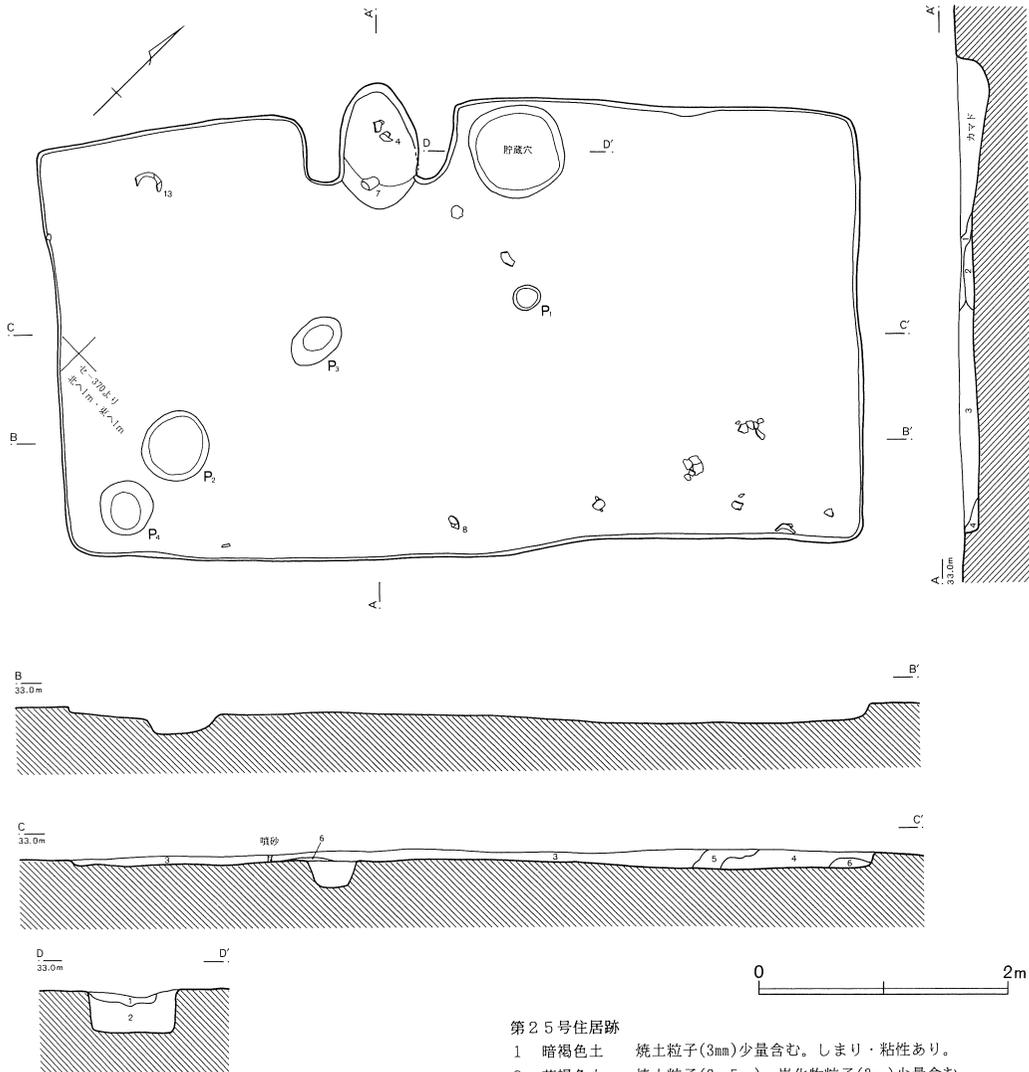
第23号住居跡(第227~229図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	底7.5	W+針	褐灰	50	回転糸切り離し後、周辺ヘラケズリ
2	坏	底7.0	B+砂+針	灰白	40	回転糸切り離し後、周辺ヘラケズリ
3	坏	底7.0	B+針多	にふい黄橙	20	回転糸切り離し
4	坏	口(13.0)	W	褐灰	20	火だすき風の痕跡
5	坏	口(13.8)	B+R+W+W'	橙	20	ビット6。螺旋状暗文 底部黒色
6	坏	口14.1	B+R+W+W'	橙	60	ビット6。螺旋状暗文 外面に黒色部分
7	坏	口(13.7)	B+R+W少+W'	橙	20	放射状暗文
8	坏	口(13.7) 高3.4	B+R+W+W'	橙～黄橙	40	ビット6。放射状暗文 底部黒色
9	坏	口(13.7)	B+W少+W' 少	黄橙～浅黄橙	20	螺旋状暗文 黒色部分
10	坏	口(11.9)	B+R少+W+W'	橙～黄橙	20	ビット1。
11	坏	口(14.0)	B+R+W+W'	黄橙	25	
12	坏	口14.2 底11.7 高2.7	B+W少+W'	橙	70	No.7。
13	坏	口14.1 高3.7	B+W+W'	にふい橙	80	No.8。内外面に黒色部分多い
14	坏	口(12.3)	B+R少+W少+W'	黄橙～橙	20	ビット1。
15	坏	口(12.1)	B+W少+W' 少	にふい橙～黄橙	40	
16	坏	口(12.4)	B+R少+W少	にふい黄橙	20	
17	坏	口(13.0)	B+R+W少	橙～にふい黄橙	20	
18	坏	口(12.7)	B+W少+W'	橙～にふい黄橙	30	ビット2。外面に黒色部分
19	坏	口(13.4) 高3.2	B+W少+W'	にふい橙	20	
20	坏	口13.6 高3.9	B+W少+W'	黄橙～橙	95	ビット6。

21	坏	口(13.5)	B+R+W少+W' 少	黄橙	40	ピット6。
22	坏	口(14.1)	B+R少+W少+W' 少	にふい黄橙	25	ピット6。
23	坏	口(13.9) 高3.0	B+W少+W'	にふい橙	30	ピット6。
24	坏	口13.9	B+R+W少+W'	橙~黄橙	20	ピット6。外面に黒色部分
25	坏	口(14.8) 高3.5	B+R少+W'	橙~黄橙	60	ピット6。
26	坏	口13.7 高3.9	B+R少+W少+W' 少	橙~黄橙	95	ピット6。
27	坏	口(16.0)	B+W+W'	にふい黄橙	20	カマド。
28	坏	口15.7	B+R+W+W'	黄橙	50	ピット6。風化が著しい 底部黒色
29	坏	口(12.2) 高5.0	B+R+W+W'	赤橙~橙	40	No.3。
30	小型甕	口(13.0)	B+W+W'	黄橙	口縁 25	ピット6。内外面に黒色部分
31	台付甕	台8.7	B+W+W'	黄橙~橙	脚部 70	ピット4。
32	甕	口(20.1)	B+R+W少	黄橙~橙	口縁 20	ピット6。
33	甕	口(19.1)	B+R+W	にふい橙	口縁 25	ピット8。
34	甕	口(19.3)	B+R+W'	橙	口縁 20	
35	甕	口(19.9)	B少+R少+W+W' 少	赤橙~橙	口縁 25	
36	甕	口20.0	B+R少+W+W'	橙~灰褐	口縁 20	カマド。全体的に黒色
37	甕	口17.2	B+R+W+W'	橙	口縁 70	ピット5。
38	甕	口(19.6)	B+W	橙	口縁 20	ピット6。
39	甕	口(21.0)	B+R少+W+W'	にふい橙~褐灰	口縁 20	カマド。全体的に黒色
40	甕	口(19.6)	B+R+W	橙	上半部 30	No.10。
41	甕	口(19.2)	B+R+W+W'	橙~にふい黄橙	口縁 20	カマド。外面に黒色部分
42	甕	口(21.0)	B+R+W+W'	橙~黄橙	口縁 20	ピット14。
43	甕	口(21.0)	B+W少+W'	褐灰	口縁 10	
44	甕	口(22.3)	B+R+W+W'	橙~黄橙	口縁 25	ピット6。
45	甕	口(21.2)	B+W'	橙~浅黄橙	口縁 20	口縁部内外面に黒色部分
46	甕	口(21.7)	B+R+W+W'	橙~にふい黄橙	上半部 30	カマド。
47	甕		B+R+W+W'	橙	胴部 30	No.9。底部ケズリ 外面に黒色部分
48	甕	底5.2	B+W+W'	(内)灰褐 (外)橙	底部 70	底部ケズリ
49	甕	底5.3	B+R+W+W'	橙~にふい橙	底部 70	ピット3。
51	甕		B+W+砂	灰		外面平行タタキ 内面青海波文
52	甕		B	(内)淡黄 (外)灰白		No.6。外面平行タタキ 内面ナデ

第24号住居跡 (第229図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.5)	B+R+W少	黄橙	25	
2	高坏	口(18.4)	B+R+W+W'	橙	坏部 20	
3	壺	口(21.2)	B+W少+W' 少	橙	口縁 20	



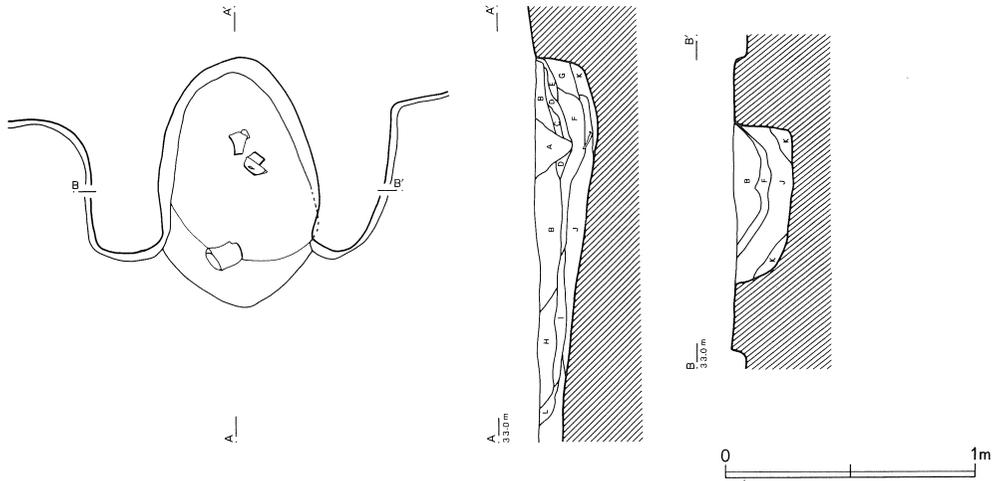
第25号住居跡貯蔵穴

- 1 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 2 暗黄灰褐色土 灰色砂粒子若干含む。しまりあり。

第25号住居跡

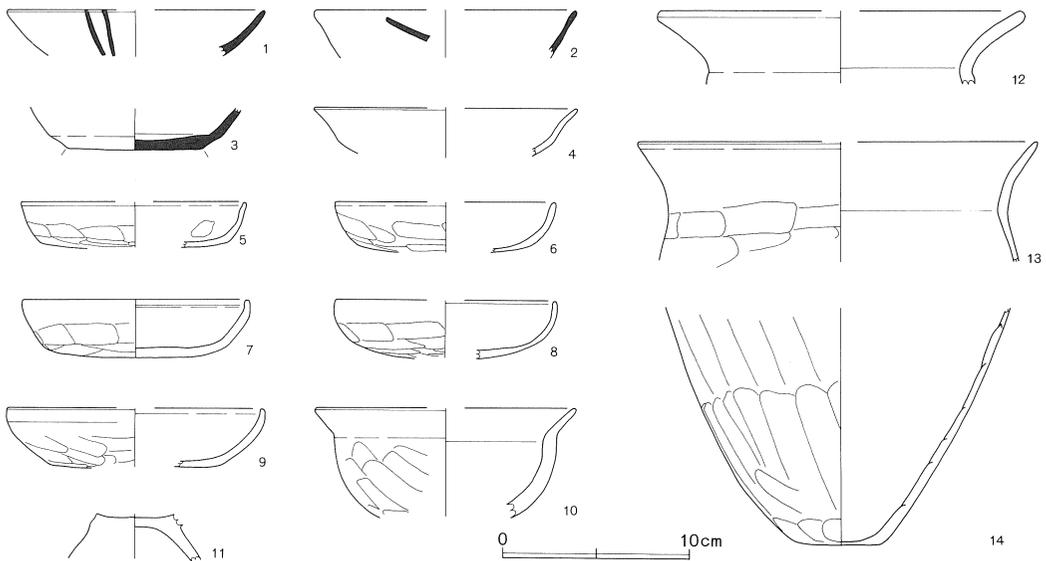
- 1 暗褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 茶褐色土 焼土粒子(2~5mm)、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗黄褐色土 焼土粒子(3~5mm)、炭化物粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗黄色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗黄色土 4より暗い。焼土粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 6 黄褐色土 炭化物粒子(微粒~3mm)少量含む。しまり・粘性あり。

第230図 第25号住居跡(1)



第25号住居跡カマド

- |  |   |
|--|---|
| <p>A 暗灰褐色土 焼土ブロック(2cm)少量含む。しまり・粘性あり。</p> <p>B 暗黄褐色土 焼土ブロック(1~4cm)多量含む。しまり・粘性あり。</p> <p>C 暗赤褐色土 焼土粒子極多量含む。粘性強。</p> <p>D 暗褐色土 焼土ブロック(2cm)極多量含む。しまり・粘性あり。</p> <p>E 灰白色土 焼土ブロック(2cm)少量、灰白色土微粒子極多量含む。しまりあり、粘性弱。</p> <p>F 灰褐色土 炭化物層。焼土ブロック(3~20mm)極多量、灰白色微粒子少量含む。しまり・粘性弱。</p> <p>G 灰褐色土 焼土ブロック(10~30mm)極多量、炭化物(2cm)少量含む。しまり・粘性弱。Fより焼土ブロック多い。</p> | <p>H 暗灰褐色土 焼土粒子(5~10mm)多量含む。しまり・粘性あり。</p> <p>I 暗灰褐色土 焼土粒子(5~20mm)、炭化物粒子(微粒~3mm)多量含む。しまり・粘性強。</p> <p>J 暗灰色土 焼土粒子(5~10mm)多く、炭化物粒子(微粒~10mm)極多量含む。しまり・粘性弱。</p> <p>K 暗茶褐色土 焼土粒子(5~10mm)、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。</p> <p>L 暗灰褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。</p> |
|--|---|



第231図 第25号住居跡(2)・出土遺物

第26号住居跡 (第232図)

ヒ-368・369、モ-368・369Gridに位置し、南側の大半が削平されている。規模は東西3.97m、深さ0.17~0.22mで、主軸方位はN-28°-Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻ってい

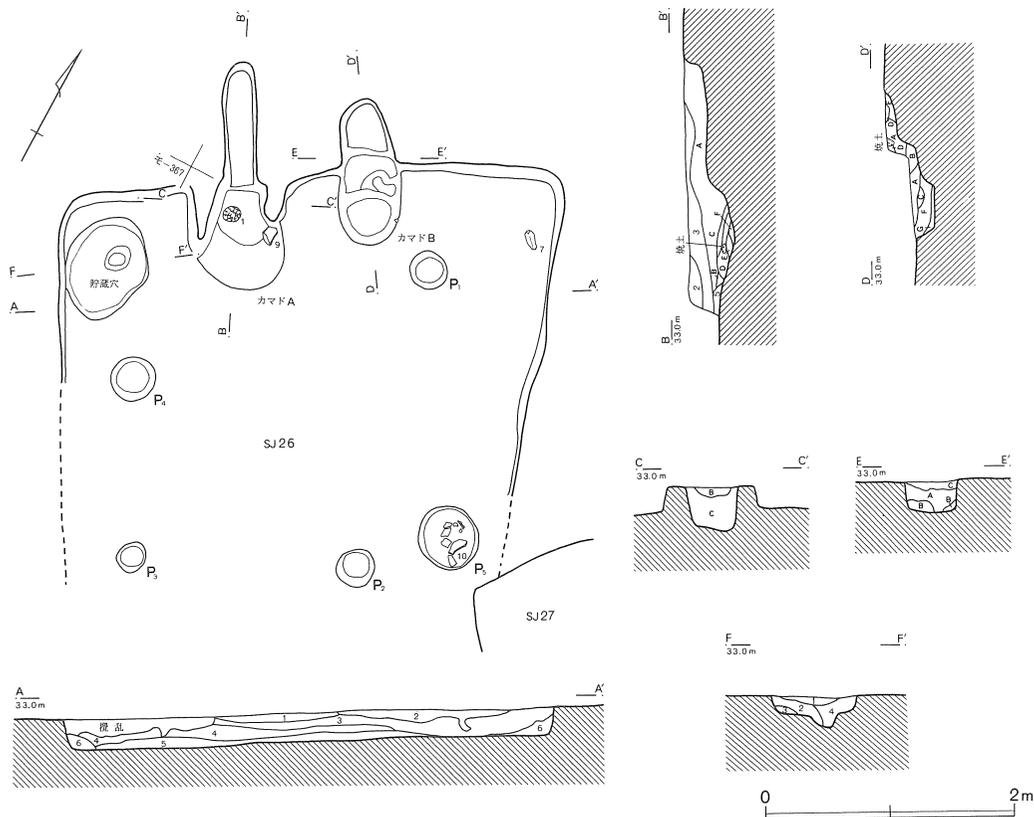
第25号住居跡（第231図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.8)	B+W	灰白～にふい黄橙	20	火だすき風の痕跡
2	坏	口(14.0)	B+W+針多	灰白	10	火だすき風の痕跡
3	坏	底7.3	R少+W	灰白	40	底部ヘラケズリ
4	坏	口(14.0)	B+R+W少+W'	橙	10	No.4。
5	坏	口(12.1)	B+R少+W少+W' 少	橙～にふい橙	25	口縁部に黒色部分
6	坏	口(11.8)	B+R+W少+W' 少	黄橙	20	
7	坏	口12.2 高7.3	B+R少+W+W'	黄橙	80	No.5。
8	坏	口(11.9)	B+R+W少+W' 少	にふい橙～橙	45	No.9。内面に黒色部分
9	坏	口(13.8)	B+R+W少+W' 少	黄橙	20	
10	椀	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	15	内面に黒色部分
11	台付甕		B+R少+W+W'	褐灰	脚部 60	風化が著しい 全体的に黒色
12	甕	口(19.6)	B+R+W+W'	橙	口縁 20	カマド。内外面に黒色部分
13	甕	口21.3	B+R+W少+W' 少	橙	口縁 60	No.2。
14	甕	底4.6	B+R+W+W'	橙	底部 95	底部ケズリ 外面に黒色部分

ない。カマドは北壁に2基並んで設置され、西側がカマドA、東側がカマドBである。カマドAは全長1.84m、焚き口幅0.43mである。袖部が地山を掘り残していることから、住居構築時のものといえる。燃烧部は扇状で、摺り鉢状に掘り込まれている。カマドBは全長1.17m、焚き口幅0.42mの規模をもつ。楕円形を呈し、袖部は検出されていない。貯蔵穴はカマドA西側の北西コーナー部に位置している。不整円形で、南北0.79m・東西0.72m、深さ0.44mを測る。ピットは5基検出されている。遺物は少なく、石錘1点、石棒1点が出土している。ほかに須恵器15片、編物石1点がある。

第27号住居跡（第234図）

ヒ—367・368、モ—367・368Gridに位置している。削平によって残存状態は悪く、本来ならば重複している第26号住居跡よりも古い。規模は主軸辺3.11m・短辺2.87m、深さ0.14～0.71mで、主軸方位はN—38°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築され、全長1.96m、焚き口幅0.34mを測る。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は不整長方形を呈している。火床面は平坦で、あまり焼けていない。貯蔵穴は南東コーナー部に設置されている。不整長方形で、南北0.69m・東西0.72m、深さ0.77mの規模をもつ。ピットは検出されていない。遺物は中央部・カマド周辺部から出土し、ほかに須恵器1片、編物石2点がある。



第26号住居跡

- 1 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 2 灰黒褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。しまりやや弱。
- 3 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 4 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。
- 5 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量、灰色砂粒子多く含む。しまりあり。
- 6 暗褐色土 焼土粒子微量含む。しまりあり。

第26号住居跡貯蔵穴

- 1 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物若干含む。
- 2 暗灰褐色土 焼土粒子・ブロック多量、炭化物粒子若干含む。粘性ややあり。
- 3 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。粘性ややあり。
- 4 灰黄褐色土 灰色砂粒子多く、焼土・炭化物粒子若干含む。

第26号住居跡カマドA

- A 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物多量含む。
- B 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。
- C 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物多量含む。
- D 灰黄褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物多く含む。粘性あり。
- E 灰色土 灰層。焼土粒子、炭化物わずかに含む。
- F 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。

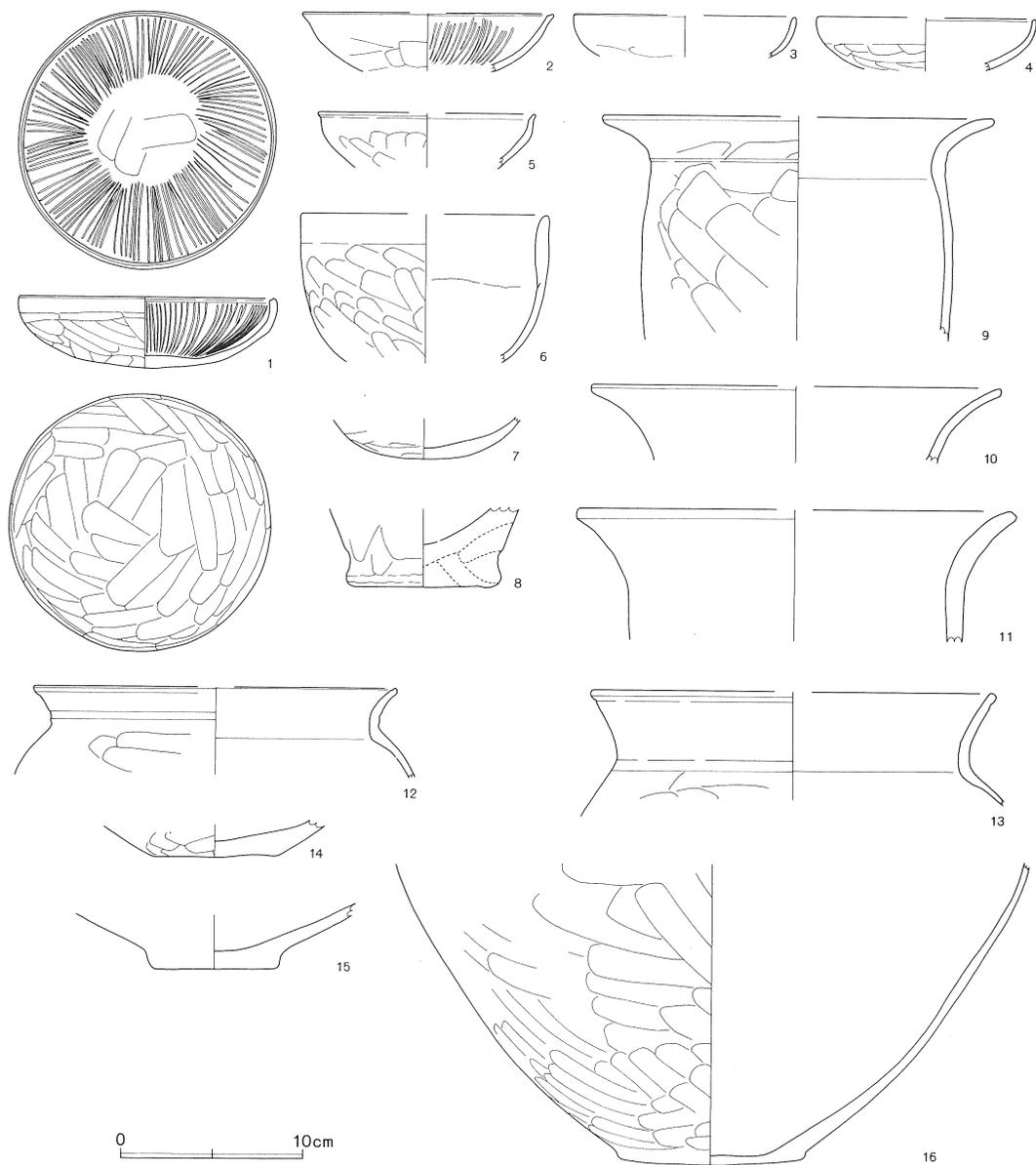
第26号住居跡カマドB

- A 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物多く含む。
- B 灰黒褐色土 灰層。焼土粒子・ブロック、炭化物多量含む。
- C 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- D 灰褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。
- E 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、灰白色砂粒子多く含む。
- F 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物若干含む。
- G 灰黒褐色土 灰層。焼土・炭化物粒子多く含む。

第232図 第26号住居跡

第29号住居跡 (第236・237図)

モ—368・369、セ—368・369、ス—368Gridに位置し、重複している第25号住居跡よりも古い。南東コーナー部は第22号住居跡に接している。噴砂の亀裂が南西コーナー部を東西に走り、床面に段差が生じている。規模は主軸辺5.16m・短辺5.12m、深さ0.13~0.35mで、主軸方位はN—36°—Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.14~0.26m、深さ0.25~0.41mの壁溝が北壁



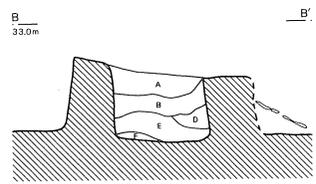
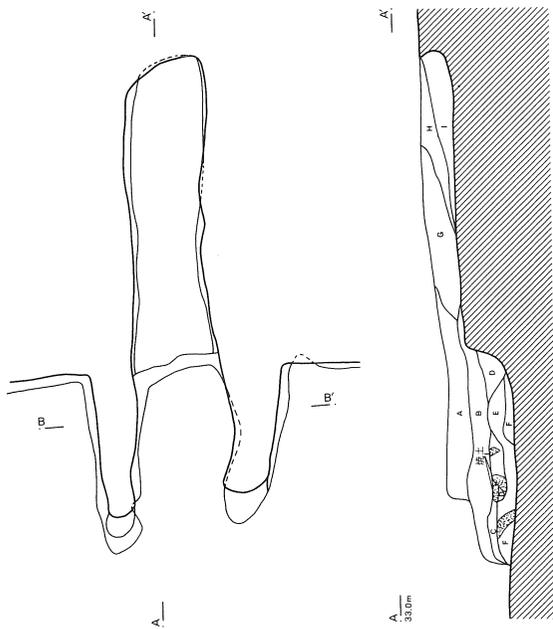
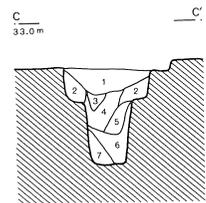
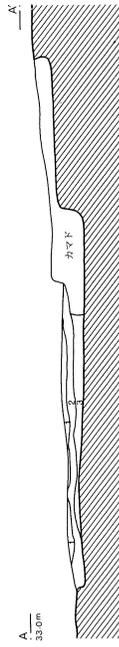
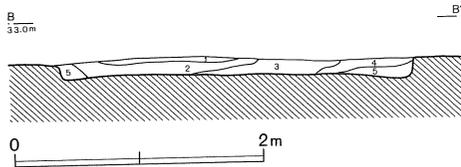
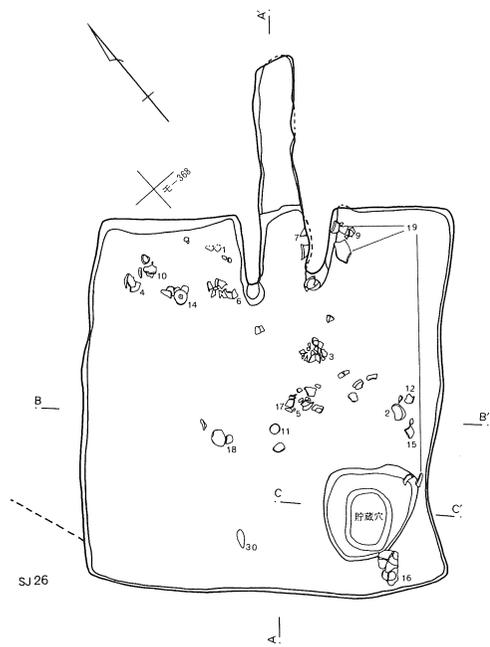
第233図 第26号住居跡出土遺物

第27号住居跡

- 1 灰褐色土 焼土粒子少量含む。
- 2 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 3 灰黄褐色土 2より灰色砂粒子多い。
- 4 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子多く、灰色砂粒子含む。
- 5 灰黄褐色土 焼土粒子若干、炭化物多量含む。

第27号住居跡貯蔵穴

- 1 暗灰色土 焼土粒子、炭化物粒子・ブロック多く含む。  
灰黄褐色土ブロック多く混入。粘性ややあり。
- 2 灰黄褐色土 焼土粒子わずかに含む。
- 3 暗灰色土 焼土ブロック若干含む。
- 4 暗灰色土 1に灰茶褐色土ブロック混入。
- 5 灰褐色土 焼土粒子、炭化物若干含む。
- 6 暗灰色土 4より灰黄褐色土ブロック少ない。粘性ややあり。
- 7 灰褐色土 焼土粒子、炭化物微量含む。粘性ややあり。

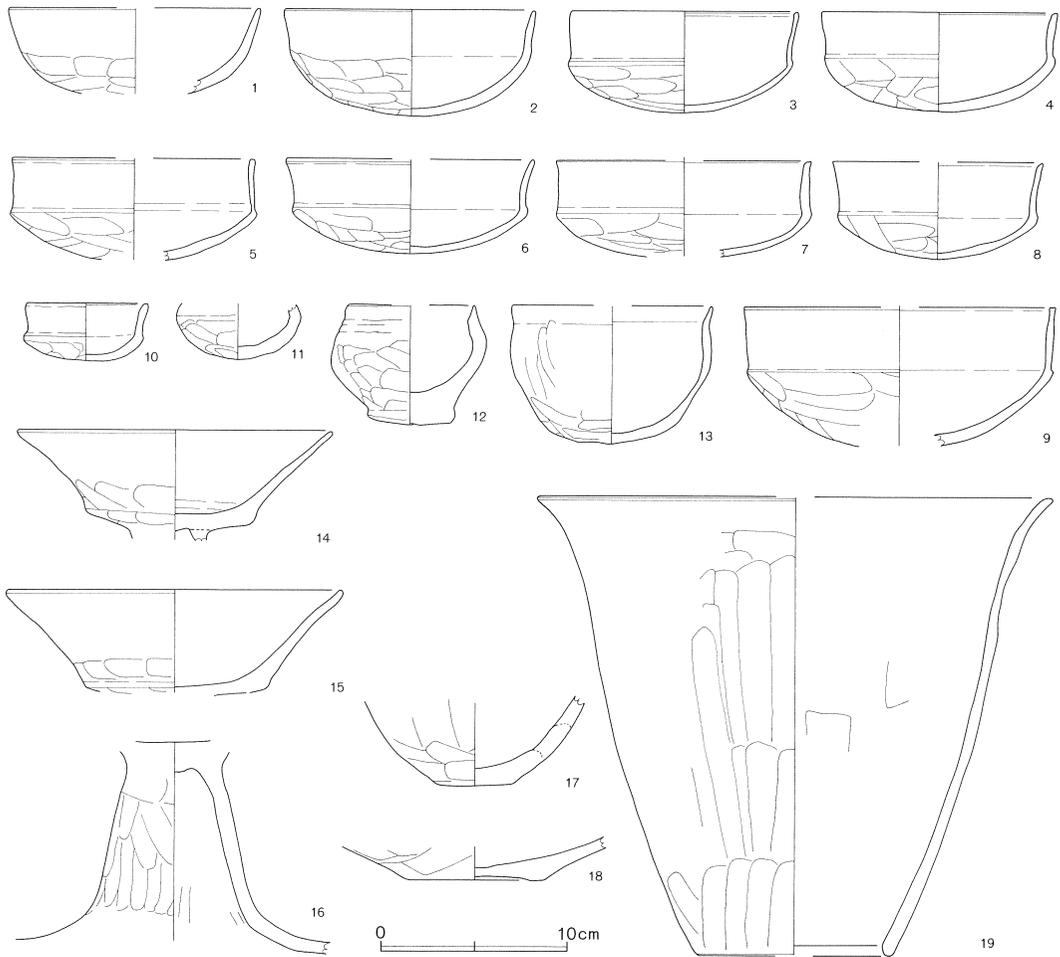


第27号住居跡カマド

- A 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- B 灰黄褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- C 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- D 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干、焼土ブロック多量含む。しまりあり。
- E 灰黒褐色土 灰層。焼土・炭化物粒子若干含む。しまり弱。軟質。
- F 暗黄褐色土 焼土粒子微量含む。しまりあり。
- G 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- H 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- I 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。



第234図 第27号住居跡



第235図 第27号住居跡出土遺物

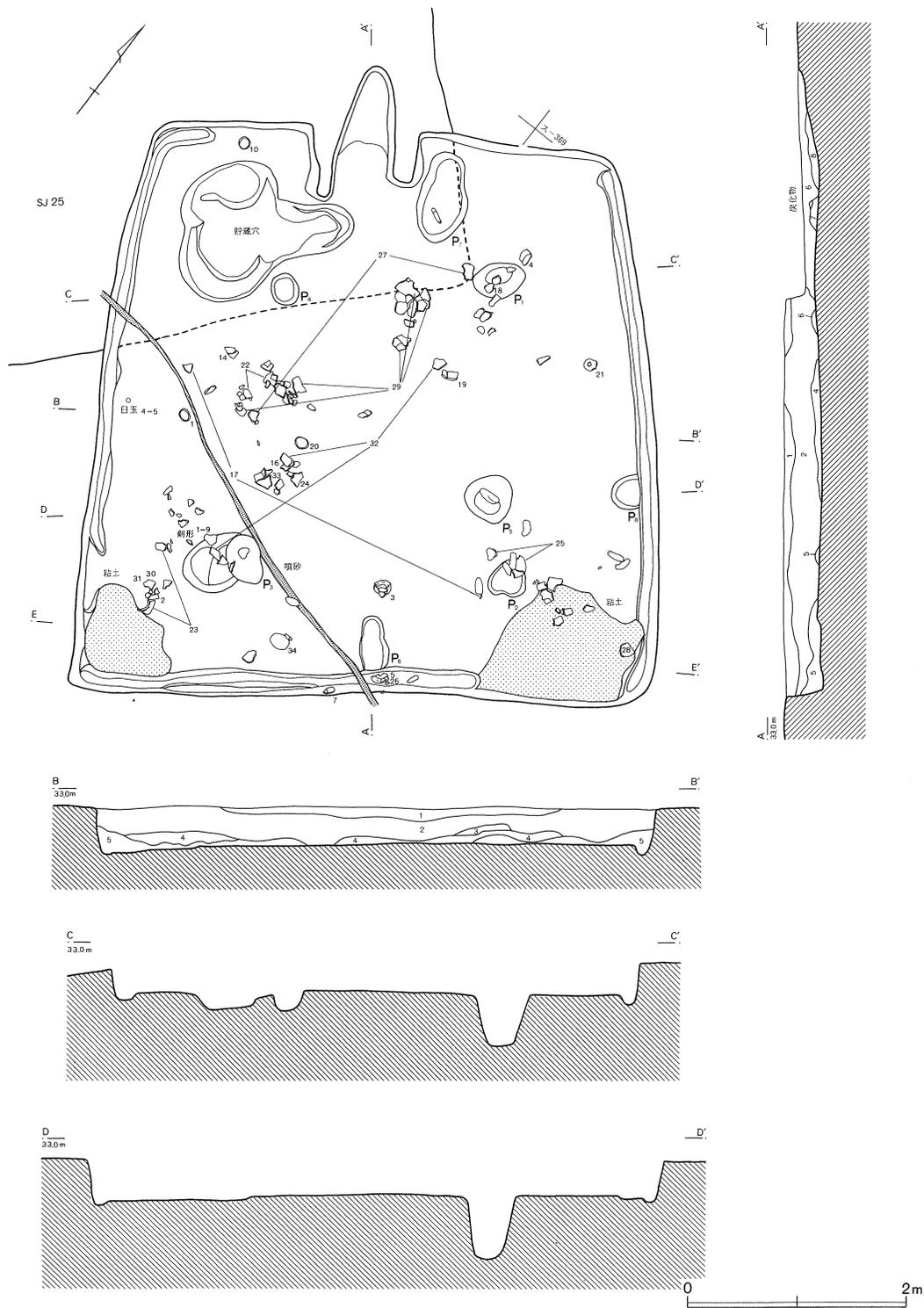
第26号住居跡 (第233図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口14.0 高3.9	B+R+W+W'	橙	100	No.5.放射状暗文
2	坏	口(13.8)	B+R+W+W'	にふい橙	20	放射状暗文 全体的に黒色
3	坏	口(12.2)	B+R	黄橙～浅黄橙	20	
4	坏	口(12.0)	B+R+W少+W'	橙～黄橙	30	カマド。
5	坏	口(11.9)	B+W	橙	20	
6	椀	口13.6	B+R+W+W'	橙	30	口縁部と内面黒色
7	椀		B+R+W+W'	橙	30	底部ケズリ 外面黒色
8	鉢	底8.5	B+R+W+W'	にふい橙	底部 20	底部ケズリ 外面に黒色部分
9	甕	口(21.4)	B+R少+W少+W' 少	にふい黄橙～浅黄橙	口縁 20	No.4。

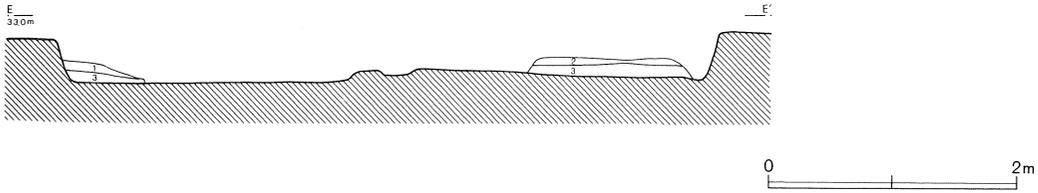
10	壺	口(22.4)	B+R少+W+W'	にふい橙～橙	口縁 40	No.1。
11	甕	口24.0	B+R少+W+W'	橙～黄橙	口縁 25	風化が著しい
12	甕	口(19.9)	B少+W+W'	橙～明赤橙	口縁 20	
13	甕	口(22.2)	B+R+W+W'	橙	口縁 20	
14	甕	底6.8	B+W+W'	橙	底部 50	底部ケズリ 外面黒色
15	壺	底7.2	B+R少+W少+W' 少	橙～黄橙	底部 60	底部ケズリ 風化が著しい 外面黒色
16	壺	底10.3	B+R+W+W'	橙～黄橙	底部 70	底部ケズリ 底部黒色

第27号住居跡 (第235図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.5)	B少+R+W少	橙	30	No.44。外面に黒色部分
2	坏	口13.4 高5.6	B+R+W+W'	橙～浅黄橙	60	No.15。外面に黒色部分
3	坏	口12.2 高5.4	B+R+W+W'	橙	70	No.9。外面に黒色部分
4	坏	口12.6 高5.3	B少+R+W少+W' 少	にふい橙	70	No.37・39・40。口縁端面トリア 外面に黒色部分
5	坏	口(13.0)	B+R+W+W'	浅黄橙～橙	45	No.23。口縁端面トリア 外面に黒色部分
6	坏	口(13.3) 高5.0	B+R+W+W'	橙	40	No.34。口縁端面トリア 外面に黒色部分
7	坏	口(13.6)	B少+R+W+W' 少	橙	20	No.6・7。口縁端面トリア
8	坏	口(11.2) 高5.2	B+R+W少+W' 少	浅黄橙～黄橙	40	No.5。口縁端面トリア
9	坏	口(16.6)	B+R+W少+W' 少	橙	45	No.1。口縁端面トリア 口縁部と内面黒色
10	ミニチュア	口6.3 高3.1	B+R+W+W'	浅黄橙～橙	100	No.41。外面黒色
11	ミニチュア		B+R+W+W'	橙	60	No.29。
12	ミニチュア	口6.7 底4.6 高6.3 最大8.1		橙	70	No.14。底部ケズリ
13	碗	口10.7 高7.4	B+R+W'	にふい橙	40	カマド。底部外面と内面に黒色部分
14	高坏	口16.8	B少+R+W少+W' 少	橙	坏部 95	No.36。
15	高坏	口18.0	B+R+W+W'	橙	坏部 95	No.17。風化が著しい
16	高坏		B+R+W+W'	橙	脚部 85	No.20。
17	甕	底4.1	B+R+W少+W' 少	橙	底部 20	No.24。底部ケズリ 内外面黒色
18	甕	底7.3	B+R+W+W'	橙～浅黄橙	底部 60	No.31。底部ケズリ
19	甕	口(27.5) 底10.3 高24.4	B+R+W+W'	橙	30	No.2・4・18。内面に黒色部分



第236图 第29号住居跡(1)



第29号住居跡

- 1 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 3 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒若干含む。しまりあり。
- 4 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干、焼土ブロックわずかに含む。しまりあり。
- 5 灰黄褐色土 灰色砂粒子若干、焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 6 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック多く含む。しまりあり。
- 7 灰赤褐色土 焼土粒子多く含む。
- 8 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子、灰多く含む。

第29号住居跡粘土層

- 1 白色粘土 暗灰色粘土ブロック(3mm)含む。2よりもろく、粘性強。
- 2 黄褐色粘土 1の土壌化(黄色味増)。白色粘土ブロック(1~2mm)含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 焼土粒子(3mm)微量含む。しまり・粘性あり。

第237図 第29号住居跡(2)

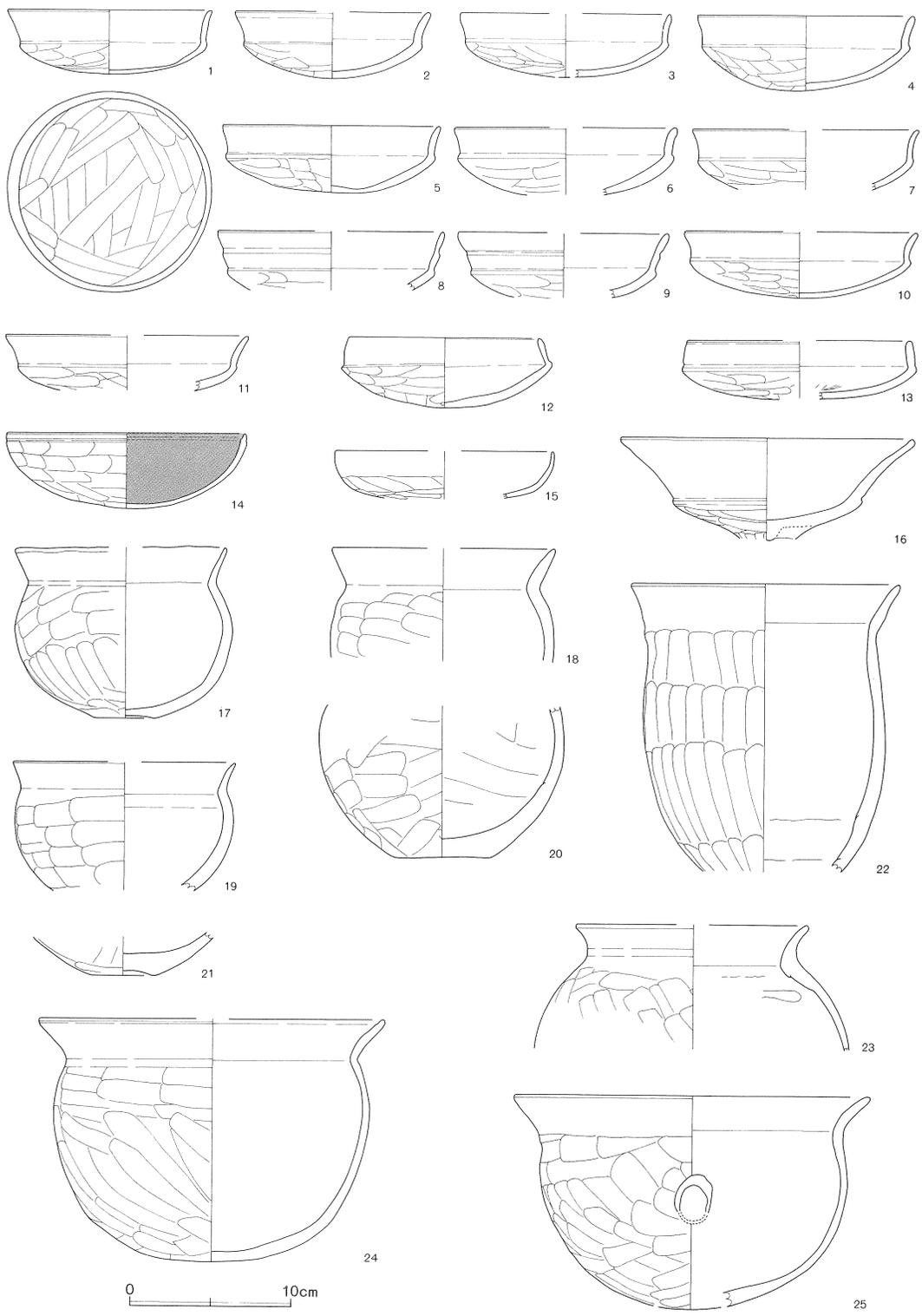
を除いて廻っている。カマドは北壁中央に設置され、重複する第25号住居跡の構築時に大幅に削平されている。現存長1.22m、焚き口幅0.45mで、袖部は地山が掘り残されている。貯蔵穴はカマド西側の北西コーナー部に位置し、不整形を呈している。東部がカマドの前方にまで張り出し、南北1.28m・東西1.59m、深さ0.38mを測る。ピットは8基検出され、P1~P4が柱穴である。南東コーナー部および南西コーナー部に白色粘土が堆積し、この部分は壁溝が途切れている。用途等は明確ではない。遺物は土師器のほかに、須恵器4片、石製白玉1点、石製剣形品1点、磨石1点(12.9×15.3×5.3cm、1,620g)、編物石18点、縄文土器4片が出土している。

第30号住居跡 (第241図)

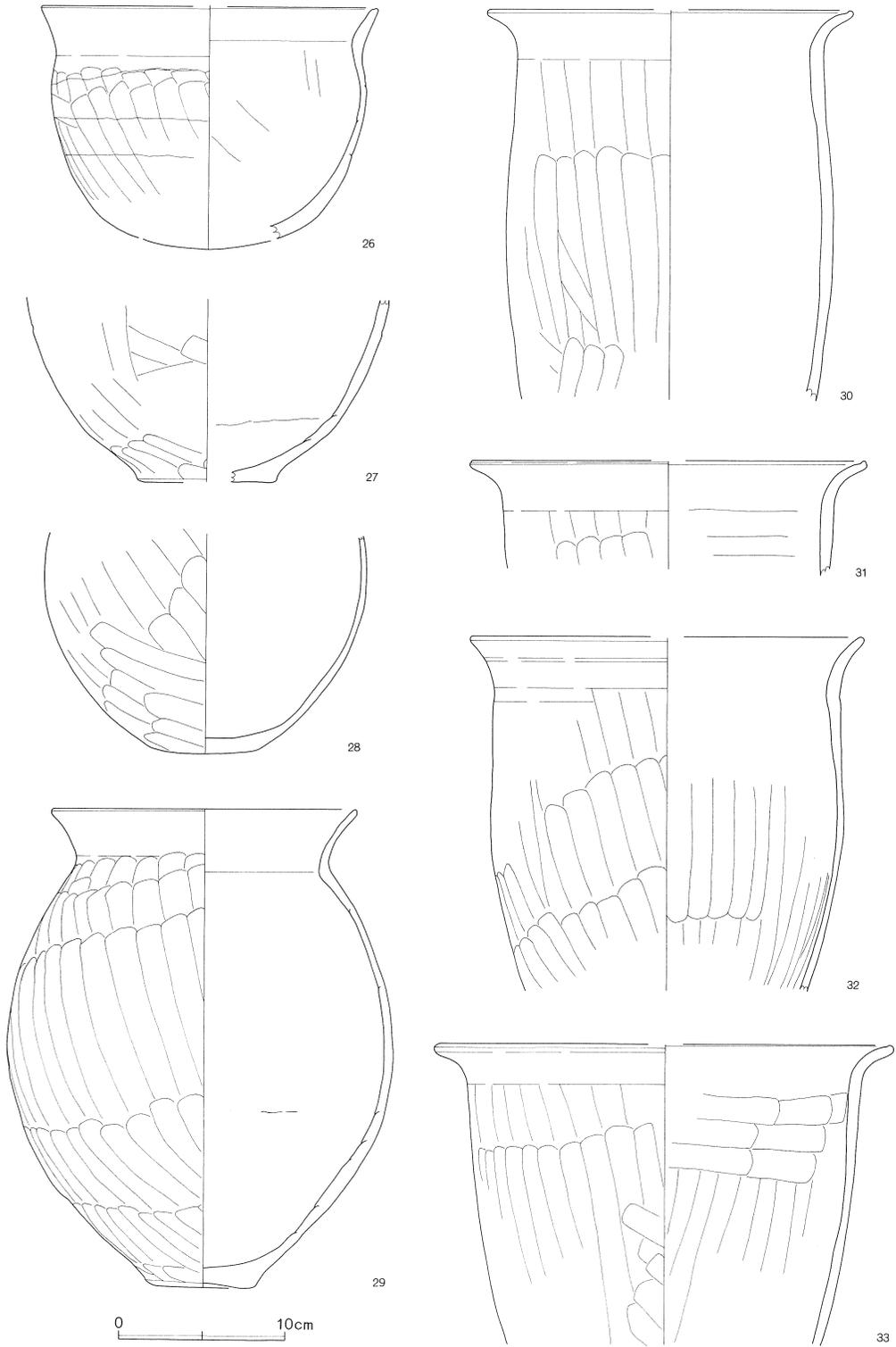
モ一367・368Gridに位置している。重複している第20号住居跡よりも古い。規模は東西2.91m・南北2.93m、深さ0.12~0.70mを測り、北辺をN-53°-Eに向いている。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝は廻っていない。住居跡中央に炉跡が検出され、カマドは構築されていない。東西0.54m・南北0.36mを測る楕円形を呈している。ピットは7基確認されている。遺物は少なく、第1発掘区で唯一の五領期末~和泉期初頭の時期の住居跡である。

第28号住居跡 (第243図)

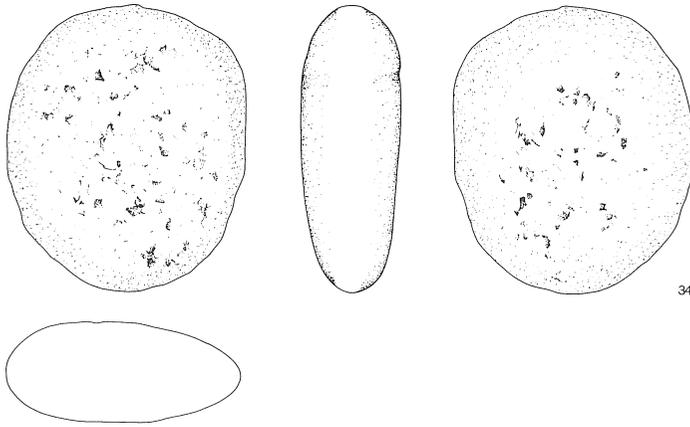
スー369・370Gridに位置している。北側の大半部が道路建設による削平を受け、南コーナー部のみ確認されている。重複している第24・34号住居跡よりも新しい。南東壁はN-59°-Eを測り、規模は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.14~0.28m、深さ0.22~0.84mの壁溝が廻っている。ピットは1基で、用途等は明確ではない。カマド・貯蔵穴等の施設は検出されていない。遺物は少なく、ほかに須恵器1片が出土している。



第238図 第29号住居跡出土遺物(1)



第239図 第29号住居跡出土遺物(2)

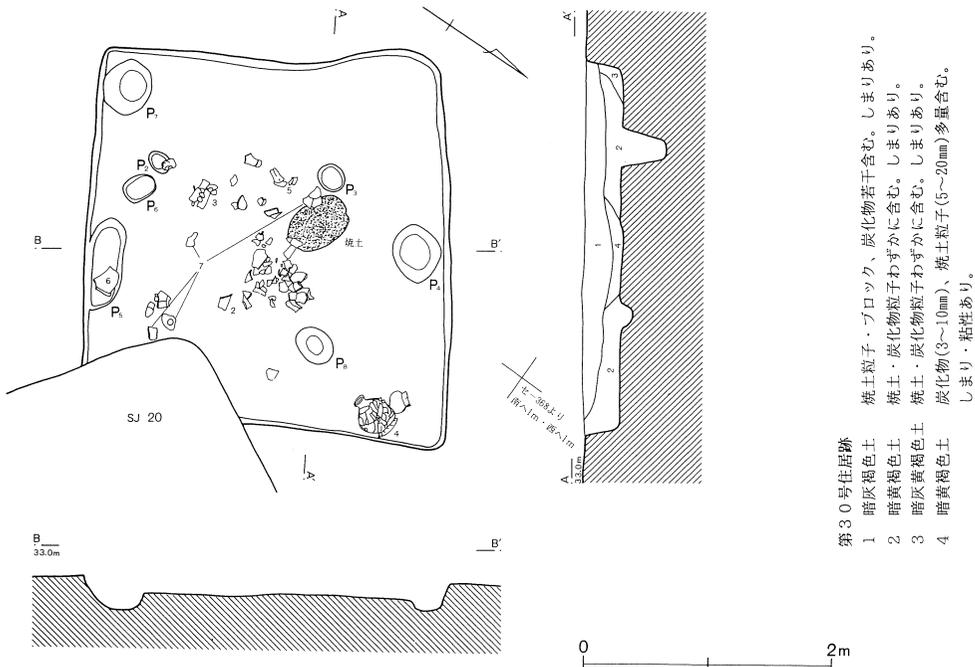


第240図 第29号住居跡出土遺物(3)

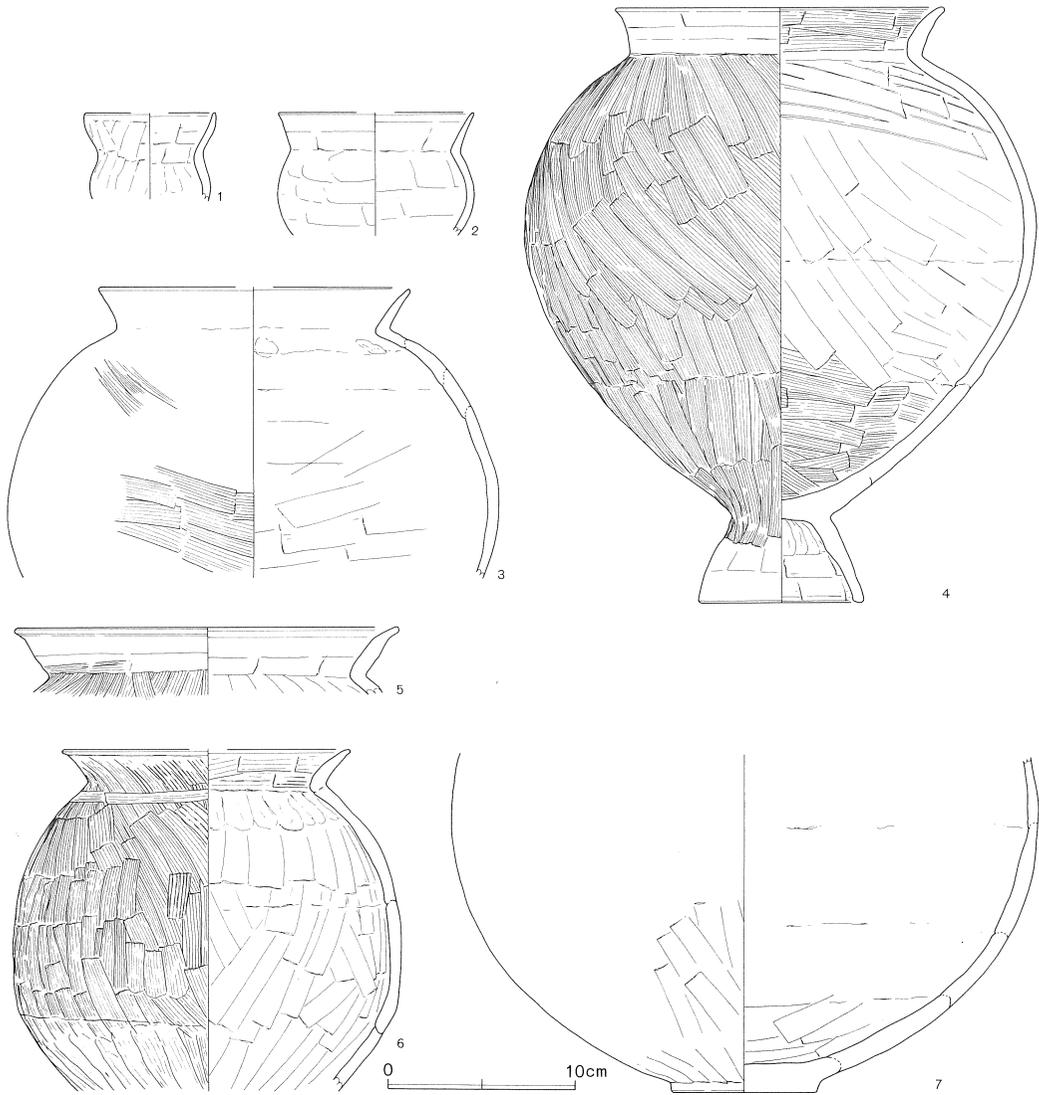
第29号住居跡(第238~240図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.6 高4.0	B+R+W+W'	黄橙~浅黄橙	100	No.5。口縁端部面トリ 器面粗
2	坏	口(12.0) 高4.1	B+R+W少+W' 少	橙~黄橙	40	No.77。外面に黒色部分
3	坏	口13.0	B少+R+W少+W' 少	橙~にふい黄橙	80	No.25。
4	坏	口13.3 高4.6	B+R+W+W'	橙~明赤褐	70	No.56。内外面に黒色部分
5	坏	口13.5 高4.1	B+R+W+W'	橙	70	No.23。内外面に黒色部分
6	坏	口(13.7)	B+R少+W+W'	橙~黄橙	20	
7	坏	口(13.9)	B+R+W+W'	橙	20	No.63。
8	坏	口(14.0)	B+W+W'	橙~にふい橙	20	
9	坏	口(13.0)	B+W少+W' 少	橙~黄橙	25	
10	坏	口(14.3) 高4.0	B+R+W+W'	橙	45	No.1。
11	坏	口(14.9)	B+R+W少+W'	橙	25	
12	坏	口11.7 高4.3	B+R+W+W'	黄橙	90	No.23。外面に黒色部分
13	坏	口(13.9)	B+R少+W+W'	黄橙	20	内外面に黒色部分
14	坏	口14.6 高4.6	B+R+W	(内)黒 (外)橙	90	No.2。内面黒色
15	坏	口(13.5)	B+R+W+W'	黄橙~橙	30	
16	高坏	口18.1	B+R+W+W'	橙	坏部 70	No.13。内外面に黒色部分
17	小型甕	口(13.1) 底3.6 高10.5	B+R+W+W'	淡赤橙~橙	50	No.3・62。底部ケズリ 口縁部外面に黒色部分
18	小型甕	口(13.7)	B+R+W+W'	橙~明赤褐	口縁 40	No.53。外面黒色
19	椀	口(13.7)	B+R+W+W'	橙	40	No.43。

20	小型甕	底(5.8)	B+R+W少+W'	黄橙~橙	底部 70	No.12。底部ケズリ 外面黒色
21	椀	底3.9	B+R+W+W'	橙~明赤褐	底部 80	No.42。
22	小型甕	口16.6	B+R+W+W'+砂多	淡赤橙~橙	80	No.6・7。外面に黒色部分
23	甕	口(14.3)	B+R少+W少+W' 少	橙~黄橙	口縁 45	No.19・76。胴部内面に黒色部分
24	鉢	口(21.3) 高14.9	B+R少+W+W'	橙~黄橙	50	No.14。内外面に黒色部分
25	鉢	口21.9	B+R+W+W'	橙~黄橙	90	No.27・28。焼成後穿孔 内外面に黒色部分
26	鉢	口20.2	B+R+W+W'	橙	60	口縁部と外面に黒色部分
27	甕	底8.4	B+R+W+W'+砂少	にふい黄橙~灰白	底部 50	No.9・52。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
28	甕	底6.2 胴19.2	B+R+W+W'	橙~黄橙	底部 70	No.37。底部ケズリ
29	甕	口18.3 底6.6 高28.5 胴23.2	B+R+W+W'	橙~淡赤橙	90	No.6・8・47・49・50。底部ケズリ 胴部内外面下半に黒色部分 粘土紐積み上げ痕
30	甕	口(21.9)	B+R+W+W'	橙~明赤褐	口縁 30	No.18。内面に黒色部分
31	甕	口(23.7)	B+R+W+W'	黄橙	口縁 20	No.18。内面に黒色部分
32	甕	口(23.5)	B+R+W+W'	浅黄橙~橙	30	No.13・44・66。外面に黒色部分
33	甕	口(27.5)	B+R+W+W'	橙~黄橙	口縁 30	No.16。内面に黒色部分



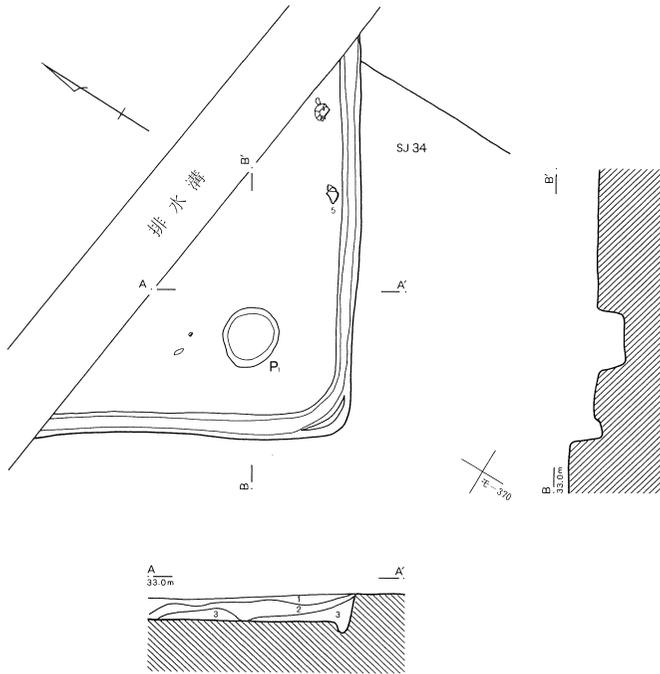
第241図 第30号住居跡



第242図 第30号住居跡出土遺物

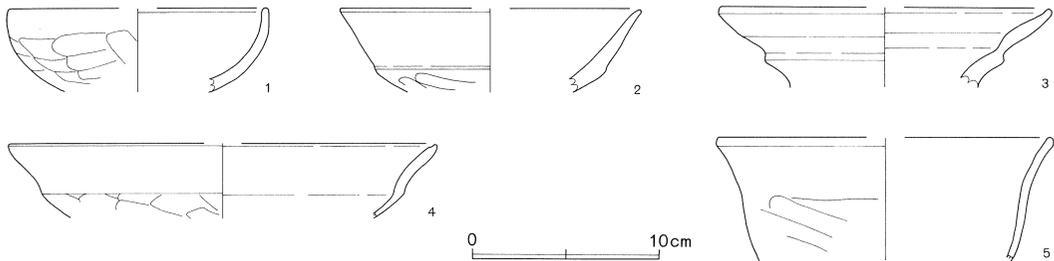
第30号住居跡 (第242図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	小型壺	口(7.0)	B+W'	(内)浅黄橙 (外)黄橙	口縁 25	外面に黒色部分
2	小型壺	口(10.4) 胴10.6	B+W+W'+砂少	(内)淡黄 (外)淡黄~浅黄橙	上半部 30	No.30。内外面に部分的に黒色
3	甗	口(16.6) 胴26.2	B+W+W'	(内)淡黄 (外)浅黄橙~橙	上半部 25	No.8。風化が著しい 胴部内外面に黒色部分
4	台付甗	口17.8 台8.9 高31.7 胴27.2	B+W+W'	(内)橙 (外)黄橙~橙	100	No.48。単口縁 胴部外面に黒斑
5	台付甗	口20.6	B+W+W'	(内)淡黄 (外)淡黄~橙	口縁 50	No.17。単口縁 部分的に黒色
6	台付甗	口15.8 胴20.8	B+W+W'+砂少	(内)淡黄 (外)淡黄~橙	上半部 40	No.1。単口縁 胴部外面に黒色部分
7	壺	底7.8	W+W'+砂少	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙~橙	下半部 30	No.4・5・7・18。底部ケズリ 風化が著しい 胴部内面に黒色部分



第28号住居跡

- 1 暗茶褐色土 炭化物粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗黄褐色土 少量の炭化物粒子(3~5mm)、焼土粒子(5mm)含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック(1~2mm)少量含む。しまり・粘性あり。



第243図 第28号住居跡・出土遺物

第28号住居跡 (第243図)

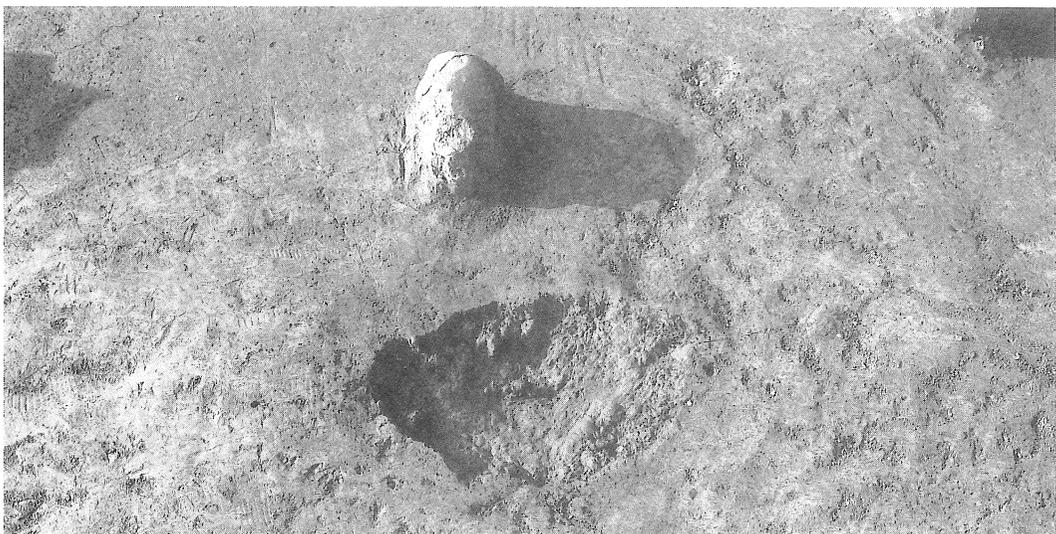
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	20	
2	高坏	口(16.1)	B+R+W+W'	橙~にふい橙	坏部 20	内面黒色
3	壺	口(17.7)	B+R+W+W'	橙	口縁 15	外面が全体的に黒色
4	鉢	口(22.9)	B+R少+W+W'	橙	20	口縁端面とり 外面黒色
5	鉢	口(18.0)	B+R少+W+W'	橙~にふい橙	口縁 20	No.3。外面黒色

### 第31号住居跡（第246・247図）

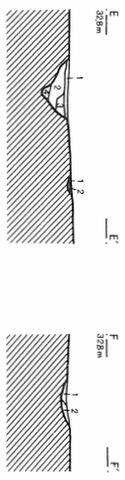
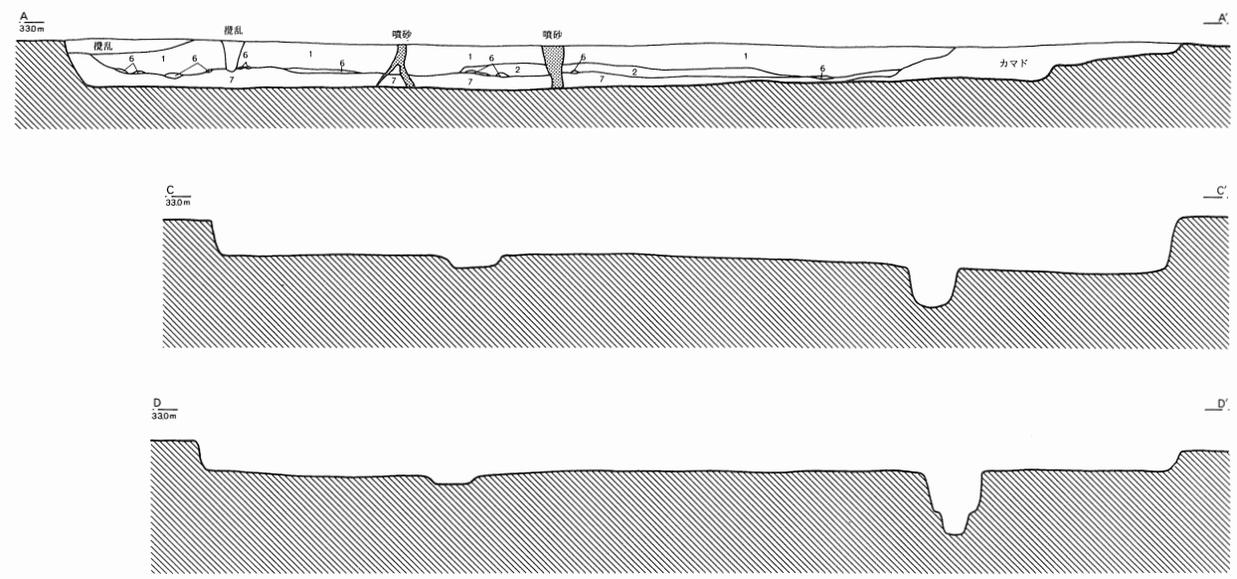
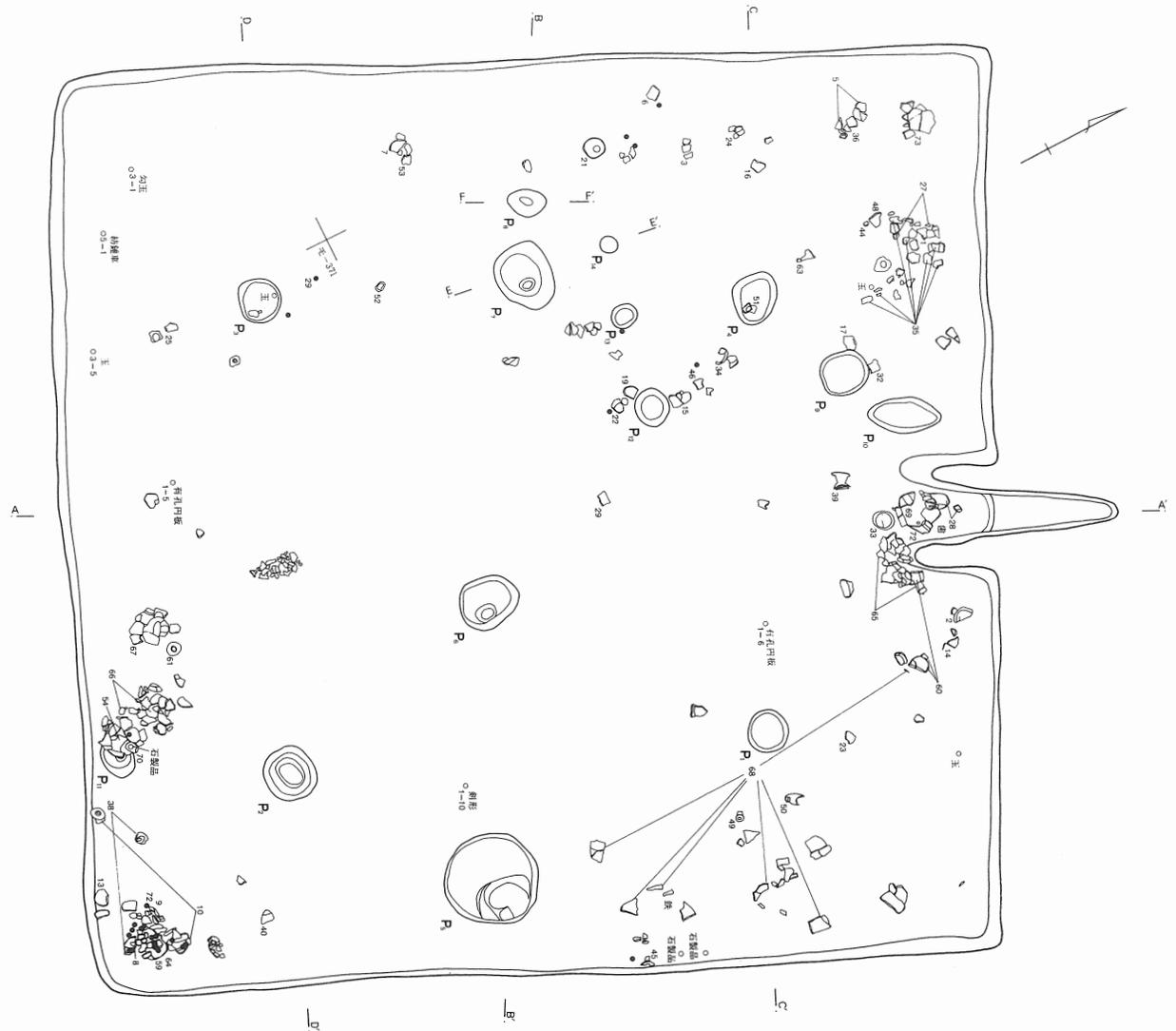
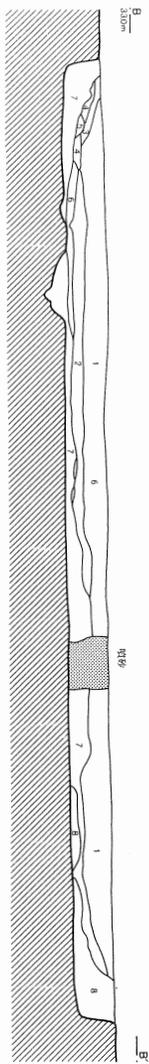
ヒ—369・370・371、モ—369・370・371Gridに位置している。噴砂の亀裂が入り込んでいるが、影響は少ない。規模は主軸辺7.92m・短辺7.78m、深さ0.25～0.39mで、主軸方位はN—25°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築され、全長1.85m、焚き口幅0.63mの規模をもつ。地山を掘り残している袖部は、燃焼部で「ハ」の字に開いている。火床面はよく焼けている。貯蔵穴は確認されていない。ピットは14基検出され、P1～P4が柱穴である。カマド西側のP10には焼土が詰まっていた。用途は明確ではないが、カマドに関連した機能をもつものと思われる。P7・P8は小鍛冶跡である。フィゴの羽口には高坏形土器の脚が転用され



第244図 第31号住居跡遺物出土状況



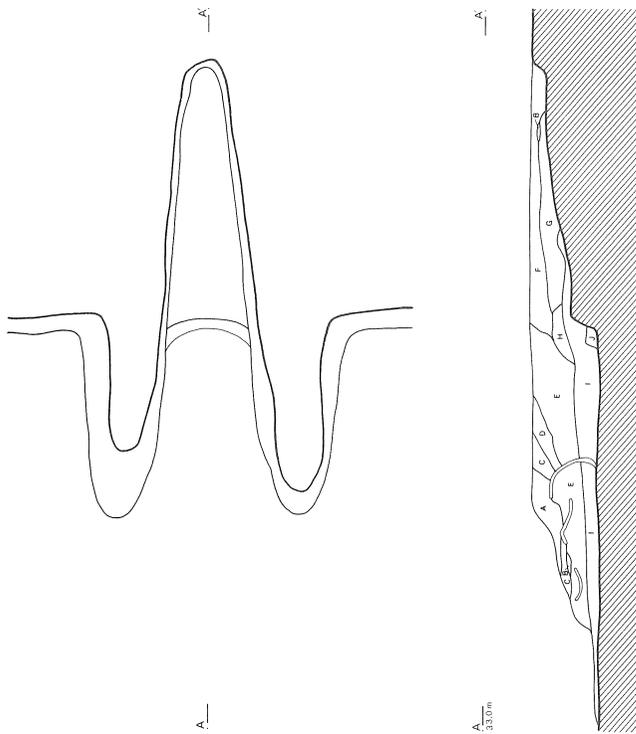
第245図 第31号住居跡小鍛冶跡



第246図 第31号住居跡(1)

- 第31号住居跡
- 1 暗黄褐色土 炭化物粒子(微粒~3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 暗黄灰色土 炭化物粒子(3~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 茶褐色土 焼土粒子(3~10mm)多量、炭化物粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 4 暗茶褐色土 焼土粒子(3~10mm)、炭化物粒子(3~10mm)多量含む。しまり・粘性やや弱。
  - 5 橙色土 焼土ブロック、少量の炭化物粒子(3mm)含む。しまりあり、粘性欠。
  - 6 灰黒色土 暗赤色焼土ブロック(2cm)、炭化物粒子極多量含む。しまり・粘性あり。
  - 7 暗褐色土 炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 8 褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。

- 第31号住居跡小鍛冶関連ピット E-E'
- 1 褐色土 炭化物粒子(微粒~3mm)少量含む。砂質。しまりあり、粘性欠。
  - 2 暗黄褐色土 炭化物微粒子微量含む。砂質。しまりあり、粘性弱。
  - 3 暗灰色土 炭化物(微量~20mm)極多量、焼土粒子(5~7mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 4 暗赤褐色土 よく焼けた焼土主体。しまりきわめてあり、粘性弱。
- 第31号住居跡小鍛冶関連ピット F-F'
- 1 茶褐色土 炭化物粒子(3~5mm)・焼土粒子(1~2mm)多量、還元層粒子(5mm)含む。しまり・粘性あり。
  - 2 褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。



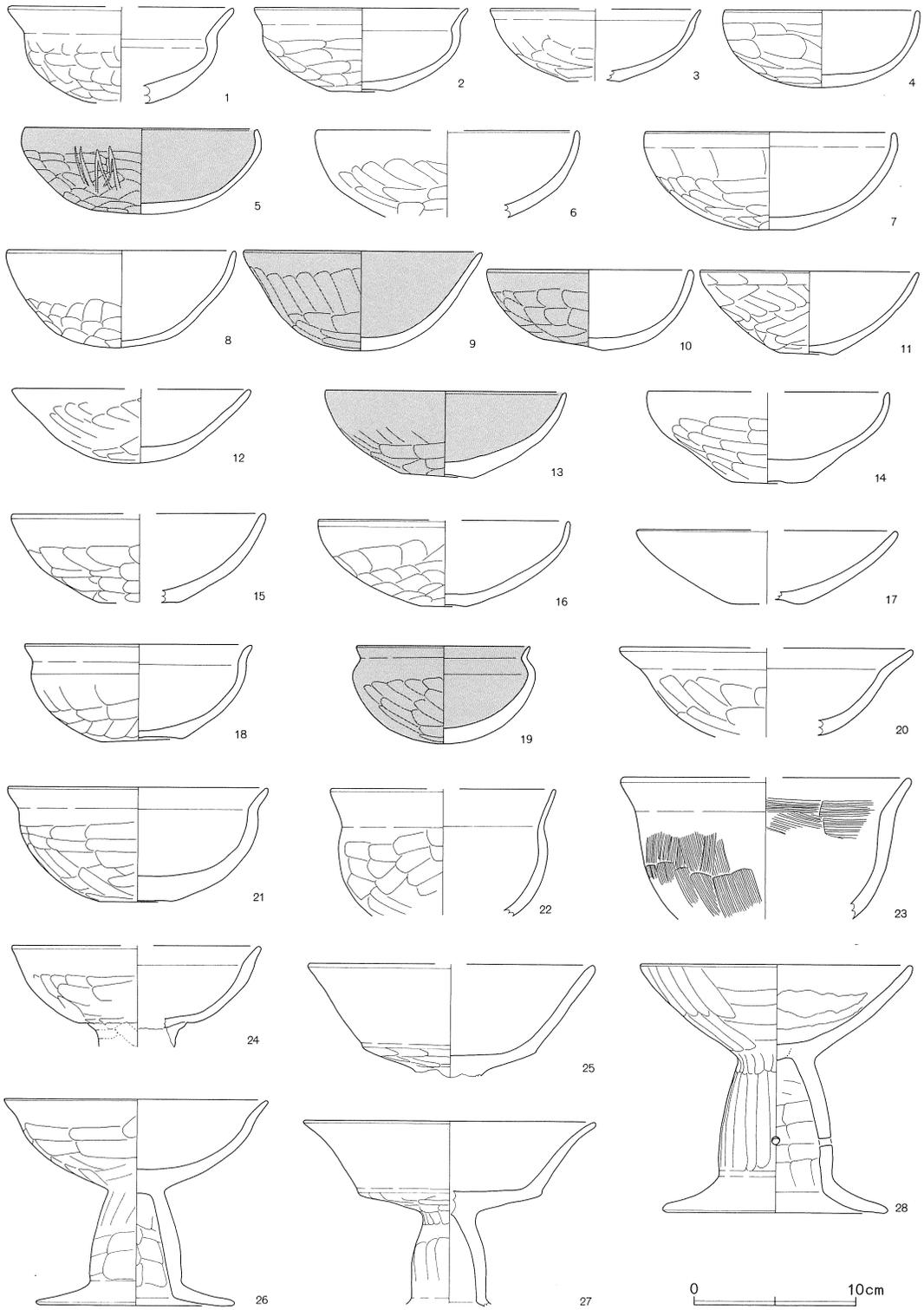
- 第31号住居跡カマド
- A 暗茶褐色土 焼土粒子(3~10mm)、炭化物粒子(3~10mm)多量含む。しまり・粘性やや弱。
  - B 灰黒色土 焼土ブロック(2cm)、炭化物粒子極多量含む。しまり・粘性あり。
  - C 暗黄褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
  - D 暗茶褐色土 焼土粒子(3mm)、炭化物粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - E 黄褐色土 焼土ブロック(5~20mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - F 黄褐色土 焼土ブロック(20mm)多量含む。しまり・粘性あり。
  - G 褐色土 焼土粒子(3~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - H 橙褐色土 焼土ブロック(5~30mm)多量含む。しまりあり、粘性やや弱。
  - I 橙褐色土 焼土ブロック(20~40mm)極多量、灰色炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性欠。
  - J 褐色土 焼土粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。

第247図 第31号住居跡(2)

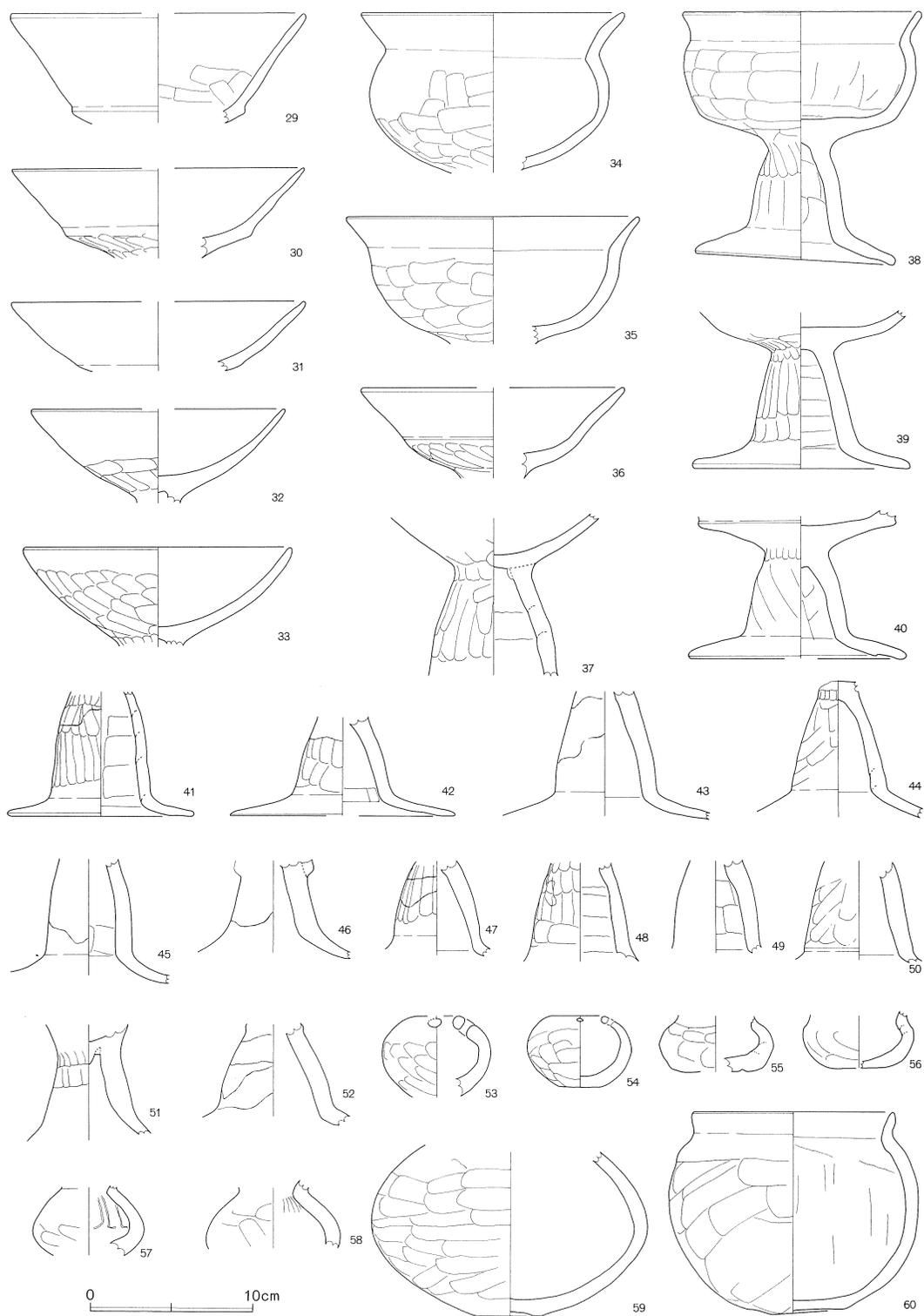
ている。遺物はおもに、カマド周辺部および南東コーナーから出土している。特に石製品出土が多く、有孔円板2点、勾玉1点、切子玉1点、剣形品1点、紡錘車3点が検出されている。ほかに、刀子1点、打製石斧1点がある。

### 第32号住居跡 (第252・253図)

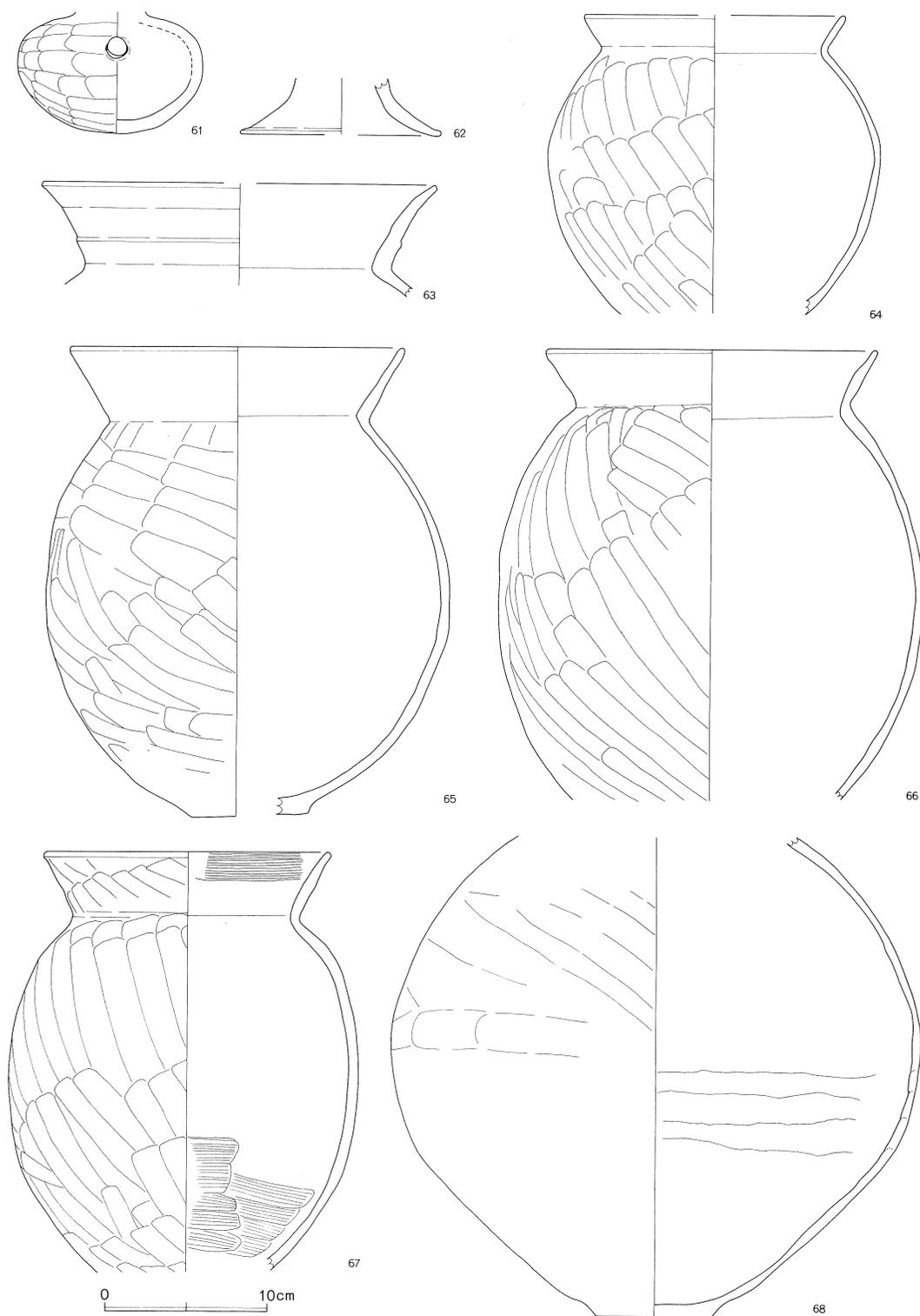
セー370・371、スー370・371Gridに位置し、西側部分は土取りによって削平されている。また北壁の一部も攪乱されている。第34号住居跡と重複し、新旧関係は新しい。規模は主軸辺6.73m・短辺6.52m、深さ0.17~0.67mを測る。主軸方位はS-37°-Wで、カマドが南壁に構築されている。カマドの煙道部は削平されており、推定長1.12m、焚き口幅0.38mを測る。袖部は地山を掘り残しており、火床面はよく焼けている。住居跡の壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.19~0.67m、深さ0.17~0.37mの壁溝がほぼ全周しているようである。貯蔵穴はカマド東側の南東コーナー部に位置している。南北0.67m・東西0.97m、深さ0.51mで、隅丸方形を呈している。3基検出されているピットは、すべて柱穴である。貯蔵穴と東壁の間に、用途不明の白色粘土が確認されている。遺物はカマド・東壁際中央・P1付近から出土している。なかでも土錘が8点と多く、ほかに編物石9点がある。



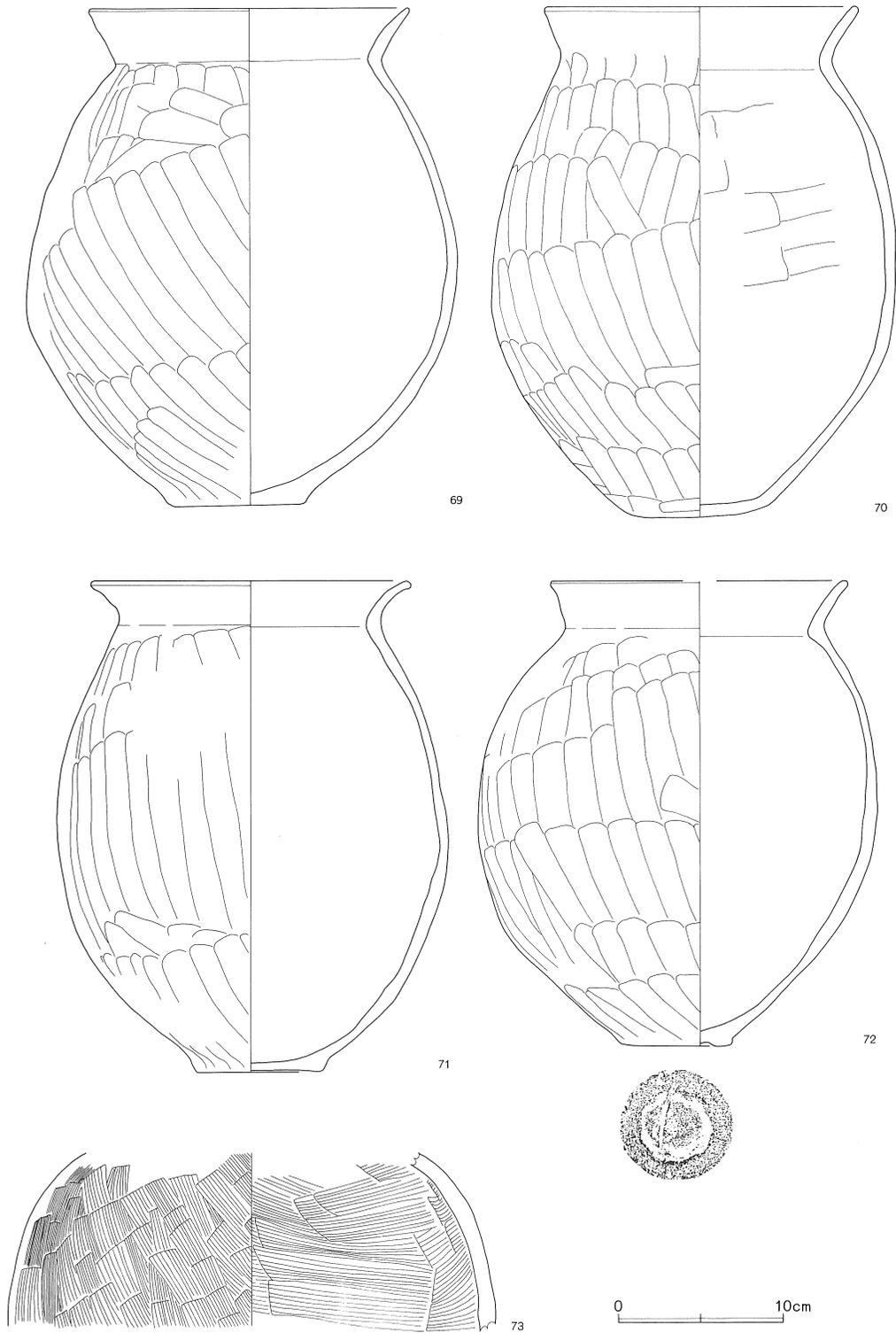
第248图 第31号住居跡出土遺物(1)



第249图 第31号住居跡出土遺物(2)



第250图 第31号住居跡出土遺物(3)



第251図 第31号住居跡出土遺物(4)

第31号住居跡 (第248~251区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	碗	口(13.9)	B+R+W少+W' 少	赤橙~橙	20	No.116。内外面に黒色部分
2	碗	口13.2 底3.2 高5.1	B+R+W	橙	90	No.64。底部ケズリ
3	坏	口(12.9)	B+R少+W+W'	黄橙~浅黄橙	40	
4	坏	口12.1 高4.7	B少+R+W+W'	橙~赤橙	60	
5	坏	口14.3 高5.3	B+R+W+W'	橙~黄橙	90	No.121・144。内外面赤彩 内外面に黒色部分
6	坏	口(16.3)	B+R+W+W'	橙~黄橙	30	No.131。
7	坏	口15.5 底3.2 高6.0	B+R少+W+W'	橙	100	底部ケズリ
8	坏	口14.1 高6.0	B少+R+W少+W' 少	橙	95	No.149。
9	坏	口14.7 高6.1	B+R+W少+W' 少	赤橙~橙	90	No.34。内外面赤彩 内面に黒色部分
10	坏	口12.7 高5.0	B+R+W+W'	赤橙~橙	80	No.24・35。外面赤彩 内面に黒色部分
11	坏	口13.5 底3.5 高5.1	B+R+W' 少	黄橙~橙	70	底部ケズリ
12	坏	口(14.6) 高4.5	B+R+W+W'	黄橙~橙	40	内外面に黒色部分
13	坏	口14.9 底4.4 高5.3	B+R+W+W'	赤橙~橙	90	No.27。内外面赤彩 内外面に黒色部分
14	坏	口(14.9) 底4.5 高5.6	B+R+W+W'	橙	50	No.63。内面に黒色部分
15	坏	口(15.6)	B+R+W+W'	橙	25	
16	坏	口(15.6) 底2.5 高5.3	B少+R+W少+W' 少	浅黄橙~橙	40	No.126。
17	坏	口(16.1)	B+R+W+W'	橙	20	No.87。風化が著しい
18	碗	口13.9 底4.9 高5.9	B少+R+W少+W' 少	橙	70	
19	碗	口10.7 高6.0	B+R+W+W'	浅黄橙~橙	80	No.79。外面に黒色部分
20	碗	口(18.1)	B+R+W少+W' 少	橙~黄橙	20	
21	碗	口16.0 底4.4 高7.1	B+R+W+W'	橙	90	No.133。底部ケズリ
22	碗	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	40	No.78。
23	碗	口(17.9)	B+R+W少+W' 少	浅黄橙~橙	20	No.56。
24	高坏	口(15.3)	B+R+W+W'	橙	坏部 40	No.128。口縁端部面トリ
25	高坏	口(17.7)	B+R+W+W'	橙	坏部 50	No.9・10。内外面に黒色部分
26	高坏	口16.2 脚12.2 高12.7	B+R+W少+W'	橙~灰赤	90	内外面に黒色部分
27	高坏	口(18.1)	B+R+W少+W'	橙~黄橙	70	No.106・115。脚部内外面に黒色部分
28	高坏	口16.8 脚13.8 高15.3	B+R+W+W'	橙~黄橙	80	No.73・74。烧成前穿孔 坏部内面にター ル状の付着物
29	高坏	口(18.1)	B+R+W+W'	橙	坏部 20	No.77。

30	高环	口(17.9)	B少+R+W少+W' 少	黄橙～橙	坏部 40	
31	高环	口(18.1)	B+R+W+W'	橙	坏部 20	内外面に黒色部分
32	高环	口(15.5)	B+R+W少+W' 少	黄橙	坏部 40	No.88。
33	高环	口16.5	B+R+W+W'	黄橙	坏部 100	No.70。外面に黒色部分
34	高环	口16.1	B少+R+W少+W' 少	橙	坏部 70	No.85。外面に黒色部分
35	高环	口18.0	B+R+W+W'	橙～赤橙	坏部 90	No.89・93・104・108・111・112・114。内外面に黒色部分
36	高环	口(16.2)	B+R+W+W'	橙～黄橙	坏部 15	No.122。
37	高环		B少+R+W+W'	橙	40	
38	高环	口14.7 脚12.2 高15.2	B+R+W+W'	黄橙～橙	95	No.25・32。口縁端面トリ 坏部外面に黒色部分
39	高环	脚13.3	B+R+W+W'	黄橙～橙	脚部 90	No.75。内外面に黒色部分
40	高环	脚(13.3)	B+R+W+W'	橙	50	No.37。
41	高环	脚11.5	B+R+W+W'	橙～黄橙	脚部 70	羽口転用
42	高环	脚(13.8)	B少+R+W少+W' 少	橙～黄橙	脚部 70	羽口転用
43	高环		B+R+W+W'	橙	脚部 60	羽口転用
44	高环		B+R+W+W'	浅黄橙～橙	脚部 40	No.100。内外面に黒色部分
45	高环		B少+R+W+W'	橙～黄橙	脚部 80	No.44。羽口転用
46	高环		B少+R+W少+W' 少	橙	脚部 50	No.82。羽口転用
47	高环		B+R+W少+W' 少	橙	脚部 50	羽口転用 タール状の付着物
48	高环		B+R+W+W'	赤橙～黄橙	脚部 60	No.102。タール状の付着物
49	高环		B少+R+W少+W' 少	橙	脚部 60	No.46。外面風化が著しい
50	高环		B+R+W少+W' 少	橙	脚部 60	No.48。
51	高环		B+R+W少+W' 少	橙	脚部 60	No.86。外面に黒色部分
52	高环		B少+R+W少+W' 少	橙	脚部 50	No.30。羽口転用
53	ミニチュ ア	口(2.5) 最大6.6 孔0.8	B+R+W+W'	黄橙～橙	30	No.8。焼成前穿孔 内外面に黒色部分
54	ミニチュ ア	口3.3 底2.3 高4.4 最大6.3	B+R+W+W'	橙	100	No.19。焼成前穿孔(2孔1対)
55	ミニチュ ア		B+R+W+W'	橙	35	
56	ミニチュ ア		B+W+W'	橙～赤橙	20	
57	ミニチュ ア		B+R+W+W'	にふい橙	20	内面黒色
58	ミニチュ ア		B+R+W+W'	橙～黄橙	20	内面黒色
59	塔	底4.0 胴17.2	B+R+W+W'	橙～赤橙	胴部 80	No.33。底部ケズリ 内外面に黒色部分

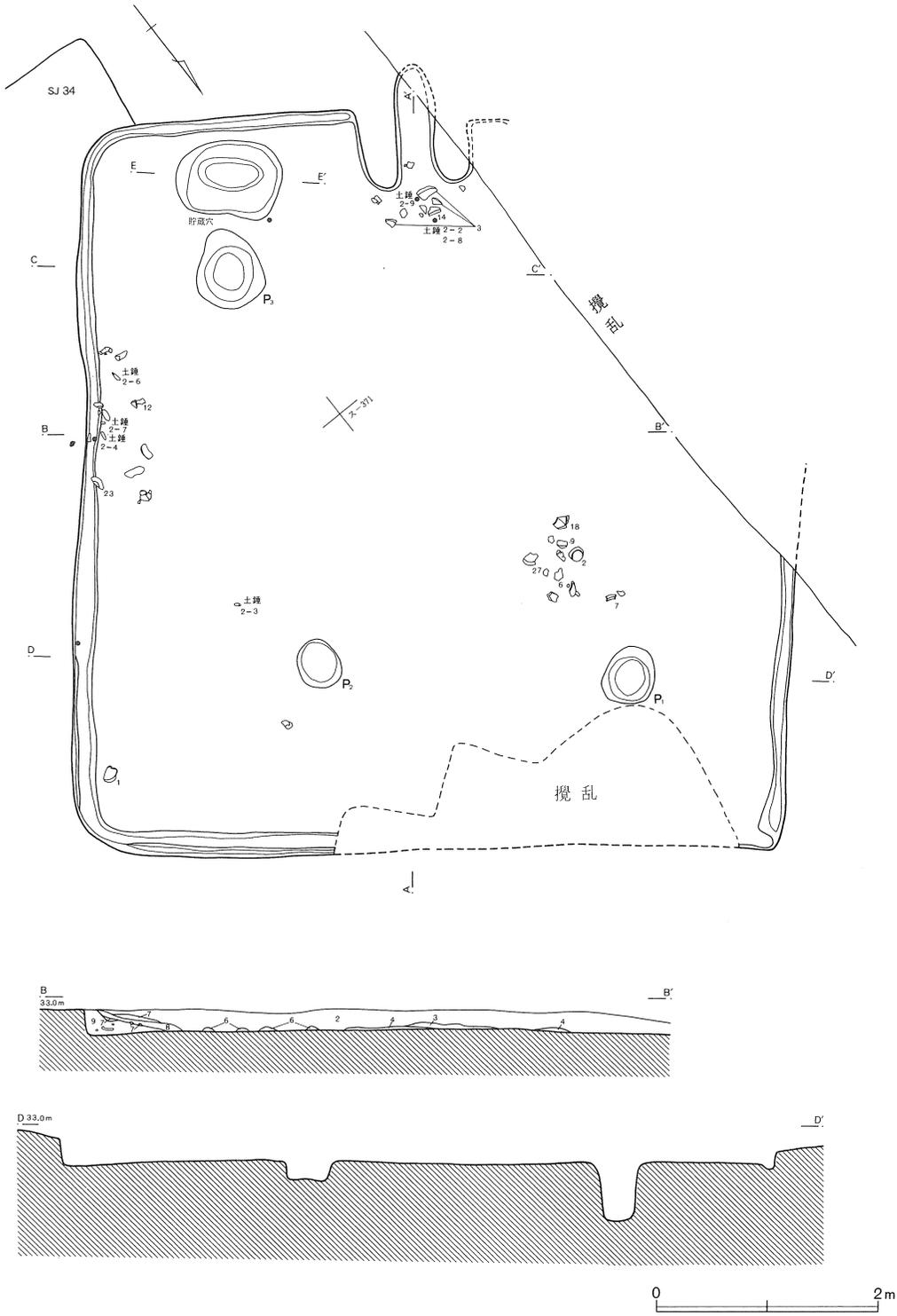
60	椀	口12.5 底6.2 高12.3	B+R+W+W'	橙～赤橙	90	No.60・62・68。外面一部と内面黒色
61	はそう	孔1.2	W	灰白	60	No.16。
62	高坏	脚(12.3)	B+R+W少+W'	浅黄橙～橙	脚部 15	
63	壺	口(24.2)	B少+R+W+W'	橙	口縁 20	No.92。
64	甗	口(15.9) 胴20.3	B少+R少+W+W' 少+ 砂多+礫少	にふい赤橙	45	No.33。内外面に黒色部分
65	甗	口20.5 胴24.8	B+R+W+W'+砂多+ 礫少	にふい橙～橙	80	No.67・69。胴部下半黒色
66	甗	口20.2 胴26.0	B+R+W+W'+砂多+ 礫多	にふい橙～橙	70	No.21・31。胴部外面下半黒色
67	甗	口17.6 胴21.4	B+R+W+W'+砂多+ 礫少	浅黄橙～橙	85	No.17。胴部外面に黒色部分
68	壺	底7.1	B少+R+W少+W' 少	橙	胴部 80	No.39・40・41・51・53・59。底部ケズリ 風化が著しい 胴部外面に黒色部分 粘 土紐積み上げ痕
69	甗	口19.3 底8.4 高29.9 胴25.9	B+R+W+W'+砂多+ 礫多	にふい橙～橙	80	No.71。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
70	甗	口18.9 底8.2 高30.7 胴24.3	B+R+W+W'+砂多+礫 多	にふい橙～橙	90	No.20。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
71	甗	口19.3 底7.6 高29.7 胴23.5	B+R+W+W'+砂多+礫 少	にふい橙～黄橙	60	底部ケズリ 胴部外面下半黒色
72	甗	口17.9 底6.8 高27.9 胴24.1	B+R+W+W'	浅黄橙～橙	70	No.34。底部周辺に粘土貼付 胴部外面黒 色
73	甗		B+R+W+W'	橙～にふい橙	胴部 20	No.119。内外面に黒色部分

### 第34号住居跡 (第255図)

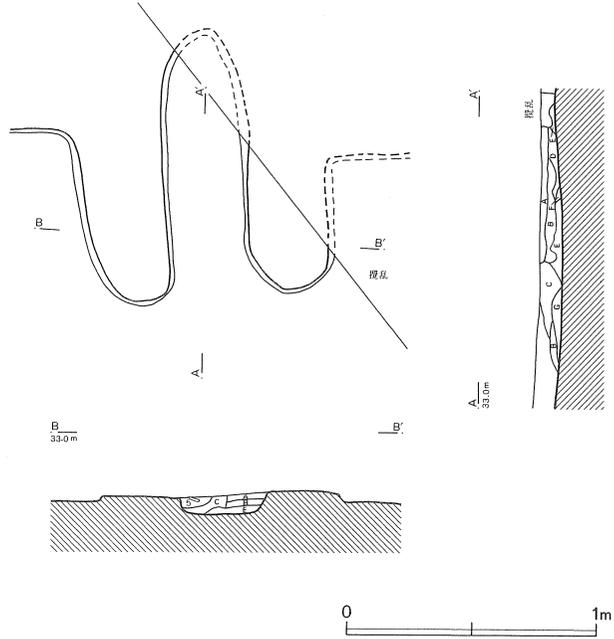
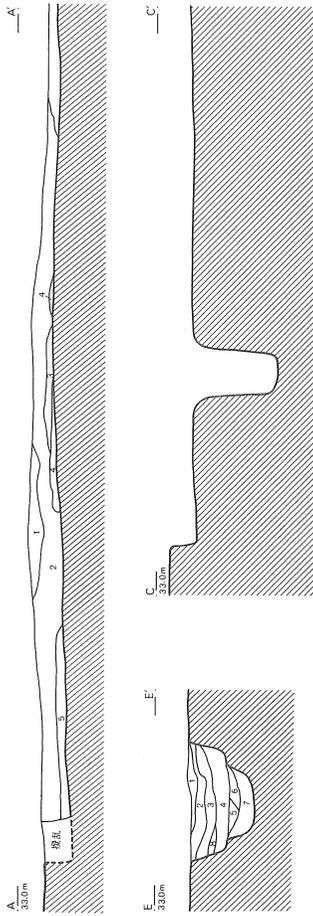
セー369・370・371、スー369・370・371Gridに位置している。第25・28・32号住居跡と重複し、新旧関係はどの住居跡よりも古い。北側は現道にかかり、道路建設によって削平されている。また噴砂の亀裂が入り込んでいるが、影響は少ない。規模は東西8.34m、深さ0.15～0.16mで、主軸方位N-6°-Eを測る大型の住居跡である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.12～0.19m、深さ0.14～0.22mの壁溝が東壁途中から南壁途中まで廻っている。カマドは北壁に構築され、焚き口幅0.47mを測る。天井部がわずかに残存している。袖部は地山を掘り残し、火床面はよく焼けている。また周辺部の床面もきわめてよく焼けている。貯蔵穴は南東コーナー部に位置している。南北1.42m・東西1.01m、深さ0.63mで、円形を呈している。ピットは20基検出され、いずれも平面的には小さい。P1・P2・P4～P6が柱穴で、深く掘り込まれている。遺物はカマド・中央部・南壁際中央部からおもに出土している。

### 第33号住居跡 (第260図)

エー369、ヒー369・370Gridに位置している。削平されて、掘り込みは0.02～0.07mと浅い。カマドが片袖で、規模は主軸辺3.41m・3.08m、長辺4.02m、主軸方位はN-33°-Wを測る。壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築され、全長が1.22m、焚き口幅は0.47mある。燃烧部は楕円形を呈し、摺り鉢状に深く掘り込まれている。煙道部は削平されている。ピットは北東コーナー部に1基検出されている。図示し得た遺物は1点のみで、ほかに須恵器2片がある。



第252图 第32号住居迹(1)



第32号住居跡

- 1 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 2 灰褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 3 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまり・粘性あり。
- 4 灰色粘土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 5 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 6 炭化物堆積 焼土粒子若干含む。
- 7 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまり・粘性あり。
- 9 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。

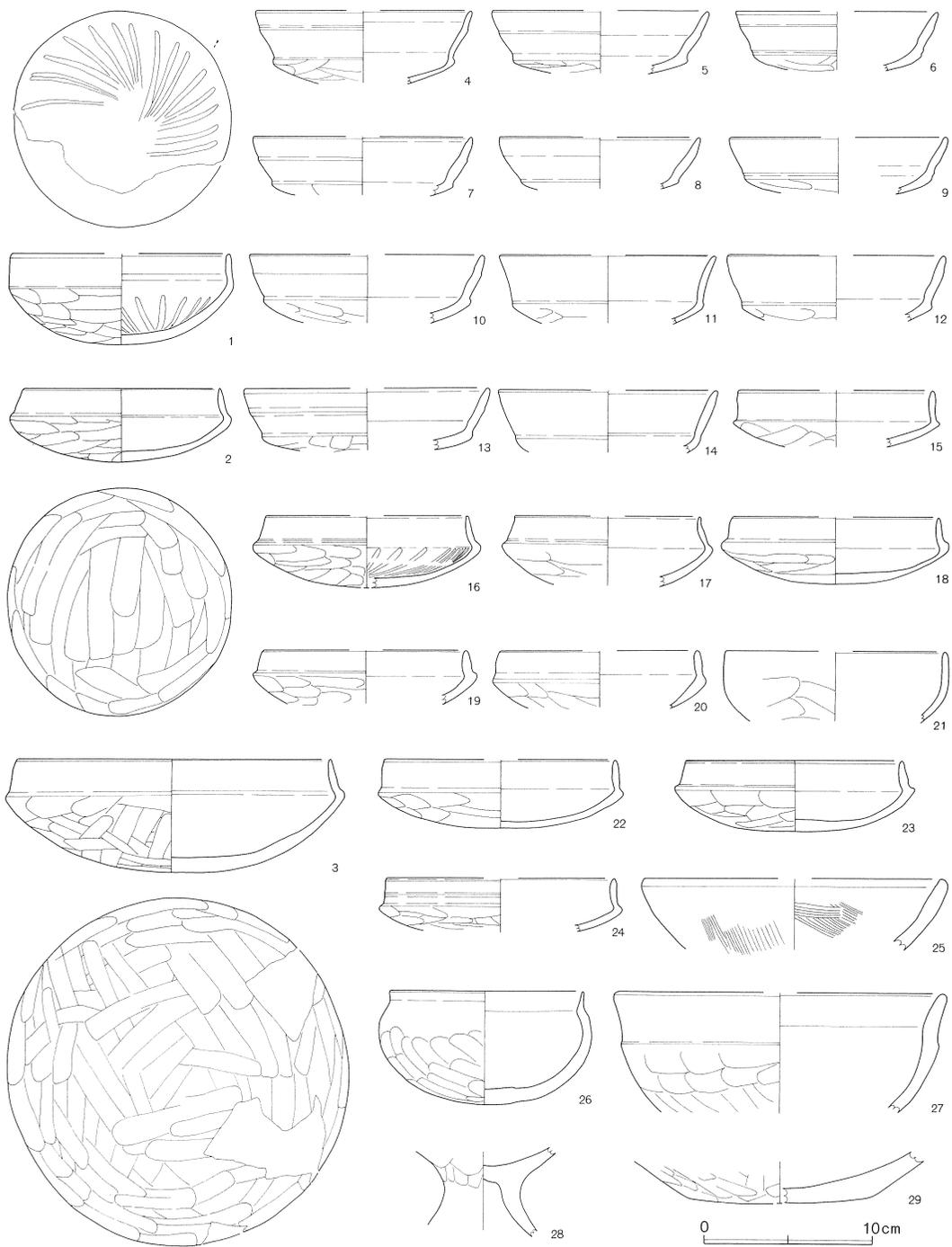
第32号住居跡カマド

- A 灰黄褐色土 焼土粒子・ブロック多く、炭化物若干含む。しまりあり。
- B 黄灰色土 灰層。焼土粒子、炭化物多く含む。しまり弱。
- C 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- D 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- E 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- F 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、灰多く含む。しまり弱。
- G 赤褐色土 焼土層。

第32号住居跡貯蔵穴

- 1 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 3 灰暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 4 茶褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。粘性あり。
- 5 灰暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。粘性あり。
- 6 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。粘性あり。
- 7 灰茶褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。粘性あり。
- 8 灰褐色土 混入物なし。粘性あり。

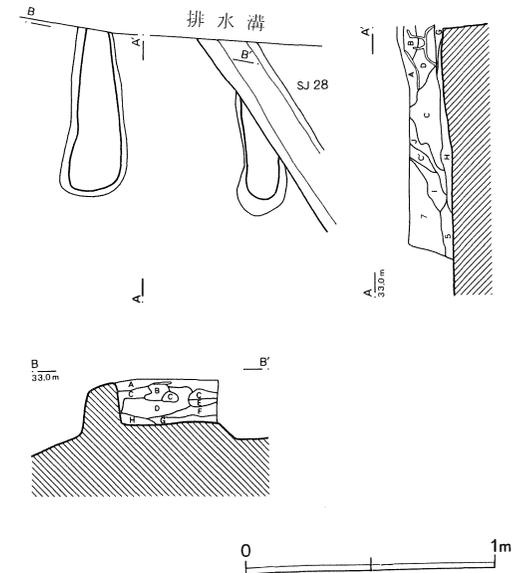
第253図 第32号住居跡(2)



第254图 第32号住居跡出土遺物

第32号住居跡 (第254区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.1 高5.4	B+R+W+W'	橙	60	No.44。放射状暗文
2	坏	口11.7 高4.3	B+R少+W少+W' 少	橙～黄橙	100	No.33。器面粗
3	坏	口18.7 高6.7	B+R少+W少+W' 少	橙～黄橙	90	No.3・4・7。外面に黒色部分
4	坏	口(12.8)	B少+R+W+W'	橙	30	内外面に黒色部分
5	坏	口(12.9)	B+W+W'	浅黄橙	15	内外面に黒色部分
6	坏	口(12.0)	B少+R少+W+W'	灰白～浅黄橙	25	No.37。外面に黒色部分 器面粗
7	坏	口(13.1)	B+W+W'	浅黄橙	20	No.41。内外面に黒色部分
8	坏	口(11.9)	B+R+W+W'	橙	20	内外面に黒色部分
9	坏	口(13.0)	B少+R少+W+W'	灰白～浅黄橙	20	No.31。内外面に黒色部分 器面粗
10	坏	口(14.0)	B+R+W少+W' 少	橙	15	外面に黒色部分
11	坏	口(12.9)	B+R+W' 少	橙	15	口縁端部面トリ
12	坏	口(13.0)	B+R少+W+W' 少	浅黄橙	20	No.14。内外面に黒色部分
13	坏	口14.6	B+R+W+W'	にふい橙～黒	60	内外面に黒色部分
14	坏	口(13.0)	B少+R+W少+W' 少	赤橙～橙	30	No.2。風化が著しい
15	坏	口(11.6)	B+R少+W少+W' 少	浅黄橙	20	
16	坏	口(12.1) 高4.3	B+R+W+W'	にふい橙～橙	45	放射状暗文 内外面に黒色部分
17	坏	口(11.1)	B+R少+W+W'	浅黄橙	20	内外面に黒色部分
18	坏	口(12.3) 高4.0	B+R+W+W'	浅黄橙～橙	40	No.28。口縁端部面トリ
19	坏	口(12.2)	B+R+W+W'	橙～浅黄橙	20	外面に黒色部分
20	坏	口(11.9)	B+R少+W+W'	浅黄橙～灰白	20	
21	坏	口(13.3)	B少+R+W少+W' 少	橙	15	
22	坏	口(13.7) 高4.1	B+R+W+W'	橙～浅黄橙	45	内外面に黒色部分
23	坏	口13.0 高4.2	B+R少+W少+W' 少	橙～黄橙	60	No.20。内外面に黒色部分
24	坏	口(13.6)	B+R少+W'	浅黄橙	20	口縁端部面トリ 内外面に黒色部分
25	鉢	口18.0	B少+R+W+W'	橙	15	
26	碗	口11.6 高6.7	B少+R+W少+W' 少	橙	60	
27	鉢	口(19.8)	B+R+W+W'+砂多+礫少	橙	20	No.40。
28	高坏		B+R+W少+W' 少	橙～にふい橙	脚部 40	内面に黒色部分
29	甕	底(10.6)	B+R少+W+W'	黄橙	底部 30	底部ケズリ 内外面に黒色部分



#### 第34号住居跡

- 1 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 2 灰黒褐色土 炭化物を部分的に多く含む。焼土粒子・ブロック若干混入。
- 3 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 4 灰褐色土 焼土粒子・ブロック多量、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 5 褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。
- 6 黄褐色土 混入物なし。しまりあり。
- 7 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物多量含む。

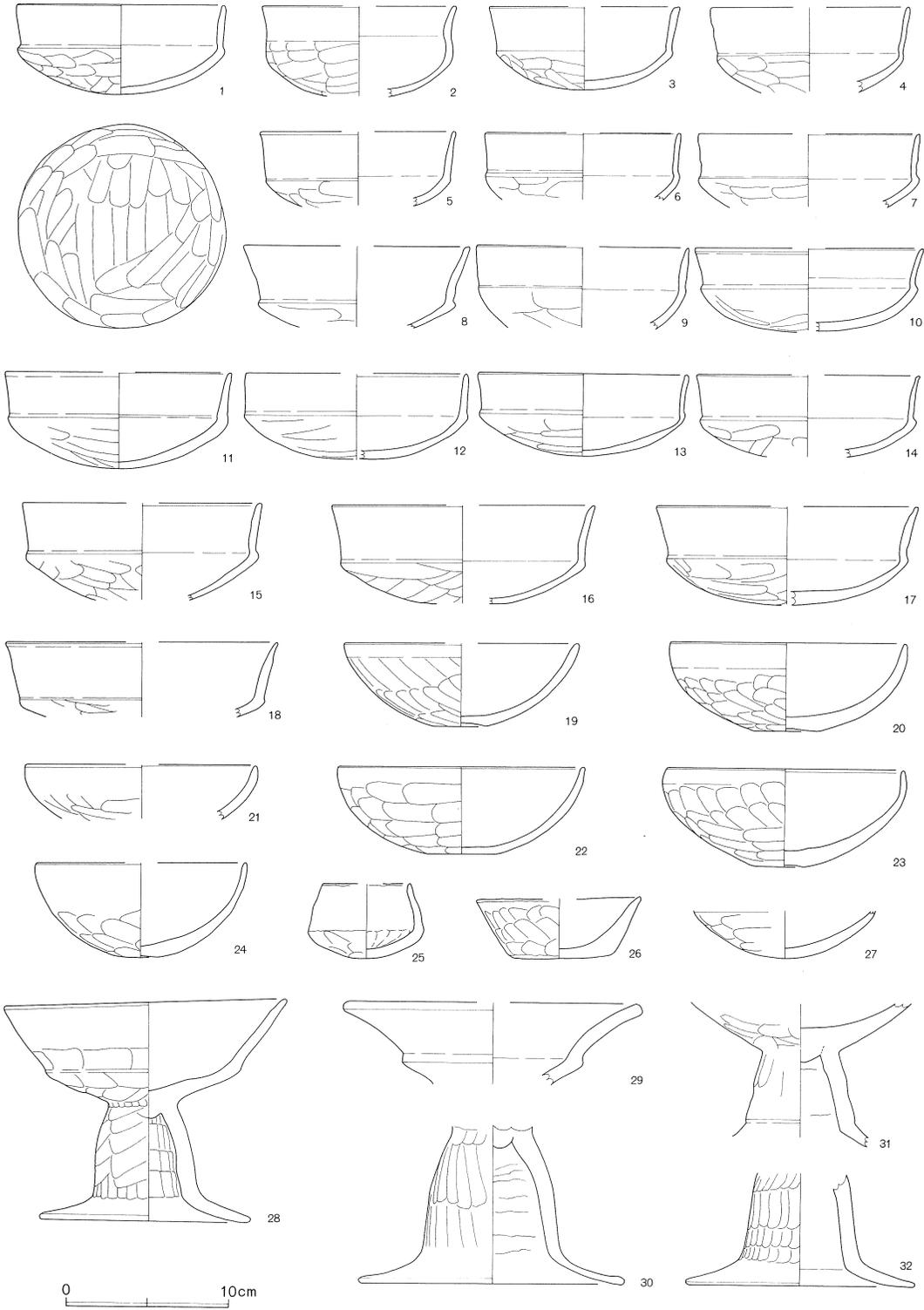
#### 第34号住居跡貯蔵穴

- 1 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。やや軟質。
- 2 灰黄褐色土 1に焼土・炭化物ブロック混入。
- 3 灰褐色土 焼土・炭化物粒子・ブロック多く含む。
- 4 灰色土 砂混入。焼土粒子わずかに含む。
- 5 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。軟質。
- 6 灰色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。粘性強。
- 7 炭化物堆積層

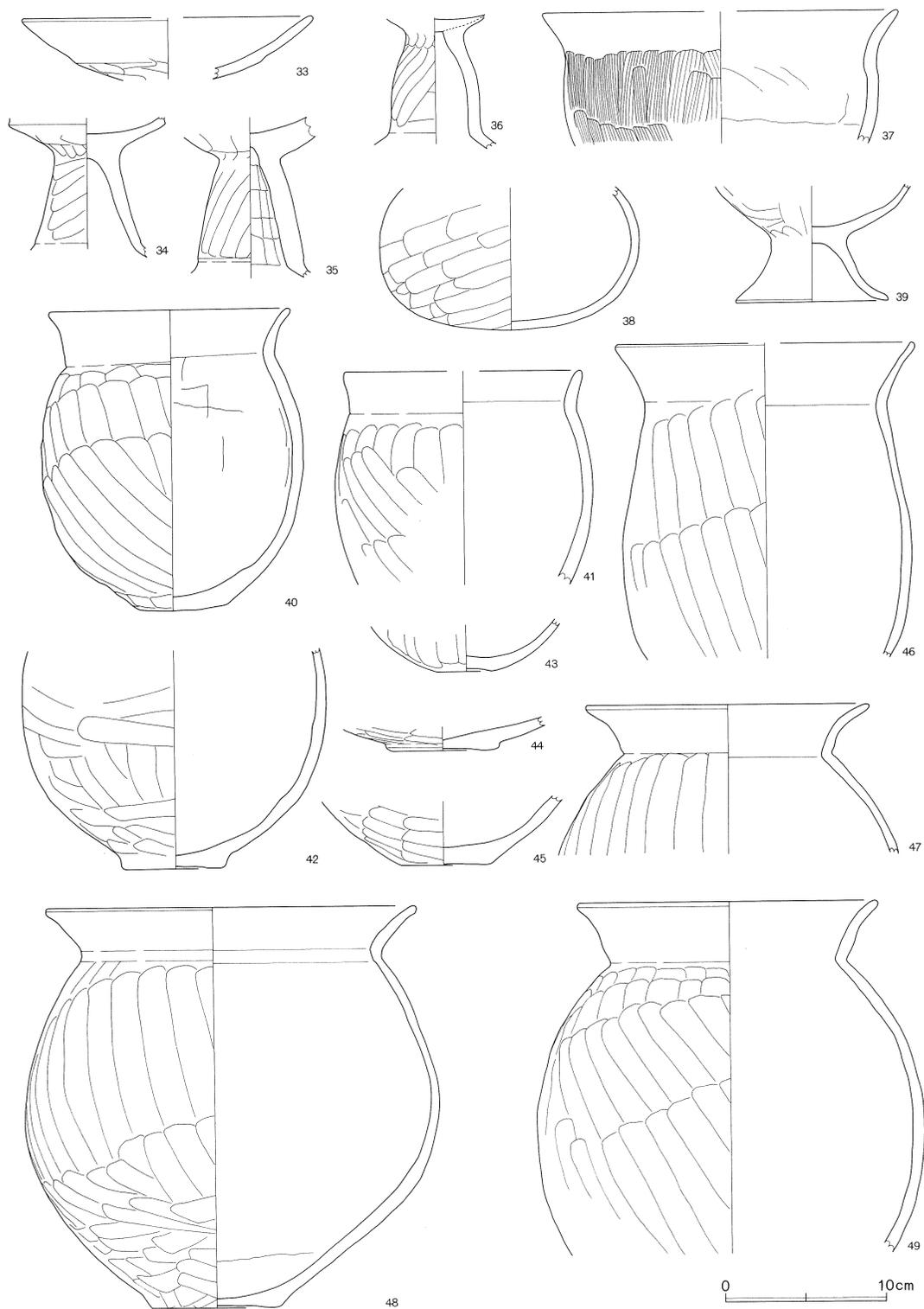
#### 第34号住居跡カマド

- A 褐色土 焼土粒子(5~20mm)少量含む。しまり・粘性強。
- B 黄褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性強。
- C 橙色土 内壁・天井。きわめて良く焼けた焼土層。
- C' 赤色土 きわめて良く焼けた焼土層。しまりあり、粘性弱。
- D 灰褐色土 焼土粒子(3~20mm)、炭化物微粒子極多量含む。しまりあり、粘性弱。
- E 灰白色土 灰主体。焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性弱。
- F 暗灰褐色土 炭化物微粒子極多量、焼土微粒子多量含む。しまり・粘性やや弱。
- G 暗赤色土 焼土層。炭化物(3mm)少量含む。しまりあり、粘性弱。
- H 暗赤色土 焼土層。炭化物(5~10mm)多量含む。しまりあり、粘性弱。
- I 赤褐色土 焼土層。砂質。しまりあり、粘性欠。
- J 黄褐色土 カマド袖内。内壁に近い部分の焼土化。しまりあり、粘性弱。

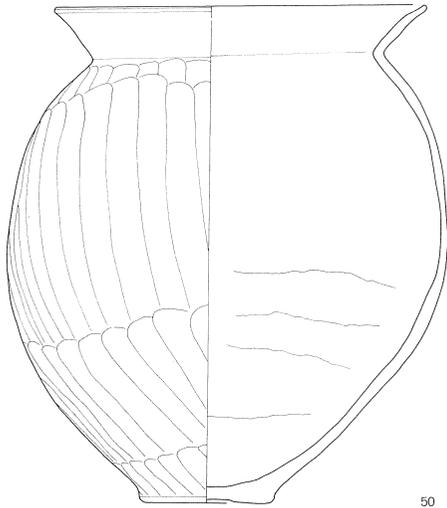
第255図 第34号住居跡



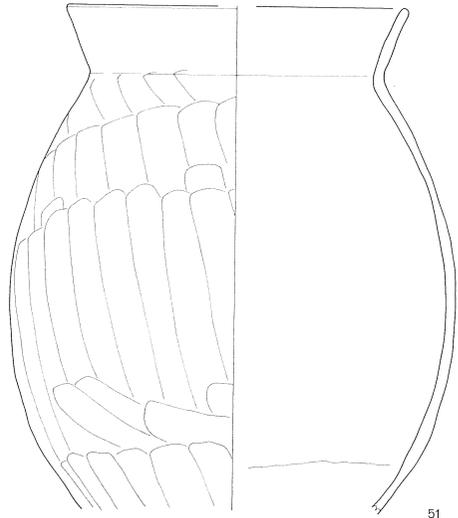
第256图 第34号住居跡出土遺物(1)



第257图 第34号住居跡出土遺物(2)



50



51



0 10cm

第258図 第34号住居跡出土遺物(3)

## 第34号住居跡(第256~258図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.7 高5.5	B+R+W+W'	橙	100	No.29。外面に黒色部分
2	坏	口(11.9)	B+R+W少+W' 少	黄橙	25	No.39-40。口縁端面トリ 内外面に黒色部分
3	坏	口(11.6) 高5.0	B少+R+W少+W' 少	橙	30	口縁端面トリ 内外面に黒色部分
4	坏	口(12.2)	B+R+W+W'	橙	25	口縁端面トリ
5	坏	口(12.0)	B少+R+W少+W' 少	橙	15	No.3。口縁端面トリ
6	坏	口(12.0)	B+R+W+W'	橙	20	口縁端面トリ
7	坏	口(13.6)	B+R+W+W'	橙	20	口縁端面トリ
8	坏	口(13.8)	B+R+W少+W' 少	橙	15	口縁端面トリ
9	坏	口13.0	B少+R+W少+W' 少	黄橙~橙	20	
10	坏	口(14.0)	B+R+W少+W' 少	にふい橙~浅黄橙	20	内外面に黒色部分
11	坏	口(13.9) 高5.9	B少+R+W少+W' 少	黄橙~浅黄橙	30	口縁端面トリ
12	坏	口(13.6)	B少+R+W少+W' 少	黄橙~橙	20	口縁端面トリ
13	坏	口12.9 高5.0	B+R+W少+W' 少	黄橙	60	No.31。口縁端面トリ
14	坏	口(13.6)	B+R+W+W'	橙~黄橙	20	No.38。口縁端面トリ 外面に黒色部分

15	坏	口(14.7)	B+R+W+W'	にふい橙～橙	15	内外面に黒色部分
16	坏	口(16.1)	B+R+W+W'	橙～赤橙	15	口縁端部面トリ
17	坏	口(16.0)	B+R+W少+W' 少	橙	20	No.50。口縁端部面トリ
18	坏	口(16.6)	B+R+W少+W' 少	橙	15	口縁端部面トリ
19	坏	口(14.4) 底3.4 高5.1	B+R+W少+W' 少	橙～黄橙	25	No.20。底部ケズリ
20	坏	口14.6 底3.9 高5.4	B+R+W+W'	橙	95	No.2・4。底部ケズリ 内外面に黒色部分
21	坏	口(14.2)	B+R+W+W'	橙～黄橙	20	No.22。
22	坏	口15.1 底4.3 高5.3	B+R+W+W'	橙	95	底部ケズリ
23	坏	口14.6 底3.0 高6.0	B+R+W+W'	橙～黄橙	80	No.19。底部ケズリ 外面に黒色部分
24	坏	口(12.9) 高5.8	B+R+W+W'	橙～黄橙	30	底部ケズリ
25	ミニチュ ア	口(5.5) 高4.5	B+R+W+W'	橙～黄橙	70	No.15。外面に黒色部分
26	ミニチュ ア	口(10.1) 底6.0 高3.6	B+R+W+W'	橙～にふい橙	70	底部ケズリ
27	坏		B少+R+W少+W' 少	橙～黄橙	70	外面に黒色部分
28	高坏	口17.3 脚12.9 高13.4	B+R+W+W'	橙～黄橙	80	No.1・16・カマド。
29	高坏	口(18.3)	B+R+W+W'	橙	坏部 15	
30	高坏	脚16.3	B+R+W+W'	橙～黄橙	脚部 80	No.48。
31	高坏		B+R+W+W'	橙～黄橙	脚部 70	
32	高坏	脚14.1	B+R+W+W'	橙～にふい橙	脚部 70	外面に黒色部分
33	高坏	口(18.0)	B+R+W+W'	橙～黄橙	坏部 20	No.51。
34	高坏		B+R+W+W'	橙～黄橙	脚部 70	No.37。
35	高坏		B+R+W+W'	橙～浅黄橙	脚部 70	No.42・43。内外面に黒色部分
36	高坏		B+R+W+W'	にふい橙～橙	脚部 60	No.44。
37	鉢	口(21.9)	B+R+W少+W' 少	黄橙～橙	口縁 20	No.55。
38	鉢	胴16.0	B少+R+W少+W' 少	橙	70	No.26。内面黒色
39	台付鉢	台9.4	B+R+W+W'	橙～黄橙	脚部 90	No.47。
40	小型甕	口14.9 底6.1 高18.5	B+R+W+W'+砂多+礫 少	にふい橙～橙	100	No.28。底部ケズリ 内外面に黒色部分
41	小型甕	口(14.7)	B+R+W少+W' 少	橙	25	No.36。内面に黒色部分
42	甕	底6.5	B+R+W+W'+砂多+礫	赤橙～にふい橙	底部 70	No.27・貯蔵穴。底部周辺に粘土貼付 内面が全体的に黒色
43	甕	底3.3	B+R少+W+W'	にふい黄橙	底部 60	底部ケズリ 内面黒色
44	甕	底7.0	B+R+W+W'+砂少	橙～赤橙	底部 60	底部ケズリ

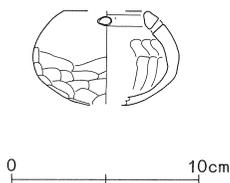
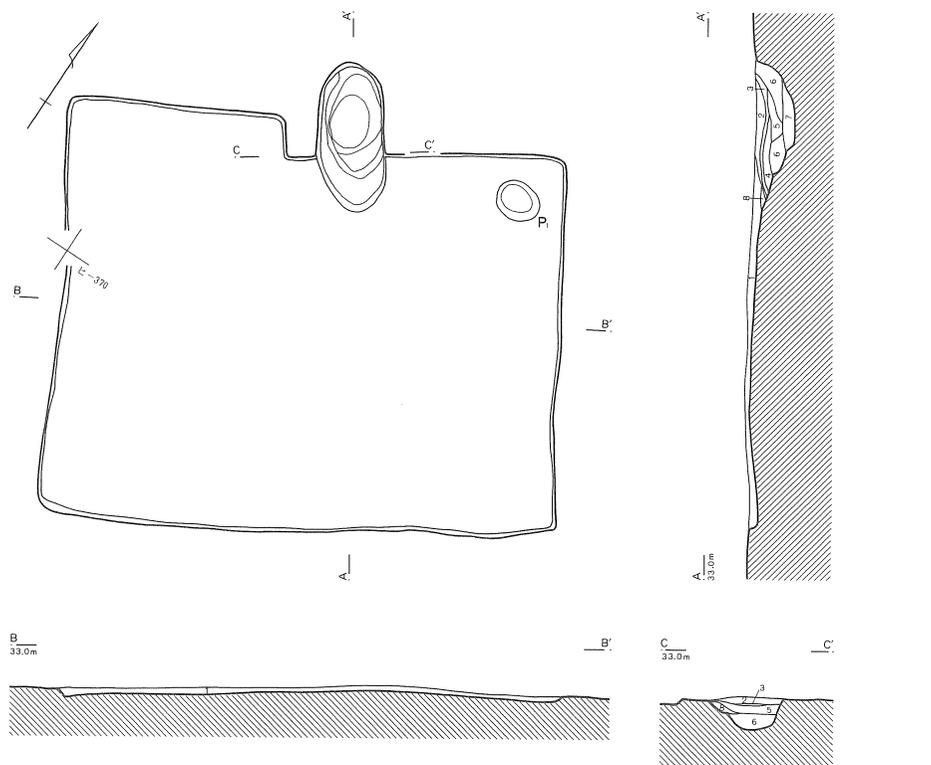
45	甕	底5.5	B+R+W+W'+砂少	橙	底部 60	底部ケズリ
46	甕	口(18.4)	B+R+W+W'+砂多	浅黄橙~橙	口縁 20	
47	甕	口17.5	B+R+W+W'+砂多	橙	口縁 80	No.21・24・25。
48	甕	口(22.8) 底7.9 高24.7 胴25.6	B+R+W+W'+砂多+礫少	橙	80	底部周辺に粘土貼付 内外面に黒色部分
49	甕	口18.6 胴24.0	B+R少+W+W'+砂少+礫少	灰褐~にふい橙	60	
50	甕	口(19.9) 底7.2 高26.5 胴23.5	B+R+W+W'+砂多+礫少	赤褐~橙	70	No.6・7。底部周辺に粘土貼付 胴部外面 下半黒色 粘土継積み上げ痕
51	甕	口(18.2) 胴23.8	B+R+W+W'+砂少	にふい黄橙	40	No.41。胴部外面中位に黒色部分が廻る

### 第35号住居跡（第261図）

第1発掘区西半の大規模に削平されているエー377・378Gridに位置し、辛うじて床面付近が残存している住居跡である。南半部は発掘区域外にかかっている。規模は主軸辺3.47mで、主軸方位はN-68°-Wを測る。壁溝は廻っていない。カマドは西壁に2基並んで設置されている。北西コーナー部のものがカマドA、西壁中央のものがカマドBである。設置されている位置から推測すると、カマドBが住居跡構築時のもので、カマドAは新たに設置されたものと考えられる。両者とも袖部・煙道部は検出されていない。規模はカマドAが全長1.16m・焚き口幅0.87m、カマドBが全長0.78m・焚き口幅0.36mを測る。ピットは4基検出され、貯蔵穴は確認されていない。図示し得た遺物は1点のみで、ほかに須恵器4片が出土している。



第259図 第34号住居跡遺物出土状況



第33号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 炭化物層。焼土粒子多く含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子若干含む。
- 5 茶褐色土 焼土粒子・ブロック多量含む。
- 6 茶褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。
- 7 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。
- 8 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。

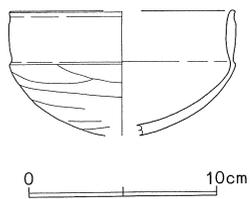
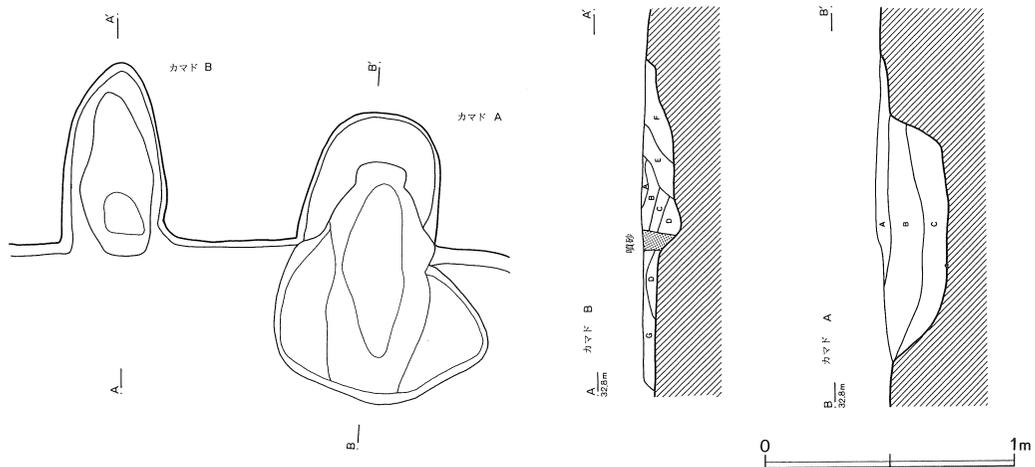
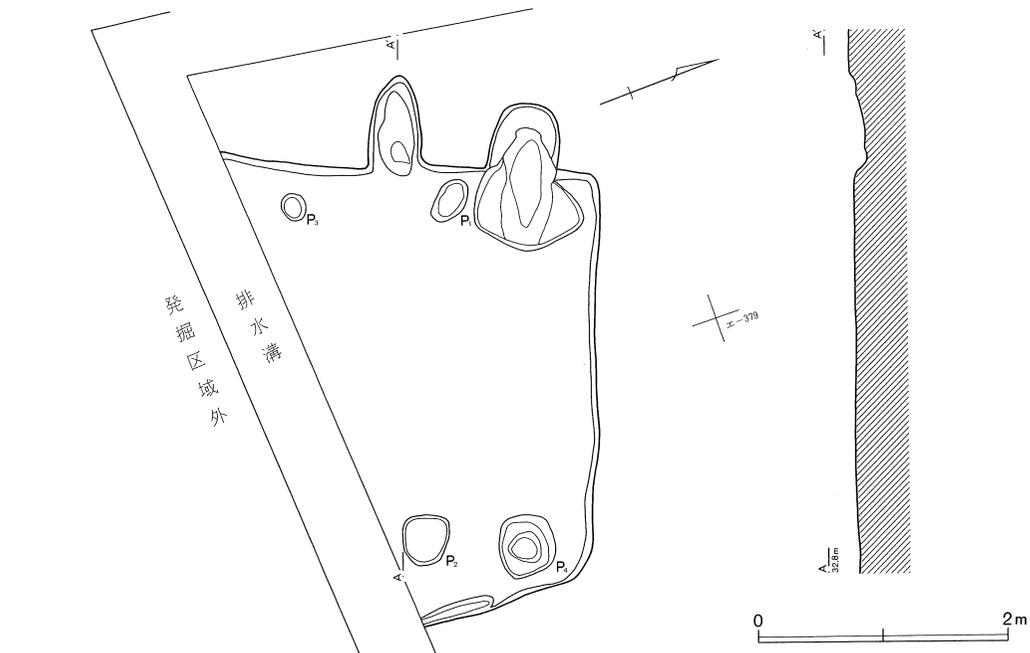
第260図 第33号住居跡・出土遺物

第33号住居跡 (第260図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	ミニチュア	口(4.5) 孔0.6	B少+R+W少+W'少	橙	30	焼成前穿孔

第35号住居跡 (第261図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.1)	B少+R+W少+W'少	橙	40	



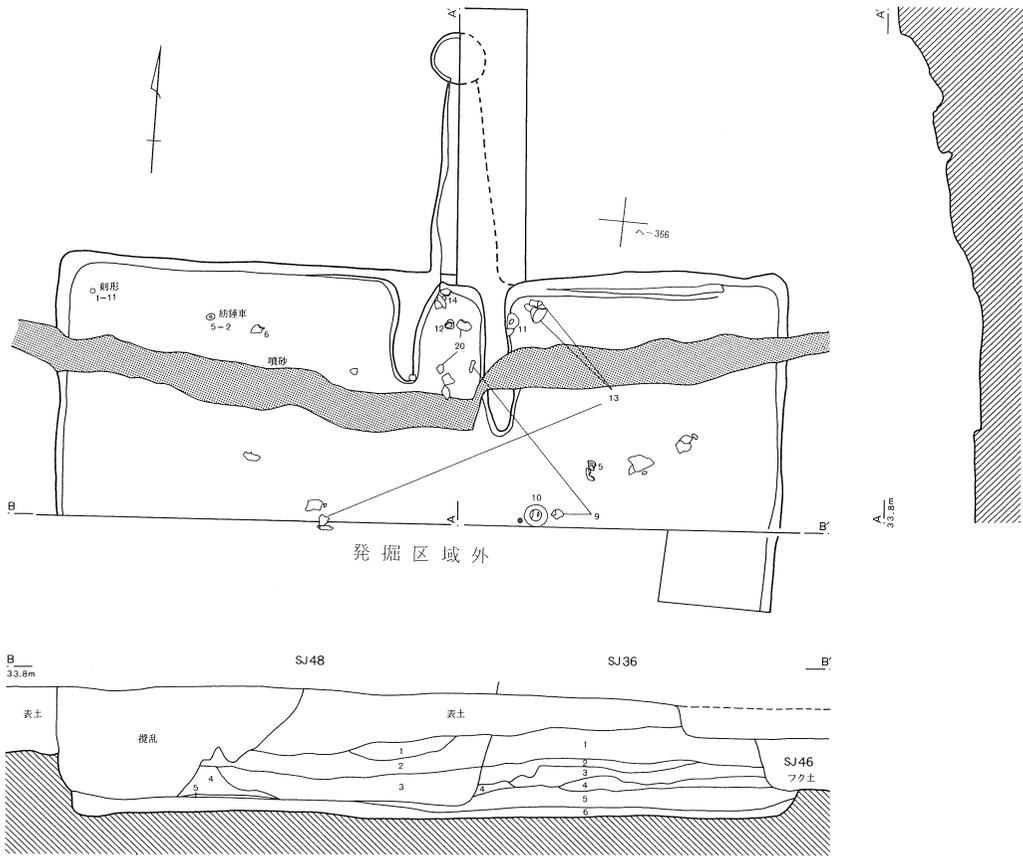
第35号住居跡カマドA

- A 暗灰褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- B 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- C 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。

第35号住居跡カマドB

- A 赤褐色土 焼土層。
- B 灰黄褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- C 灰褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- D 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- E 灰暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物多く含む。しまりあり。
- F 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- G 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。

第261図 第35号住居跡・出土遺物



第36号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- 5 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 6 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。

第36号住居跡カマド

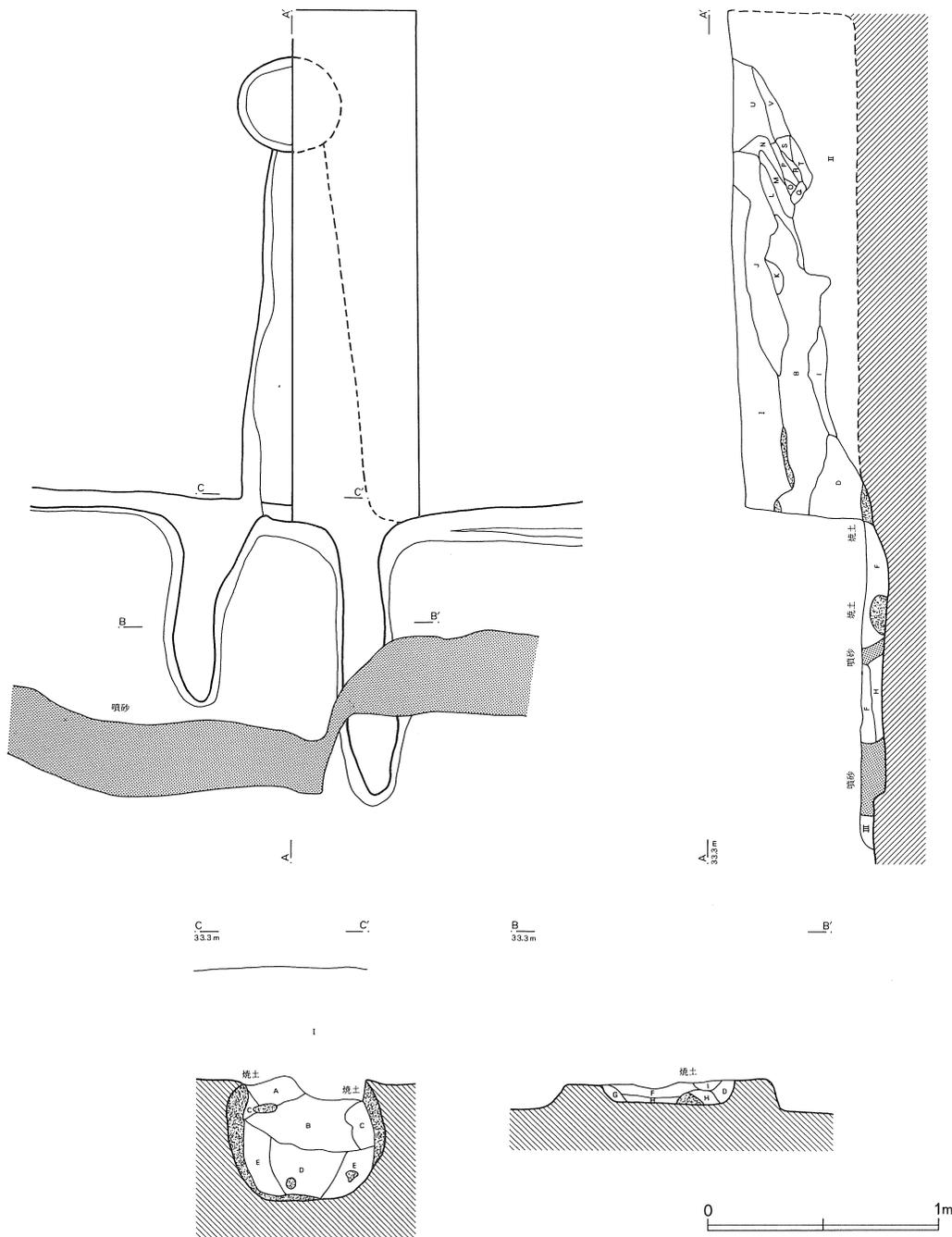
- I 暗茶褐色土 灰色砂粒子若干含む。しまりあり。
- II 暗黄褐色土 地山。灰色砂粒子若干含む。しまりあり。
- III 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- A 茶褐色土 炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- B 暗茶褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- C 灰茶褐色土 焼土・炭化物粒子、灰色粘質土若干含む。しまり・粘性あり。
- D 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- E 灰暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子、灰色粘質土若干含む。しまりあり。

第48号住居跡

- 1 茶褐色土
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 4 暗茶褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 5 炭化物堆積層

- F 灰褐色土 焼土・炭化物粒子・ブロック多く含む。軟質。
- G 灰褐色土 Fに多量の焼土含む。
- H 灰色土 焼土・炭化物粒子・ブロック、灰色砂多く含む。軟質。
- I 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- J 暗褐色土 焼土粒子若干含む。しまりあり。
- K 黄褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり(ブロック状)。
- L 暗褐色土 焼土粒子・ブロック少量含む。黄褐色土混入。しまりあり。
- M 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。黄褐色土わずかに混入。しまりあり。

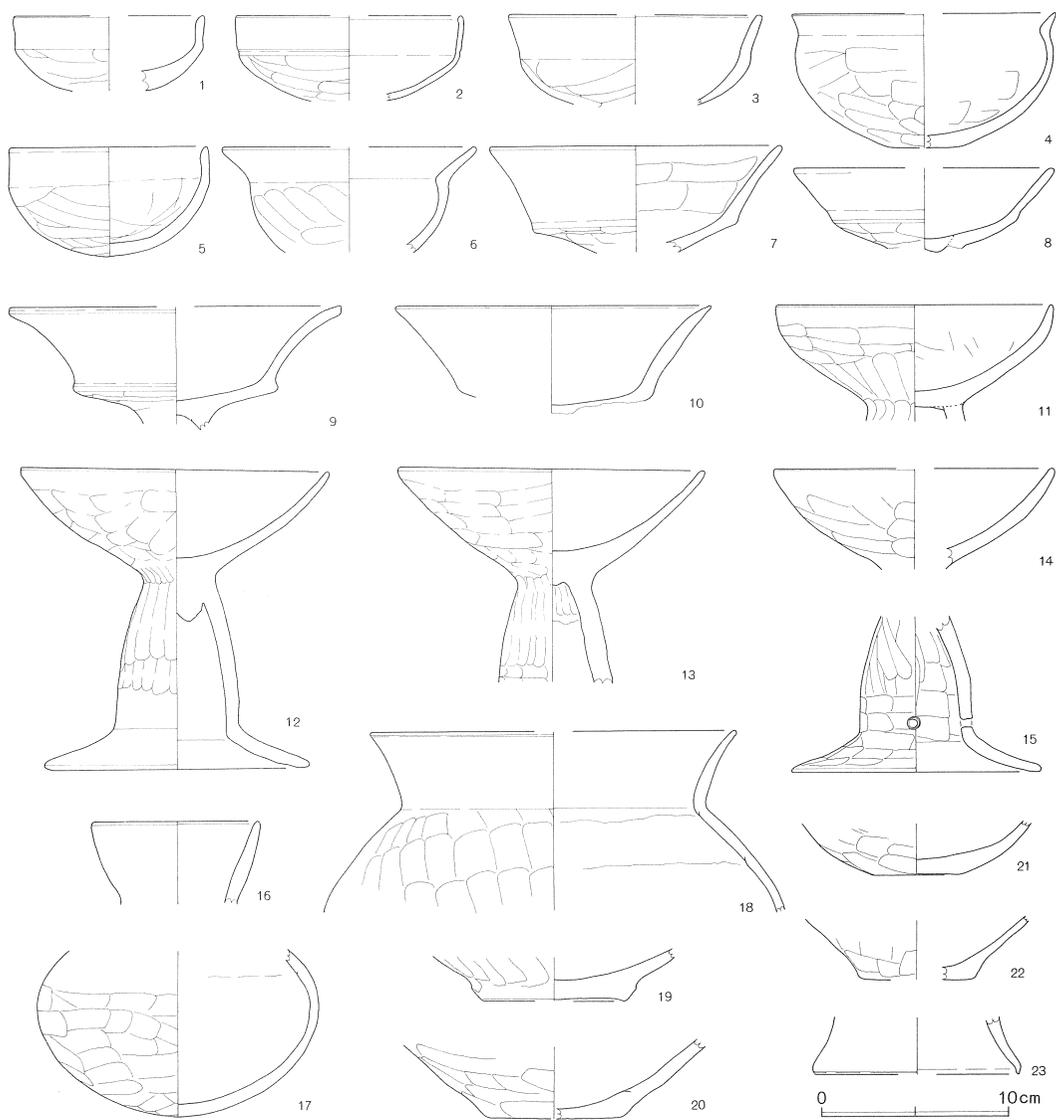
第262図 第36号住居跡(1)・第48号住居跡



- N 灰黄褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり。
- O 灰暗褐色土 焼土粒子若干含む(ブロック状)。
- P 暗黄褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり。
- Q 暗赤褐色土 焼土層。橙色焼土ブロック含む。しまりあり。
- R 灰黄褐色土 焼土、焼土ブロック多く含む。しまりあり。

- S 灰褐色土 混人物なし。しまりあり。
- T 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。焼土ブロック混入。しまりあり。
- U 暗褐色土 焼土ブロック多く、焼土・炭化物粒子若干含む。
- V 暗赤褐色土 Qに暗褐色土混入。しまりあり。

第263図 第36号住居跡(2)



第264図 第36号住居跡出土遺物

第36・48号住居跡 (第262・263図)

ほ—365・366、へ—366Gridに位置し、東西に噴砂の亀裂が走っている。大半の部分が発掘区域外にかかっている。第48号住居跡は平面的に確認することができず、断面観察から存在を知ることができた。また第36号住居跡は第46号住居跡とも重複し、新旧関係は第36号住居跡が最も古い。第36号住居跡の規模は東西5.84m、深さ0.31~0.57mで、主軸方位はN-6°-Wを測る。カマドは北壁に構築され、全長2.86m、焚き口幅0.49mの規模をもつ。袖部・燃烧部は第48号住居跡によって削平され、辛うじて痕跡が認められている。煙道部は天井がしっかりと残存し、煙出部は円形のピット状を呈している。火床面・煙道部はよく焼けている。貯蔵穴・ピット・壁溝等の施設は検出さ

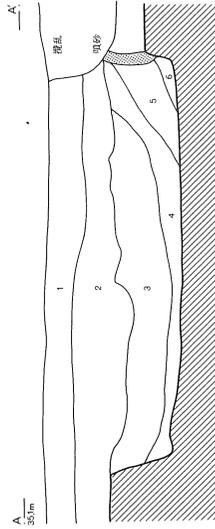
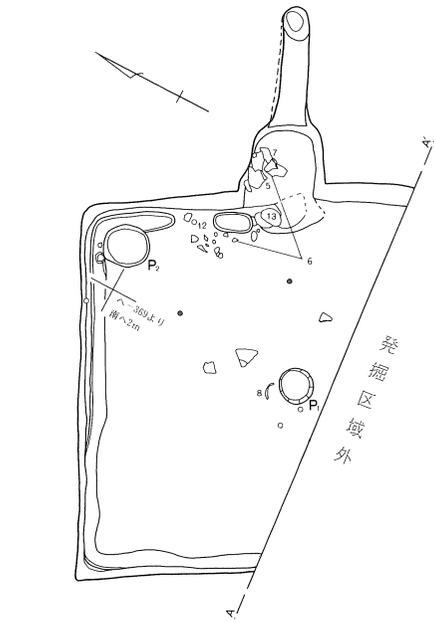
第36号住居跡 (第264図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□10.1	B+R+W+W'	浅黄橙～橙	25	
2	坏	□(12.2)	B+R+W+W'	浅黄橙～橙	25	口縁端面トリ
3	坏	□(13.5)	B少+R+W少+W' 少	黄橙～橙	25	
4	碗	□(14.1)	B+R+W+W'	橙～にふい橙	20	
5	坏	□10.5 高5.8	B+R+W+W'	浅黄橙～にふい橙	90	No.5。外面に黒色部分
6	碗	□(13.6)	B少+R+W少+W'	橙	口縁 20	No.13。
7	高坏	□15.6	B+R+W+W'	橙	坏部 90	
8	高坏	□(13.9)	B+R+W+W'	橙	坏部 30	
9	高坏	□17.7	B+R少+W+W'	橙	坏部 40	No.6・21。口縁端面トリ
10	高坏	□16.8	B少+R+W+W'	橙～浅黄橙	坏部 90	No.7。
11	高坏	□14.8	B少+R+W少+W' 少	橙～にふい橙	坏部 80	No.24。
12	高坏	□16.5 脚14.2 高16.0	B+R+W+W'	橙～黄橙	90	No.9。
13	高坏	□16.4	B少+R+W少+W' 少	橙～黄橙	70	No.11・25・26。風化が著しい
14	高坏	□(15.0)	B少+R+W+W'	橙～黄橙	坏部 20	No.23。
15	高坏	脚13.3	B+R+W+W'	橙～黄橙	脚部 60	焼成前穿孔
16	埴	□9.0	B+R+W+W'	橙～にふい橙	口縁 100	
17	埴	胴15.2	B+R+W+W'	橙～黄橙	胴部 30	
18	甗	□(19.6)	B+R+W+W'+砂多+砂多	黄橙～にふい橙	口縁 20	粘土紐積み上げ痕
19	甗	底(7.6)	B+R+W少+W'+砂少	にふい橙～橙	底部 50	底部ケズリ
20	甗	底7.0	B+R+W+W'+礫少	橙	底部 60	No.8・20。底部ケズリ 内外面に黒色部分
21	甗	底4.6	B+R+W+W'	橙	底部 50	底部ケズリ 外面に黒色部分
22	甗	底(6.2)	B+R+W+W'+橙	浅黄橙～橙	底部 50	底部ケズリ
23	台付鉢	台11.1	B+R少+W少+W' 少	橙	脚部 20	

れていない。遺物は第36・48号住居跡のものが混合している可能性が高く、石製剣形品1点、石製紡錘車1点も出土している。

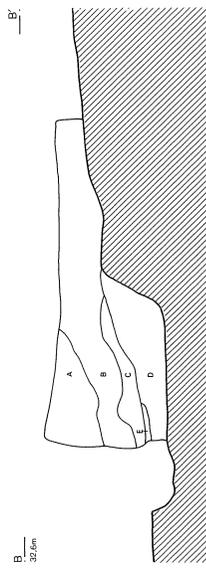
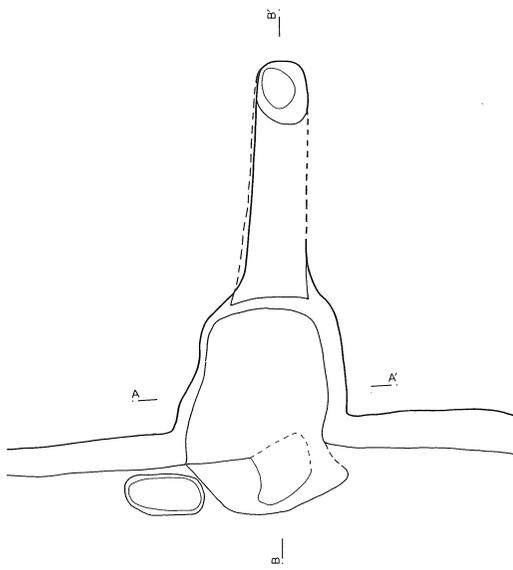
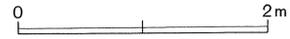
第37号住居跡 (第265・268図)

ほ—368・369Gridに位置している。南半部分は発掘区域外にかかり、東壁付近には噴砂の亀裂が入り込んでいる。規模は主軸辺3.06m、深さ0.18～0.52mで、主軸方位はN—68°—Eを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、幅0.12～0.34m、深さ0.51～0.54mの壁溝が北壁・西壁に廻っている。



第37号住居跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量、火山灰多量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗茶褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 焼土粒子(10mm)少量、炭化物粒子(5~10mm)含む。しまり・粘性強。
- 4 暗褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗黄褐色土 焼土微粒子少量含む。しまり・粘性強。
- 6 暗茶褐色土 炭化物粒子少量含む。しまり・粘性あり。

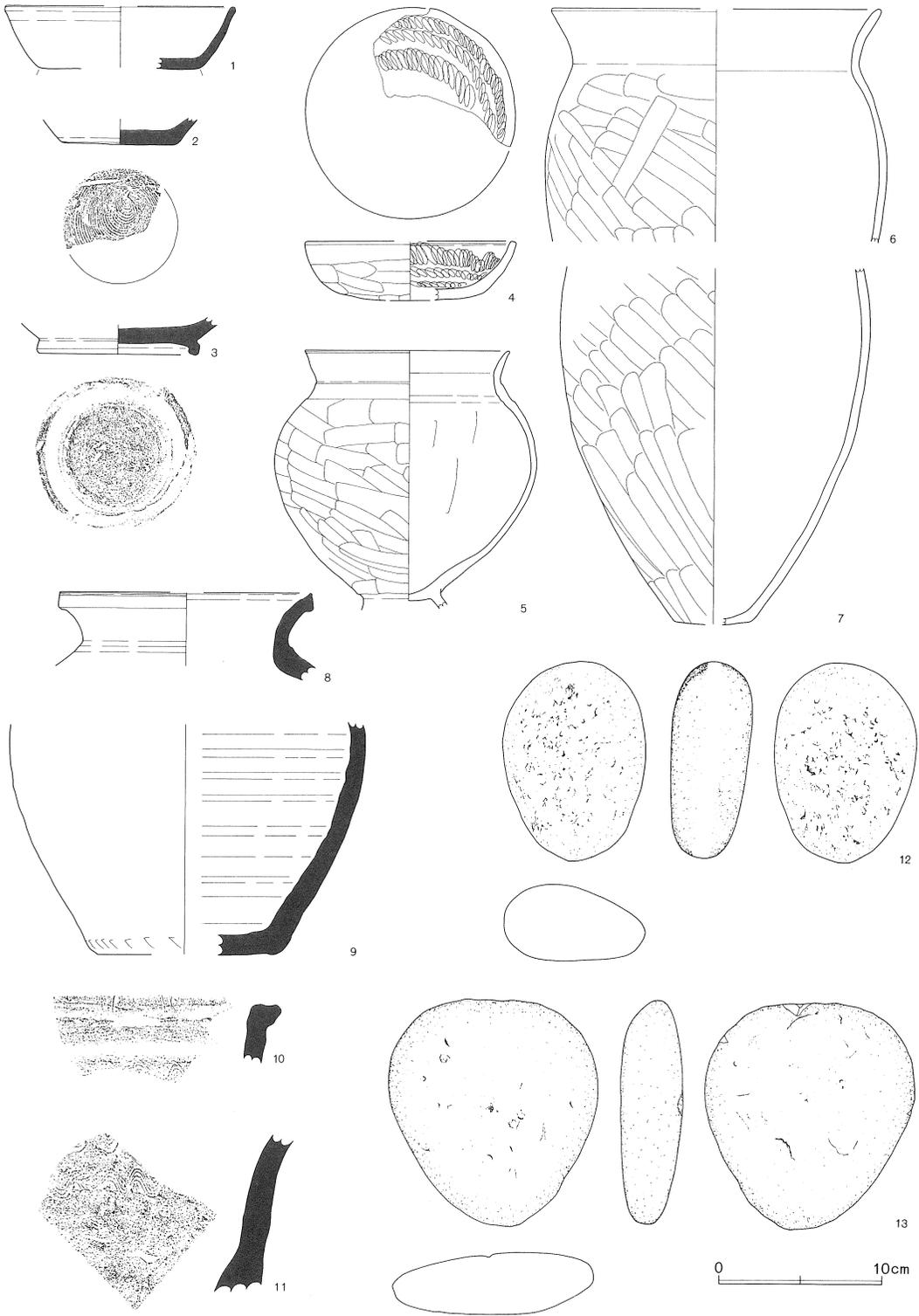


第37号住居跡カマド

- A 灰黄褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり。
- B 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- C 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- D 灰色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまり弱。軟質。
- E 炭化物主体 軟質。
- F 炭化物・焼土粒子主体。



第265図 第37号住居跡



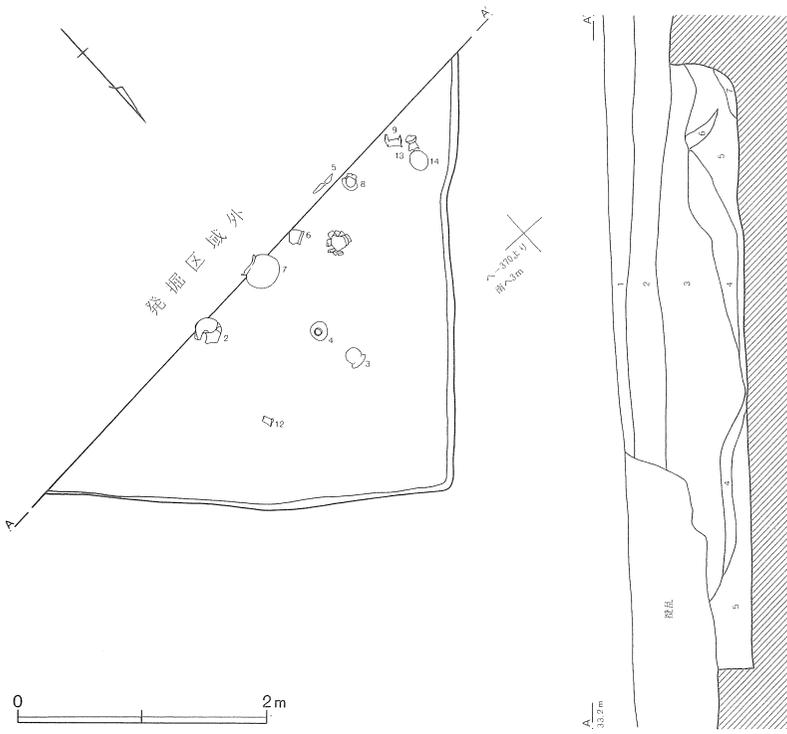
第266图 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡 (第266図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.1)	B+W多	灰白	20	底部回転ヘラケズリ
2	坏	底(6.9)	B+W少	灰白	底部 40	回転糸切り離し
3	坏	底10.0	B少+W	灰白	底部 90	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
4	坏	口(12.9)	B+R少+W少+W'	橙	40	螺旋状暗文
5	台付甕	口12.6 胴16.1	B少+W多	明赤褐	70	No.13。胴部内面上半に黒色部分
6	甕	口(20.1) 胴20.8	B+R+W+W'	橙	口縁 30	No.20・23・カマド。
7	甕	底4.6 胴19.2	B+R+W+W'	橙	胴部 40	No.23。底部ケズリ 胴部外面下半に黒色部分
8	甕	口(15.4)	W+片少	褐灰	口縁 40	No.3。
9	壺	底(10.8)	B+W+W'+砂少+礫少	灰	胴部 20	底部ケズリ
10	甕		B少+W	灰		外面に波状文
11	甕		B少+W+砂少	灰		外面に波状文

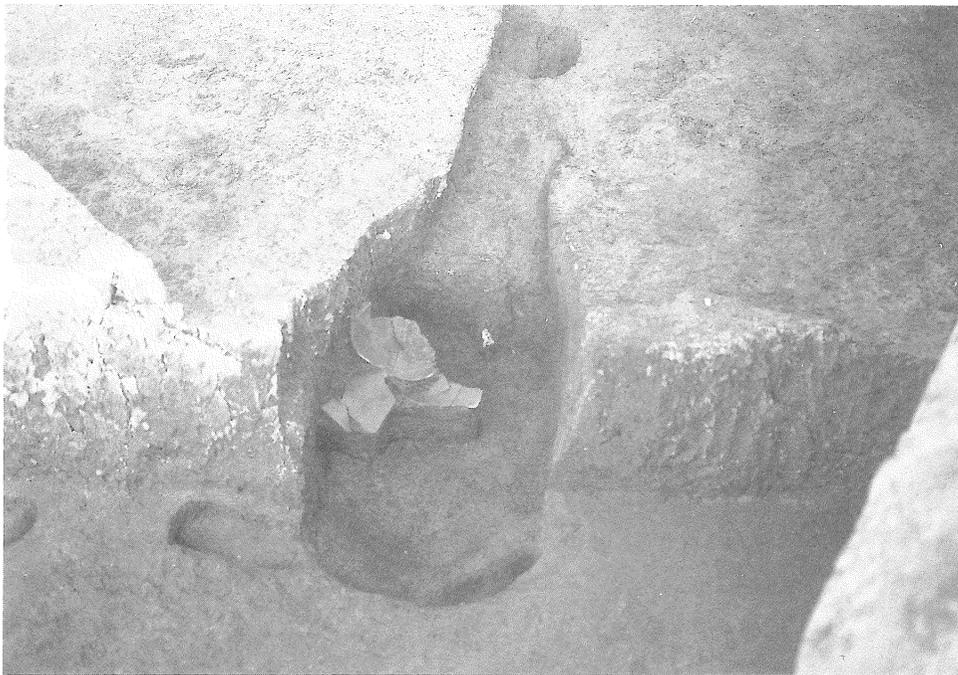
第38号住居跡 (第269図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.4 高5.3	B+R+W'	橙～浅黄橙	100	
2	椀	口13.0 底2.6 高6.3	R多	橙	90	No.1。
3	小型甕	口13.2 底3.4 高10.7	B多+R+W	橙	100	No.5。
4	埴	底5.2 胴13.6	W	橙	胴部 100	No.4。胴部下半に黒色部分 粘土紐積み上げ痕
5	甕	口14.2	R多+W多	橙	上半部 70	No.8。粘土紐積み上げ痕明瞭
6	甕	口(18.2)	R+W多	橙	口縁 20	No.6。
7	甕	口18.2 底8.2 高28.7 胴29.0	R多+W多	にふい橙	100	No.3。底部ケズリ 胴部外面黒斑 粘土紐積み上げ痕
8	高坏	口20.0	R多+W多	橙	坏部 60	No.9。
9	高坏	口17.4	W	(内)浅黄橙 (外)橙～浅黄橙	坏部 100	No.12。
10	高坏		W	橙	脚部 30	外面に黒色部分
11	高坏		R多+W	橙	脚部 80	粘土紐積み上げ痕明瞭
12	高坏		B+W多	橙	脚部 80	No.2。粘土紐積み上げ痕
13	高坏		R	橙	70	No.11。内面風化
14	高坏	脚12.0	R+W	橙	40	No.10。

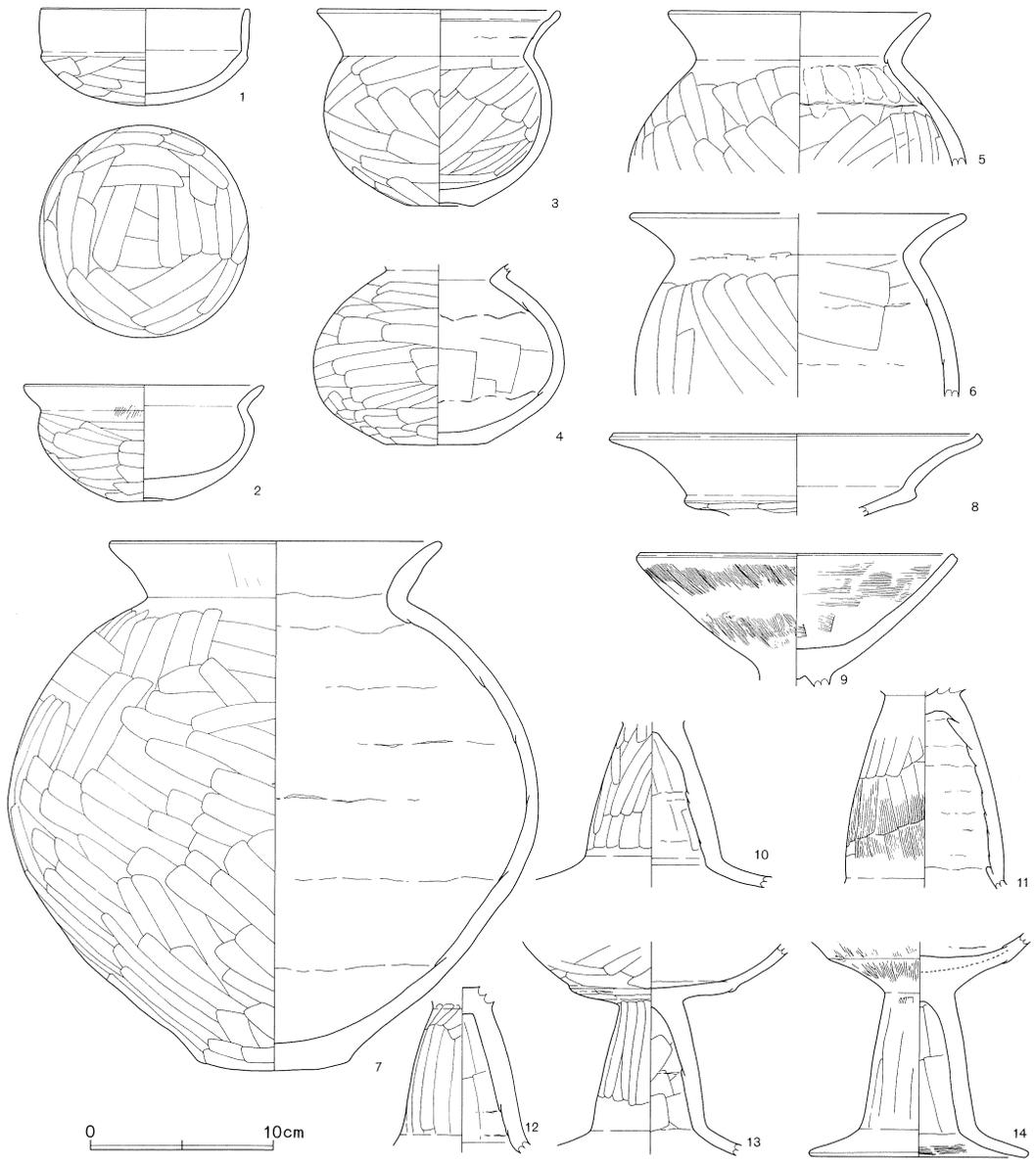


- 第38号住居跡
- 1 暗赤褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量、火山灰多量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 暗赤褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 暗褐色土 炭化物粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性強。
  - 4 褐色土 炭化物粒子(微粒~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
  - 5 暗褐色土 細粒砂含む。しまり・粘性あり。
  - 6 暗黄褐色土 焼土微粒子微量含む。
  - 7 暗褐色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。

第267図 第38号住居跡



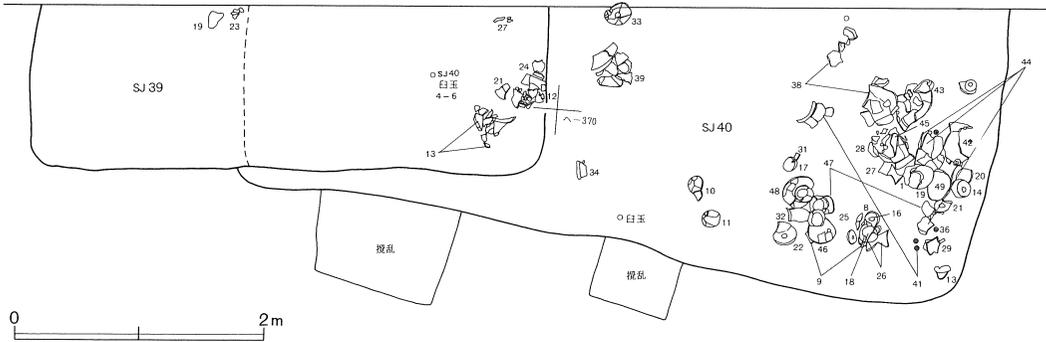
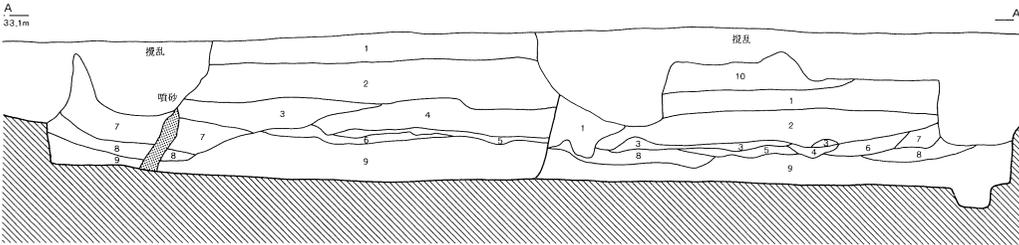
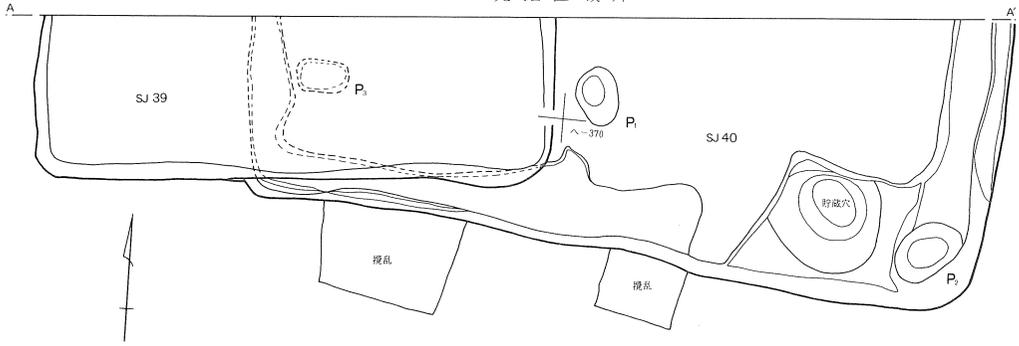
第268図 第37号住居跡カマド



第269図 第38号住居跡出土遺物

カマドは東壁に構築されているが、上半部が攪乱を受けているため煙道部は確認されていない。全長1.82m、焚き口幅0.56mの規模をもち、燃烧部が壁外に掘り込まれている。袖部は検出されていない。ピット状の煙出部が認められている。ピットは北東コーナー部と中央部に2基みられる。貼床が顕著に施され、床面直上には拳大の礫が多く検出されている。遺物は土師器・須恵器のほか、凹石1点、磨石2点（12：8.8×12.1×5.0cm・710g、13：12.9×13.6×3.8cm・940g）、編物石1点が出土している。

発掘区域外



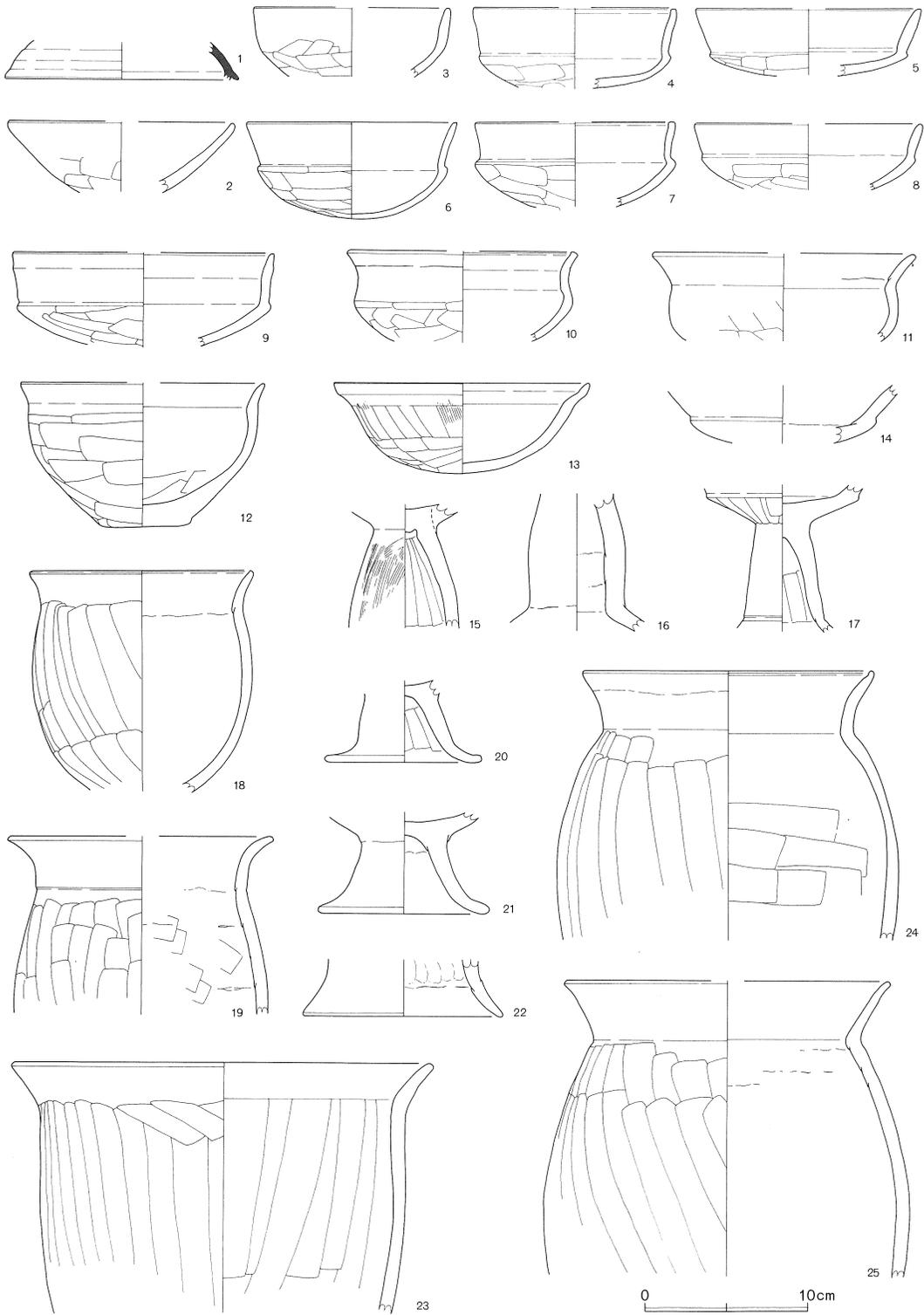
第39号住居跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量、火山灰多量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗茶褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗灰褐色土 焼土粒子(10mm)、炭化物粒子(5~10mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- 4 褐色土 焼土粒子(7~8mm)少量含む。しまり・粘性強。
- 5 褐色土 灰赤色砂粒子多量含む。しまり・粘性弱。
- 6 灰褐色土 焼土粒子(5mm)、炭化物粒子多量含む。しまり・粘性弱。
- 7 褐色土 焼土粒子(5~10mm)、炭化物粒子(10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 炭化物粒子少量含む。しまりあり、粘性やや弱。
- 9 暗黄褐色土 焼土微粒子、細粒砂微量含む。しまり・粘性あり。

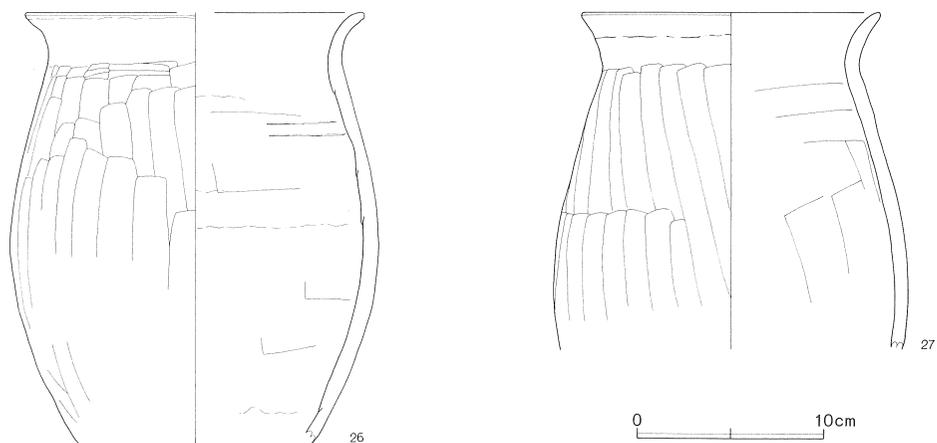
第40号住居跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 褐色土 焼土粒子(5~10mm)微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 灰赤色砂粒子多量含む。しまり・粘性弱。
- 4 茶褐色土 焼土粒子(3~10mm)極多量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗褐色土 炭化物微粒子多く含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗褐色土 焼土微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 7 暗黄褐色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性強。
- 8 褐色土 炭化物粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性強。
- 9 暗黄褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性強。
- 10 暗茶褐色土 焼土粒子(5~10mm)含む。しまり・粘性あり。

第270図 第39・40号住居跡



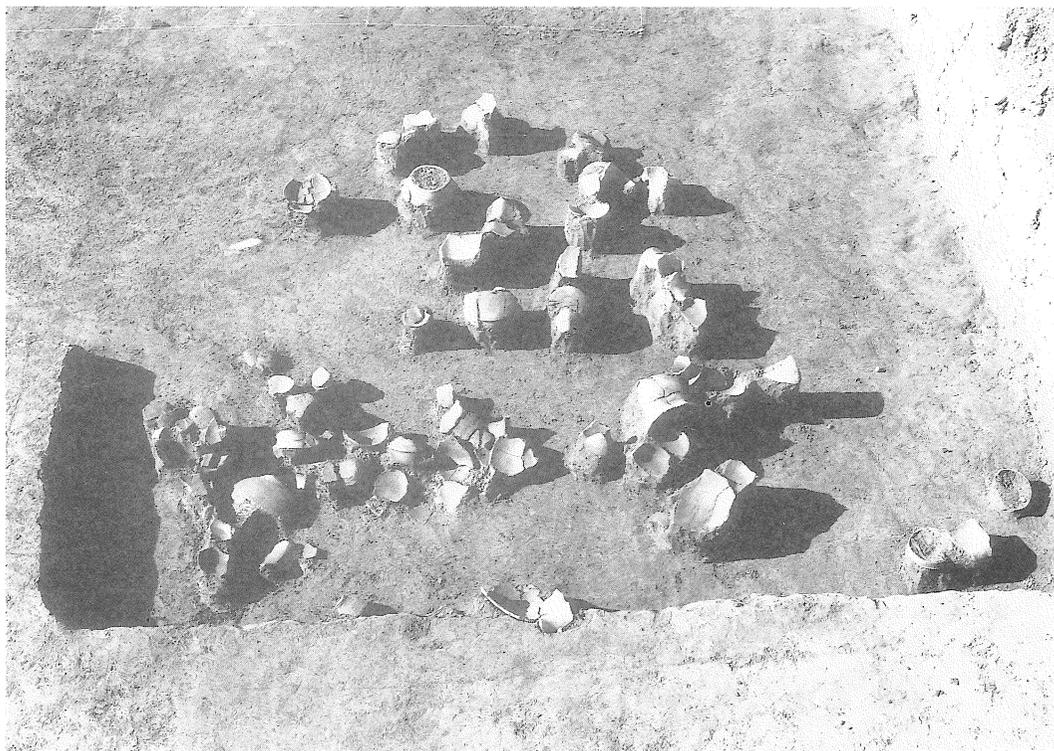
第271图 第39号住居跡出土遺物(1)



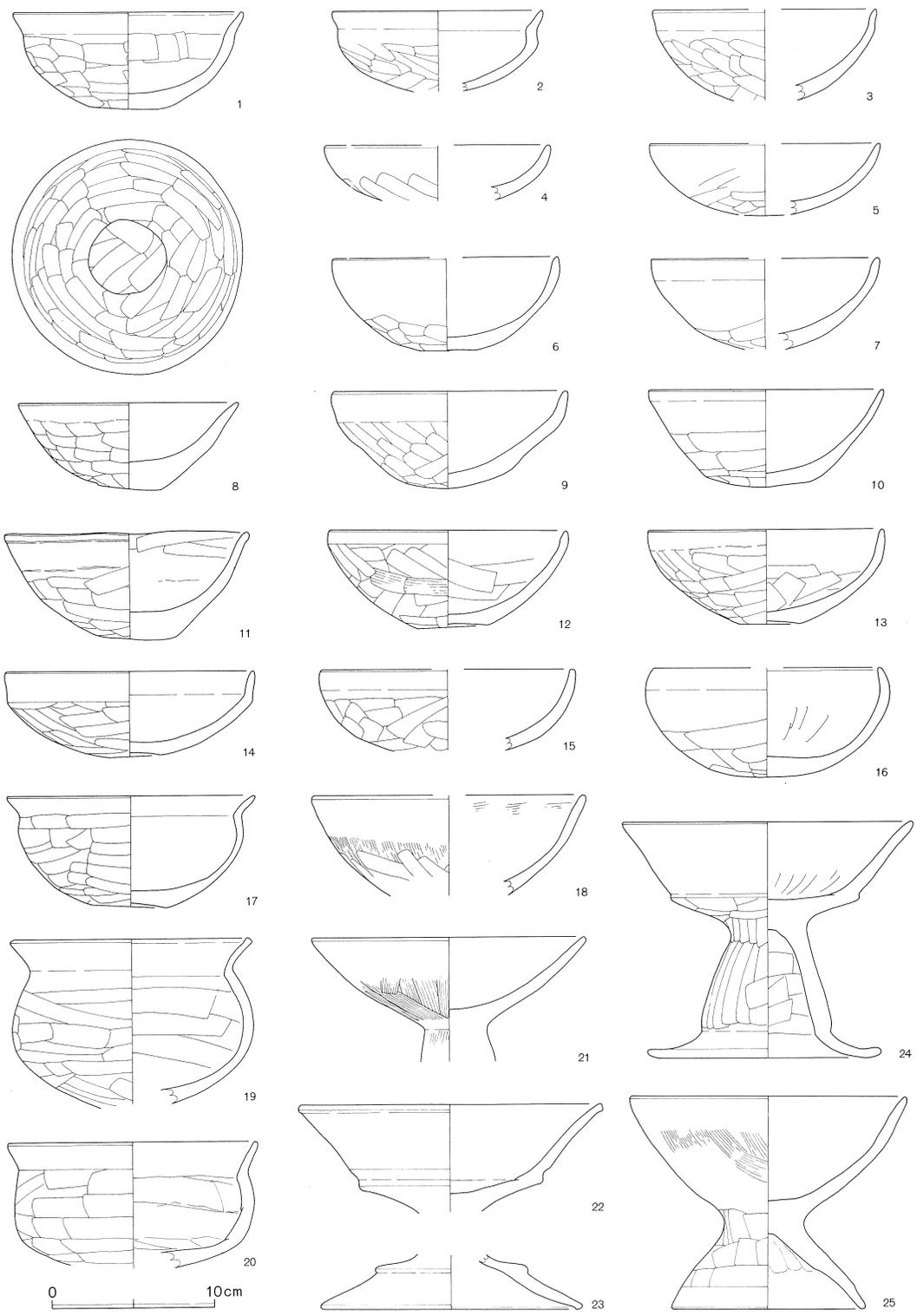
第272図 第39号住居跡出土遺物(2)

**第38号住居跡 (第267図)**

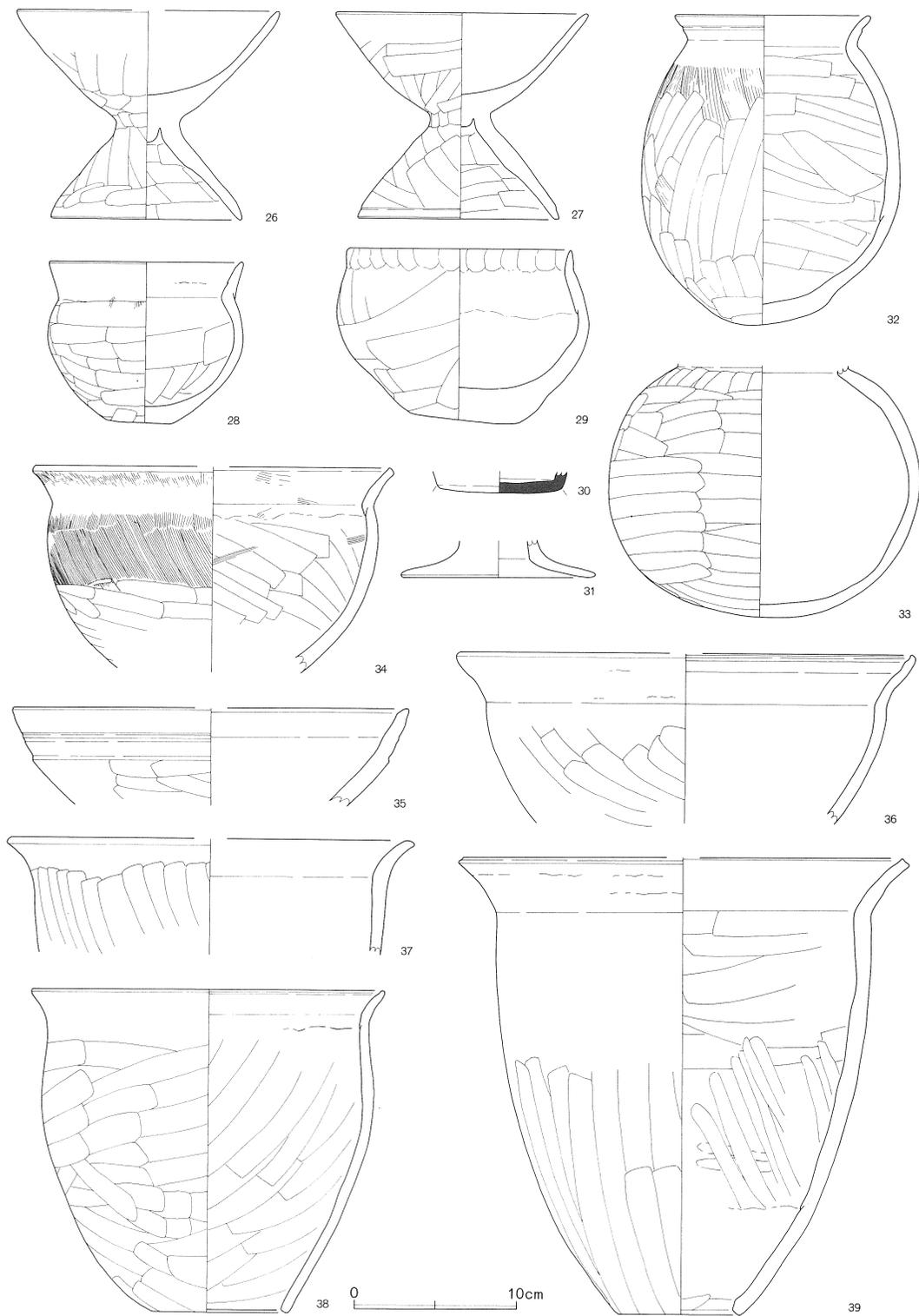
ほ—369・370Gridに位置し、大半が発掘区域外にかかっている。北コーナー部のみが検出され、規模は明確ではない。深さ0.24~0.56m、北西辺の方位はN—47°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマド・貯蔵穴・ピット等の施設は検出されていない。完形もしくはそれに近い状態の遺物が多く出土している。



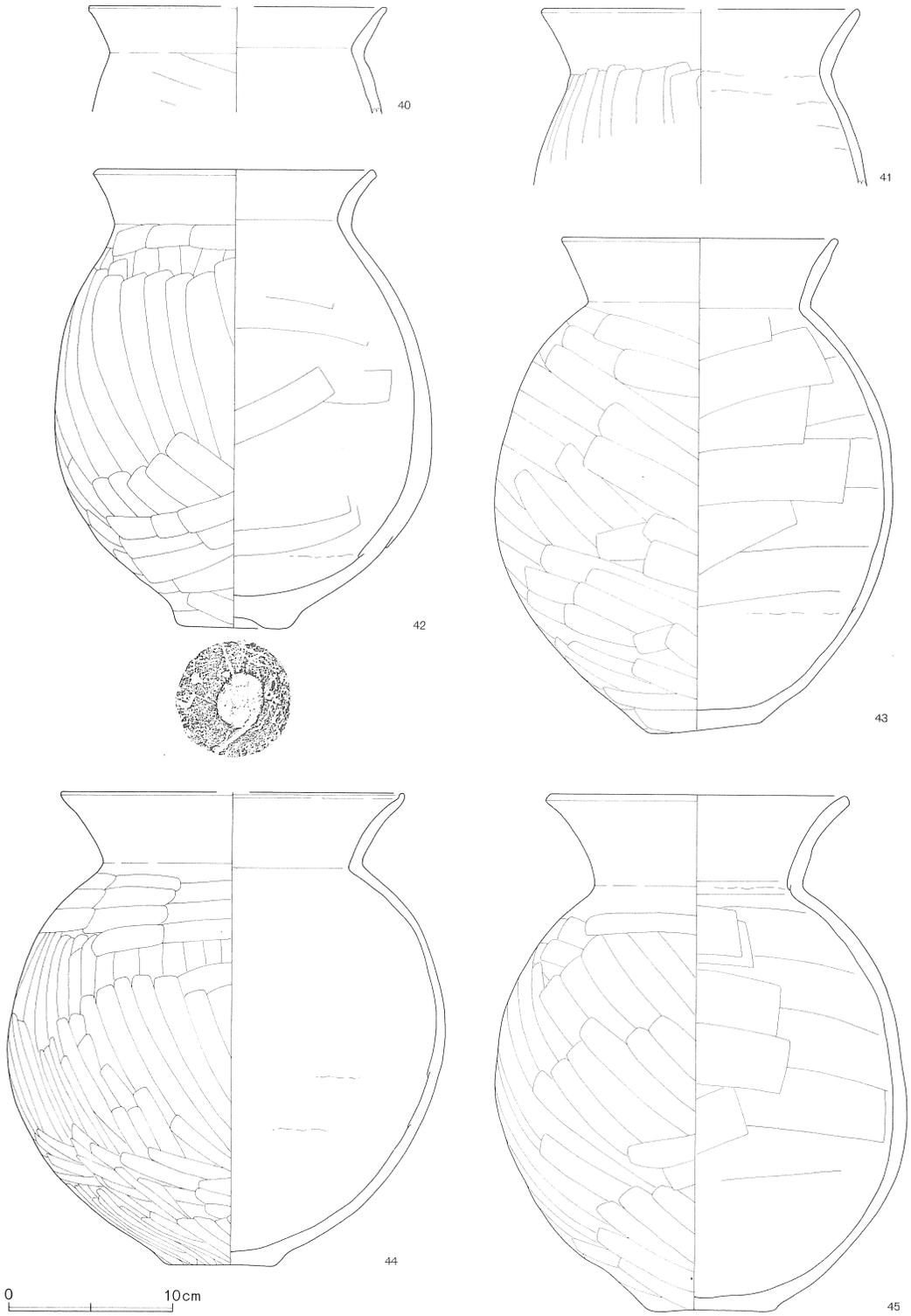
第273図 第42号住居跡遺物出土状況



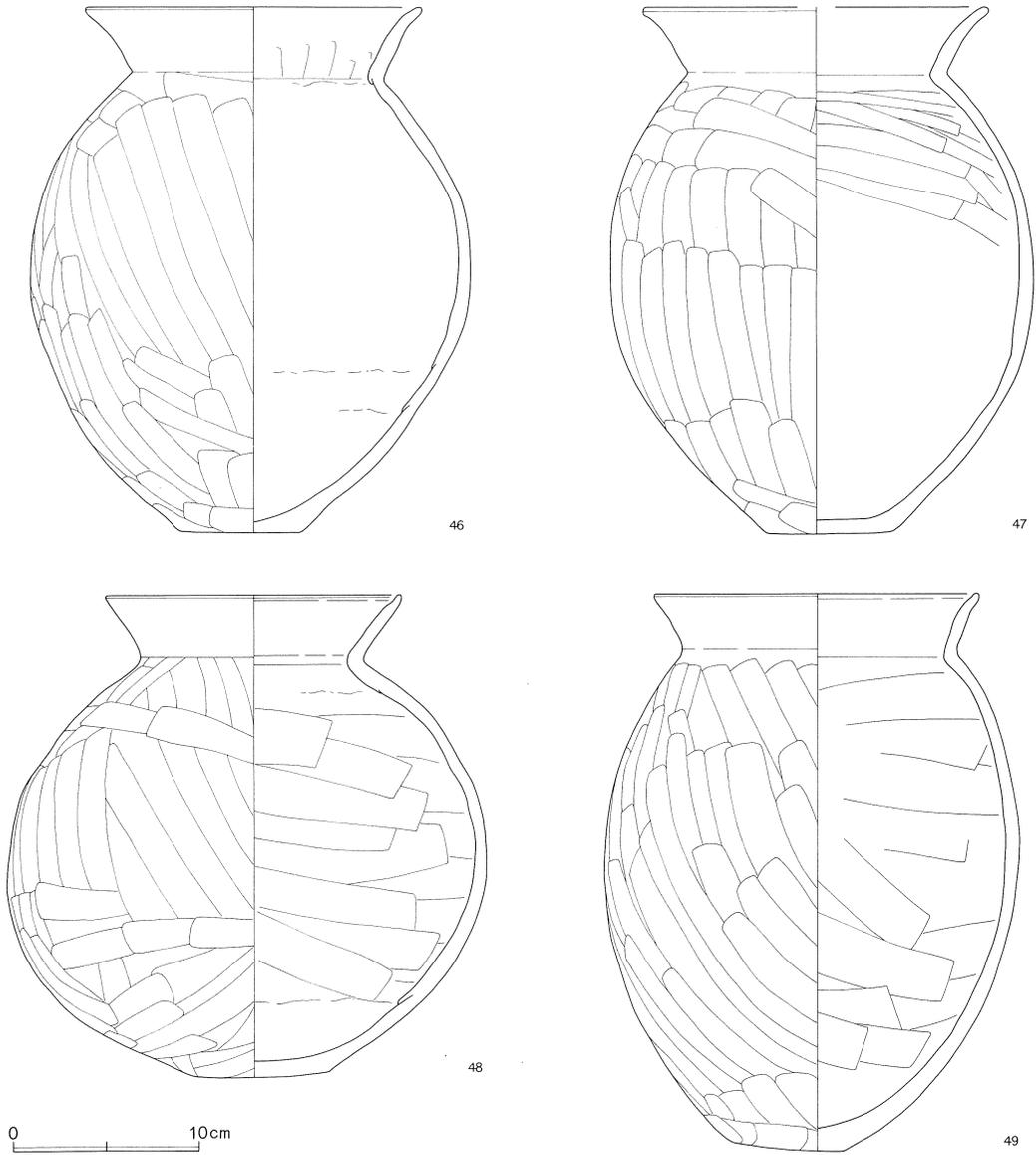
第274图 第40号住居跡出土遺物(1)



第275图 第40号住居跡出土遺物(2)



第276图 第40号住居跡出土遺物(3)



第277図 第40号住居跡出土遺物(4)

**第39・40号住居跡 (第270図)**

ほ—369・370、へ—369・370Gridに位置し、北側の大半部分が発掘区域外にかかっている。新旧関係は第39号住居跡が第40号住居跡よりも新しい。

第39号住居跡には南北に噴砂の亀裂が走っている。規模は東西4.18m、深さ0.41～0.61mで、南辺の方位はN—86°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマド・貯蔵穴・ピット等の施設は検出されていない。床面はあまりしっかりしておらず、遺物も少ない。

第40号住居跡の規模は東西6.03m、深さ0.55mで、南辺の方位はN—94°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.27～1.04m、深さ0.30～0.91mの壁溝が途切れながら廻っている。貯蔵穴が

第39号住居跡 (第271・272区)

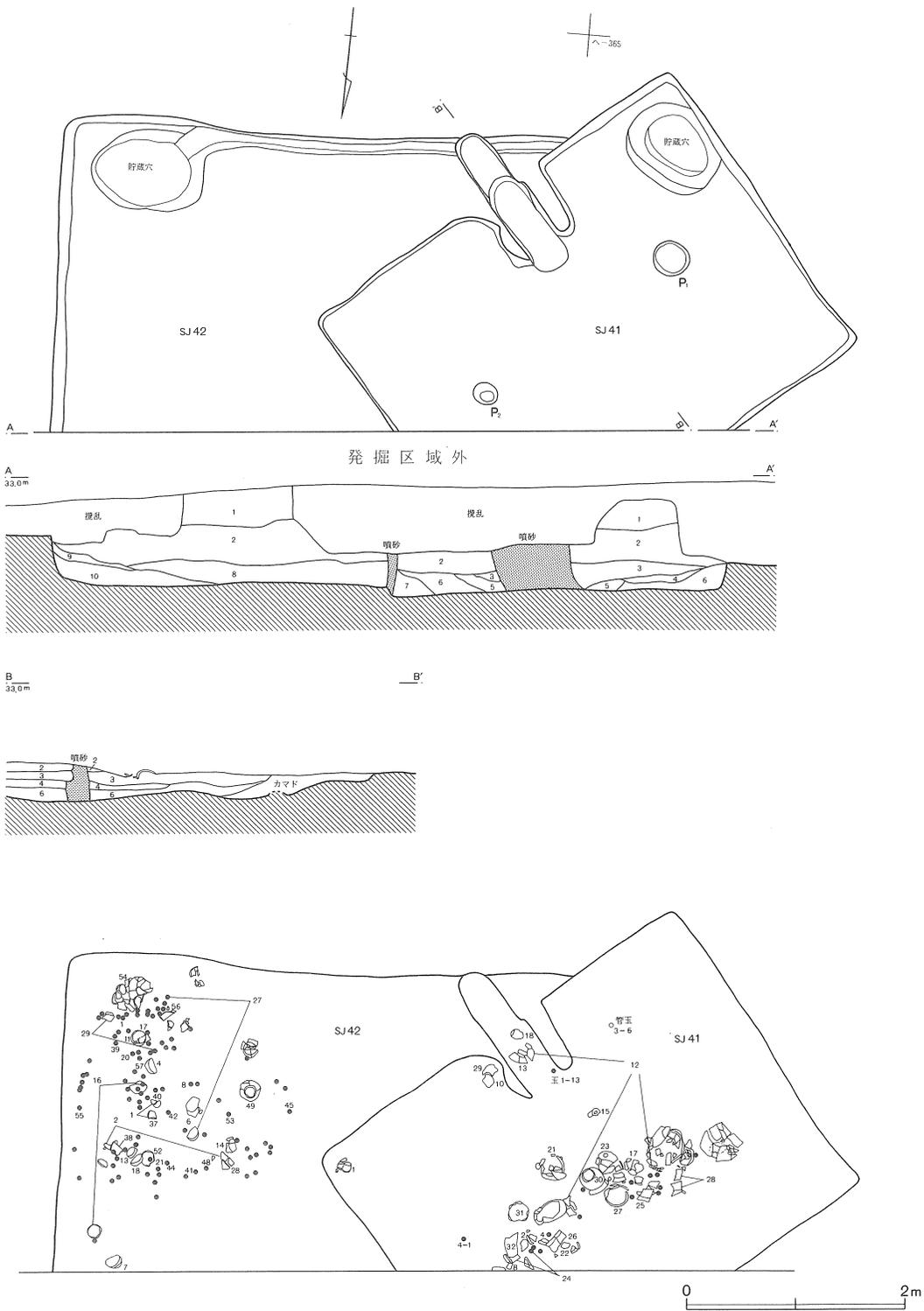
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(14.3)	W少	灰	10	
2	坏	口(13.8)	B+R+W	橙	10	
3	坏	口(12.0)	R	にふい橙	20	
4	坏	口(12.4)	R多	橙	30	
5	坏	口(13.8)	R多+W	にふい橙	10	
6	坏	口12.9 高5.9	R	浅黄橙	80	No.10。
7	坏	口(12.4)	R	橙	20	
8	坏	口(14.0)	R多	橙～浅黄橙	20	内面風化
9	坏	口(16.0)	R	橙	10	
10	坏	口(14.2)	R+W	橙	口縁 20	
11	碗	口(16.0)	R+W	橙	10	
12	碗	口(14.8) 底5.4 高8.8	R	橙	80	No.15。底部ケズリ
13	坏	口15.6 高5.5		橙	80	No.8・11。
14	坏			橙	10	
15	高坏		R+W多	橙	脚部 50	
16	高坏		R	橙	脚部 40	粘土紐積み上げ痕
17	高坏		R+W	にふい橙～橙	30	
18	小型甕	口13.6	B	橙	60	
19	小型甕	口(16.2)	R+W多+砂多	橙	口縁 20	No.12。粘土紐積み上げ痕
20	高坏	脚9.6	R多+W	橙	脚部 80	
21	高坏	脚(10.4)	R多+W多	にふい赤褐	脚部 40	No.1。
22	支脚	下端(12.2)	B多+W+砂多	橙	脚部 30	
23	甑	口25.8		橙	上半部 60	No.13。
24	甕	口17.8 胴21.0	砂	浅黄橙	40	No.3。
25	甕	口(20.0) 胴22.4	砂	浅黄橙～にふい橙	上半部 20	粘土紐積み上げ痕
26	甕	口(18.2) 胴19.8	砂	橙～浅黄橙	40	粘土紐積み上げ痕
27	甕	口16.0 胴19.0	砂	橙	40	No.4。

第40号住居跡 (第274~277区)

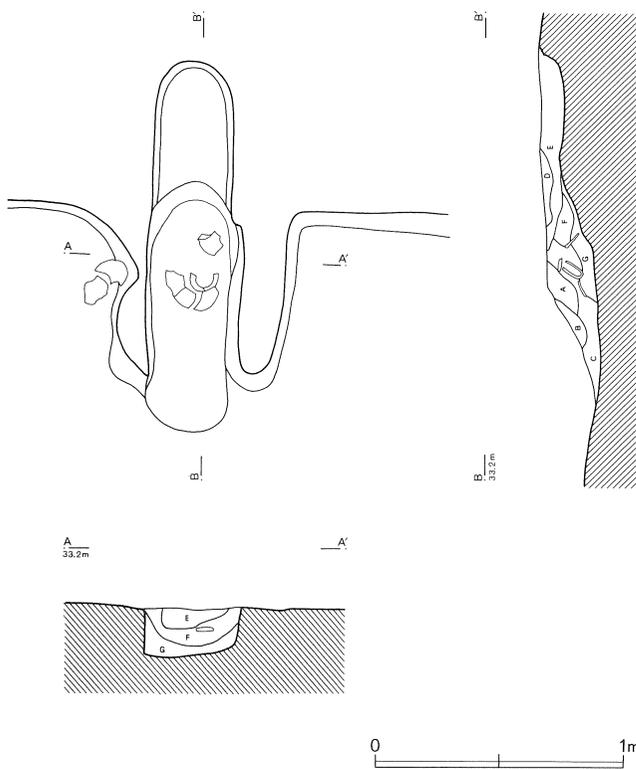
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□14.2 底4.8 高6.0	R	橙	100	No.26。
2	坏	□12.8	B+R多	橙	80	底部内外面黒色
3	坏	□(13.8)	R+W	橙	20	
4	坏	□(14.0)	R+W	橙	10	
5	坏	□(14.2)		橙	20	外面黒色
6	坏	□(14.0) 底3.3 高5.7	R	橙	30	
7	坏	□(14.0)	R少	橙	20	No.19。
8	碗	□13.4 底4.0 高5.3	R	橙	95	No.47。底部ケズリ
9	坏	□14.5 高6.0	R多+W	橙	95	No.37・53。底部ケズリ 内面風化
10	坏	□14.5 高6.0	R多+W	(内)浅黄橙 (外)橙	90	No.4。底部ケズリ
11	鉢	□15.0 底4.6 高6.5	R多+W	橙	90	No.5。底部ケズリ
12	坏	□14.7 底4.2 高6.0	R	橙	70	底部ケズリ 外面黒色部分
13	坏	□14.4 底3.8 高5.8	R+W	橙	90	No.34。底部ケズリ
14	坏	□15.4 底3.0 高5.2	R+W	明赤褐	100	No.22。底部ケズリ
15	坏	□(15.6)	W	橙	20	
16	坏	□(13.8) 高6.7	R	橙	20	No.46。底部外面黒色
17	坏	□15.2 底4.5 高6.8	B+W'	(内)明黄褐 (外)橙	80	No.6。底部ケズリ
18	碗	□(16.8)	R	橙	30	No.48。
19	碗	□14.8	R	橙	80	No.21。
20	碗	□15.4	R	橙	70	No.23。
21	高坏	□17.0	W	橙	坏部 100	No.45。
22	高坏	□18.8	R多+W	橙	坏部 90	No.42。
23	高坏	脚(16.2)	R+W	橙	脚部 10	内面風化
24	高坏	□17.8 脚14.4 高14.5	W	橙	70	
25	高坏	□17.0 脚12.0 高13.1	R	橙	70	No.36。
26	高坏	□(16.0) 脚11.8 高12.8	R	橙	70	No.35・48。
27	高坏	□15.5 脚12.4 高12.6	R	にふい黄橙	95	No.25。
28	小型甌	□12.0 底3.8 高9.9 胴12.0	R+W	橙	95	No.16。底部ケズリ
29	碗	□13.6 底6.8 高10.5 胴15.4	R	橙	80	No.31。口縁部指頭による押さえ

30	コップ型	底(7.5)	針	灰	底部 40	底部回転ヘラケズリ
31	高坏	脚(12.0)	R多+W	橙	脚部 10	No.50。
32	甕	口12.0 底5.2 高19.0 胴15.8	磔	灰黄褐～橙	90	No.44。胴部外面中位スス付着
33	壺	胴19.1	R	橙	胴部 100	No.3。外面黒斑
34	鉢	口(22.2)	R	橙～明赤褐	30	No.1。
35	鉢	口(24.4)	W	橙～浅黄橙	10	
36	鉢	口(28.2)	R多+W+W'	橙	口縁 10	No.30。
37	甌	口(25.0)	磔	(内)橙～にふい黄 橙 (外)にふい褐	口縁 20	
38	甌	口21.6 底8.2 高19.8	R多+W	明赤褐	80	No.12・13。外面上半スス付着
39	甌	口(27.8) 底(7.5) 高28.1	R	橙	30	No.2。
40	甕	口(18.2)	磔	橙		
41	甕	口(19.4)	R多+W多+W'	橙	口縁 30	No.7・33。粘土紐積み上げ痕
42	甕	口17.2 底7.0 高28.0 胴23.0	R+磔	橙	70	No.18。底部周辺粘土貼付
43	甕	口16.8 底6.8 高30.0 胴24.3	R+磔多	橙	90	No.14。
44	甕	口(20.8) 底6.6 高28.8 胴26.7	R+W多	橙	80	No.15・17・29。胴部外面中位に黒斑
45	甕	口18.5 底7.8 高31.4 胴25.0	R+W	にふい橙	80	No.15。
46	甕	口18.0 底6.5 高28.1 胴23.5	R多+W多	橙～にふい黄橙	95	No.40。
47	甕	口(18.6) 底6.8 高28.2 胴22.6	R+W多	橙	50	No.27・41。
48	甕	口16.0 底7.2 高25.7 胴25.6	R+W	橙	95	No.43。
49	甕	口17.4 底6.0 高29.7 胴22.0	R+W	橙	95	No.24。

南東コーナー部に位置し、南北0.83m・東西0.79m、深さ0.76mを測る。ピットは3基検出されている。カマドは検出されていない。遺物は貯蔵穴周辺部から出土し、ほかに石製白玉1点、編物石1点がある。



第278図 第41・42号住居跡(1)



第41・42号住居跡

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 褐色土 焼土粒子(3~10mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 褐土 灰赤色砂粒子極多量含む。しまり・粘性弱。
- 5 暗褐色土 焼土粒子(微粒~3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗黄褐色土 焼土微粒子微量含む。しまり・粘性強。
- 7 茶褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 8 茶褐色土 焼土粒子(微量~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 9 灰褐色土 焼土微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 10 暗黄褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。鉄分沈着。しまり・粘性あり。

第41号住居跡カマド

- A 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- B 灰黒褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。
- C 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。軟質。
- D 暗黄褐色土 天井部崩落層。焼土粒子・ブロック多く含む。
- E 暗黄褐色土 焼土粒子若干含む。しまりあり。
- F 焼土塊 暗黄褐色土粒子混入。
- G 黒褐色土 焼土・炭化物粒子、灰多く含む。軟質。

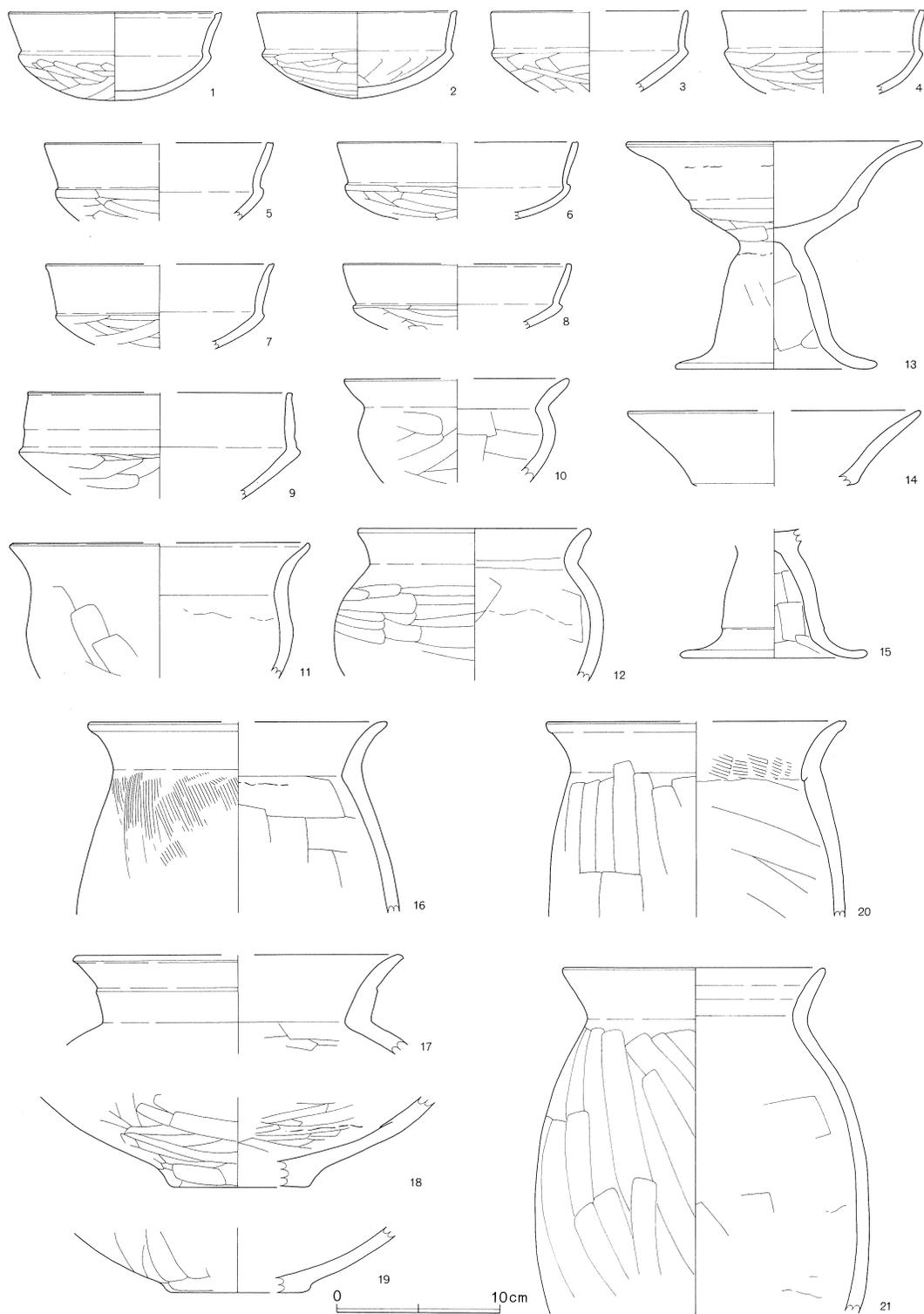
第279図 第41号住居跡(2)

第41・42号住居跡 (第273・278・279図)

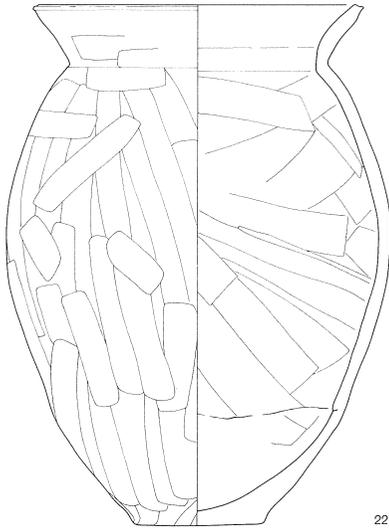
へー364・365Gridに位置している。北側は発掘区域外にかかり、噴砂の亀裂が入り込んでいる。第41号住居跡は第46号住居跡とも重複している。新旧関係は第41号住居跡が第42・46号住居跡よりも新しい。

第41号住居跡の規模は主軸辺3.05m・長辺4.00m、深さ0.21~0.59m、主軸方位はN-142°-Eを測る。カマドは南壁に構築され、全長1.46m、焚き口幅0.34mの規模をもつ。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は隅丸長方形を呈している。火床面はよく焼けており、緩やかな窪みをもっている。高坏形土器が支脚に転用されている。貯蔵穴はカマド西側の南西コーナー部に位置し、円形で、南北0.68m・東西0.87m、深さ0.47mを測る。検出されている2基のピットは、柱穴である。住居跡の壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。遺物はカマドおよび中央部から出土し、須恵器1片、石製管玉1点、土玉1点、土製紡錘車1点、磨石(12.6×21.2×3.7cm・1,085g)1点、縄文土器1片がある。

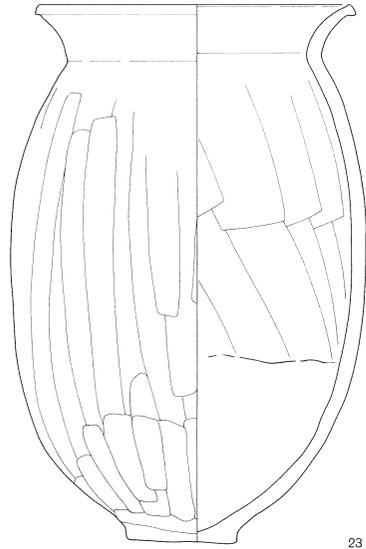
第42号住居跡の規模は明確ではないが、比較的大規模な住居跡である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.12~0.18m、深さ0.07~0.30mの壁溝が南壁に廻っている。貯蔵穴が南東コーナー部に位置している。南北0.74m・東西1.02m、深さ0.18mを測り、楕円形を呈している。カマド・ピット



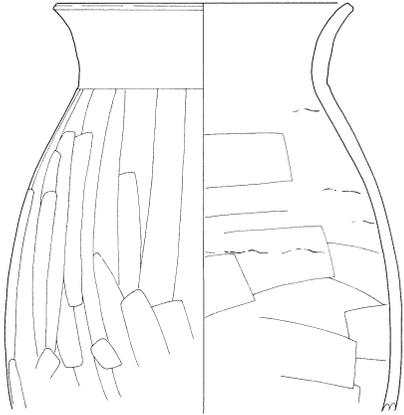
第280图 第41号住居跡出土遺物(1)



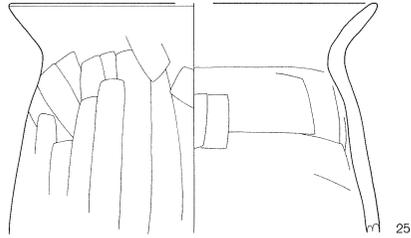
22



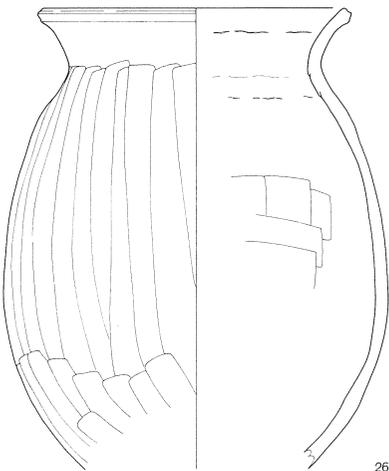
23



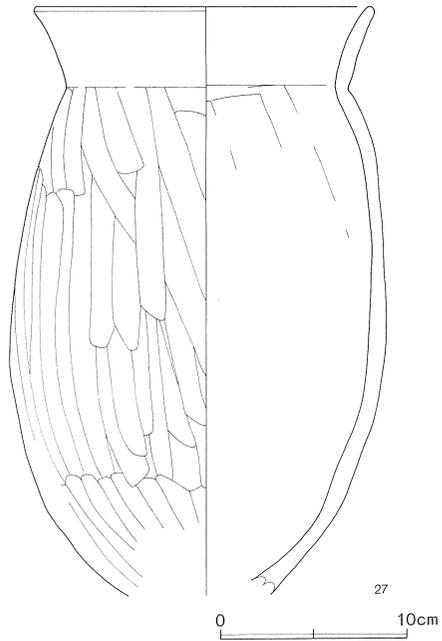
24



25



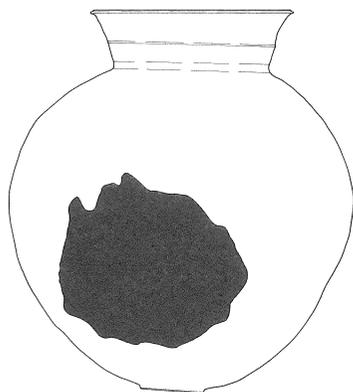
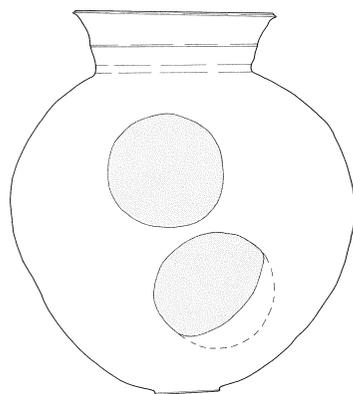
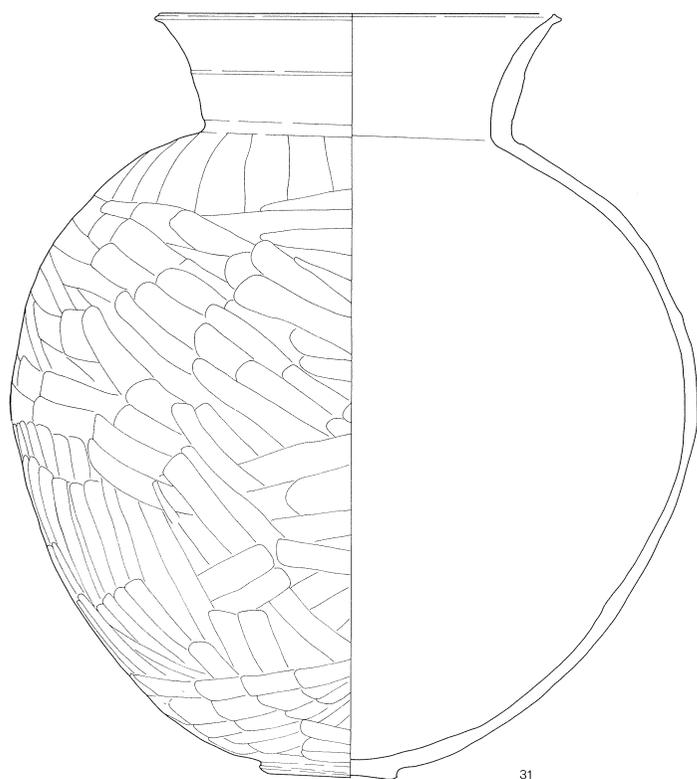
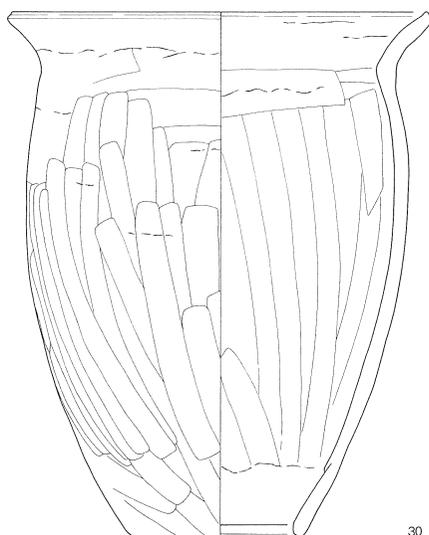
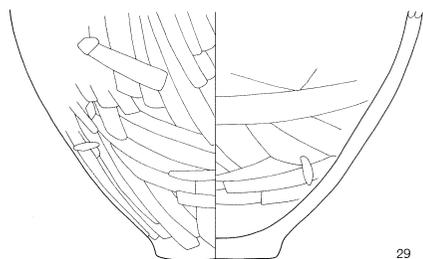
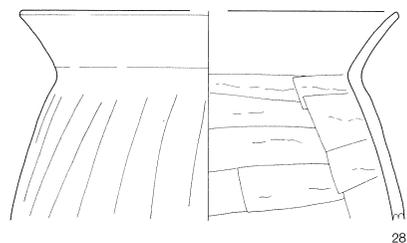
26



27

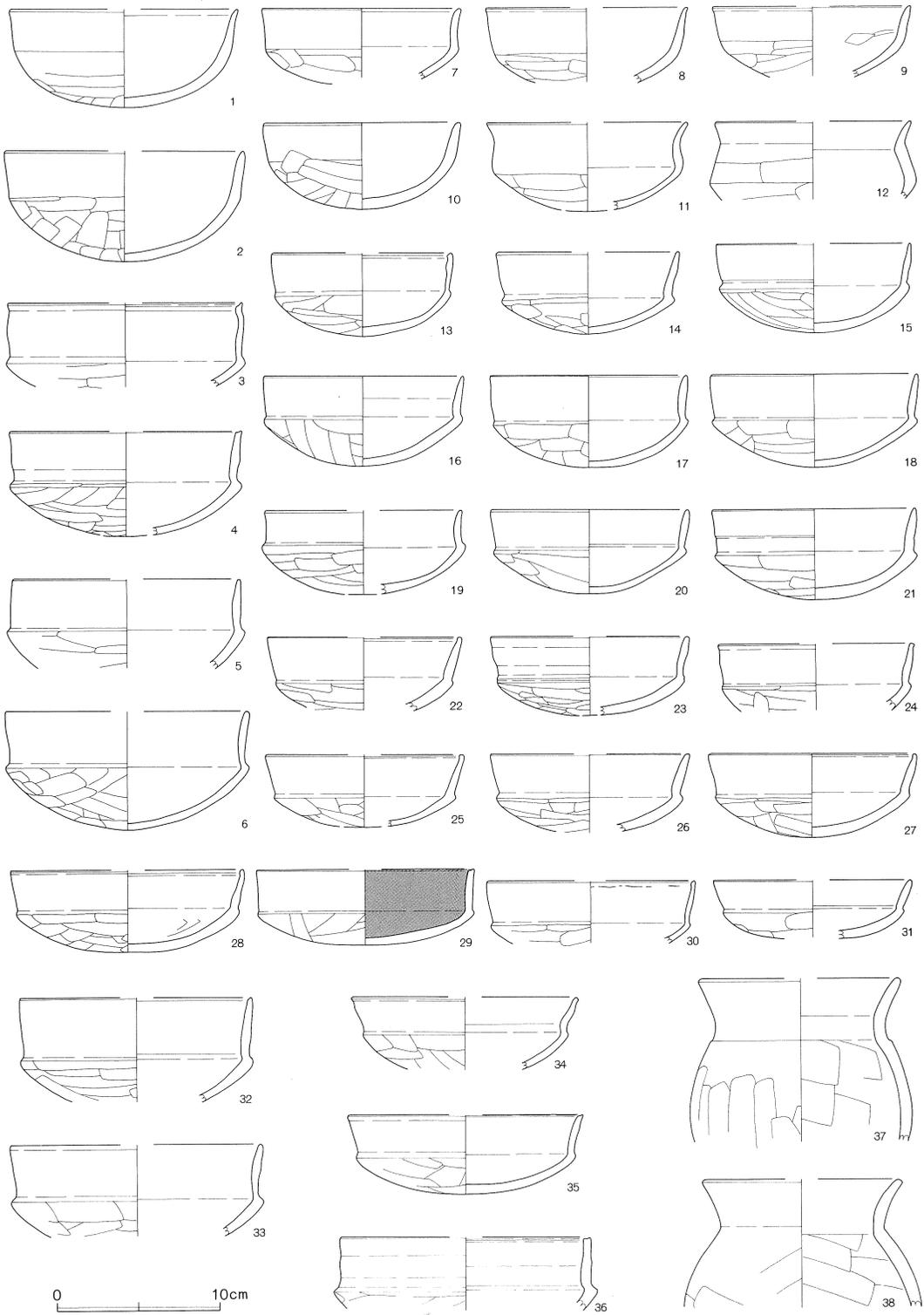
0 10cm

第281図 第41号住居跡出土遺物(2)

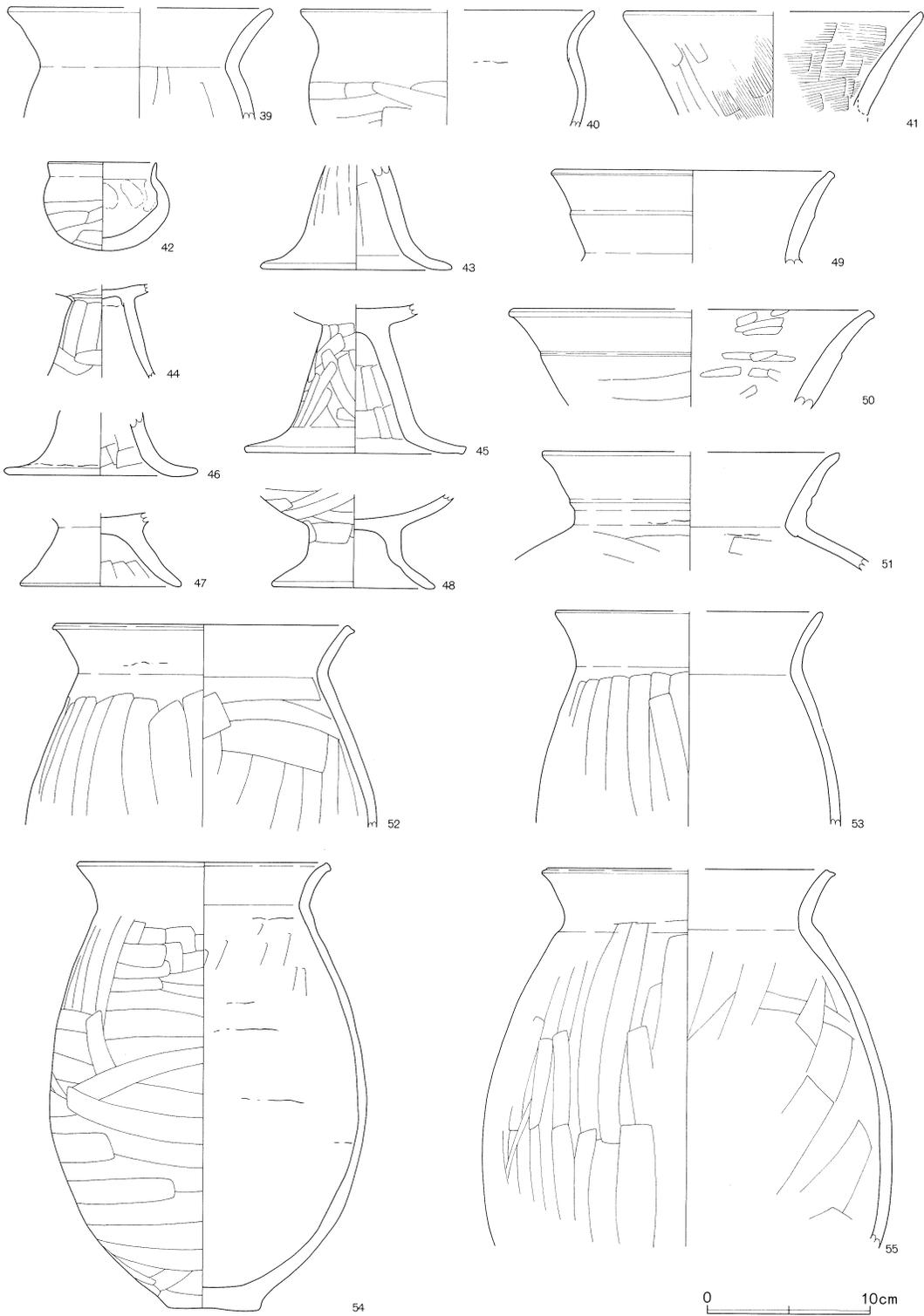


0 10cm

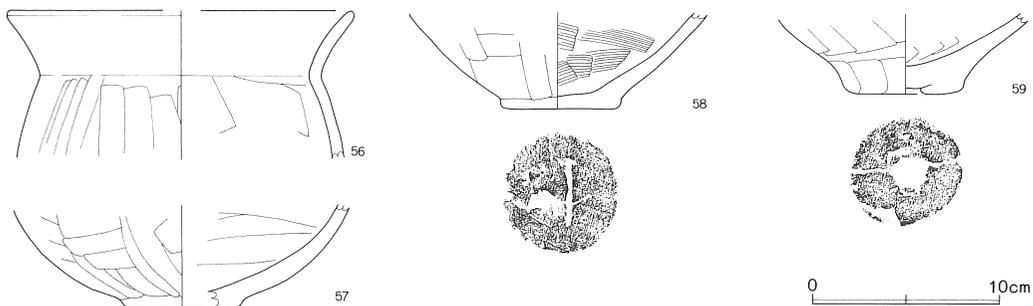
第282図 第41号住居跡出土遺物(3)



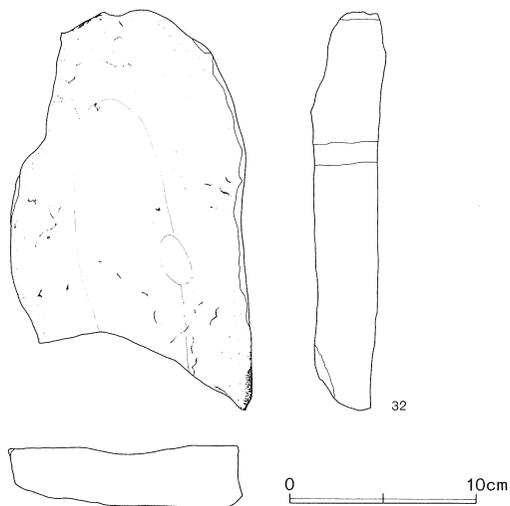
第283図 第42号住居跡出土遺物(1)



第284图 第42号住居跡出土遺物(2)



第285図 第42号住居跡出土遺物(3)



第286図 第41号住居跡出土遺物(4)

第41号住居跡(第280~282図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.0 高5.4	R	橙	50	No.55。外面黒色
2	坏	口12.2 高5.3	R	浅黄橙	90	No.11。
3	坏	口(12.0)	W	橙	20	
4	坏	口(12.4)	R+W+W'	橙	30	No.20。
5	坏	口(14.0)		にふい橙	10	
6	坏	口(14.8)	R	橙	10	
7	坏	口(14.0)	R	橙	10	内面風化
8	坏	口(14.0)	R+W	橙	10	No.10。
9	坏	口(16.2)	R	橙	20	
10	碗	口(13.8)	R	橙	10	No.53。

11	鉢	口(18.4)	R	橙	20	風化
12	小型甕	口14.2	磔	橙～浅黄橙	口縁～胴部 80	No.2・24・49。外面に黒色部分
13	高坏	口18.2 脚12.4 高13.9	R	橙～にふい橙	60	No.2。
14	高坏	口(18.0)	W+磔多	橙	口縁 10	
15	高坏	脚11.5	R	橙	脚部 60	No.3
16	甕	口(18.4)	磔	橙	口縁 30	
17	壺	口(20.2)	R	橙	口縁 10	No.34。
18	壺		磔	(内)明赤褐 (外)橙	底部 10	No.1。
19	壺		R	橙	底部 10	内面風化 黒斑
20	甕	口(18.4)	W	(内)にふい赤褐 (外)橙	口縁 10	
21	甕	口16.2	W+磔多	橙	80	No.5。
22	甕	口17.8 底7.0 高27.8 胴20.5	磔	浅黄橙	70	No.19。底部ケズリ 底部外面黒色
23	甕	口16.6 底6.0 高28.6 胴19.0	W多+磔	橙	90	No.27。底部ケズリ 底部外面黒色
24	甕	口16.0	磔	橙	口縁～胴部 70	No.9・13。胴部外面に黒色部分
25	甕	口(19.6)	磔	にふい橙	口縁 20	No.30。
26	甕	口16.8	磔	橙	50	No.19。胴部中位に黒色部分 粘土紐積み 上げ痕
27	甕	口18.2	R	浅黄橙	80	No.28。胴部外面下半黒色
28	甕	口(20.2)	R+磔多	橙	口縁 20	No.41。粘土紐積み上げ痕明瞭
29	甕	底6.5	磔	(内)明赤褐 (外)浅黄橙～橙	脚部～底部 30	No.53。底部ケズリ
30	甕	口22.6 底9.2 高28.0	R+磔	橙～浅黄橙	80	No.26。外面下半にスス附着
31	壺	口21.8 底7.4 高40.8 胴36.6	B多+R多+W+W'	橙～黄橙	80	No.6。胴部黒斑と対向する位置に坏口径 と一致する円形の焼けムラ2つ(重ね焼 きの痕跡)

第42号住居跡(第283～285区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0) 高6.0	R	橙	60	No.122・123。
2	坏	口(14.6) 高6.7	R多+W	橙	30	No.126・129。
3	坏	口(14.2)	R	にふい橙	10	
4	坏	口(14.2)	R+W+W'	橙	40	No.57。
5	坏	口(14.0)	R	橙	20	風化が著しい
6	坏	口(14.9) 高7.3	B+R+W+W'	橙	50	No.64。
7	坏	口12.2	R	浅黄橙	70	No.32。

8	坏	口(12.4)	W	橙	20	No.66。
9	坏	口(12.2)	R+W	橙	10	
10	坏	口12.0 高5.3	R	橙~浅黄橙	90	No.43。黒斑
11	坏	口(12.2)	W	橙	10	No.118。
12	碗	口(12.0)	R	橙	20	
13	坏	口(11.0) 高5.1	W	橙	40	No.28。外面黒色
14	坏	口(11.2) 高5.0	R	(内)にふい橙 (外)橙	40	No.15。
15	坏	口(12.0) 高5.4	R	橙	60	
16	坏	口12.2 高5.5	B+R	橙~にふい橙	90	No.34・53。
17	坏	口12.0 高5.6	R多+W	橙	100	No.78。内面風化
18	坏	口12.5 高5.7	R	橙	70	No.27。外面黒色
19	坏	口(12.0)	R	にふい橙	20	No.87。内面風化
20	坏	口12.2 高5.1	R	橙~にふい橙	80	No.60。内面風化
21	坏	口12.4 高5.5	R多+W	橙	70	No.124。
22	坏	口(13.0)	R	橙	10	
23	坏	口(12.1)	B	橙	20	
24	坏	口(12.0)	W	橙	30	
25	坏	口(12.2)	W	橙	30	内面風化
26	坏	口(12.2)		橙	20	
27	坏	口12.6 高5.1	R	橙	80	No.62・99。外面に黒色部分
28	坏	口(14.2) 高5.0	R	橙	30	No.129。
29	坏	口(13.4) 高4.6	R	橙	40	No.8・86。内面黒色
30	坏	口(12.6)	W	橙~浅黄橙	20	風化
31	坏	口(12.1)	R多+W	浅黄橙	20	内面風化
32	坏	口(14.2)	R+W	橙	20	No.54。
33	坏	口(15.3)	R	橙	20	
34	坏	口(14.0)		橙	10	
35	坏	口(14.4) 高4.8	R	浅黄橙~橙	40	外面黒色
36	坏	口(15.4)		橙	口縁 20	
37	小型甕	口(12.4)	R多+W	橙	口縁 20	No.48。

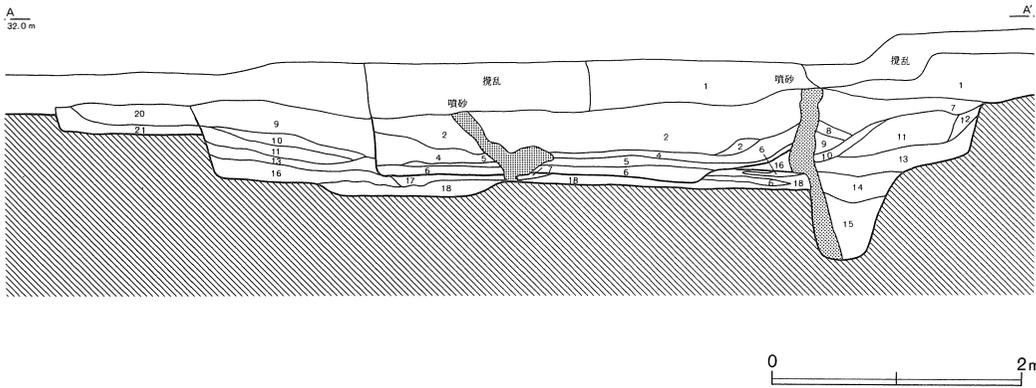
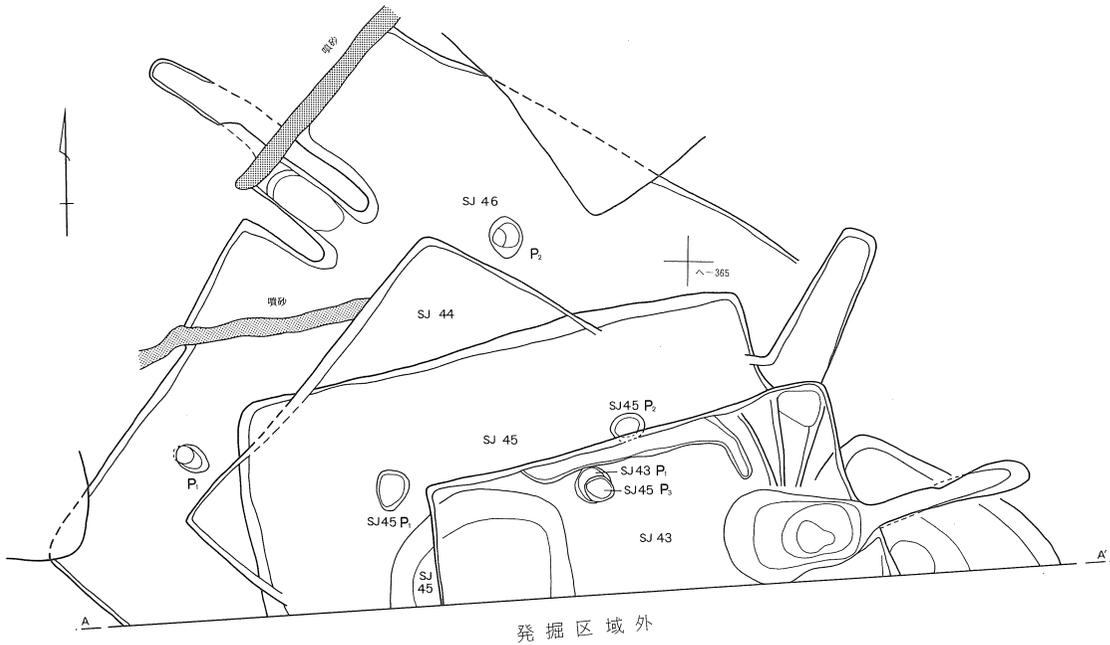
38	小型甕	口(12.2)	R多+W	橙～浅黄橙	口縁 20	No.125。
39	小型甕	口(16.2)	礫	橙	口縁 20	No.80。風化が著しい
40	鉢	口(18.0)	R	橙	口縁 30	No.49。
41	鉢	口(18.4)	W+礫	浅黄橙	口縁 10	No.19。
42	ミニチュア	口6.6 高5.4	R	橙	95	No.131。
43	高坏	脚11.6	R	橙	脚部 30	風化
44	高坏		R	橙～浅黄橙	脚部 70	No.25。
45	高坏	脚13.6	R多+W	橙	脚部 90	No.6。
46	高坏	脚11.8	W	橙	脚部 20	
47	高坏	脚10.0	R	橙	脚部 90	No.32。風化
48	台付甕	台10.0	R	橙～浅黄橙	脚部 70	No.18。
49	壺	口17.4	R	橙	口縁 90	No.5。
50	壺	口(22.4)	R	(内)浅黄橙 (外)橙	口縁 10	
51	壺	口(18.2)	B+W	橙	口縁 20	
52	甕	口18.5	礫	浅黄橙	口縁 30	No.26。
53	甕	口16.4	W+W'	橙	口縁 20	No.16。内面風化
54	甕	口15.2 底5.6 高27.2 胴19.5	R+礫	橙～明赤褐	90	No.120。底部ケズリ 胴部中位に黒斑
55	甕	口(18.0) 胴(25.0)	礫	浅黄橙	20	No.42。
56	甕	口(18.5)	W	橙	口縁 20	No.98。
57	甕	底(6.0)	R	橙	底部 20	No.58。
58	甕	底6.2	礫	(内)浅黄橙 (外)橙	底部 30	底部木葉痕、外周のみケズリ
59	甕	底6.2	礫	(内)明褐灰 (外)橙	底部 70	底部周辺に粘土貼付

は検出されていない。東半部に貼床が顕著に認められ、遺物も集中している。ほかに編物石2点が出土している。

#### 第43・44・45・46号住居跡 (第287・288・289・290・292・298図)

ほ—364・365、へ—364・365Gridに位置し、南半は発掘区域外にかかっている。第46号住居跡が第36・41号住居跡と重複している。新旧関係は第45号住居跡→第44号住居跡→第46号住居跡→第43号住居跡の順に構築されている。第46号住居跡は第36号住居跡よりも新しく、第41号住居跡よりも古い。

第43号住居跡の規模は主軸辺3.48m、深さ0.24～0.57mで、主軸方位はN—76°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.12～0.27m、深さ0.05～0.22mの壁溝が北壁中央部のみ廻っている。



第43号住居跡

- 1 表土層
- 2 褐色土 焼土粒子(3~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 茶褐色土 焼土粒子(3~5mm)、炭化物粒子少量含む。しまり・粘性欠。
- 5 暗茶褐色土 焼土粒子(3~5mm)、炭化物粒子(3mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗黄色土 貼床。暗黄色土粒子(3~10mm)多量、炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性強。

第45号住居跡

- 16 暗黄褐色土 焼土微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 17 暗褐色土 黄色土ブロック(3cm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 18 暗黄色土 炭化物粒子、細粒砂微量含む。しまり・粘性強。
- 19 暗灰色土 炭化物微粒子極多量含む。しまり・粘性弱。

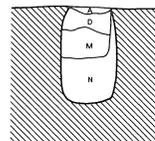
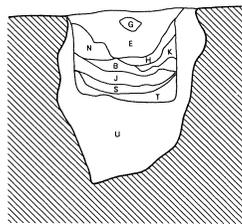
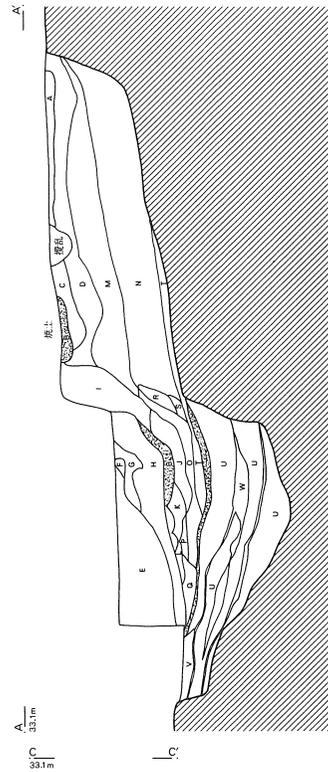
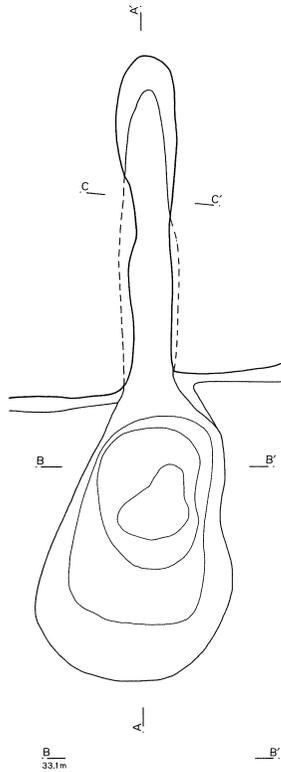
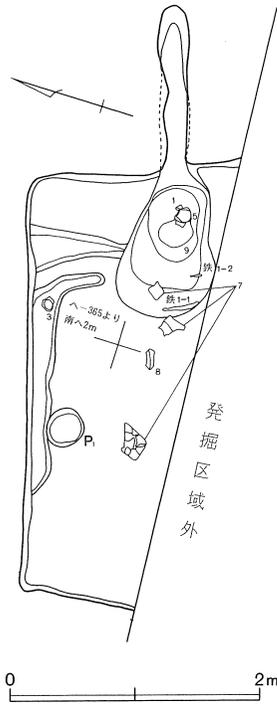
第44号住居跡

- 7 暗褐色土 焼土微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 暗黄色土ブロック(1~2cm)多量含む。しまり・粘性強。
- 9 暗茶褐色土 焼土粒子、炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性あり。
- 10 暗黄褐色土 暗黄色土ブロック(2~3cm)多量含む。しまり・粘性強。
- 11 褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 12 暗茶褐色土 焼土微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 13 茶褐色土 暗黄色土ブロック(1~2cm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 14 暗褐色土 炭化物粒子(3mm)微量含む。しまり・粘性あり。
- 15 褐色土 炭化物粒子(3mm)、細粒砂微量含む。しまり・粘性あり。

第46号住居跡

- 20 褐色土 細粒砂少量含む。しまり・粘性あり。
- 21 暗褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。

第287図 第43・44・45・46号住居跡

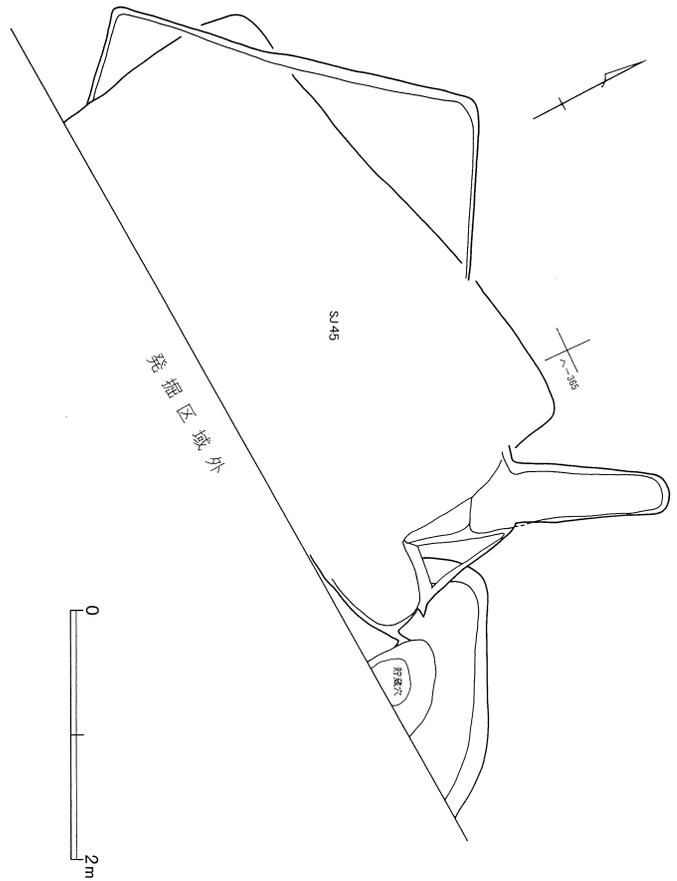
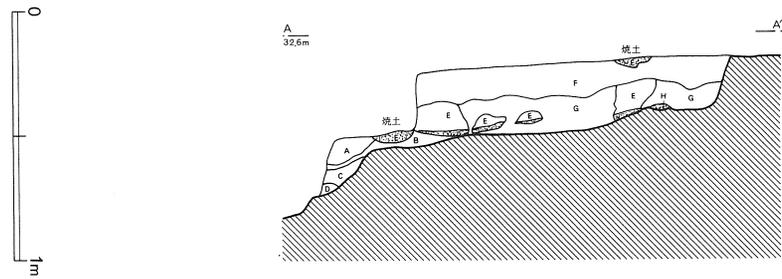
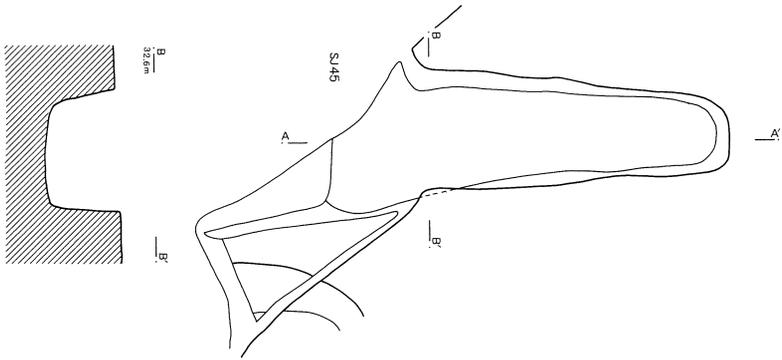


第43号住居跡カマド

- A 茶褐色土 暗赤色焼土粒子(5mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- B 橙色土 よく焼けしまった焼土層(天井部)。
- C 暗褐色土 炭化物粒子(2~3mm)多く含む。しまり・粘性あり。
- D 暗褐色土 Cより黄色味強。炭化物粒子(3mm)微量含む。しまり・粘性あり。
- E 褐色土 焼土粒子(2~3mm)、炭化物粒子(2~3mm)多量含む。しまり・粘性強。
- F 褐色土 焼土ブロック(2cm)多量含む。しまり・粘性あり。
- G 黄褐色土 焼土粒子(2~3mm)、炭化物粒子(2~3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- H 灰褐色土 焼土粒子(2~3mm)、炭化物粒子(2~3mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- I 褐色土 焼土粒子(2~3mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- J 茶褐色土 焼土ブロック(2cm)極多量、炭化物粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- K 灰褐色土 炭化物微粒子極く多量含む。しまり・粘性やや弱。

- L 褐色土 焼土ブロック(2cm)少量、炭化物粒子(2~3mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- M 褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性強。
- N 褐色土 暗赤褐色焼土粒子(5~20mm)多量含む。炭化物なし。しまり・粘性あり。
- O 黄褐色土 砂極多量含む。しまり・粘性弱。
- P 黒褐色土 炭化物微粒子極多量含む。しまり・粘性弱。
- Q 暗灰褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量、炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性弱。
- R 暗灰色土 焼土微粒子少量、炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性あり。
- S 黄褐色土 焼土・炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- T 灰褐色土 焼土ブロック、炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性弱。
- U 灰褐色土 灰色粘質土主体。焼土粒子・ブロック、炭化物多く含む。しまりあり、粘性強。
- V 暗黄褐色土 貼床。焼土粒子・ブロック、炭化物少量含む。しまり強。
- W 黒褐色土 炭化物層。しまり・粘性弱。

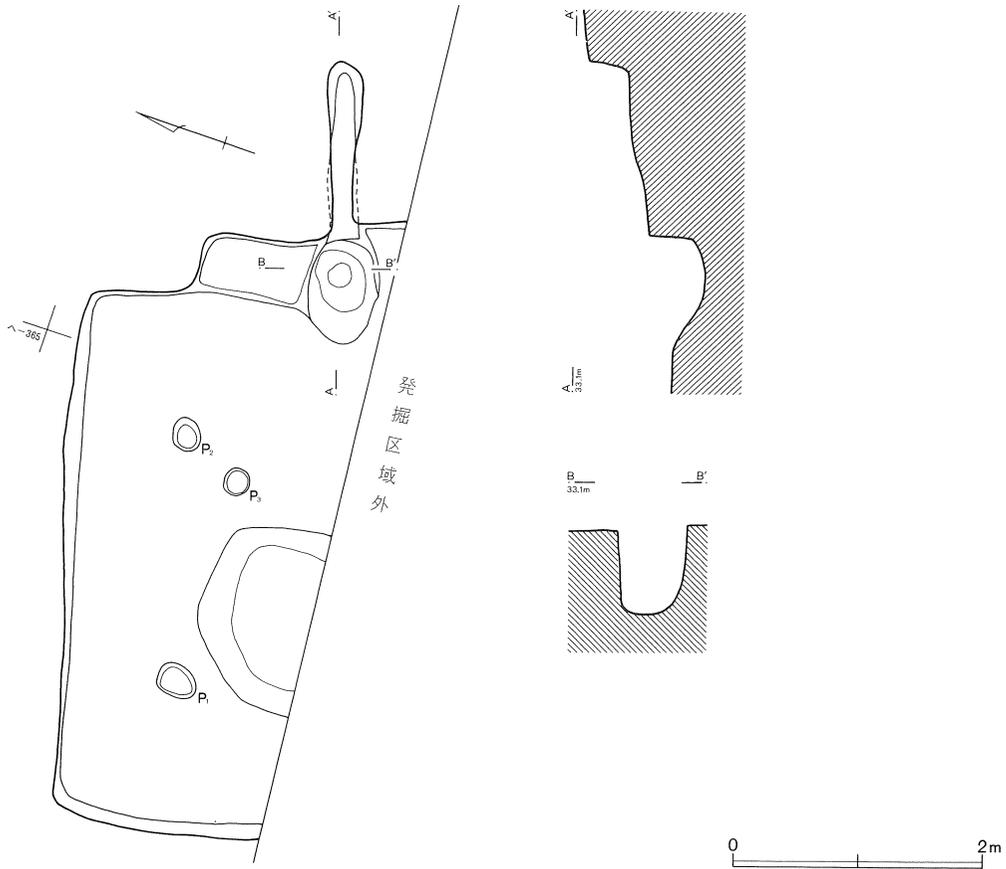
第288図 第43号住居跡



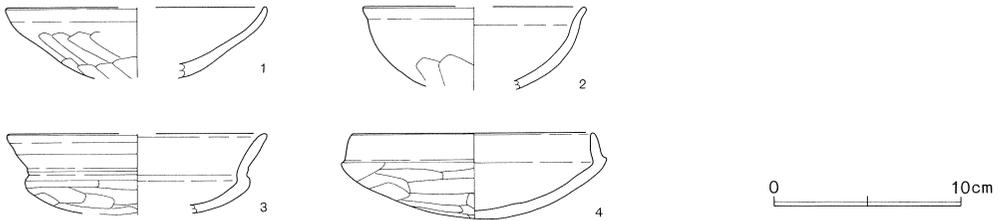
第44号住居跡カマド

- A 暗茶褐色土 焼土粒子・ブロック少量、炭化物粒子わずかに含む。  
しまりあり、粘性ややあり。
- B 黒褐色土 焼土粒子・ブロック若干、炭化物粒子多量含む。しまり・粘性弱。
- C 暗褐色土 焼土粒子・ブロック若干含む。しまりあり。
- D 褐色土 焼土粒子わずかに含む。しまりあり、粘性強。
- E 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロックわずかに含む。しまり・粘性あり。
- F 灰褐色土 黄褐色土ブロック若干、焼土粒子わずかに含む。しまりあり。
- G 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- H 黒褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子多く含む。

第289図 第44号住居跡



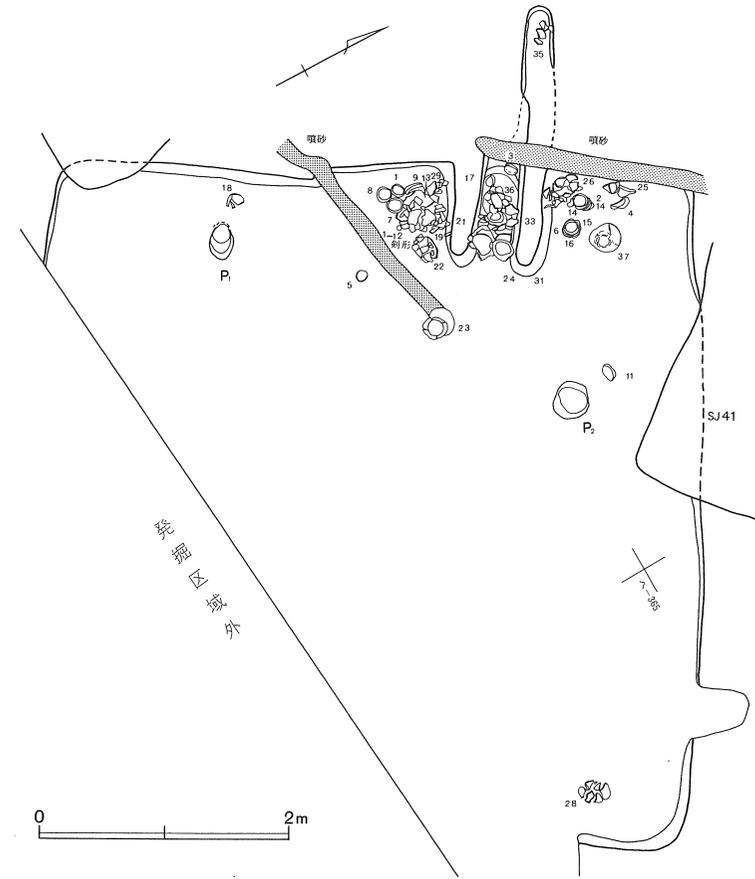
第290図 第45号住居跡



第291図 第44号住居跡出土遺物

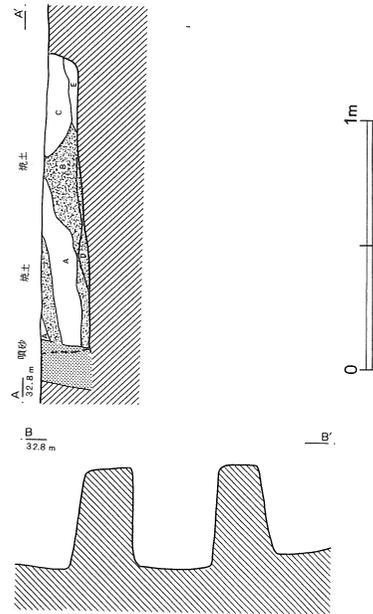
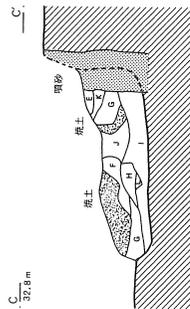
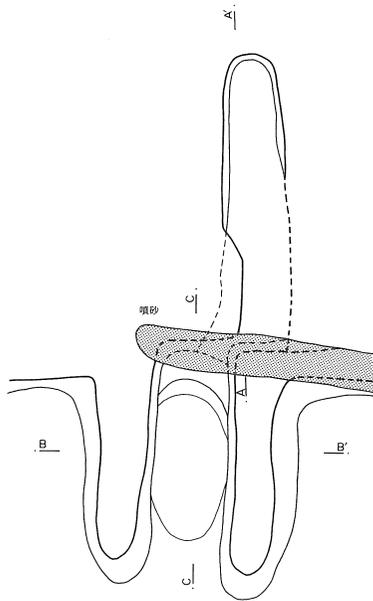
第44号住居跡 (第291図)

No.	器種	大きさ (cm)	胎土	色調	残存率 (%)	備考
1	坏	口(14.0)	R+W	橙	10	風化  全体的に黒色
2	坏	口(12.0)	R+W	橙	20	
3	坏	口(14.0)	B+W	橙	30	
4	坏	口13.0 高4.6	R+W	黒褐	70	

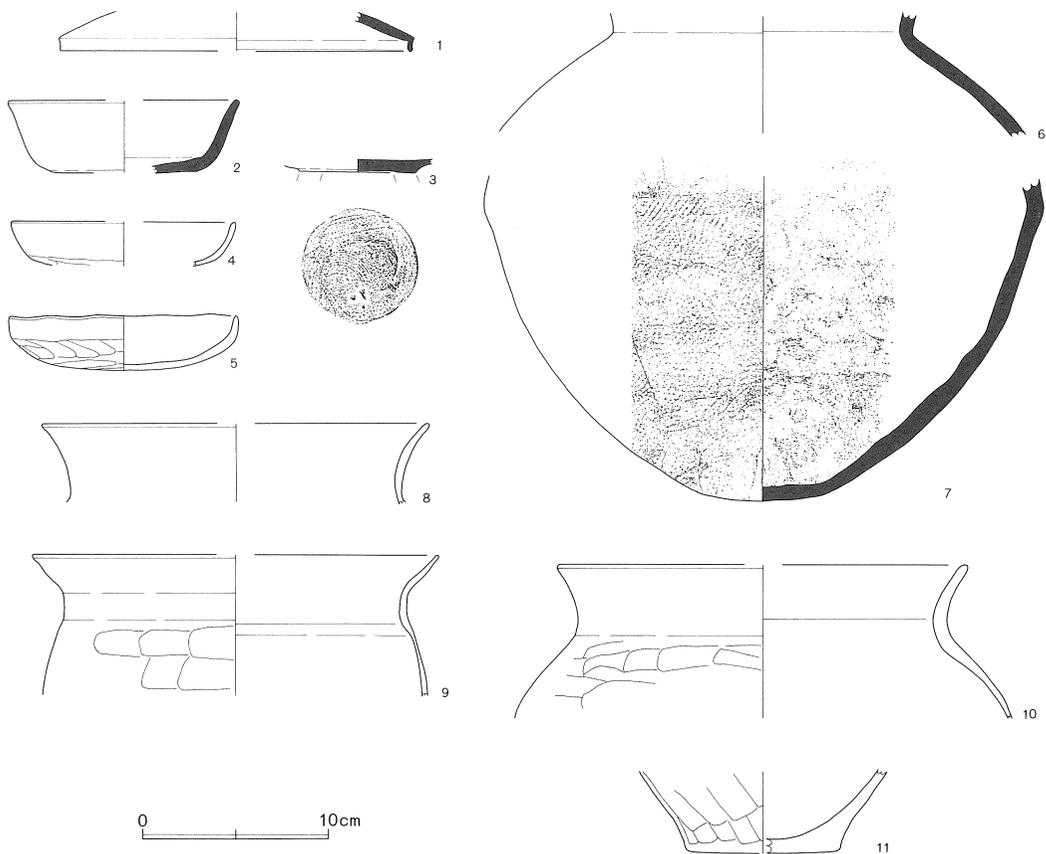


第46号住居跡カマド

- A 褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- B 赤褐色土 焼土粒子・ブロック多量、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- C 灰赤褐色土 焼土粒子・ブロック多量、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- D 黄褐色土 焼土粒子・ブロック若干含む。
- E 灰褐色土 焼土粒子わずかに含む。しまりあり。
- F 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- G 赤褐色土 焼土粒子多く、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- H 褐色土 焼土粒子若干、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- I 灰色土 炭化物粒子多く含む。しまり弱。
- J 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物・灰粒子多く含む。しまり弱。
- K 灰黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- L 黄褐色土ブロック



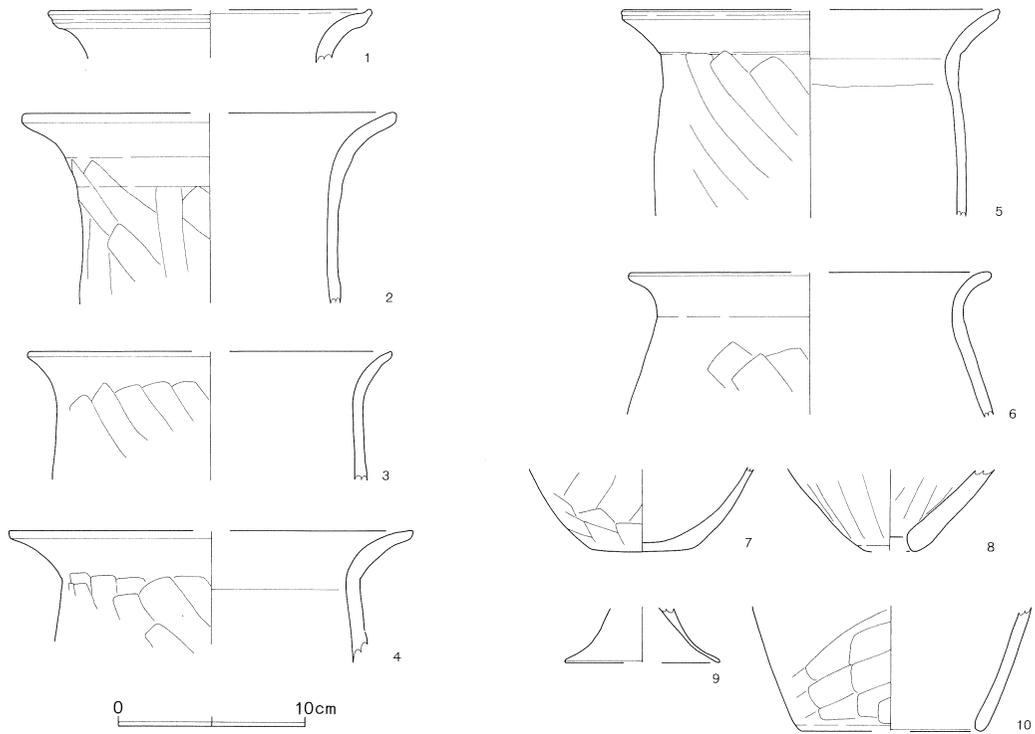
第292図 第46号住居跡



第293図 第43号住居跡出土遺物

第43号住居跡 (第293図)

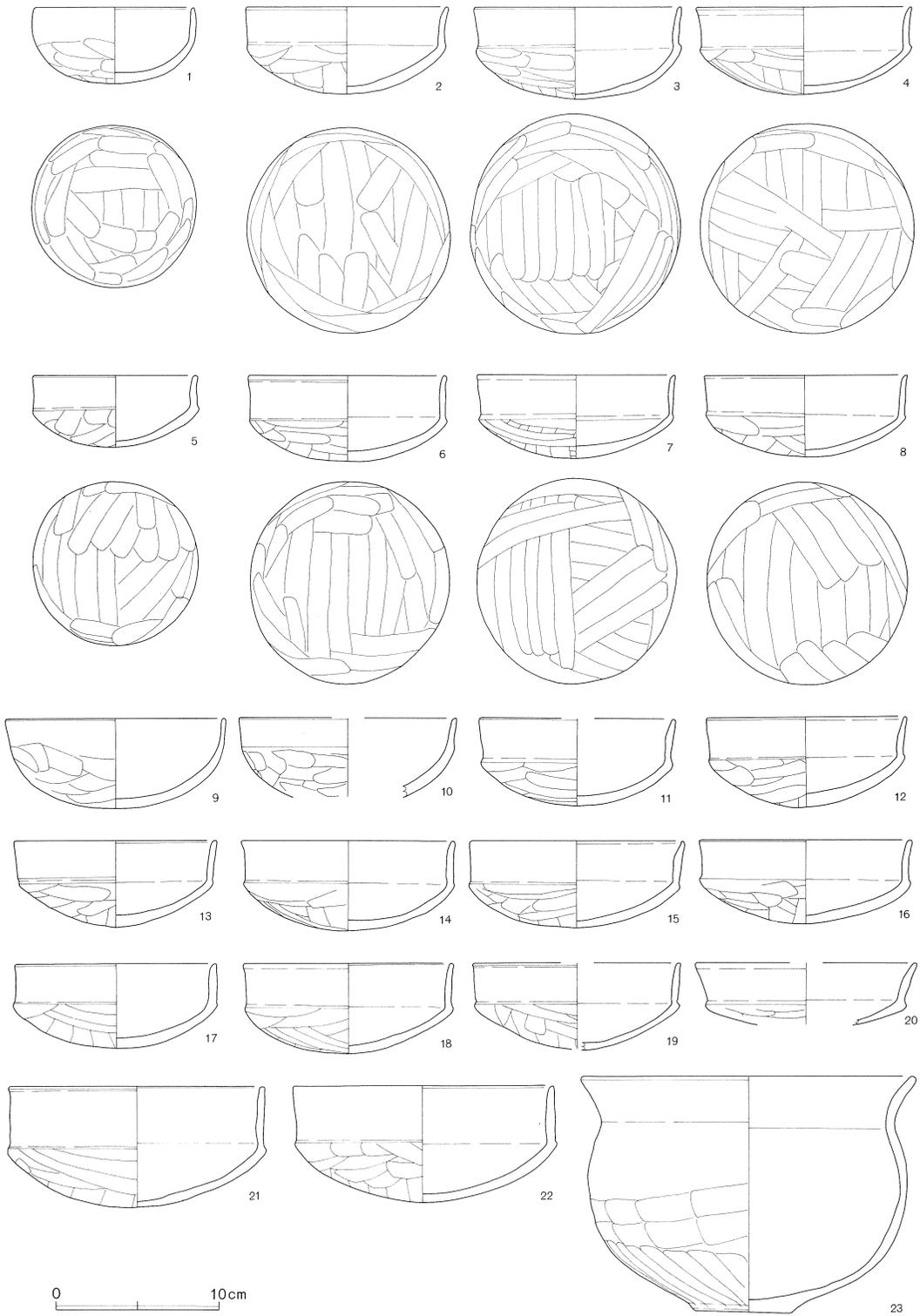
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(18.8)	B少+W	灰白	20	No.10。
2	坏	口(12.3)	B+R+W+W'	灰白~にふい橙	25	回転糸切り離し
3	坏	底6.2	W+針	灰白	底部 80	No.6。回転糸切り離し後、周辺ヘラケズリ
4	坏	口(12.0)	B+R+W少+W' 少	にふい橙	20	
5	坏	口12.3 高2.9	B+W少+W' 少	橙	85	No.8。
6	甕		W	灰	胴部 10	
7	甕	胴(30.0)	B少+W+砂少	灰白	50	No.1・3・5。外面平行タタキ 内面青海波文
8	甕	口(20.7)	B+R+W+W'	橙	口縁 20	No.2。
9	甕	口(21.7)	B少+W+W'	明褐灰~にふい橙	口縁 25	No.9。
10	甕	口(21.9)	B+R+W+W'	橙	口縁 25	
11	甕	底8.3	B+R+W+W' +砂多	にふい黄橙~橙	底部 50	底部ケズリ



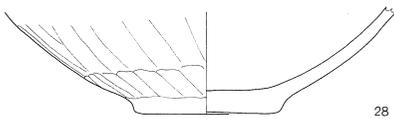
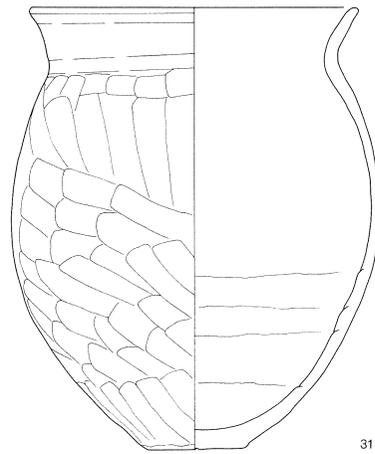
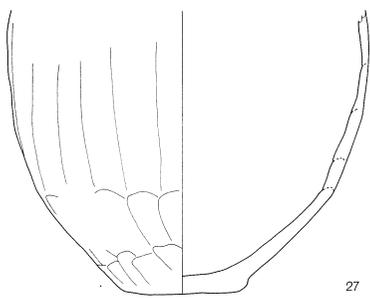
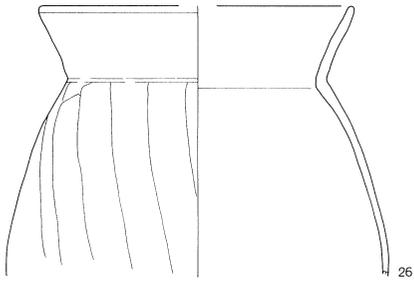
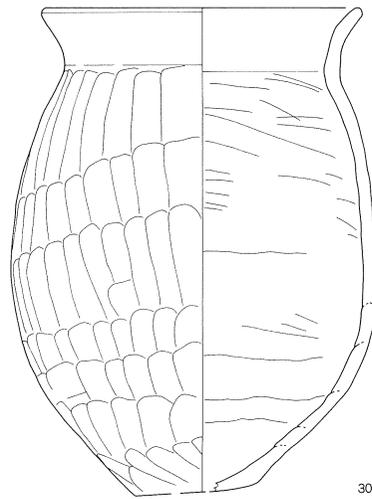
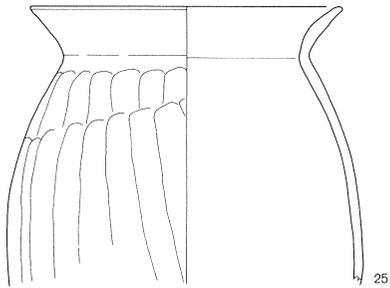
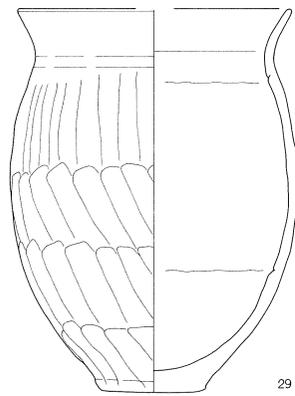
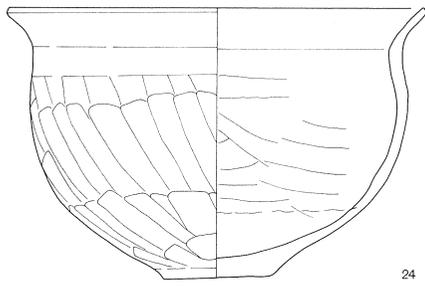
第294図 第45号住居跡出土遺物

第45号住居跡 (第294図)

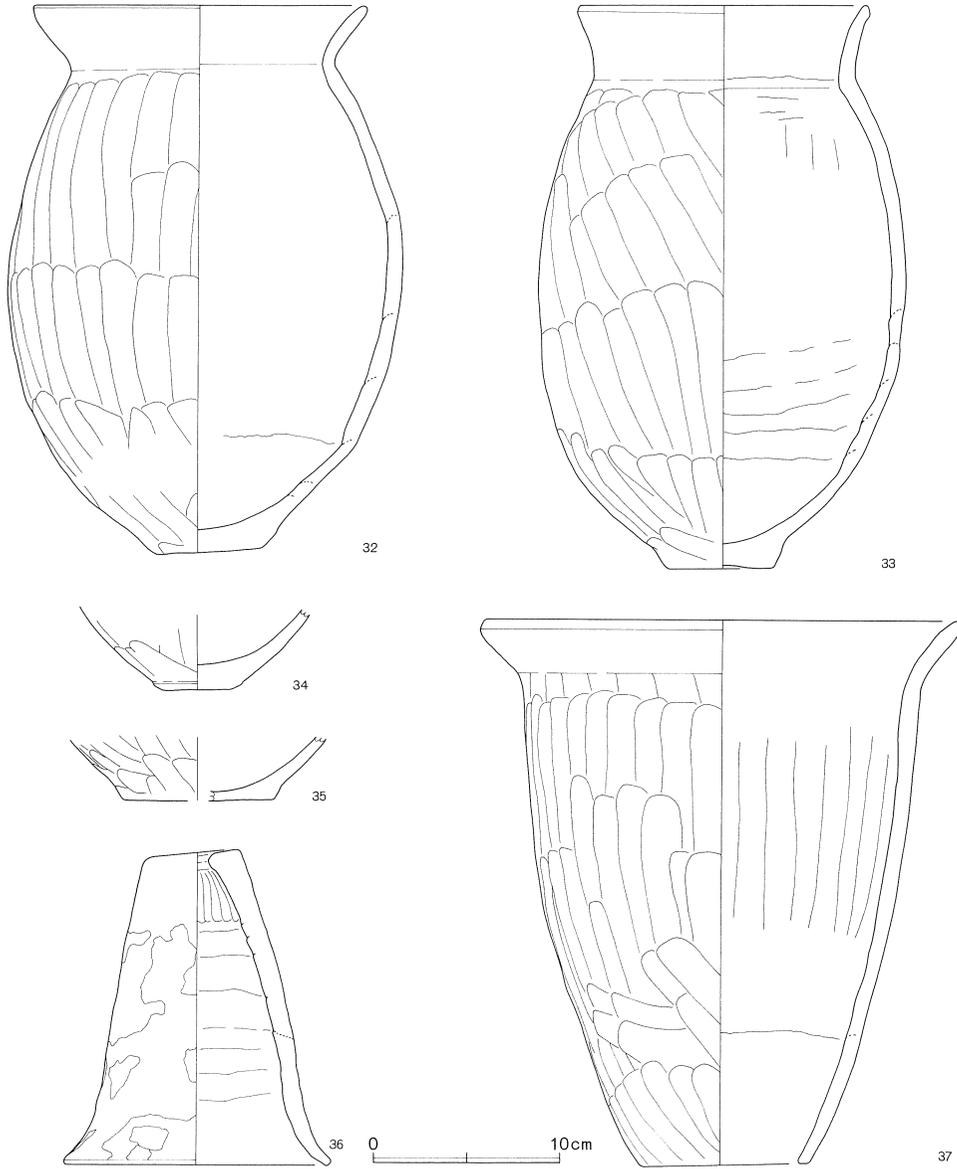
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	甕	口(17.3)	B+R+W+W'	にふい黄橙	口縁 15	外面に黒色部分
2	甕	口(20.0)	B+R+W+W'+砂多+礫多	橙	口縁 30	
3	甕	口(19.4)	B+R少+W+W'少	橙~黄橙	口縁 25	
4	甕	口(21.6)	B+W+W'	浅黄橙	口縁 25	
5	甕	口(20.1)	B+R少+W少+礫多	浅黄橙	口縁 25	底部ケズリ 外面は全体的に黒色
6	甕	口(19.3)	B+W+砂少+礫少	にふい橙	口縁 20	
7	甕	底5.3	B+R少+W+礫多	橙~にふい黄橙	底部 60	
8	甕	底(2.5)	B+W少	橙	胴部 10	
9	高坏	脚(8.2)	B+W少	橙	脚部 15	
10	甕	底(9.6)	B+R+W少	黄橙~浅黄橙	胴部 10	



第295図 第46号住居跡出土遺物(1)



第296图 第46号住居跡出土遺物(2)



第297図 第46号住居跡出土遺物(3)

カマドは東壁に構築され、全長2.49m、焚き口幅0.25mを測る。袖部はみられない。燃烧部が隅丸方形を呈し、深く掘り込まれている。火床面は3面確認されている。カマド北側にテラス部が存在し、貯蔵穴は検出されていない。鉄製の刀片、刀子1点が出土している。

第44号住居跡は第45号住居跡との重複が激しく、詳細は不明である。規模は主軸辺3.22m、深さ0.36~0.44mで、主軸方位はN-28°-Eを測る。主軸辺が短い形態を呈しているようである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築され、煙道部と燃烧部・袖部の一部が確認されている。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置されている。編物石1点が出

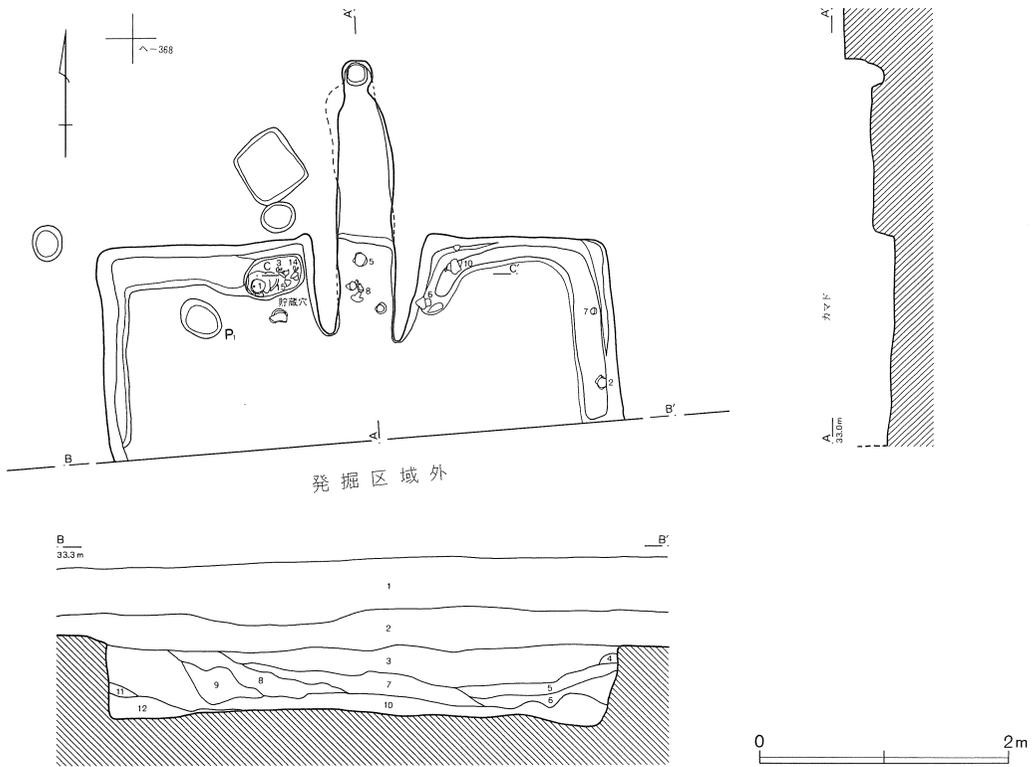
第46号住居跡（第295～297区）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口9.9 高4.6	B+R+W+W'	橙～にふい橙	100	No.5。内外面とも全体的にうすい黒色
2	坏	口12.4 高5.3	B+R少+W+W' 少	にふい橙	100	No.24。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
3	坏	口12.7 高5.6	B+W少+W' 少	橙	100	No.13。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
4	坏	口13.2 高5.3	B+W少+W' 少	橙～黄橙	95	No.24。外面に黒色部分
5	坏	口10.1 高4.4	B+R少+W少+W'	黄橙	100	No.2。外面に黒色部分
6	坏	口12.2 高5.2	B+R+W+W' +砂少	橙	100	No.34。器面粗
7	坏	口12.1 高5.1	B+R少+W+W' 少	橙	100	No.4。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
8	坏	口12.4 高5.0	B+R+W+W'	黄橙	100	No.3。
9	坏	口13.5 高5.5	B+R+W+W'	橙～黄橙	90	No.6。外面に黒色部分
10	坏	口(13.3)	B+R+W+W'	橙	40	口縁端部面トリ 外面黒色
11	坏	口(12.1) 高5.2	B+R少+W少+W' 少	橙～黄橙	45	No.27。口縁端部弱い面トリ
12	坏	口12.3 高5.5	B+R+W+W' +砂少	橙	100	No.30。器面粗
13	坏	口12.4 高5.3	B+R少+W+W'	橙	90	No.7。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
14	坏	口13.1 高5.5	B+R+W少+W' 少	黄橙～橙	95	No.31。外面に黒色部分
15	坏	口13.2 高5.3	B+W+W'	黄橙～橙	90	No.33。
16	坏	口13.1 高5.2	B+R+W少+W' 少	橙～黄橙	95	No.23。
17	坏	口12.3 高5.2	B+R+W+W'	橙	90	No.14。外面は全体的にうすい黒色
18	坏	口12.9 高5.5	B+R+W少+W' 少	橙	95	No.1。口縁端部面トリ
19	坏	口(12.7)	B+R+W+W'	橙～黄橙	45	No.29。口縁端部面トリ
20	坏	口(13.6)	B+R+W少	橙	20	
21	坏	口15.7 高7.4	B+R+W+W' +砂多	黄橙	100	No.10。口縁端部面トリ 器面粗
22	坏	口16.0 高7.1	B+R+W+W'	橙	85	No.11。体部外面は全体的にうすい黒色
23	鉢	口20.5 底6.1 高14.4	B+R+W少	浅黄橙～橙	100	No.12。底部ケズリ 底部黒斑
24	鉢	口22.3 底5.8 高14.4	B+R+W+W'	橙～黄橙	95	No.17。底部ケズリ 胴部外面中位に黒色部分が廻る
25	甕	口16.6	B+R+W+W' +砂少	橙～にふい橙	40	No.25。外面に黒色部分
26	甕	口16.8	B+W+W' +砂多	橙	口縁 60	No.21。
27	甕	底6.5	B+R+砂多+礫多	橙	40	底部ケズリ
28	甕	底7.8	B+W少+W' 少	浅黄橙	底部 100	No.28。底部ケズリ 外面に黒色部分
29	甕	口(14.7) 底5.8 高20.3 胴15.4	B+R少+W+W' +砂少	橙～黄橙	80	No.9。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分

30	甕	口17.1 底6.5 高25.8 胴19.5	B+W+W'+砂多	橙	90	No.8。底部ケズリ 外面に黒色部分 粘土 紐積み上げ痕明瞭
31	甕	口17.6 底5.0 高23.5 胴19.6	B+R+W+W'+礫少	橙	100	No.18。底部ケズリ 胴部外面下半黒色 粘土紐積み上げ痕
32	甕	口17.9 底6.0 高29.1 胴21.1	B+R+W+W'	橙	85	底部ケズリ 胴部外面下半にカマドの二 次焼成による粘土付着
33	甕	口15.6 底5.5 高30.0 胴19.6	B+R+W+W'	にふい橙～にふい 黄橙	95	No.15・16。底部周辺に粘土貼付 外面に 黒色部分
34	甕	底4.8	B+W+W'+砂少+礫少	橙～浅黄橙	底部 50	底部ケズリ
35	甕	底8.1	B+R+W+W'+砂少	橙	底部 50	No.20。底部ケズリ
36	支脚	上端5.0 下端14.3 高16.6	B+R+W+W'	黄橙	100	No.35。カマド二次焼成による粘土付着
37	甕	口25.6 底8.8 高29.0	B+R+W+W'	橙	95	No.26。



第298図 第43・44・45・46号住居跡全景



第47号住居跡

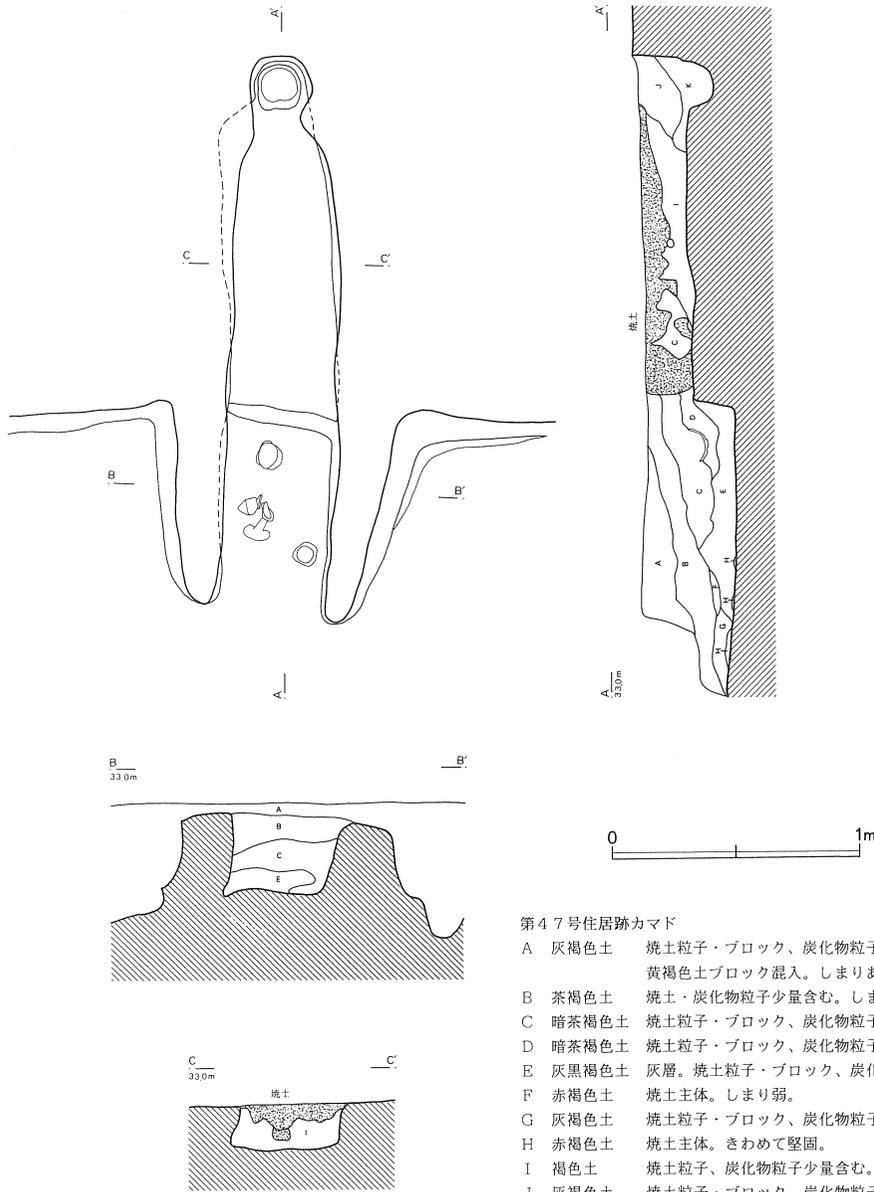
- |         |  |          |   |
|---------|--|----------|---|
| 1 暗茶褐色土 | 焼土粒子(3~5mm)少量、火山灰多量含む。しまり・粘性あり。          | 8 暗褐色土   | 焼土粒子(3mm)、暗黄色土ブロック(2~10cm)多量含む。しまり・粘性あり。        |
| 2 暗茶褐色土 | 焼土粒子微量含む。しまり・粘性強。                        | 9 暗褐色土   | 暗黄色土ブロック(2~3cm)多量含む。しまり・粘性あり。                   |
| 3 褐色土   | 焼土粒子(3mm)、炭化物粒子(微粒~3mm)微量含む。しまり・粘性あり。    | 10 暗茶褐色土 | 焼土粒子(3mm)、暗黄色土ブロック(2~3cm)少量含む。しまり・粘性あり。         |
| 4 黄色土   | 黄色土ブロック主体。しまり・粘性強。                       | 11 暗黄褐色土 | 炭化物粒子(2~3mm)少量含む。しまり・粘性強。                       |
| 5 暗茶褐色土 | 炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。                 | 12 暗茶褐色土 | 10より暗い。炭化物粒子(2~3mm)、暗黄色土ブロック(2cm)少量含む。しまり・粘性あり。 |
| 6 茶褐色土  | 暗黄色土ブロック(2~5cm)多量含む。しまり・粘性あり。            |          |   |
| 7 暗褐色土  | 焼土粒子(3~10mm)、炭化物粒子(微粒~3mm)少量含む。しまり・粘性あり。 |          |   |

第299図 第47号住居跡(1)

土している。

第45号住居跡の規模は主軸辺3.22m、深さ0.24~0.56mで、主軸方位はN-76°-Eを測る。カマドは東壁に構築されているが、第43号住居跡のカマドによって攪乱されている。ピット3基、中央部に土坑1基が検出されている。遺物は土師器のほかに須恵器10片、土製紡錘車1点、貝巢穴痕泥岩1点が出土しているが、第44号住居跡のものと混合が激しいようである。

第46号住居跡は噴砂の亀裂が東西に走っている。規模は主軸辺5.52m・短辺5.32m、深さ0.11~0.23mで、主軸方位はN-58°-Wを測る。カマドは北西壁中央に構築され、噴砂の亀裂によって煙道部が横にズレている。推定全長2.16m、焚き口幅0.31mで、煙道部の天井が残存している。袖部

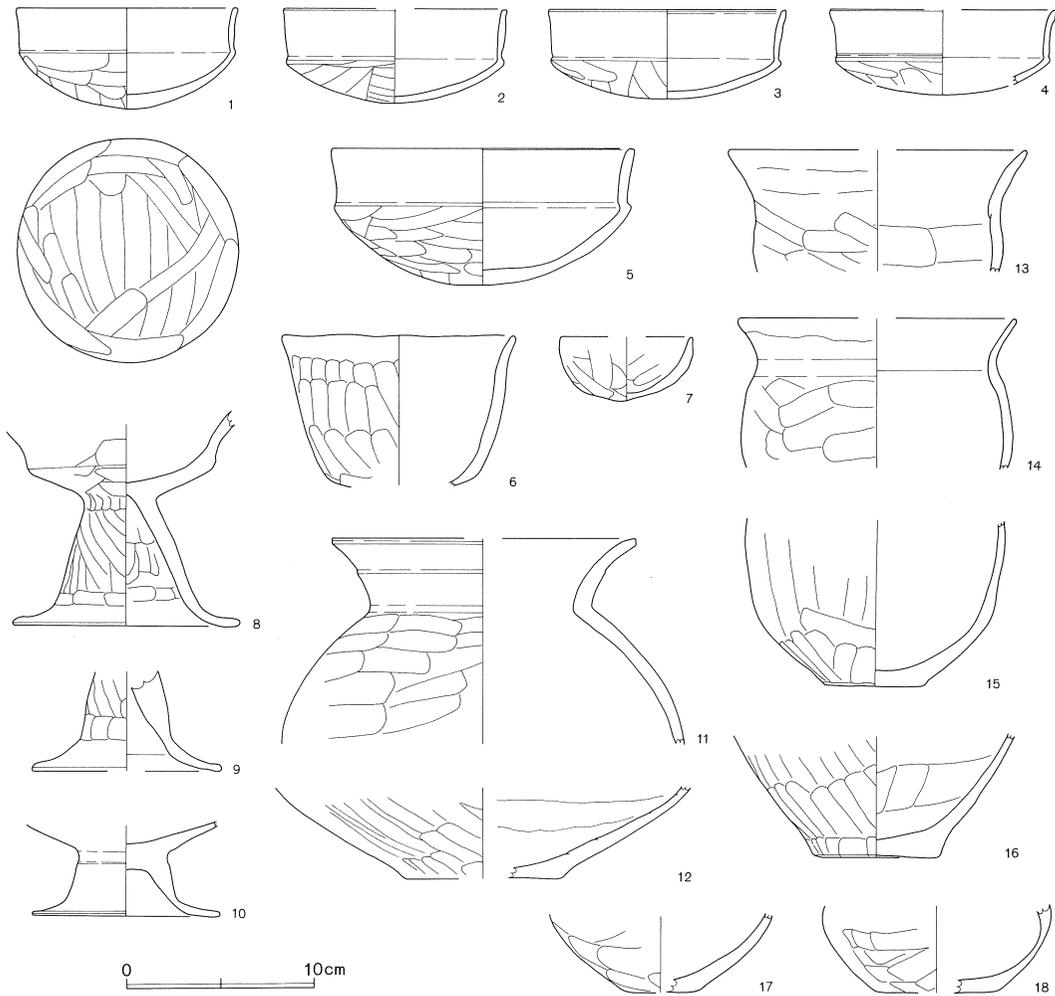


第47号住居跡カマド

- A 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子少量含む。黄褐色土ブロック混入。しまりあり。
- B 茶褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- C 暗茶褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- D 暗茶褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- E 灰黒褐色土 灰層。焼土粒子・ブロック、炭化物粒子極多量含む。軟質。
- F 赤褐色土 焼土主体。しまり弱。
- G 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- H 赤褐色土 焼土主体。きわめて堅固。
- I 褐色土 焼土粒子、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- J 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- K 黒褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまり弱。

第300図 第47号住居跡(2)

は地山を掘り残し、燃焼部は摺り鉢状に掘り込まれている。火床面・煙道部はよく焼けている。遺物はカマド周辺部に集中し、石製剣形品1点、須恵器10片が出土している。



第301図 第47号住居跡出土遺物

第47号住居跡 (第299・300図)

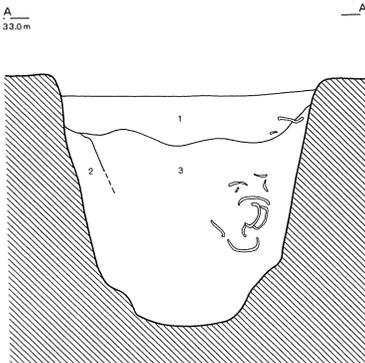
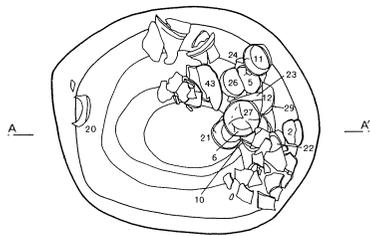
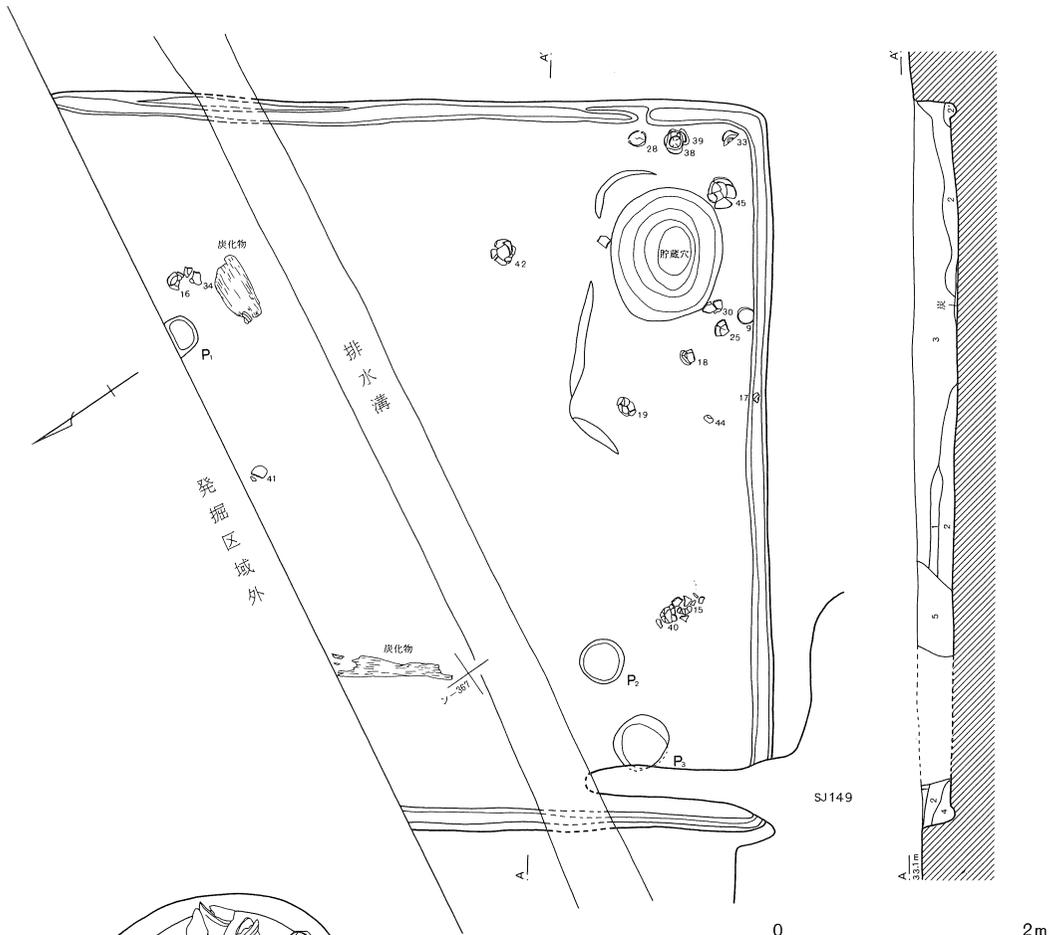
ほ—367・368Gridに位置し、南半が発掘区域外にかかっている。規模は東西4.12m、深さ0.39～0.40mで、主軸方位はN—3°—Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.18～0.57m、深さ0.04～0.05mの壁溝が廻っている。カマドは北壁中央に構築され、煙道部の天井が残存している。全長2.28m、焚き口幅0.42mを測り、燃烧部は長方形を呈している。袖部は地山を掘り残し、火床面はよく焼けている。煙出部はピット状に掘り込まれている。貯蔵穴はカマド西側に接している。南北0.32m・東西0.49mと規模は小さい。ピットは1基のみ検出されている。遺物はカマド・貯蔵穴に集中し、ほかに縄文土器1片が出土している。

第47号住居跡（第301図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.8 高5.4	B+R+W+W'	橙	100	No.10。口縁端面トリ 器面粗
2	坏	口(11.9) 高5.1	B+R少+W+W' 少	橙～にふい黄橙	70	No.1。口縁端面トリ 外面に黒色部分
3	坏	口12.6 高4.8	B+R+W+W'	橙～黄橙	70	No.9・11。口縁端面トリ
4	坏	口12.0	B+R+W少+W' 少	橙～黄橙	50	口縁端面トリ
5	坏	口16.2 高7.3	B+R+W+W'	橙	60	No.6。口縁端面トリ 内外面にうすい黒色部分
6	碗	口12.5	B+R+W+W'+礫少	にふい黄橙	80	No.3。歪んでいる 外面に黒色部分
7	ミニチュア	口7.1 高3.4	B+R+W少+W' 少	橙	60	No.13。外面に黒色部分
8	高坏	脚12.1	B+R+W+W'	橙～黄橙	60	No.5。外面は全体的にうすい黒色 粘土付着
9	高坏	脚10.1	B+R+W+W'	黄橙	脚部 15	
10	台付鉢	台10.0	B+R+W少+W' 少	橙～浅黄橙	脚部 80	No.12。
11	壺	口16.2	B+R少+W少+W' 少	橙	口縁 80	
12	甕	底8.5	B+R+W+W'	橙～にふい橙	底部 50	底部ケズリ 外面に黒色部分
13	小型甕	口(15.9)	B+R少+W+W' 少	橙	15	
14	小型甕	口(14.8)	B+W+W'+砂少+礫少	橙～淡赤橙	口縁 40	No.8。内面黒色
15	小型甕	底5.5	B+R+W+W'	淡赤橙	底部 80	No.7。底部ケズリ 底部黒色
16	甕	底6.7	B+R+W+W'	淡赤橙～にふい黄橙	底部 70	底部ケズリ 内外面とも全体的にうすい黒色
17	小型甕	底(4.1)	B+R+W+礫少	にふい黄橙～橙	底部 40	底部ケズリ 外面黒色
18	碗	底(6.3)	B+R少+W少+W' 少	橙	20	底部ケズリ

第148号住居跡（第302図）

スー366・367、ンー366・367Gridに位置し、第149号住居跡のカマド煙道部が重複している。新旧関係は第149号住居跡よりも古い。北側は発掘区域外にかかり、調査の際に掘り込んだ排水溝が東西に走っている。規模は東西5.92m、深さ0.03～0.25mで、主軸方位はN—33°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.12～0.21m、深さ0.08～0.31mの壁溝が全周している。カマドは検出されていない。貯蔵穴は南コーナー部に位置し、南北0.91m・東西1.07m、深さ1.04mを測る。ピットは3基検出されている。貼床が全面に施されており、特に貯蔵穴周辺部においては隆起している。遺物は貯蔵穴および周辺部に集中している。なかでも坏形土器が圧倒的に多く出土している。ほかに土錘1点、石製白玉1点が検出されている。2ヵ所で炭化材が検出されているものの、本住居跡は焼失住居とはいえないであろう。



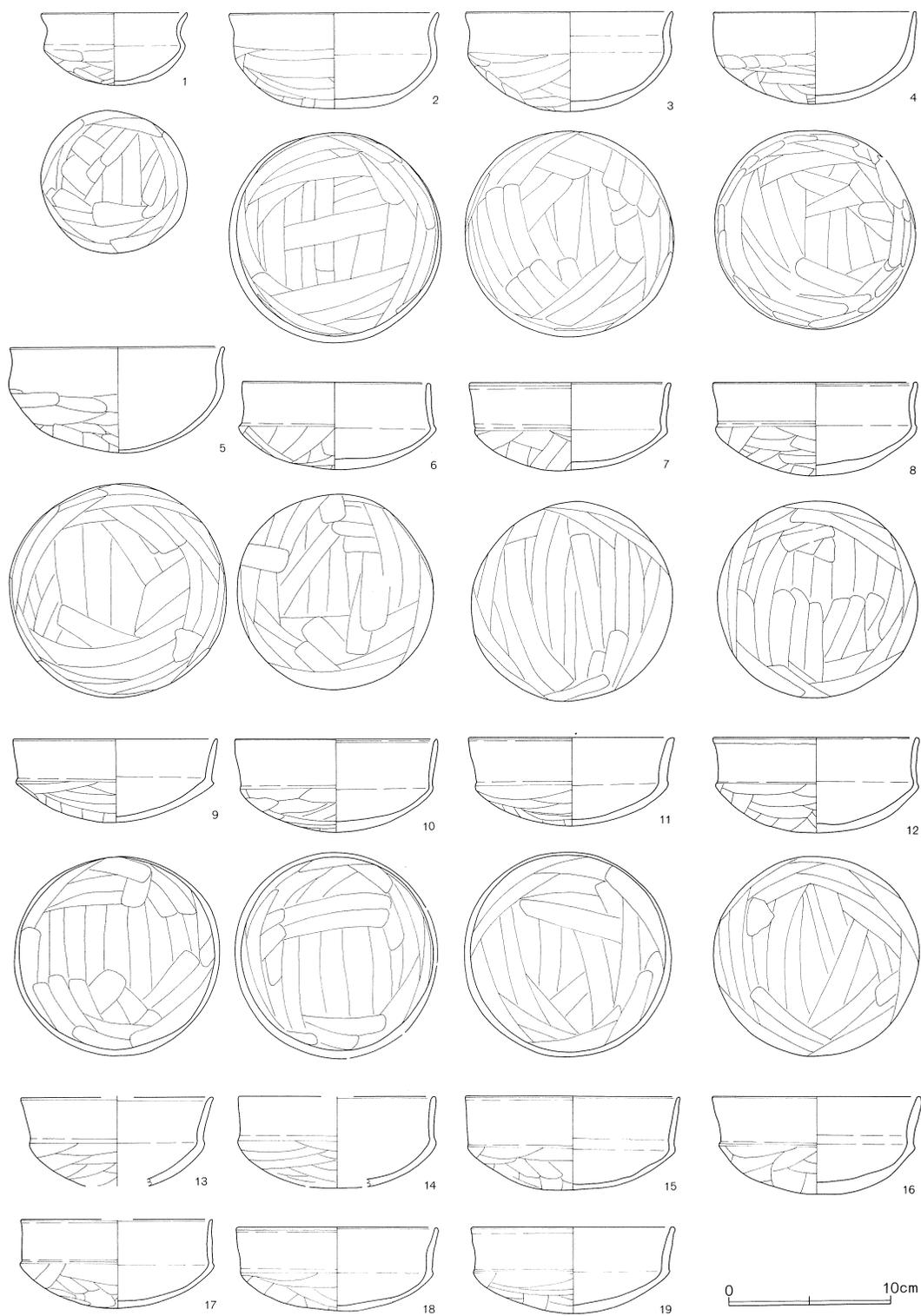
第148号住居跡

- 1 暗褐色土 炭化物・茶褐色土粒子多量、黄褐色土粒子ブロック状に多量含む。堅緻。
- 2 暗黄褐色土 炭化物・茶褐色土粒子少量、黄褐色土粒子多量含む。堅緻。
- 2' 暗黄褐色土 2より炭化物粒子多量含む。
- 3 褐色土 炭化物・茶褐色土粒子少量、黄褐色土粒子多量含む。堅緻。
- 4 褐色土 焼土・炭化物・茶褐色土・黄褐色土粒子少量含む。堅緻。
- 5 暗褐色土 炭化物粒子少量、茶褐色土・黄褐色土粒子多量含む。堅緻。

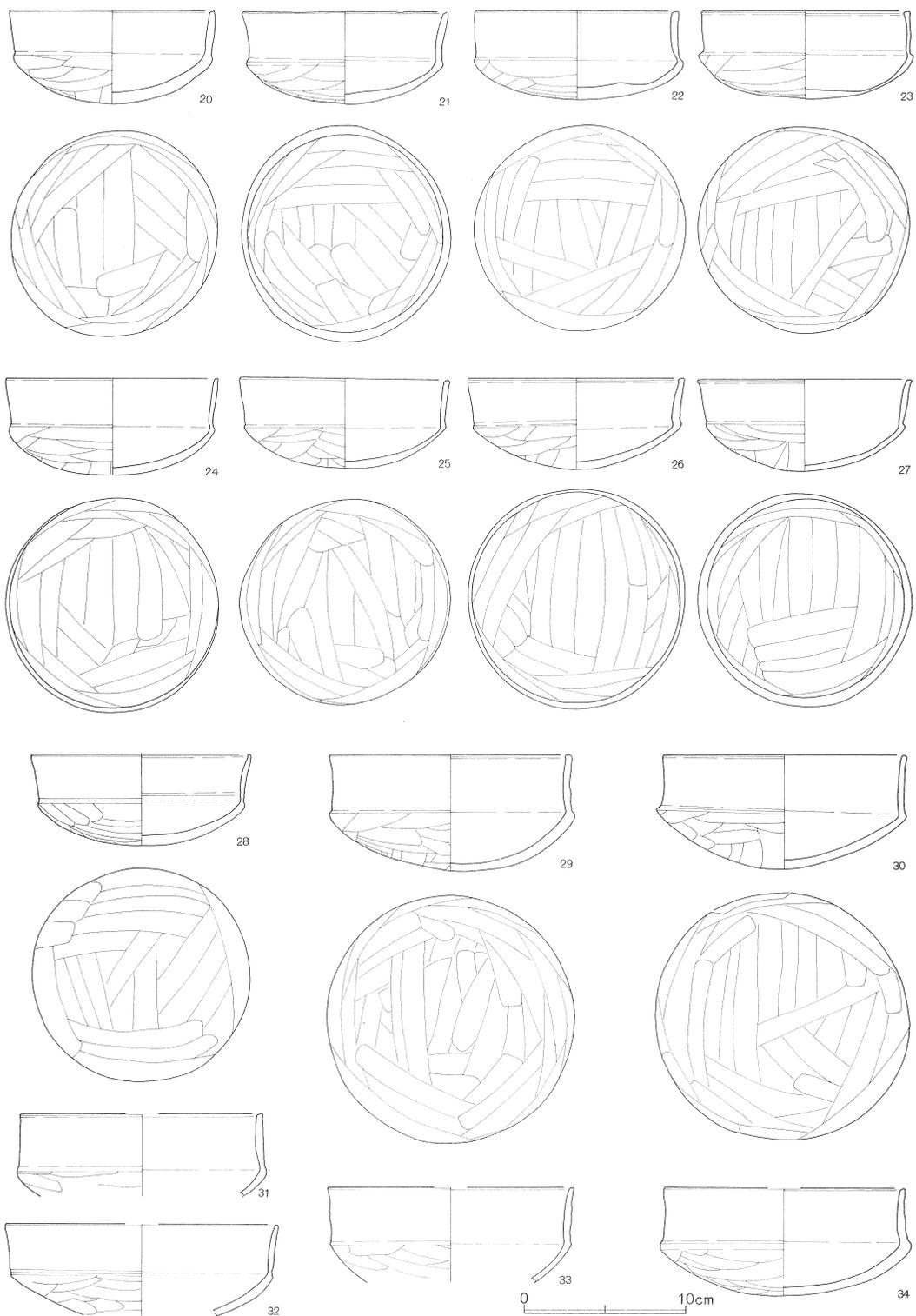
第148号住居跡貯蔵穴

- 1 暗黄褐色土 炭化物・茶褐色土・砂粒子少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 微砂粒層。粘性ややあり。
- 3 褐色土 炭化物・茶褐色土粒子少量含む。しまりあり。

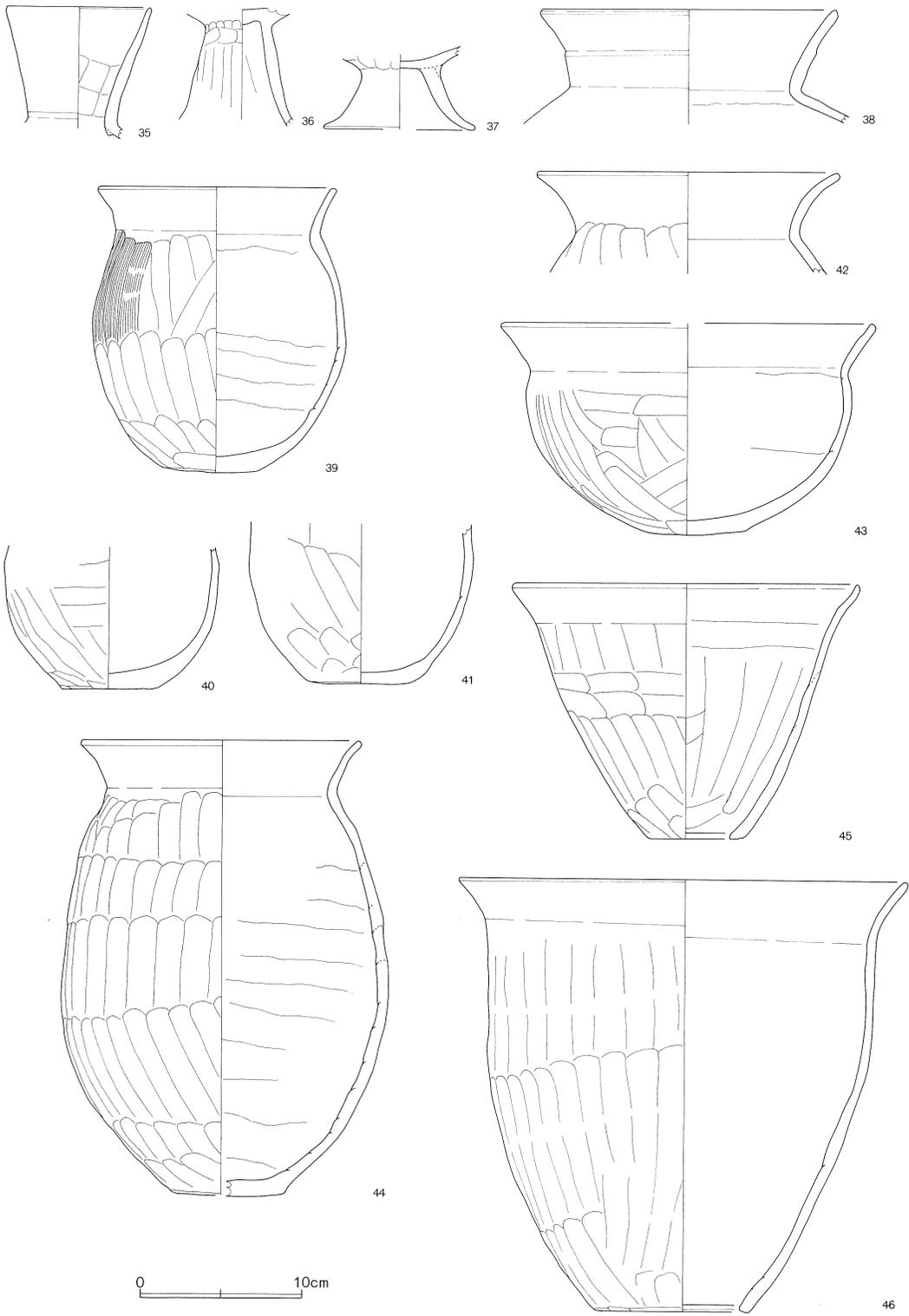
第302図 第148号住居跡



第303图 第148号住居跡出土遺物(1)



第304図 第148号住居跡出土遺物(2)



第305図 第148号住居跡出土遺物(3)

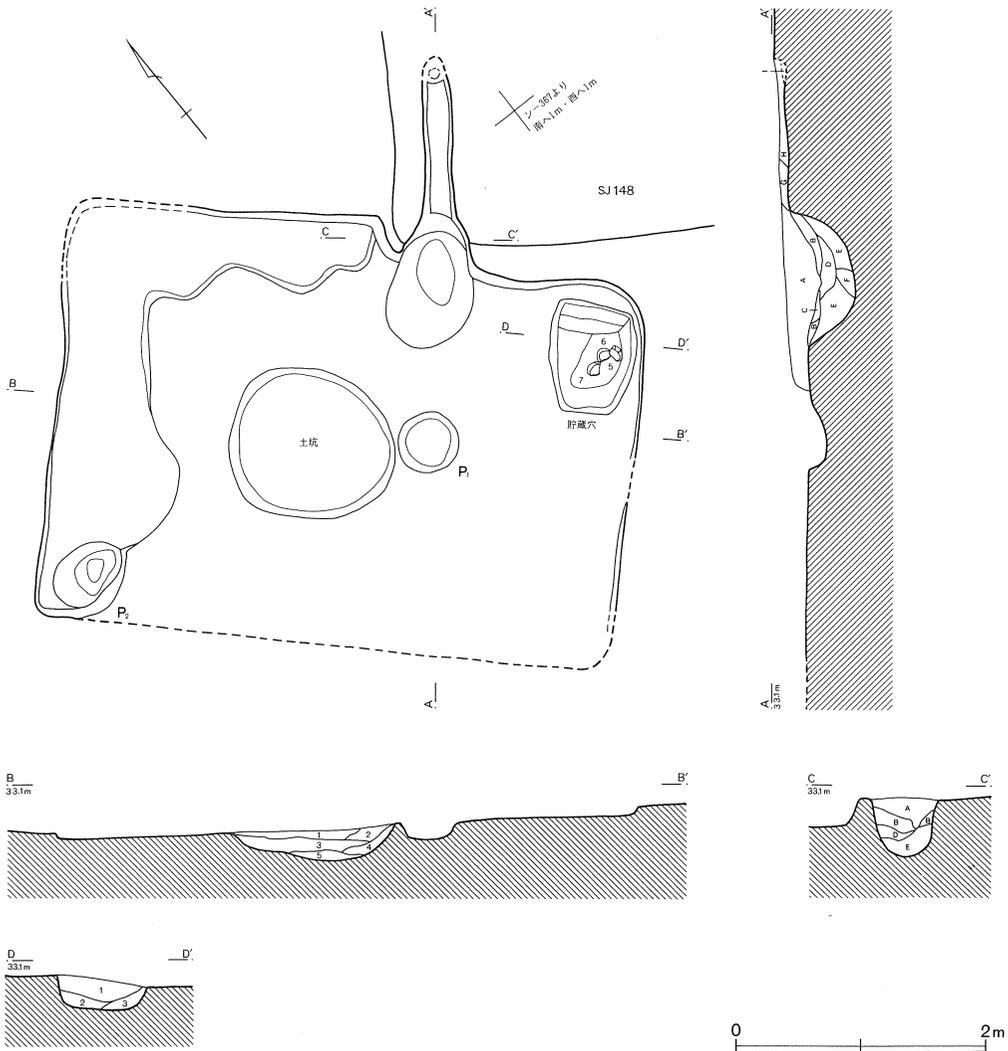
第148号住居跡 (第303~305区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口9.0 高4.4	B+R+W少+W' 少	橙	100	貯蔵穴。
2	坏	口12.9 高5.9	B+R+W少+W' 少	(内)橙 (外)にふい橙	100	No.2・貯蔵穴。外面に黒色部分
3	坏	口12.7 高6.1	B+R+W少+W' 少	(内)橙 (外)にふい橙～橙	100	貯蔵穴。外面に黒色部分
4	坏	口12.4 高5.7	B+R+W+W'	橙	90	貯蔵穴。
5	坏	口13.1 高6.5	B+R少+W	橙	95	No.6・貯蔵穴。口縁端面トリ
6	坏	口11.5 高5.3	B+R+W少	橙	100	No.22・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分
7	坏	口12.4 高5.4	B+R少+W少	(内)明赤褐 (外)橙～にふい橙	90	口縁端面トリ 外面に黒色部分
8	坏	口12.6 高5.7	B+R少+W少	(内)明赤褐～橙 (外)橙～にふい橙	100	口縁端面トリ 外面に黒色部分
9	坏	口12.5 高5.1	B+R少+W少	(内)橙 (外)橙～浅黄橙～橙	100	No.5。
10	坏	口12.5 高5.7	B+R+W少+W'	(内)橙 (外)にふい橙～橙	90	No.21・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分
11	坏	口12.7 高5.4	B+R+W+W' 多	橙	100	No.5・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分 器面粗
12	坏	口12.6 高5.8	B+R+W少+W' 少	(内)橙 (外)黄橙～橙	95	No.20・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分
13	坏	口(11.8)	B+W少+W' 少	橙	40	口縁端面トリ 内外面に黒色部分
14	坏	口(12.2)	B少+R+W少	(内)にふい橙 (外)橙～にふい橙	70	口縁端面トリ 内外面に黒色部分
15	坏	口13.2 高5.7	B+R+W少	(内)明黄褐 (外)黄褐	95	No.14。口縁端面トリ 外面に黒色部分
16	坏	口12.8 高6.0	B+R少+W+W' 少	(内)明赤褐 (外)明赤褐～にふい黄橙	90	No.15。口縁端面トリ 内外面に黒色部分
17	坏	口(11.7) 高5.4	B+R+W	橙	40	No.9。口縁端面トリ
18	坏	口12.4 高5.1	B少+R+W少	橙	70	No.8。外面に黒色部分
19	坏	口12.5 高5.3	B+R少+W	明黄褐	80	No.18。口縁端面トリ 外面に黒色部分
20	坏	口12.6 高5.7	B+R+W少+W' 少	橙	100	No.12・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分
21	坏	口12.7 高5.7	B+R+W少+W' 少	橙	100	No.23・貯蔵穴。口縁端面トリ
22	坏	口12.5 高5.5	B+R+W少	橙	95	No.3・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分
23	坏	口12.8 高5.3	B+R少+W+W'	明赤褐	100	No.14・貯蔵穴。口縁端面トリ
24	坏	口13.0 高5.9	B+R+W少	(内)橙 (外)浅黄橙～橙	100	No.8・貯蔵穴。口縁端面トリ
25	坏	口12.9 高5.5	B+R+W+W' 少	(内)にふい黄橙 (外)にふい黄橙～橙	100	No.7。口縁端面トリ 外面に黒色部分
26	坏	口13.3 高5.6	B少+R少+W+W' 少	赤褐	100	No.7・貯蔵穴。
27	坏	口13.1 高5.6	B+W少+W' 少	赤褐	100	No.4・貯蔵穴。口縁端面トリ
28	坏	口13.5 高5.6	B+R+W少+W' 少	(内)橙 (外)橙～にふい橙	95	No.1。外面に黒色部分
29	坏	口14.9 高7.1	B+R+W少	橙	100	No.13・貯蔵穴。口縁端面トリ

30	坏	口15.0 高6.9	B+R+W	橙	95	No.6。口縁端部面トリ
31	坏	口(14.9)	B+R+W+W'	橙	20	貯蔵穴。口縁端部面トリ
32	坏	口(16.8)	B少+R+W少	橙	40	外面に黒色部分
33	坏	口(15.1)	B少+R+W	にふい橙	30	No.3。口縁端部面トリ
34	坏	口(14.8) 高6.6	B+R+W少	橙	50	No.16。口縁端部面トリ
35	埴	口8.9	B+R少+W少	(内)にふい赤褐 (外)橙～暗赤褐	20	内外面に黒色部分
36	高坏		B少+R+W	(内)明赤褐 (外)明赤灰～橙	15	
37	台付鉢	台9.3	B少+R+W少	(内)橙 (外)赤	20	風化
38	壺	口18.3	B少+R少+W+W'	橙	20	No.12。
39	小型甕	口14.7 底5.8 高17.5 胴15.6	B+R+W	橙	85	No.2。底部ケズリ 底部・胴部外面上半に 黒色部分
40	小型甕	底5.5	R+W+砂少+礫少	(内)明褐灰 (外)にふい黄橙	30	No.14。底部ケズリ 底部黒色
41	小型甕	底6.2	B+W+砂少	(内)橙 (外)橙～暗赤褐	40	No.13。底部ケズリ 底部外面に黒色部分
42	甕	口18.6	B少+R+W+W' 少	橙	15	No.17。
43	鉢	口(23.0) 底6.5 高13.0	B+R少+W+W' 少	(内)明赤褐 (外)橙	70	No.9・貯蔵穴。底部ケズリ 底部外面と内 面に黒色部分
44	甕	口17.2 底6.9 高28.0 胴20.1	B+W+砂少	にふい黄橙	95	No.10。底部ケズリ 粘土紐積み上げ痕明 瞭 底部黒色
45	甌	口21.4 底5.7 高15.7	B+W	橙	85	No.4。外面に黒色部分
46	甌	口27.6 底9.5 高26.5	R少+W+W'	(内)にふい橙～橙 (外)橙～にふい橙	90	胴部外面に黒色部分

### 第149号住居跡 (第306図)

スー367Gridに位置し、第148・154号住居跡と重複している。新旧関係は第148・154号住居跡よりも新しい。南壁および北コーナー部は削平されている。カマドは片袖で、規模は主軸辺の長い方が推定3.48m・短い方が推定3.21m・長辺4.67m、深さ0.07～0.50mを測る。主軸方位をN-44°-Eに向けている。壁溝は確認されていない。カマドは北東壁中央やや東よりに構築され、全長2.33m、焚き口幅0.57mを測る。燃烧部は鶏卵形で、深く掘り込まれている。袖部は地山を掘り残して形成し、煙道部は長く外方に延び、煙出部はピット状を呈している。貯蔵穴は不整形で、カマド東側の北東コーナー部に位置している。南北0.86m・東西0.69m、深さ0.33mを測る。ピットは住居跡中央部(P1)と南西コーナー部(P2)に検出されている。P1の覆土には焼土および炭化物が多量に含まれている。貼床はほぼ全面に施されており、3面確認されている。中央部に位置している土坑は床下土坑で、貼床下から検出されている。遺物の量は少なく、鉄鏃? 1点、刀子2点が出土している。



第149号住居跡

- 1 灰褐色土 貼床、焼土・炭化物粒子少量含む。
- 2 灰褐色土 焼土・炭化物粒子少量、ブロック多量含む。
- 3 灰褐色土 焼土・炭化物粒子多量、黄白色土ブロック多量含む。
- 4 灰褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。
- 5 黄白色土 砂質。焼土・炭化物粒子わずかに含む。

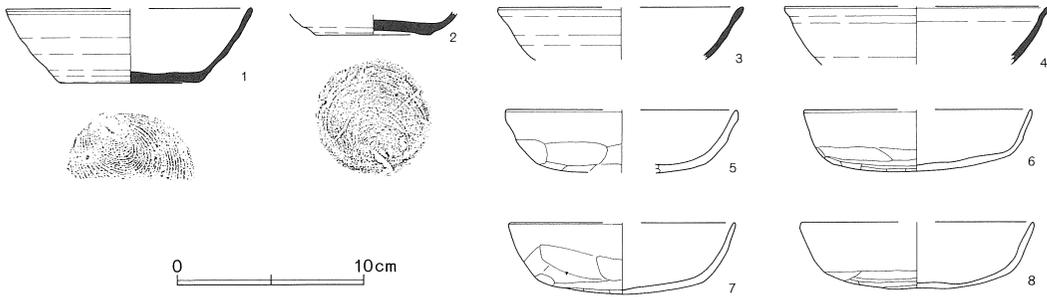
第149号住居跡貯蔵穴

- 1 茶褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック多量含む。しまりあり。
- 2 茶褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
- 3 茶褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。

第149号住居跡カマド

- A 茶褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- B 灰色土 焼土粒子・ブロック(5~20mm)、炭化物粒子、灰多量含む。
- C 黒褐色土 灰多量含む。軟質。
- D 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- E 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(5~20mm)、炭化物粒子多量、灰若干含む。しまりあり。
- F 黄褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- G 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(10~20mm)、炭化物粒子多量、灰若干含む。しまりあり。
- H 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、灰わずかに含む。
- I 黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。

第306図 第149号住居跡



第307図 第149号住居跡出土遺物

第149号住居跡 (第307図)

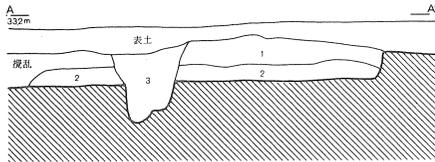
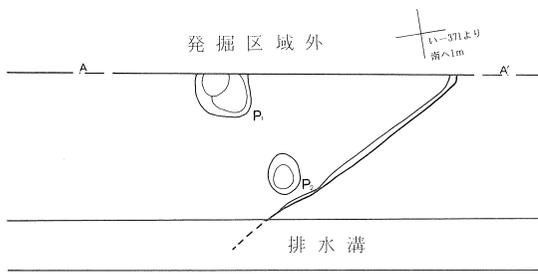
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.1) 底7.6 高4.0	W+針	褐灰	50	回転糸切り離し
2	坏	底6.1	B少+W	黒	底部 90	土坑。回転糸切り離し
3	坏	口(13.1)	W+針	褐灰	10	
4	坏	口14.1	B+W+針	褐灰	10	貯蔵穴。
5	坏	口(12.5)	B+R少+W+W'	橙	20	No.3。
6	坏	口(12.2) 高3.3	B+R+W+W'+砂少	橙	50	No.2。器面粗
7	坏	口(12.1) 高3.8	B+R+W	橙	45	No.1。
8	坏	口(12.5) 高3.5	B+R少+W少+W'	(内)明褐 (外)褐~橙	40	外面黒色部分

第150号住居跡 (第308図)

ンー370・371Gridに位置している。北側の大半の部分が発掘区域外にかかり、ほかの部分については攪乱によって削平されている。南壁の一部が確認されているのみで、詳細は不明である。残存している部分の深さは0.20~0.23mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。ピットが2基存在しているが、用途等は明確ではない。カマド・貯蔵穴・壁溝は検出されていない。

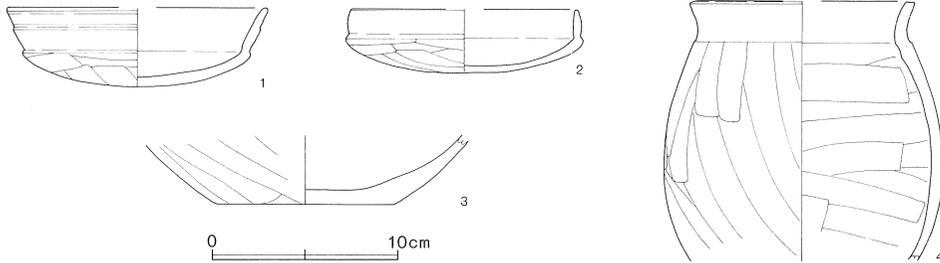
第151号住居跡 (第309図)

ンー369・370Gridに位置している。第152号住居跡と重複し、新旧関係は第152号住居跡よりも新しい。北側は発掘区域外にかかり、大半の部分が削平されている。東西に排水溝が走り、南西コーナー部および西壁の一部と東壁に接しているものと推測される掘り方が検出されているのみである。規模は推定で東西4.66m、深さ0.07~0.32mを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、カマド・貯蔵穴・壁溝は確認されていない。ピットは2基検出されている。貼床は施されていない。遺物はわずかに出土し、ほかに須恵器1片がある。



第150号住居跡

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄白色土ブロック多量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。  
(第150号住居跡に伴わない。)



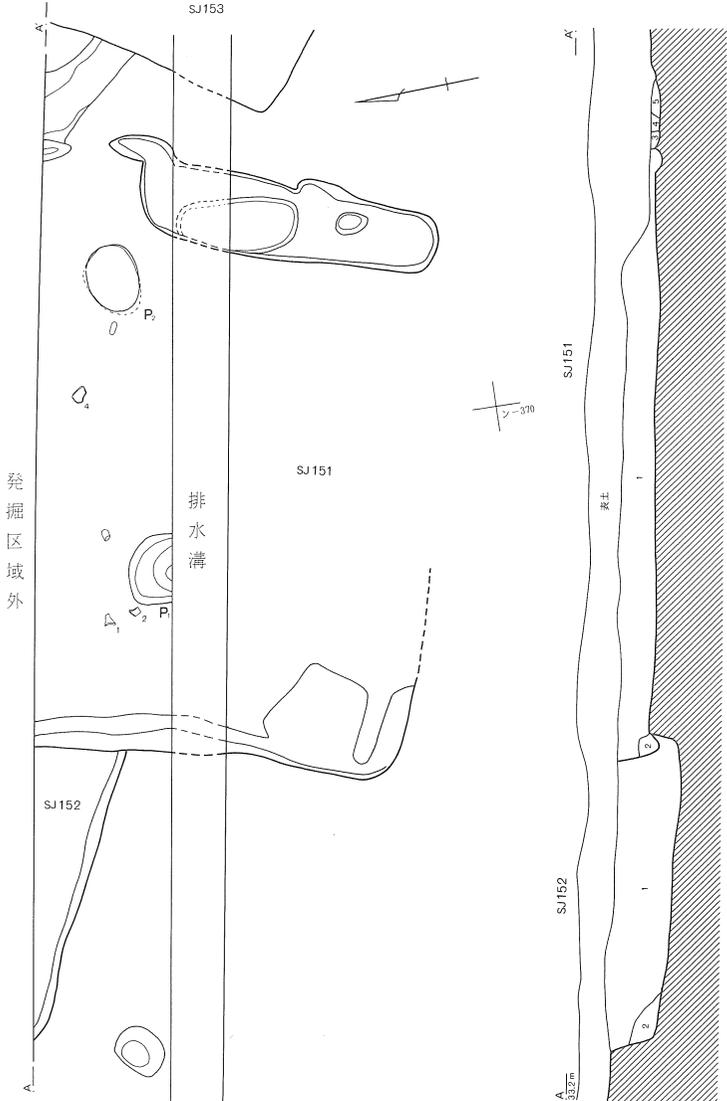
第308図 第150号住居跡・出土遺物

第150号住居跡 (第308図)

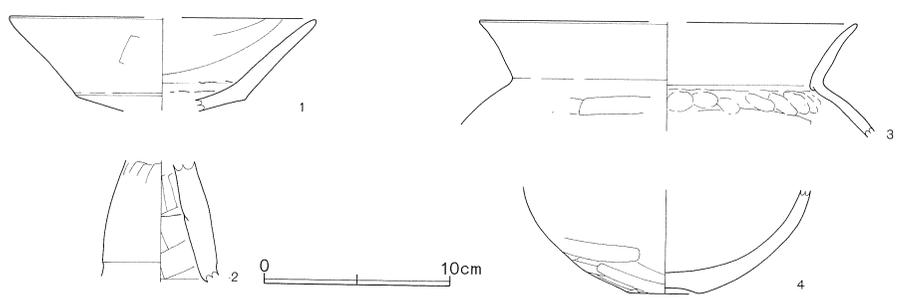
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0) 高4.2	R多+W	橙	40	
2	坏	口(12.0) 高3.4	B	灰白	20	
3	甕	底(9.8)	B+R	浅黄橙	底部 10	内面風化
4	小型甕	口(12.0) 胴(15.0)	礫	橙	10	

第151号住居跡 (第309図)

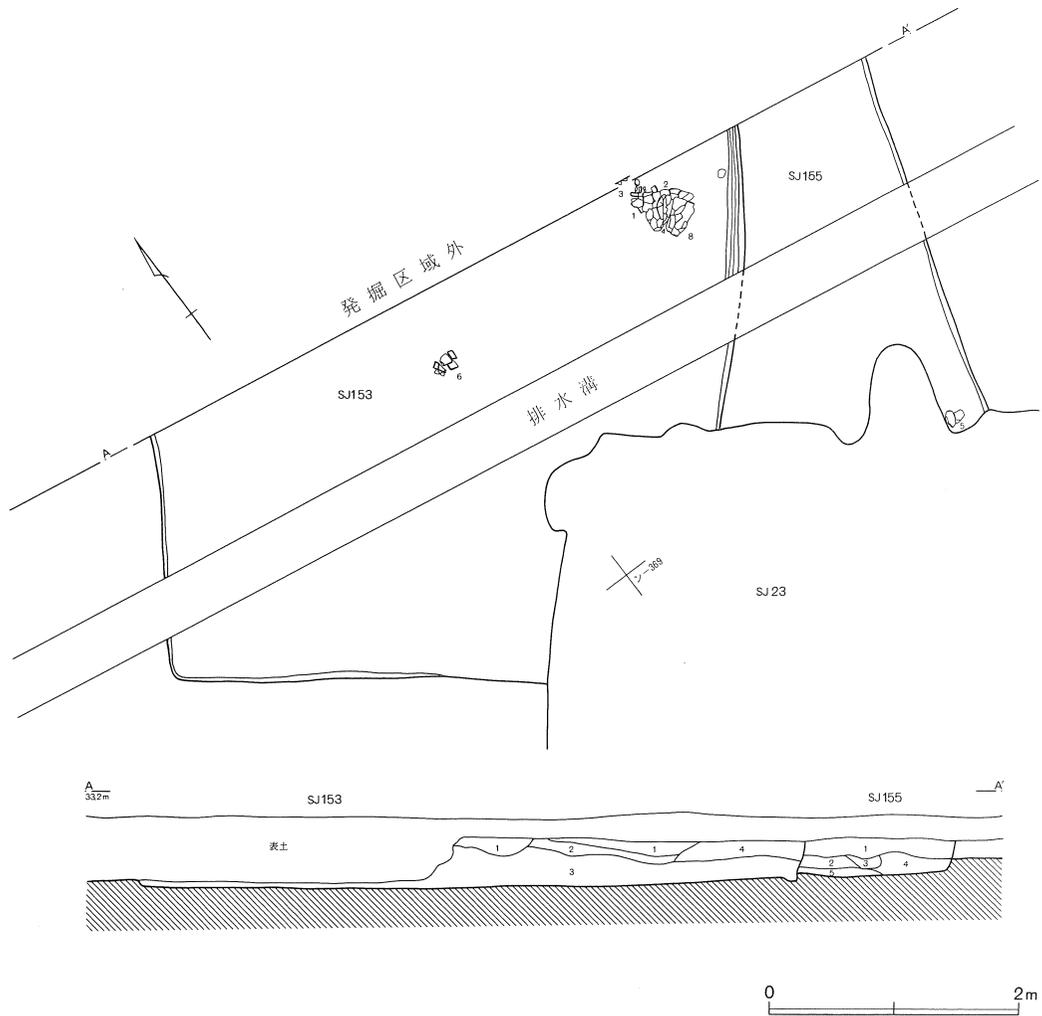
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	高坏	口(16.4)	R+W	橙	坏部 10	No.1.
2	高坏		R+W	橙	脚部 80	No.2.
3	甕	口(20.2)	R多+W	橙	口縁部 10	風化 肩部内面指頭押
4	小型甕	底3.7		橙	底部 20	No.4. 内面風化



- 第151号住居跡
- 1 褐色土 焼土粒子若干、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
  - 2 暗褐色土 炭化物粒子わずかに含む。
  - 3 暗赤褐色土 焼土・フロック堆積層。炭化物粒子多く含む。
  - 4 赤褐色土 焼土・フロック層。
  - 5 黒褐色土 焼土粒子・フロック(5~10mm)少量、炭化物粒子極多量含む。
  - 6 暗褐色土 攪乱されている(住居覆土か?)。焼土・炭化物粒子少量含む。
- 第152号住居跡
- 1 赤褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
  - 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 0 2m



第309図 第151・152号住居跡・第151号住居跡出土遺物



第153号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック(2~5mm)少量、炭化物粒子多く含む。
- 3 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、焼土ブロック(3~5mm)わずかに含む。しまりあり。
- 4 褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。

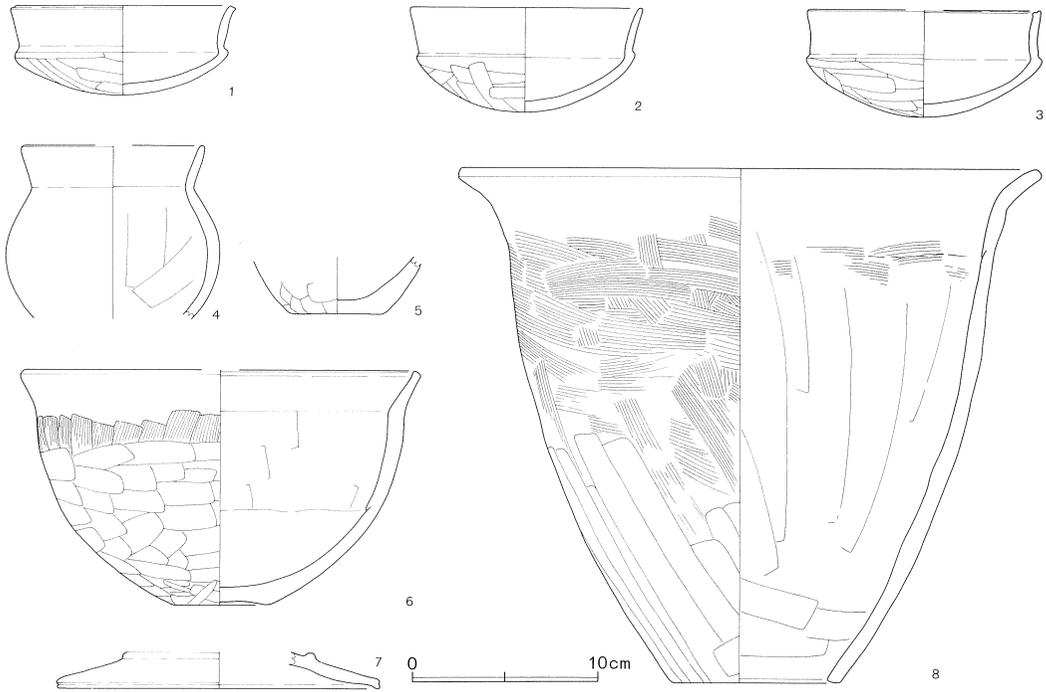
第155号住居跡

- 1 褐色土 黄褐色土・茶褐色土粒子多量含む。
- 2 暗黄褐色土 黄褐色土・茶褐色土粒子多量含む。
- 3 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子少量含む。
- 4 褐色土 炭化物・黄褐色土・茶褐色土粒子少量含む。
- 5 暗黄褐色土 茶褐色土粒子少量含む。やや砂質。

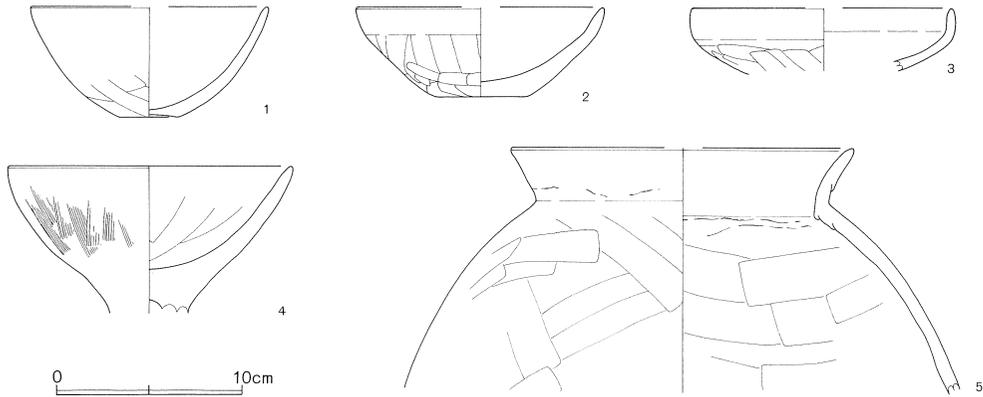
第310図 第153・155号住居跡

第152号住居跡 (第309図)

ン-370Gridに位置し、大半の部分が発掘区域外にかかっている。第151号住居跡と重複し、新旧関係は第151号住居跡よりも古い。そのため南壁の一部が確認されているのみで、詳細は不明である。深さは0.20~0.35mを測る。カマド・貯蔵穴・ピット・壁溝は検出されていない。貼床も施されていない。遺物は編物石が2点出土している。



第311図 第153号住居跡出土遺物



第312図 第155号住居跡出土遺物

**第153・155号住居跡**（第310図）

第153・155号住居跡はス—368・369、ン—368・369Gridに位置し、第23号住居跡と重複している。新旧関係は、第155号住居跡→第153号住居跡→第23号住居跡の順に構築されている。北側は発掘区域外にかかり、それと平行して中央部に排水溝が走っている。道路建設による削平によって遺構の残存状態はきわめて悪い。

第153号住居跡の規模は、東西4.76m、深さ0.25～0.93mであり、東壁の方位はN—49°—Eを測

第153号住居跡（第311図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.0 高4.8	R	橙	90	No.2。底部黒斑
2	坏	口12.4 高5.6	R	橙	90	No.2。底部黒斑
3	坏	口(12.4) 高5.7	R	橙	30	No.4。内面風化
4	小型甕	口(9.8) 胴(11.5)	B+R	橙	20	風化
5	小型甕	底5.0	R	橙	底部 50	
6	鉢	口(21.4) 底4.8 高12.6	R	橙	20	No.1。胴部下半～底部黒色
7	高坏	脚(17.2)	R多+W	橙	裾部 20	
8	甑	口31.0 底9.0 高27.5		橙	95	No.2。

第155号住居跡（第312図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.6) 底(3.0) 高5.9	R+W	橙	30	
2	坏	口(13.2) 底(4.8) 高4.8	R	橙	30	底部ケズリ
3	坏	口(13.8)	R+W	橙	20	
4	高坏	口15.2	R	橙	坏部 50	口縁部外面黒色部分
5	壺	口(18.2)	W+礫多	橙	口縁部 20	No.1・カマド。

る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、壁溝が一部ではあるが確認されている。幅0.07～0.18m、深さ0.17～0.19mの規模をもっている。カマド・貯蔵穴・ピット等の施設は検出されていない。貼床はほぼ全面に施されている。

第155号住居跡の規模は、計測することはできない。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、カマド・貯蔵穴・ピット・壁溝等の施設は確認されていない。また貼床は施されておらず、床面は不明瞭である。床面直上付近からは、赤褐色の粘土塊と炭化物が少量検出されている。

第154号住居跡（第314図）

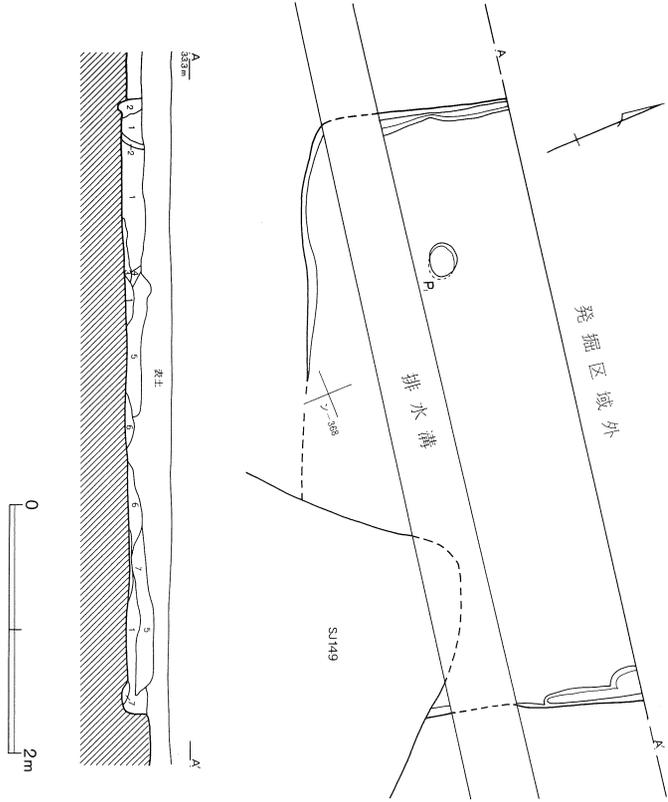
スー367・368、ンー367・368Gridに位置し、北側は発掘区域外にかかっている。また道路建設による削平のため遺構の残存状態がきわめて悪く、南東コーナー部は確認されていない。この部分を復元すると、第149号住居跡と重複し、新旧関係は古い。規模は東西4.89m、深さ0.16～0.85mであり、南北壁の方位はN-12°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.06～0.27m、深さ0.16～0.18mの壁溝が一部確認されている。カマド・貯蔵穴は検出されていない。ピットは1基のみであるが、柱穴と思われる。排水溝の北側の部分の貼床が顕著に認められていることから、全面に施されていたものと推測される。遺物は出土していない。



第313図 第23・148～155号住居跡近景



第315図 第1号井戸跡遺物出土状況



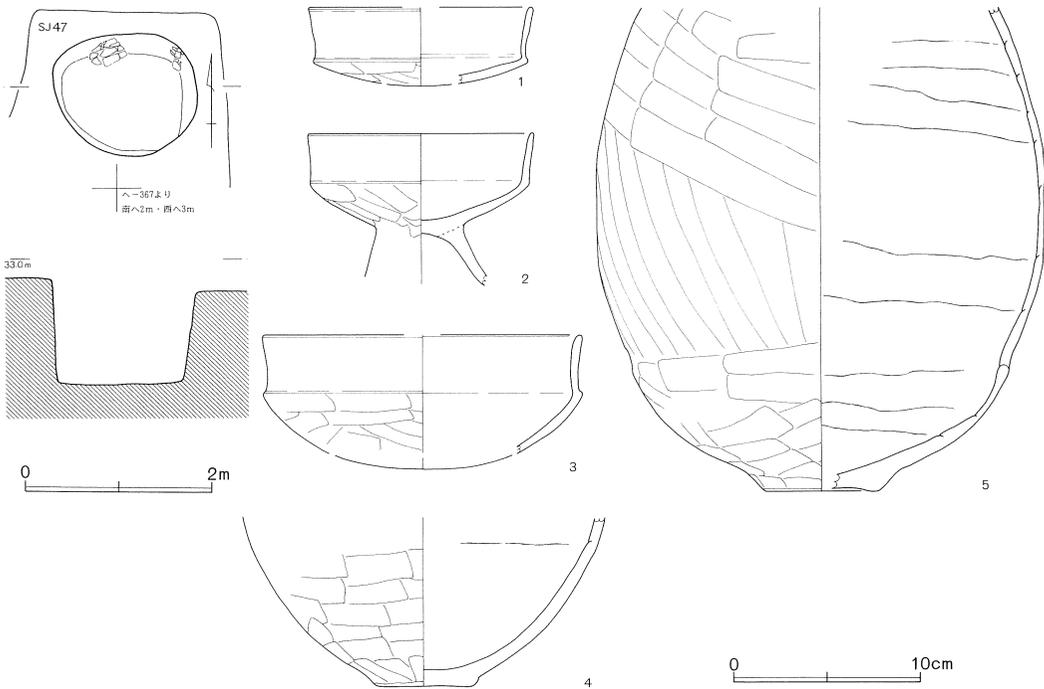
第314図 第154号住居跡

第154号住居跡

- 1 茶褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 赤褐色土 焼土ブロック(1~3cm)堆積層。炭化物粒子多く含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。
- 5 暗褐色土 4に攪乱層混入。
- 6 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 7 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子多く含む。しまりあり。

## (2) 井戸跡

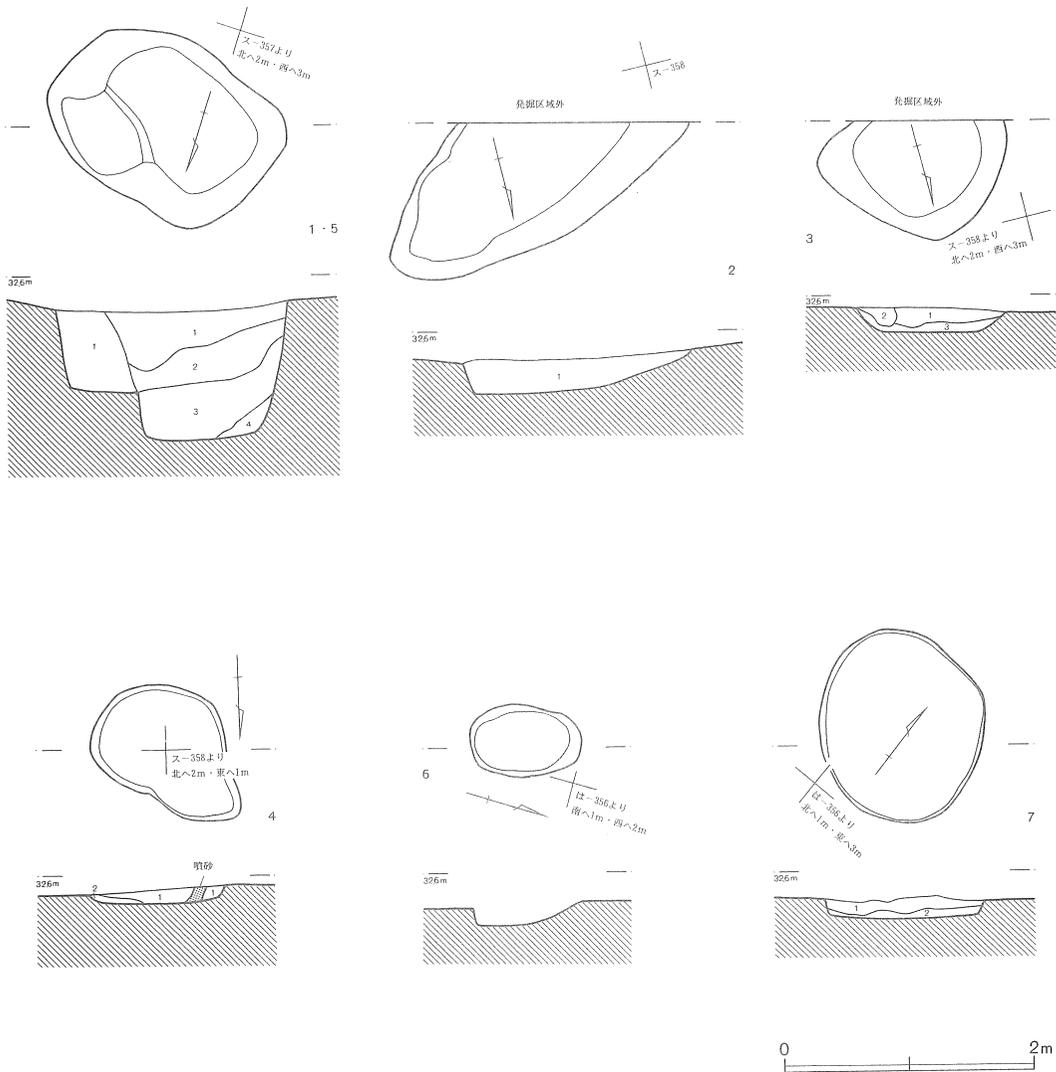
井戸跡は、第1発掘区からは第1号井戸跡のみ検出されている（第315・316図）。第47号住居跡カマド東側に位置し、ほ-367にあたる。東西1.14m・南北0.99m、深さは第47号住居跡の床面から0.56~0.72mを測り、円形を呈している。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。遺物は坏形土器3点、甕形土器2点があるが、いずれも上層部から出土していることから、第47号住居跡から混入したものと思われる。そのため、構築時期は明確ではない。



第316図 第1号井戸・出土遺物

第1号井戸（第316図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(11.8)	B+R多+W	橙	口縁 20	
2	高坏	口12.0	B+R多+W	橙~浅黄橙	70	
3	坏	口(17.0)	B+R多+W	にふい橙	口縁 30	
4	甕	底5.2	B+R多+W+砂少	赤橙~黒	底部 80	底部黒色
5	甕	底6.0 胴24.0	B+R多+W+砂少	橙~黒褐	30	底部周辺に粘土貼付 外面黒色 粘土紐積み上げ痕



第1・5号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 灰褐色粘質土、ローム粒子含む。粘性ややあり。
- 2 黄褐色土 1よりやや明るい灰褐色粘質土やや多く含む。しまり・粘性あり。
- 3 黄褐色土 2近似。しまり・粘性やや強。
- 4 明黄褐色土 砂質土含む。しまり・粘性弱。

第2号土坑

- 1 黄褐色土 炭化物粒子若干、ローム粒子、灰褐色土(粘土質土)含む。しまりややあり。粘性あり。

第3号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・ローム粒子含む。しまり・粘性ややあり。
- 2 褐灰色土 砂層。
- 3 暗褐色土 2より、しまり・粘性やや強。

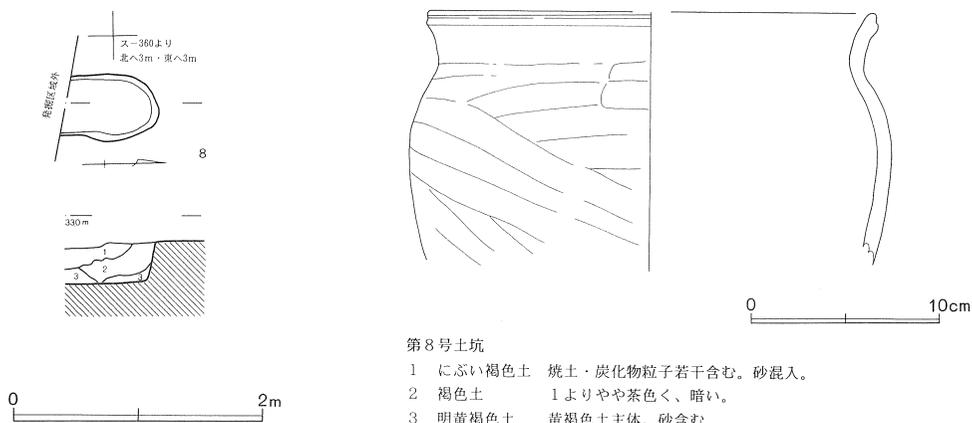
第4号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 ローム・赤色粒子含む。しまり・粘性弱。
- 2 黄褐色土 ローム・灰褐色土粒子含む。粘性あり。

第7号土坑

- 1 黄褐色土 ローム土主体。焼土粒子、若干の炭化物粒子含む。しまりややあり。
- 2 黄褐色土 1より粘性強。

第317図 第1発掘区土坑



第318図 第8号土坑・出土遺物

第8号土坑 (第318図)

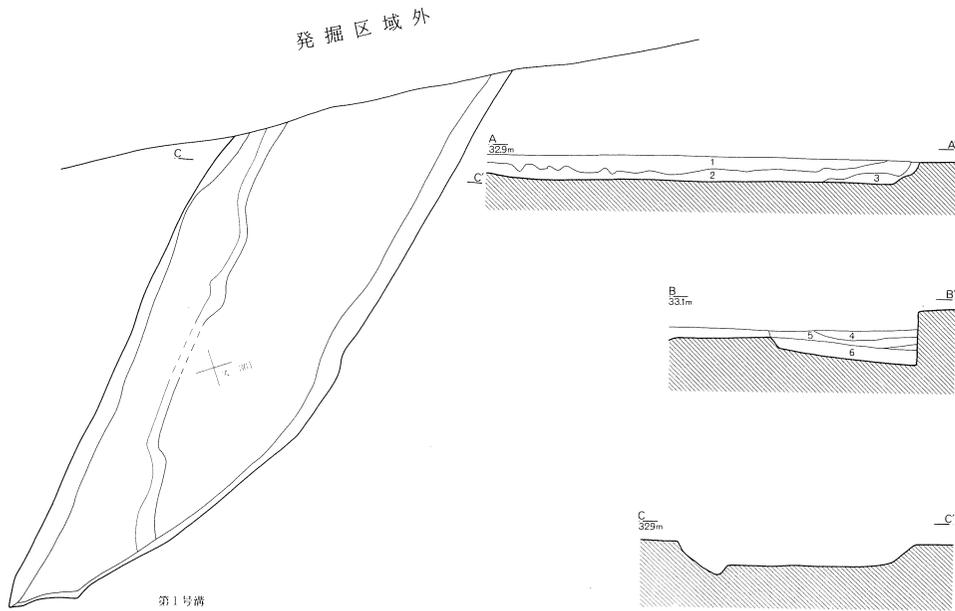
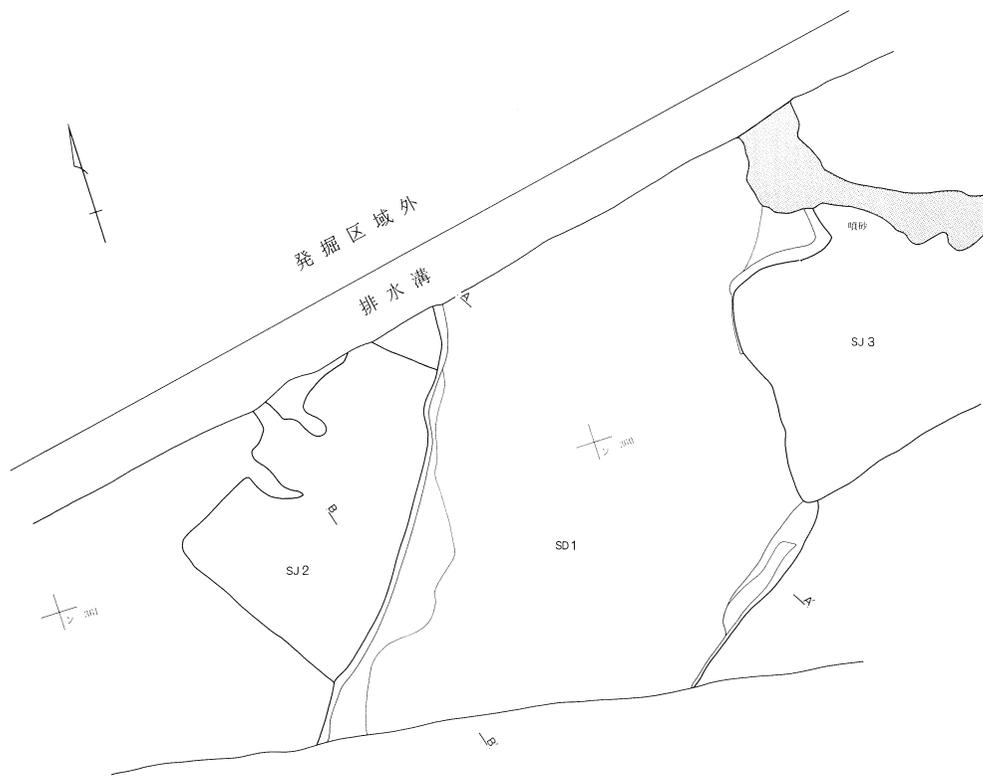
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	甕	口(24.0)	B+R+W	にぶい橙～褐灰	口縁 30	

(3) 土坑

第1発掘区からは、土坑が8基検出されている(第317・318図)。いずれも本遺跡東端の谷部に沿って存在している。第1～5・8号土坑が集中し、第6・7号土坑が近接している。また第1号土坑と第5号土坑は重複し、新旧関係は第5号土坑の方が新しい。第2・3・8号土坑は発掘区域外にかかり、第4号土坑には噴砂の亀裂が入り込んでいる。いずれも形態・規模はまちまちであるが、概ね隅丸の長方形や円形を呈している。規模は小さいもので0.6×0.8m、大きいものでも1.7mであり、小規模である。深さは第5号土坑が1.03m、第1号土坑が0.65mで、ほかは0.15～0.35mと浅いものが多い。遺物は第8号土坑から甕形土器1点が出土しているのみで、時期・用途・性格等を明確にでき得る資料として欠ける。

(4) 溝

第1発掘区からは、第1号のみ検出されている(第319図)。本遺跡東端の谷部に沿ってほぼ南北方向に走り、北部に比べて南部の幅が狭くなっている。重複している第2・3号住居跡よりも新しく、また重複部付近には噴砂の亀裂が入り込んで変形されている。最大幅4.06m、深さ0.28～0.38mを測り、幅が広く浅い溝である。底面は北から南へ向かって緩やかに傾斜している。遺物は出土しておらず、時期・用途・性格等は明確ではない。遺跡の端部に位置していることから集落の区画や生活排水溝、谷部に沿っていることから増水時の防備等も考えられる。

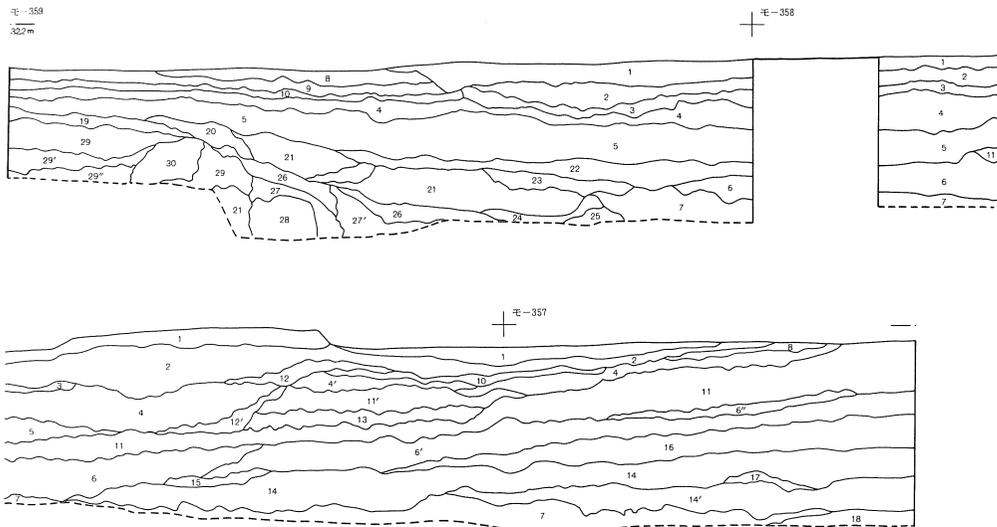


- 第1号溝
- 1 褐色土 口 △・暗赤褐色土粒子均一に多く混入。粘土・炭化物粒子含む。
  - 2 灰褐色土 口 △・粘土・炭化物粒子。灰褐色粘土を含む。しまり・粘性あり。
  - 3 明褐色土 黄褐色土主体。暗赤褐色土粒子多く含む。
  - 4 褐灰色土 粘土・炭化物粒子含む。しまり強。
  - 5 褐灰色土 粘土・炭化物粒子を含む。
  - 6 棕色土 粘質土主体。しまり・粘性強。



第319図 第1号溝

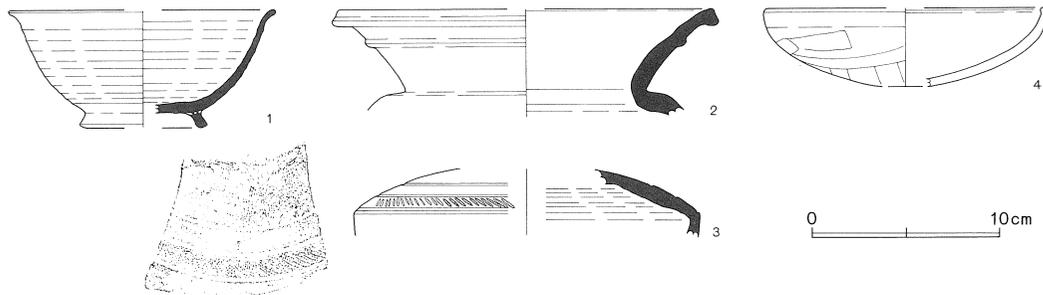
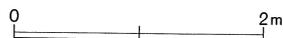
# (5) 谷部



第1発掘区 谷部 (X=+23.080 Y=-47.65485~-47.670)

- 1 淡灰色土 火山灰・鉄分ブロック多量含む。斑文。
- 2 灰褐色土 火山灰・褐色土ブロック多量含む。斑文。ザラザラ。
- 3 灰褐色土 白色粘土・炭化物粒子含む(粘質土)。
- 4 暗褐色土 火山灰・褐色土粒子多量、炭化物粒子少量含む。鉄分多(粘質土)。
- 4' 暗褐色土 4より鉄分多い。やや砂質。
- 5 灰褐色土 火山灰、鉄分多量含む。緻密な粘質土。しまり強。
- 6 暗灰色土 鉄分多量含む。粘質土。
- 6' 暗灰色土 6より明るい。
- 6'' 暗灰色土 6より暗い。粘性強。
- 7 青灰色土 粘土化。植物遺体多量含む。
- 8 灰色土 火山灰層。しまり強く、ザラザラ。
- 9 灰褐色土 3と同様。
- 10 灰白色土 粘質土。緻密。
- 11 暗灰色土 鉄分多い。ボソボソ。
- 11' 暗灰色土 11より鉄分多い。
- 12 青灰色土 4に近似。火山灰多く、粘質。
- 12' 青灰色土 4と12の中間的存在。
- 13 暗黄灰色土 しまり・粘性弱。砂質。

- 14 暗灰色土 緻密な粘質土。6に近似。
- 14' 暗灰色土 14よりも暗い。
- 15 灰色砂層
- 16 黄灰色砂層 薄い灰色粘質土と互層を成す。
- 17 黄灰色砂層
- 18 灰色砂層 灰色粘質土含む。
- 19 灰黄色砂層 灰色粘質土含む。
- 20 灰黄色砂層 灰色粘質土含む。
- 21 灰色砂層 灰色粘質土含む。
- 22 暗灰色砂層 灰色粘質土含む。
- 23 暗灰色砂層 鉄分多量、灰色粘質土含む。
- 24 暗灰色砂層 灰色強粘質土含む。
- 25 灰色砂層 灰色強粘質土含む。
- 26 灰黄色砂層
- 27 灰色砂層
- 27' 灰色砂層
- 28 灰色砂層
- 29 灰黄色砂層
- 29' 灰黄色砂層
- 29'' 灰黄色砂層
- 30 灰色砂層



第320図 第1発掘区谷部・出土遺物

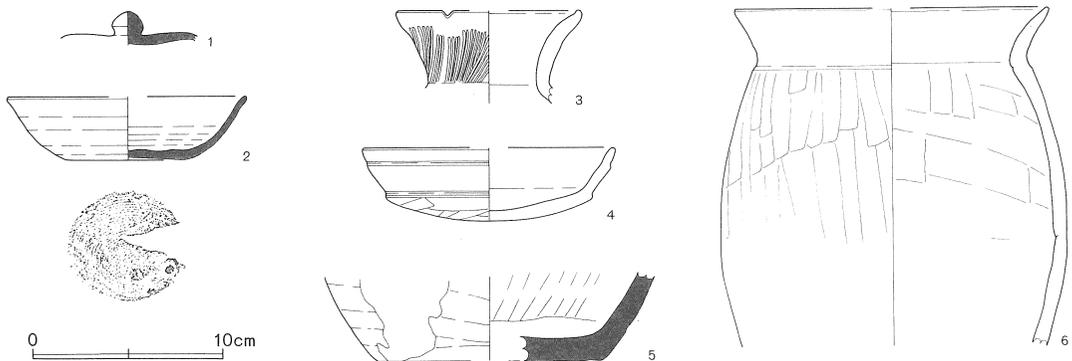
第1発掘区東端には埋没谷が存在している（第320図）。西から東へ傾斜をもち、遺構確認面もこの谷に向かってごく緩やかに傾斜している。この埋没谷の南北の範囲は不明であるが、東端は隣接する新屋敷東遺跡まで続いている。遺物の多くは、西側の土層より出土している。

第1発掘区谷部（第320図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	高台付碗	口(14.2) 台(6.8) 高5.5	B+R+W+砂少	灰～浅黄橙	40	下層。回転糸切り離し後、高台ナデツケ
2	甗	口(20.0)	B+R+W	にふい橙	口縁 20	下層。内面青海波文 酸化焙焼成
3	壺		B少+W	灰	10	下層。櫛状工具による刺突文
4	坏	口(14.8)	B+R多+W	黄橙	50	下層。底部黒色部分

(6) グリッド

スー368、ヒー358・385、ンー374Gridから図示し得る遺物が出土している。いずれも周辺に位置している遺構のものと考えられるが、所属は不明である。



第321図 第1発掘区グリッド出土遺物

第1発掘区グリッド（第321図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	つまみ1.6	B+W	灰白	20	ス-368G。
2	坏	口(12.4) 底5.5 高3.5	B+R+W+砂少	灰	60	ヒ-358G（下層）。回転糸切り離し
3	壺	口9.9	W少	灰	口縁 20	ヒ-358G（黄灰層）。口唇部1ヶ所内側に屈曲
4	坏	口(13.2) 高4.8	B+W	にふい橙～褐灰	45	ヒ-358G（灰層）。外面黒色
5	甗	底(11.8)	B+W	灰	底部 20	ヒ-385G（灰層）。外面部分的に自然釉
6	甗	口(16.4) 胴18.2	B+R+W+砂少	橙～褐灰	口縁 40	ン-374G。胴部外面下半黒色

## 2 第2発掘区

第2発掘区は、X軸のエーほ（+23.068～+23.128）、Y軸の380～400（-47.796～-47.916）にあたる。遺構確認面における標高は平均32.8mで、平坦である。第2発掘区の調査対象区域は大きく2つに分けられている。北側の発掘区域は土取りによる削平が著しいことも考慮すべきであるが、遺構は少なく、また重複も認められない。遺構は南側の発掘区域に集中している。北側と同様に削平を受けているが、遺構の床面近くまで攪乱されているものは比較的少ない。噴砂の亀裂が西南西から東北東に向かって走り、その影響を激しく受けている。遺構の形状が歪められ、特に垂直方向への地盤の移動が大きい。

第2発掘区から検出されている遺構は、住居跡52軒（第49～100号）、掘立柱建物跡5棟（第1～5号）、井戸跡3基（第2～4号）、土坑24基（第9～32号）、溝8条（第2～9号）である。

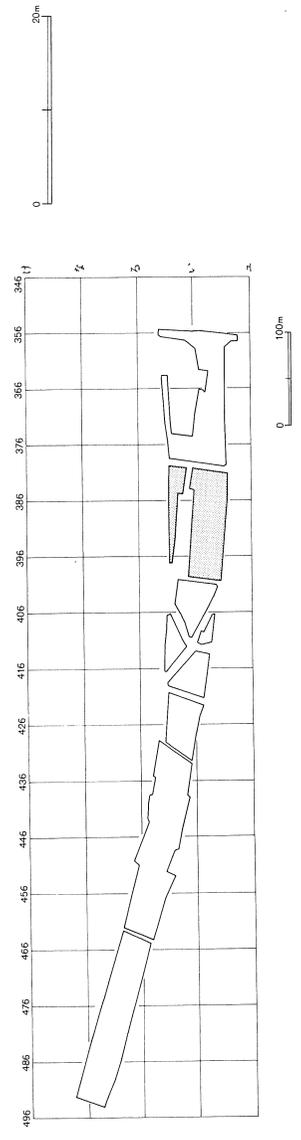
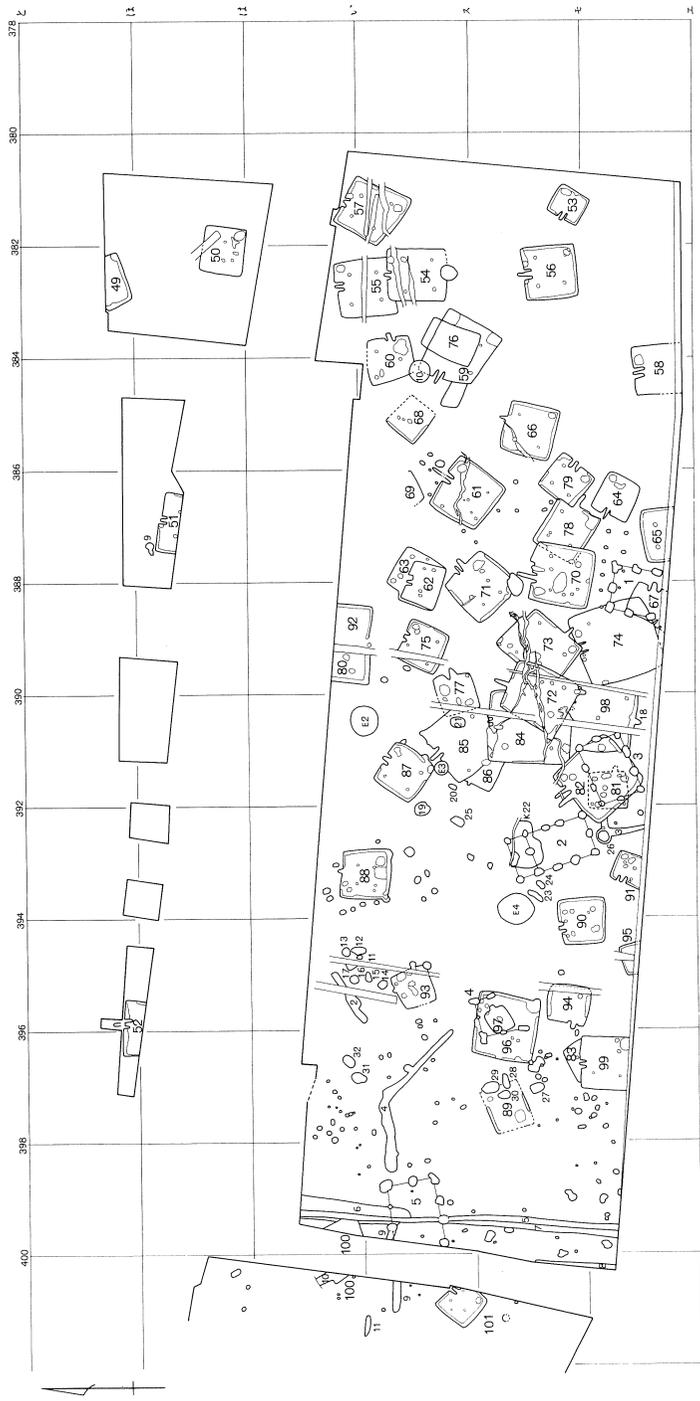
住居跡は、分布が密な南側の発掘区域で重複が著しい。特に発掘区中央部では重複が激しく、むしろほかの遺構と重複していない住居跡の方がごくわずかにすぎないほどである。重複関係は平面確認によって把握することは可能であったが、重複している遺構群のほぼ中央に走る噴砂の亀裂の影響を激しく受けていたため、調査は困難をきたしている。時期的な問題を度外視した場合、比較的大型の住居跡の周辺部に規模の小さな住居跡が構築されている傾向がみられるようである。確認されている住居跡のほとんどのものは、カマドが北壁もしくは東壁に築かれている。例外的に西壁に設置されているものもあるが、南壁に構築されている例は認められていない。これらの時期別の内訳は、古墳時代中期10軒、古墳時代後期34軒、奈良時代2軒、平安時代前半3軒、不明3軒を数える。

掘立柱建物跡は、住居跡が密集している中央部に3棟、西部に2棟検出されている。いずれもほかの遺構と重複している。掘立柱建物跡の規模や柱穴掘り方の形態・大きさなどには、ほとんど差異は認められていない。出土遺物が少なく、また重複している遺構の遺物が混入している可能性が高い。そのため時期を明確にすることは難しい。概ね奈良～平安時代前半に相当するものと思われる。

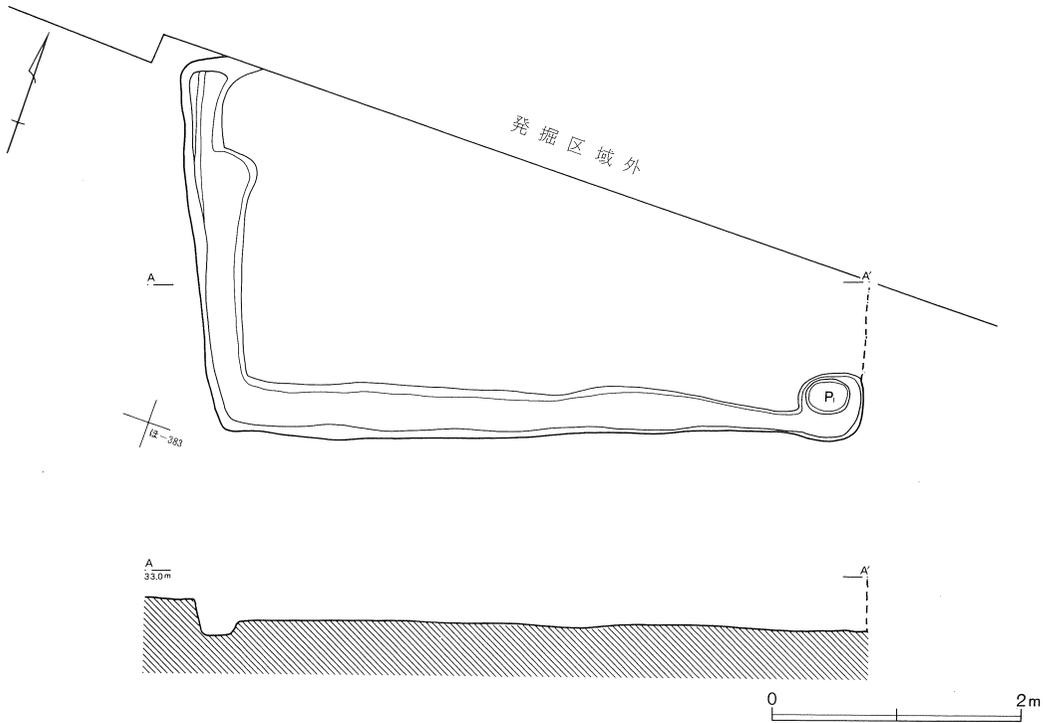
井戸跡は、中央の住居跡密集部の周辺に位置している。第3号井戸跡はほかの井戸跡に比べて規模が小さく、浅い。これに対して第2・4号井戸跡は調査中に地山が崩壊するなどの危険を回避するため、全容を明らかにすることができなかった。いずれの井戸跡からも遺物が出土しているが、特に第2号井戸跡からは多量に検出されている。

土坑は2～3基を中心に、多いもので7基によって群が構成されている。大半のものが住居跡に近接していることから、関連が想定される。規模・形態はさまざまであるが、円形もしくは長方形で、約1～2mを測るものが多い。うち14基の土坑から図示し得る遺物が出土している。概ね奈良～平安時代前半のものである。なかでも多量に遺物が検出されている第19号土坑は須恵器の焼成坑である可能性が高い。

溝は幅が狭くて浅いものが多く、なかでも東西方向に走るものにはその傾向が強い。また1条はほぼ直角に屈曲しているものもある。第5～8号は南北方向に平行して走っている。削平されてい



第322图 第2发掘区全测图



第323図 第49号住居跡

ることも考慮にいれなければならないが、住居跡があまり構築されていない地域を切り割る様に位置していることから、集落を区画している可能性がある。3条の溝から図示し得る遺物が出土しているが、周辺から流れ込んでいる可能性も高く、時期・用途・性格等を明確にする資料に欠ける。

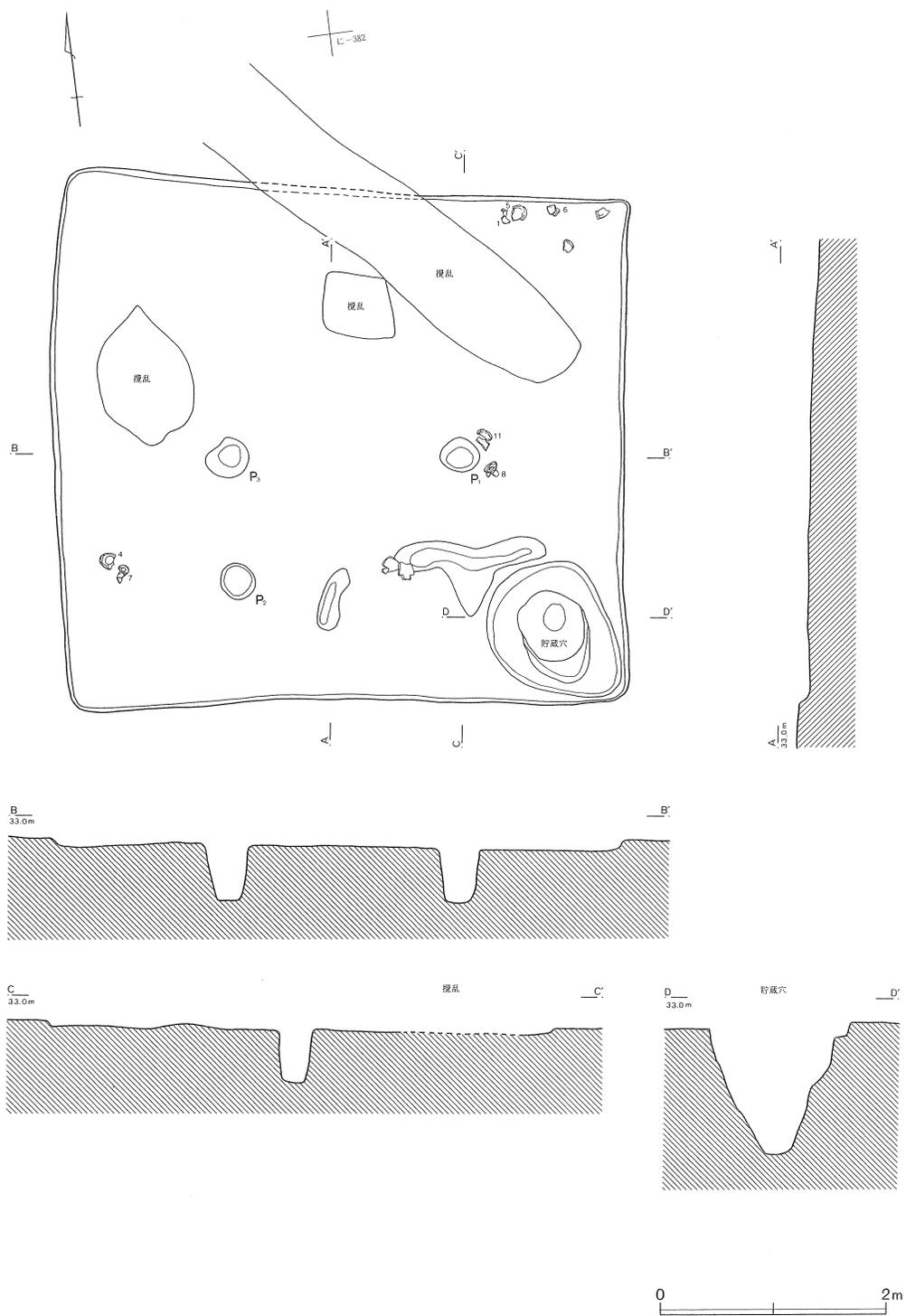
## (1) 住居跡

### 第49号住居跡（第323図）

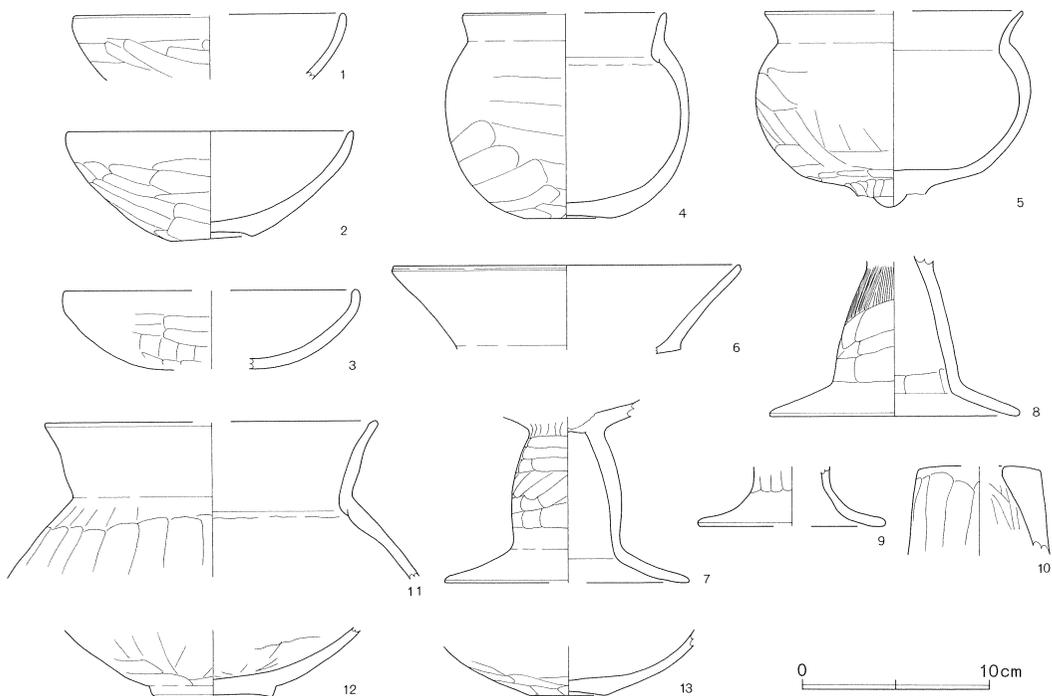
ほ—382・383Gridに位置している。北半が発掘区域外にかかり、東壁は攪乱を受けている。規模は長辺5.48m・短辺2.97m、深さ0.10~0.20mの長方形で、南壁の方位はN—70°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.16~0.58m、深さ0.23~0.29mの壁溝が南壁・西壁に廻っている。ピットは南東コーナー部に1基検出され、壁溝に連続して掘り込まれている。カマド・貯蔵穴等の施設は確認されていない。遺物は土師器26片が出土したのみで、図示し得るものはない。

### 第50号住居跡（第324図）

は—381・382Gridに位置している。土取りによって床面近くまで削平され、北壁は攪乱されている。規模は東西5.07m・南北4.50m、深さ0.10~0.79mで、南北軸方位はN—7°—Eを測る。覆土



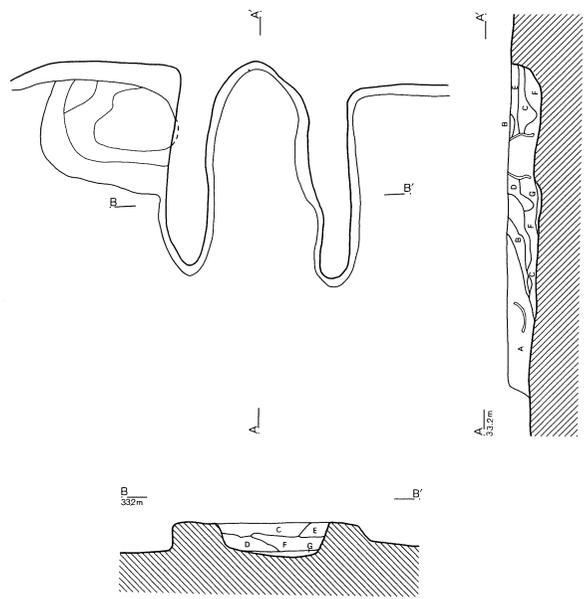
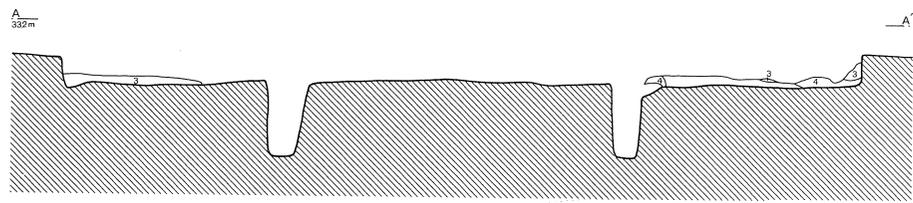
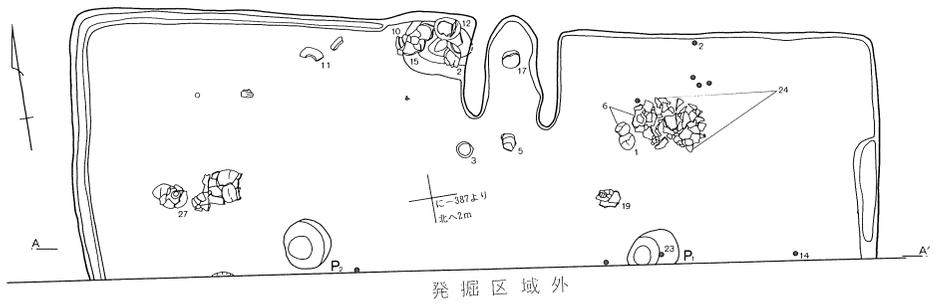
第324图 第50号住居跡



第325図 第50号住居跡出土遺物

第50号住居跡 (第325図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.6)	B+R+W	橙	30	No.3.
2	坏	口15.4 底4.2 高5.8	B少+R+W少+W' 少	(内)にふい橙 (外)浅黄橙	70	底部ケズリ 外面一部黒色
3	坏	口(15.9)	B+R少+W+W'	橙	15	
4	椀	口(10.9) 底11.0 高13.0	B少+R+W+W' 少	(内)にふい橙 (外)橙	50	No.11. 内外面一部黒色
5	脚付椀	口(13.8)	B+W+W'	橙	60	No.1・2.
6	高坏	口18.7	B+R+W少+W' 少	橙	坏部70	No.4. 口縁端部面トリ
7	高坏	脚(13.1)	B+R+W少+W' 少	明赤褐	脚部70	No.10. 裾部外面一部黒色
8	高坏	脚13.3	B+R+W+W'	橙	脚部80	No.8.
9	高坏	脚10.0	B+W+W'	(内)赤黒 (外)暗赤灰	脚部30	内外面黒色
10	支脚	上端6.5	B+R+W少+W' 少	にふい橙	30	
11	甗	口(17.8)	B+R+W+W'+砂少+礫少	にふい橙	口縁25	No.7.
12	甗	底6.7	B+R少+W少+W'	(内)浅黄橙 (外)にふい橙	底部50	底部ケズリ
13	鉢	底4.0	B+R+W少+W'	橙	底部80	底部ケズリ 内外面一部黒色

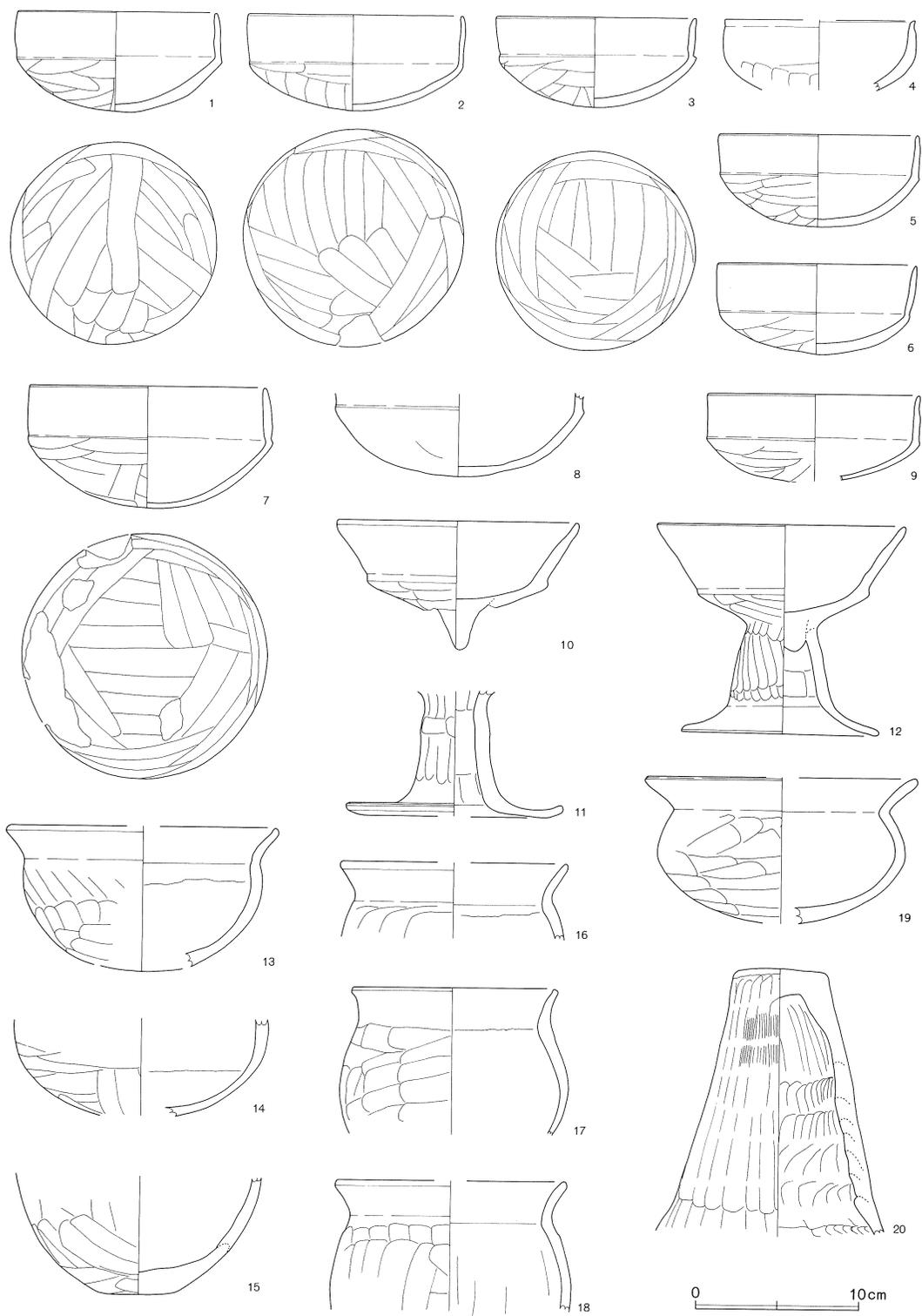


第51号住居跡カマド

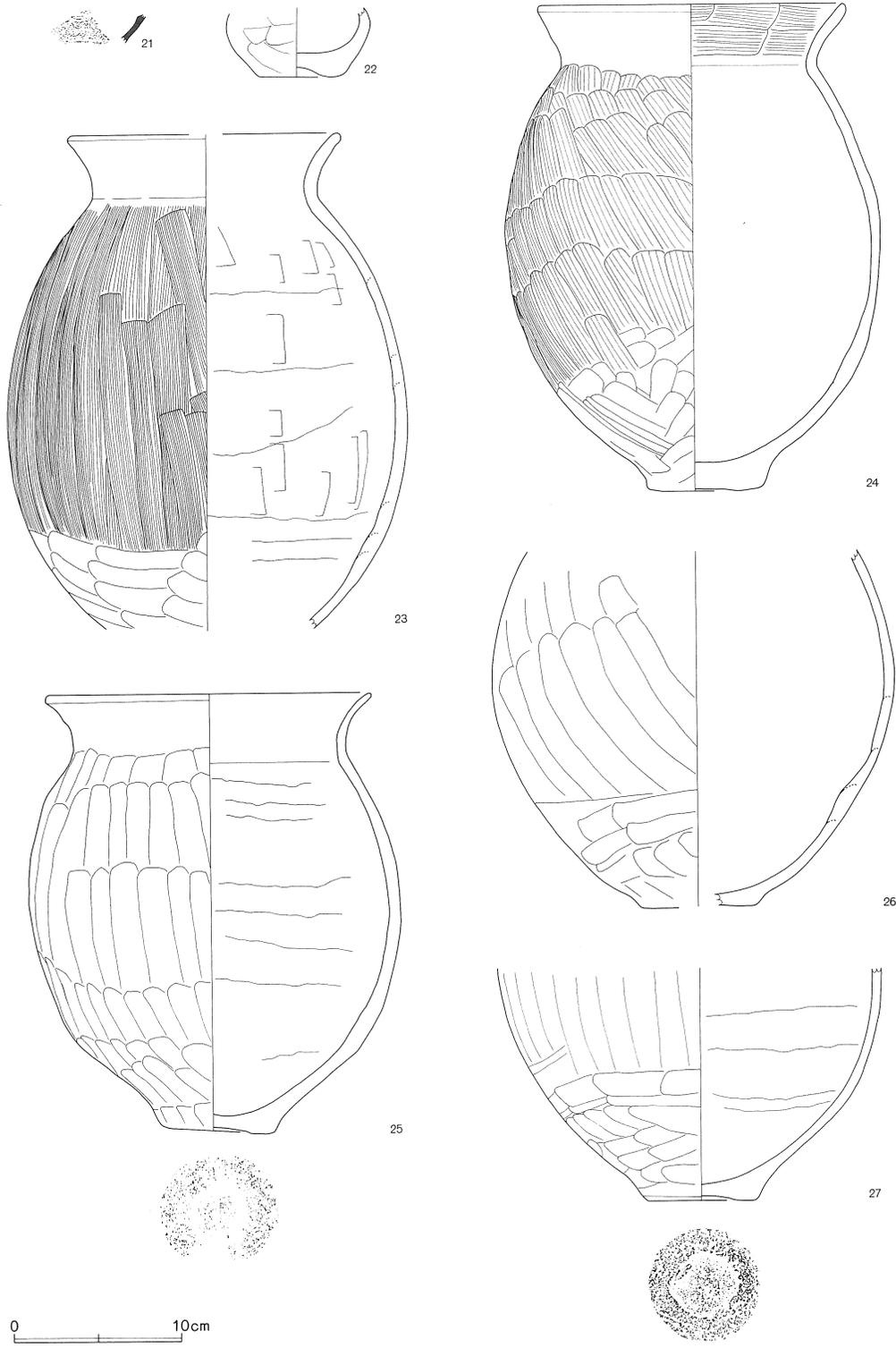
- A 褐色土 焼土粒子(3mm)含む。しまり・粘性あり。
- B 暗橙褐色土 橙色焼土ブロック(2cm)含む。しまり・粘性あり。
- C 橙褐色土 天井崩落層。きわめてよく焼けた焼土層。
- D 暗褐色土 焼土粒子(5mm)、炭化物粒子(3mm)多量含む。しまり・粘性あり。
- E 黄灰褐色土 焼土ブロック(2cm)、多量の炭化物粒子含む。しまり・粘性あり。
- F 暗灰褐色土 炭化物粒子主体。焼土粒子(2~10mm)少量含む。しまり・粘性弱。
- G 灰黒色土 炭化物粒子主体。焼土粒子少量含む。しまり・粘性弱。



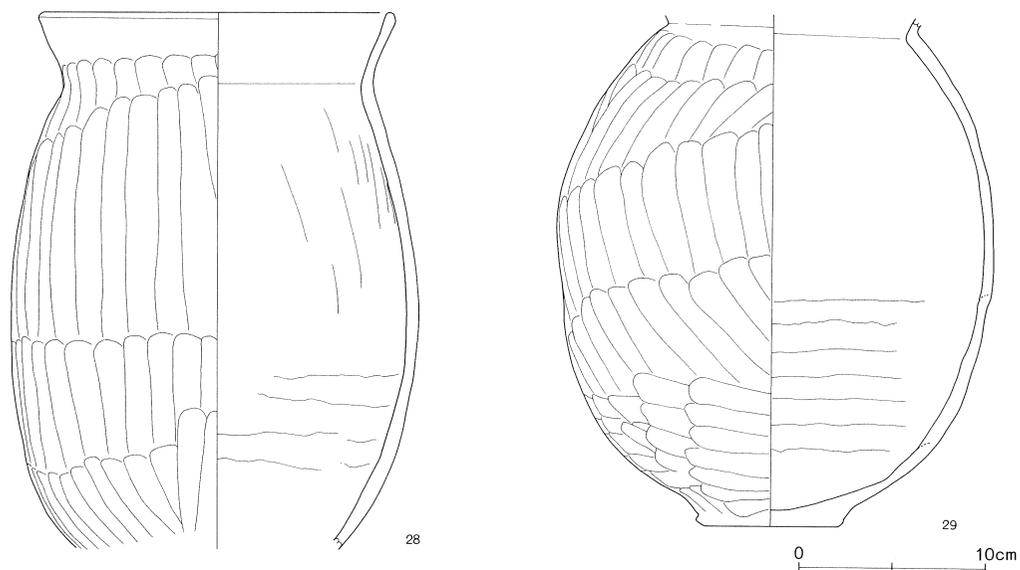
第326図 第51号住居跡



第327图 第51号住居跡出土遺物(1)



第328図 第51号住居跡出土遺物(2)



第329図 第51号住居跡出土遺物(3)

は暗茶褐色土で、焼土・炭化物粒子を多量に含んでいる。貯蔵穴は南東コーナー部に設置されている。南北1.13m・東西1.15m、深さ1.09mで、不整円形を呈している。ピットは3基検出されている。貼床が施され、貯蔵穴周辺は隆起している。遺物は少なく、須恵器1片、編物石1点が出土している。

#### 第51号住居跡（第326図）

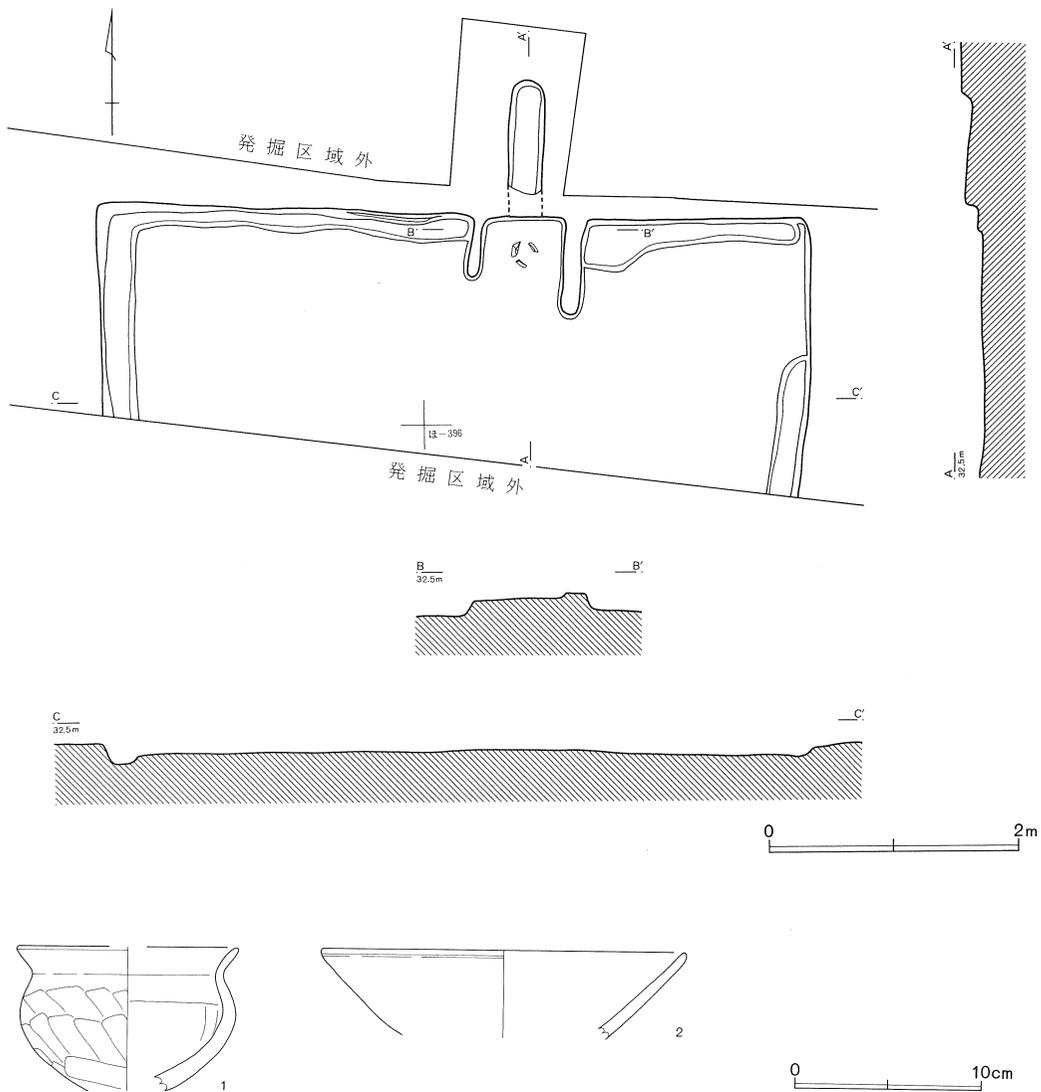
に—386・387Gridに位置し、南半が発掘区域外にかかっている。規模は東西6.38m、深さ0.10～0.21mで、主軸方位はN—8°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.07～0.20m、深さ0.05～0.17mの壁溝が廻っている。カマドは北壁に構築され、全長0.90m、焚き口幅0.43mを測る。袖部は地山を掘り残し、煙道部は削平されている。貯蔵穴はカマドの西側に接し、柱穴は2基検出されている。貼床が顕著に認められる。遺物はカマド周辺部から出土している。

#### 第52号住居跡（第330図）

に—395・396、ほ—395・396Gridに位置している。床面近くまで削平され、南半が発掘区域外にかかっている。東西5.70m、深さ0.06～0.08mで、主軸方位はN—2°—Wを測る。カマドは北壁に構築され、全長1.92m、焚き口幅0.64mの規模をもつ。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は方形を呈している。幅0.16～0.30m、深さ0.04～0.08mの壁溝がほぼ全周し、貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物はカマドから出土しているが、きわめて少ない。

第51号住居跡(第327~329区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.2 高6.2	B+R+W+W'	橙	90	No.19。外面一部黒色
2	坏	口13.3 高5.9	B+R+W+W'	橙	90	No.14。外面一部黒色
3	坏	口12.3 高5.5	B+R+W+W'	橙	100	No.17。外面一部黒色
4	坏	口11.6	B+R+W+W'	赤褐	20	口縁端部面トリ
5	坏	口12.3 高5.7	B+R+W+W'	(内)灰褐 (外)にふい橙	60	No.16。内面黒色 外面一部黒色
6	坏	口12.3 高5.6	B+R+W+W'	橙	100	No.20・21。外面うすい黒色
7	坏	口14.5 高7.5	B+R+W+W'	(内)橙(外)赤	90	内面重ね焼きの痕跡 外面黒色部分 外面剥離
8	坏		B+R+W少+W'	(内)橙(外)にふい 橙	20	
9	坏	口13.0	B+R+W+W'	橙	60	
10	高坏	口14.8	B+R+W+W'	橙	坏部 100	No.10。
11	高坏	脚13.3	B+R+W+W'	橙	脚部 70	No.7。
12	高坏	口15.2 脚(12.1) 高12.8	B+R+W+W'	橙	85	No.13。裾部外面黒色
13	椀	口16.7	B+R+W+W'	橙	60	口縁端部面トリ
14	椀		B少+R+W+W'	橙	20	No.34。
15	甕	底4.3	B+R+W+W'+砂多	(内)明赤褐 (外)明赤褐~灰褐	60	No.9。外面黒色部分廻る
16	甕	口(14.0)	B+R+W+W'+砂少	橙	口縁 30	
17	甕	口12.7 胴14.0	B+R+W+W'+砂多	赤褐	70	No.15。
18	甕	口14.2 胴14.8	B+R+W+W'+砂少	(内)明赤褐 (外)橙	口縁 20	内外面黒色部分
19	椀	口(16.8)	B少+R+W+W'少	(内)橙 (外)橙~にふい橙	50	No.18。口縁端部面トリ 外面一部黒色
20	支脚	上端5.8	B+R+W+W'	(内)赤 (外)暗赤~暗赤褐	70	No.30。カマドの二次焼成による粘土の 付着 内外面黒色部分
21	はそう		W少	(外)灰白(内)暗灰		No.26。外面波状文 内面ナデ
22	ミニチュ ア	底4.5	R+W'	(内)にふい橙 (外)橙	50	底部ケズリ
23	甕	口(16.3) 胴23.9	B+R少+W+W'少+砂 少	(内)にふい橙 (外)明赤褐	40	No.33。外面黒色部分多
24	甕	口18.4 底7.0 高29.0 胴22.4	B+R少+W+砂少	(内)にふい橙 (外)赤~橙	95	No.23・25。胴部外面下半に黒色部分が廻 る
25	甕	口19.5 底6.9 高26.1 胴22.2	B+R+W+W'+砂少+礫 少	(内)橙(外)赤~橙	90	底部周辺に粘土貼付 胴部外面一部黒色
26	甕	底(6.7)	B+R+W少	(内)明褐灰 (外)橙	40	底部ケズリ 底部外面に黒色部分
27	甕	底6.4	B+R+W+W'+砂少	(内)橙 (外)褐灰~灰褐	40	No.1。底部周辺に粘土貼付 胴部外面下 半に黒色部分が廻る
28	甕	口19.0 胴21.7	B少+R少+W+W'少+ 砂少	(内)にふい橙 (外)橙~にふい橙	70	内外面黒色部分
29	甕	底7.8 胴23.6	B+R+W+W'	(内)にふい橙 (外)赤~にふい橙	85	底部ケズリ 胴部外面上半に黒色部分



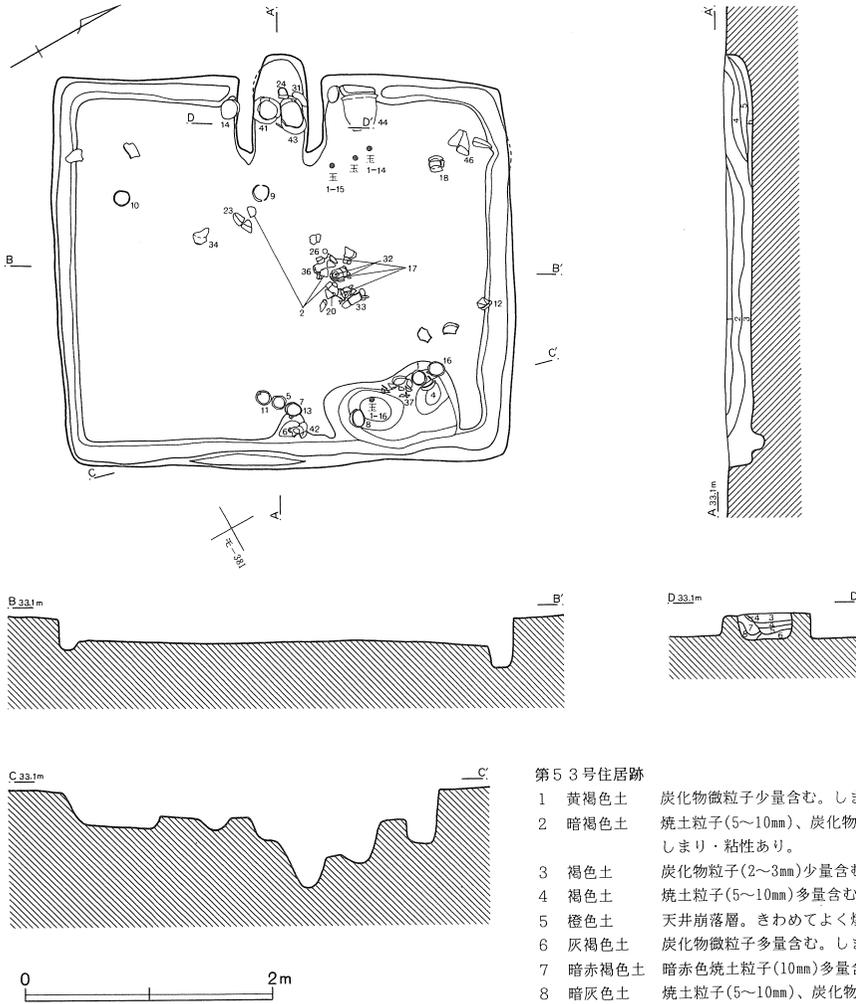
第330図 第52号住居跡・出土遺物

第52号住居跡 (第330図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	鉢	口(11.8)	B+R+W	(内)明赤褐 (外)明赤褐～橙	20	外面に黒色部分
2	高坏	口19.6	B少+R少+W少+W'少	赤	坏部 60	

第53号住居跡 (第331図)

ヒ一381、モ一380・381Gridに位置している。主軸辺3.08m・長辺3.63m、深さ0.19～0.24mの規模で、主軸方位はN-61°-Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.09～0.27m、深さ0.23～0.26mの壁溝がほぼ全周している。カマドは西壁中央に構築され、全長0.86m、焚き口幅0.42mを

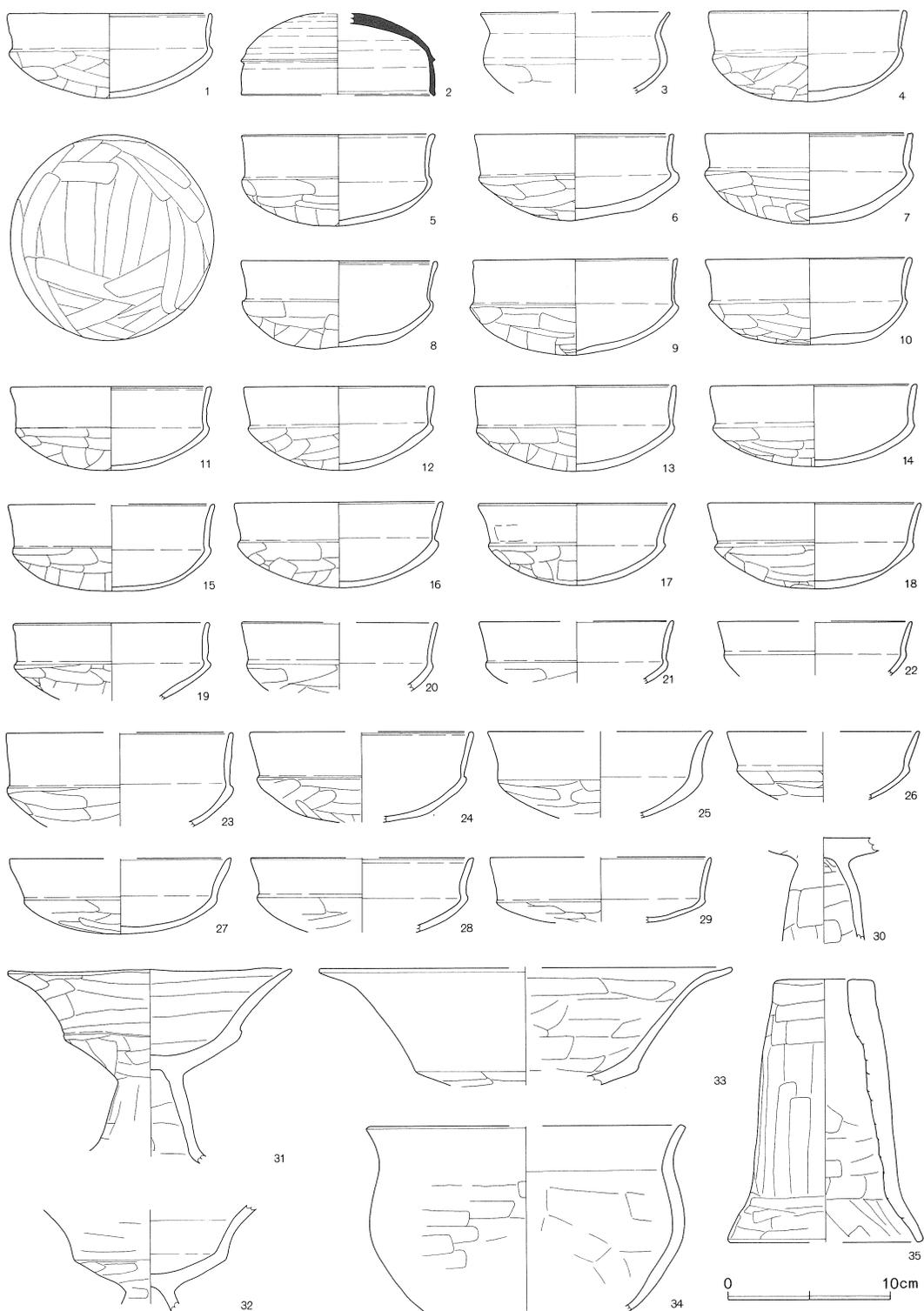


第331図 第53号住居跡

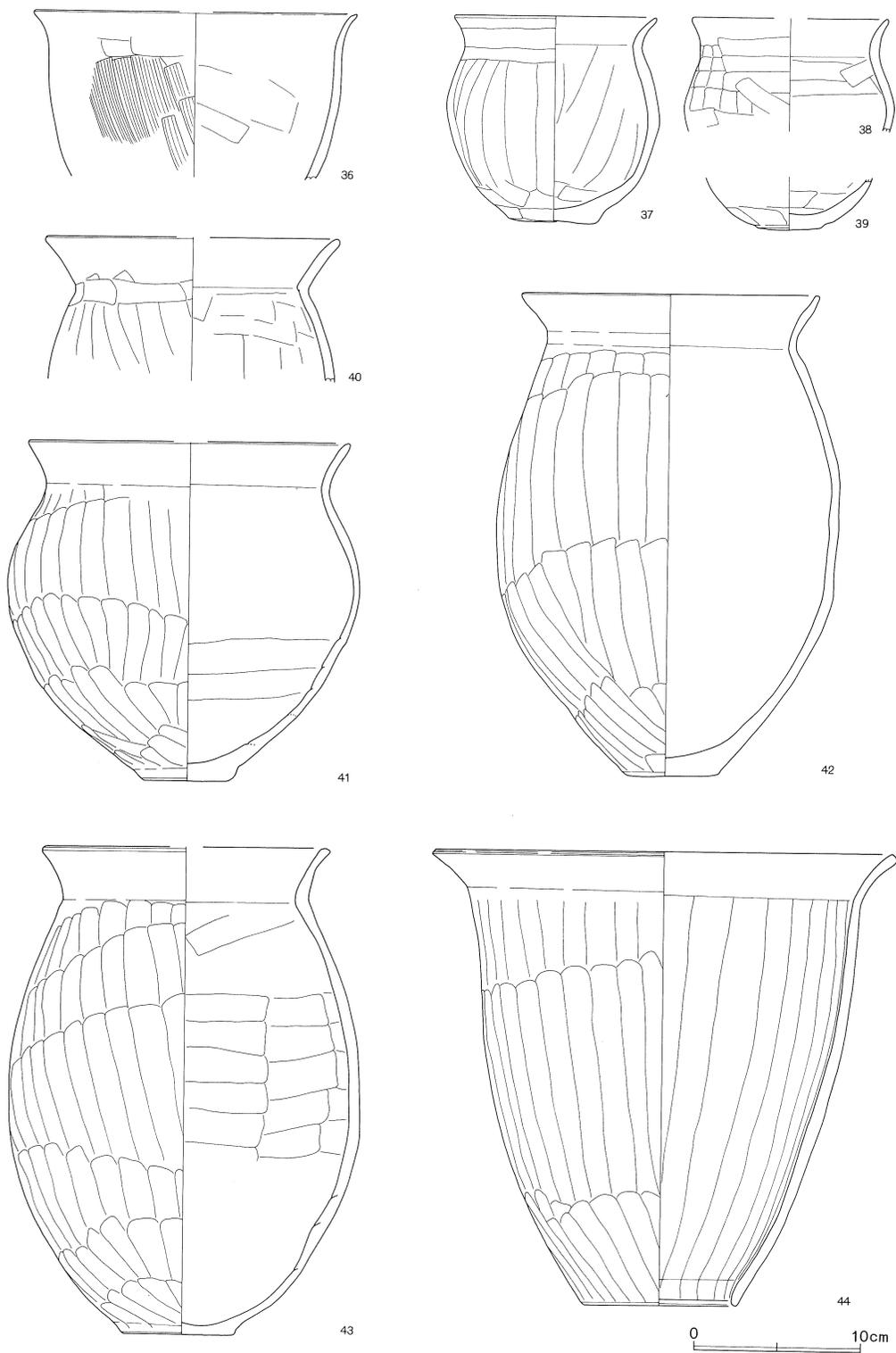
測る。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は方形を呈している。貯蔵穴は北東コーナー部に設置され、南北1.07m・東西0.66m、深さ0.78mを測る不整形である。遺物はカマド・貯蔵穴・中央部に集中し、カマド周辺から土玉3点が出土している。

#### 第54号住居跡（第335図）

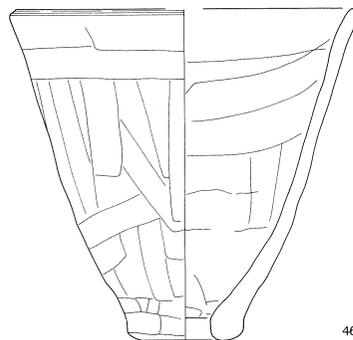
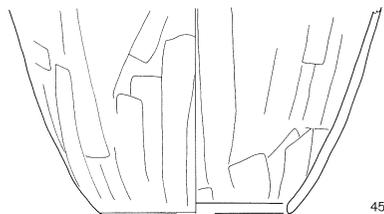
スー382、ンー382Gridに位置し、重複している第55号住居跡よりも新しい。東西方向に噴砂の亀裂が走り、この影響によって形状が歪められ、床面には段差が生じている。規模は主軸辺6.44m・短辺5.62m、深さ0.43~0.79mで、主軸方位はN—0°—Eを測る。カマドは北壁に構築され、全長0.88m、焚き口幅0.34mの規模をもつ。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は鶏卵形を呈してい



第332图 第53号住居跡出土遺物(1)



第333図 第53号住居跡出土遺物(2)



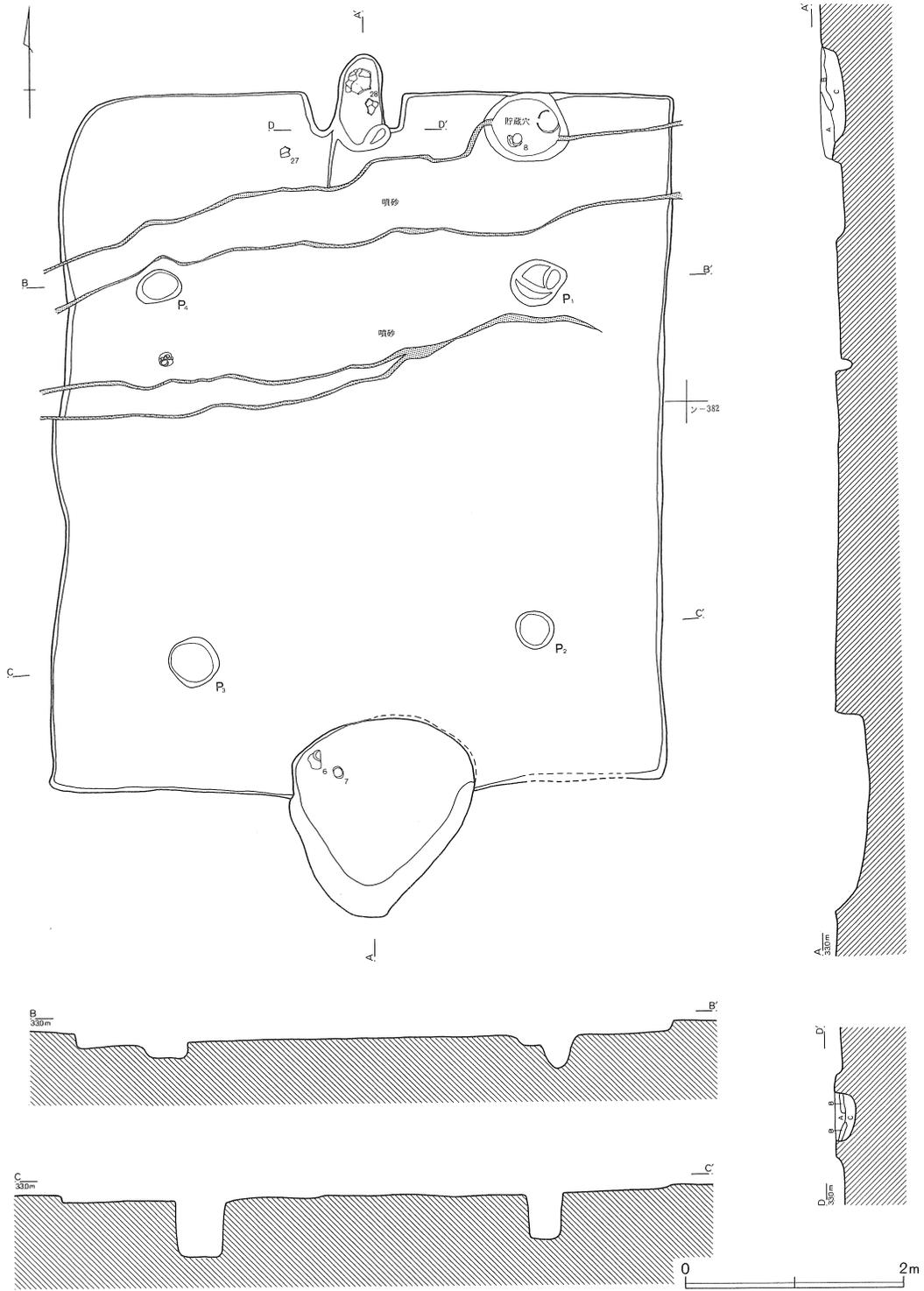
第334図 第53号住居跡出土遺物(3)

第53号住居跡(第332~334図)

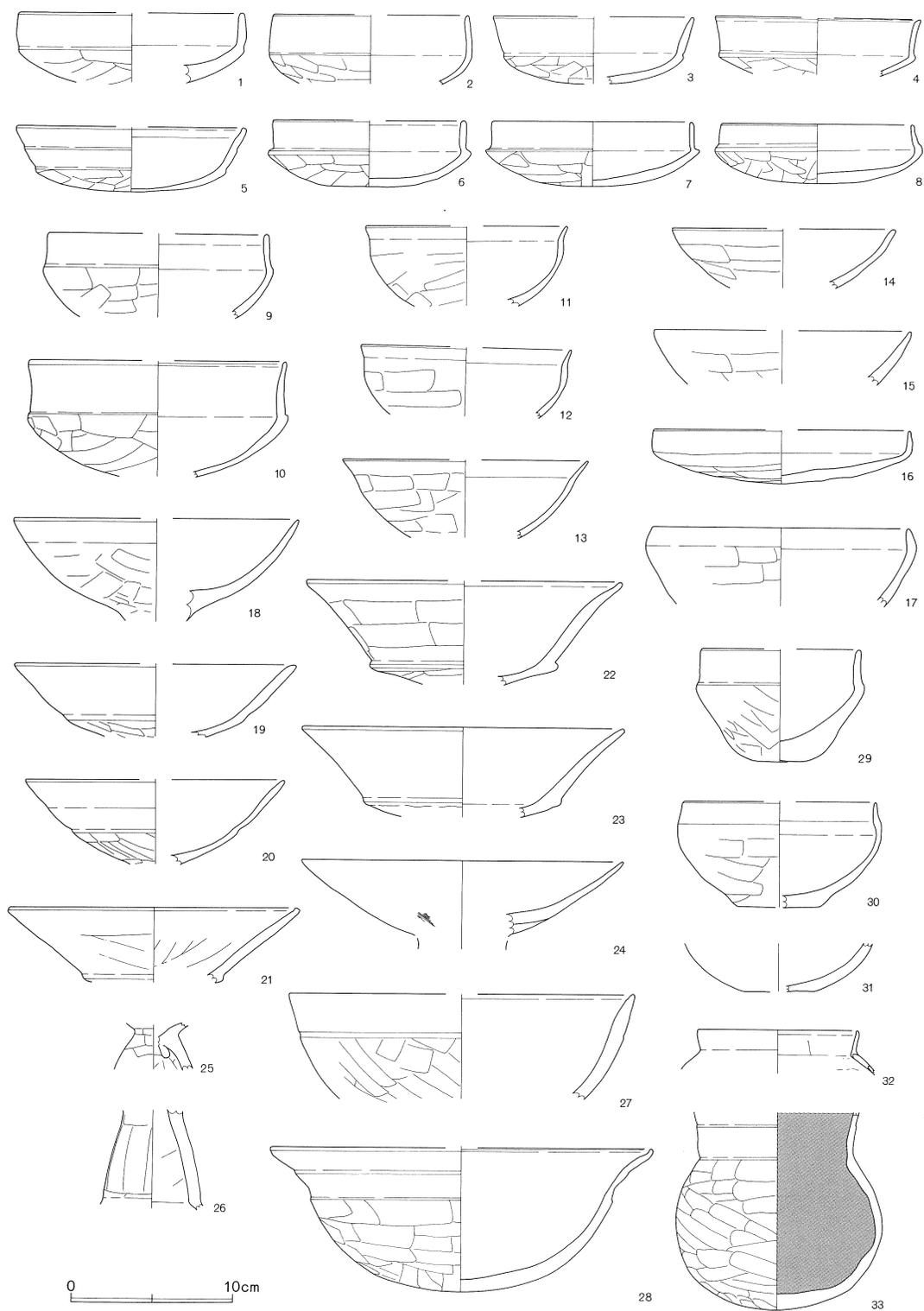
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.6 高5.2	B+R+W+W'	(内)橙 (外)にふい黄橙~ 橙	100	No.60・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面黒色部分
2	蓋	口(12.0)	B少+W	褐灰	50	No.20・28・30。口縁端面トリ
3	椀	口(11.7)	B+R少+W+W' 少	橙	20	
4	坏	口12.2 高5.5	B少+R+W+W'	(内)橙 (外)浅黄橙~橙	95	No.61・貯蔵穴。口縁端面トリ 内外面黒色部分
5	坏	口11.9 高5.6	B少+R+W+W'	橙	100	No.51。口縁端面トリ
6	坏	口12.2 高5.3	B+R+W少+W' 少	(内)赤 (外)赤褐	95	No.55。口縁端面トリ 内外面黒色部分
7	坏	口12.7 高5.6	B+R+W少	(内)橙 (外)にふい橙~橙	100	No.52。口縁端面トリ 外面黒色部分
8	坏	口12.1 高5.4	B+R+W少+W' 少	橙	100	No.58・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面に黒色部分
9	坏	口12.5 高5.9	B+R+W+W'	明赤褐	100	No.21。口縁端面トリ
10	坏	口12.7 高5.3	B+R+W+W'	(内)橙 (外)にふい橙~橙	100	No.17。口縁端面トリ
11	坏	口12.3 高5.1	B+R+W少+W' 少	にふい橙~橙	100	No.49。口縁端面トリ 外面黒色部分
12	坏	口11.8 高5.2	B+R+W+W'	橙	90	No.48。口縁端面トリ 外面黒色部分
13	坏	口12.4 高5.3	B+R+W+W'	橙	100	No.52。口縁端面トリ 外面黒色部分
14	坏	口12.7 高5.0	B+R+W+W'	(内)赤褐 (外)橙	100	No.14。口縁部外面黒色部分
15	坏	口(12.6) 高5.3	B+R+W少+W' 少	橙	50	外面に黒色部分
16	坏	口12.8 高5.2	B+R+W+W'	橙	100	No.62・貯蔵穴。口縁端面トリ 外面黒色部分
17	坏	口12.1 高5.0	B+R+W少+W' 少	(内)にふい橙~ にふい黄橙 (外)橙	80	No.24・31・38。口縁端面トリ 内外面黒色部分
18	坏	口13.1 高5.3	B+R+W+W'	にふい橙	95	No.6。
19	坏	口12.1	B+R+W少+W'	にふい橙	50	外面黒色部分
20	坏	口(12.0)	B少+R+W+W' 少	橙	20	No.29。口縁端面トリ
21	坏	口(11.9)	B+R+W少	橙	20	口縁端面トリ

22	坏	口(11.9)	B少+R+W+W'	橙	20	口縁端部面トリ
23	坏	口(13.9)	B+R+W+W'	橙	30	No.19。
24	坏	口(13.7)	B+R+W少+W' 少	(内)にふい橙 (外)にふい橙~橙	25	No.12。口縁端部面トリ
25	坏	口(13.8)	B少+R+W少+W' 少	橙	20	口縁端部面トリ
26	坏	口(11.8)	B+R+W	橙	20	No.25。口縁端部面トリ
27	坏	口(13.6) 高4.6	B+R+W少	橙	20	口縁端部面トリ
28	坏	口(13.7)	B少+R	にふい橙	15	口縁端部面トリ
29	坏	口(13.6)	B+R+W少	(内)橙 (外)にふい橙	15	
30	高坏		B+R+W少+W' 少	(内)橙 (外)にふい橙	脚部 40	
31	高坏	口17.5	B+R+W+W'	橙	80	No.11。
32	高坏		B+R+W+W'	(内)暗赤褐 (外)橙	坏部 30	No.23。内面黒色部分
33	高坏	口(25.3)	B+R+W+W'	(内)橙 (外)浅黄橙	坏部 30	No.34。口縁端部面トリ 外面黒色部分
34	鉢	口19.6	B+R+W+W'	橙	口縁部 15	No.18。口縁端部面トリ
35	支脚	上端6.2 下端12.0 高16.1	B+R+W+W'	(内)橙 (外)にふい橙~橙	80	No.41。外面に黒色部分
36	甕	口(19.3)	B+R+W+W'	橙	口縁 15	胴部外面に黒色部分
37	小型甕	口12.1 底5.3 高12.2 胴12.6	B+R+W+W' +砂少 +礫少	橙	95	No.59・貯蔵穴。底部ケズリ 底部外面黒色部分
38	小型甕	口(11.8) 胴12.5	B+R+W+W'	橙	15	
39	甕	底3.8	B+R+W+W'	(内)橙 (外)にふい橙~橙	底部 90	底部ケズリ 外面黒色部分
40	甕	口(17.6)	B+R+W+W'	橙	口縁 20	内面黒色部分
41	甕	口19.3 底5.5 高20.2 胴21.1	B+R+W+W' +砂少	(内)明褐灰~橙 (外)にふい橙~橙	90	No.10。底部ケズリ 胴部外面下半黒色部分
42	甕	口17.8 底5.8 高28.7 胴20.5	B+R+W+W' +砂少 +礫少	(内)橙 (外)にふい橙	70	No.53。底部ケズリ 胴部外面下半黒色部分が廻る
43	甕	口(17.2) 底6.7 高29.1 胴21.0	B+R+W+W' +砂多 +礫多	(内)灰褐~橙 (外)橙	70	No.9。胴部内面・外面下半黒色部分
44	甕	口27.8 底9.1 高27.0	B+R+W+W'	橙	100	No.7。胴部外面黒色部分
45	甕	底(10.1)	B+R+W+W'	橙	20	
46	甕	口(18.5) 底6.2 高17.6	B+R+W+W'	橙	70	No.5。外面黒色部分

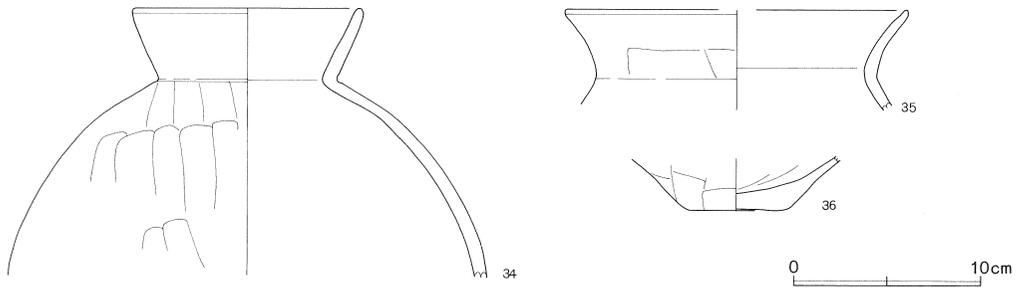
る。摺り鉢状に掘り窪められ、煙道部は削平されている。貯蔵穴はカマド東側に設置され、南北0.64m・東西0.77m、深さ0.33mを測る楕円形である。4基のピットはすべて柱穴で、貼床は顕著に認められている。カマドと対向する位置に土坑が検出されている。用途・性格および第54号住居跡との関連は不明である。遺物はカマド・貯蔵穴から出土し、石製剣形品1点、編物石1点、打製石斧1点がある。



第335图 第54号住居跡



第336图 第54号住居跡出土遺物(1)



第337図 第54号住居跡出土遺物(2)

第54号住居跡(第336・337図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0)	B少+R+W+W'	橙	20	外面に黒色部分
2	坏	口(12.2)	B+R+W少+W' 少	橙	20	
3	坏	口(12.5)	B+R少+W	橙	25	内外面が全体に黒色
4	坏	口(12.7)	B+R+W少	(内)浅黄色 (外)橙	30	口縁端面部トリ
5	坏	口(14.3) 高4.0	B+R+W少+W' 少	(内)にふい橙 (外)明黄褐	50	
6	坏	口(12.0) 高4.1	B+R+W少+W'	(内)橙 (外)灰褐	45	No.3. 外面に黒色部分
7	坏	口12.5 高4.0	B+R+W+W'	(内)明褐 (外)明赤褐~黒褐	90	No.1.
8	坏	口12.0 高3.6	B+R+W+W'	橙	90	No.8.
9	坏	口(13.7)	B+R+W少+W' 少	橙	20	
10	坏	口(16.0)	B+R+W少	明黄褐	25	
11	碗	口(12.5)	B+R+W	橙	25	
12	碗	口13.0	B+R+W少	橙	20	
13	坏	口(15.2)	B+R+W少	(内)にふい橙 (外)橙	40	
14	坏	口13.8	B少+R+W+W'	橙	20	
15	坏	口(16.0)	B+R+W少	橙	15	
16	坏	口16.0 高3.3	B+R+W少+W' 少	橙	25	底部外面指頭圧痕
17	鉢	口(16.0)	B+R+W	橙	15	風化
18	高坏	口(17.6)	B+R+W少	橙	坏部 30	内外面に黒色部分
19	高坏	口(17.4)	B+R+W少	橙	坏部 25	

第54号住居跡カマド

- A 褐色土 焼土・炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- B 橙色土 天井崩落層。きわめてよく焼けた焼土層。
- C 灰褐色土 焼土粒子(2~3mm)少量、炭化物微粒子極多量含む。しまり・粘性弱。

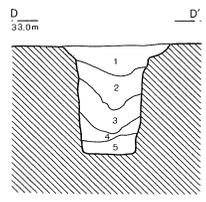
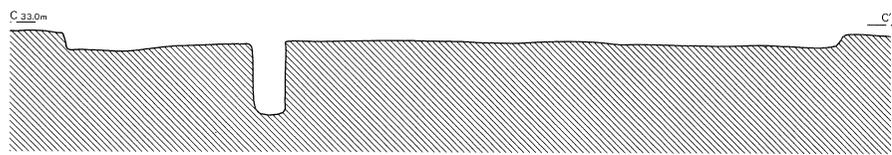
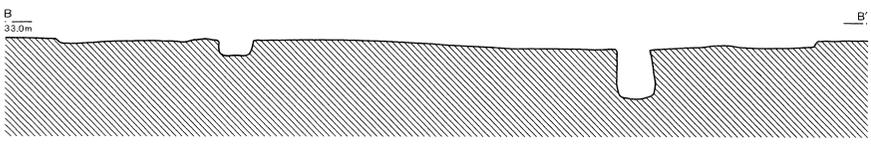
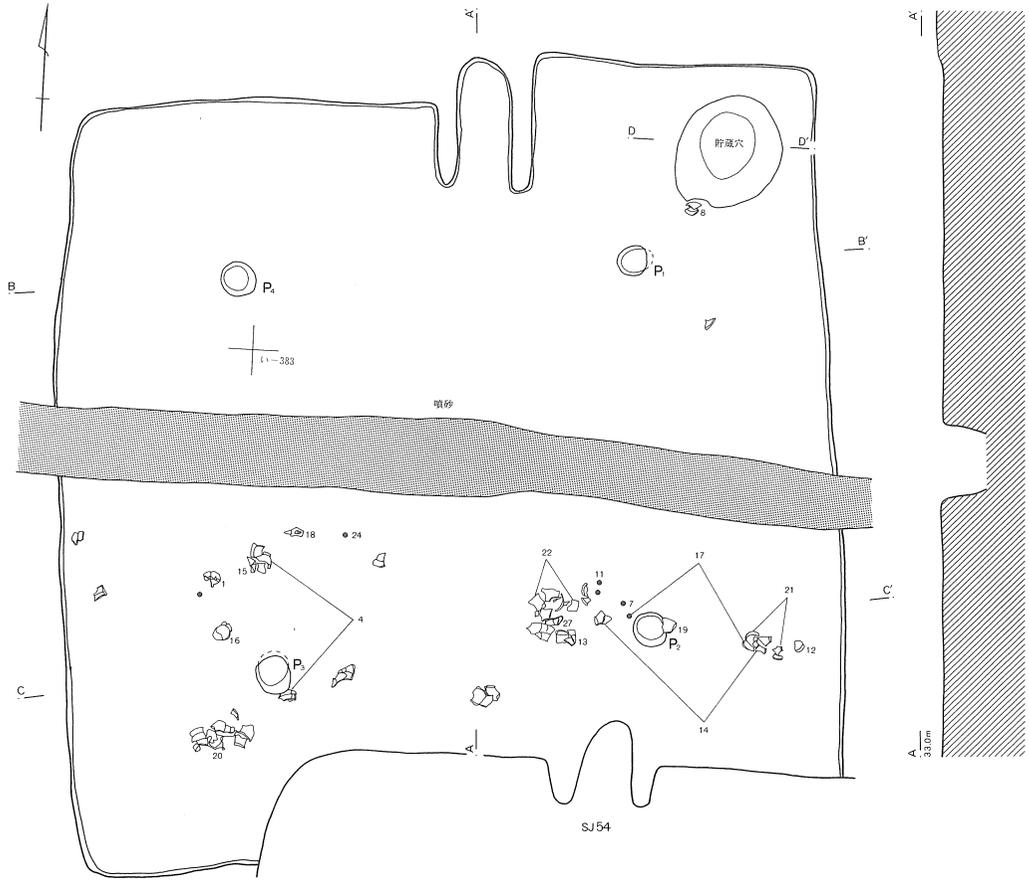
20	高环	口(16.0)	B+R	にふい橙	坏部 30	
21	高环	口(18.0)	W少	橙	口縁 10	口縁端面トリ
22	高环	口(19.5)	B+R+W少+W' 少	橙	坏部 25	
23	高环	口(20.0)	R+W少	(内)にふい橙 (外)橙	坏部 5	口縁端面トリ
24	高环	口(20.0)	B少+R+W+W'	橙	坏部 10	風化
25	高环		B+R+W	橙	脚部 50	
26	高环		B+R+W少	橙	脚部 70	
27	鉢	口(21.4)	B+W	(内)灰赤 (外)橙	15	No.5. 口縁端面トリ 内外面に黒色部分
28	鉢	口23.7 高8.9	B+W	明赤褐	70	No.7.
29	碗	口(9.9) 底3.5 高7.0	B+R+W少+W' 少	橙	40	底部ケズリ 底部外面黒色
30	碗	口(12.0) 底5.1 高6.5	B+R+W	橙	40	外面に黒色部分
31	碗	底(4.2)	B+R+W少	にふい橙	20	風化著しい
32	碗	口(10.0)	B少+R+W+W' 少	橙	口縁 20	
33	小型壺	胴12.8	B+R少+W+W'	(内)黒 (外)橙~灰黄褐	80	No.4. 内面黒色 外面に黒色部分
34	壺	口12.3 胴(25.6)	B+R+W+W' 少	橙	20	
35	甕	口(18.4)	B+R少+W少	褐灰	口縁 15	
36	甕	底4.8	B+R少	にふい橙	底部 60	底部周辺に粘土貼付

#### 第55号住居跡 (第338図)

ン—382・383、い—382・383Gridに位置している。床面近くまで削平され、遺存状態はきわめて悪い。重複している第54号住居跡よりも古く、中央部には幅の広い噴砂の亀裂が東西方向に走っている。カマドが北壁に構築され、北壁はカマドを挟んだ東側が外方に張り出している。噴砂の亀裂も含めた主軸辺は西半部が6.16m、東半部は推定で6.41mあり、東西が6.26m、深さが0.04～0.05mの規模をもっている。本来の主軸辺の長さは噴砂の亀裂の幅分だけ短いものと思われる。主軸方位はN—3°—Wを測る。壁溝は廻っていない。カマドは全長1.06m、焚き口幅0.42mで、袖部は地山を掘り残している。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置されている。円形を呈し、南北0.88m・東西0.89m、深さ0.89mを測る。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。遺物は南半部分の床面直上から出土し、ほかに編物石1点がある。

#### 第56号住居跡 (第341図)

モ—381・382、セ—382Gridに位置し、ほかの遺構との重複はみられない。規模は主軸辺5.63m・短辺5.60m、深さ0.20～0.24mで、主軸方位はN—4°—Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。幅0.14～0.37m、深さ0.04～0.17mの壁溝が全周している。しかし南壁ではやや内側に廻り、カマ

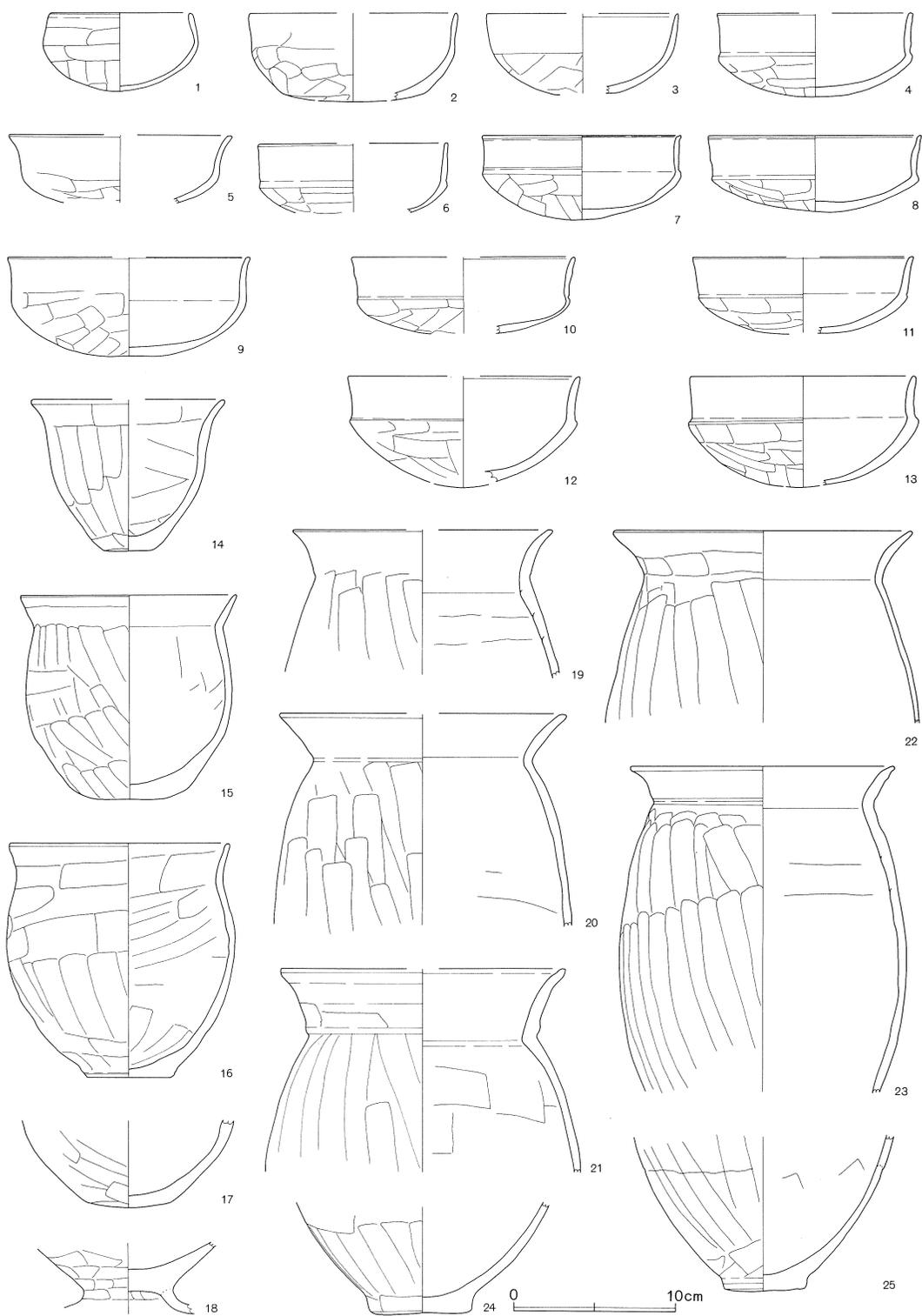


第55号住居跡貯蔵穴

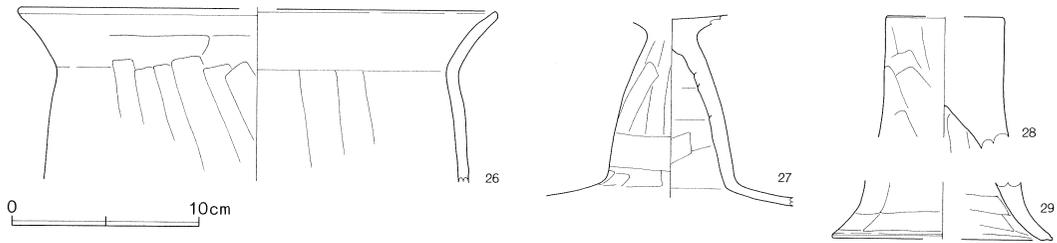
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、砂粒含む。しまり弱。
- 3 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。
- 4 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、灰色粘土含む。粘性あり。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。粘性ややあり。



第338図 第55号住居跡



第339图 第55号住居跡出土遺物(1)



第340図 第55号住居跡出土遺物(2)

第55号住居跡(第339・340図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏(ミニチュア)	口8.9 高4.8	B+R多+W	橙	80	No.31。
2	坏	口(5.4)	B+R多+W	(内)明赤褐 (外)橙	40	外面に黒色部分
3	坏	口(11.8)	B+R多+W	(内)褐灰~橙 (外)明黄褐	25	内外面に黒色部分
4	坏	口(12.0) 高5.1	B+R+W	橙	45	No.24・26。口縁端部に面トリ
5	坏	口(13.7)	B+R多+W	橙	15	
6	坏	口(11.7)	B+R	橙	30	口縁端部面トリ
7	坏	口12.2 高5.2	B+R	(内)明赤褐 (外)橙~明赤褐	80	No.8。口縁端部面トリ
8	坏	口13.0 高4.7	B+R+W	(内)橙 (外)黄橙	80	No.35・36。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
9	坏	口(14.8) 高6.0	B+R多+W	(内)明赤褐~にふい橙 (外)橙~明赤褐	20	
10	坏	口(13.7)	B+R多+W	橙	15	口縁端部面トリ
11	坏	口(13.5)	B+R多+W	(内)橙 (外)橙~黄橙	20	No.11。
12	坏	口(14.2)	B+R多+W	橙	15	No.1。
13	坏	口13.8	B+R多+W+W'	橙	90	No.18。
14	小型甕	口(11.9) 底3.0 高9.3	B+R+W	橙	30	No.4・10。内外面に黒色部分
15	小型甕	口13.2 底4.3 高12.5	B+R+W+砂少	(内)にふい橙~赤褐 (外)赤橙~にふい橙	80	No.24。内面剥離が著しい
16	小型甕	口13.5 底5.1 高14.0	B+R+W+砂少	(内)暗赤灰~明赤褐 (外)橙~明赤褐	90	No.29。内面黒色
17	甕	底4.9	B+R+W+砂少	(内)浅黄橙 (外)橙	底部 25	No.6・9。外面に黒色部分
18	台付甕		B+R多+W	橙	20	No.23。
19	甕	口(16.0)	B+R+W+砂少	浅黄橙	口縁 20	No.7。
20	甕	口(17.6)	B+R+W少	(内)にふい黄橙 (外)にふい黄橙~橙	15	No.27。
21	甕	口(17.5)	B+R+W+砂少+礫少	橙	20	No.3・6。
22	甕	口18.3	B+R+W+砂少	橙	35	No.15・16。

23	甕	口16.2 胴17.6	B+R+W多	明赤褐	60	内外面に黒色部分
24	甕	底6.3	B+R+W+砂少	(内)橙 (外)赤	底部 90	No.22。内面に黒色の付着物
25	甕	底5.2	B+R多+W+砂少+礫少	(内)浅黄橙 (外)橙~にふい橙	底部 30	
26	甕	口(25.6)	B+R+W	(内)明赤橙 (外)橙	口縁 15	
27	高坏		B+R+W	(内)明赤褐 (外)明赤褐~橙	脚部 90	No.17。外面に黒色部分
28	支脚	上端6.3	B+R多+W+砂少+礫少	(内)橙 (外)にふい橙	20	
29	高坏	脚11.7	B多+R+W	橙	脚部 20	

ド両脇ではカマドに向かって底面に段差を付けている。カマドは北壁に構築され、全長1.58m、焚き口幅0.56mの規模をもつ。袖部は地山を掘り残し、東側が内側に屈曲している。燃烧部は釣鐘形を呈し、煙道部に向かって若干傾斜している。火床面はよく焼けており、煙道部の幅は燃烧部に比べて狭い。高坏形土器が支脚に転用されている。貯蔵穴は南東コーナー部に設置されている。不整楕円形で、南北0.78m・東西0.64m、深さ0.64mを測る。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。暗茶褐色の貼床が施されているが、あまり明瞭ではない。遺物はカマドおよび貯蔵穴周辺部から出土している。

#### 第57号住居跡（第344・345図）

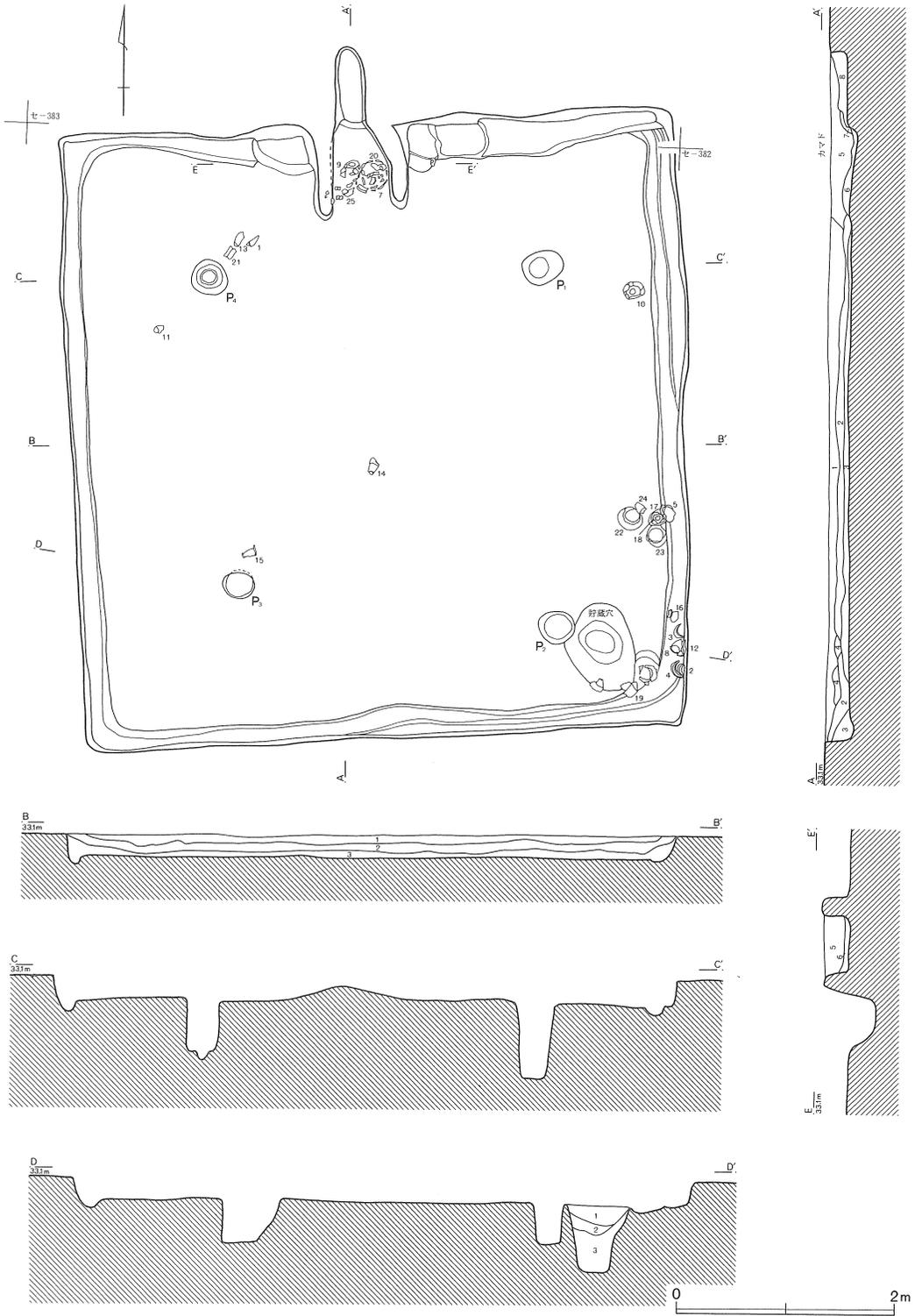
ン—380・381、い—380・381Gridに位置している。噴砂の亀裂が東西に走り、形状が歪められている。また噴砂の亀裂に平行して、2条の溝状の攪乱によって切られている。規模は主軸辺6.18m・短辺6.05m、深さ0.19~0.26mで、主軸方位はN—30°—Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、幅0.09~0.58m、深さ0.03~0.04mの壁溝がほぼ全周している。カマドは北壁に構築され、全長0.62m、焚き口幅0.40mの規模をもつ。袖部は地山を掘り残し、「ハ」の字に開いている。火床面はよく焼けている。煙道部は削平されているものと思われる。貯蔵穴は南東コーナー部に設置されている。円形で、南北0.92m・東西1.08m、深さ0.98mを測る。ピットは5基検出され、P1~P4が柱穴である。カマド東側の北東コーナー部に粘土が検出されているが、用途等是不明である。貼床が全面に施され、特にカマド周辺部は土手状に若干隆起している。遺物はカマドおよび貯蔵穴周辺部から出土し、ほかに須恵器6片、打製石斧1点がある。

#### 第56号住居跡

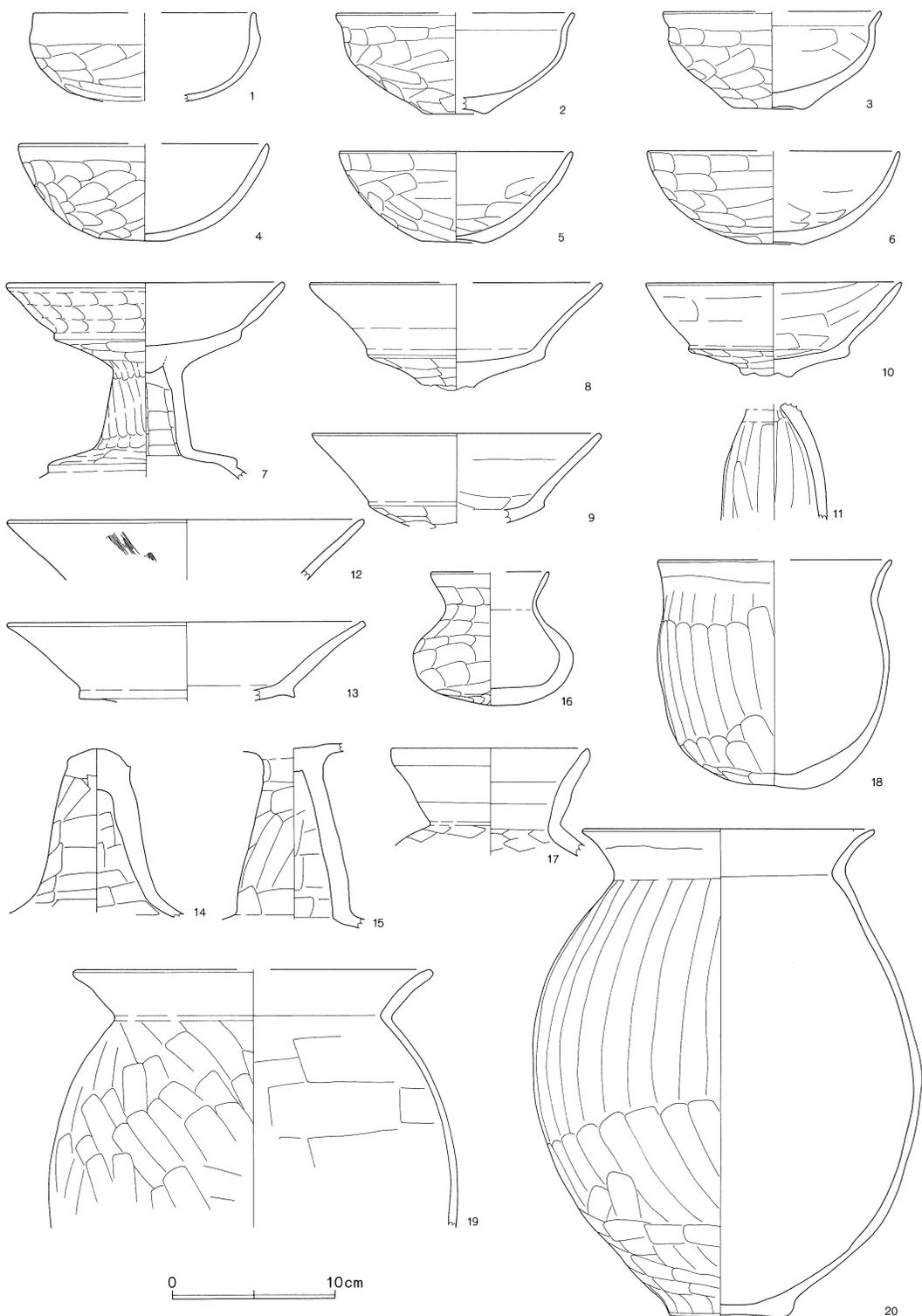
- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 炭化物（棒状）多く含む。しまりあり。
- 5 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 6 灰褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまり・粘性弱。
- 7 暗褐色土 焼土ブロック含む。しまりあり。
- 8 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。

#### 第56号住居跡貯蔵穴

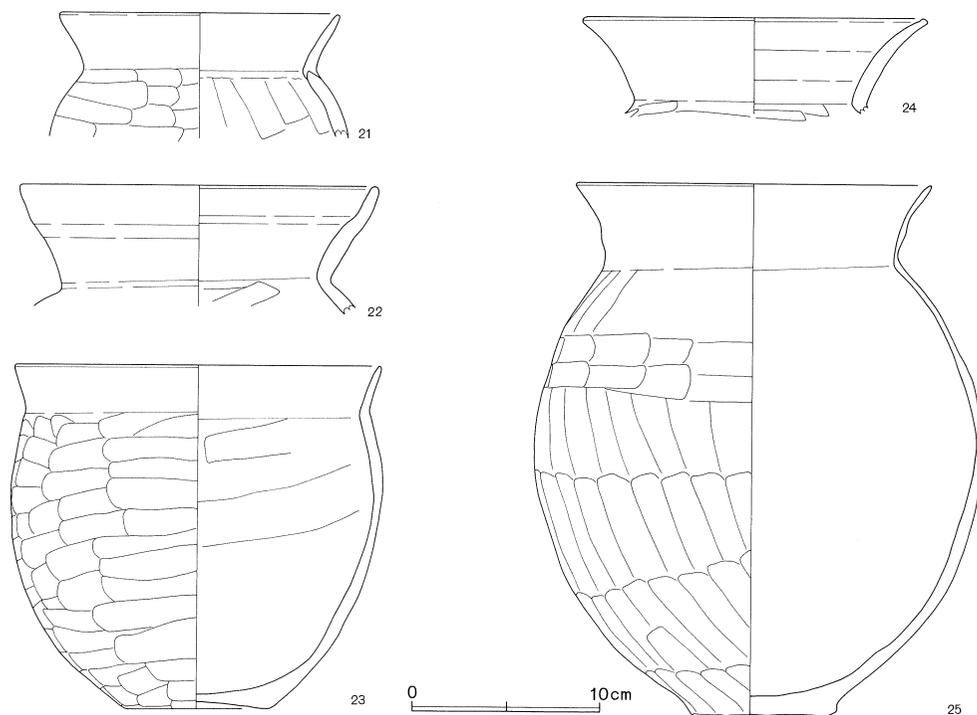
- 1 茶褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 灰茶褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 3 暗茶褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、砂若干含む。しまりあり。



第341图 第56号住居跡



第342图 第56号住居跡出土遺物(1)

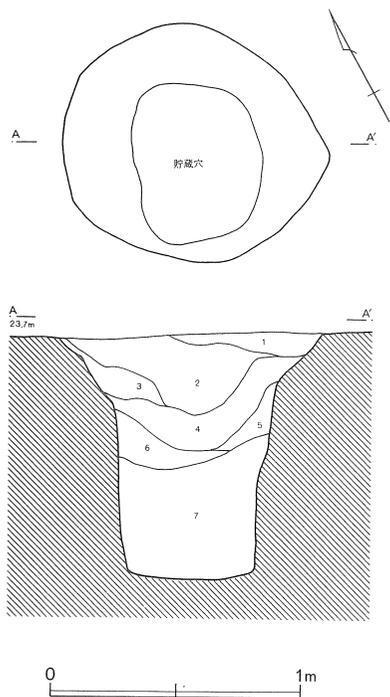


第343図 第56号住居跡出土遺物(2)

第56号住居跡(第342・343図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.7)	B+R多+W	(内)にふい橙 (外)橙	30	No.21。外面に黒色部分
2	碗	口(14.6) 底3.7 高6.2	B+R多+W	明赤褐	45	No.4。
3	碗	口(13.4) 底4.3 高6.0	B+R多+W	明赤褐	50	No.7。外面に黒色部分
4	坏	口(15.3) 底4.3 高5.9	B+R多+W+W'	(内)浅黄橙 (外)橙 ~にふい黄橙	50	No.4。外面に黒色部分
5	坏	口14.3 底3.8 高5.5	B+R+W多	赤	100	No.10。
6	坏	口(15.5) 底3.4 高5.7	B+R+W	(内)橙 (外)明赤褐	50	外面に黒色部分
7	高坏	口17.0	B+R+W	赤褐	80	No.17・カマド。
8	高坏	口(18.0)	B+R多+W	(内)にふい橙 (外)橙	坏部 35	No.5。内外面に黒色部分
9	高坏	口17.7	B+R多+W	(内)橙 (外)にふい橙	坏部 90	No.19・カマド。
10	高坏	口15.7	B+R多+W	(内)にふい橙 (外)明赤褐	坏部 75	No.14。
11	高坏		B+R+W	橙	脚部 40	No.24。
12	高坏	口(22.0)	R多+W+W' 少	橙	口縁20	No.6。風化が著しい
13	高坏	口(22.0)	B少+R多+W	にふい橙~灰褐	口縁20	No.22。口縁端部面トリ

14	高坏		B多+R多+W+W'	浅黄橙	脚部 50	No.15。内外面に黒色部分
15	高坏		B+R+W多+W'	赤	脚部 60	No.25。
16	小型壺	口(7.2) 高8.1 胴9.8	B+R多+W	明赤褐	90	No.8。
17	埴	口12.2	B+R+W多	明赤褐	口縁 100	No.26。
18	甕	口14.3 底4.8 高13.7	B+R+W+砂少	(内)灰褐 (外)明赤褐	90	No.11。内面黒色
19	甕	口(22.1) 胴(25.0)	B+R+W+砂少+礫少	にふい橙	15	No.2。
20	甕	口17.9 底7.6 高29.7 胴23.8	B+R+W+砂少+礫少	橙～にふい橙	90	No.16・カマド。底部周辺に粘土貼付 胴部外面に黒色部分
21	甕	口(15.0)	R多+W+W' 少	橙	口縁 15	No.23。
22	甕	口19.2	B+R+W多	明赤褐	口縁 90	No.13。
23	甕	口19.6 底7.5 高18.3 胴19.9	B+R多+W	橙	100	No.9。外面下半黒色
24	甕	口18.4	B+R+W+W'	橙	口縁 100	No.12。
25	甕	口19.0 底7.7 高28.4 胴24.0	B+R+W+砂少+礫少	にふい橙	80	No.19・カマド。底部周辺に粘土貼付 胴部外面に黒色部分



#### 第57号住居跡

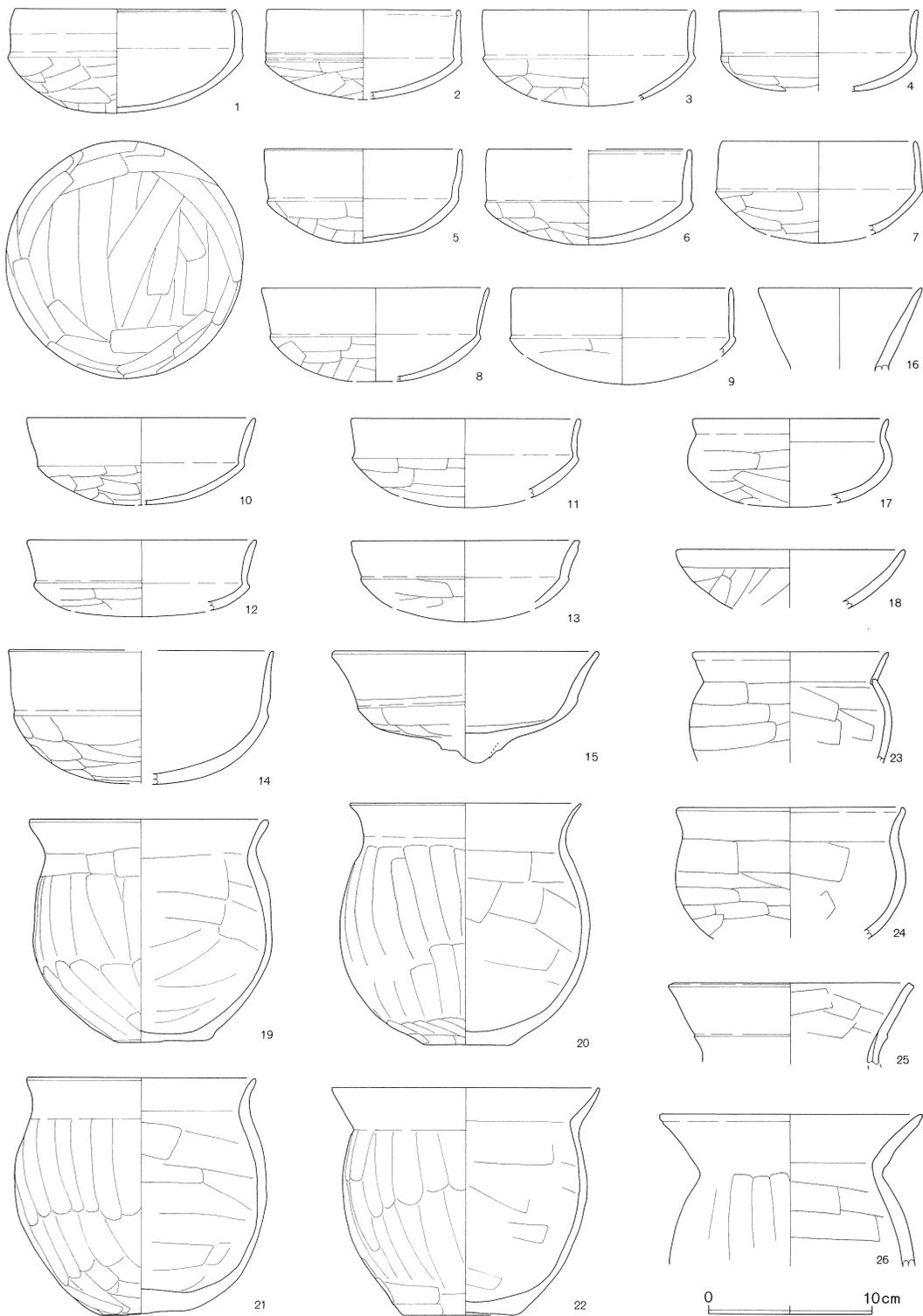
- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 3 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。部分的に白色粘土混入。しまりあり。
- 4 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 5 茶褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 6 灰褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり、粘性弱。
- 7 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干、焼土ブロック少量含む。しまりあり。
- 8 褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 9 赤褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック多く含む。
- 10 黒褐色土 炭化物層。焼土・炭化物粒子多く含む。しまり弱。

#### 第57号住居跡貯蔵穴

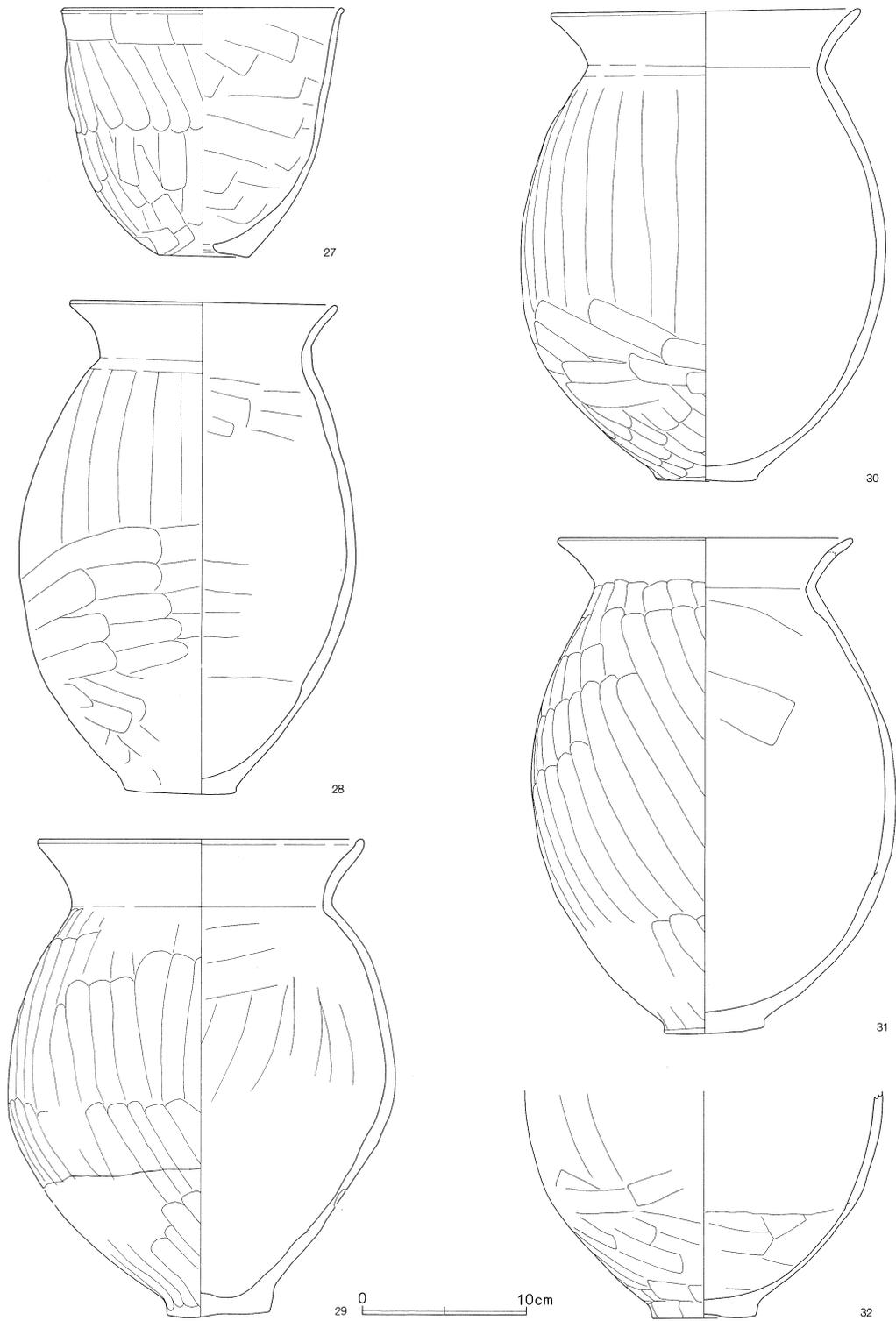
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。黄褐色土ブロックが混入。しまりあり。
- 3 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物多く含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒子、炭化物多く含む。
- 5 灰褐色土 灰色粘土ブロック混入。粘性あり。
- 6 黄褐色土 灰色粘土ブロック、炭化物多く含む。粘性あり。
- 7 暗褐色土 焼土粒子、炭化物多く含む。

第344図 第57号住居跡(1)

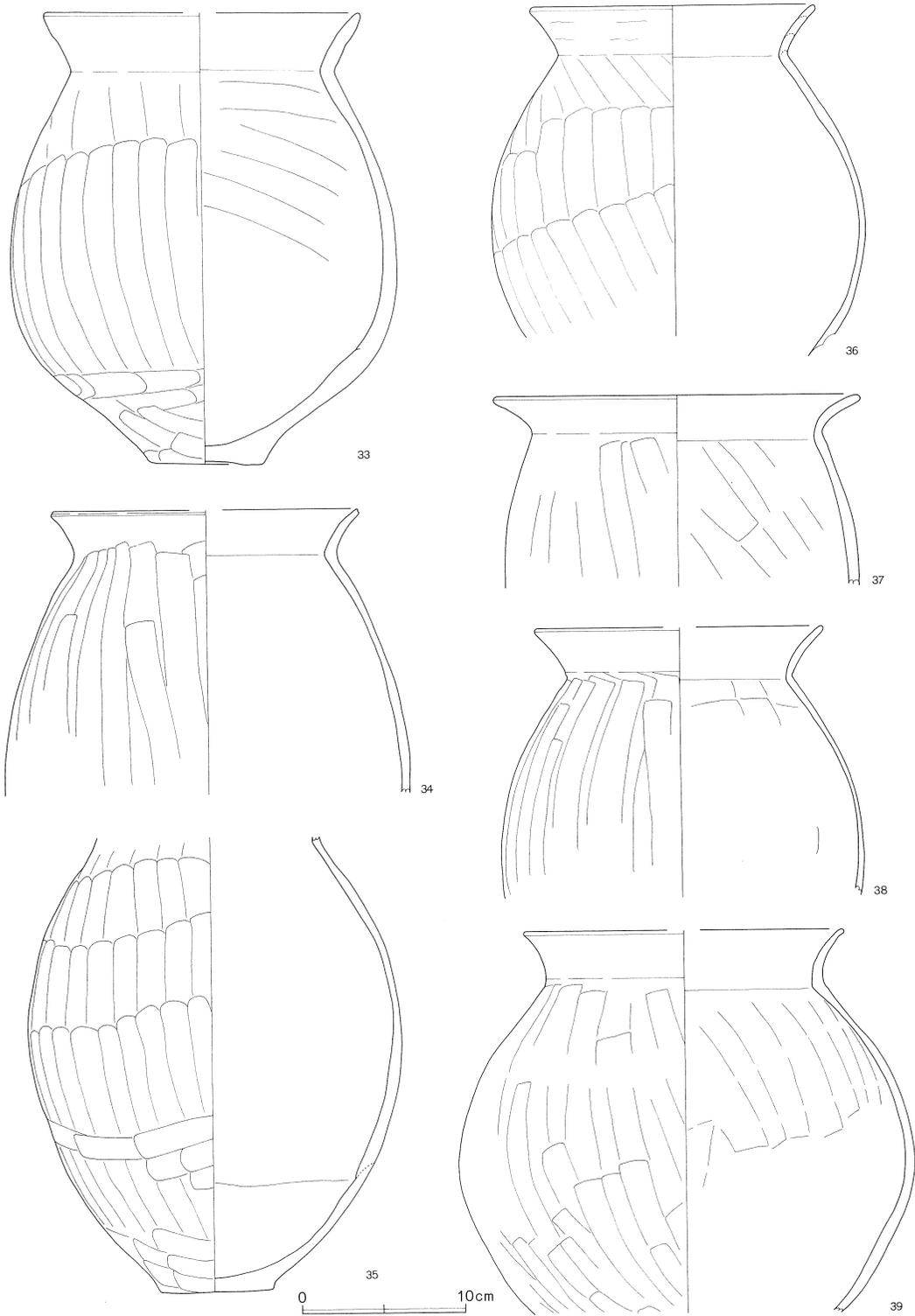




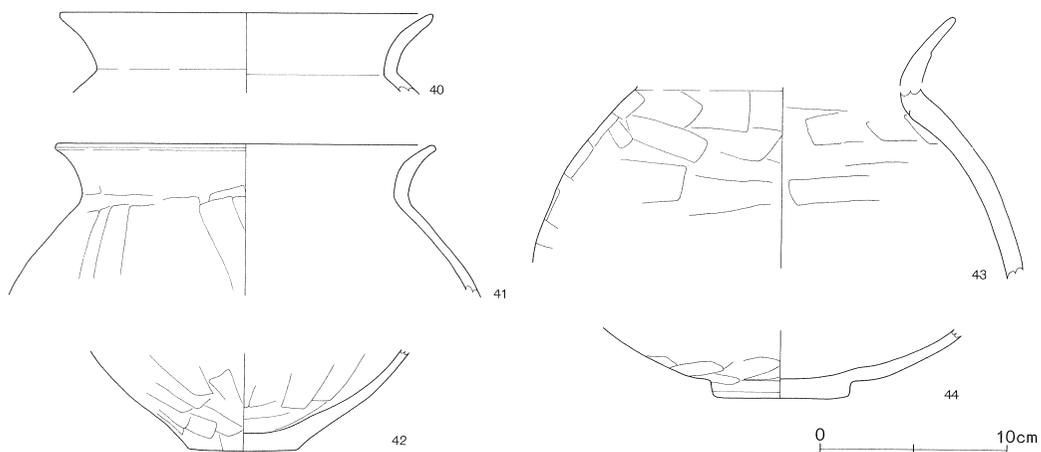
第346図 第57号住居跡出土遺物(1)



第347図 第57号住居跡出土遺物(2)



第348図 第57号住居跡出土遺物(3)



第349図 第57号住居跡出土遺物(4)

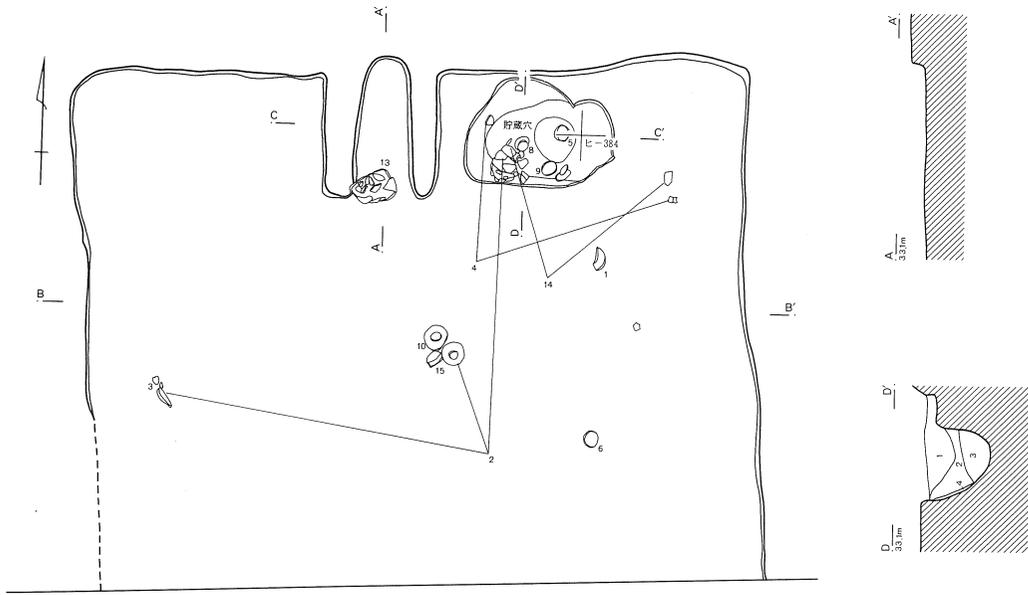
第57号住居跡(第346~349図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.4 高6.4	B+R多+W少	橙	95	No.17・19・20。口縁端部面トリ
2	坏	口(12.0) 高(5.5)	B+R多+W	橙	25	No.16。口縁端部内側に折り返す
3	坏	口(13.0)	B+W+W' 少	橙	30	風化
4	坏	口(12.2)	B+R多+W	橙	20	No.2。
5	坏	口12.1 高5.7	B多+R多+W	橙	55	No.13・14。外面黒色部分
6	坏	口(12.5) 高5.8	B+R多+W少	橙	25	No.18。外面黒色部分
7	坏	口(12.0)	B+R多+W	橙	40	No.25。
8	坏	口(14.0) 高(5.7)	B+R多+W	橙	40	内面風化著しい
9	坏	口(13.6)	R多+W	にふい黄橙	口縁 20	風化著しい
10	坏	口(14.0) 高5.3	B少+R多+W	橙	20	No.8。風化著しい
11	坏	口(14.0)	B+R多+W少	橙~黒	20	口縁端部面トリ 風化著しい
12	坏	口(12.0)	B+R多+W	橙	20	No.9。風化
13	坏	口(14.0)	B+R多+W	橙~にふい黄橙	10	口縁端部面トリ
14	坏	口(16.1) 高8.2	B+R+W	(内)浅黄橙 (外)橙~にふい橙	30	No.4。内外面黒色部分
15	高坏	口16.3	B+R多+W	明赤褐	坏部 70	No.71~73。坏部内外面黒色部分
16	壺	口(10.0)	R+W少	にふい橙	口縁 25	風化著しい
17	椀	口(12.0)	R多+W少+W' 少	橙	20	
18	坏	口(14.0)	R多+W少	橙	30	No.28。風化著しい

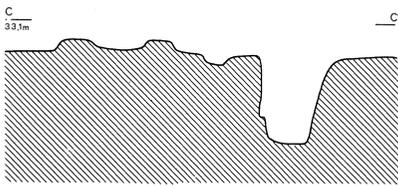
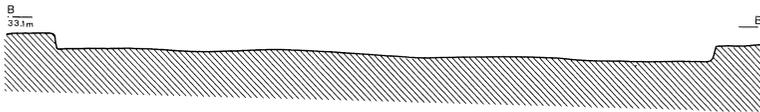
19	小型甕	口14.1 底15.6 高13.6 胴14.6	B多+R多+W+砂多+ 礫多	(内)明赤褐 (外)浅 黄橙～橙	95	No.33。底部周辺に粘土貼付 胴部外面 黒色部分
20	小型甕	口14.2 底5.1 高14.7 胴15.3	B+R多+W	橙	95	No.50・58。風化著しい
21	小型甕	口(14.0) 底5.2 高14.5 胴15.3	B+R+W+砂少+礫少	(内)橙 (外)赤～にふい橙	70	No.41。胴部外面黒色部分
22	小型甕	口16.4 底6.4 高13.9	B+R多+W+W'+砂少+ 礫少	橙	90	No.57。
23	小型甕	口(12.0) 胴(12.4)	R+W多	(内)橙 (外)にふい赤褐	20	No.29。口縁端部外面弱いヘラアテ 器面粗
24	鉢	口(14.0) 胴14.0	R多+W	橙	40	No.59。口縁端部ヘラアテ
25	壺	口(15.0)	R多+W	にふい橙	口縁 25	口縁端部ヘラアテ・面トリ 風化著しい
26	甕	口(14.0)	R少+W少+礫多	橙～灰白	口縁 5	No.38・42・43。口縁端部弱いヘラアテ
27	甕	口17.2 底5.4 高15.1	B+R+W少+W'少	橙	95	No.28。胴部外面黒色部分
28	甕	口16.3 底6.7 高29.9 胴20.5	B+R多+W多+砂少	(内)橙 (外)橙～褐	60	No.12。胴部外面下半位黒色
29	甕	口19.8 底6.3 高29.1 胴23.5	B+R+W+砂少+礫少	(内)にふい橙 (外)にふい橙～橙	80	No.47・51・54・64。粘土紐積み上げ痕
30	甕	口18.8 底6.0 高28.6 胴22.2	B+R多+W+W'+砂少	(内)橙 (外)橙～にふい橙	80	No.1。胴部外面黒色部分
31	甕	口18.0 底6.1 高30.1 胴22.2	B+R多+W多+砂少+ 礫少	(内)にふい橙～に ふい褐 (外)にふい 黄橙～橙	75	No.9。胴部外面下半黒色
32	甕	底6.3	B+R+W+砂少	(内)にふい黄橙 (外)にふい橙	20	No.69。胴部外面黒色部分
33	甕	口(19.4) 底7.2 高27.5 胴23.5	B+R多+W多+W'+砂 多	橙	40	No.39・44。胴部外面黒色部分
34	甕	口(18.8) 胴(24.7)	B+R多+W多+W'+砂 少	(内)にふい褐～に ふい橙 (外)にふい黄橙	25	No.24。
35	甕	底6.9 胴22.7	B多+R多+W+W'+砂 少	(内)灰褐 (外)浅黄 橙～にふい褐	70	No.69。胴部外面下半黒色
36	甕	口17.5 胴22.8	B+R多+W少+W'少	橙	40	No.37。胴部外面黒色部分
37	甕	口(22.4)	B多+R+W+砂少	にふい橙	口縁 15	
38	甕	口17.6 胴(22.2)	B+R+W+砂多+礫多	にふい黄橙	25	No.26。口縁部内面黒色部分
39	甕	口(19.6) 胴27.9	B+R+W+W'+砂少	(内)にふい黄橙～ 橙 (外)橙～明赤褐	20	No.72。胴部外面黒色部分
40	甕	口(20.0)	W+礫多	にふい橙	口縁 30	No.58。
41	甕	口(20.4) 胴(25.2)	B多+R多+W+砂少	(内)橙 (外)橙	口縁 25	No.68。
42	甕	底5.8	B多+R多+W	(内)橙 (外)橙～に ふい黄橙	底部 60	No.23。内外面黒色部分
43	甕		B+R多+W	(内)灰黄橙 (外)明黄橙	胴部 20	No.3。
44	壺	底7.4	B+R+W+W'+砂少+礫 少	(内)にふい黄橙 (外)にふい橙	底部 80	No.52。外面黒色

### 第58号住居跡 (第350図)

エ—383・384、ヒ—383・384Gridに位置し、南側は発掘区域外にかかっている。土取りによつて床面近くまで削平され、遺存状態はきわめて悪い。規模は東西5.38m、深さ0.06～0.11mで、主軸方位はN—7°—Wを測る。カマドは北壁に構築され、全長1.14、焚き口幅0.50mの規模をもつ。



発掘区域外



第58号住居跡

- 1 褐色土 炭化物粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土 焼土粒子(3~5mm)、炭化物粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 焼土粒子(5~15mm)多量、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗褐色砂 炭化物粒子(10mm)少量含む。しまりあり、粘性弱。

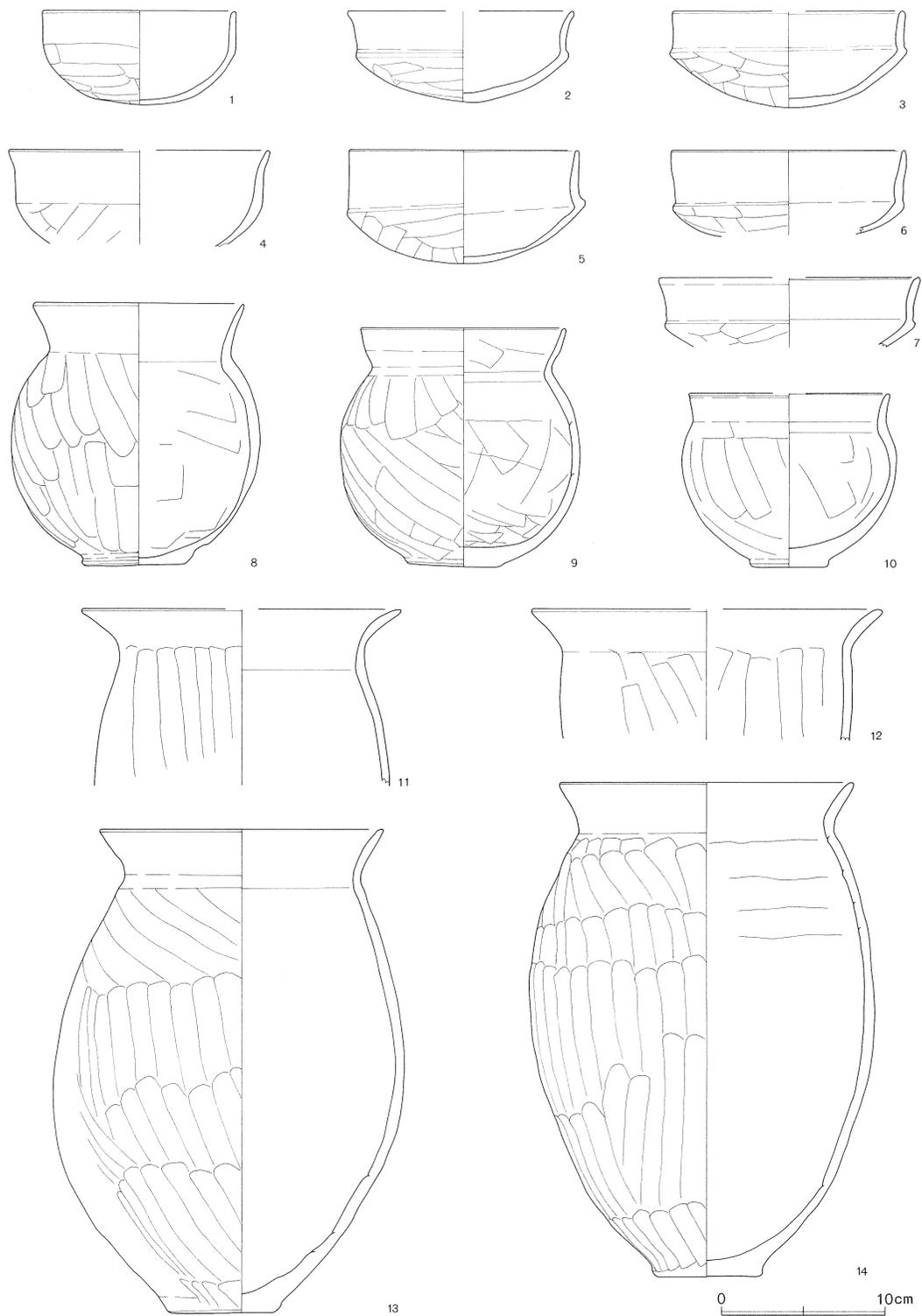


第350図 第58号住居跡

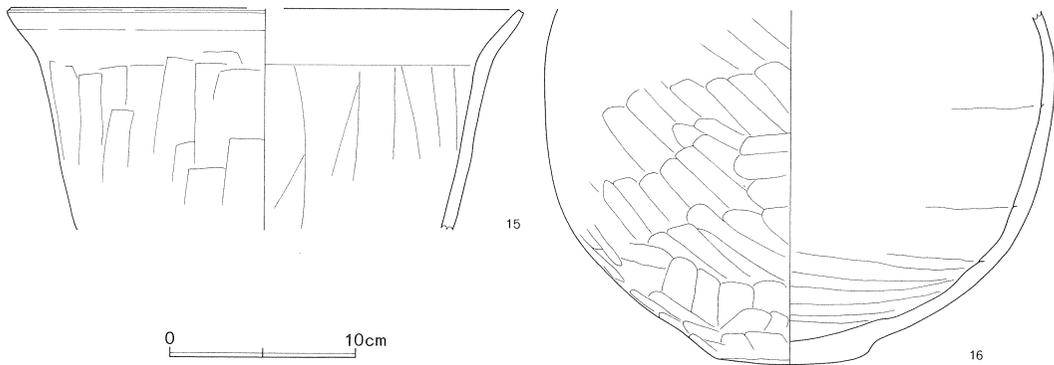
袖部は地山を掘り残し、やや「ハ」の字に開いている。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置されている。南北0.87m・東西1.18m、深さ0.74mを測る不整形を呈している。壁溝・ピットは検出されていない。暗茶褐色の貼床が施されているが、あまり明瞭ではない。遺物はカマド・貯蔵穴および中央部から出土している。

第59・76号住居跡 (第353図)

セー383・384、スー383・384Gridに位置し、噴砂の亀裂が東西方向に走っている。第59・76号住居跡の新旧関係は、第59号住居跡が第76号住居跡よりも新しい。また第59号住居跡は北西コーナー部を第10号土坑に切られ、西壁の南半部を方形の攪乱によって侵されている。



第351图 第58号住居跡出土遺物(1)

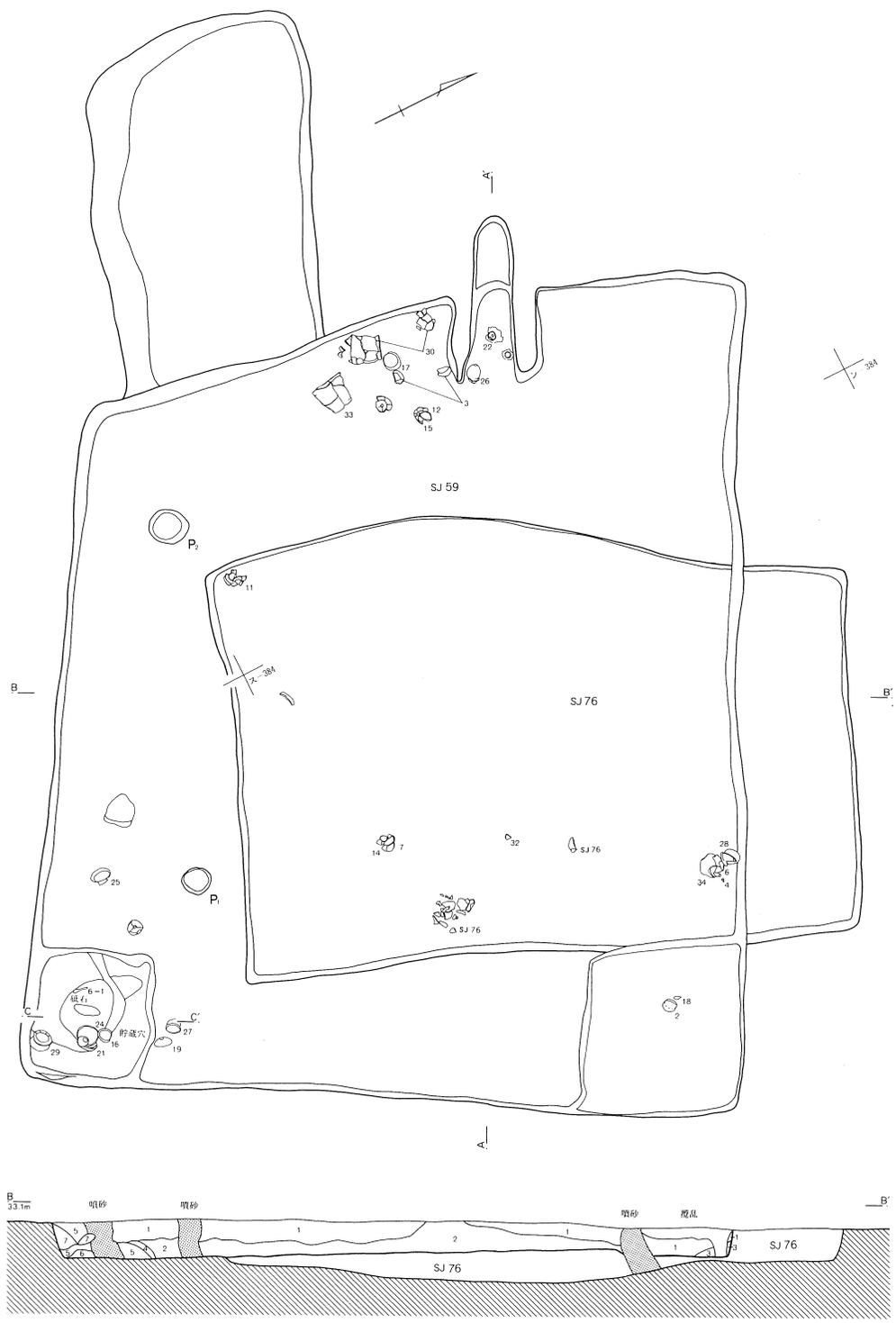


第352図 第58号住居跡出土遺物(2)

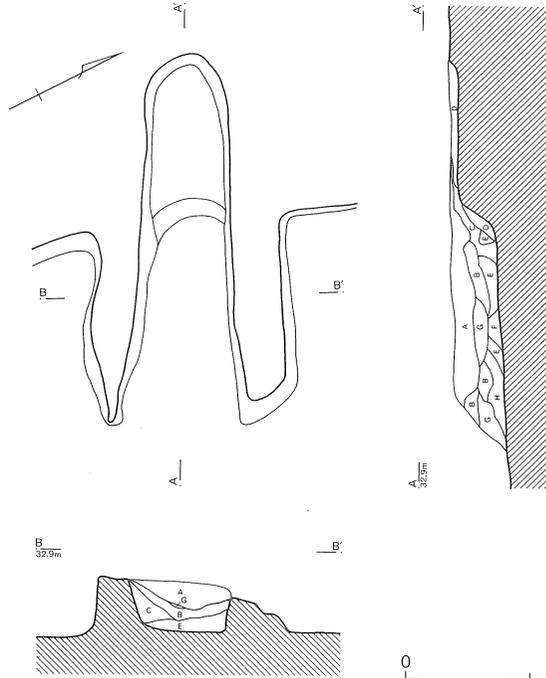
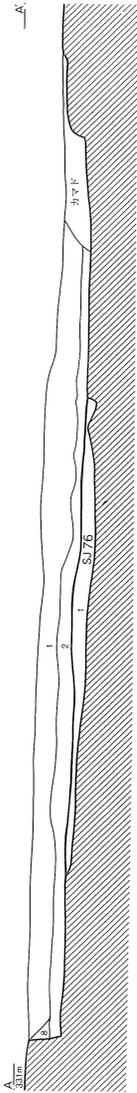
第58号住居跡(第351・352図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.8 高5.7	B+R多	(内)橙 (外)にふい橙	85	No.3. 外面に黒色部分
2	坏	口(13.8) 高5.6	B+R多	橙	50	No.8・10・12.
3	坏	口(14.2) 高5.8	B+R+W少+W' 少	橙	70	No.10. 外面に黒色部分
4	坏	口(16.0)	B+R+W少+砂少	(内)にふい橙 (外)にふい橙~橙	20	No.2・14.
5	坏	口14.0 高6.9	B多+R+W多	橙	100	No.15. 口縁端部面トリ 外面に黒色部分
6	坏	口14.3	B+R多+W	橙	40	No.5. 口縁端部面トリ
7	坏	口(16.0)	B+R多+W	橙	15	口縁端部面トリ
8	甕	口12.9 底6.4 高15.9 胴15.2	B+R+W+砂少+礫少	(内)明赤褐 (外)にふい橙	95	No.7. 内外面に黒色部分
9	甕	口12.5 底5.6 高14.6 胴14.5	B+R多+W	(内)橙 (外)橙~にふい橙	100	No.16. 胴部外面に黒色部分
10	鉢	口(12.2) 底4.8 高10.6 胴13.1	B+R+W	橙	70	No.11. 胴部外面に黒色部分
11	甕	口(19.5)	B+R+W+砂少	(内)にふい橙 (外)橙	口縁 15	
12	甕	口21.4	B+R+W	橙	口縁 15	
13	甕	口17.2 底6.7 高29.4 胴21.4	B多+R+W+砂少+礫少	橙	70	No.9. 胴部外面に黒色部分
14	甕	口17.9 底6.6 高30.1 胴21.0	B+R多+W+砂少+礫少	橙	90	No.1・8. 胴部外面に黒色部分
15	甕	口(27.5)	B多+R多+W	橙	口縁 25	No.13.
16	壺	底8.0 胴27.6	B+R+W+砂少+礫少	(内)橙 (外)灰褐	30	外面黒色

第59号住居跡は台形を呈し、主軸辺5.96~7.45m・南北6.06m、深さ0.26~0.31mの規模を有している。主軸方位はN-60°-Wを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは西壁に構築され、全長1.50m、焚き口幅0.46mである。袖部は地山を掘り残し、「ハ」の字にわずかに開いている。火床面はきわめてよく焼け、急激に立ち上がって煙道部へ続いている。貯蔵



第353图



第59号住居跡カマド

- A 褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- B 赤褐色土 焼土ブロック多量、焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- C 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- D 黄褐色土 焼土粒子わずかに含む。しまりあり。
- E 黒褐色土 炭化物層。焼土粒子多く含む。しまり弱。軟質。
- F 茶褐色土 焼土粒子わずかに含む。しまり・粘性あり。
- G 暗赤褐色土 Bより炭化物粒子多量含む。
- H 灰褐色土 砂質。焼土・炭化物粒子多量含む。しまりあり。

第59号住居跡

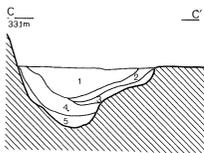
- 1 褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 4 黄褐色土 黄褐色土ブロック状堆積。焼土・炭化物粒子若干含む。しまり・粘性あり。
- 5 褐色土 黄褐色土ブロック状、焼土・炭化物粒子多く含む。しまり・粘性あり。
- 6 褐色土 5より焼土ブロック多い。しまり・粘性あり。
- 7 暗褐色土 焼土・炭化物粒子・ブロック多く含む。黄褐色土が部分的混入。しまり・粘性あり。

第76号住居跡

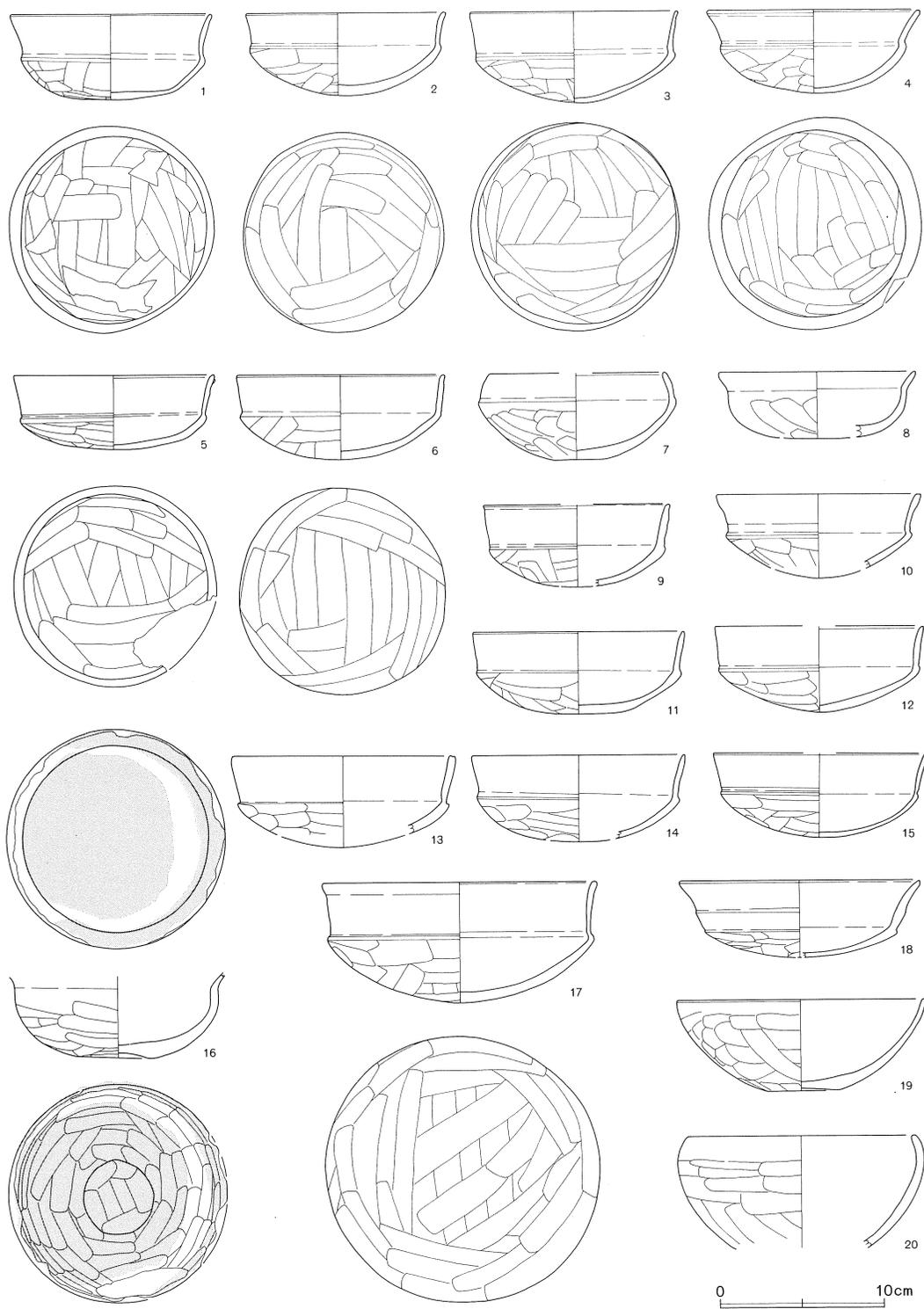
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。

第59号住居跡貯蔵穴

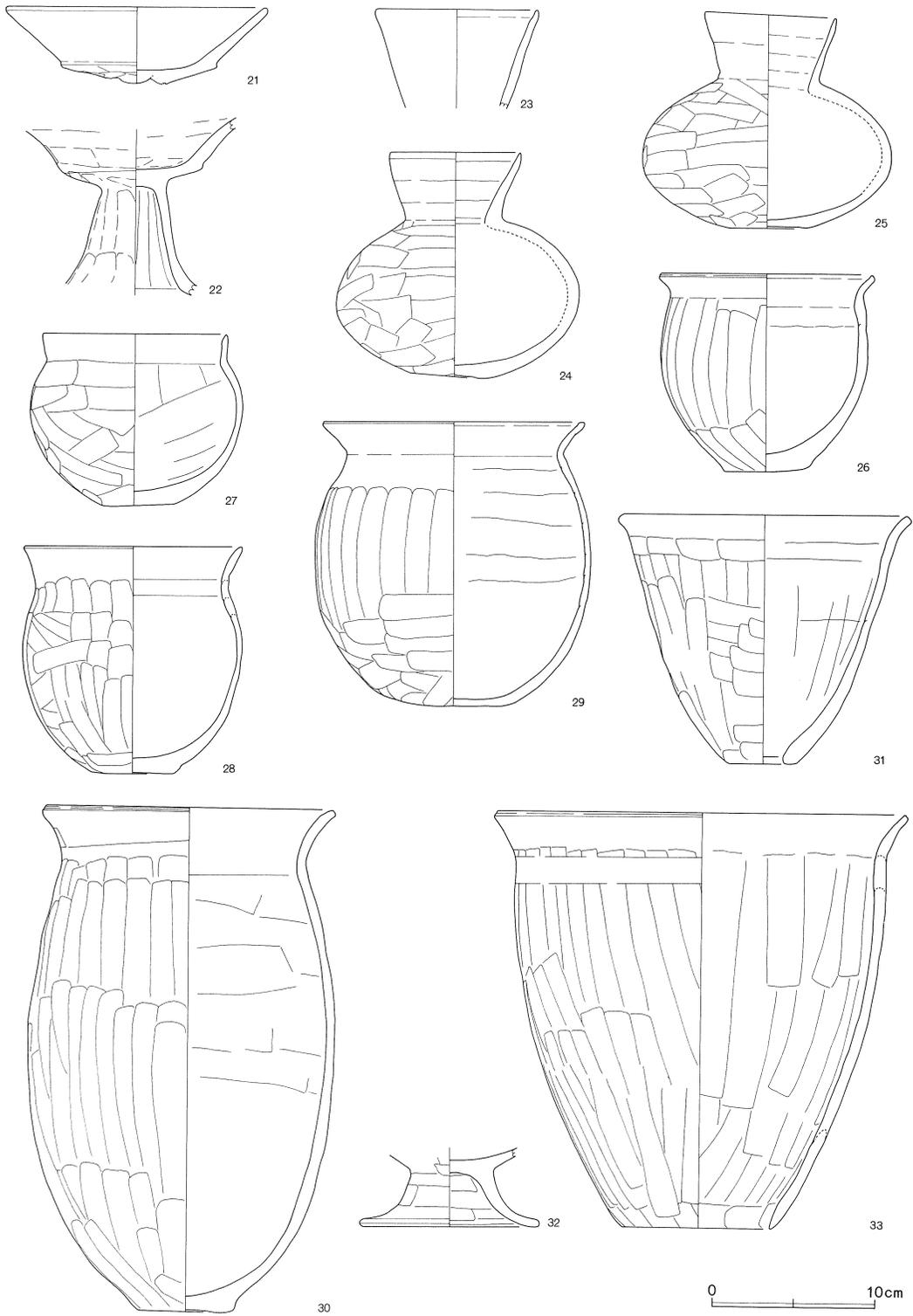
- 1 茶褐色土 焼土粒子(10mm)、多量の炭化物粒子(3~10mm)含む。しまり・粘性あり
- 2 暗茶褐色土 炭化物粒子(5~15mm)極多量含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 炭化物微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗褐色土 焼土粒子(3mm)、炭化物粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 5 褐色土 3に炭化物微粒子、細粒砂含む。しまり・粘性あり。



第59・76号住居跡



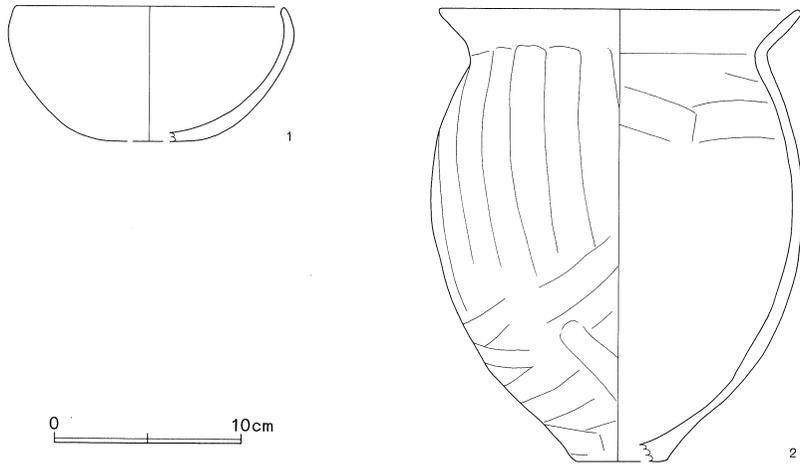
第354图 第59号住居跡出土遺物(1)



第355図 第59号住居跡出土遺物(2)

第59号住居跡 (第354・355図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.3 高5.2	B+R+W	黄橙	90	口縁端面トリ
2	坏	口12.1 高5.0	B+R多+W	明赤褐	90	No.1. 外面に黒色部分
3	坏	口12.6 高5.5	B+R+W	橙	90	No.17・22. 外面に黒色部分
4	坏	口12.9 高5.1	B+W	(内)橙 (外)にふい橙	95	No.4. 口縁端部に沈線
5	坏	口12.2 高4.5	B+R+W	(内)明赤褐 (外)橙	90	No.3. 口縁端面トリ
6	坏	口12.7 高5.1	B+R多+W	橙	95	No.4. 口縁端面トリ 風化
7	坏	口(10.7) 底3.0 高5.3	B+R多+W+W'	(内)にふい赤褐 (外)にふい橙	70	No.6. 底部ケズリ 口縁部内外面黒色
8	碗	口(12.0)	W少	橙～褐灰	20	風化が著しい
9	坏	口(11.2)	B+R多+W	にふい橙	40	口縁端面トリ
10	坏	口(12.4)	W+礫少	橙	25	口縁端面トリ
11	坏	口12.8 高5.0	B多+R+W	にふい橙	80	No.13. 外面に黒色部分
12	坏	口(12.6) 高5.2	B+R多+W	橙	75	No.16. 外面に黒色部分
13	坏	口(13.6)	R多+W少	浅黄橙	30	口縁端面トリ
14	坏	口12.9	B+R+W少	橙	80	No.6. 口縁端面トリ
15	坏	口(13.0) 高5.1	B+R多+W	橙	50	No.16. 口縁端面トリ 外面に黒色部分
16	碗		B+W	明赤褐	95	No.28. 外面剥離 重ね焼きの痕跡
17	坏	口16.7 高7.3	B+R+W	橙	100	No.18. 口縁端面トリ
18	坏	口14.6	B多+R+W	にふい黄橙	70	No.2. 口縁部内外面に黒色部分
19	坏	口15.1 底4.4 高5.5	B+R+W+W' 少	赤	90	No.8. 内外面とも半分が黒色
20	碗	口(14.0)	W+礫少	橙～にふい黄橙	20	口縁端面トリ
21	高坏	口16.0	B+R+W	赤	90	No.30. 内外面に黒色部分
22	高坏		B+R+W	(内)にふい橙 (外)橙	60	No.25.
23	埴	口(10.0)	R少	橙～にふい橙	口縁 30	
24	埴	口8.0 底4.8 高13.6 胴14.9	B+R+W+W'	橙	100	No.29. 胴部外面に黒色部分
25	埴	口8.0 底4.4 高13.0 胴15.2	B+R+W+W'	橙	95	No.11.
26	小型甕	口13.2 底4.9 高12.0	B+R少+W少	(内)にふい橙 (外) にふい橙～明赤褐	100	No.23. 風化
27	小型甕	口11.3 底4.3 高10.5 胴13.0	B+R+W	(内)にふい橙 (外)明赤褐	100	No.7. 黒色部分
28	小型甕	口13.3 底5.0 高13.9 胴13.4	B+R+W少	橙	80	No.3. 胴部外面に黒色部分
29	小型甕	口16.0 高17.3 胴16.9	B+R+W+砂少	(内)にふい橙～明 赤褐 (外)橙～にふい橙	95	No.9. 内外面に黒色部分 粘土紐積み上げ痕



第356図 第76号住居跡出土遺物

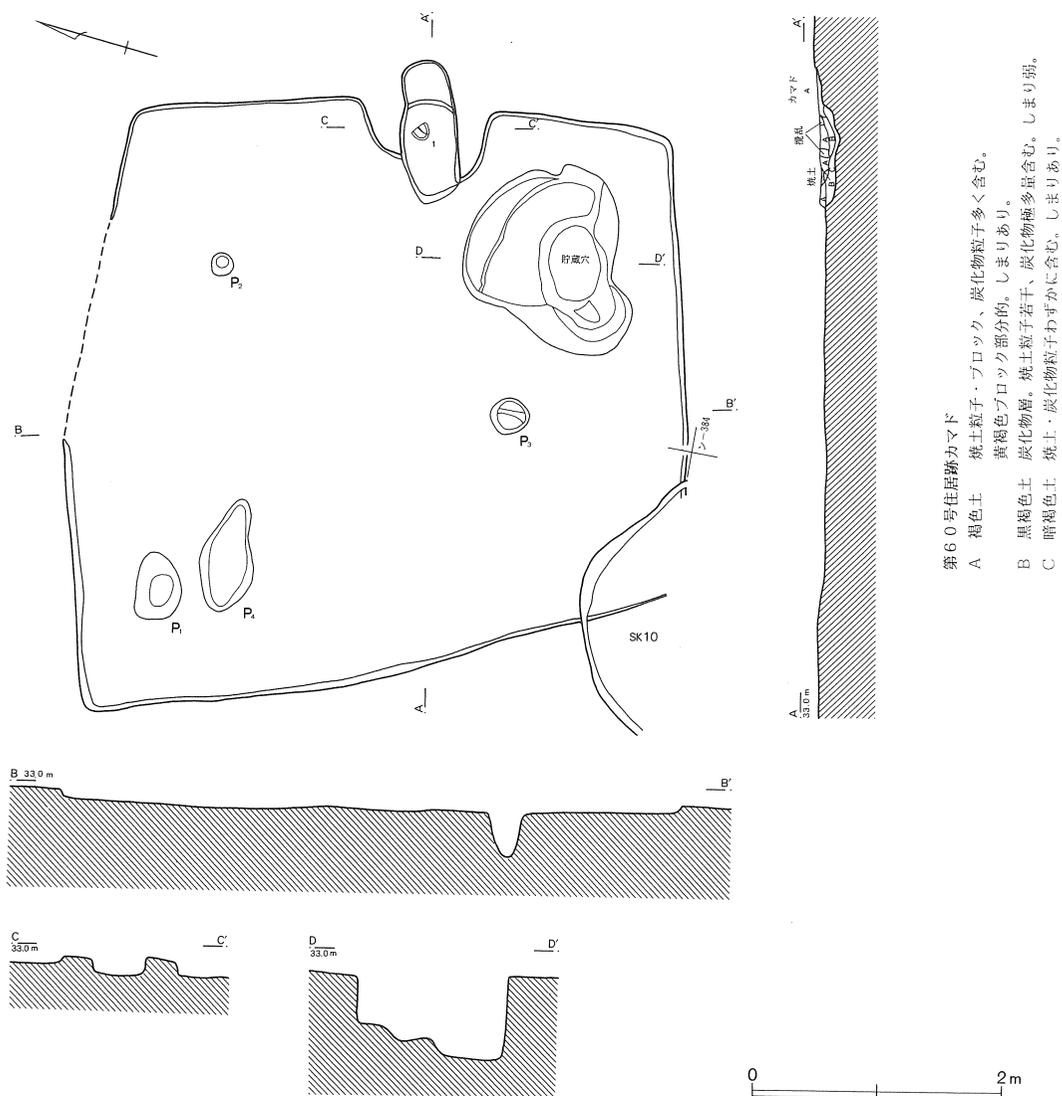
30	甕	口17.9 底5.9 高30.7 胴18.7	B+R+W+砂少+礫少	(内)にふい橙(外) にふい橙~浅黄橙	85	No.19・21。底部ケズリ 胴部外面に粘土 附着
31	甕	口17.9 底4.2 高15.2	B+R多	(内)橙 (外)橙~浅黄橙	85	No.4。外面に黒色部分
32	台付甕	脚11.0	B+R+W	明赤褐	30	No.5。
33	甕	口25.3 底9.0 高25.3	B+R+W少	橙	95	No.4。胴部外面に黒色部分

第76号住居跡(第356図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	椀	口(14.4)	B+W多+W'	黄橙~橙	50	風化が著しい
2	甕	口(19.2) 胴19.9	B+R+W+W'	にふい橙~浅黄橙	40	底部ケズリ 胴部内外面に黒色部分

穴は南東コーナー部に設置されている。方形で、南北1.22m・東西1.18m、深さ0.75mを測る。これに対応する北東コーナー部には、貯蔵穴と同規模の棚状の高まりが存在している。ピットは2基確認され、すべて柱穴である。全面に、焼土・炭化物が多量に混入されている貼床が施されている。遺物はカマド・貯蔵穴の周辺部から出土し、円孔の開けられている砥石1点が検出されている。また重ね焼きの痕跡が認められる椀形土器もみられる。ほかに縄物石1点が出土している。

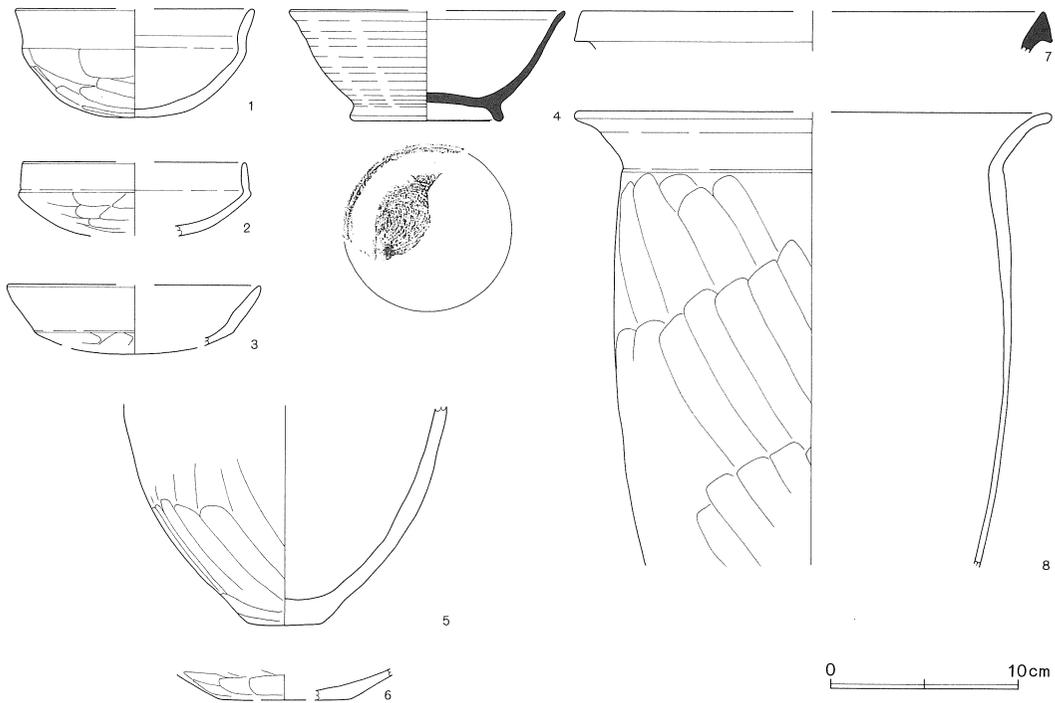
第76号住居跡は不整形を呈している。第59号住居跡が床面近くまで掘り込まれていたため、平面形態を確認することは困難であった。規模は南北5.51m・東西3.22~3.88m、深さ0.02~0.22mを測り、東壁をN-26°Eに向けている。壁はやや傾斜をもって立ち上がっている。壁溝・カマド・貯蔵穴・ピット等の施設は確認されていない。遺物は少なく、時期はカマドが設置される以前の段階のものとも考えられる。としても、炉跡は検出されていない。



第357図 第60号住居跡

第60号住居跡（第357図）

ン—383・384Gridに位置し、南西コーナー部を第10号土坑によって切られている。また床面近くまで削平され、遺存状態はきわめて悪い。いびつな台形を呈し、規模は主軸辺4.82~3.69m・南北5.00m、深さ0.33~0.58mである。主軸方位はN—83°—Eを測り、壁溝は廻っていない。カマドは東壁に構築され、全長1.14m、焚き口幅0.39mの規模である。地山を掘り残している袖部は左右の形状が異なっている。燃焼部は鶏卵形で、摺り鉢状に掘り窪められている。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に設置されている。南北1.21m・東西1.53m、深さ0.68mの不整形である。ピ



第358図 第60号住居跡出土遺物

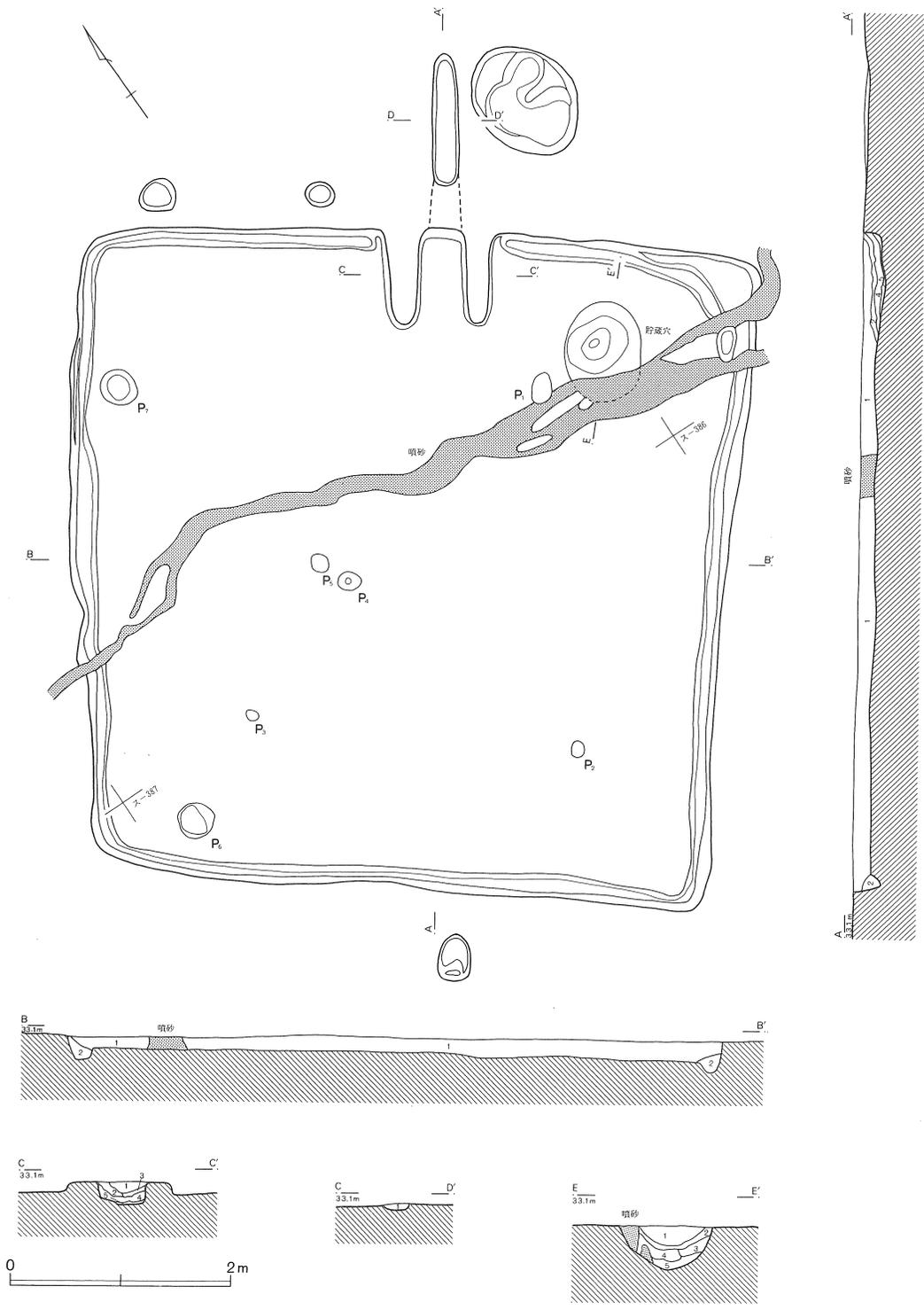
第60号住居跡 (第358図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.7) 高5.8	B+R+W+W'+砂多	橙	60	No.1.
2	坏	口(12.0)	B+R+W	橙	20	外面に黒色部分
3	坏	口(13.5)	B+R+W	橙	15	外面に黒色部分
4	高台付碗	口(14.7) 台8.2 高5.9	B+W多	褐灰橙	30	回転糸切り後、高台ナデツケ
5	甕	底4.0	B+R+W	(内)灰褐 (外)橙	15	内外面黒色
6	甕	底(7.2)	B+R+W	(内)にふい黄橙 (外)橙	底部 30	
7	壺	口(25.5)	B+W+W'	灰白	口縁 15	
8	甕	口(25.4)	B+R+W少	橙	20	胴部外面に黒色部分

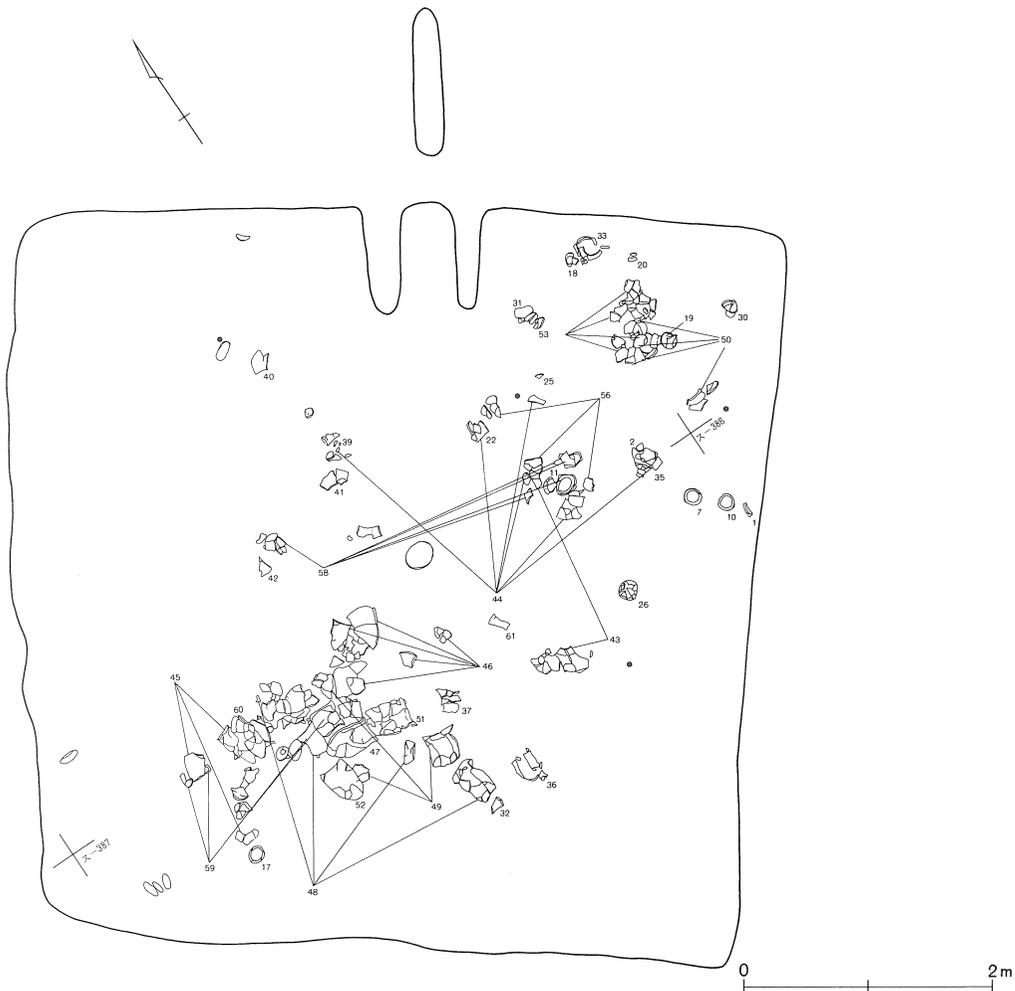
ットは4基検出され、P2・P4が柱穴と思われるが、あとの2基の用途は明確ではない。遺物は少なく、また後世のものも混入している。ほかに縄文土器1片が出土している。

第61号住居跡 (第359・360図)

セー385・386・387、スー385・386Gridに位置し、噴砂の亀裂が東西方向に走っている。その影



第359図 第61号住居跡(1)



第61号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒子微量、褐色土粒子多量含む。粘性弱。やや粗い。
- 2 暗褐色土 1より細かい。
- 3 暗赤褐色土 焼土層。ブロック状の焼土。暗褐色土・灰粒子混入。
- 4 黒褐色土 炭化物層。焼土少量含む。
- 5 褐色土 灰粒子多量含む。

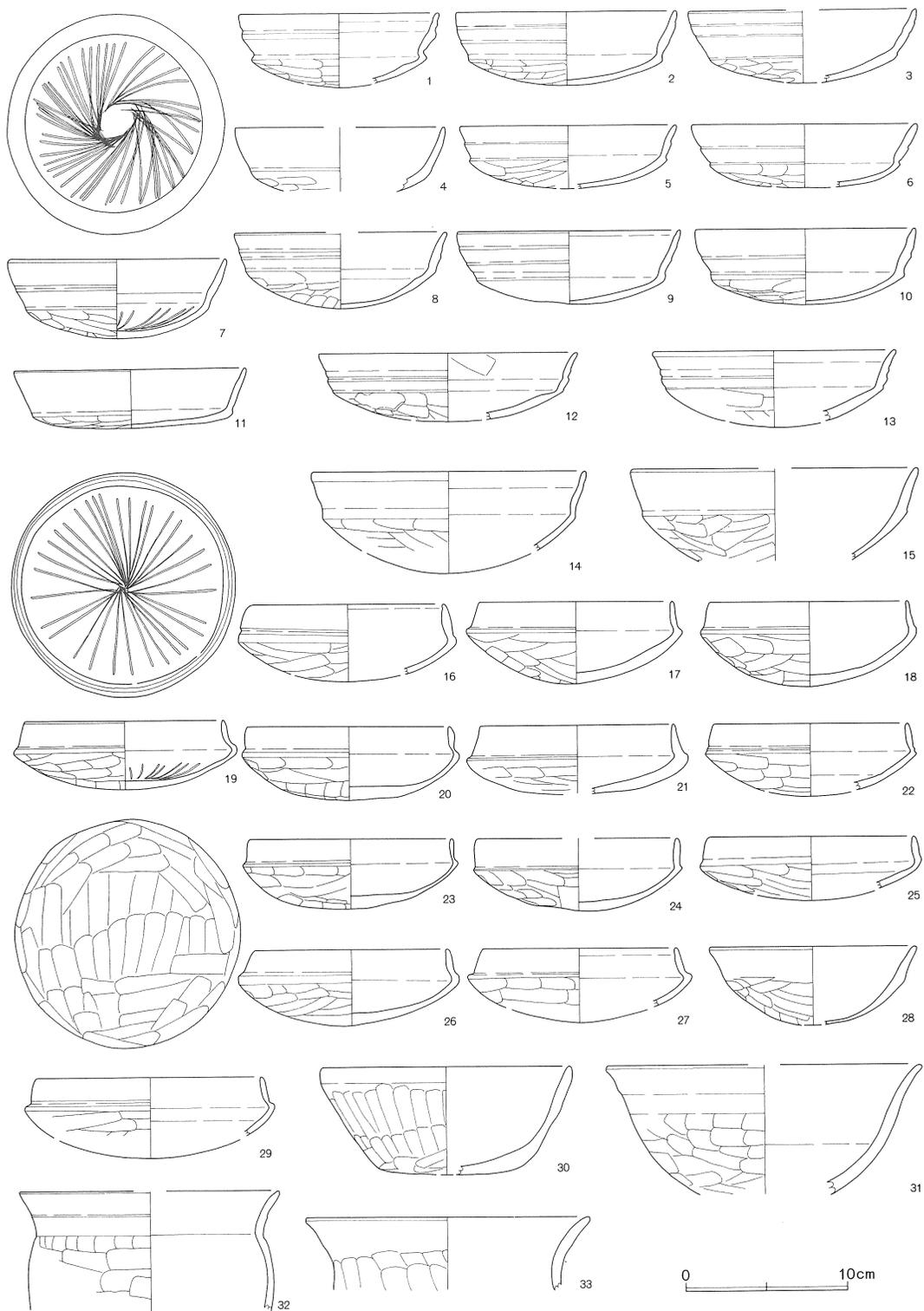
第61号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土粒子微量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり。やや砂質。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量含む。砂質強。
- 4 褐色土 3よりやや砂質弱。
- 5 灰黄褐色土 炭化物粒子微量含む。やや砂質。

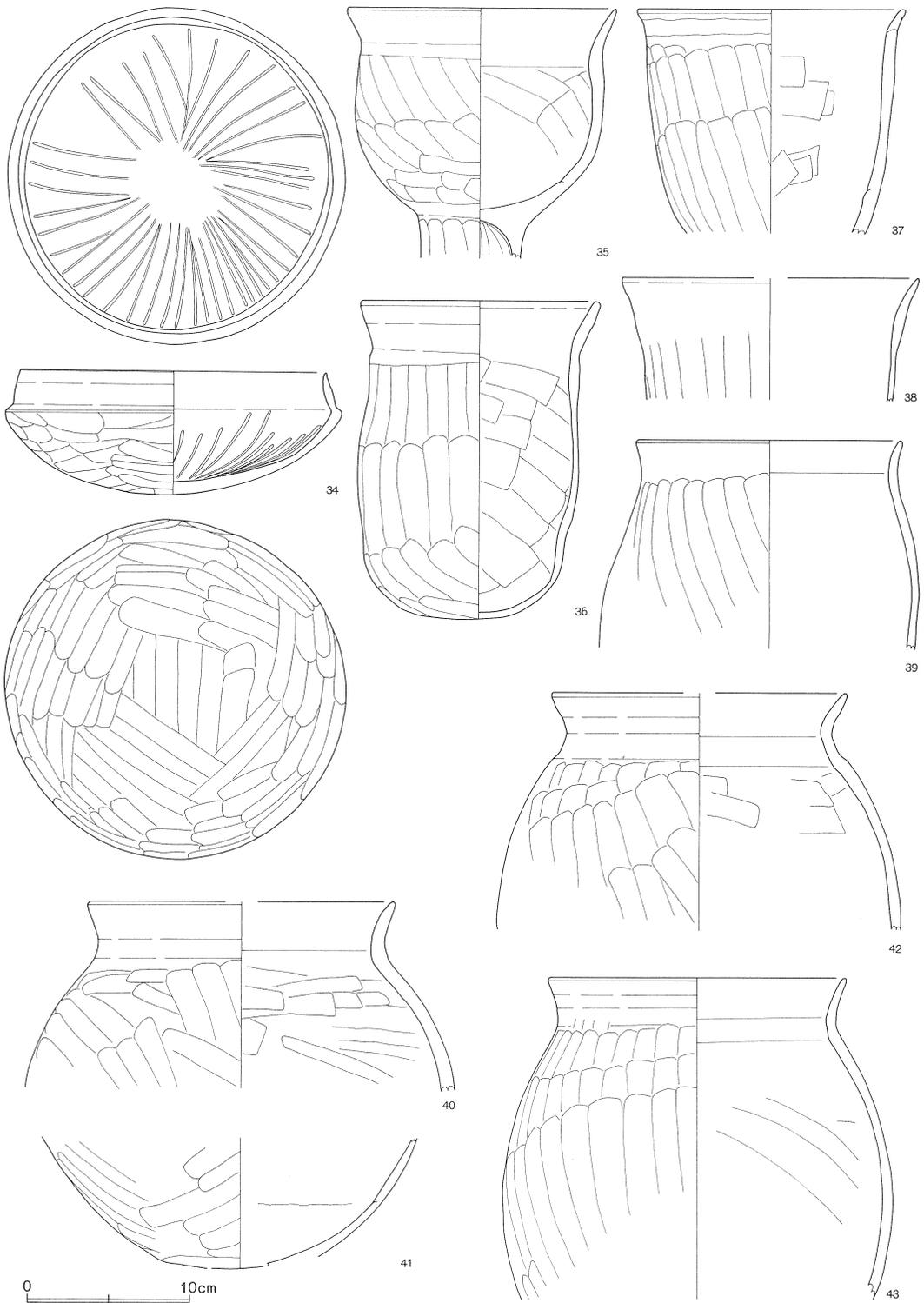
第360図 第61号住居跡(2)

第61号住居跡(第361~366図)

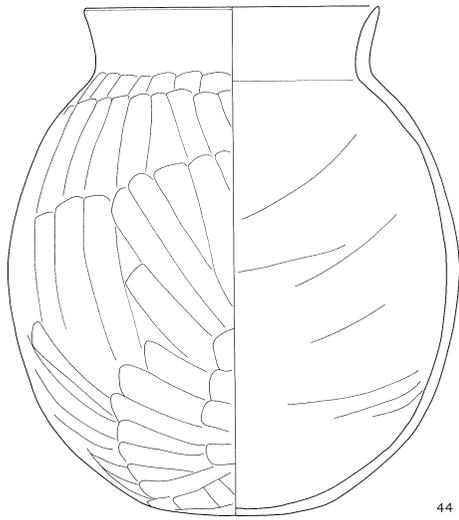
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.4)	B+W	橙	30	No.13。
2	坏	口13.6 高4.5	B+R+W	橙	95	No.16。内外面黒色部分
3	坏	口(14.1)	B+R多+W	橙	20	内面黒色部分
4	坏	口(13.0)	B+R+W	にふい橙	30	内面黒色部分
5	坏	口(13.4) 高(3.9)	R+W少	浅黄橙~黒	10	



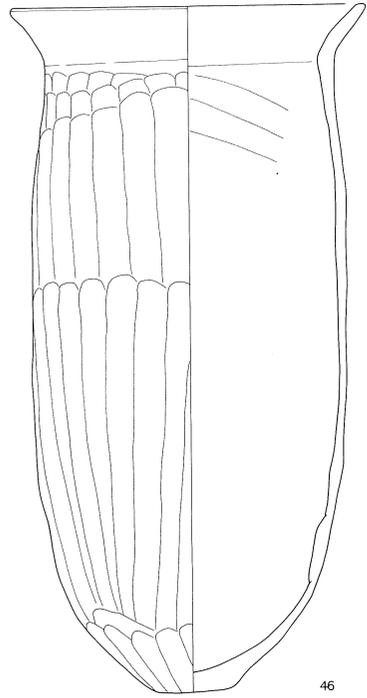
第361图 第61号住居跡出土遺物(1)



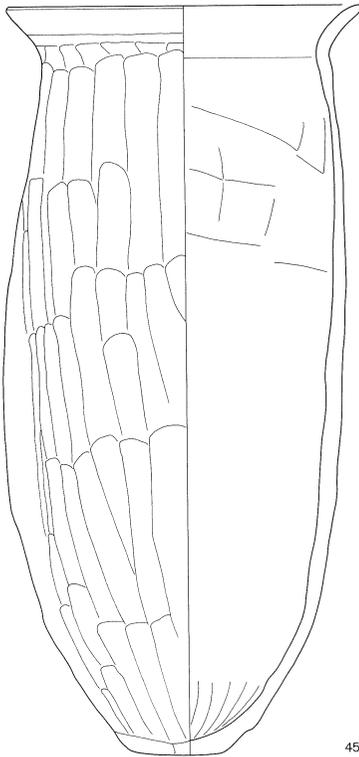
第362图 第61号住居跡出土遺物(2)



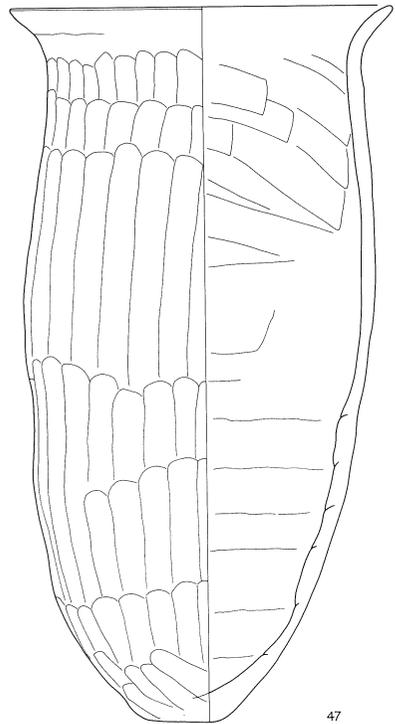
44



46



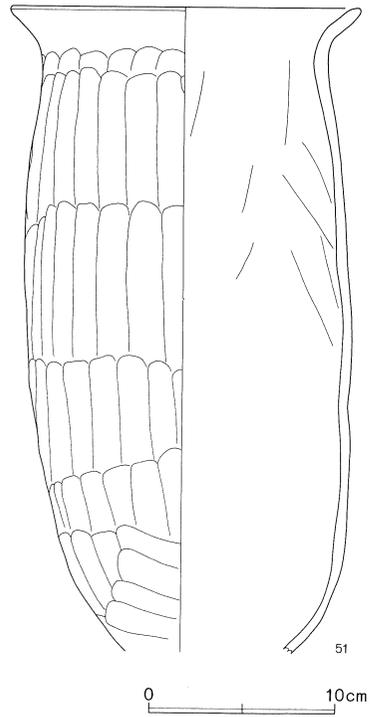
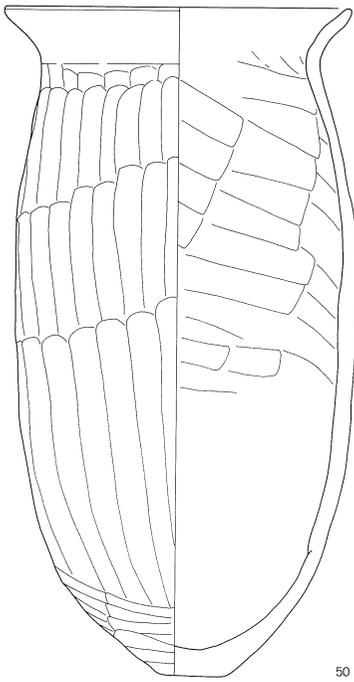
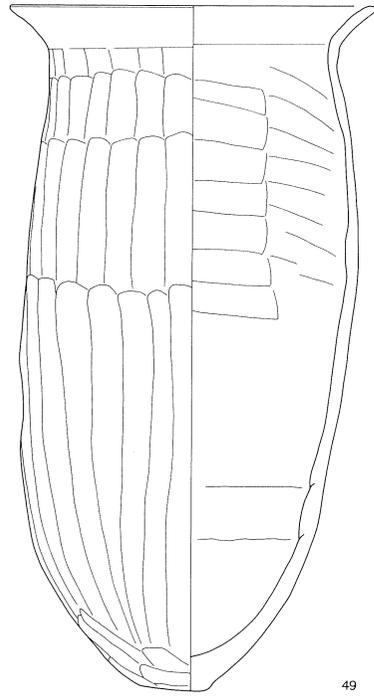
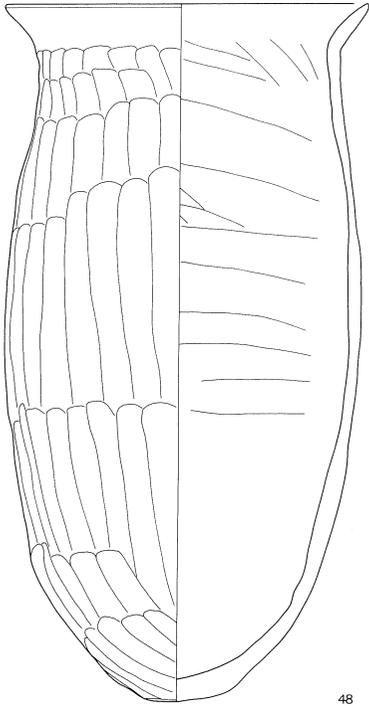
45



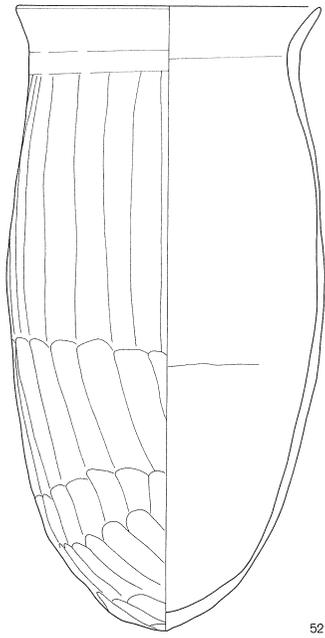
47

0 10cm

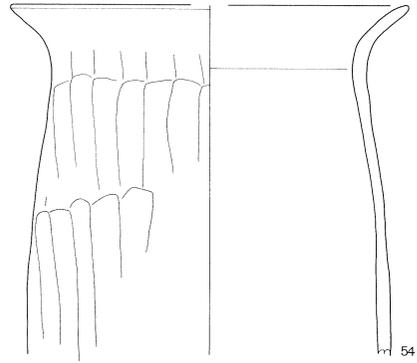
第363図 第61号住居跡出土遺物(3)



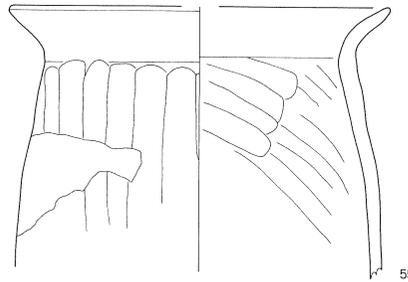
第364図 第61号住居跡出土遺物(4)



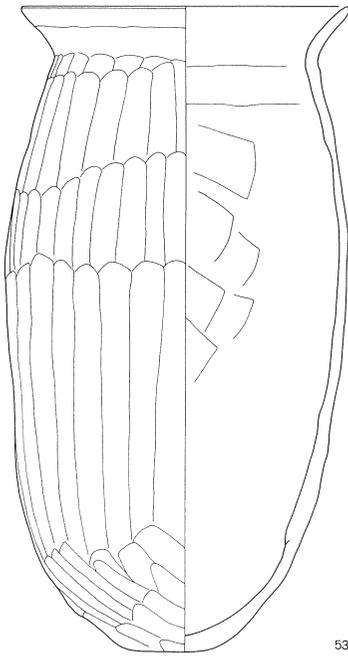
52



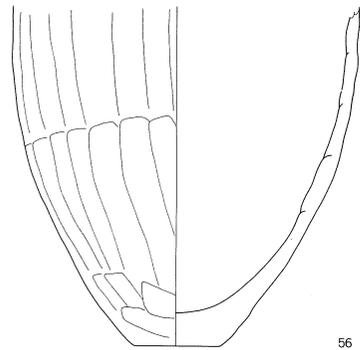
54



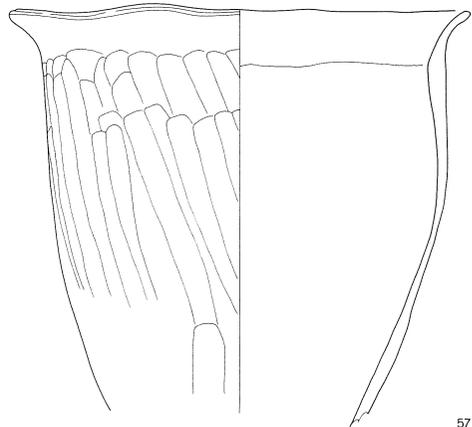
55



53



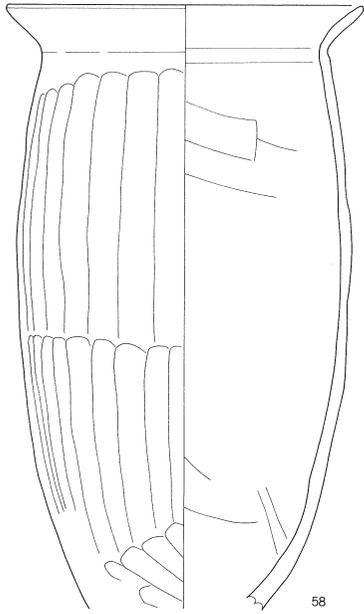
56



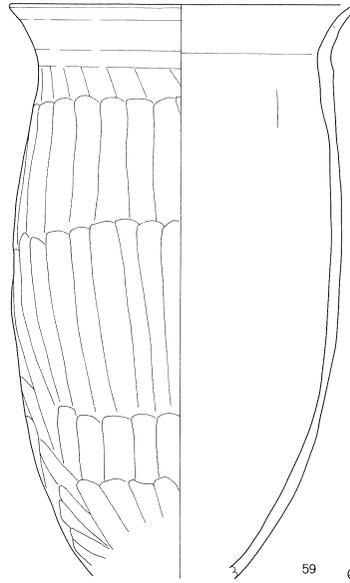
57

0 10cm

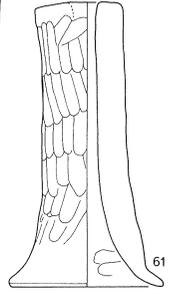
第365图 第61号住居跡出土遺物(5)



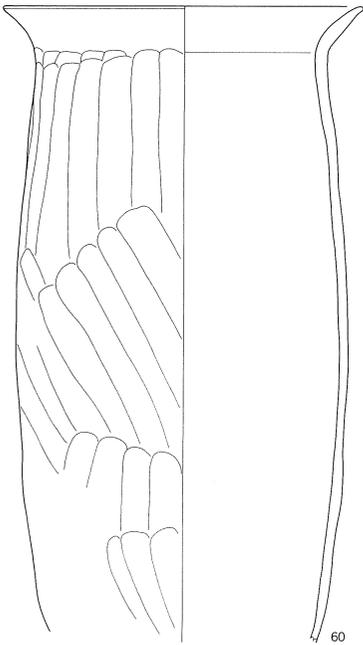
58



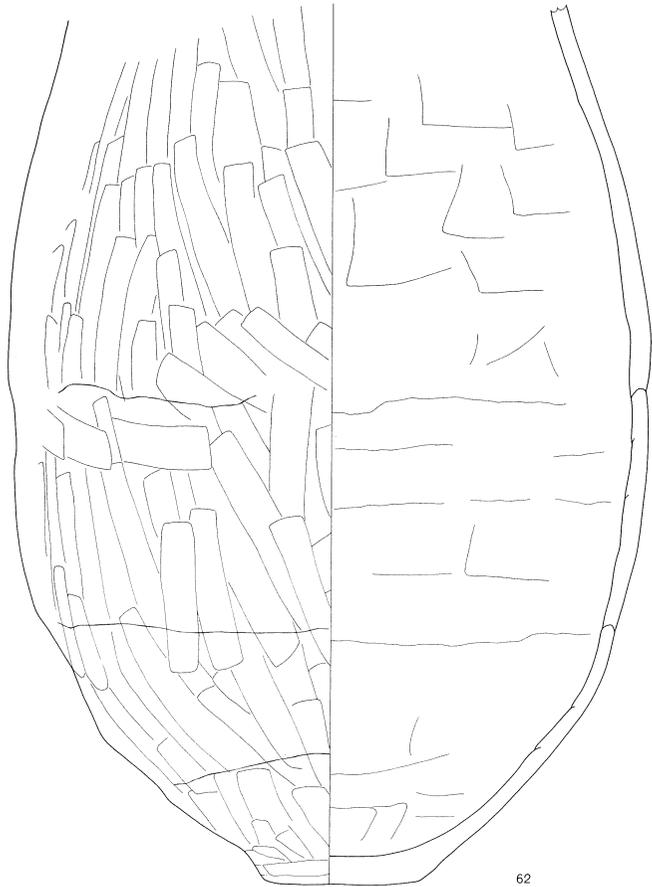
59



61



60



62

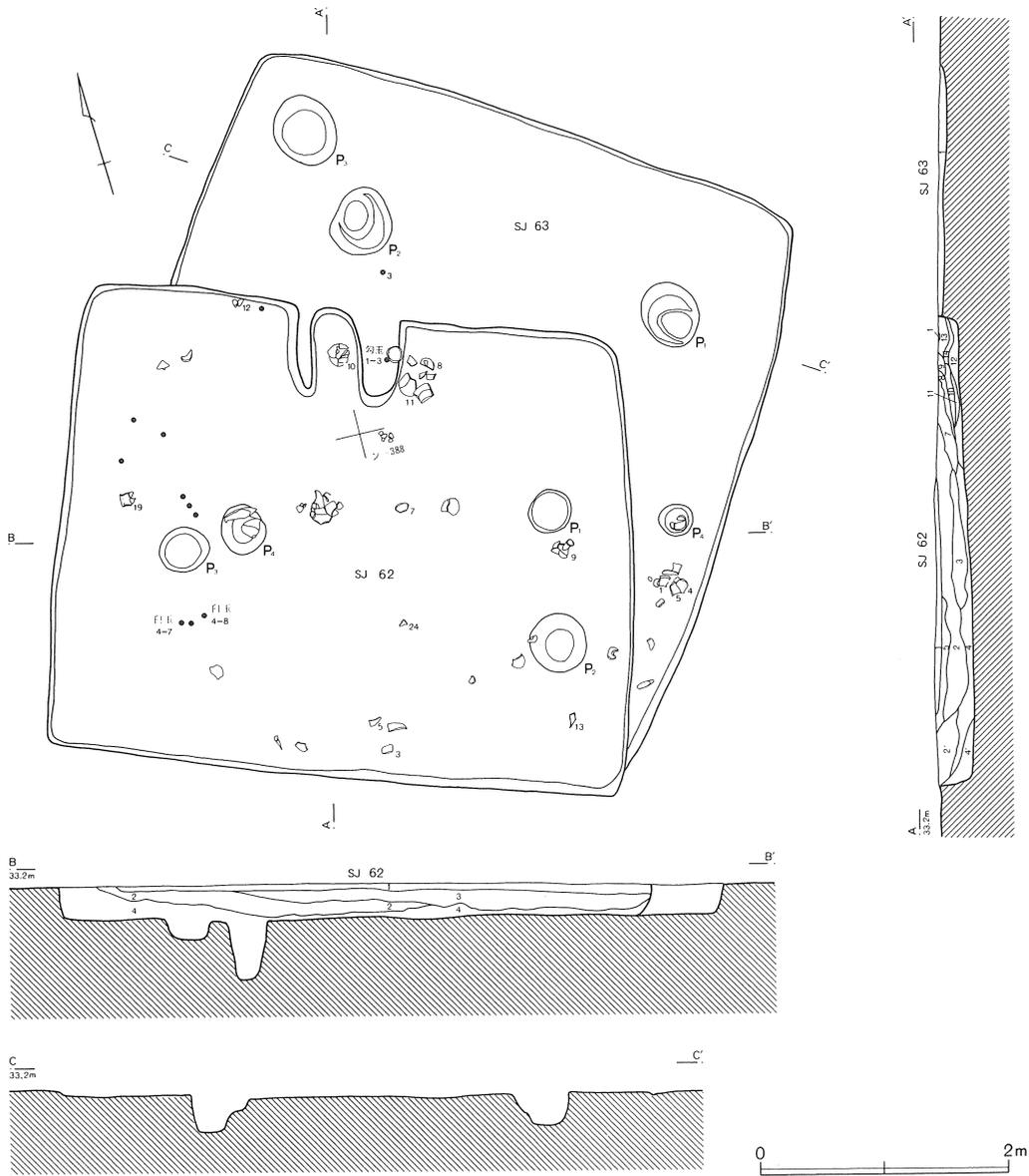
0 10cm

第366图 第61号住居跡出土遺物(6)

6	坏	口(14.0)	R少+W+W'	にふい橙	25	
7	坏	口13.5 高4.9	B多+R多+W	橙	100	No.15。放射状暗文
8	坏	口(13.1) 高4.7	B+R多+W	にふい黄橙	60	外面黒色部分
9	坏	口13.8 高4.5	B+R多+W	にふい橙	50	口縁端部沈線 口縁部外面黒色部分
10	坏	口13.6 高4.6	B+W+W'	褐	100	No.14。内面・外面口縁部黒色部分
11	盤	口14.3 底12.2 高3.6	B多+R+W	橙	90	No.29。
12	坏	口(16.0)	B少+R多+W少	にふい黄橙	30	体部外面剥離
13	坏	口(15.0)	R多	にふい橙	10	
14	坏	口(17.0)	R多	にふい橙	口縁 30	
15	鉢	口(17.7)	B+R+W+砂少+礫少	(内)橙 (外)黄橙	15	
16	坏	口12.2	B+R多+W	橙	55	
17	坏	口12.0 高5.0	B+R+W	(内)にふい橙 (外)明赤褐	90	No.91。内外面黒色部分
18	坏	口12.2 高5.2	B+R+W	橙	90	No.5。
19	坏	口12.3 高4.2	B+W+W'	にふい赤褐	95	No.9。放射状暗文 内外面黒色
20	坏	口12.6 高4.5	B+R+W+W' 少	(内)橙~明赤褐 (外)橙~明赤褐	85	No.7。外面黒色部分
21	坏	口12.0	B+R多	にふい黄橙	50	口縁部外面黒色部分
22	坏	口(12.0)	B+R少+W	橙	30	No.23。
23	坏	口12.6 高4.3	B+R+W	橙	50	
24	坏	口(12.6) 高4.5	B+R+W	灰褐	35	内外面黒色部分
25	坏	口12.7	B少+R+W	(内)明赤褐 (外)にふい赤褐	50	No.20。内外面黒色部分
26	坏	口(12.1) 高4.7	B+R+W+W'	(内)にふい橙~橙 (外)橙	70	No.35。内外面黒色部分
27	坏	口(12.0)	B+R多+W	浅黄橙	口縁 30	口縁端部弱いヘラアテ
28	坏	口12.8	B+R+W	にふい橙	70	
29	坏	口(14.0)	R多+W少	橙	口縁 20	
30	鉢	口15.5 底8.5	B+R+W+W' +砂少	橙	60	No.8。内外面黒色部分
31	鉢	口(19.5)	B+R少+W	にふい黄橙	20	No.1。
32	鉢	口(16.0)	B+R+W+礫少	(内)橙 (外)橙	15	No.41。胴部外面黒色部分
33	甕	口17.5	B+R+W	(内)にふい黄橙 (外)にふい橙	口縁 100	No.4。口縁部外面黒色部分
34	坏	口18.8 高7.5	B+R+W	(内)橙 (外)にふい褐	100	放射状暗文 内外面黒色部分
35	台付鉢	口16.6	B+R+W+砂少+礫少	橙	70	No.18。内外面黒色部分

36	甕	口14.7 底5.0 高19.4	B+R+W+砂少+礫少	灰白	80	No.39。胴部外面黒色部分
37	甕	口16.5	B+R+W	橙	70	No.44。内外面黒色部分
38	甕	口(18.2)	B+R+W	橙	15	
39	甕	口16.3 胴19.5	B+R+W+砂多+礫多	(内)橙 (外)にふい 橙~赤褐	30	No.50。
40	甕	口(18.9) 胴(26.4)		(内)にふい橙 (外)灰褐	15	No.53。
41	壺		B+R多+W	橙	20	No.49。胴部外面黒色部分
42	甕	口(18.2) 胴(24.8)	B+R+W+砂少+礫少	(内)にふい黄橙 (外)橙	15	No.58。内外面黒色部分
43	甕	口18.3 胴24.0	B+R+W+砂少+礫少	にふい褐	30	No.27・37。
44	壺	口15.8 胴24.1	B+R+W少	灰白	70	No.17・19・25・27・34・51。胴部内外面黒色部分
45	甕	口19.0 底4.8 高40.0	B+R+W+砂少+礫少	(内)橙 (外)橙	85	No.84・90・92。胴部内外面黒色 カマドの二次焼成による粘土附着
46	甕	口19.0 底3.8 高36.7	B+R+W+砂多+礫多	にふい黄橙	70	No.45・46・59・60・64。胴部外面黒色
47	甕	口20.5 底3.8 高38.2	B+R+W+砂少+礫少	(内)褐灰 (外)にふい橙	90	No.73。カマドの二次焼成による粘土附着 胴部内面黒色
48	甕	口19.4 高37.6	B+R+W+砂少	橙	85	No.42・70・74・80。
49	甕	口19.5 高36.8	B+R+W	(内)橙 (外)にふい橙	85	No.43・66・71。胴部外面黒色 カマドの二次焼成による粘土附着
50	甕	口18.5 底3.5 高35.7	B+R+W多	橙	85	No.11・100~102。胴部外面黒色部分
51	甕	口18.7	B+R+W+砂少+礫少	(内)橙 (外)明赤褐	80	No.69。胴部外面黒色部分
52	甕	口16.3 高33.6 胴17.0	B+R+W+砂多+礫多	にふい黄橙	95	No.72。胴部外面黒色部分
53	甕	口17.4 高34.4 胴18.2	B+R+W	橙	90	No.6・99・100・101。胴部外面部分的黒色 カマドの二次焼成による粘土附着 胴部内面黒色
54	甕	口(21.3)	B+R+W+砂少+礫少	橙	15	
55	甕	口(20.4)	B+R+W	橙	20	カマドの二次焼成による粘土附着
56	甕	底4.6	B+R+W+砂少	橙	20	No.22・26・33。胴部外面黒色部分
57	甕	口24.6	B+R多+W	(内)橙 (外)橙	70	胴部外面黒色部分
58	甕	口19.0	B+R+W+砂少+礫少	(内)橙~明赤褐 (外)明赤褐~橙	75	No.28・30~32・57。胴部外面下半黒色部分 カマドの二次焼成による粘土附着
59	甕	口18.4	B+R+W+砂少+礫少	(内)にふい黄橙 (外)明赤褐	80	No.74・76・93。外面黒色部分
60	甕	口19.2	B+W+砂少	(内)灰褐 (外)にふい褐	50	No.77。胴部外面黒色 カマドの二次焼成による粘土附着
61	支脚	上端4.7 下端8.2 高15.1	B+R+W	橙	100	No.38。内外面黒色部分
62	甕	底8.5	B+R+W+砂少+礫少	橙	60	胴部外面黒色部分 粘土紐積み上げ休止痕跡

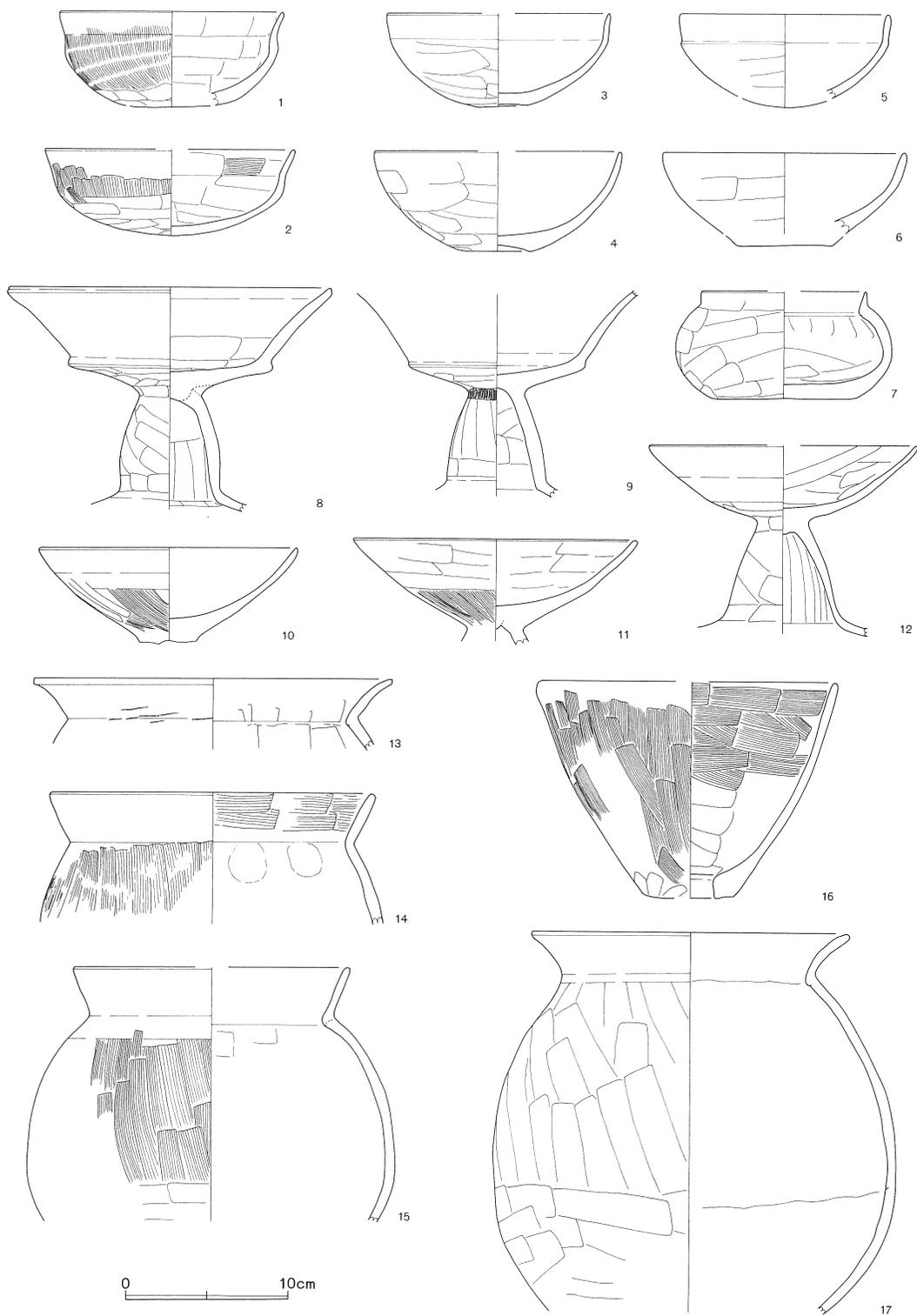
響によって若干ではあるが、形状は歪められ、床面には段差が生じている。規模は主軸辺5.87m・東西6.11~5.60m、深さ0.12~0.17mで、主軸方位はN-35°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.13~0.55m、深さ0.04~0.07mの壁溝がほぼ全周している。北東コーナー部のみ、壁溝



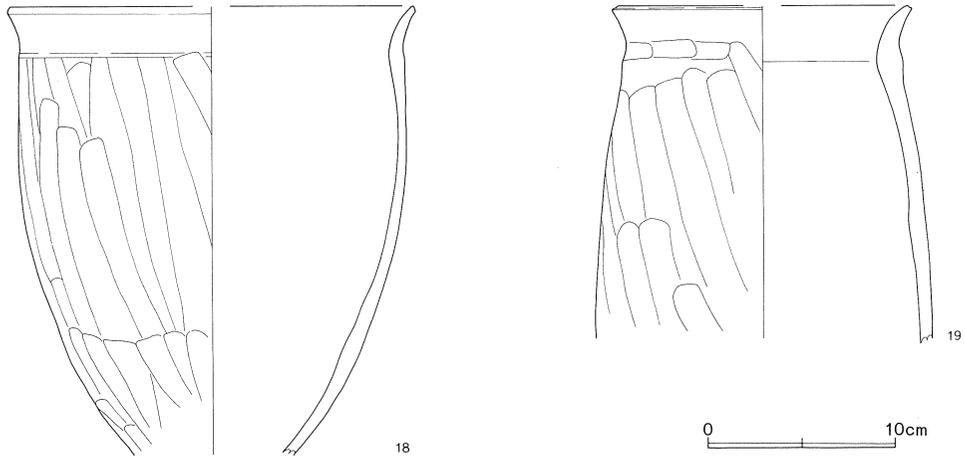
第62・63号住居跡

- |         |                                 |          |                                |
|---------|---------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土  | 焼土・炭化物粒子少量含む。粘性弱。部分的に貼床。        | 7 褐色土    | 焼土・暗褐色土粒子少量含む。                 |
| 2 暗褐色土  | 焼土・炭化物粒子少量、褐色土粒子多量含む。しまりあり、粘性弱。 | 8 褐色土    | 焼土粒子極多量、炭化物・灰粒子少量含む。しまり・粘性あり。  |
| 2' 暗褐色土 | 2より焼土・炭化物粒子多量混入。                | 9 褐色土    | 8より灰多量含む。しまりあり、粘性弱。            |
| 3 黒褐色土  | 焼土・炭化物・褐色土粒子多量含む。しまりあり、粘性弱      | 10 灰黄褐色土 | 灰層。焼土粒子多量含む。粘性強。               |
| 4 褐色土   | 焼土粒子極微量含む。しまりあり、粘性弱。            | 11 暗赤褐色土 | 焼土層。灰粒子微量含む。                   |
| 4' 褐色土  | 焼土粒子なし。炭化物・暗褐色土粒子少量含む。しまり・粘性あり。 | 12 褐色土   | 焼土・炭化物粒子微量含む。しまりあり、粘性ややあり。     |
| 5 暗褐色土  | 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。         | 13 褐色土   | 焼土・暗褐色土粒子多量含む。しまりあり、粘性弱。       |
| 6 暗褐色土  | 焼土粒子少量、炭化物粒子多量含む。しまりあり、粘性弱。     | 14 暗褐色土  | 焼土粒子多量、炭化物粒子微量含む。しまりあり、粘性ややあり。 |

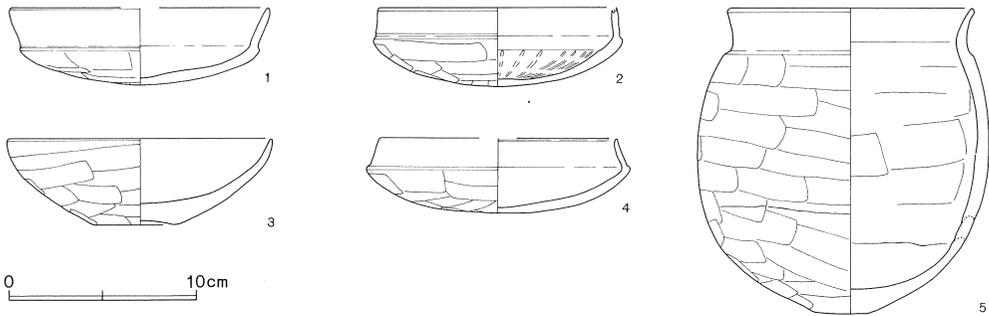
第367図 第62・63号住居跡



第368图 第62号住居跡出土遺物(1)



第369図 第62号住居跡出土遺物(2)



第370図 第63号住居跡出土遺物

は廻っている。カマドは北壁に構築され、全長2.49m、焚き口幅4.50mの規模をもつ。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は長方形を呈している。摺り鉢状にやや窪められ、火床面はよく焼けている。煙道部は途中削平されているが、長く外方に延びている。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置され、南半部を噴砂の亀裂によって侵されている。南北が推定で0.90m、東西0.71m、深さ0.43mを測る円形である。ピットは7基検出されているが、柱穴は不明である。貼床はカマド前面から住居跡中央部にかけて顕著に認められている。遺物は多く、内面に放射状の暗文が施されている坏形土器や須恵器2片、編物石7点が出土している。なかでも大型の坏形を呈している鉢形土器、脚部がスリムで長い台付鉢形土器や特大の甕形土器の存在は注目される。

本住居跡の周辺には多くのピットが確認されているが、用途・性格やまた本住居跡との関連は明確ではない。

#### 第62・63号住居跡（第367図）

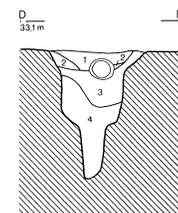
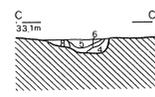
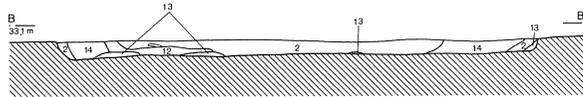
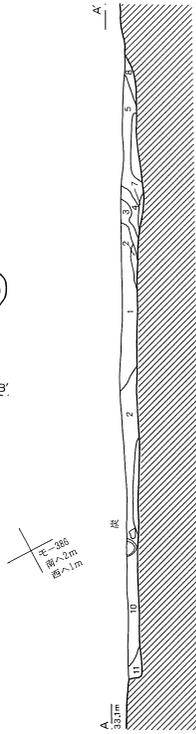
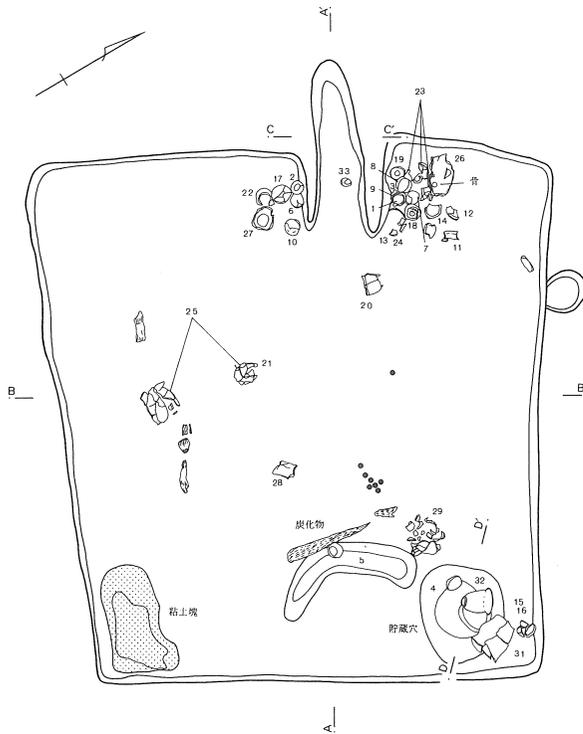
スー387・388、ンー387・388Grid に位置している。重複している2軒の住居跡の新旧関係は、

第62号住居跡 (第368・369区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	碗	口13.8	B+R少+W少	橙	60	No.18・19。
2	碗	口(15.3) 高5.3	B+R+W少	橙	70	内面に黒色部分
3	碗	口(13.7) 底2.9 高5.8	B+W少	橙	50	No.15。
4	碗	口(15.2) 底3.8 高6.1	B+R+W+W' 少	橙	50	No.6。底部外面に黒色部分 内面風化
5	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	10	No.17。風化
6	碗	口(15.0)	B+R多+W	橙	20	
7	碗	口(10.2) 底8.9 高6.6 最大13.2	B+R+W+W' 少	橙	35	No.7。
8	高坏	口19.9	B+R+W	橙	80	No.4。口縁端部面トリ 内外面に黒色部分
9	高坏		B+R+W少	橙	50	No.9。
10	高坏	口15.9	B+R+W	橙	坏部 100	No.2・カマド。内外面に黒色部分
11	高坏	口17.4	B+R+W少	橙	坏部 95	No.5。
12	高坏	口(16.5)	B+R少+W	橙	40	No.36。
13	甗	口(22.0)	B+R+W	橙	口縁 10	No.11。
14	甗	口(20.0)	B+R多+W	橙	口縁 30	指頭押
15	甗	口(17.0) 胴22.5	B+R+W少	にふい橙	15	外面黒色
16	甗	口(18.4) 底5.3 高13.3	B少+R+W	橙	30	外面に黒色部分
17	甗	口(19.6) 胴24.7	B+R+W+砂少	浅黄橙～橙	60	No.25。
18	甗	口(21.7)	B+R少+W	橙	20	
19	甗	口(15.9)	B+R+W+砂少+礫少	(内)浅黄橙 (外)橙	20	No.30。

第63号住居跡 (第370区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.9) 高4.1	B+R+W	橙	40	No.6。
2	坏	口(12.8) 高4.2	B+R+W+W' 少	(内)橙 (外)にふい橙	70	放射状暗文 内外面に黒色部分
3	碗	口14.1 底4.3 高4.6	B少+R+W	橙	100	No.1。外面に黒色部分
4	坏	口12.7 高4.0	B+R+W少	橙	50	No.5。口縁端部面トリ 沈線
5	小型甗	口13.1 底3.1 高16.3 胴15.5	B+R少+W+W'	明赤褐	60	No.4。底部ケズリ 底部黒色



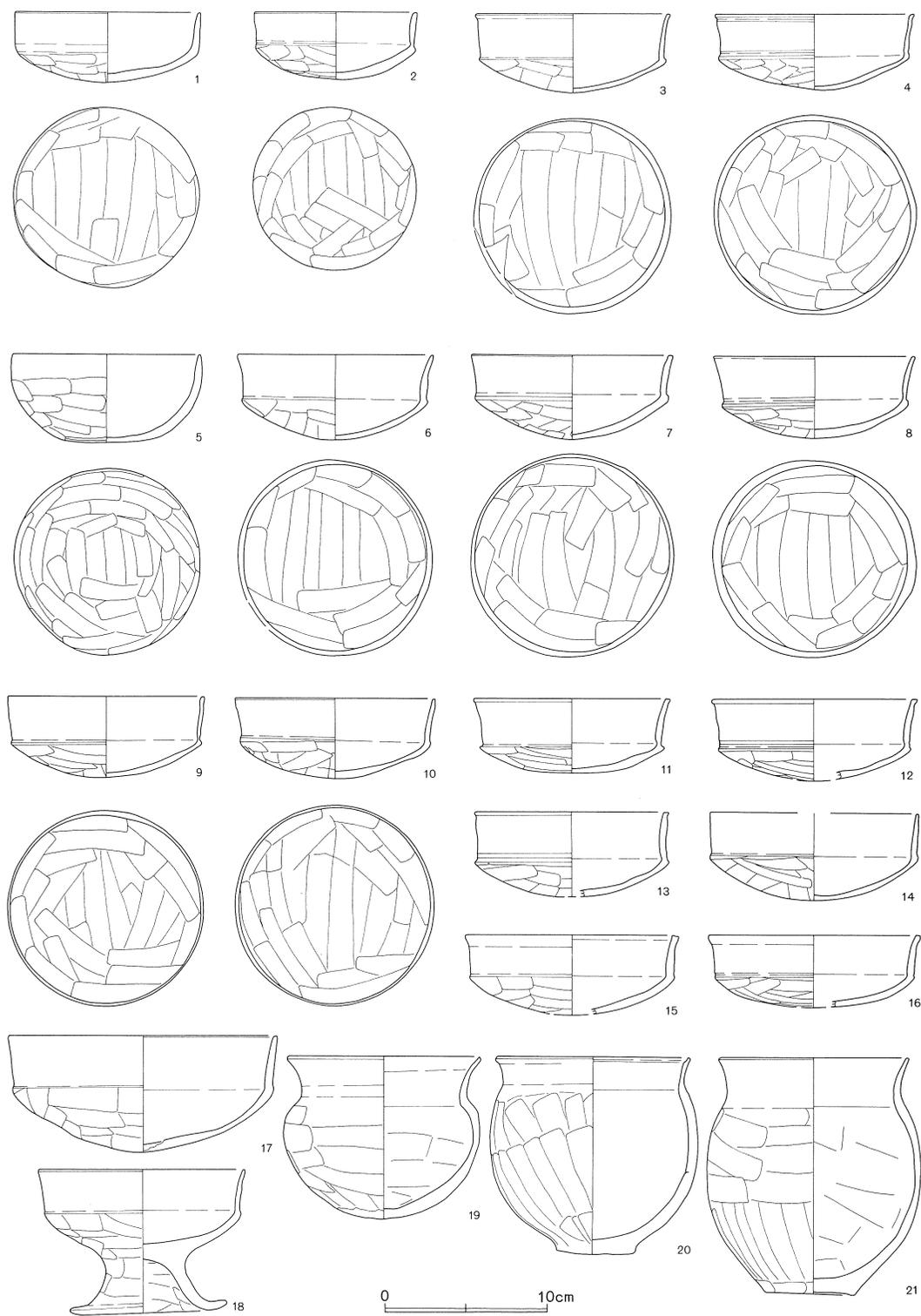
第64号住居跡

- |          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| 1 褐色土    | 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土ブロック若干含む。しまりあり。 |
| 2 暗褐色土   | 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。            |
| 3 暗褐色土   | 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。       |
| 4 灰褐色土   | 焼土粒子若干、炭化物粒子多く含む。軟質。             |
| 5 暗褐色土   | 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。              |
| 6 灰褐色土   | 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。       |
| 7 灰色土    | 灰層。しまり弱。                         |
| 8 褐色土    | 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。            |
| 9 茶褐色土   | 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。              |
| 10 灰黒褐色土 | 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりやや弱。             |
| 11 灰褐色土  | 炭化物粒子若干、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。      |
| 12 灰赤褐色土 | 焼土粒子多量、炭化物粒子若干含む。しまりあり。          |
| 13 黄褐色土  | 焼土粒子わずかに含む。しまり・粘性あり。             |
| 14 黄褐色土  | 焼土粒子わずかに含む。しまりあり、粘性弱。砂質。         |

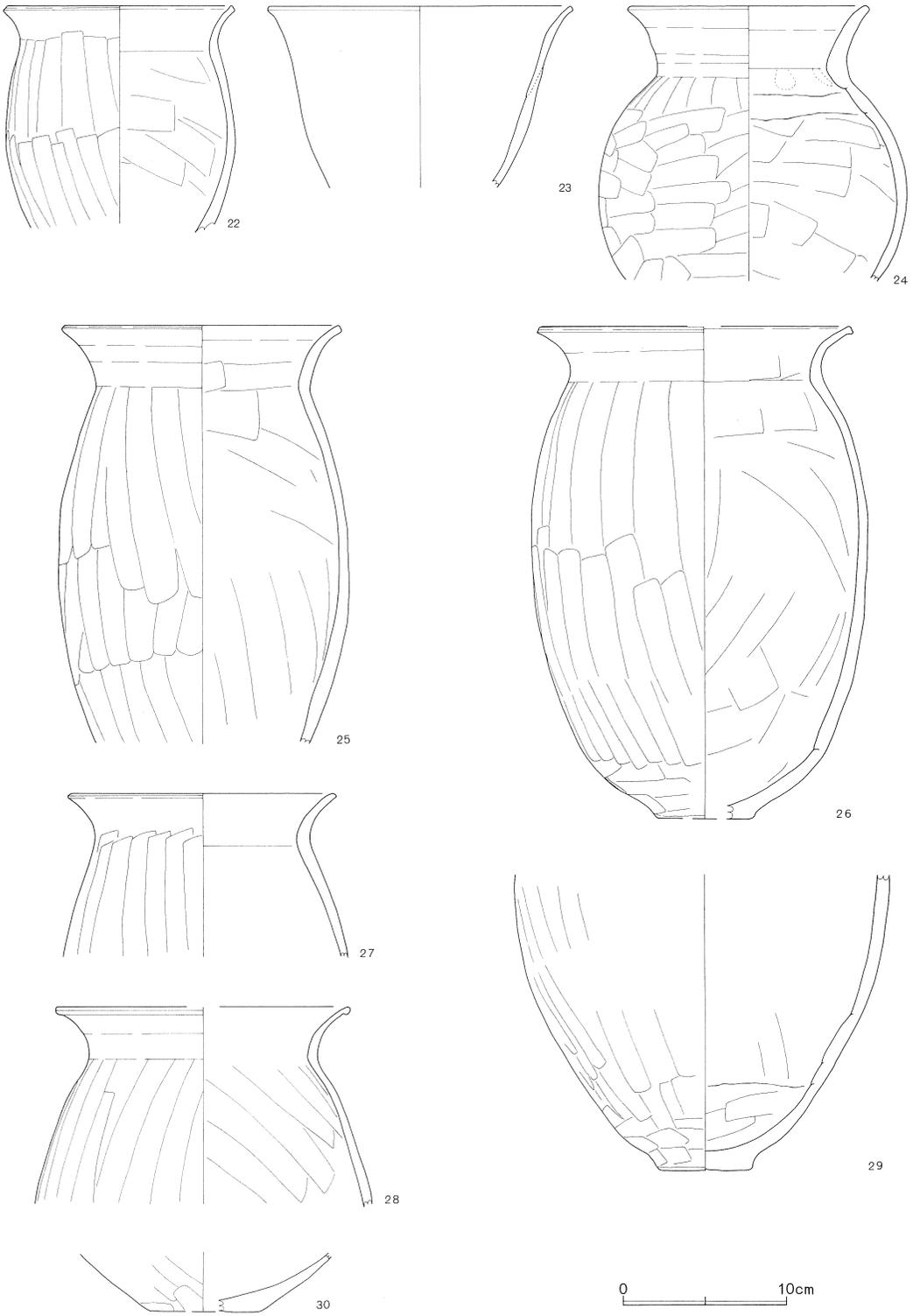
第64号住居跡貯蔵穴

- |        |                              |
|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。          |
| 2 黒褐色土 | 焼土粒子少量、炭化物粒子多量含む。しまりあり。やや砂質。 |
| 3 暗褐色土 | 焼土・炭化物粒子微量含む。しまり・粘性あり。       |
| 4 黒褐色土 | 炭化物粒子微量含む。しまり・粘性あり。やや砂質。     |

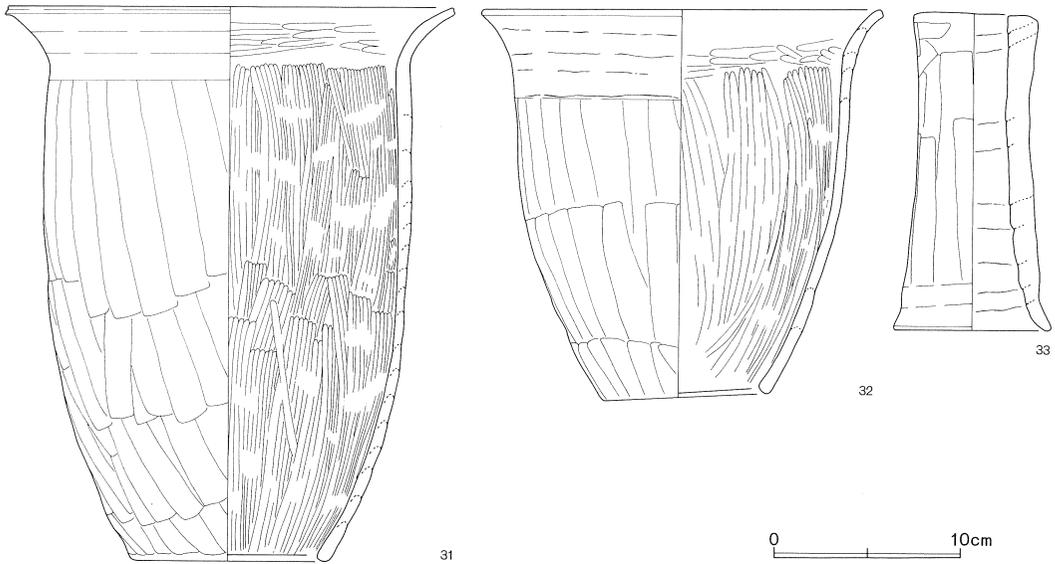
第371図 第64号住居跡



第372图 第64号住居跡出土遺物(1)



第373图 第64号住居跡出土遺物(2)



第374図 第64号住居跡出土遺物(3)

第64号住居跡 (第372~374図)

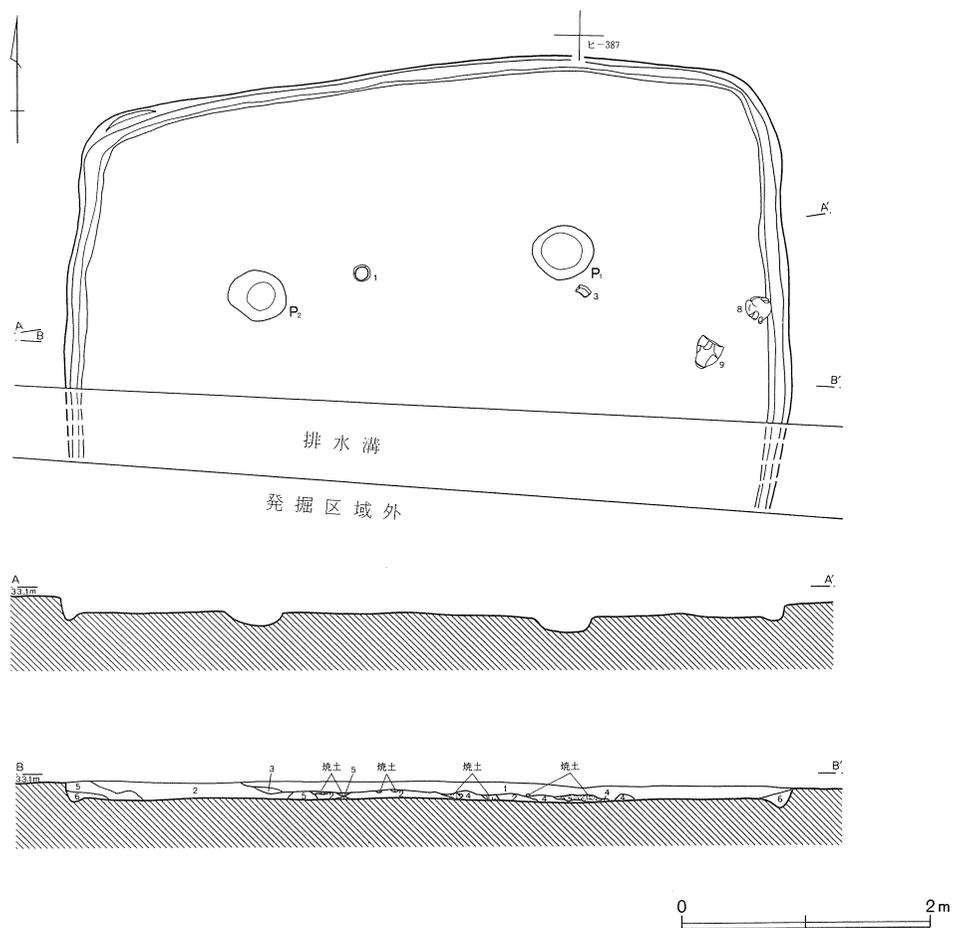
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.4 高4.3	B+R+W	(内)明赤褐~赤灰 (外)橙	95	No.39。内面灰色
2	坏	口10.0 高4.2	B+R少+W+W'	にふい赤褐~黒	95	No.19。口縁端面トリ 内外面黒色
3	坏	口12.0 高4.8	B+R+W	橙	90	No.25。口縁端面トリ
4	坏	口12.2 高4.6	B+R+W	橙	100	No.3。口縁端面トリ 外面に黒色部分
5	碗	口11.5 高5.4	B+R+W+砂多	(内)黒~橙 (外)橙	100	No.5。内面黒色
6	坏	口12.0 高5.2	B+R+W	(内)褐灰 (外)橙~灰褐	100	No.20。内面黒色
7	坏	口12.4 高5.2	B+R+W少	(内)橙 (外)明赤褐~橙	100	No.30。口縁端面トリ
8	坏	口12.3 高5.0	B+R+W	(内)赤橙~黒 (外)橙~にふい橙	100	No.26。口縁端面トリ 内面に黒色部分
9	坏	口12.0 高5.0	B+R多+W	橙	100	No.40。口縁端面トリ 外面に黒色部分
10	坏	口12.3 高5.0	B+R+W+W'	(内)にふい橙 (外)にふい橙~橙	100	No.21。口縁端面トリ 内外面全体に黒色
11	坏	口(12.0) 高4.6	W+礫少	橙~にふい橙	40	No.34。口縁端部ヘラアテ 面トリ
12	坏	口(12.6)	R+W	橙	40	No.33。口縁端部ヘラアテ 面トリ
13	坏	口(12.0)	R+W多	橙	25	No.24。口縁端部ヘラアテ 面トリ
14	坏	口(12.8) 高5.4	B+R+W	(内)にふい橙~灰褐 (外)黒~赤橙	40	No.32。坏部内外面黒色
15	坏	口13.2	B+R多+W	橙	40	No.1。口縁端部ヘラアテ 面トリ 風化
16	坏	口(13.0)	B少+R多+W+W'	にふい橙	40	No.1。口縁端部ヘラアテ 面トリ

17	坏	口16.5 高7.1	B+R少+W	橙	95	No.18。口縁端面トリ 沈線
18	高坏	口12.7 脚9.7 高8.8	B+R多+W	(内)黄灰 (外)橙~赤灰	90	No.31。内面黒色
19	小型壺	口11.9 高10.0 胴12.1	B+R+W	(内)橙~褐灰 (外)橙~赤橙	100	No.27。口縁端面トリ 底部外面・胴部内面黒色
20	小型甕	口11.9 底4.9 高12.1 胴12.8	B+R+W+砂少	橙	90	No.23。
21	小型甕	口11.7 底5.4 高14.4 胴13.1	B+R多+W	(内)橙 (外)にふい橙~橙	95	No.14。外面に黒色部分
22	小型甕	口14.1	B+R+W+砂少+礫少	(内)赤橙 (外)赤橙 ~にふい橙	70	No.17。口縁部外面・胴部内面黒色
23	甑	口18.6	B+R+W	赤橙	50	No.28・37。剥離が著しい 外面黒色
24	甕	口14.7 胴18.8	B+R	(内)褐灰 (外)橙~にふい橙	60	No.24。内面黒色
25	甕	口17.0 胴17.7	B+R+W+砂少	(内)にふい橙~赤 灰 (外)赤橙~橙	70	No.14・15。内外面とも全体に黒色
26	甕	口(19.2) 底6.1 高30.0 胴20.6	B+R+W+砂少	(内)灰白~にふい 黄橙 (外)黄橙~橙	50	No.29。胴部内外面に黒色部分
27	甕	口16.3	B+R少+W	橙~にふい橙	30	No.16。胴部外面黒色
28	甕	口(18.0)	B+R+W少	(内)灰白 (外)淡黄	20	No.13。
29	甕	底5.8	B+R少+W少	(内)にふい黄橙 (外)明褐	40	No.4。胴部外面下半黒色
30	甕	底(7.0)	R+W少	(内)黒 (外)橙	底部 30	底部ケズリ 風化が著しい
31	甑	口24.0 底10.5 高29.6	B+R少+W少	(内)明赤褐 (外)橙~にふい橙	90	No.2。胴部外面に黒色部分 胎土密 丁寧なつくり
32	甑	口21.4 底8.8 高20.7	B+R+W	(内)橙~明褐 (外)橙~にふい橙	100	No.41。胎土密 丁寧なつくり
33	支脚	上端6.6 下端8.4 高16.9	B+R+W	橙	95	No.22。

第62号住居跡が第63号住居跡よりも古い。しかし第63号住居跡の重複していない部分が削平の影響によってきわめて浅いことから、第62号住居跡との重複部分の平面プランは明確にはできなかった。おそらく、消失している可能性が高い。

第62号住居跡の規模は主軸辺3.76m・長辺4.63m、深さ0.08~0.24mで、主軸方位はN-15°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築されている。全長0.79m、焚き口幅0.38mで、袖部は地山が掘り残されている。火床面はあまり焼けていない。煙道部は第63号住居跡に削平されているものと思われる。貯蔵穴は検出されていない。ピットは4基確認され、うち3基は柱穴と考えられる。遺物はカマド周辺部を中心に出土している。カマド袖部付近から土製勾玉1点、南西コーナー部付近には石製白玉2点が検出されている。

第63号住居跡の規模は、東西4.84m、深さ0.01~0.04mで、東壁の方位はN-31°-Eを測る。カマド・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。ピットは3基検出され、P2・P3が柱穴である。遺物は少なく、第62号住居跡のものと混入して須恵器2片がある。遺物の年代から、カマドが設置されている時期の住居跡と考えられる。もし設置されているとすれば、西壁の南西コーナー部付近か南壁に構築されているものと思われる。南壁であれば、上敷免遺跡における数少ない例となる。



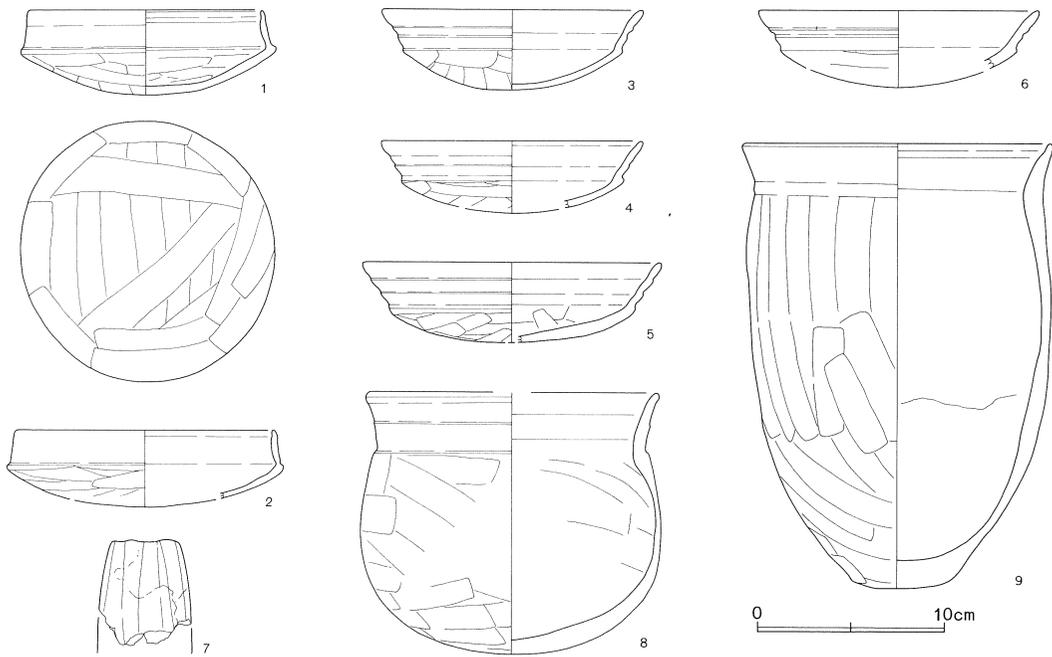
第65号住居跡

- |        |                        |         |                       |
|--------|------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。    | 4 灰黒褐色土 | 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。   |
| 2 褐色土  | 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。    | 5 暗黄褐色土 | 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。 |
| 3 黒褐色土 | 焼土・炭化物粒子多量含む。しまり・粘性あり。 | 6 暗褐色土  | 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。 |

第375図 第65号住居跡

第64号住居跡 (第371図)

エー386、ビー386Grid に位置し、台形を呈している。規模は主軸辺4.22m・短辺3.55~4.20m、深さ0.09~0.12mで、主軸方位はN-62°-Wを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは西壁に構築され、全長1.43m、焚き口幅0.40mの規模をもつ。袖部は地山が掘り残され、やや「ハ」の字に開いている。火床面はよく焼けている。貯蔵穴は北東コーナー部に設置されている。南北0.73m・東西0.66m、深さ1.02mを測り、不整円形を呈している。ピットは確認されていない。北壁に接してピットが1基検出されているが、本住居跡との関連は不明である。床面にはきわめてしっかりとした貼床が施され、カマドと対向する位置では、馬蹄形の土手状に隆起しているのが認められている。この付近は特に床面が堅くしまっていることから、この部分が住

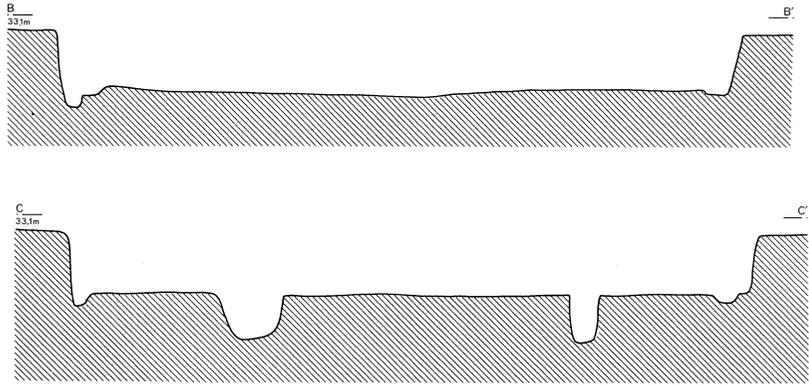
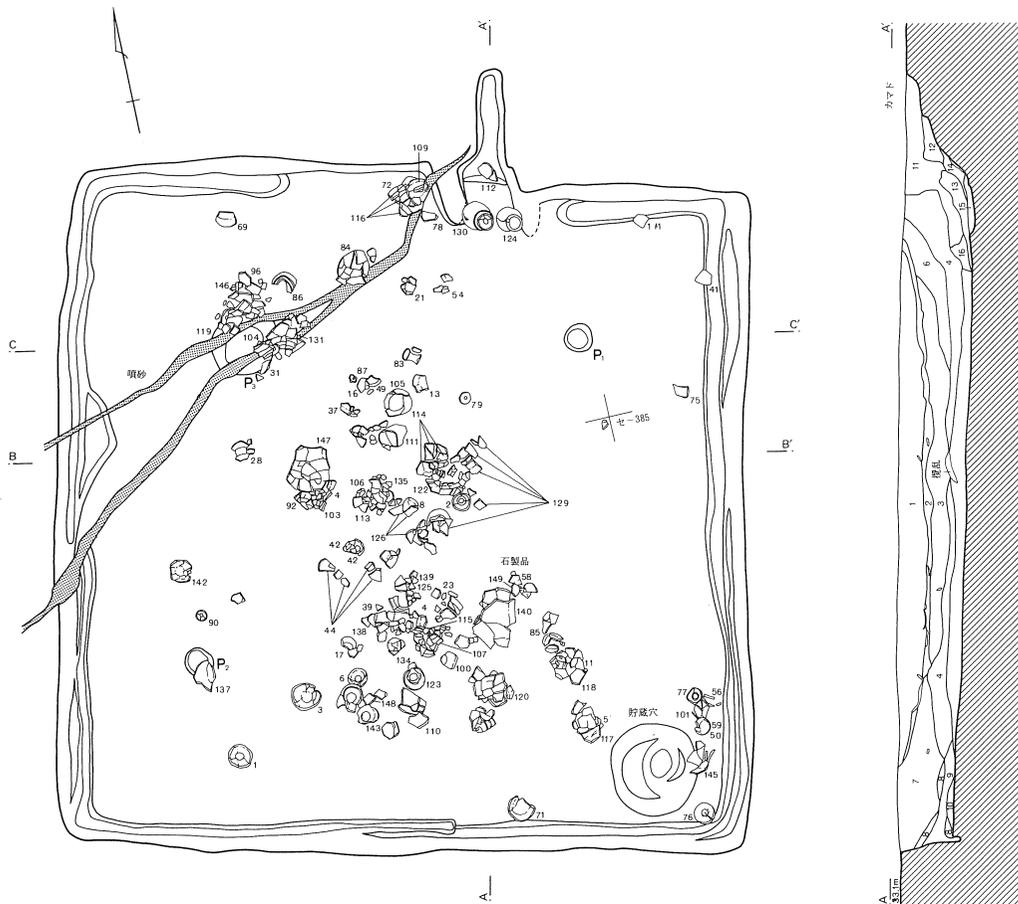


第376図 第65号住居跡出土遺物

第65号住居跡 (第376図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.4 底13.6 高4.5	B+R+W	にふい赤褐	100	No.4. 外面黒色部分
2	坏	口(14.0)	R多+W	にふい赤褐	40	口縁端部弱いヘラアテ
3	坏	口(14.0) 高4.3	B少+R+W	橙	40	No.3. 丁寧なつくり
4	坏	口(14.0)	B少+R+W少	橙	40	
5	坏	口(16.0) 高(4.3)	R少+W少	橙	30	丁寧なつくり
6	坏	口(15.0)	B+R多+W	橙~にふい橙	口縁 20	風化
7	支脚	上端3.6	W+礫	橙	上部 70	丁寧なつくり
8	鉢	口(15.4) 高13.9 胴15.8	B+R多+W	赤褐	60	No.1. 底部外面黒色
9	甕	口16.2 底5.4 高23.7	B+R+W+砂多	赤褐	85	No.2. 胴部外面黒色部分

居跡の入口部に相当するものと思われる。また南西コーナー部からは粘土がまとまって検出されているが、用途・性格等は明確ではない。さらに入口部付近から炭化材が確認されている。この周辺部は貼床も焼土化していることから、本住居跡が焼失住居跡である可能性もある。遺物はカマド・貯蔵穴周辺部から出土し、土錘1点のほか、須恵器1片、編物石3点がある。



第377図 第66号住居跡

第66号住居跡

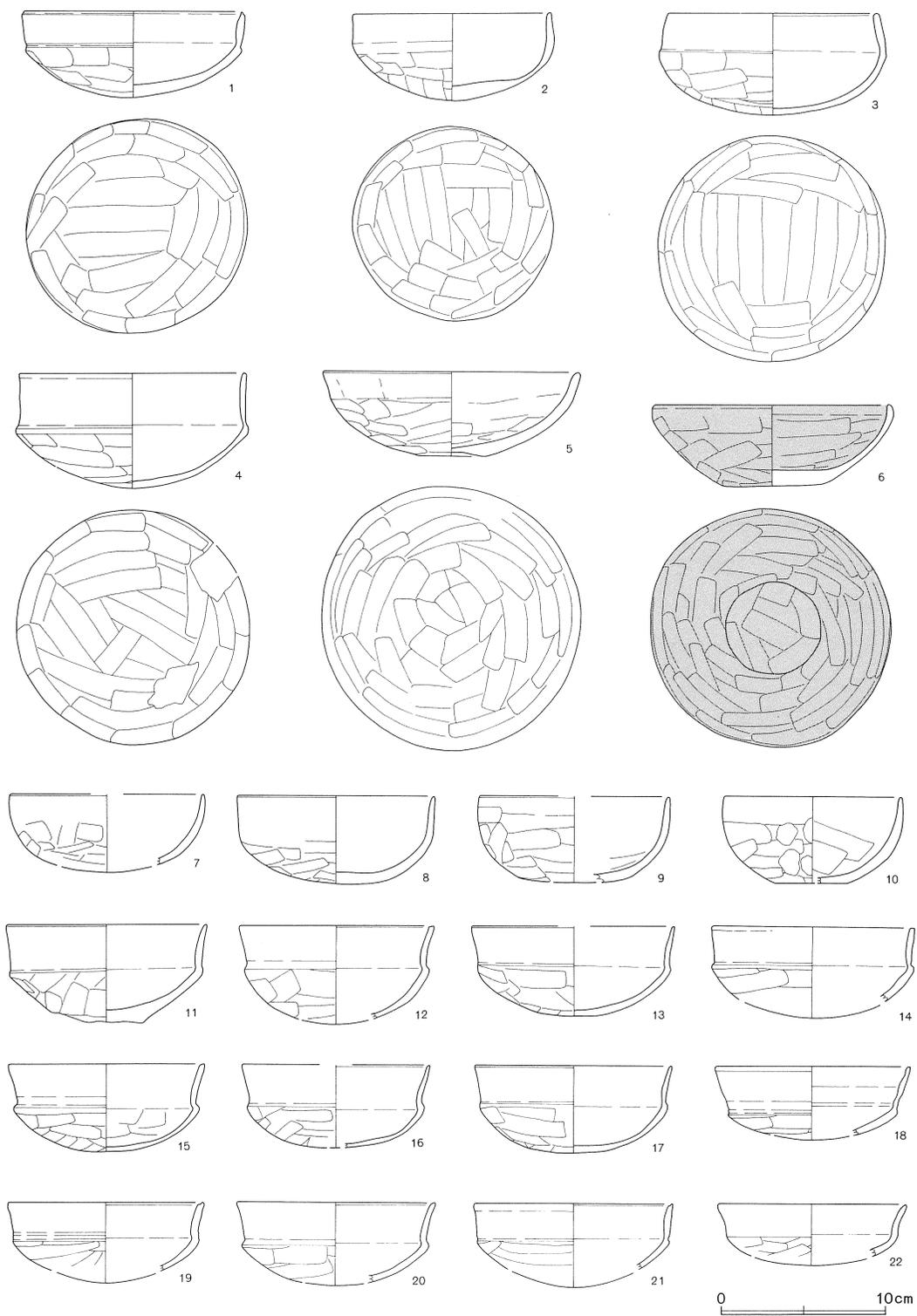
1 暗黄褐色土	焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。	10 暗褐色土	焼土・炭化物粒子微量含む。しまり・粘性あり。
2 黒褐色土	焼土粒子・ブロック多く、炭化物多量含む。しまりあり、粘性やや強。	11 暗灰褐色土	焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
3 灰褐色土	焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまりあり。	12 灰褐色土	焼土・炭化物粒子わずかに含む。黄褐色土ブロック状。しまりあり。
4 暗褐色土	焼土粒子・ブロック、炭化物粒子多く含む。しまり・粘性あり。	13 灰褐色土	焼土・炭化物粒子若干含む。黄褐色土ブロック状。しまり・粘性あり。
5 暗黄褐色土	焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。	14 暗黄褐色土	焼土・炭化物粒子、焼土ブロック若干含む。しまり・粘性あり。
6 黄褐色土	焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまりあり。	15 黒褐色土	炭化物層。焼土粒子・ブロック若干含む。しまり弱。軟質。
7 暗黄褐色土	1よりやや暗い。	16 茶褐色土	焼土ブロック多量、焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
8 茶褐色土	混入物なし。しまり・粘性あり。		
9 暗褐色土	炭化物粒子微量含む。しまり・粘性あり。		

第65号住居跡（第375図）

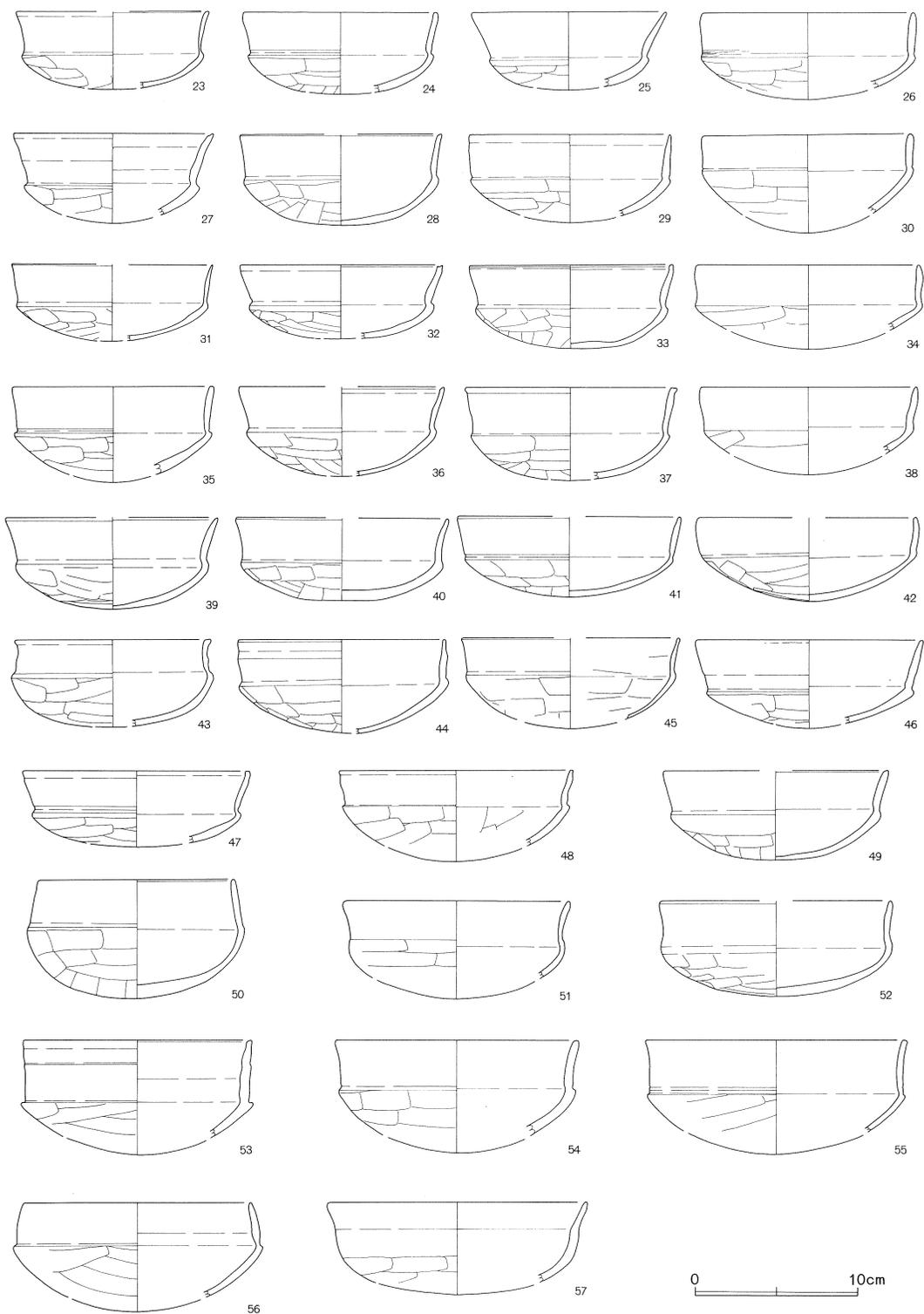
エ—386・387Gridに位置し、南半部は発掘区域外にかかっている。各辺はごく緩やかに湾曲し、平面形態はおそらく台形を呈しているものと思われる。規模は東西5.83m、深さ0.08～0.12mで、南北壁の方位はN—1°—Wを測る。削平によって浅いものの、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。幅0.12～0.22m、深さ0.02～0.03mの壁溝が全周している。ピットは2基検出され、掘り込みは浅いが、すべて柱穴と考えられる。カマド・貯蔵穴は検出されていない。床面には砂っぽい、暗茶褐色の貼床が施されている。遺物は少なく、東壁際から鉢・甕形土器、P2付近から坏形土器が伏せられた状態で出土している。遺物の年代から、カマドが設置されている住居跡であり、第63号住居跡と同様、南壁に構築されている可能性がある。

第66号住居跡（第377図）

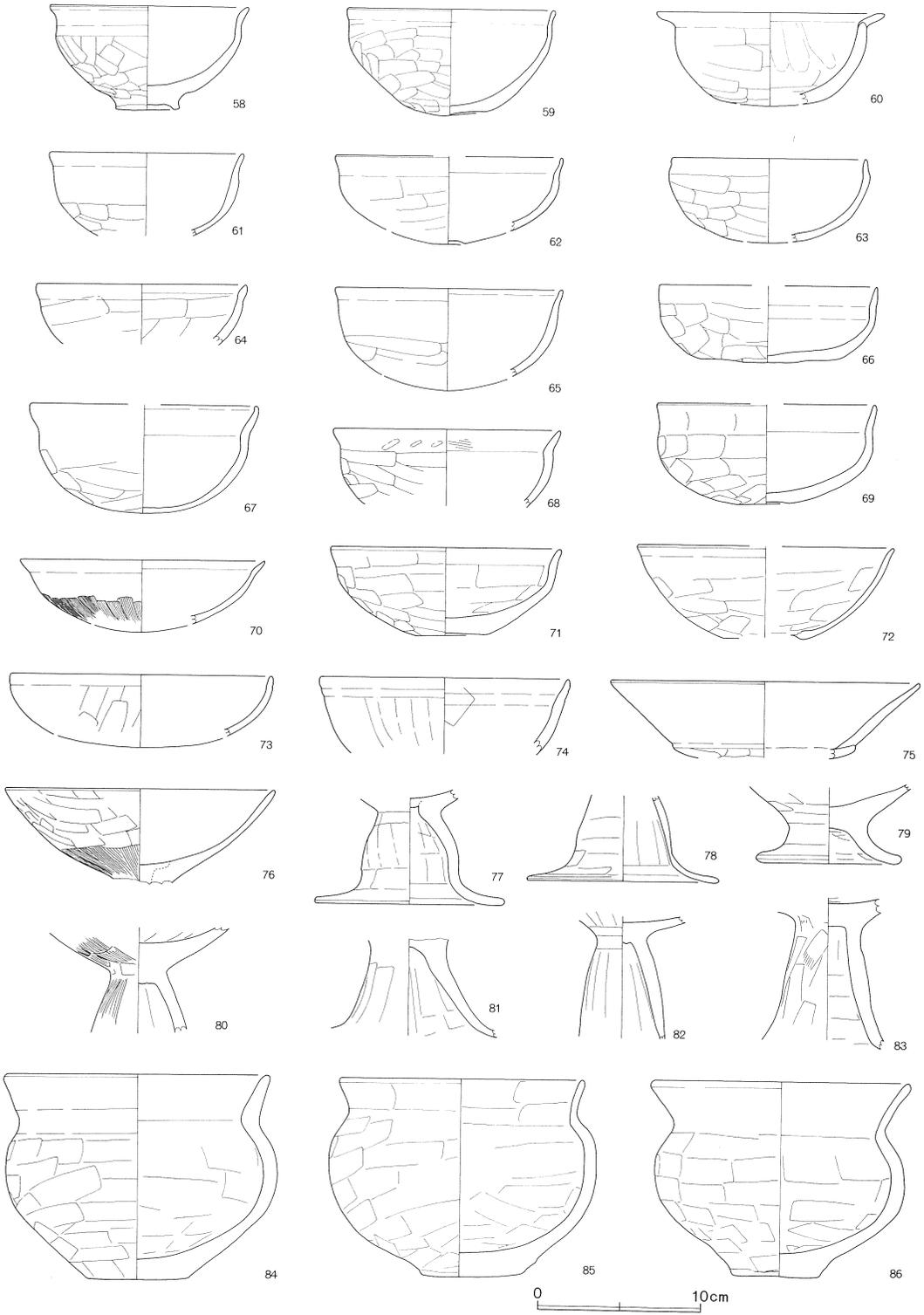
モ—384・385、セ—384・385Gridに位置している。噴砂の亀裂が東西方向に入り込み、形状が若干歪められている。主軸辺5.54m・長辺5.55m、深さ0.44～0.52mで、主軸方位はN—13°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.14～0.47m、深さ0.06～0.11mの壁溝がほぼ全周している。カマドは北壁に構築されている。全長1.33m、焚き口幅0.39mの規模で、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部および煙道部の天井は暗灰褐色土を使用し、陥没している（第11層）。燃焼部は方形を呈し、摺り鉢状に掘り窪められている。火床面はよく焼けている。煙道部は燃焼部に比べて、幅が狭い。貯蔵穴は南東コーナー部に設置されている。南北0.73m・東西0.68m、深さ0.81mを測る円形である。ピットは3基検出され、すべて柱穴である。貼床が施されているが、あまり明瞭ではない。遺物はきわめて多く、坏形土器が多量に出土している。なかでも内外面赤色塗彩が施されている坏形土器や特大の甕形土器は注目され、また無頸壺形土器としたものはほかに例をみないものである。ほかに土錘1点、貝巢穴痕泥岩2点、磨石（10.6×12.6×4.6cm・910g）1点、打製石斧1点、凹石1点が検出されている。



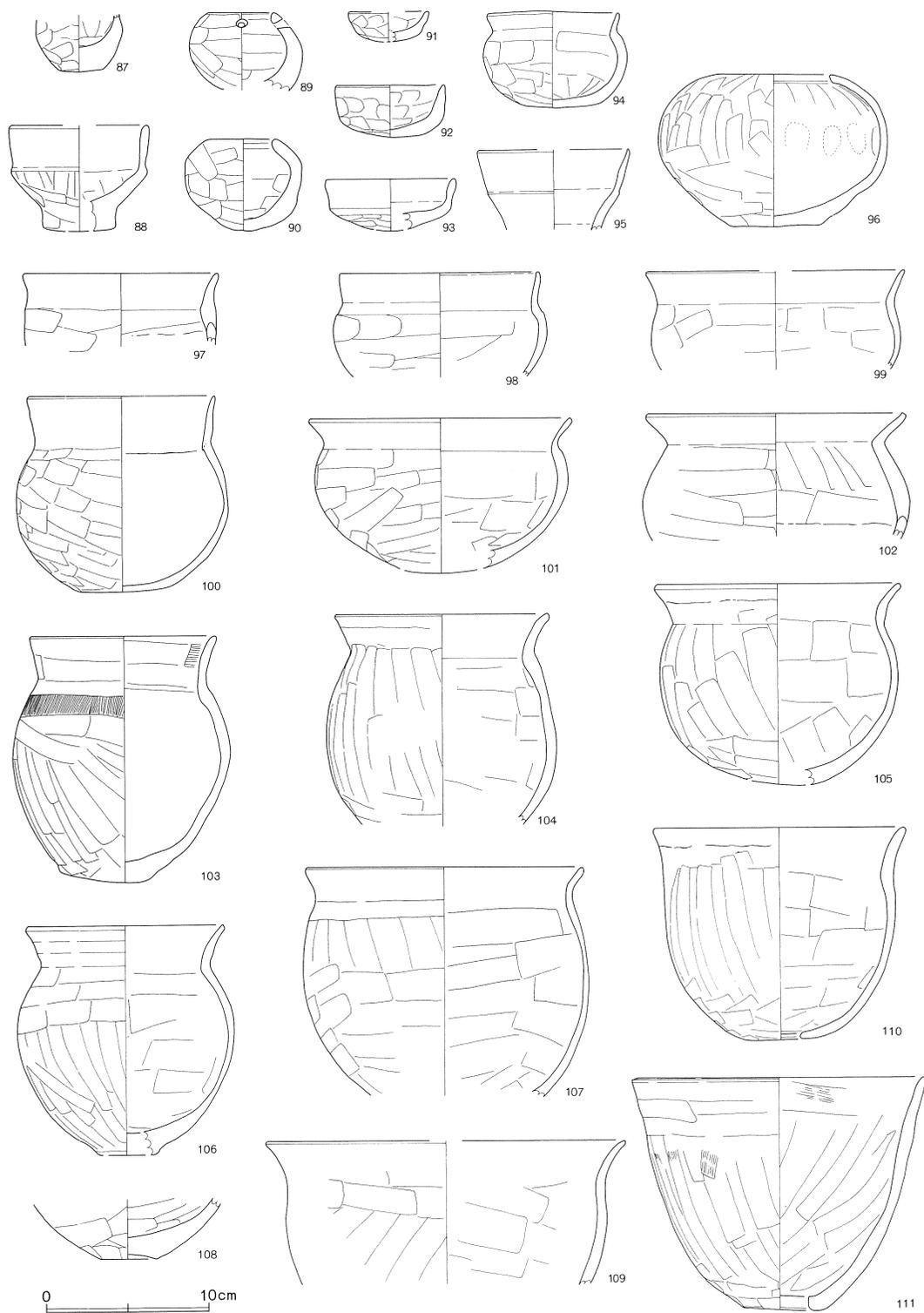
第378図 第66号住居跡出土遺物(1)



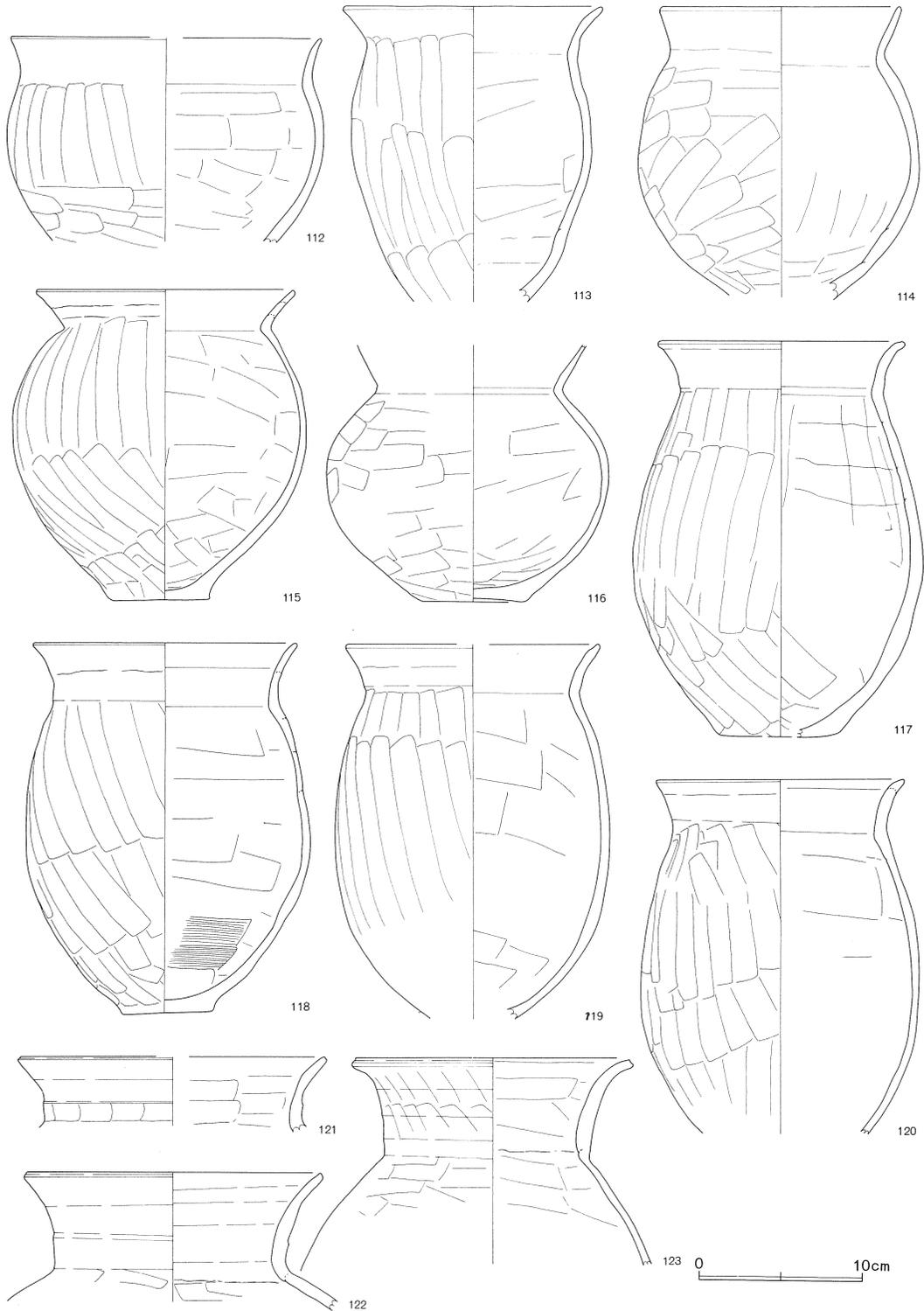
第379図 第66号住居跡出土遺物(2)



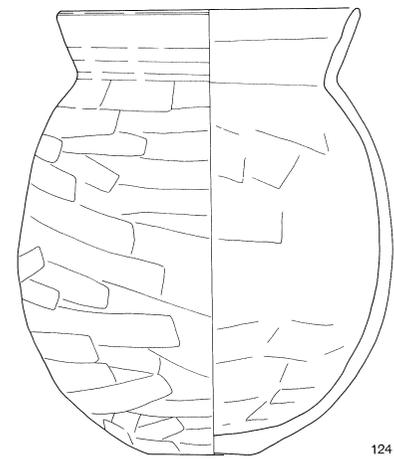
第380图 第66号住居跡出土遺物(3)



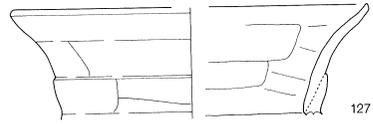
第381图 第66号住居跡出土遺物(4)



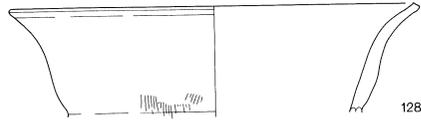
第382図 第66号住居跡出土遺物(5)



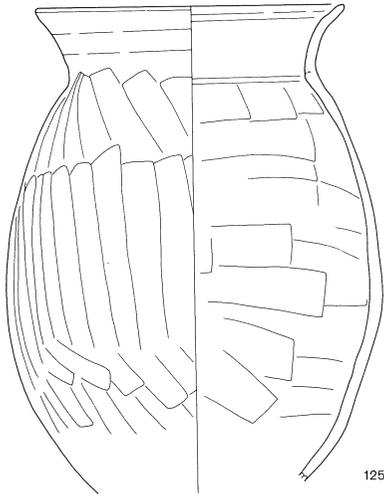
124



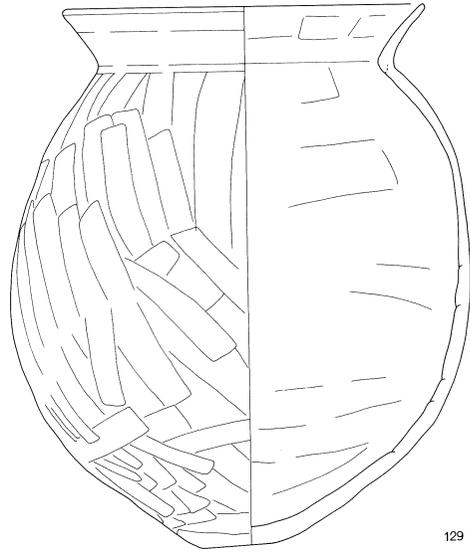
127



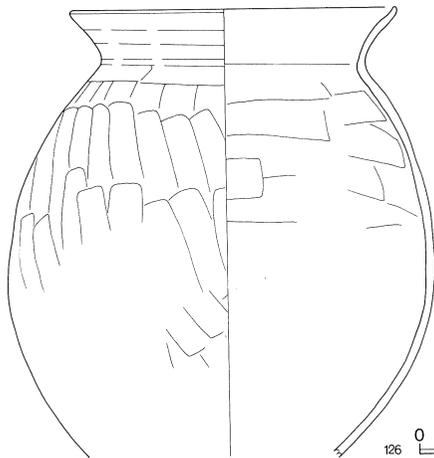
128



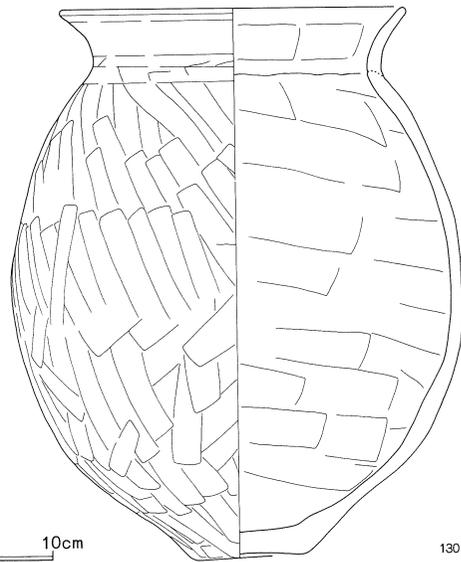
125



129



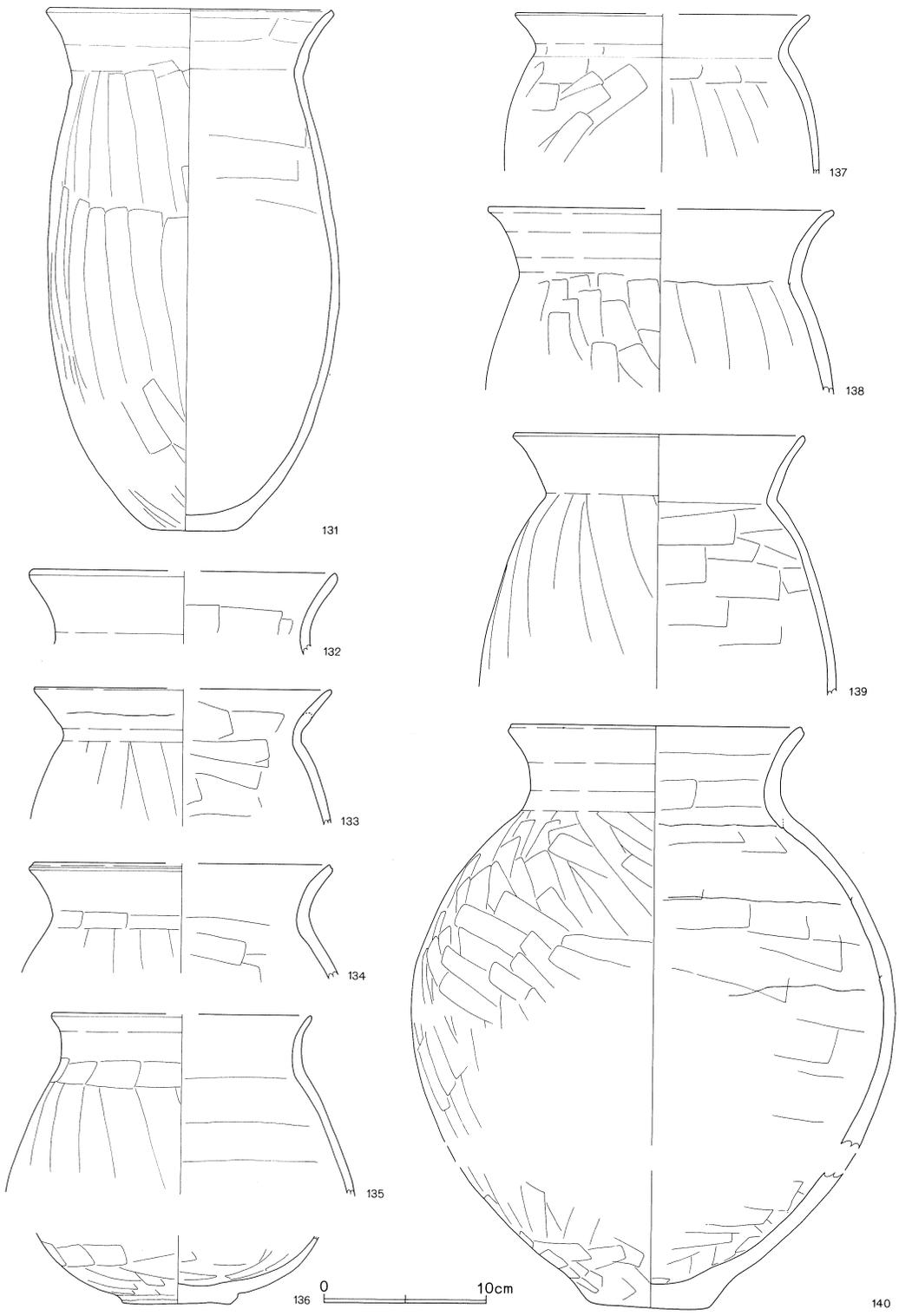
126



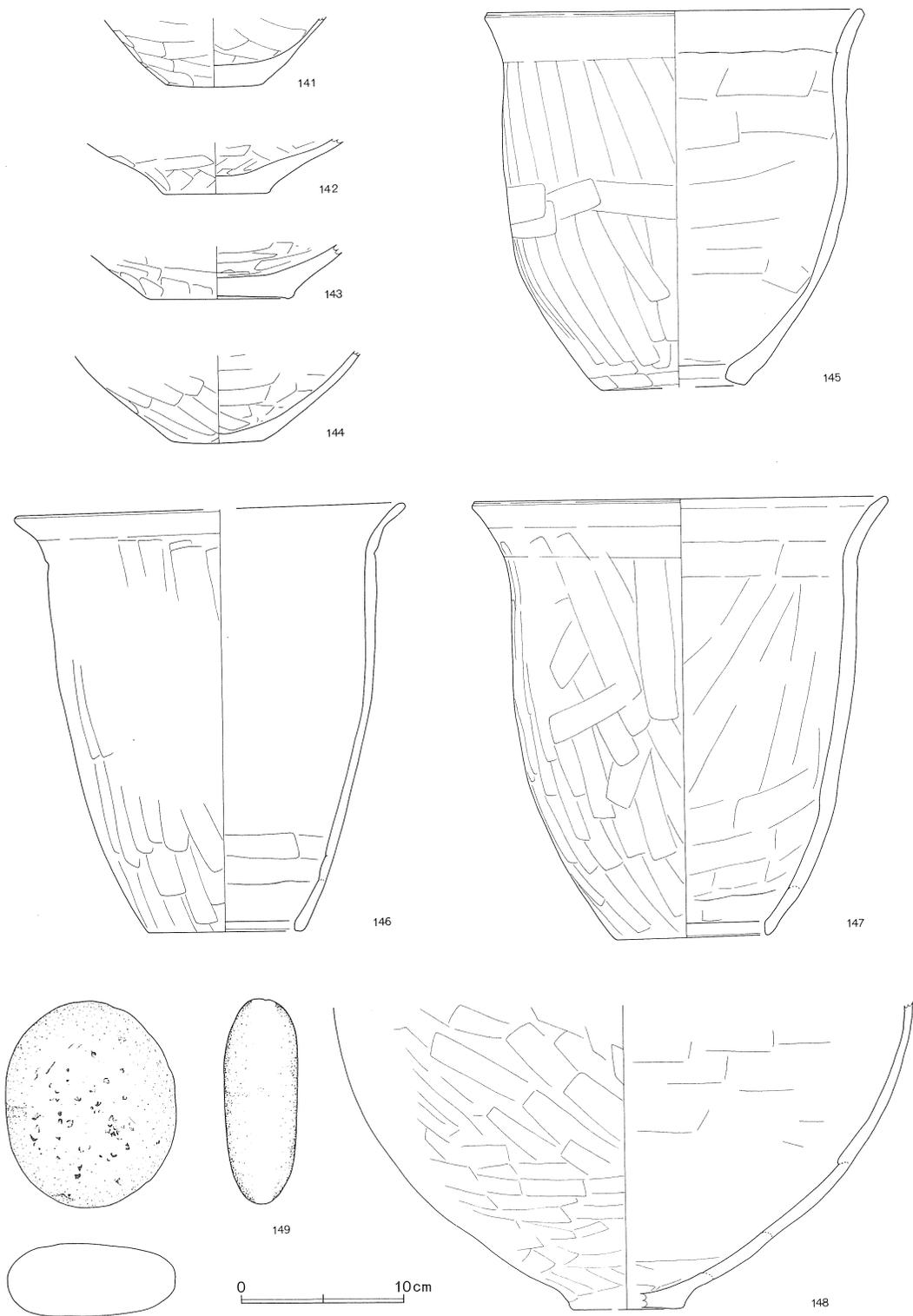
130

0 10cm

第383図 第66号住居跡出土遺物(6)



第384图 第66号住居跡出土遺物(7)



第385図 第66号住居跡出土遺物(8)

第66号住居跡 (第378~385図)

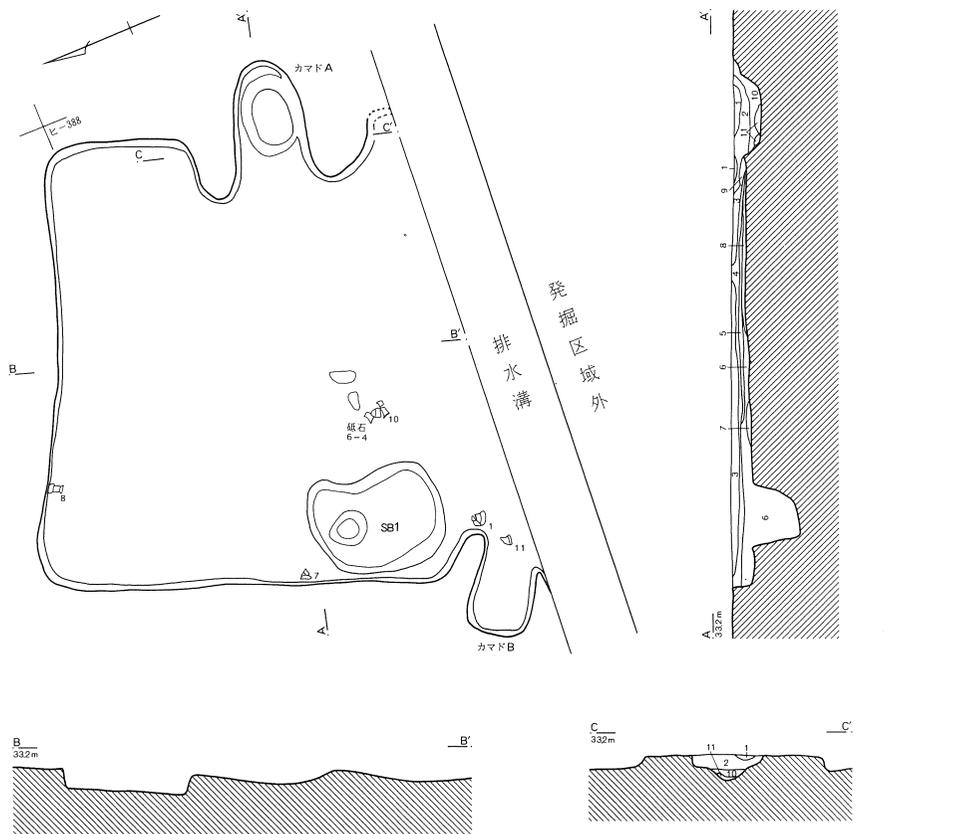
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口13.5 高5.3	B+R+W	(内)にふい黄橙 (外)橙	100	No.34。内面灰色・外面黒色部分
2	坏	口12.2 高5.3	B+R+W	(内)橙 (外)橙~明褐	100	No.67。外面に黒色部分
3	坏	口12.9 高6.2	B+R多+W	(内)にふい橙 (外)橙	100	No.33。外面に黒色部分
4	坏	口13.9 高7.0	B+R	橙	90	No.58。口縁端面トリ
5	坏	口15.8 底4.1 高5.2	B+W	(内)橙~にふい赤 褐 (外)にふい赤褐	100	No.10。内外面に黒色部分
6	坏	口14.5 底5.9 高5.0	B+R+W	赤	100	No.31。内外面赤彩
7	坏	口(11.9)	B+R	橙	40	内外面に黒色部分
8	坏	口12.2 高5.4	B+R+W+W'	橙	55	No.63。内面全体的に黒色
9	坏	口(11.7)	B+R+W少	(内)橙 (外)にふい橙~橙	40	
10	碗	口(11.0) 底(4.4) 高5.3	B+R+W	橙	25	底部一方向のケズリ 外面剥離
11	坏	口12.3 高5.9	B+R+W	橙	90	No.13。底部調整不良 口縁部内外面に黒色部分
12	坏	口(12.0)	R+W少	橙	40	口縁端部ヘラアテ面トリ
13	坏	口(12.4) 高5.5	B+R+W少	(内)にふい橙~橙 (外)橙	50	No.84。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
14	坏	口(12.4)	B+R+W	橙	30	口縁端部面トリ
15	坏	口(12.0) 高5.3	B少+R多+W	橙	25	口縁端部面トリ
16	坏	口(11.5)	B+R+W	橙	30	No.81。口縁端部面トリ
17	坏	口12.1 高5.3	B少+R+W少	(内)橙~灰褐 (外)橙	50	No.39。口縁端部面トリ 内面灰色・外面黒色部分
18	坏	口(12.0)	R少+W+W'	橙	20	口縁端部弱い面トリ
19	坏	口(12.0)	B+R+W	橙~浅黄橙	25	口縁端部ヘラアテ面トリ
20	坏	口(12.2)	R多+W	橙	30	風化が著しい 口縁端部面トリ
21	坏	口(12.2)	R多+W	橙	口縁 30	No.87。口縁端部ヘラアテ面トリ
22	坏	口(11.6)	B少+W' 少	橙	10	外面風化
23	坏	口(11.9)	B+R多+W	橙	25	No.48。口縁端部面トリ
24	坏	口(12.0)	R+W	橙	20	風化が著しい 口縁端部面トリ
25	坏	口(12.0)	R多+W	橙	20	
26	坏	口(13.0)	B少+R少+W少	橙	30	
27	坏	口(12.2)	B少+R+W少	橙	20	口縁端部ヘラアテ
28	坏	口(12.4) 高5.5	B+R多+W	(内)橙 (外)にふい橙	70	No.59。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
29	坏	口(12.4)	R+W少	橙~浅黄橙	30	

30	坏	口(13.0)	B少+R+W	橙	30	風化
31	坏	口(12.3)	B+R+W少	橙	30	No.96。口縁端面トリ
32	坏	口(12.4)	B少+R+W	にふい橙	40	口縁端面ヘラアテ面トリ
33	坏	口12.5 高5.1	B+R+W	にふい褐	70	口縁端面トリ 内外面に黒色部分
34	坏	口(14.0)	R	浅黄橙	25	
35	坏	口(12.4)	B+R+W少	橙	30	口縁端面トリ
36	坏	口(12.6)	B+R+W	にふい橙	40	口縁端面トリ 外面に黒色部分
37	坏	口(13.0)	B+R多+W	にふい橙	30	No.80。口縁端面ヘラアテ面トリ
38	坏	口(13.2)	R+W少	橙	口縁 30	
39	坏	口(13.0) 高5.6	B+R+W	赤褐	40	No.46。口縁端面トリ
40	坏	口(13.0) 高5.0	B+R+W少	(内)にふい黄橙 (外)橙~明赤褐	45	No.49。口縁端面トリ 口縁部内外面黒色
41	坏	口(13.7) 高4.9	B+R多+W	橙	40	No.8。
42	坏	口13.4 高5.1	B+R+W+W'	(内)灰褐 (外)にふい赤褐	60	No.53。内外面全体的に黒色
43	坏	口(12.0)	B少+R多+W	にふい橙	30	口縁端面トリ
44	坏	口12.6	B+R多+W	(内)橙 (外)にふい橙	90	No.51・52・54・55。
45	坏	口(13.4)	B+R	橙	40	口縁端面トリ 内外面に黒色部分
46	坏	口(12.0)	R少+W少	橙~にふい黄橙	20	口縁端面弱い面トリ
47	坏	口(14.0)	R多+W少	橙	20	口縁端面トリ
48	坏	口(14.4)	R多+W少	橙	20	
49	坏	口(13.7) 高5.5	B+R+W少	橙	40	No.81。口縁端面トリ 外面に黒色部分
50	坏	口12.0 高7.2	B+R+W	橙	70	No.3。外面に黒色部分
51	坏	口(14.0)	B+W	橙	10	外面風化が著しい
52	坏	口(14.3) 高5.8	B+R多+W	(内)橙 (外)橙~明褐	40	外面に黒色部分
53	坏	口(14.0)	B+R多+W	橙	口縁 30	口縁端面トリ 外面風化が著しい
54	坏	口(15.0)	R多+W	橙	25	No.86。風化が著しい
55	坏	口(16.0)	R少+W少	橙	20	口縁端面トリ 外面風化
56	坏	口(14.0)	R多+W少	にふい橙	20	No.5。風化が著しい
57	坏	口(16.0)	R多+W	橙	25	外面風化
58	椀	口(12.2) 底3.9 高6.4	B+R+W	(内)にふい赤褐 (外)橙	50	No.21。製作時の粘土基台がそのまま残存 内外面に黒色部分
59	椀	口12.8 底2.3 高6.5	B+R+W	橙	95	No.3。外面に黒色部分

60	碗	口(14.0)	R+W少	橙	10	風化が著しい
61	坏	口(12.0)	B少+W少	橙～黒褐	40	
62	坏	口(13.9)	B少+R+W少	明赤褐	20	
63	坏	口(12.0)	B少+R多+W少	浅黄橙	30	
64	坏	口(13.0)	B少+R+W少	にふい橙	口縁 20	風化が著しい
65	坏	口(14.0)	R少+W少	橙～浅黄橙	30	口縁端部ヘラアテ
66	坏	口(13.4) 高4.7	B+R多+W	橙	60	外面黒色
67	碗	口(14.0) 高6.7	B+R少+W少	明赤褐	40	
68	碗	口(14.0)	R+W+礫少	にふい褐	20	口縁部外面に工具による刺突
69	碗	口(13.4) 底3.1 高6.1	B+R多+W	赤	60	No.91。
70	坏	口(15.0)	W	明赤褐	30	
71	坏	口14.1 底3.9 高5.4	B+R+W	(内)橙 (外)橙～灰褐	85	No.16。外面黒色
72	坏	口(15.7)	B+R+W	橙～暗赤褐	45	No.108。外面黒色 内面に黒色部分が帯状に廻る(重ね焼きの痕跡)
73	坏	口(16.0)	R+W	橙	10	風化が著しい
74	鉢	口(15.2)	B+R+W	(内)橙 (外)にふい橙	口縁 20	風化
75	高坏	口(19.0)	B+R+W	橙	坏部 20	No.7。口縁端部面トリ
76	高坏	口16.5	B+R+W	橙	坏部 95	No.1。
77	高坏	脚11.7	B+R多+W	橙	脚部 100	No.6。
78	高坏	脚11.7	B+R+W	橙	脚部 50	No.104。
79	台付鉢	台8.9	B+R+W	橙	脚部 100	No.83。脚部内面黒色
80	高坏		B+R+W	明赤褐	脚部 40	内外面に黒色部分
81	高坏		B+R+W少	(内)にふい赤褐 (外)明赤褐	脚部 80	外面に黒色部分
82	高坏		B少+R+W少	橙	脚部 60	
83	高坏		B少+R+W少	(内)橙 (外)橙～灰褐	脚部 70	No.85。内外面に黒色部分
84	鉢	口16.3 底6.1 高12.5 胴16.6	B+R+W多	橙	90	No.88・89。胴部外面下半と口縁部～胴部内面に黒色部分が帯状に廻る
85	鉢	口15.0 底6.1 高12.1 胴16.4	B+R+W+W'	明赤褐	95	No.15。胴部内面上半に黒色部分が帯状に廻る
86	鉢	口15.7 底5.2 高11.9 胴15.6	B+R+W多	(内)にふい橙(外) にふい橙～赤褐	90	No.90。胴部外面下半と口縁部～胴部内面上半に黒色部分が帯状に廻る
87	ミニチュア	底2.5	B+R+W	にふい橙	70	No.82。
88	ミニチュア	口(8.5) 底4.4 高6.5	B+R多+W	(内)にふい橙 (外)橙	40	底部に製作時の粘土基台が残存
89	ミニチュア	口(4.1)	B+R+W	橙	30	

90	ミニチュ ア	口(4.3) 高5.6	B+R+W少	橙	50	No.36。
91	ミニチュ ア	口(5.0)	B+R+W少	(内)橙 (外)にふい橙	30	
92	ミニチュ ア	口(6.7) 高3.2 最大6.7	B+R	(内)橙 (外)橙～にふい橙	60	No.58。
93	坏	口(8.0)	R+W+W'	橙～黒褐	20	
94	ミニチュ ア種	口8.1 底3.5 高5.9 最大8.9	B+R+W	橙	95	
95	埴	口(9.3)	B少+R少+W	橙	15	
96	無頸壺	口6.8 底5.4 高9.3 胴14.0	B+R+W少	橙～にふい橙	50	No.94。胴部外面下半～底部黒斑
97	椀	口(12.0)	礫多	橙	口縁 25	
98	椀	口(12.4)	B少+R+W	橙～灰褐	25	
99	椀	口(15.9)	B+R+W	にふい赤褐	20	
100	小型甕	口11.6 底3.4 高12.0 胴13.0	B+R+W少	明赤褐	95	No.41。内外面が全体的に黒色
101	鉢	口16.1	B+R+W少	橙	50	No.4。
102	鉢	口(16.0)	R+W	橙	上半部 20	
103	小型甕	口11.4 底5.2 高15.1 胴13.3	B+W	橙	100	No.58。胴部外面に黒色部分
104	小型甕	口13.2	B+R+W+砂少	(内)赤橙 (外)にふ い橙～赤橙	60	No.97。胴部内面と外面下半黒色
105	小型甕	口15.1	B多+W多+砂多	赤橙～にふい橙	95	No.79。胴部外面下半に黒色部分
106	小型甕	口12.0 胴13.3	B少+R+W少	(内)にふい橙 (外)明赤褐	70	No.62。
107	小型甕	口17.1	B+R+W	橙～赤橙	60	No.42。
108	小型甕	底3.4	W	橙	底部 50	底部ケズリ 内面風化が著しい
109	鉢	口22.1	B+R少+W	(内)褐灰 (外)灰褐	10	No.105。内面黒色
110	甕	口15.5 底4.3 高13.0	B+R+W少	橙	95	No.17。外面下半は黒色
111	甕	口18.1 底4.0 高14.2	B+R+W	橙	80	No.77。胴部外面に黒色部分
112	甕	口(19.0)	B+R少+W+W'	灰黄褐	20	No.103。内外面に黒色部分
113	甕	口15.9	B+R+W+砂少	(内)にふい橙 (外)明赤褐～橙	80	No.61。胴部外面に黒色部分
114	甕	口14.8	B多+R多+W+砂少	橙	90	No.50・72・73。胴部外面に黒色部分
115	甕	口15.8 底6.2 高18.9 胴17.9	B+R少+W	(内)にふい黄橙 (外)橙～赤橙	80	No.43。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
116	甕	底5.9	B+R多+W	橙～赤橙	70	No.106・107・109・カマド。底部ケズリ 胴部外面下半と内面中位に黒色部分が帯 状に廻る
117	甕	口15.1 底7.3 高24.1 胴17.7	B+R多+W+礫少	橙	70	No.11。
118	甕	口16.2 底5.6 高22.5 胴17.4	B+R+W+砂多+礫多	(内)にふい黄橙 (外)浅黄橙～淡赤 橙	90	No.12。底部ケズリ
119	甕	口(15.6)	B+R+W+砂多	(内)灰黄 (外)赤橙～灰黄	40	No.93。内外面とも全体的に黒色

120	甕	口(15.2)	B+R+W+砂少+礫少	(内)橙~にふい橙 (外)にふい橙~赤 橙	70	No.18。内外面とも全体的に黒色
121	甕	口(18.9)	B+W	橙	15	内外面に黒色部分
122	壺	口18.3	B+R	橙~赤橙	口縁 90	No.69。
123	壺	口17.2	B+R+W+砂少	橙	30	No.25。
124	甕	口16.2 底5.7 高23.7 胴20.0	B+R+W+砂少	橙~黄橙	90	No.101。底部ケズリ
125	甕	口16.3	B+R+W+礫少	灰白~灰黄	60	No.47。胴部外面下半に黒色部分
126	甕	口17.4	B+R+W	明黄褐~橙	40	No.63・64。外面に黒色部分
127	壺	口(19.1)	B+R多+W	橙	15	
128	甕	口(22.0)	W	橙~黒褐	口縁 10	
129	甕	口19.3 底3.8 高28.7 胴24.5	B+R+W+砂少	(内)にふい黄橙~ 暗褐 (外)橙~にふ い黄橙	70	No.65・68・70・71・74。底部ケズリ 胴部 外面に黒色部分
130	甕	口18.5 底6.3 高29.3 胴24.0	B+R+W+砂少	(内)橙 (外)橙~浅黄	100	No.102。底部周辺に粘土貼付 胴部外面 に黒色部分
131	甕	口17.7 底5.2 高32.1 胴17.9	B+R+W+砂少+礫少	(内)灰白 (外)灰黄	80	No.98。底部ケズリ 胴部外面下半黒色
132	甕	口(18.9)	B+R+砂少+礫少	橙	10	
133	甕	口(18.3)	B+R+W	明赤褐	10	
134	甕	口(18.6)	B+W+砂多	橙	10	No.41。
135	甕	口(16.0)	B+R+W少+砂少	(内)浅黄橙 (外)にふい橙	口縁 25	No.60。
136	壺	底6.7	B+R+W少	(内)橙 (外)にふい橙	底部 60	底部ケズリ 外面黒色
137	甕	口(18.1)	B+R+W+砂少	にふい橙	15	No.35。胴部外面に黒色部分
138	甕	口(21.3)	B+R+W+砂少	にふい橙	15	No.44。
139	甕	口17.9	B+W少+砂少+小石少	浅黄橙~にふい黄 橙	30	No.45。
140	甕	口18.2 底7.4 高35.9 胴29.8	B+R+W+砂多	(内)にふい橙~橙 (外)橙~明赤褐	40	No.19。底部ケズリ
141	甕	底6.0	B+R+W+砂少	にふい橙	底部 100	No.9。底部黒色 外面黒色
142	甕	底6.6	B+R少+W+砂少	(内)赤橙 (外)にふい橙	底部 100	No.38。底部ケズリ 外面に黒色部分
143	甕	底9.2	B+W+W'+砂少	にふい橙	底部 100	No.27。底部ケズリ 外面に黒色部分
144	甕	底5.6	B+R+W+砂少	(内)橙 (外)灰褐	底部 80	底部ケズリ 外面は全体的に黒色
145	甕	口23.3 底8.9 高23.1	B+R多+W	橙	50	No.2。外面に黒色部分
146	甕	口(24.1) 底9.5 高25.9	B+R多+W	(内)黄橙 (外)橙~黄橙	40	No.94。外面に黒色部分
147	甕	口25.5 底9.3 高26.9	B+R+W	明赤褐	90	No.57。外面に黒色部分
148	壺	底7.1	B多+R+W+W'+砂少	にふい橙	15	No.29。底部ケズリ



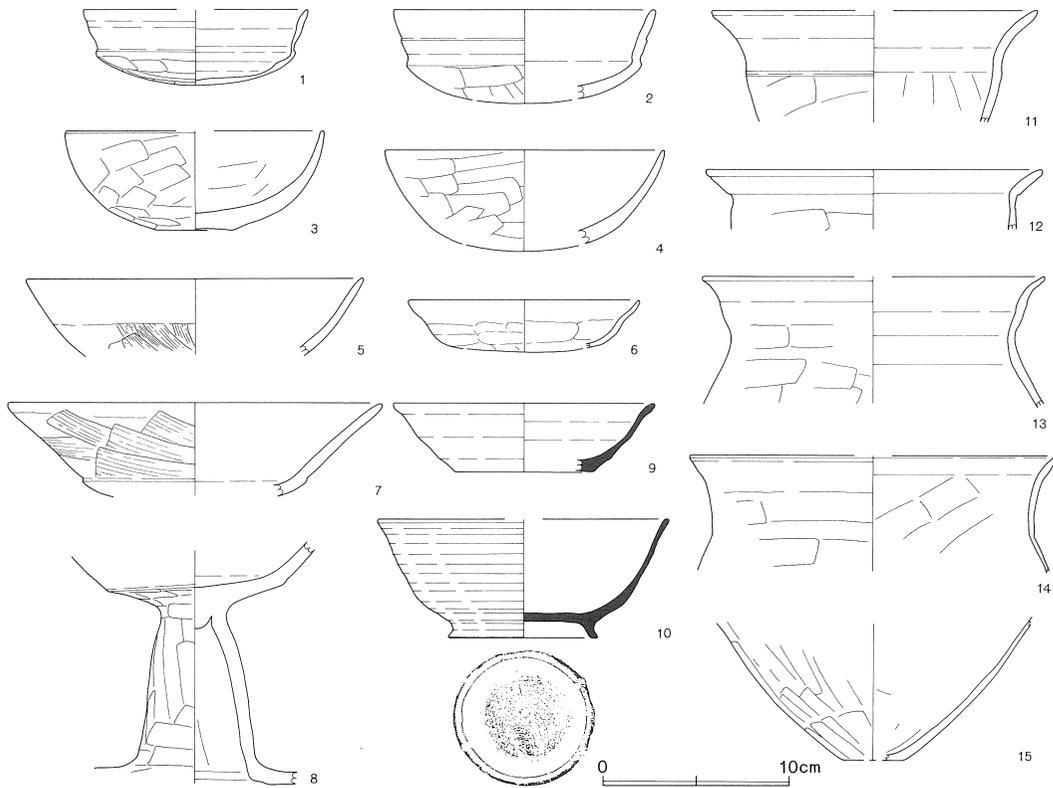
第67号住居跡

- |         |                            |         |                       |
|---------|----------------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色土  | 焼土粒子、灰多量含む。しまりあり、粘性弱。      | 7 暗茶褐色土 | 焼土ブロック多量含む。しまりあり。     |
| 2 暗褐色土  | 焼土粒子・ブロック多量、炭化物若干含む。しまりあり。 | 8 噴砂    |                       |
| 3 暗褐色土  | 焼土ブロック、炭化物若干含む。しまりあり。      | 9 黒褐色土  | 灰多量、炭化物若干含む。しまりややあり。  |
| 4 灰褐色土  | 焼土粒子若干含む。しまりあり。            | 10 黒褐色土 | 焼土ブロック、灰多量含む。しまりややあり。 |
| 5 暗褐色土  | 焼土粒子、炭化物少量含む。しまりあり。        | 11 暗褐色土 | 焼土粒子若干含む。しまりややあり。     |
| 6 暗茶褐色土 | 焼土粒子、炭化物若干含む。しまりあり。        |         |                       |

第386図 第67号住居跡

第67号住居跡（第386図）

エー388、ヒー388Gridに位置し、第74号住居跡・第1号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は第74号住居跡よりも新しく、第1号掘立柱建物跡よりも古い。規模は主軸辺3.60m、深さ0.10～0.15mで、主軸方位はN-105°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは東壁と西壁に2基構築されている。東壁のカマドAは全長2.35m、焚き口幅0.60mを測り、袖部は地山が掘り残されている。燃烧部は鶏卵形を呈し、摺り鉢状に掘り窪められている。火床面はよく焼けており、煙道部は削平されている。西壁のカマドBは全長0.82m、焚き口幅0.37mを測る。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は方形を呈している。2基のカマドの袖部は地山が掘り残されていることから、いずれも住居跡構築時に同時に設置されているものと考えられる。しかし



第387図 第67号住居跡出土遺物

2基のカマドをそれぞれ対向する辺に、しかも同時に設置していることには疑問が残る。2軒の住居跡が重複している可能性も想定されるが、調査ではこの様な状況は捉えられていない。削平によって残存状態があまりよいとはいえないことも加味する必要があるが、同時に2基のカマドが設置されている例として挙げることができよう。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物はあまり多くなく、後世の混入品も認められる。土師器のほかに、砥石1点、編物石1点、縄文土器1片が出土している。

#### 第68号住居跡（第388図）

スー384・385、ンー384・385Gridに位置している。土取りによる削平を受けて、住居跡の掘り込みはたいへん浅い。特に東半部は完全に消失し、北西壁および南西壁のみが確認されているに過ぎない。規模は、北西辺3.87m・南西辺3.85m、深さ0.40mで、北西壁の方位はN-42°-Eを測る。壁溝が北西壁から南西壁中央部まで廻っている。壁溝は、幅0.12~0.18m、深さ0.05~0.07mの規模をもっている。ピットは3基検出されているが、P1もしくはP2が柱穴で、ほかの用途は不明である。カマド・貯蔵穴は確認されていない。床面には貼床が施され、顕著に認められている。また西コーナー部の床面直上には黄白色の粘土ブロックが多量に検出されている。この部分に粘土

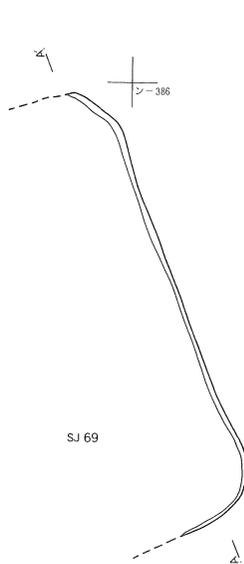
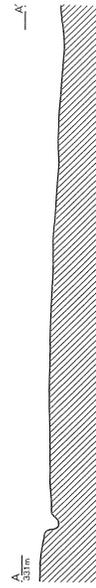
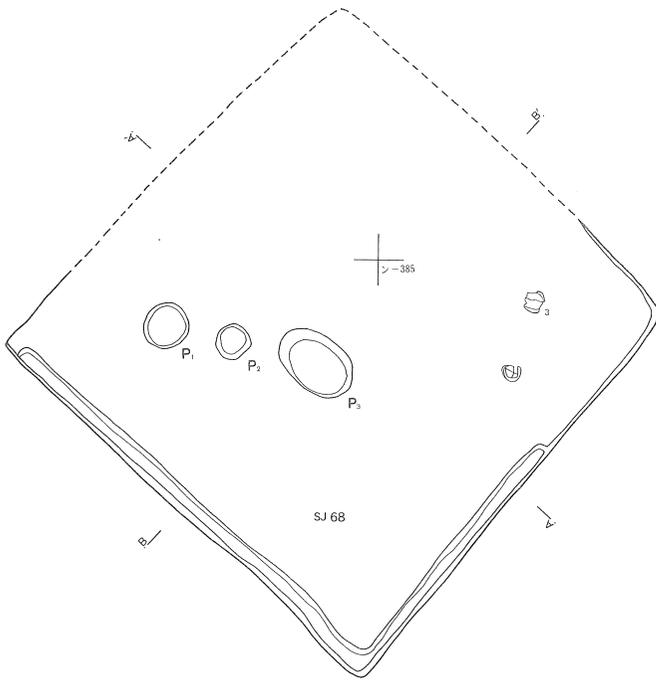
第67号住居跡（第387図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.0 高4.0	B多+W	にふい橙	60	No.5。
2	坏	口(14.0)	B+W' 少	橙～にふい橙	20	カマド。
3	碗	口(13.8) 底4.1 高5.3	B+R多+W	橙	35	
4	碗	口(15.0)	R+W	にふい橙	20	口縁端部丸い
5	碗	口(18.0)	R+W少	橙	口縁 10	
6	坏	口(12.4)	B少+R少	にふい橙	20	
7	高坏	口(20.0)	B+W+W'	橙	口縁 10	No.2。
8	高坏		B+R+W	橙	40	No.1。
9	坏	口(14.0)	B少+W	灰	20	回転糸切り離し
10	高台付碗	口(15.5) 台8.0 高6.3	B+W	(内)灰褐 (外)橙～灰褐	50	No.4。回転糸切り離し後、高台ナデツケ
11	鉢	口17.3	B+R	(内)浅黄色 (外)灰白	口縁 15	No.6。
12	甕	口(18.0)	W+W'+R	(内)褐 (外)橙	口縁 5	
13	甕	口(18.2)	B+R+W	(内)にふい赤褐 (外)明赤褐	口縁 20	カマド。内面黒色
14	甕	口(19.5)	B+R+W	にふい橙	口縁 20	
15	甕	底(3.3)	B+W	(内)にふい橙 (外)灰褐	底部 20	外面黒色

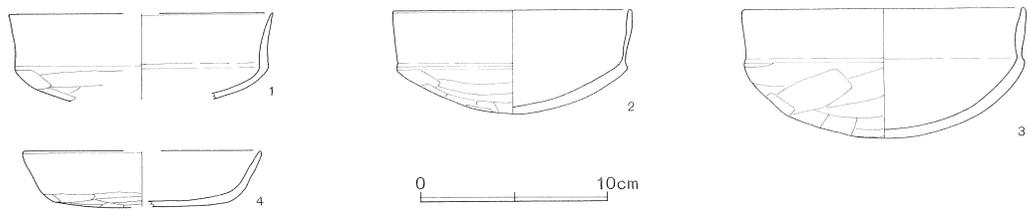
がまとまっていたものと推定されるが、その用途・性格等は明確ではない。遺物はきわめて少なく、図示し得る遺物は坏形土器4点のみで、ほかに須恵器1片が出土している。カマドは北東壁もしくは南東壁に構築されているものと考えられ、上敷免遺跡におけるカマドの位置と合致している。

第69号住居跡（第388図）

スー386、ンー386Gridに位置している。土取りによる削平のため、住居跡の大部分が消失している。南壁のみが確認されているに過ぎない。一辺3.54mを測り、ほかの個所は測定できない。カマド・貯蔵穴・ピット・壁溝等の施設は確認されていない。遺物はきわめて少なく、図示し得るものは出土していない。わずかに、土師器4片が検出されているのみである。



第388図 第68・69号住居跡



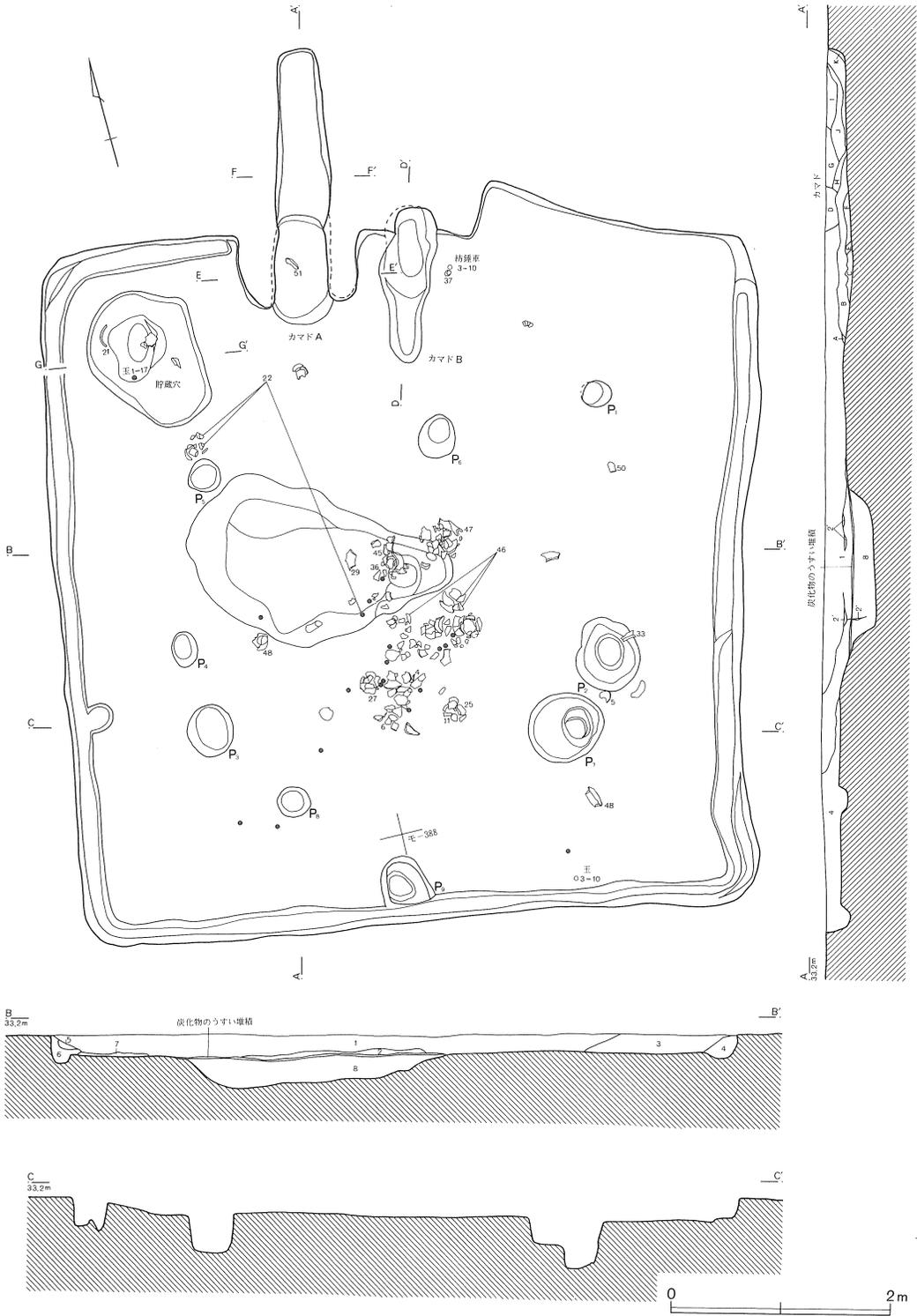
第389図 第68号住居跡出土遺物

第68号住居跡 (第389図)

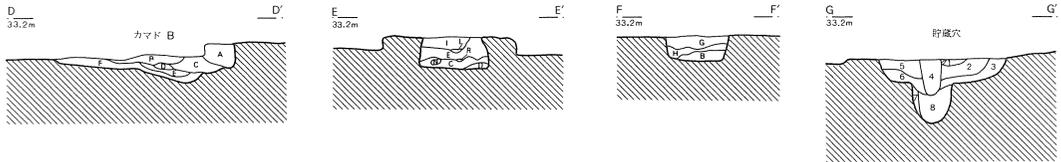
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.1)	B+R多	浅黄橙～橙	25	ビット1。外面は全体に黒色
2	坏	口12.8 高5.5	B+R多+W	浅黄橙	95	ビット1。口縁端面面トリ
3	坏	口15.1 高6.9	B+R多+W	にふい橙	90	No.1。口縁端面面トリ
4	坏	口(12.8) 底(9.3) 高3.0	B+R+W	にふい橙	40	ビット1。



第390図 第70号住居跡遺物出土状況



第391図 第70号住居跡(1)



第70号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子微量含む。しまりあり、粘性弱。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量含む。しまりあり、粘性やや強。
- 2' 暗褐色土 2に炭化物含む。
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量、白色微粒子多量含む。しまりあり、粘性弱。やや砂質。
- 5 黒褐色土 焼土粒子多量含む。しまりあり、粘性弱。
- 6 褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 7 褐色土 焼土粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。

第70号住居跡カマドA

- A 黒褐色土 焼土粒子少量含む。粘性弱。
- B 暗褐色土 焼土粒子多量含む。しまりあり、粘性弱。
- C 黒褐色土 炭化物層?。焼土粒子少量含む。粘性強。
- D 褐色土 焼土粒子微量含む。しまりあり、粘性弱。
- E 褐色土 焼土粒子極微量含む。しまりあり、粘性弱。
- F 暗褐色土 焼土粒子多量含む(ほぼ焼土層)。
- G 褐色土 Dより焼土粒子多く混入。
- H 暗褐色土 焼土粒子多量含む。しまり強、粘性弱。
- I 暗褐色土 焼土粒子微量含む。しまりあり、粘性弱。
- J 暗褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- K 褐色土 焼土粒子極微量含む。粘性弱。
- L 黒褐色土 焼土粒子極多量含む(ほぼ焼土層)。
- M 黒褐色土 Cに炭化物粒子含む。
- N 暗褐色土 焼土粒子微量含む。粘性ややあり。
- O 褐色土 焼土粒子極微量含む。

第70号住居跡貯蔵穴

- 1 暗茶褐色土 焼土粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 茶褐色土 焼土粒子(3~5mm)、炭化物粒子(10mm)多く含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 焼土粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗茶褐色土 焼土微粒子、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性強。
- 5 暗灰色土 焼土微粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗茶褐色土 炭化物微粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- 7 暗褐色土 暗黄色土ブロック(3cm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 8 灰褐色土 細粒砂少量含む。しまり・粘性強。

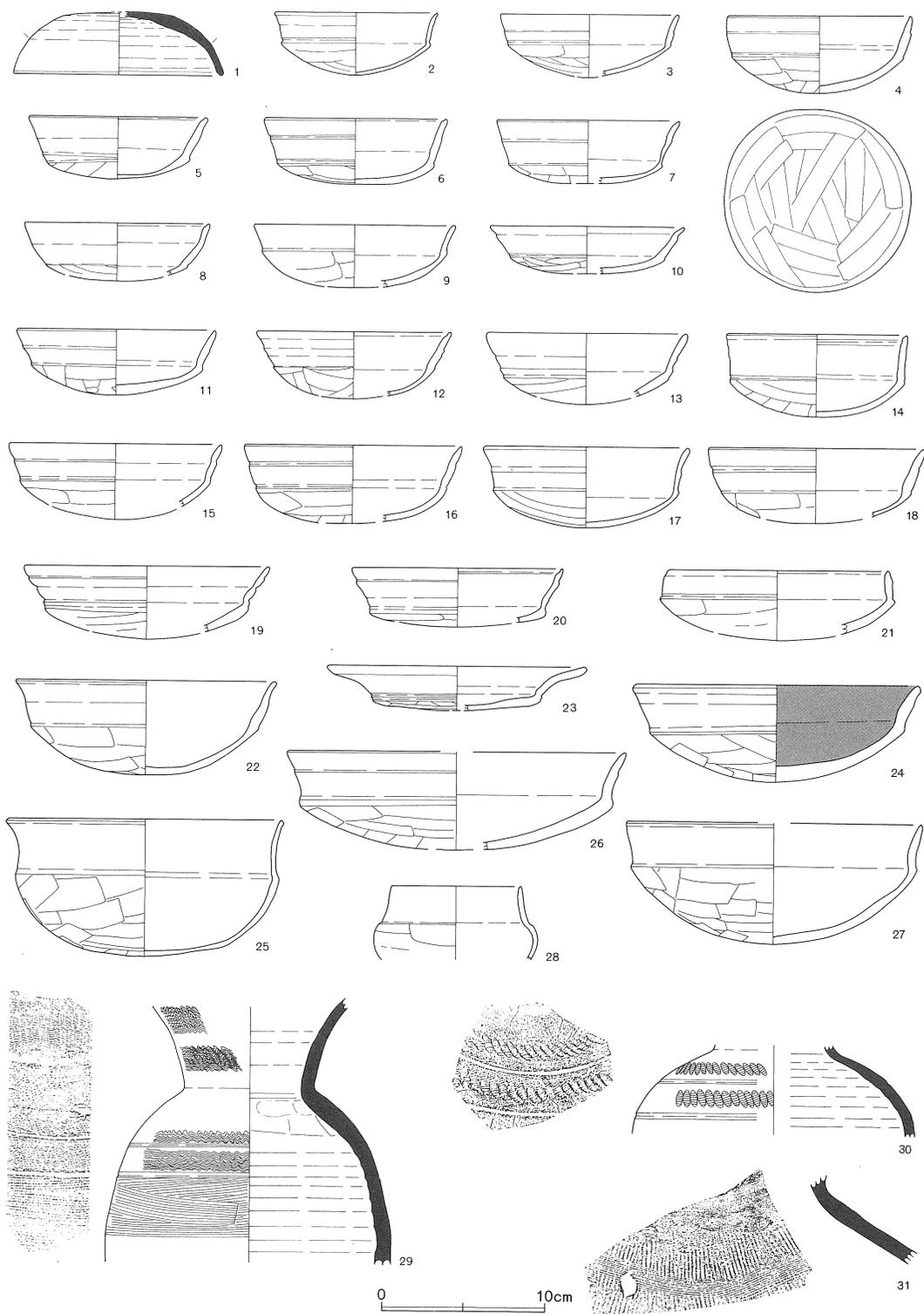
第70号住居跡カマドB

- A 褐色土 焼土ブロック(1~2cm)極多量含む。しまり・粘性あり。
- B 暗褐色土 焼土粒子微量含む。しまり・粘性あり。
- C 暗茶褐色土 焼土粒子・ブロック(3~30mm)極多量、炭化物粒子(3~5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- D 暗茶褐色土 焼土ブロック(3cm)多量含む。しまり・粘性あり。
- E 暗灰褐色土 焼土粒子(5~10mm)、炭化物微粒子多量含む。しまり・粘性やや弱。
- F 暗褐色土 焼土粒子(5~10mm)少量含む。しまり・粘性あり。

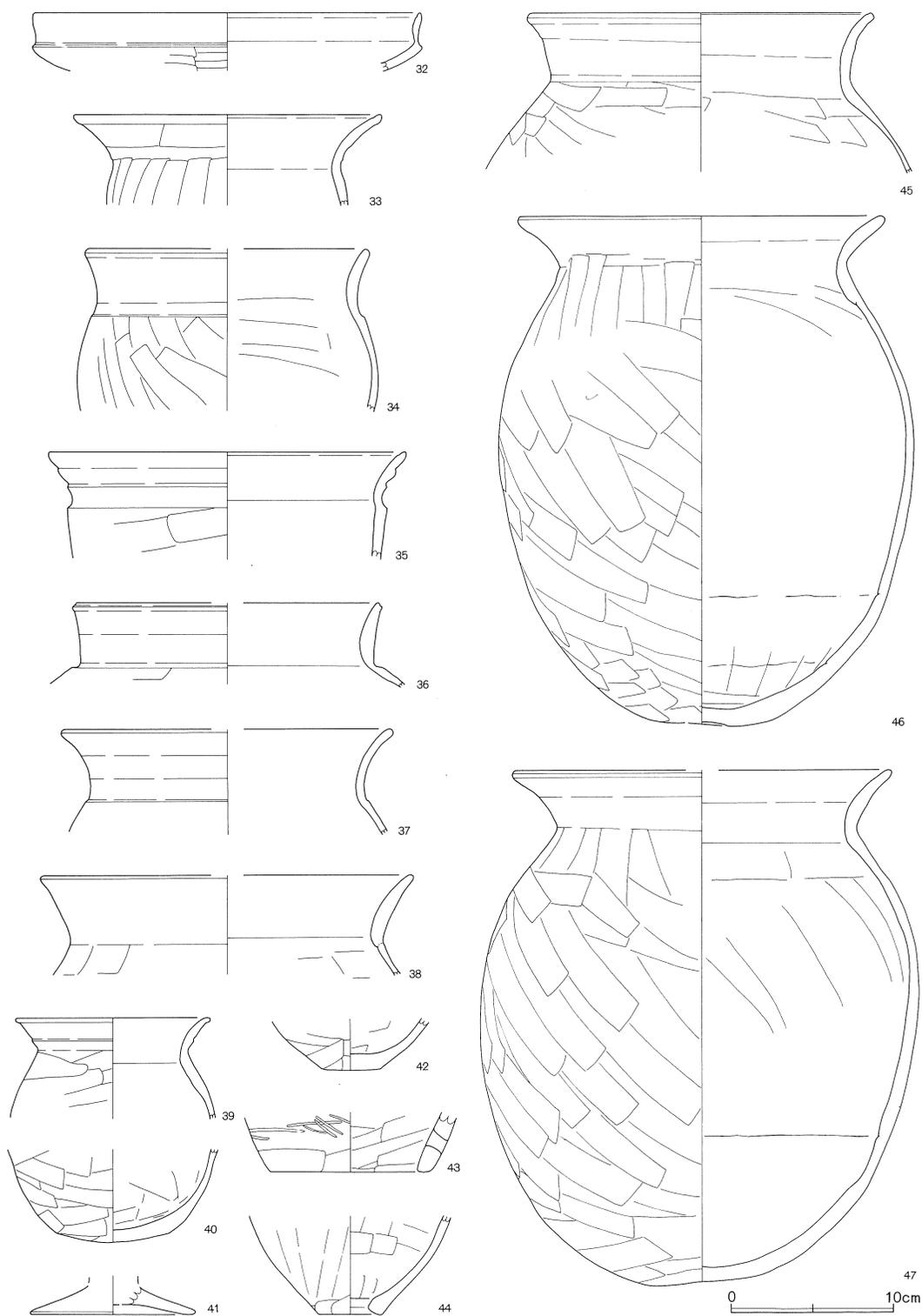
第392図 第70号住居跡(2)

第70号住居跡 (第391・392図)

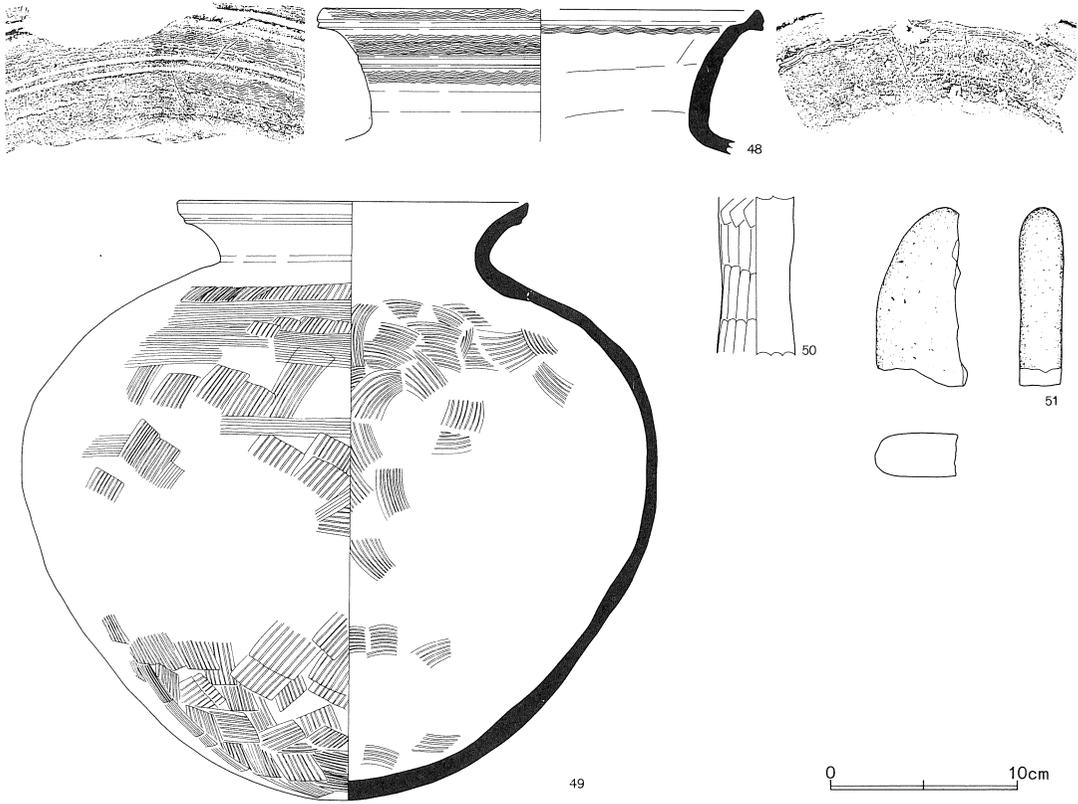
ヒ—387・388、モ—387・388、セ—387Gridに位置している。第78号住居跡と重複し、新旧関係は第78号住居跡よりも新しい。方形を基本とし、北壁の東半部は不自然に外方へ張り出している。規模は主軸辺6.39~6.66m・短辺6.29m、深さ0.13~0.16mで、主軸方位はN—14°—Eを測る。削平によってやや浅いものの、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。幅0.16~0.33m、深さ0.02~0.11mの壁溝が、北壁の一部を除いてほぼ全周している。南半部の方が比較的深い。カマドは北壁に2基並んで構築されている。西側に位置しているカマドAは、全長2.46m、焚き口幅0.48mの規模をもっている。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は隅丸長方形を呈している。火床面および煙道部の底面はよく焼けている。東側に位置しているカマドBは、全長1.42m、焚き口幅0.29mの規模である。燃烧部が隅丸長方形を呈し、住居跡壁外に掘り込まれている。燃烧部両脇の地山を袖部として利用していたものと思われる。また焚き口部が細長く張り出している特異な形態である。煙道部は確認されていない。明確ではないが、2基のカマドのうちカマドAが地山を掘り残して形成された袖部であることから住居跡構築時のもので、カマドBは新たに造られたものと考えられる。



第393图 第70号住居跡出土遺物(1)



第394图 第70号住居跡出土遺物(2)



第395図 第70号住居跡出土遺物(3)

また本住居跡はカマドBの両脇のラインが本来のラインであり、北壁東半部の張りだし部はカマドB構築の際に拡張されたものと想定される。貯蔵穴はカマド西側の北西コーナー部に設置されている。不整形を呈し、南北1.24m・東西1.03m、深さ0.69mを測る。ピットは9基検出され、柱穴としては規則的な面に欠ける。これは住居跡の拡張と関連しているのかもしれない。床面には貼床が施され、特に南半部では顕著に認められている。住居跡中央部床面直上に炭化物が薄く堆積している。その下面からは土坑が検出されているが、用途は明確ではない。東西2.45m・南北1.44m、深さ0.17~0.21mを測り、不整形を呈している。遺物はおもにこの土坑上周辺から出土し、土師器と併行する須恵器が多い。なかでも群馬県に分布の中心をもつ、埼玉県内4例めの徳利型平底壺の存在は注目される。石製紡錘車1点、石製白玉1点、土玉1点、磨石1点(4.7×9.6×2.4cm・170g)、も検出され、ほかに編物石7点、石鏃2点、縄文土器10片がある。

#### 第71号住居跡 (第396・397図)

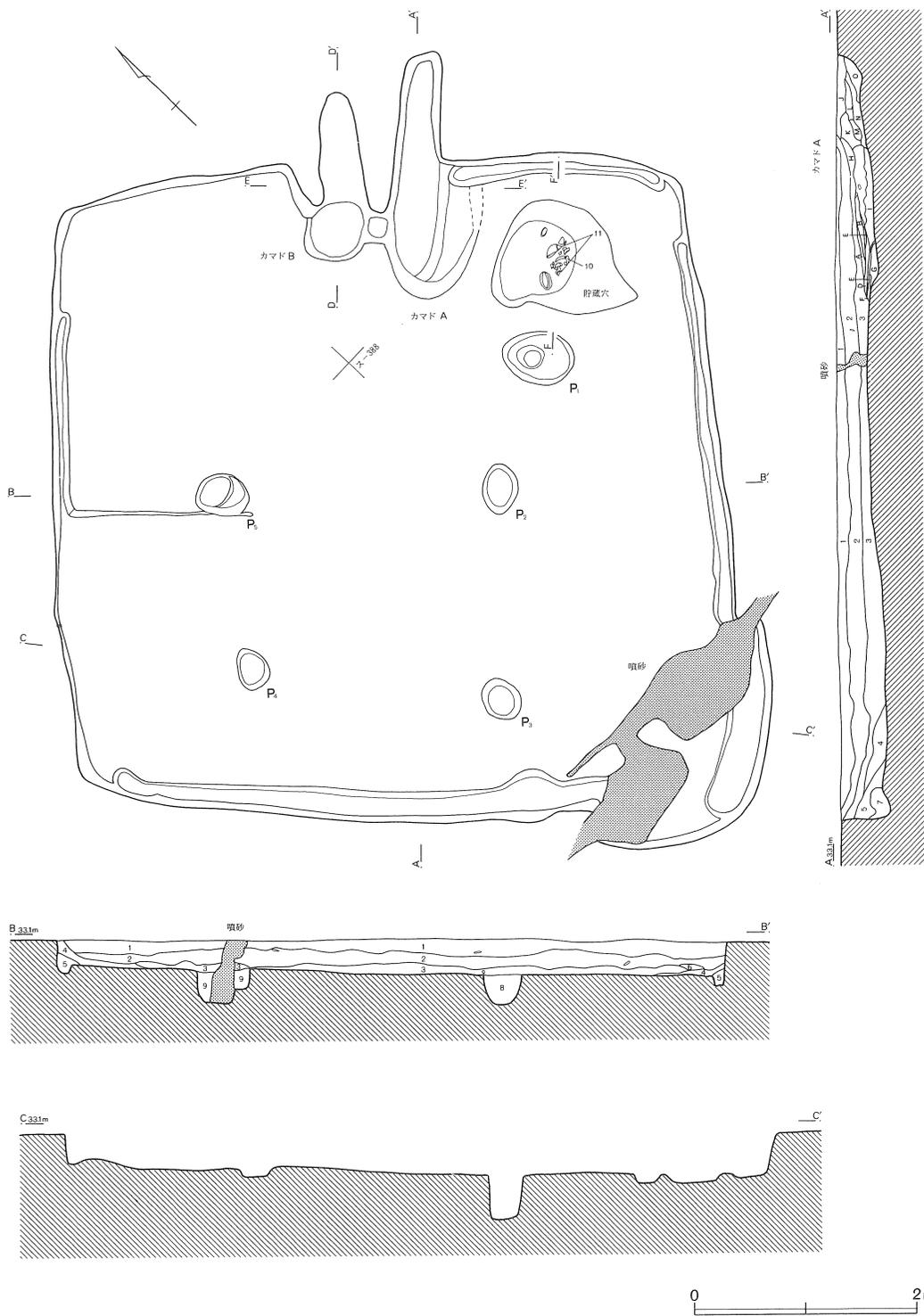
セー387・388、スー387・388Gridに位置している。南コーナー部に噴砂の亀裂が走り、水平方向に地盤がズレたため、住居跡の形状が変形されている。また中央部の噴砂の亀裂によって、床面には段差が生じている。これはP5の断面に顕著に認められる。規模は主軸辺5.85m・長辺5.97m、

第70号住居跡 (第393~395図)

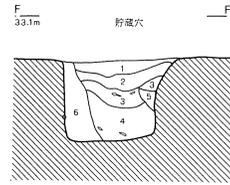
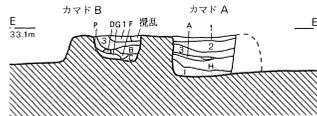
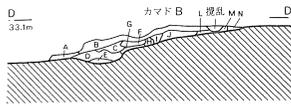
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口12.6 高3.8	B少+W	明褐灰	70	
2	坏	口(10.0) 高3.9	R	浅黄橙	20	風化著しい
3	坏	口(11.0)	B少+R	にふい橙	20	風化著しい
4	坏	口11.2 高4.6	B+R+W	暗赤褐	100	No.20。内外面黒色
5	坏	口10.8 高3.7	B多+R+W	(内)にふい橙 (外)にふい橙~橙	60	No.6。口唇部沈線 内外面黒色部分
6	坏	口11.0 高4.0	B多+R+W	橙	80	No.17。口縁端面トリ 内外面黒色部分
7	坏	口11.0	B多+R+W	橙~にふい橙	90	内面に帯状の黒色部分 外面黒色部分
8	坏	口(11.4)	B+W	橙	口縁 30	口縁端部ヘアアテ・沈線
9	坏	口(12.4)	B+W+W'	橙	20	ビット7。風化著しい
10	坏	口(12.0)	B+W	にふい橙~黒	30	No.2。外面黒色
11	坏	口1.2 高4.0	B多+R+W	橙	80	No.68。
12	坏	口(12.0)	B+R少+W少	浅黄橙	口縁 40	口縁端部ヘアアテ・沈線
13	坏	口(12.4)	R+W+W'	橙~灰褐	20	内面風化著しい
14	坏	口(11.0) 高5.0	B多+R+W	橙	60	
15	坏	口(13.0)	B+R+W+W'	橙	20	
16	坏	口13.2	B+R+W	橙	80	内外面黒色部分
17	坏	口(12.4) 高5.1	B多+R	にふい橙	20	
18	坏	口(13.0)	B+R多+W	橙	40	内外面黒色部分
19	坏	口(15.0)	R+W+W'	にふい黄褐~黒	10	
20	坏	口(13.0)	B+R+W+W'	橙~浅黄橙	口縁 20	口縁端部ヘアアテ
21	坏	口(13.6)	B+W+W' 少	橙	口縁 20	外面風化
22	坏	口15.8 高5.7	B+R+W少	橙	60	No.55・58・65。内外面黒色部分
23	坏	口(16.0) 高(2.7)	B+R+W+W'	橙~黒褐	10	
24	鉢	口17.4 高6.0	B+R+W	(内)黒 (外)橙~褐	80	No.62。内面黒色
25	鉢	口16.8 高8.4	B+R+W+W'	(内)橙~褐 (外)橙	75	No.10。内外面黒色部分
26	鉢	口20.6	B+R多+W	橙	30	外面黒色部分
27	鉢	口(18.0) 高7.4	B+R+W少	(内)にふい褐 (外)にふい橙	25	No.21。
28	碗	口(8.0)	W少	浅黄橙	口縁 30	風化著しい
29	德利型平底壺	胴17.6	W	(内)灰 (外)灰~暗灰	20	No.71。波状文・カキ目

30	壺		B+W少	灰	15	櫛状工具列点文・沈線
31	甕		B+R+W	(内)にふい黄橙 (外)灰黄		No.4。外面平行タタキ後カキメ 内面ナデ
32	坏	口(24.0)	B+R+W	黒褐	5	ピット6。口縁端部ヘラアテ
33	甕	口(19.0)	B多+R+W多	橙～黒褐	口縁 20	No.5。口縁端部弱いヘラアテ
34	鉢	口(17.0) 胴18.5	B+R+W多	(内)黒褐 (外)褐～黒褐	15	内外面黒色
35	鉢	口(22.0)	B+R+W+礫少	にふい黄橙	口縁 10	口縁端部ヘラアテ
36	壺	口(18.4)	B+R+W	にふい黄橙	口縁 25	No.49。
37	甕	口(20.0)	B多+R多+W	にふい橙	口縁 25	No.1。
38	甕	口(22.6)	B多+R+W	にふい橙	口縁 30	
39	小型甕	口(12.0)	B+R+W	(内)黒 (外)橙	上半 20	
40	甕	底6.9	B+R少+W	浅黄橙	底部 70	No.56。底部ケズリ 外面黒色部分
41	高坏	脚(10.2)	B+W+W'	橙	裾部 50	風化著しい
42	甕	底(3.4)	B多+R+W多	橙～にふい黄橙	底部 100	底部ケズリ
43	甕	底(10.0)	B+R+W+W'	浅黄橙	底部 20	穿孔
44	甕	底(4.0)	R+W	橙～にふい黄橙	底部 25	外面風化著しい
45	甕	口(21.0)	B+R+W多+W'	にふい橙	口縁 80	No.49。
46	甕	口22.2 底2.7 高31.2 胴25.0	B多+R多+W+W'	橙	75	No.35・36・42。胴部外面帯状の黒色部分
47	甕	口(23.0) 底5.5 高(31.4) 胴26.0	B多+R多+W+W'	橙	45	No.45。胴部外面帯状の黒色部分
48	甕	口23.0	R+W	(内)明褐灰 (外)灰褐	口縁 25	No.7。波状文
49	甕	口18.6 高3.2 胴33.4	W	(内)灰 (外)褐灰～灰	70	外面平行タタキ後、肩部のみクシ目 内面青海波文
50	支脚		B+W	橙	40	No.3。穿孔なし

深さ0.22～0.35mで、主軸方位はN-43°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は、幅0.12～0.46m、深さ0.04～0.05mの規模で、北東壁・北西壁の一部および南東壁・南西壁に廻っている。カマドは北東壁に2基構築されている。北側のカマドBは全長1.53m、焚き口幅0.36mを測る。袖部は地山が掘り残されている。燃焼部は隅丸方形を呈し、摺り鉢状に掘り窪められている。煙道部は緩やかな傾斜をもって、外方に延びている。南側のカマドAは全長2.16m、焚き口幅0.46mを測る。北側の袖部はカマドBと共有し、南側は確認されていない。燃焼部は住居跡の内側に張りだし、摺り鉢状に掘り窪められている。火床面から緩やかに煙道部へ続き、煙道部底面は煙出部で一旦窪んでから急激に立ち上がっている。2基のカマドの内、地山が掘り残されている袖部のあるカマドBが住居跡構築に伴っているもので、カマドAは後に付設されたものと考えられる。本来袖部があるべき部分に壁溝が廻っていることから判る。貯蔵穴はカマド南側の東コーナ



第396図 第71号住居跡(1)



第71号住居跡

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子微量含む。しまりあり、粘性欠。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量含む。しまりあり、粘性弱。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物・褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 4 暗褐色土 焼土粒子微量、褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 5 黒褐色土 炭化物粒子微量、褐色土粒子少量含む。
- 6 褐色土 焼土粒子微量含む。しまりあり、粘性欠。
- 7 暗褐色土 黒褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性やや強。
- 8 暗褐色土
- 9 暗褐色土

第71号住居跡カマドA

- A 黒褐色土 炭化物層。焼土粒子少量含む。
- B 暗褐色土 焼土・灰粒子少量含む。しまりあり、粘性欠。
- C 黒褐色土 炭化物層。
- D 褐色土 焼土粒子多量、灰粒子少量含む。しまりあり、粘性欠。
- E 黒褐色土 炭化物層。焼土粒子少量含む。
- F 黄褐色土 焼土粒子微量含む。粘性欠。
- G 暗褐色土 焼土・灰粒子少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
- H 暗褐色土 焼土・炭化物・褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- I 黒褐色土 焼土・灰粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- J 暗褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり、粘性欠。
- K 黒褐色土 焼土粒子多量、灰粒子少量含む。しまりあり、粘性欠。
- L 暗褐色土 焼土ブロック(30~50mm)、褐色土粒子少量含む。しまり・粘性あり。
- M 暗褐色土 焼土・灰粒子極微量含む。しまり・粘性欠。
- N 黒褐色土 焼土・褐色土粒子微量含む。しまり欠、粘性強。
- O 暗褐色土 焼土粒子微量含む。しまりあり、粘性弱。

第71号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
- 2 黒褐色土 焼土・炭化物・褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性強。
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む(1・2より多)。しまりあり、粘性強。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。粘性きわめて強。
- 5 褐色土 黒褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性強。
- 6 暗褐色土 焼土粒子極微量含む。しまりあり、粘性欠。

第71号住居跡カマドB

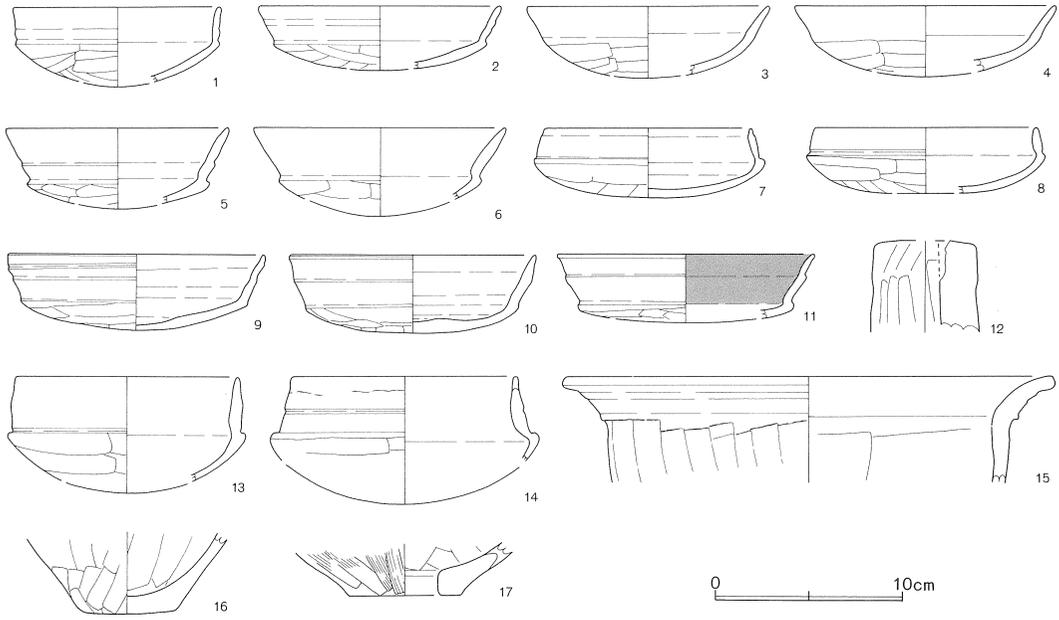
- A 黒色土 炭化物層。焼土粒子微量含む。しまり欠、粘性あり。
- B 暗褐色土 焼土粒子多量含む。しまりあり、粘性欠。
- C 黒褐色土 炭化物層。焼土粒子少量含む。しまり欠、粘性弱。
- D 暗赤褐色土 焼土層。上半部ブロック状、下半部細粒。
- E 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子微量含む。しまりあり、粘性弱。
- F 暗褐色土 焼土・灰粒子微量含む。しまり弱、粘性弱。
- G 暗褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
- H 黒褐色土 焼土・灰粒子多量含む。しまり欠、粘性あり。
- I 黒褐色土 焼土粒子極微量含む。しまりあり、粘性欠。
- J 暗褐色土 焼土・灰粒子多量含む。しまり欠、粘性強。
- K 暗褐色土 焼土粒子多量、灰粒子少量含む。しまりあり、粘性欠。
- L 黒褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり、粘性欠。
- M 褐灰色土 焼土粒子少量含む。しまりあり、粘性欠。
- N 褐色土 焼土粒子極微量含む。しまりあり、粘性欠。
- O 赤褐色土 焼土層。
- P 暗褐色土 焼土粒子極微量含む。しまりあり、粘性弱。

第397図 第71号住居跡(2)

一部に設置されている。不整形で、南北0.97m・東西1.05m、深さ0.68mを測る。ピットは5基検出され、すべて柱穴と思われる。P1に対応するピットは確認されていない。ほぼ全面に貼床が施され、きわめてしっかりとしている。遺物は貯蔵穴周辺部から出土し、土錘1点、土製不明品1点、編物石2点がみられる。ほかに多数の縄文土器片がある。

第72号住居跡 (第399・400図)

モ一389・390、セ一389・390Gridに位置している。第73・84・98号住居跡と重複し、新旧関係は第72号住居跡が第73号住居跡・第84・98号住居跡よりも新しい。東西方向に走っている噴砂の亀裂によって平面形態は歪められ、床面には0.44~0.78mにおよぶ大きな段差が生じている。さらに



第398図 第71号住居跡出土遺物



第399図 第72号住居跡付近の噴砂

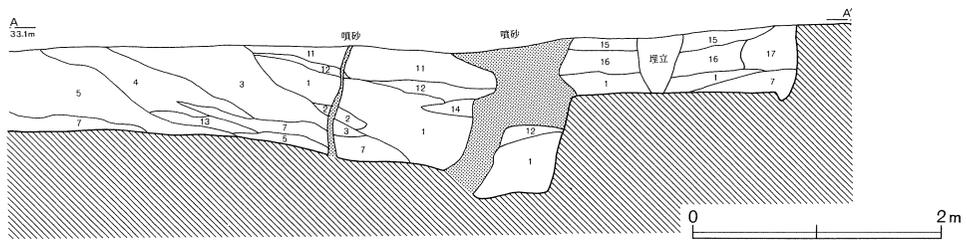
第71号住居跡 (第398図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.2)	B+R+W	橙	30	
2	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	25	内面風化著しい
3	坏	口(13.0)	R+W	橙～黒褐	20	外面風化
4	坏	口(14.0)	B+W	橙～黒	20	外面風化
5	坏	口(12.0)	B+R+W	橙	20	
6	坏	口(13.6)	B+R+W+W'	橙	口縁 50	
7	坏	口11.0 高3.7	B+R+W	橙	70	
8	坏	口(12.0)	B+W+W'	にふい赤褐～黒褐	20	
9	坏	口13.7 高4.1	B+R+W	橙	80	カマド。
10	坏	口13.2 高4.2	B+R+W	橙～明赤褐	75	No.2。外面黒色部分
11	坏	口(14.0)	B+R少+W	(内)黒 (外)橙	口縁 20	No.1・3。内面黒色
12	支脚	上端(5.4)	B+R+W	にふい橙	10	
13	坏	口(12.0)	B+W少	にふい黄橙	20	No.2 カマド。
14	坏	口(12.0)	B+R+W+W'	橙	20	
15	甕	口(26.0)	B+W少+礫多	にふい黄橙	口縁 25	
16	甕	底5.0	W+礫多	灰黄褐～黒	底部 100	底部一方向のケズリ
17	甔	底6.0	R+W	橙	底部 5未満	

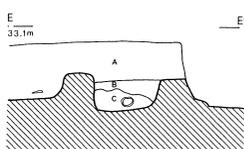
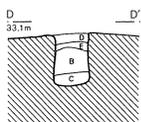
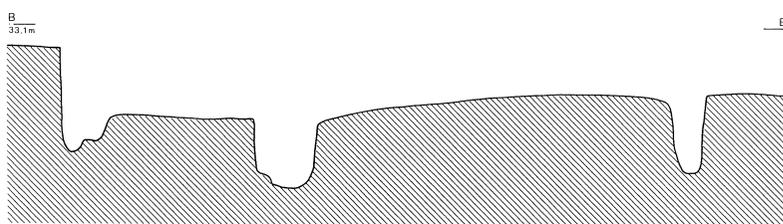
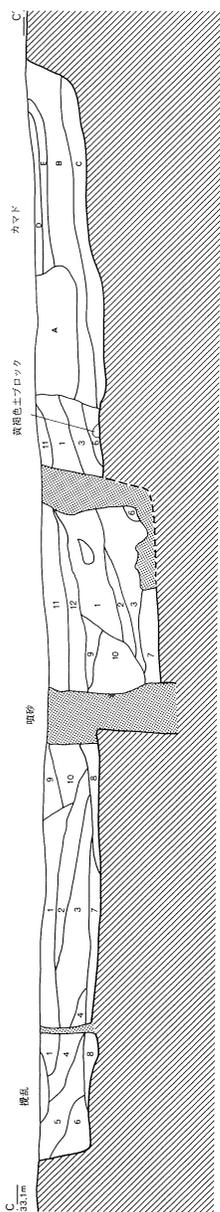
陥没した床面は南北方向の噴砂の亀裂に向かって傾斜している。規模は主軸辺7.15m・短辺6.34m、深さ0.13～0.48mで、主軸方位はN-29°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。幅0.12～0.36m、深さ0.02～0.05mの壁溝が、途切れながら部分部分に廻っている。カマドは北壁に構築され、煙道部の天井が残存している。煙道部は燃烧部から横穴状に掘り進められて、煙出部に達している。そのため煙道部の天井は地山である。カマドの規模は全長2.45m、焚き口幅0.55mを測る。袖部は地山が掘り残され、「ハ」の字に開いている。燃烧部は緩やかな窪みを持ち、火床面および煙道部底面には灰が溜っている。貯蔵穴は検出されていない。ピットは7基検出され、P1・P3～P5が柱穴で、ほかのものの用途は明確ではない。全面に貼床が施され、顕著に認められている。遺物は比較的少なく、覆土最上層からは後世の混入品が出土している。土錘は比較的多く6点で、ほかに石製白玉1点、編物石2点、縄文土器1片がある。

第73号住居跡 (第402・403図)

モ—388・389、セ—388・389Gridに位置している。第72・74号住居跡と重複し、新旧関係は第



第400図

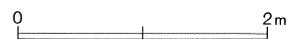


第72号住居跡カマド

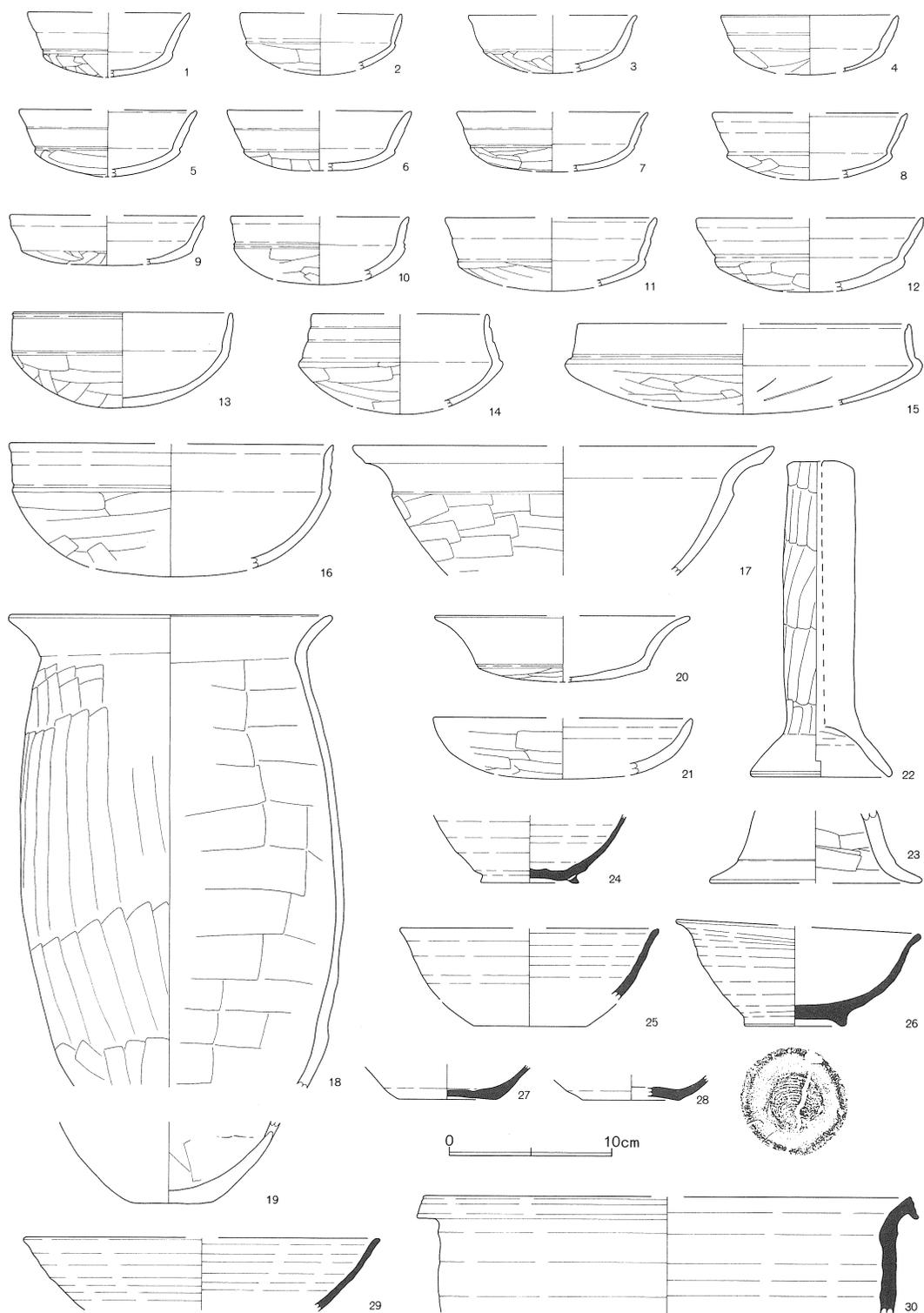
- A 褐色土 住居跡の覆土。
- B 暗黄褐色土 焼土ブロック少量、褐色土ブロック含む。しまりあり、粘性やや弱。
- C 灰層 焼土ブロック多量混入。
- D 暗黄褐色土 (地山)。
- E 焼土層 煙道部天井？

第72号住居跡

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子(5mm)わずかに含む。黄褐色土ブロック状。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土ブロック、炭化物粒子若干、黄褐色土わずかに含む。1よりやや黒い、しまりあり。
- 3 褐色土 焼土粒子、炭化物粒子若干、黄褐色土少量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 2よりやや黒い、黄褐色土わずかに含む。
- 5 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。黄褐色土不均等で、3より部分的に多い。しまりあり。
- 6 黒褐色土 焼土、炭化物粒子・ブロック若干、黄褐色土ブロック(5~10mm)含む。しまりあり、粘性強。
- 7 黒褐色土 焼土粒子わずかに、炭化物粒子多く、黄褐色土ブロック部分的に多く含む。しまりあり。
- 8 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロック(10mm)若干、灰色粘性土部分的に多く含む。しまりあり、粘性強。
- 9 灰褐色土 焼土粒子わずかに、灰色粘性土若干、黄褐色土ブロック含む。しまりあり、粘性強。
- 10 灰褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、灰色粘性土多く、黄褐色土ブロック含む。しまりあり、粘性強。
- 11 灰褐色土 焼土粒子わずかに含む。9・10より白い。しまりあり。
- 12 黒褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)若干、炭化物多く、黄褐色土ブロック部分的に含む。しまりあり。
- 13 暗褐色土 焼土ブロック(5mm)少量含み、黄褐色土ブロック少ない。しまり・粘性あり。
- 14 黄褐色土 1の黄褐色土ブロック集中個所。しまりあり。
- 15 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、灰色粘性土ブロック(5mm)若干含む。しまりあり、粘性やや強。
- 16 褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(5mm)わずかに、灰色粘性土ブロック(5mm)若干含む。しまりあり、粘性やや強。
- 17 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(5mm)わずかに、灰色粘性土ブロック(5mm)若干含む。しまりあり、粘性やや強。



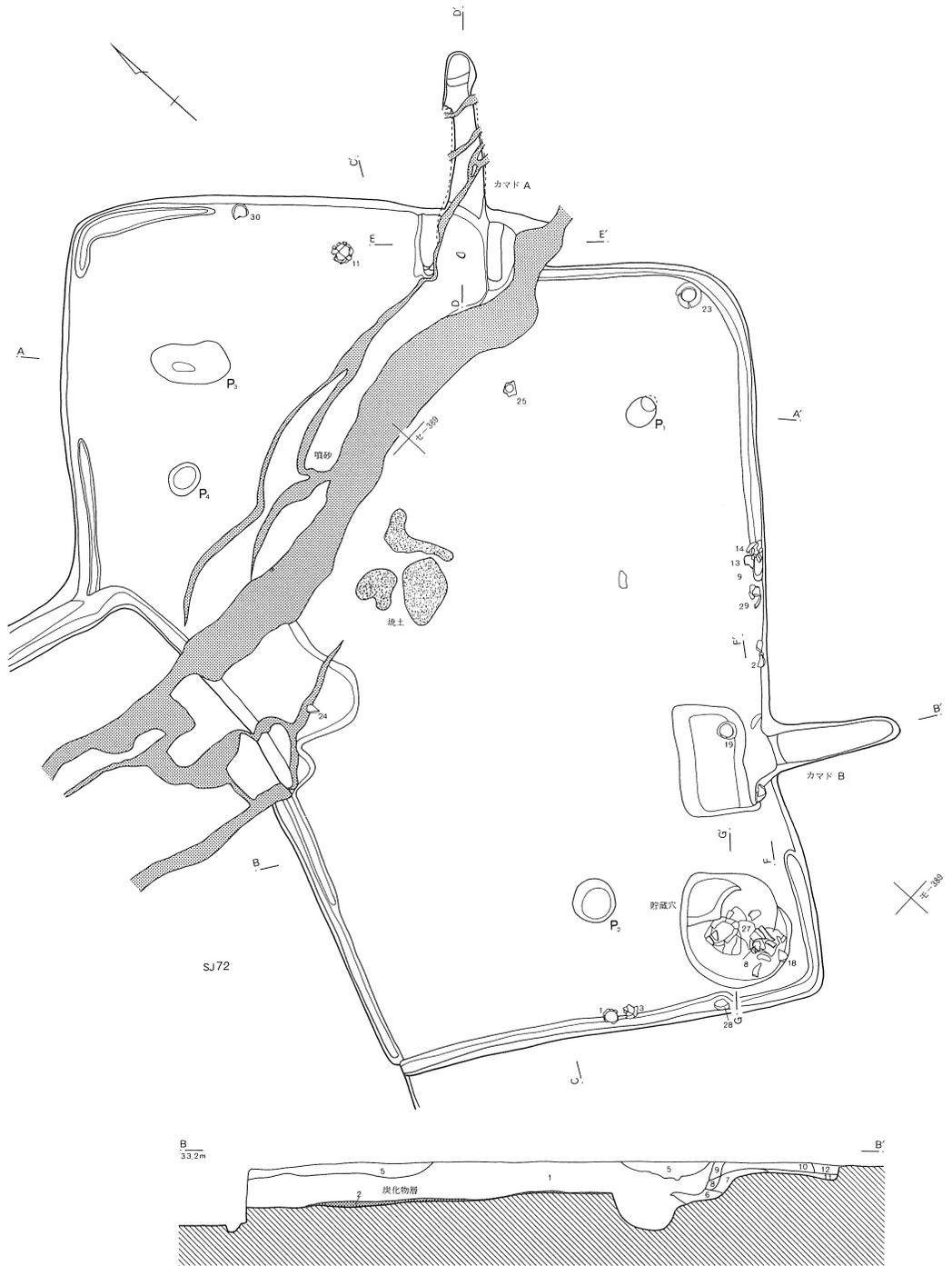
第72号住居跡



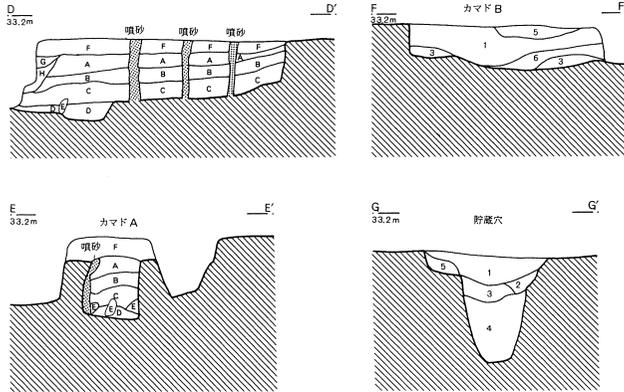
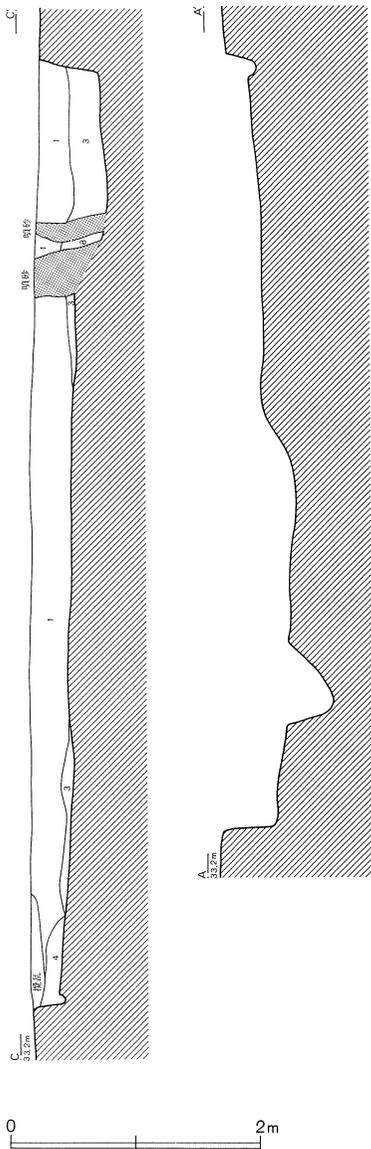
第401图 第72号住居跡出土遺物

第72号住居跡 (第401図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(10.0)	B+W	橙	30	
2	坏	口(10.0)	B+W	橙	30	
3	坏	口(10.4)	B+W	橙~黒	30	
4	坏	口10.8	B多+R+W	にふい橙	60	風化
5	坏	口(11.0)	B+W	にふい橙	30	口縁端部弱いヘラアテ
6	坏	口(11.4)	W	にふい橙~黒褐	40	
7	坏	口(11.8)	B+R+W	橙	25	ピット2。風化
8	坏	口(12.0)	B+R+W+W'	にふい黄橙	20	口縁端部面トリ
9	坏	口(12.0)	B+R多+W	にふい橙~灰白	20	風化
10	坏	口(11.0)	B+R+W	にふい橙	10	
11	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	30	
12	坏	口(14.0)	B+W+W'	にふい橙	30	
13	坏	口13.2 高5.8	B+R少+W+W' 少	橙	70	
14	坏	口(11.0)	B+R+W	橙	30	
15	坏	口(20.4)	R+W+W'	黒褐	10	口縁端部ヘラアテ沈線 放射状暗文わずかに残
16	鉢	口(20.0)	B+W+W'	にふい橙	20	
17	鉢	口(26.0)	B+R+W+W'	橙	20	
18	甕	口19.6	B+R+W+礫多	にふい橙~灰褐	50	胴部外面黒色 器面粗
19	甕	底(5.4)	R+礫多	にふい橙	底部 100	風化著しい
20	坏	口(15.6) 底10.4 高4.0	B+W+W'	(内)赤褐 (外)赤褐~暗赤褐	40	内外面黒色部分
21	皿	口(16.0)	B+R+W	橙~黒褐	15	
22	支脚	上端4.0 下端8.6 高19.3	B多+R+W+W'	(内)橙 (外)にふい赤褐~橙	100	No.3・カマド。
23	台付甕	台(13.0)	B+W+W'	にふい橙~浅黄橙	脚台部 30	
24	高台付碗	台(6.0)	W	青灰~灰	50	回転糸切り(2度)後、高台ナデツケ
25	坏	口(16.0)	W	灰	20	
26	高台付碗	口(14.8) 台6.2 高(6.2)	B+W	(内)褐灰 (外)褐灰~黒	40	回転糸切り離し後ナデ
27	坏	底(6.0)	R少+W	灰	底部 25	回転糸切り離し
28	坏	底(6.0)	W	灰	底部 20	回転糸切り離し
29	碗	口(22.0)	W	灰	10	
30	甕	口(30.0)	W	暗青灰	口縁 10	



第402図 第73号住居跡(1)



第73号住居跡

- 1 茶褐色土 焼土粒子・ブロック、炭化物粒子若干含む。しまり・粘性あり。
- 2 黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまり・粘性あり。
- 4 褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまり・粘性あり。
- 5 茶褐色土 1に部分的に黄褐色土混入。
- 6 黒褐色土 焼土粒子若干、灰・炭化物粒子多く含む。焼土ブロック部分的混入。しまり・粘性あり。
- 7 赤褐色土 焼土。
- 8 赤褐色土 焼土ブロック。
- 9 黒褐色土 焼土ブロック(10~50mm)、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 10 褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)多く、炭化物粒子若干含む。しまりあり
- 11 灰色土 灰層。
- 12 茶褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)多く、炭化物粒子若干含む。しまりあり。

第73号住居跡カマド

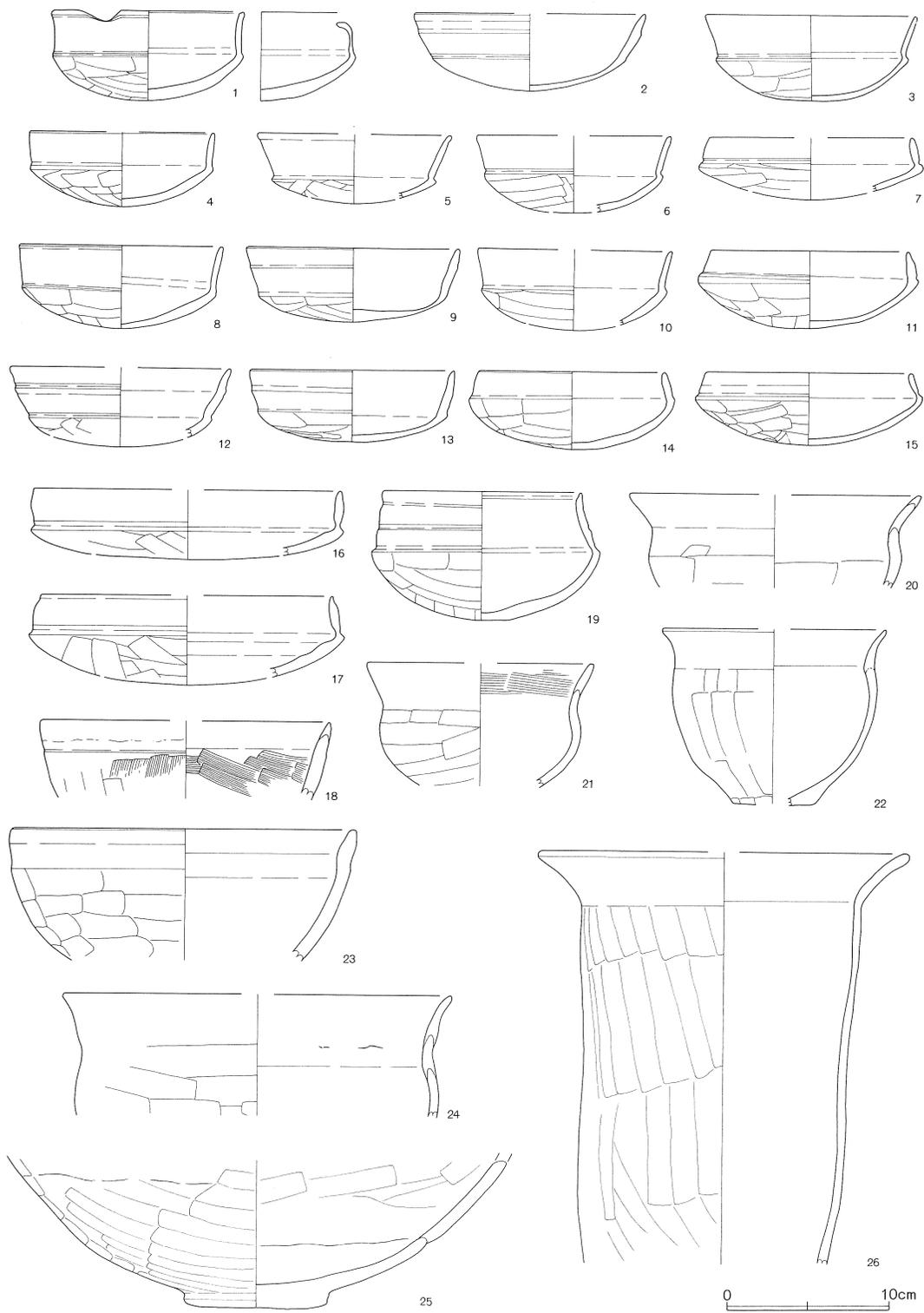
- A 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
- B 暗褐色土 Aより黄褐色土ブロック多い。
- C 暗褐色土 A・Bに焼土・炭化物粒子多量、黄褐色土ブロック含む。
- D 灰層 焼土ブロック、炭化物多量含む。
- E 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。
- F 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量、黄褐色土ブロック少量含む。
- G 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量、黄褐色土ブロック少量含む。
- H 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量、黄褐色土ブロック少量含む。

第73号住居跡貯蔵穴

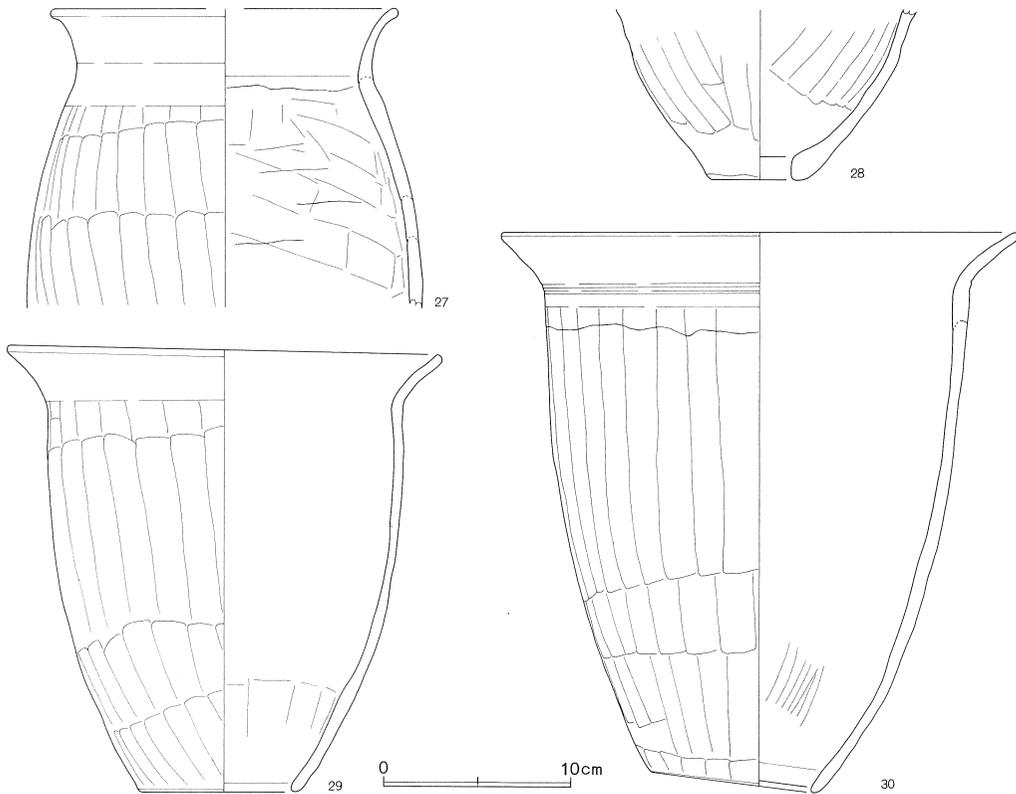
- 1 褐色土 焼土ブロック、炭化物少量、黄褐色土ブロック若干含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土ブロック、炭化物少量、黄褐色土ブロック多く含む。しまりあり。
- 3 黄褐色土 焼土粒子若干含む。砂質。
- 4 赤褐色土 焼土粒子多く含む。砂質。
- 5 黄褐色土 砂質。

第403図 第73号住居跡(2)

72号住居跡よりも古く、第74号住居跡よりも新しい。東西方向に走る噴砂の亀裂によって、形状が大きく変形され、床面には0.48~0.52mの段差が生じている。規模は主軸辺7.59m・短辺6.13m、深さ0.13~0.33mで、主軸方位はN-45°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.11~0.21m、深さ0.02~0.10mの壁溝が途切れながら廻っている。カマドは北東壁と南東壁に2基構築されている。北東壁に構築されているカマドAは噴砂の亀裂による影響を受けている。煙道部の天井が残存し、カマドの構築材には焼土・炭化物粒子を微量、黄褐色土ブロックを少量含んでいる



第404图 第73号住居跡出土遺物(1)



第405図 第73号住居跡出土遺物(2)

第73号住居跡(第404・405図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.7 高5.5	B+R多+W	(内)橙~明褐灰 (外)明黄褐	90	No.25。口縁端面面トリ 沈線 口縁部製作時の歪み
2	坏	口(14.1) 高4.3	B多+R+W	橙	60	No.9 カマド。
3	坏	口13.0 高5.3	B+R+W	(内)橙 (外)黄橙	70	No.24。口縁端面面トリ
4	坏	口(11.2) 高4.6	B+R+W	橙	60	
5	坏	口(12.0)	B+R少+W	灰褐	20	
6	坏	口(12.0)	B+W+砂	橙	30	口縁端部ヘラアテ面トリ
7	坏	口(12.6)	R少+W+W'	橙	30	
8	坏	口12.5 高5.1	B+R少+W+W'	明黄褐	100	No.23。黒色
9	坏	口13.0 高4.5	B+R+W	黄橙	50	No.4。
10	坏	口(12.0)	B+R+W	橙	30	口縁端部弱い面トリ
11	坏	口12.2 高4.8	B+R+W	橙	90	No.29。内面にタール状の付着物
12	坏	口(13.6)	B+W	橙~灰白	30	

13	坏	口12.4 高4.4	B+R+W	(内)橙 (外)黄橙	50	No.4.外面黒色部分
14	坏	口11.4 高4.8	B+R+W	黄橙	70	No.4.外面黒色部分
15	坏	口12.7 高4.4	B+W+W'	(内)明褐灰 (外)灰褐	90	黒色
16	坏	口(19.0)	B+R少+W	浅黄橙	20	風化著しい
17	坏	口(18.0)	B+R+W	橙~黒褐	20	風化著しい
18	碗	口(18.0)	R多+W	橙	口縁 20	No.17.
19	鉢	口12.2 高7.9	B+R+W+W'	橙	95	No.11.口縁端面トリ 沈線 胴部外面・口縁部内面黒色
20	鉢	口(18.0)	R+W	橙	上半部 30	口縁端面ヘラアテ面トリ 風化著しい
21	碗	口(14.0)	B少+R+W少	橙	15	口縁端面ヘラアテ面トリ
22	小型甕	口(13.7) 底(5.0) 高(10.8)	B+R多+W	橙	30	カマド。
23	鉢	口21.1	B多+R+W	橙	60	No.1.胴部外面黒色部分
24	碗	口(24.0)	R+W	橙	口縁 20	No.26.
25	壺	底8.7	B+R+W+W'+砂少	橙	底部 50	No.2.貯蔵穴。内外面黒色部分
26	甕	口(22.3)	B+R+W+砂少	(内)橙 (外)橙~に ふい黄橙	60	カマド。 胴部外面黒色部分
27	甕	口(18.3)	B+R+W	にふい黄橙	口縁 40	No.19.胴部外面黒色 粘土付着
28	甕	底(5.2)	B+R多+W	橙	底部 50	No.14.
29	甕	口23.0 底8.3 高23.7	B+R+W+W'+砂少	にふい黄橙	95	No.5.貯蔵穴。内外面黒色部分
30	甕	口27.5 底9.0 高29.6	B+R多+W+W'+砂少+ 礫少	橙	95	No.27.貯蔵穴。底部ケズリ 外面黒色部分

暗褐色土が使用されている。全長2.23m、焚き口幅0.42mを測り、袖部は地山が掘り残されている。燃烧部は箱型を呈し、火床面は煙道に向かって傾斜している。灰が溜り、よく焼けている。煙出部は鶏卵形を呈している。南東壁に構築されているカマドBは全長1.39m、焚き口幅0.33mを測り、袖部は確認されていない。燃烧部は方形に深く掘り込まれ、火床面の立ち上がり部はよく焼けている。煙道部底面には灰が堆積している。貯蔵穴はカマドB南側の南コーナー部に設置されている。不整円形で、南北1.00m・東西0.95m、深さ0.86mを測る。ピットは4基検出され、1基を除いてすべて柱穴である。貼床が2面確認され、上面は部分的に施されている。いずれの面も直上に薄い炭化物層が堆積している。また住居跡中央部床面からは、焼土塊が検出されている。遺物はカマドおよび貯蔵穴から出土している。なかでも特大の甕形土器の存在は注目される。ほかに須恵器15片、編物石2点、縄文土器14片、弥生土器2片がある。

#### 第74号住居跡（第406図）

エー388・389、ヒー388・389、モー388・389Gridに位置し、南西コーナー部が発掘区域外にか



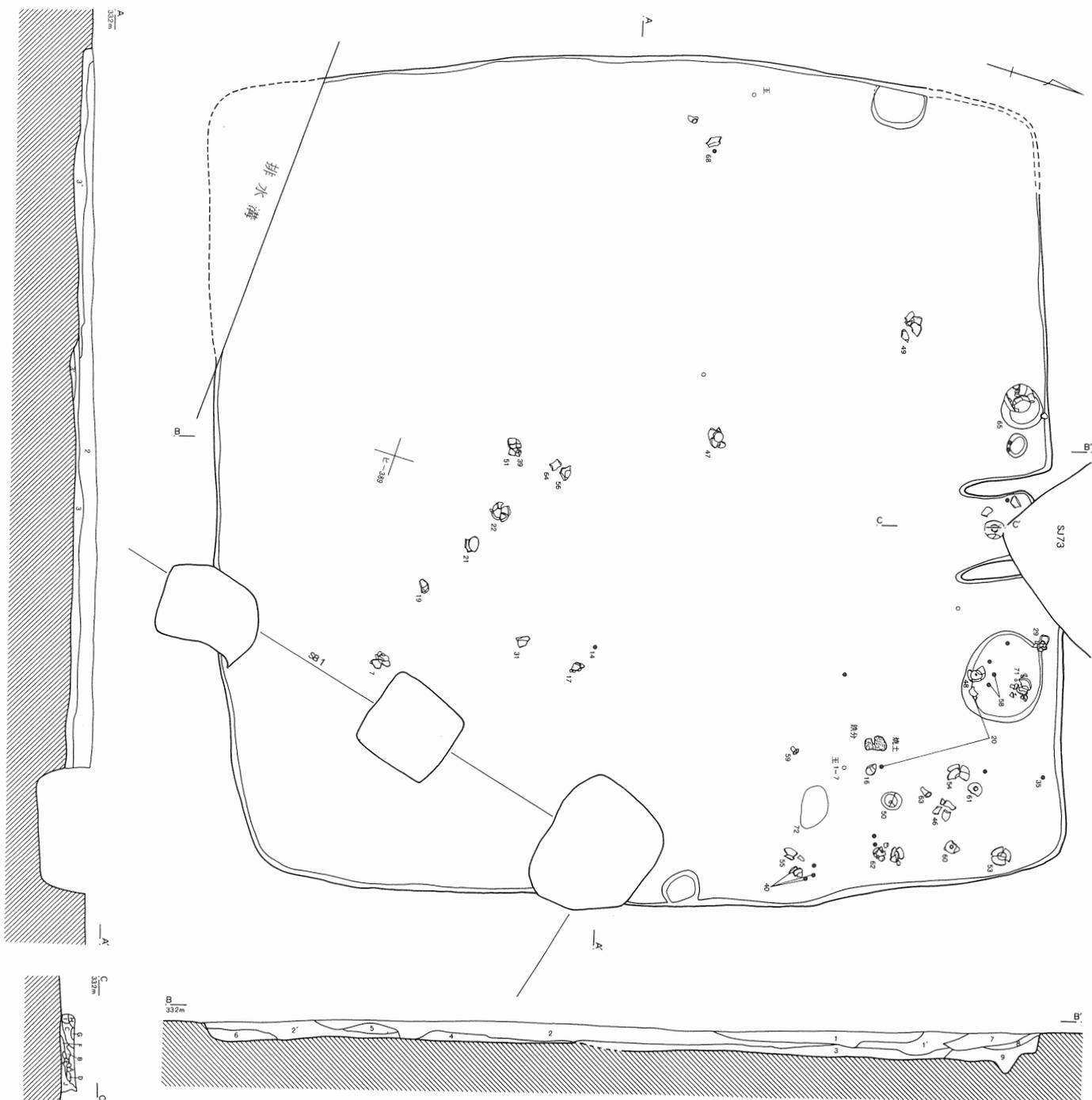
第74号住居跡

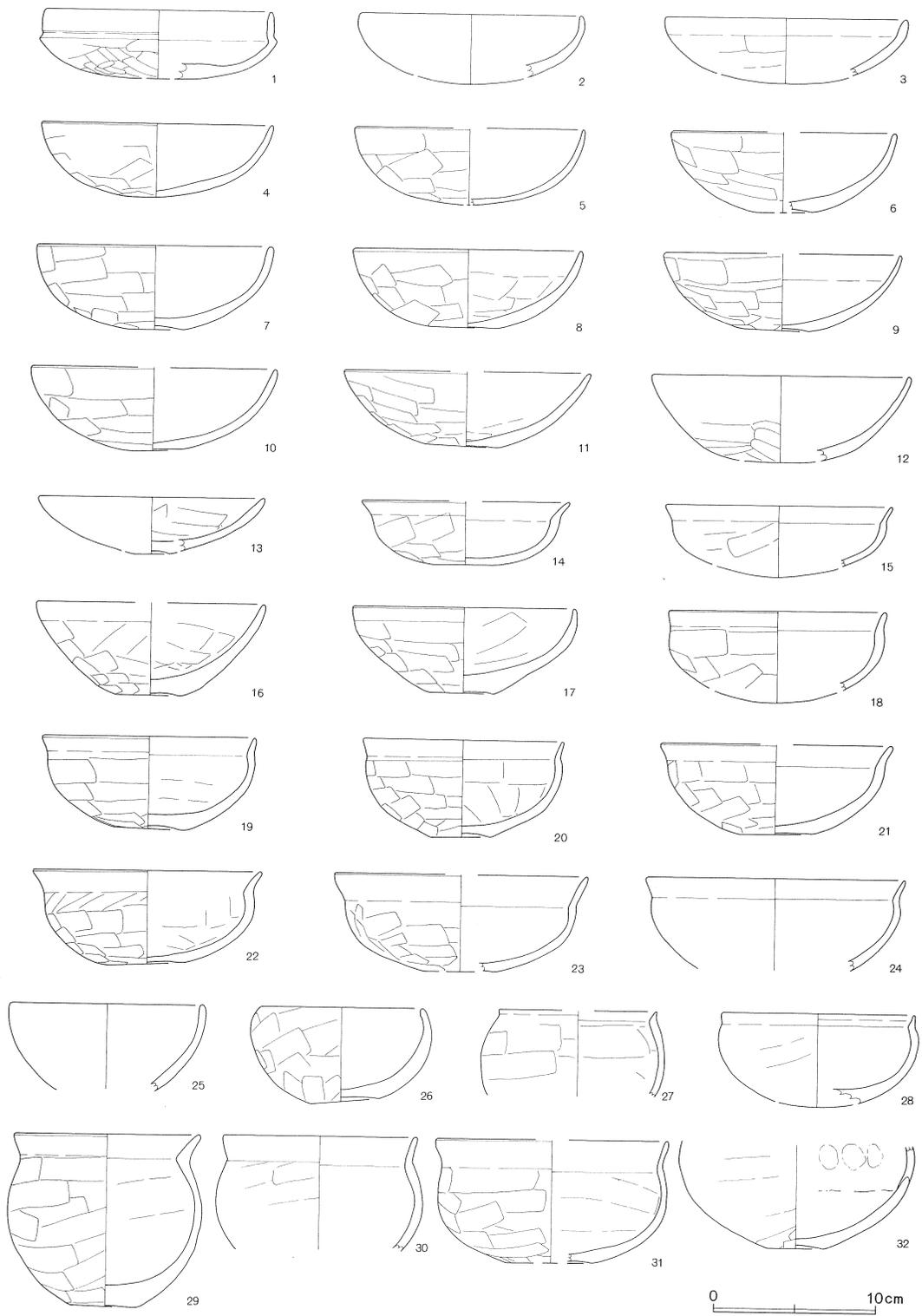
- |          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色土   | 焼土・炭化物粒子少量含む。砂質。粘性弱。                 |
| 1' 暗褐色土  | 1よりやや黄色い。                            |
| 2 褐色土    | 焼土・炭化物粒子少量含む。粘性弱。                    |
| 2' 褐色土   | 2よりやや暗い。                             |
| 3 暗褐色土   | 焼土粒子少量、炭化物多量、黄褐色土(貼床)少量含む。しまり・粘性やや弱。 |
| 3' 暗褐色土  | 3より炭化物少量含む。                          |
| 3'' 暗褐色土 | 3より炭化物多量含む。                          |
| 4 暗褐色土   | 焼土ブロック多量含む。                          |

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 5 焼土塊   |                   |
| 6 暗黄褐色土 | 砂質(地山)。           |
| 7 暗黄褐色土 | 焼土ブロック多量、炭化物少量含む。 |
| 8 暗黄褐色土 | 焼土・炭化物粒子少量含む。     |
| 9 暗褐色土  | 焼土・炭化物粒子多量含む。     |

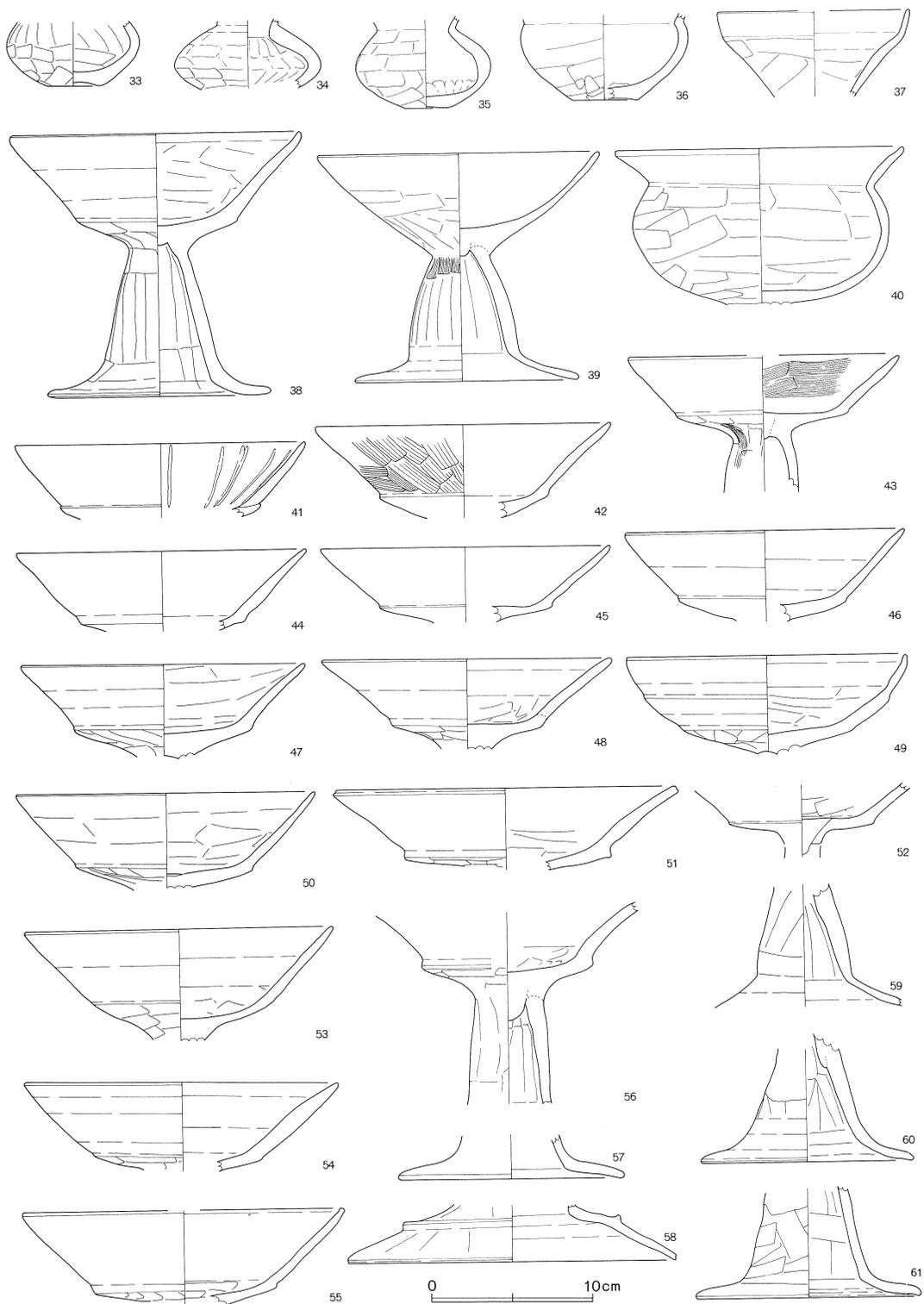
第74号住居跡カマド

- |         |                     |
|---------|---------------------|
| A 暗褐色土  | 炭化物層。しまり・粘性弱。       |
| B 褐色土   | 天井部。炭化物、黄褐色土粒子少量含む。 |
| C 褐色土   | Bよりやや暗い。            |
| D 暗褐色土  | 炭化物、黄褐色土粒子含む。       |
| E 褐色土   | 炭化物、黄褐色土粒子含む。       |
| F 灰層    | 焼土粒子少量、炭化物多量含む。     |
| G 褐色土   | 天井部。炭化物、黄褐色土粒子少量含む。 |
| H 暗黄褐色土 | 焼土・炭化物粒子少量含む。       |
| I 暗黄褐色土 | Hより焼土・炭化物粒子多量含む。    |

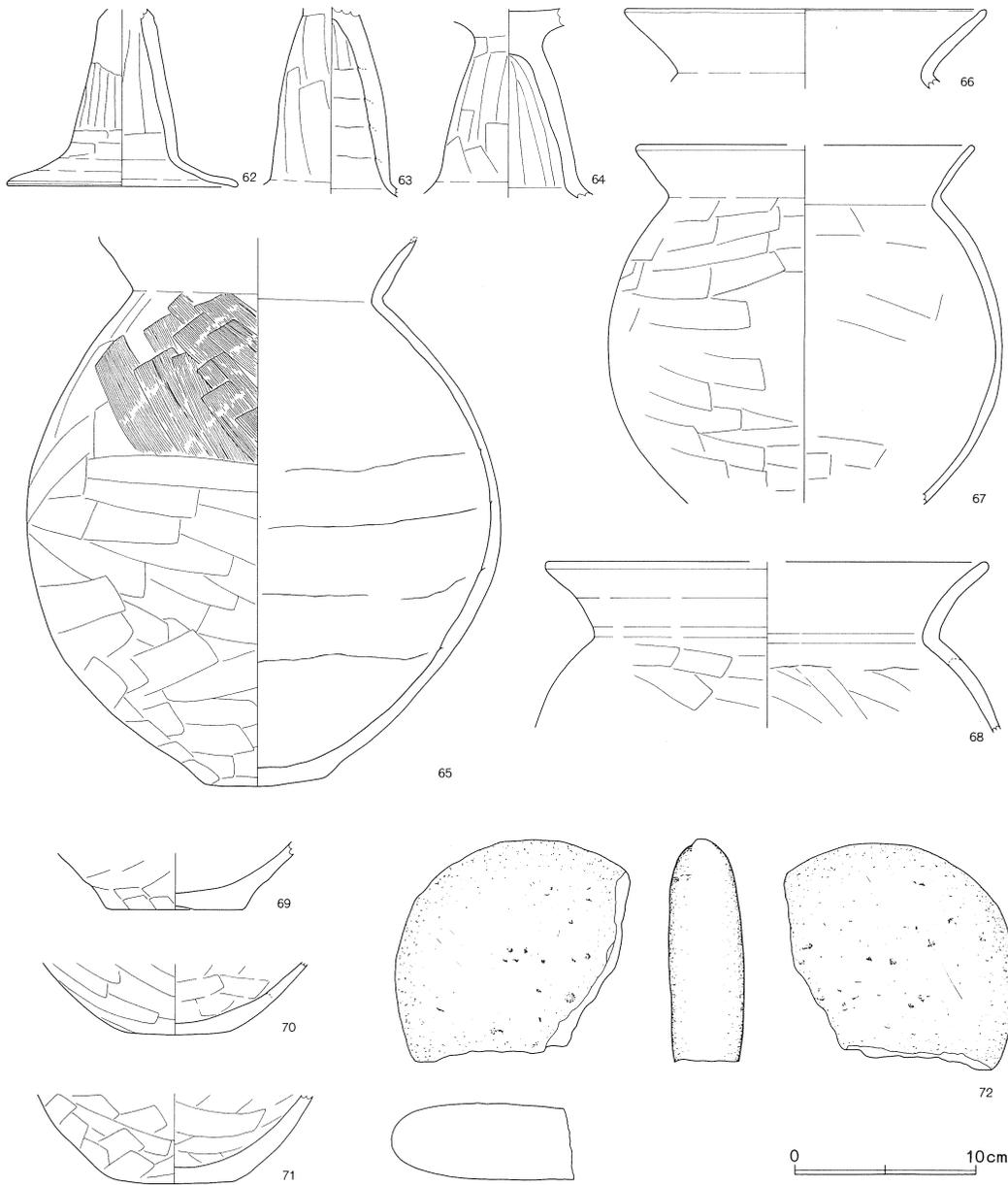




第407图 第74号住居跡出土遺物(1)



第408图 第74号住居跡出土遺物(2)



第409図 第74号住居跡出土遺物(3)

かっている。第67・73・98号住居跡、第1号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は第74号住居跡がいずれの遺構よりも古い。規模は主軸辺8.40m・長辺8.57m、深さ0.13~0.19mで、主軸方位はN-17°-Wを測る。周辺に位置している住居跡と比べて大型のものである。壁はやや傾斜をもって立ち上がっている。壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築され、大部分が第73号住居跡によって削平されている。焚き口幅が0.73mで、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部が方形を呈

第74号住居跡(第407~409区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0) 高(4.2)	B+R+W	橙	20	
2	坏	口(14.0)	B少+W	橙~褐	20	風化著しい
3	坏	口(15.0)	R多+W	(内)橙 (外)浅黄橙	30	外面風化著しい
4	坏	口14.2 高4.5	B+R多	(内)黒褐~橙 (外)明赤褐~にふ い赤褐	50	内外面黒色部分
5	坏	口14.0 高4.2	B+R多+W	橙	35	
6	坏	口(13.6) 底3.5 高4.8	B+R多	(内)橙 (外)にふい橙	45	外面黒色部分
7	坏	口14.2 底3.4 高5.2	B+R多	明赤褐	90	No.27。内面黒色部分
8	坏	口14.0 底4.5 高4.8	B+R多	橙	60	外面黒色部分
9	坏	口(14.4) 底4.0 高4.7	B+R多	橙	60	
10	坏	口(15.0) 底3.5 高5.1	B+R多+W	(内)橙~明赤褐 (外)橙	50	底部外面黒色
11	坏	口(15.0) 底4.5 高4.5	B+R多+W	橙	70	内外面黒色部分
12	坏	口(16.0)	R多+W	橙~にふい赤褐	20	内面風化
13	坏	口(14.0)	B+W	橙	20	外面風化著しい
14	坏	口(12.6) 底4.0 高(4.0)	B+R多+W	橙	40	No.23。
15	椀	口(14.0)	R多+W	橙	25	外面風化著しい
16	坏	口14.0 底4.0 高5.7	B+R+W少	橙	50	No.19。内外面黒色部分
17	坏	口(13.6) 底4.0 高5.2	B+R多+W	明赤褐	90	No.24。
18	坏	口13.2	B+R+W多	明赤褐	55	外面黒色部分
19	坏	口13.0 底4.8 高5.7	B+R多+W少	(内)にふい橙 (外)明赤褐	95	No.26。外面黒色部分
20	坏	口12.0 底3.7 高6.0	B多+R多+W+W'	にふい赤褐	80	No.18・35。
21	坏	口(14.2) 底4.6 高(5.6)	B+R多+W多	明赤褐	50	No.28。
22	坏	口14.0 底4.8 高5.7	B+R+W少	(内)橙~明赤褐 (外)明赤褐	95	No.29。
23	坏	口(15.4) 底(4.2)	B+R+W少	(内)にふい赤褐 (外)橙~にふい赤 褐	40	内外面黒色部分
24	椀	口(16.0)	W	(内)黒 (外)にふい橙	20	外面風化著しい
25	椀	口(12.0)	B+R多+W	橙	25	風化著しい
26	椀	口10.0 底4.2 高5.8	B+R多+W	橙	75	底部外面黒色
27	椀	口(9.8)	R少	にふい橙	25	カマド。胴部外面黒色部分
28	椀	口(12.0)	B少+R+W+礫少	橙	25	口縁端部ヘラアテ 風化著しい

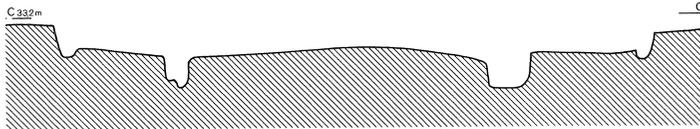
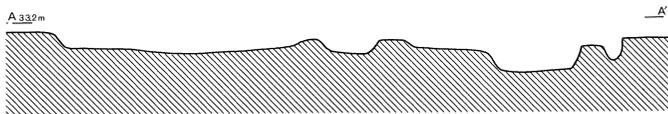
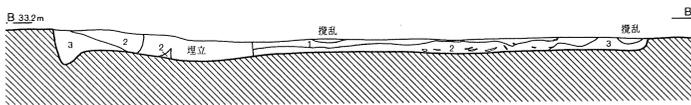
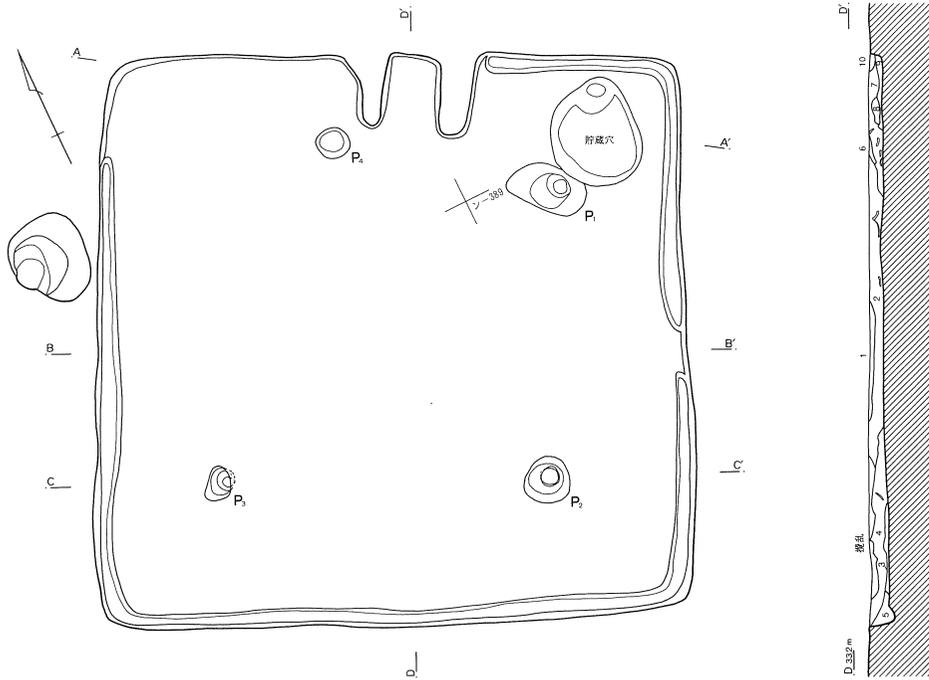
29	鉢	口11.4 底4.2 高10.6 胴11.9	B多+R多+W	にふい褐	95	No.44。内外面黒色部分
30	碗	口(12.0)	R多+W	橙	20	口縁端部面トリ 風化著しい
31	鉢	口(14.2) 底5.3 高(7.6)	B+R+W少	(内)にふい赤褐 (外)にふい橙	40	No.25。内外面黒色部分
32	壺	底(3.4) 胴14.4	R多+W	橙～にふい黄橙	20	指頭押
33	壺(ミニ チュア)	底3.4 胴8.2	B+R+W	にふい橙	40	
34	壺(ミニ チュア)	胴9.0	B+W	黒褐	30	内外面黒色
35	壺(ミニ チュア)	底2.6 胴7.6	B+R+W	橙	80	No.2。胴部外面黒色部分
36	小型壺	底(4.0) 胴10.4	R+W+W' 多	(内)にふい橙 (外)暗赤褐	胴部 10	底部ケズリ
37	埴	口(11.8)	B多+R	にふい橙	口縁 45	
38	高坏	口18.0 脚13.6 高16.2	B+R+W	赤褐	85	
39	高坏	口17.4 脚13.8 高14.1	B+R+W	(内)橙～にふい橙 (外)橙	80	No.30。坏部内外面黒色部分
40	台付鉢	口17.6	B+R多	橙	60	No.15・16・21。口縁端部面トリ
41	高坏	口(18.0)	R+W+W'	橙	口縁 30	放射状ヘラミガキ
42	高坏	口(18.4)	R+W+W' +礫	橙	坏部 25	内面風化
43	高坏	口(16.8)	B+R多+W	にふい赤褐	30	内外面黒色部分
44	高坏	口(18.0)	B少+R+W	橙	口縁 20	口縁端部わずかに面トリ
45	高坏	口(18.0)	R多+W	にふい橙	坏部 10	内面風化
46	高坏	口17.0	B+R+W多	(内)赤褐～暗赤褐 (外)にふい赤褐～ 明赤褐	坏部100	No.7。
47	高坏	口17.4	B+R多+W	赤褐	坏部 80	No.33。内外面黒色部分
48	高坏	口18.0	B+R+W	(内)明赤褐 (外)橙	坏部 100	No.36。内外面黒色部分
49	高坏	口17.6	B+R+W+W'	(内)暗赤褐 (外)赤褐	坏部 85	No.56・57。内外面黒色部分
50	高坏	口18.4	B+R+W+W'	(内)黒褐 (外)にふい赤褐	坏部 100	No.9。坏部内面黒色
51	高坏	口21.0	B+R+W	にふい赤褐	40	No.30・カマド。口縁端部面トリ 外面黒色部分
52	高坏		B+R+W	橙	坏部 30	坏部の粘土接合痕明瞭
53	高坏	口19.0	B+R+W多+W'	(内)暗赤褐～にふい赤褐 (外)にふい赤褐	坏部 100	No.1。内外面黒色部分
54	高坏	口19.4	B+W多	(内)赤褐 (外)にふい赤褐	坏部 100	No.6。内外面黒色部分
55	高坏	口(19.6)	B+R+W多	橙	坏部 50	No.17。
56	高坏		B+R+W多	橙	30	No.32。
57	高坏	脚(14.0)	R多+W	橙	裾部 25	
58	高坏	脚20.2	B+R多+W	(内)橙～明赤褐 (外)橙	脚部 60	No.37・38・カマド。内外面黒色部分

59	高坏		B+R多+W	橙	脚部 85	No.22。
60	高坏	脚13.0	B+W多	(内)にふい赤褐 (外)黒褐～にふい赤褐	脚部 80	No.5。羽口転用 外面黒色
61	高坏	脚13.6	B+R+W多	にふい赤褐	脚部 85	No.4。羽口転用
62	高坏	脚12.6	B+R+W	にふい赤褐	脚部 80	No.11。羽口転用
63	高坏		B+R+W	橙～にふい赤褐	脚部 80	No.8。
64	高坏		B+R多+W	橙	脚部 80	No.31。
65	甕	底5.7 胴25.6	B+R+W+砂少	にふい黄橙	80	No.55。胴部外面下半黒色
66	甕	口(20.0)	B+R+W+W'	にふい赤褐～黒	口縁 25	
67	甕	口(18.4) 胴21.6	B+R+W+W'+砂多	(内)にふい橙～にふい赤褐 (外)暗赤褐～にふい赤褐	20	内外面黒色
68	甕	口(24.2)	B+R+W多+W'+砂少	(内)橙 (外)明赤褐	口縁 15	No.60。
69	甕	底7.6	B+R+W+砂少	(内)橙 (外)にふい橙	底部 70	底部ケズリ
70	甕	底5.5	B+R+W	にふい赤褐	底部 50	底部ケズリ
71	甕	底6.5	B+W多+砂少	(内)にふい橙 (外)にふい赤褐～暗赤褐	底部 70	No.42。底部ケズリ 底部外面黒色

し、煙道部の幅が狭いタイプのものであろう。火床面には灰が溜り、よく焼けている。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置されている。南北0.77m・東西0.93m、深さ0.10mを測り、円形を呈している。明確なピットは確認されていない。遺物はおもにカマドおよび貯蔵穴周辺部から出土し、須恵器29片、石製有孔円板1点、土錘1点、磨石1点(12.3×12.2×4.2cm・1,065g)が検出されている。ほかに灰釉陶器1片、石鏃2点、打製石斧1点がある。また鉄滓3片がみられるが、小鍛冶跡等の痕跡は認められていない。

#### 第75号住居跡 (第410・411図)

ス—388・389、ン—388・389Gridに位置している。土取りによる削平のため浅い。規模は主軸辺4.56m・長辺4.75m、深さ0.06～0.18mで、主軸方位はN—26°—Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がり、幅0.12～0.20m、深さ0.04～0.05mの壁溝が一部を除いて廻っている。カマドは北壁に構築され、全長1.13m、焚き口幅0.43mの規模である。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は方形を呈している。火床面はよく焼けている。煙道部は削平され、燃烧部に比べて幅の狭いタイプのもと考えられる。貯蔵穴はカマド東側の東コーナー部に設置されている。不整円形で、南北0.87m・東西0.74m、深さ0.36mを測る。ピットは4基検出され、P4を除いてすべて柱穴である。西壁際にピットが1基確認されているが、本住居跡との関連は明確ではない。遺物はきわめて多く、カマドおよび貯蔵穴周辺部には特に集中している。出土した遺物には特異な形をしているものが多い。大型の坏形をしている鉢形土器、特大の甕形土器のほかに、台部が直立している台付鉢形

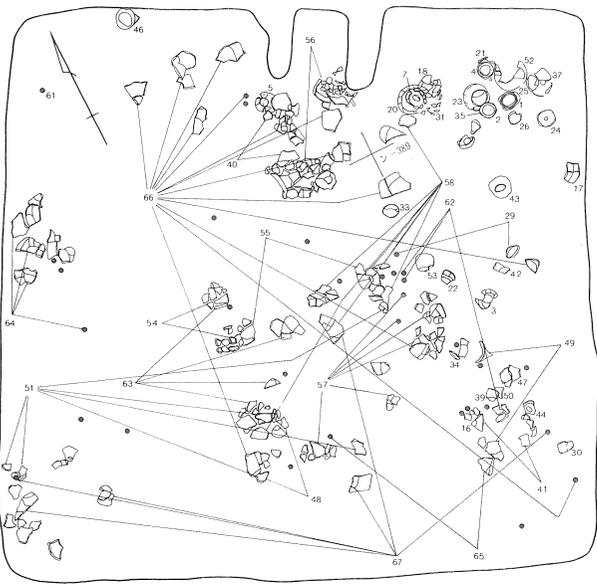


第75号住居跡

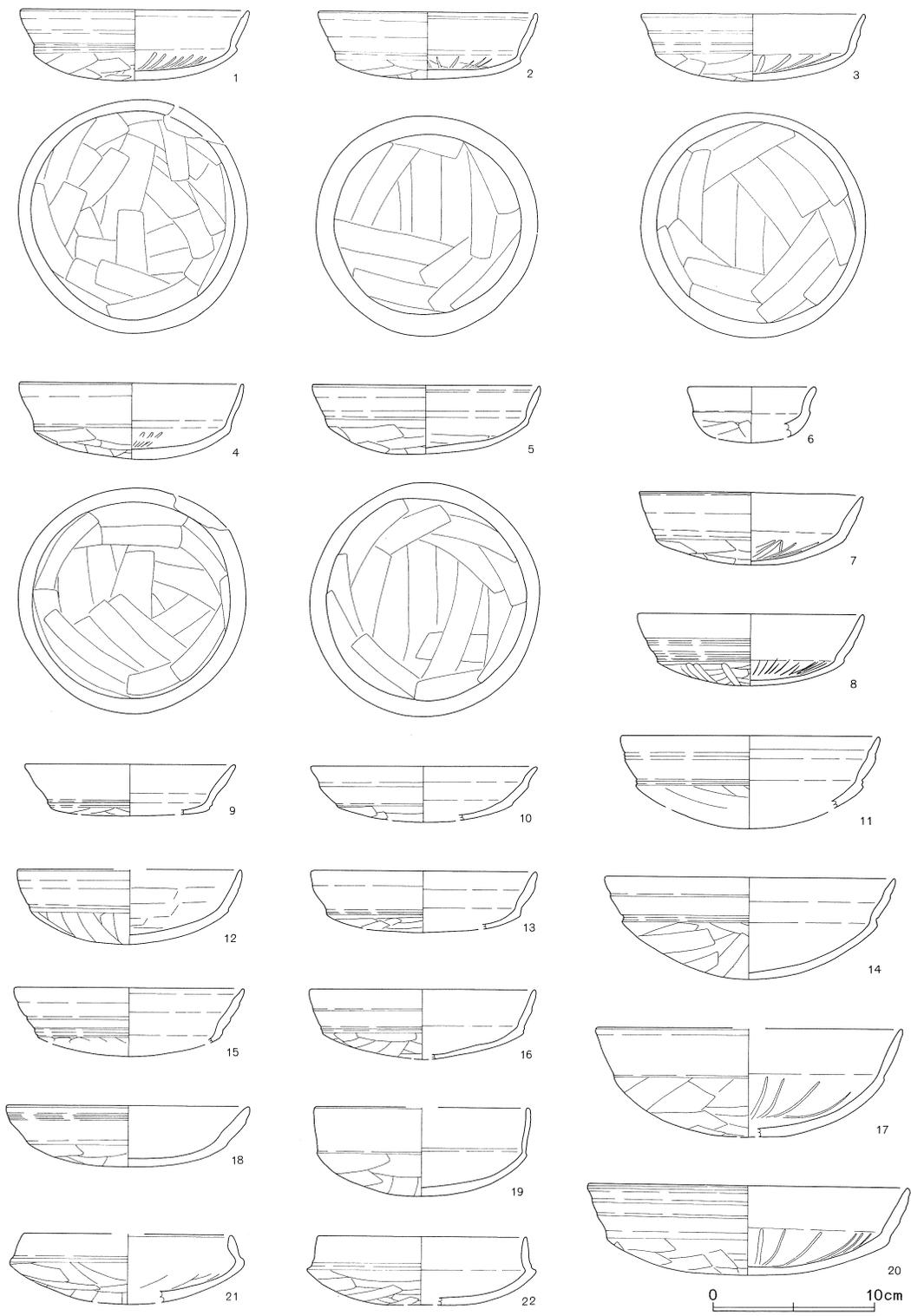
- 1 黒褐色土 焼土・炭化物・褐色土粒子微量含む。しまり・粘性弱。
- 2 黒褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子極微量、褐色土粒子多量含む。  
しまりあり、粘性なし。
- 3 暗褐色土 焼土・褐色土粒子微量含む。しまりあり、粘性弱。
- 4 暗褐色土 焼土・褐色土粒子極微量含む。しまりあり、粘性弱。
- 5 暗褐色土 褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 6 褐色土 暗褐色土粒子多量含む。しまりあり、粘性弱。
- 7 黒褐色土 焼土・褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 8 赤褐色土 焼土層。黒褐色土粒子少量含む。
- 9 暗褐色土 焼土・灰粒子少量含む。しまり弱、粘性強。
- 10 黒褐色土 焼土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。



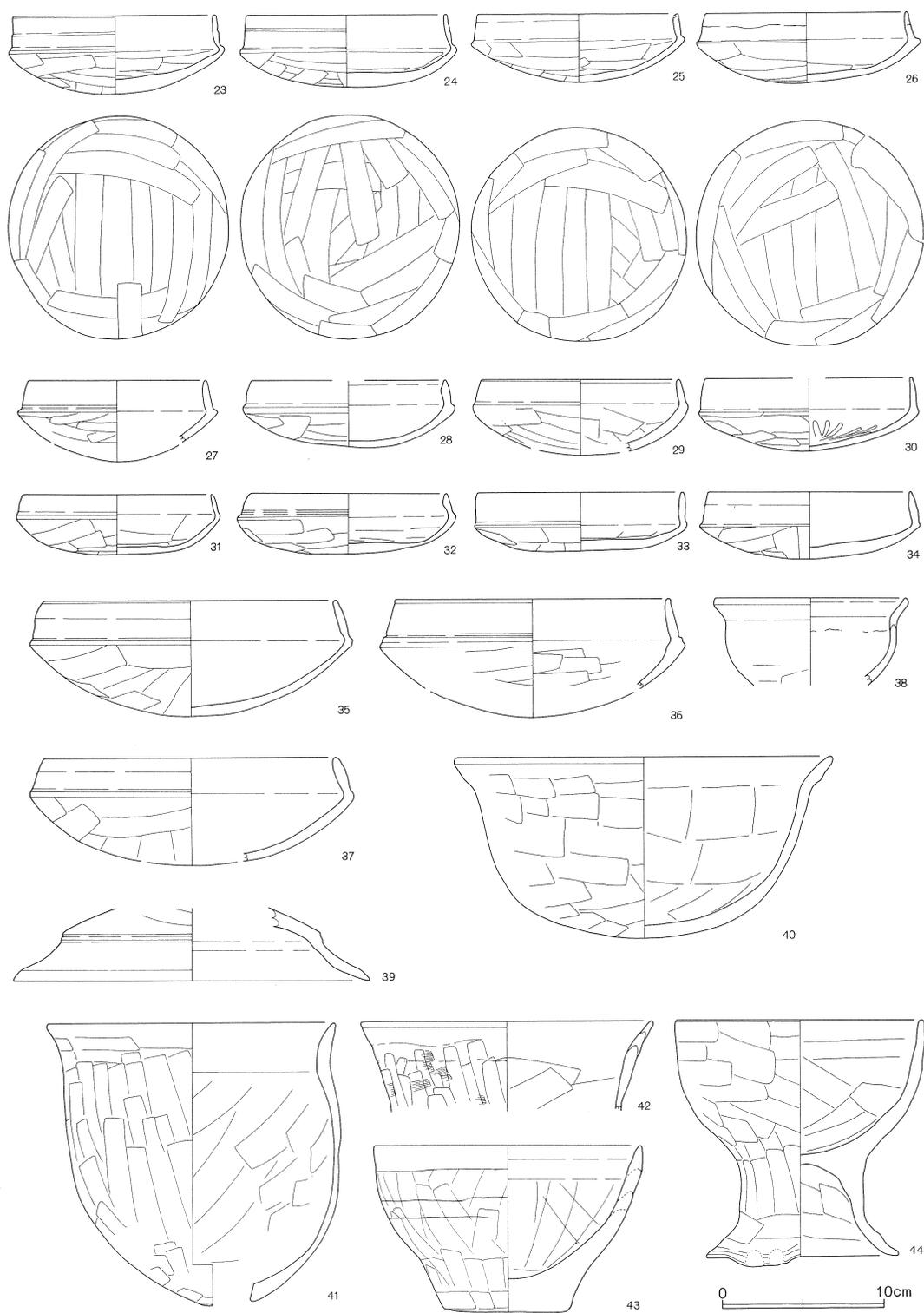
第410図 第75号住居跡(1)



第411图 第75号住居跡(2)



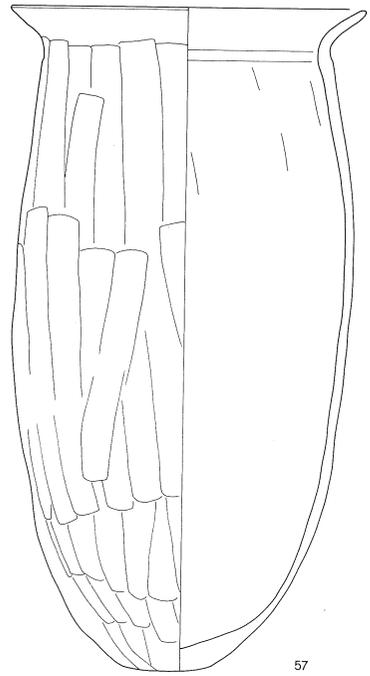
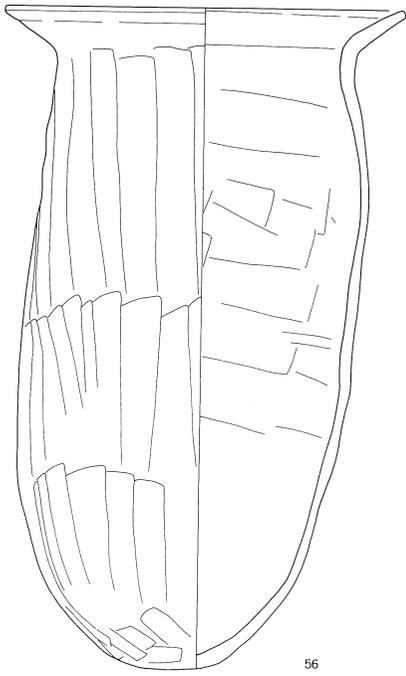
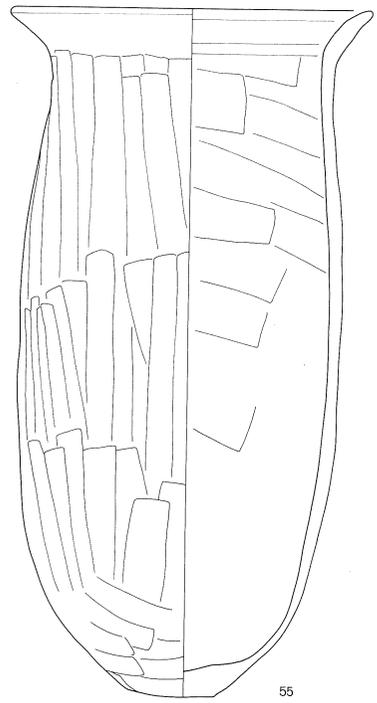
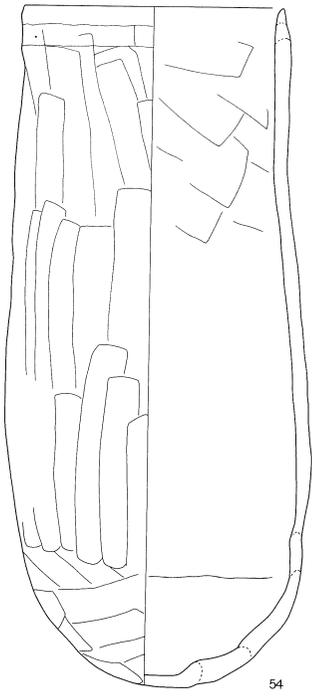
第412図 第75号住居跡出土遺物(1)



第413图 第75号住居跡出土遺物(2)

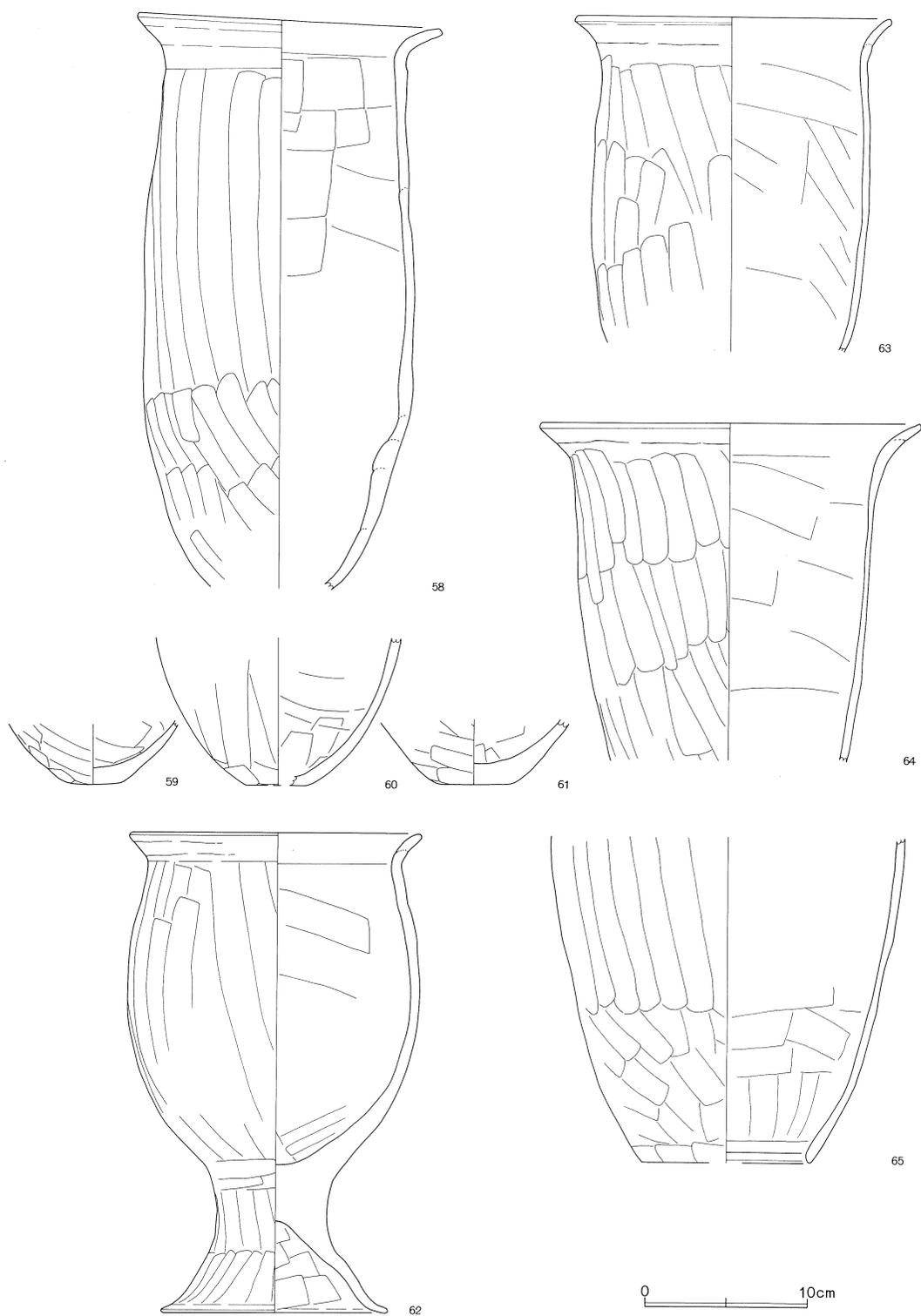


第414図 第75号住居跡出土遺物(3)

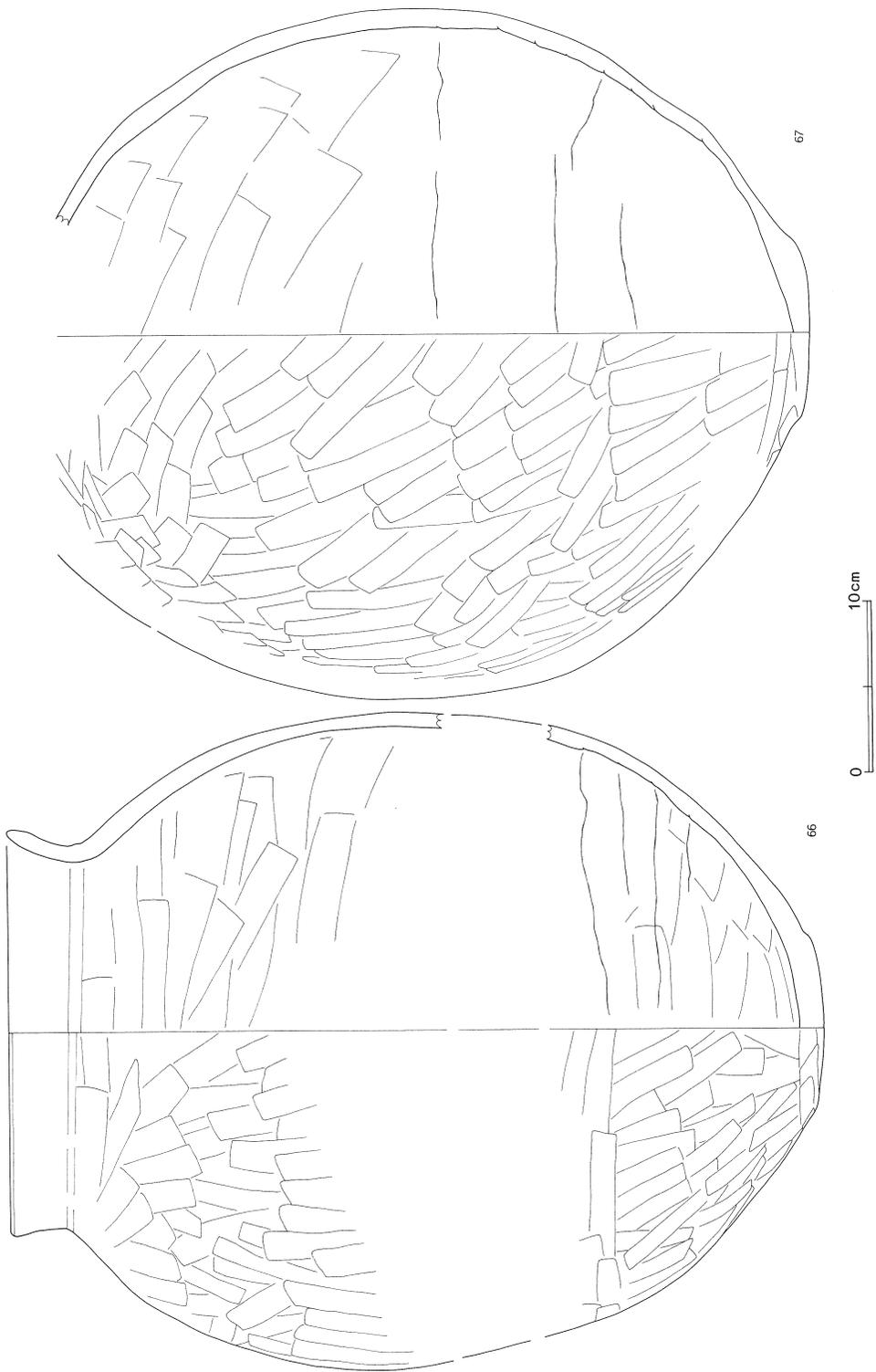


0 10cm

第415図 第75号住居跡出土遺物(4)



第416図 第75号住居跡出土遺物(5)



第417图 第75号住居跡出土遺物(6)

第75号住居跡(第412~417区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口14.1 高4.4	B+R+W	暗赤褐	95	No.114。放射状暗文 口縁端部ヘラアテ 内外面黒色部分
2	坏	口13.5 高4.1	B+R多+W	明赤褐	100	No.111。放射状暗文
3	坏	口13.8 高4.1	B+W	にふい赤褐~黒褐	95	No.85。放射状暗文 内外面黒色部分
4	坏	口13.8 高4.7	B+R+W多+W' 多	赤褐~暗赤褐	95	No.115。放射状暗文 内外面黒色部分
5	坏	口14.0 高4.3	B+R少+W少	明赤褐~黒褐	95	No.16。口縁端部ヘラアテ 内外面黒色 部分
6	小型坏	口(8.0)	B少+R+W+W'	橙	10	
7	坏	口13.8 高4.5	B+R+W	(内)暗赤褐 (外)に ふい赤褐~橙	95	No.107。放射状暗文 内外面黒色部分
8	坏	口(14.0) 高4.4	B+W' 少	にふい橙	20	放射状暗文
9	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	口縁 20	風化著しい
10	坏	口(14.0)	R+W	橙	10	
11	坏	口(16.0)	B+R+W	橙	20	
12	坏	口(13.8) 高4.6	B+R+W	(内)暗赤褐 (外)明赤褐	70	内面黒色
13	坏	口(14.0)	R+W+W'	明赤褐	30	
14	坏	口(18.0) 高6.3	B+R少+W	橙	30	
15	坏	口(14.2)	R+W	黒褐	口縁 20	
16	坏	口(14.0) 高(4.3)	B+R+W	にふい橙	40	No.102・105。
17	鉢	口(18.9) 高6.8	W+W'	(内)黒褐 (外)にふい赤褐	40	No.35。放射状暗文 内外面黒色
18	坏	口15.0 高3.8	B+W	(内)黒 (外)暗赤褐	70	No.28。内面黒色 胎土もろい
19	坏	口(13.3) 高5.5	B+R多	橙	45	口縁端部面トリ 外面黒色部分
20	鉢	口19.8 高5.5	B+R+W+砂少	にふい赤褐~黒褐	95	No.27。放射状暗文 内面黒色
21	坏	口(12.8)	B+R+W+W'	褐	45	No.116。内外面黒色
22	坏	口(13.0) 高(4.2)	R+W	橙~黒褐	25	No.86。
23	坏	口12.5 高4.8	B多+W多+W'	にふい褐	100	No.30。内外面黒色
24	坏	口12.5 高4.5	B+W多+W'	にふい褐~黒褐	100	No.34。口縁部内外面黒色
25	坏	口12.4 高4.2	B+R+W多	暗赤褐	100	No.112。内外面黒色
26	坏	口12.4 高4.3	B+R+W	にふい赤褐~灰褐	90	No.110・貯蔵穴。内外面黒色部分
27	坏	口(11.0)	R+W少	浅黄橙~黒褐	口縁 20	
28	坏	口(12.1) 高4.1	B+R+W	暗赤褐	35	内外面黒色
29	坏	口12.3	B+R多+W	橙~にふい赤褐	50	No.40・88。内外面黒色部分

30	坏	口(12.6) 高4.5	B+W	(内)黒褐 (外)褐〜黒褐	40	No.99.放射状暗文 内面黒色
31	坏	口11.8 高3.7	B多+R多+W	橙	95	No.29。
32	坏	口12.2 高3.7	B+R+W少	にふい褐〜にふい 橙	80	内外面黒色部分
33	坏	口12.8 高3.6	B+R多+W	明赤褐	75	No.38。口縁部内外面黒色
34	坏	口12.5 高4.1	B多+R多+W	にふい赤褐〜黒褐	95	No.80。口縁部内外面黒色
35	鉢	口18.0 高7.1	B+R+W	(内)橙 (外)にふい橙	90	No.31。外面黒色部分
36	坏	口(17.0)	B+W	橙	10	
37	鉢	口18.1 高(6.6)	B+R+W+W'	(内)赤褐 (外)黒褐〜赤褐	70	No.33。外面黒色
38	碗	口(12.0)	B+R+W	橙	上半部 20	風化
39	高坏	口(12.0)	R多+W	にふい橙	口縁 10	No.93。
40	鉢	口23.2 高11.2	B+R+W+砂多+礫多	橙〜にふい橙	90	No.18・21。内外面黒色部分
41	甌	口17.7	B+R+W+W'+砂少	橙〜にふい赤褐	60	No.97・102。内外面黒色部分
42	はそう	口(18.0)	B+R+W	にふい橙	口縁 40	No.87。口縁部外面に粘土積み上げ痕
43	鉢	口16.5 底7.5 高10.3	B+R+W+礫少	(内)橙 (外)橙〜にふい橙	100	No.36。外面黒色部分
44	台付鉢	口15.3 脚11.8 高14.6	B+R+W+砂+礫多	黄橙〜橙	70	No.96。脚端部指頭圧による歪み 内外 面黒色部分
45	甌	口(16.0)	B+R+W	橙〜黒褐	口縁 10	
46	甌	口13.0	B+R+W	橙	口縁 80	No.1。外面黒色部分
47	甌	口(12.8) 底5.3 高22.7 胴19.3	B+R+W多	浅黄橙〜灰褐	50	No.91・ピット。胴部外面下位と内面全体 黒色
48	甌	口13.7 胴(21.5)	B+R多+W+W'	橙〜にふい橙	40	No.61・65。胴部外面黒色部分
49	甌	口17.3 胴(26.7)	B+R+W+砂少	浅黄橙	20	No.83・101。外面黒色部分
50	甌	口(14.2) 胴(25.5)	B+R多+W多	赤褐	15	No.92。外面黒色部分
51	甌	口19.9 胴(26.7)	B+R多+W	橙〜浅黄橙	50	No.53・55・61・65・70・75。胴部外面中位 に帯状の黒色部分
52	甌	口17.9 胴(29.1)	B+R+W+砂少	にふい黄橙	45	No.32。胴部外面黒色部分
53	甌	口(22.0)	R+W+礫多	にふい橙〜灰褐	口縁 10	No.39。
54	甌	口14.0 底2.8 高36.3 胴16.4	B+R+W多+砂少	橙〜にふい橙	75	No.48・50。胴部外面黒色部分
55	甌	口19.1 底4.5 高36.9	B+R+W+礫多	にふい橙〜橙	90	No.45・50。胴部内外面黒色
56	甌	口21.3 底3.1 高35.4	B+R+W+礫多 +砂多	にふい黄橙〜橙	85	No.20・21。胴部外面下半黒色
57	甌	口18.9 底4.6 高35.5	B+R+W+砂少	橙〜明黄褐	80	No.67・72・76・77〜79。胴部外面黒色部 分
58	甌	口18.5	B+R+W+礫少	浅黄橙	70	No.26・44・45・47・62・74・75。胴部外面 下位黒色
59	甌	底3.5	B+R+W+砂少	(内)にふい赤褐 (外)橙	底部 60	底部ケズリ

60	甕	底3.7	B+R+W+砂少+礫少	(内)褐灰 (外)にふい橙	底部 50	底部ケズリ
61	甕	底(4.6)	B+R+W	橙～灰褐	底部 30	No.2. 底部ケズリ
62	台付甕	口17.8 台13.7 高29.5 胴18.0	B+R+W+砂少	にふい黄橙～橙	75	No.41・42・95。胴部外面下半黒色部分 (帯状)
63	甕	口19.2	B+R+W	浅黄橙	40	No.48・49・60・63。外面黒色部分
64	甕	口23.3	B+R少+W	浅黄橙	70	No.6・9・12・51。内外面黒色部分
65	甕	底10.3	B+R+W	浅黄橙～橙	20	No.69・101。胴部外面黒色部分
66	甕	口23.4 底9.8 高47.9 胴38.5	B+R+W	にふい黄橙	70	No.3・4・5・13・15・17・19・23・37・64・79・ 89・100。胴部外面黒色部分 胴部内面 灰黒色 粘土紐積み上げ痕明瞭
67	甕	底8.5 胴(40.4)	B+R+W	にふい黄橙	60	No.54・57・71・74・77・98・106。胴部外面 黒色部分 粘土紐積み上げ痕明瞭

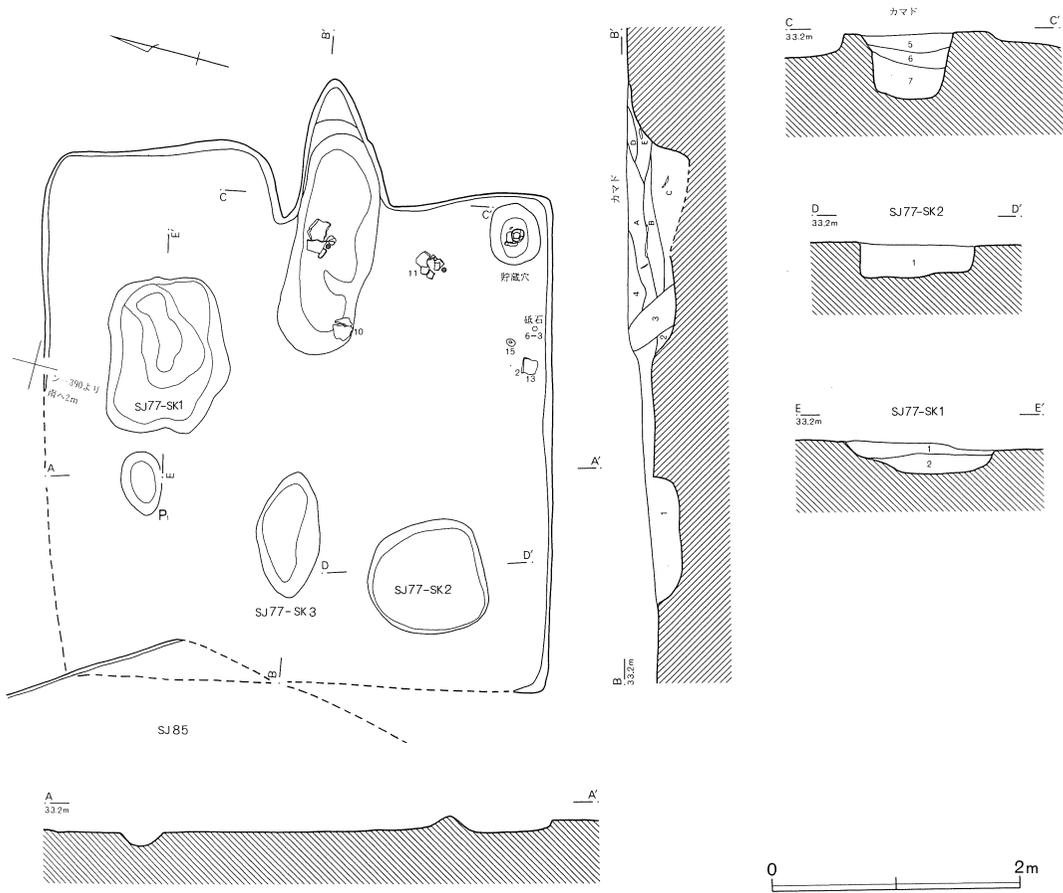
土器やカマドの支脚を付設したような台付甕形土器は注目される。ほかに須恵器4片、編物石3点、灰釉陶器1片、縄文土器10片が検出されている。

#### 第77号住居跡 (第418図)

セー389・390、スー389・390Gridに位置し、土取りによる削平の北壁・西壁の一部を消失している。第85号住居跡と重複し、新旧関係は新しい。カマドは片袖である。規模は主軸辺が推定で3.94・4.33m・短辺4.13m、深さ0.08～0.16mで、主軸方位はN-74°-Eを測る。カマドは東壁に構築されている。全長2.17m、焚き口幅0.66mの規模をもち、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部は主軸方向が極端に長い楕円形を呈し、比較的深く掘り窪められている。火床面は煙道部に向かって傾斜し、灰が溜っている。削平されていることを考慮にいれるべきではあるが、煙道部は短い。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に設置されている。隅丸方形で、東西0.49m・南北0.40m、深さ0.40m前後と規模が小さい。ピットは1基検出されているが、浅い。また土坑が3基確認されている。第1号土坑は北壁中央部付近に位置している。不整形で、東西1.25m・南北0.98m、深さ0.16～0.22mを測る。第2号土坑は南西コーナー部に位置している。隅丸方形を呈し、東西0.89m・南北0.94m、深さ0.21～0.28mを測る。第3号土坑は西壁中央部付近に位置している。楕円形で、東西1.01m・南北0.51m、深さ0.17～0.21mを測る。遺物はカマド・貯蔵穴およびその周辺部から出土し、石製白玉1点、砥石2点も検出されている。

#### 第78号住居跡 (第420図)

ヒー386・387、モー386・387Gridに位置している。第70・79号住居跡と重複し、新旧関係はほかの2軒よりも古い。規模は、主軸辺5.34～5.83m・短辺5.17m、深さ0.13～0.32mで、主軸方位はN-122°-Eを測る。壁はやや傾斜をもって立ち上がっている。幅0.13～0.29m、深さ0.01～0.02mの規模の壁溝が、西壁が途切れているほかはほぼ全周している。カマドは東壁に構築され、全長2.36m、焚き口幅0.98mの規模をもつ。袖部は地山が掘り残されているが、床面からわずかに



第77号住居跡

- 1 暗黄褐色土 焼土・炭化物・砂粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 2 1・3混合層（やや黒色味強）。
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物粒子、白色灰多量含む。
- 4 1・3混合層（黄色味強）。焼土粒子多量含む。

第77号住居跡カマド

- A 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。
- B 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、灰多量、黄褐色土ブロック少量含む。
- C 暗褐色土 焼土(2mm)・炭化物粒子、灰多量含む。
- D 暗褐色土 焼土粒子少量含む。
- E 暗褐色土 焼土粒子ブロック状混入。

第77号住居跡第1号土坑

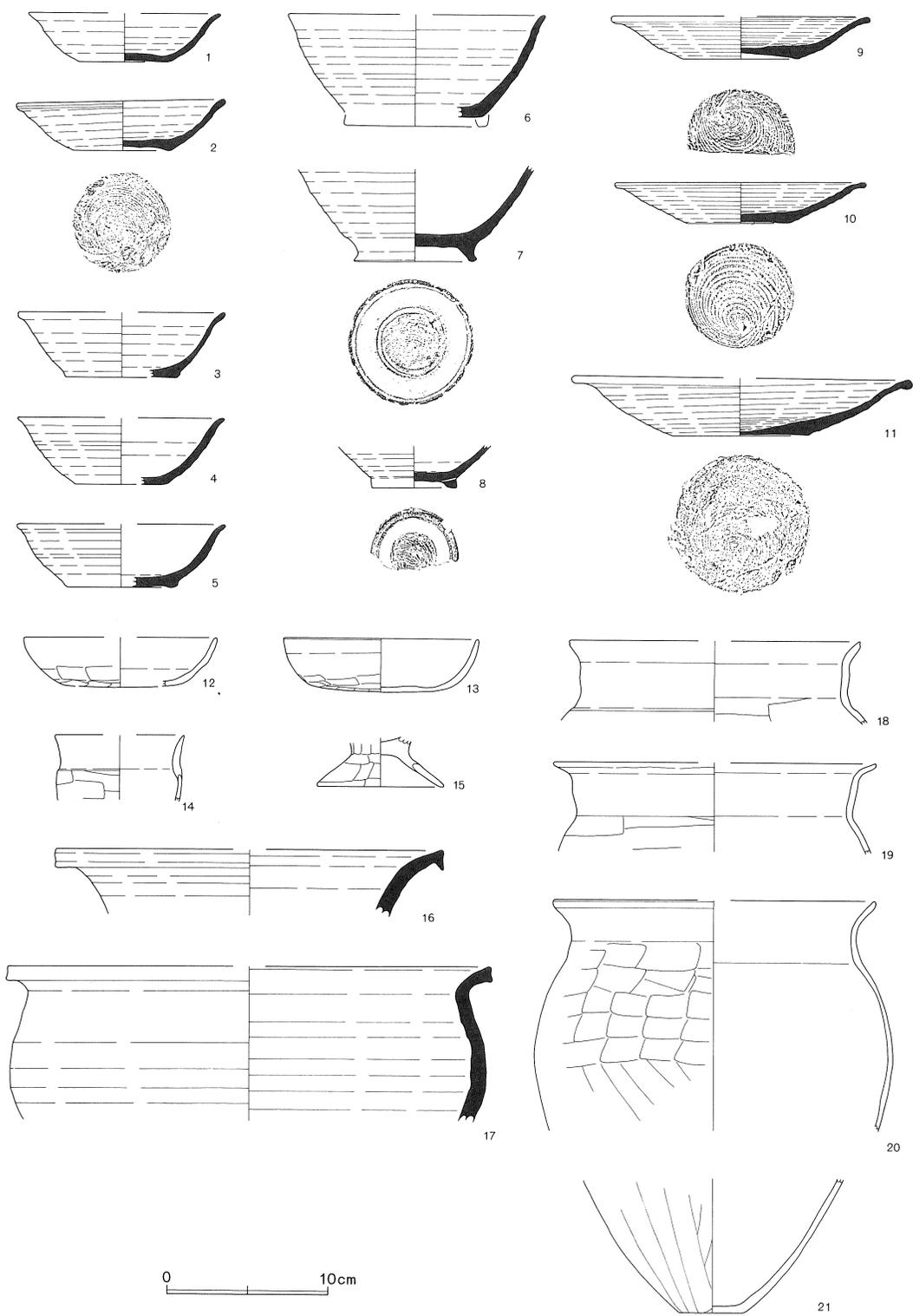
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。  
住居跡覆土1がブロック状混入。  
しまりあり、粘性弱。
- 2 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子微量含む。

第77号住居跡第2号土坑

- 1 暗褐色土 上層部焼土粒子、下層部灰多量含む。

第418図 第77号住居跡

隆起しているのみである。明確ではないが、地山袖部を基部としてカマドが構築されているものと考えられる。袖部内壁はよく焼けている。燃焼部は鶏卵形を呈し、緩やかな窪みをもっている。火床面はよく焼けており、中央部には焼土が集中し、盛り上がっている。その周囲には炭化物が検出されている。また煙道部に繋がる部分にも、炭化物が堆積している。煙道部は煙出部に向かって緩



第419图 第77号住居跡出土遺物

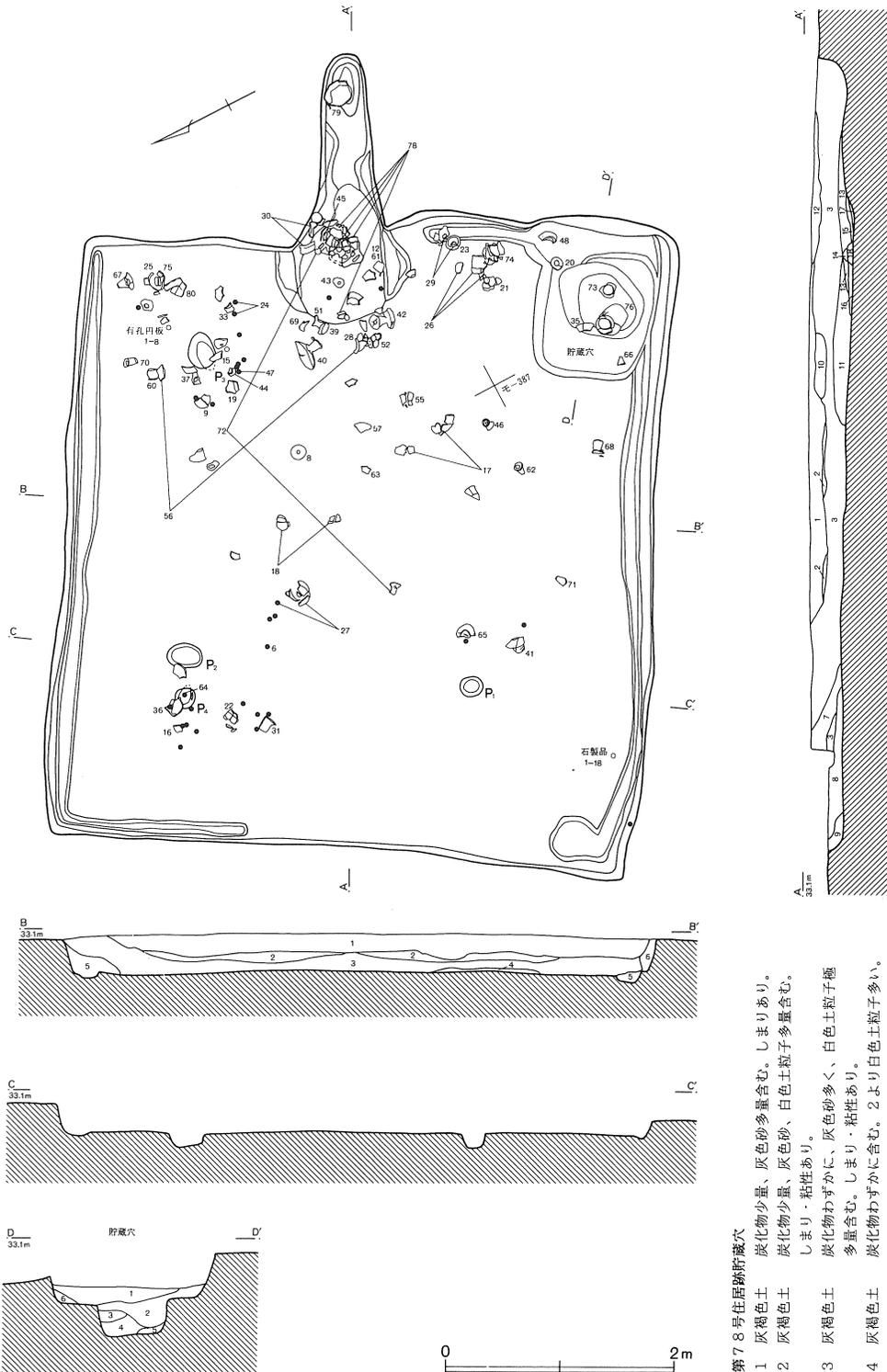
第77号住居跡 (第419区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(11.8) 底(5.4) 高3.0	W	灰	15	回転糸切り離し
2	椀	口12.8 底6.0 高3.0	W+礫少	暗青灰	100	No.3. 回転糸切り離し
3	坏	口(12.8)	W	灰	20	回転糸切り離し
4	坏	口(12.8)	B+W+片岩	灰	30	回転糸切り離し 火だすき風の痕跡
5	坏	口(12.8)	W	青灰	40	回転糸切り離し
6	高台付椀	口(16.0)	W	灰	15	回転糸切り離し後、高台ナデツケ(欠損)
7	高台付椀	台7.6	W+礫少	オリーブ灰	40	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
8	高台付椀	台5.2	W	灰	高台部 60	回転糸切り離し後、高台ナデツケ 焼成やや不良
9	皿	口(15.6) 底7.4 高2.5	B+W+礫少	灰	40	回転糸切り離し
10	皿	口15.4 底6.6 高2.5	B+W+礫少	灰	95	No.7. 回転糸切り離し
11	皿	口(20.8) 底8.4 高3.5	B+W	灰	50	No.4. 回転糸切り離し
12	坏	口(12.0)	B+W	橙	20	
13	坏	口12.0 高3.3	B多+R+W+W'	にふい橙	95	No.3.
14	小型甕	口(8.0)	B+R少+W	橙～浅黄橙	口縁 30	風化著しい
15	台付甕	台(8.0)	B少+R+W	橙	脚部 45	No.2.
16	甕	口(24.0)	W	灰	口縁 15	カマド。
17	甕	口(30.0)	B+R+W多+礫	橙～灰白	口縁 10	No.3. 焼成不良
18	甕	口(18.0)	B+R少+W	橙	口縁 20	風化
19	甕	口(20.0)	B+W	橙	口縁 10	
20	甕	口(19.6) 胴22.4	B多+R多+W	橙	口縁 60	
21	甕	底(4.0)	W+砂	橙	底部 25	カマド。底部ケズリ 内面風化

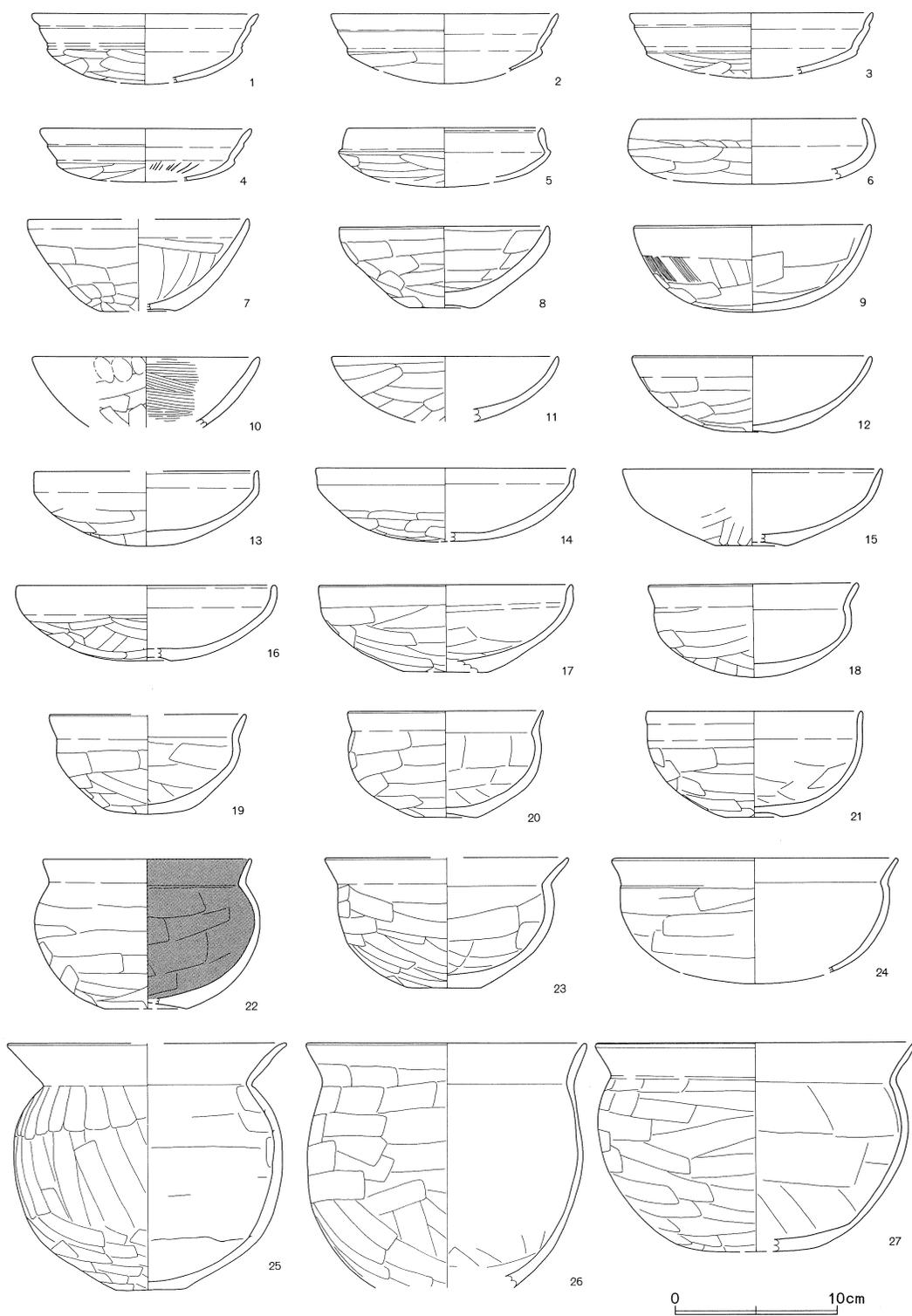
第78号住居跡

- 1 茶褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。黄褐色土ブロック状。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土粒子若干、炭化物多量含む。しまりあり。
- 3 褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)、炭化物若干含む。しまりあり。
- 4 褐色土 焼土粒子わずかに含む。砂質シルト状で軟質。
- 5 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土わずかに含む。しまりあり。
- 6 褐色土 灰色砂多く含む。しまり弱。軟質。
- 7 黒褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 8 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 9 黄褐色土 黄褐色土ブロック状。しまりあり。

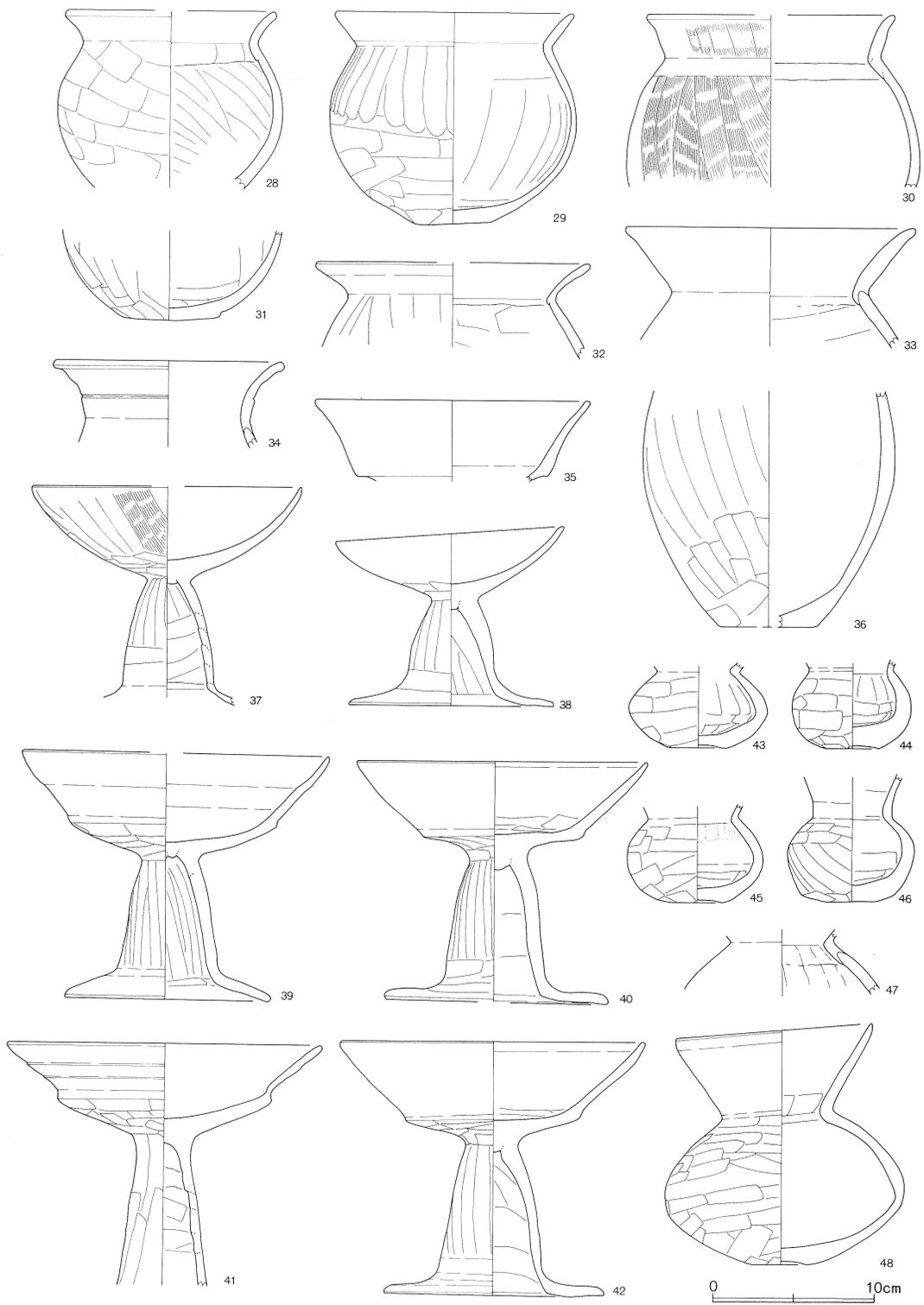
- 10 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)多く、炭化物若干含む。しまりあり。
- 11 褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)多量、炭化物わずかに含む。しまりあり。
- 12 黒褐色土 焼土粒子、炭化物多く含む。
- 13 暗褐色土 焼土粒子(3~5mm)、炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 14 橙色土 焼土ブロック(5~20mm)主体。暗褐色土粒子混入。しまりあり。
- 15 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色砂多く含む。しまりあり。
- 16 暗褐色土 焼土粒子(3~5mm)若干、炭化物多く含む。しまり・粘性あり。
- 17 炭化物層
- 18 暗赤褐色土



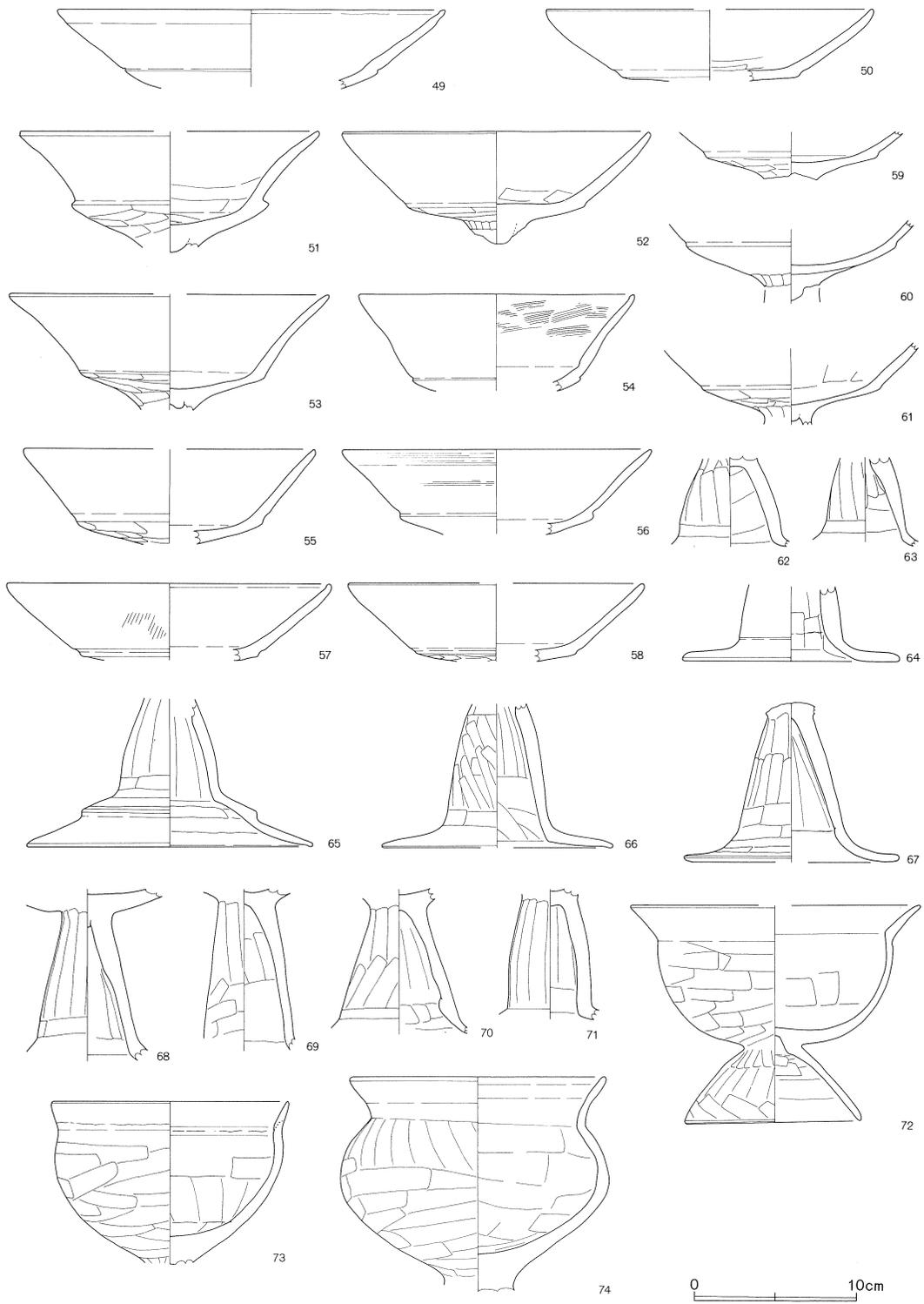
第420図 第78号住居跡



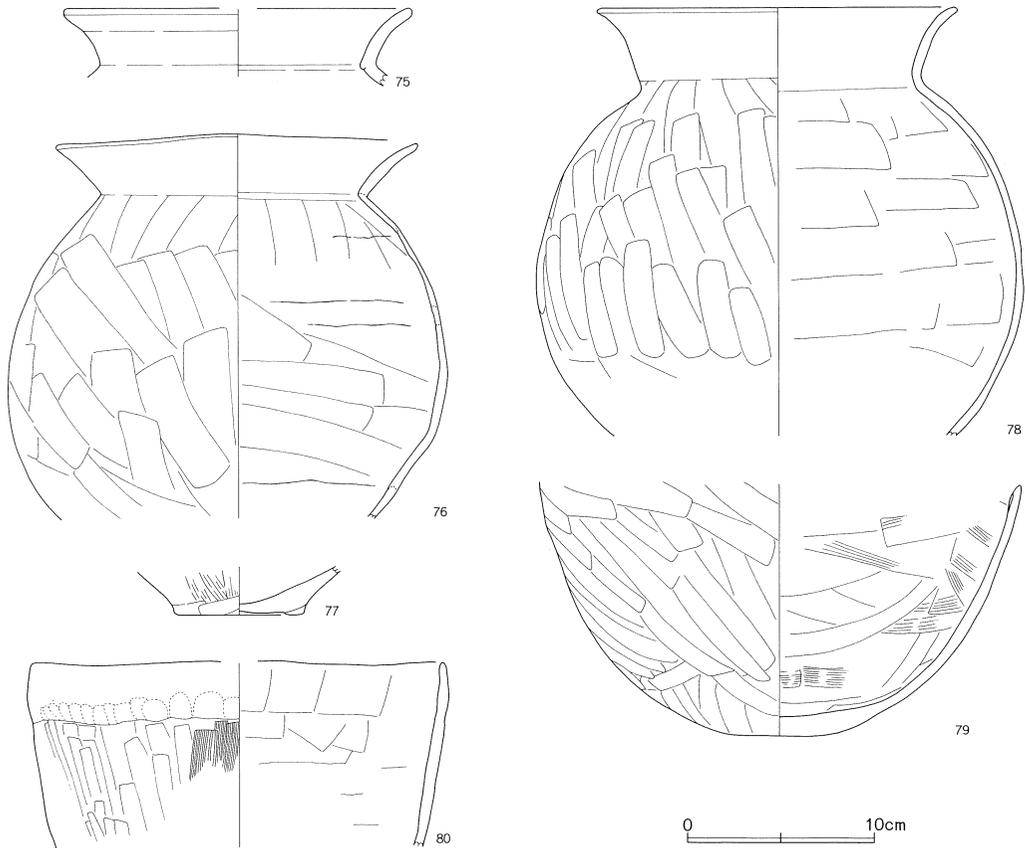
第421图 第78号住居跡出土遺物(1)



第422图 第78号住居跡出土遺物(2)



第423図 第78号住居跡出土遺物(3)



第424図 第78号住居跡出土遺物(4)

やかに傾斜し、煙出部には甕形土器が使用されている。煙道部の天井は住居跡廃絶後早々に陥没し、住居覆土と同様の土層が堆積している。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に設置され、壁溝と接している。一旦方形に掘られ、さらに中心部が不整円形に掘り込まれている。方形部は東西1.41m・南北1.21m、不整円形部は東西0.63m・南北0.77mを測り、深さは0.42mである。ピットは4基検出されているが、いずれも浅い。しかし位置からは、P1～P3が柱穴と考えられる。第70号住居跡と重複していることを考慮すべきではあるが、カマドと対向している西壁の中央部には壁溝が廻っていない。特別な施設は設けられていないが、この部分が住居跡の入口部にあたるものと想定している。遺物は多く、カマド・貯蔵穴およびその周辺部からおもに出土している。なかでも脚部が直線的に開いている高坏形土器（脚付椀形土器？）は特異な形である。石製有孔円板1点、石製不明品1点も検出され、ほかに編物石1点、打製石斧2点、石鏃1点、凹石1点、縄文土器25片がある。

#### 第79号住居跡（第425図）

ヒ—385・386、モ—385・386Gridに位置し、重複している第78号住居跡よりも新しい。規模は主軸辺4.25m・長辺4.54m、深さ0.08～0.16mで、主軸方位はN—126°—Eを測る。壁はほぼ垂直

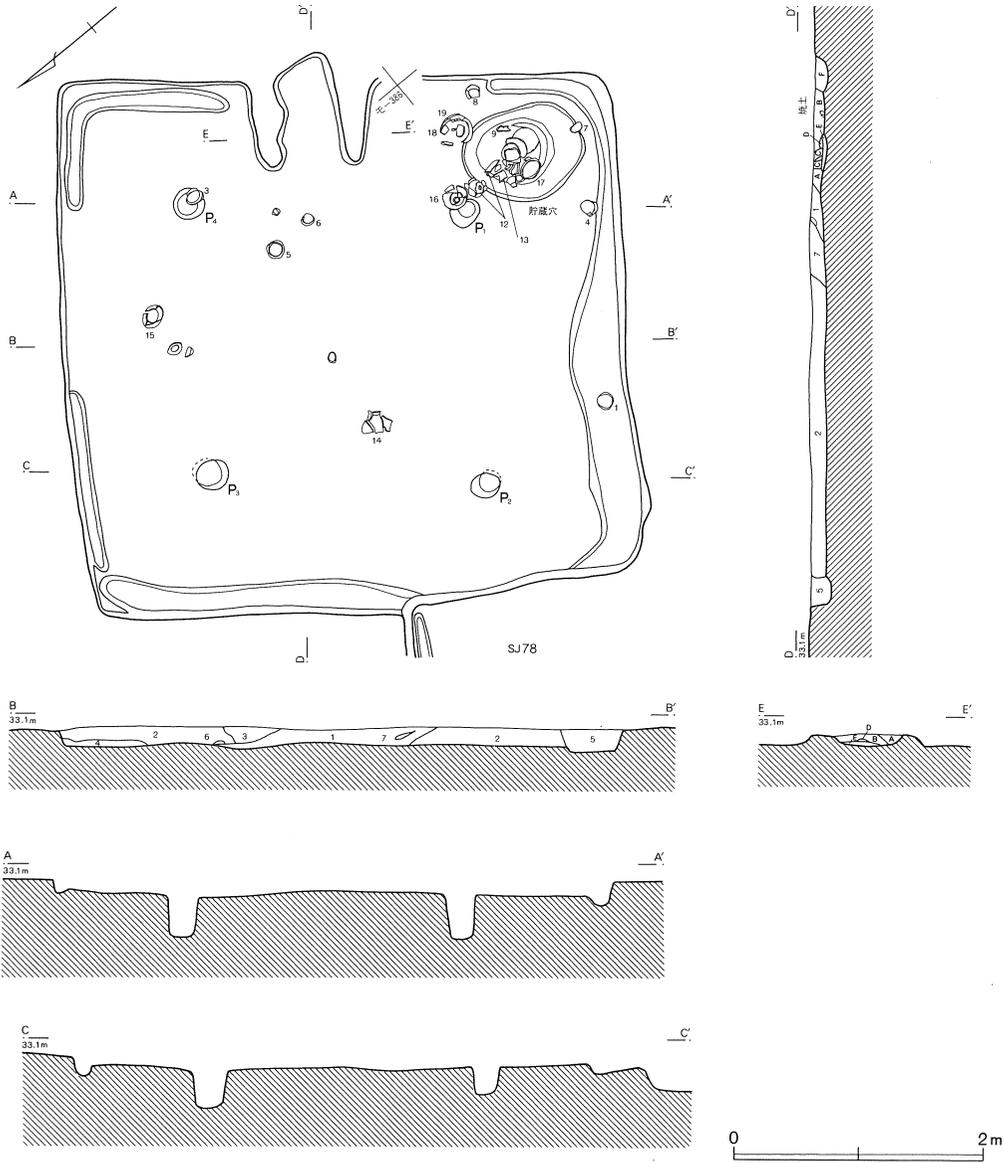
第78号住居跡(第421~424区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0)	B+R+W+W' 少	橙~浅黄橙	40	内面風化が著しい
2	坏	口(14.0)	R多+W	にふい黄橙	20	風化が著しい
3	坏	口(15.0)	B+W+W'	橙	30	
4	坏	口(13.0)	B+W+W'	橙	30	放射状暗文
5	坏	口(12.0)	B少+W	明赤褐	30	口縁端部ヘラアテ
6	坏	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	20	No.72。
7	碗	口(13.6) 底(4.6) 高5.7	B+R+W	橙	50	底部ケズリ
8	碗	口13.0 底4.2 高5.0	B+R+W+W' 少	(内)にふい橙~明赤褐 (外)橙~にふい橙	100	No.33。内外面に黒色部分
9	坏	口14.6 高5.3	B+R多+W+W'	橙	70	No.51。外面に黒色部分
10	碗	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	5	口縁部外面に指頭押
11	坏	口(14.0)	R多+W	橙	30	内面の風化が著しい
12	坏	口14.7 底3.1 高4.6	B+R+W+W'	(内)橙~にふい橙 (外)明赤褐~にふい橙	55	No.18。口縁端面トリ
13	坏	口(13.8) 高4.6	B+R多+W	(内)橙(外)浅黄橙 ~にふい橙	40	
14	坏	口(16.0) 高4.5	B少+R+W+W'	橙	30	
15	坏	口(16.0) 底(4.0) 高(4.7)	R多+W	橙	10	No.42。風化が著しい
16	坏	口(16.0) 底(3.0) 高4.4	B+R+W	明赤褐~黒	25	No.78。底部くぼむ
17	坏	口15.6 底5.2 高5.3	B+R+W少	(内)橙~にふい橙 (外)橙	95	No.88・90。底部ケズリ 内外面に黒色部分
18	碗	口12.9 高5.7	B+R多+W+W'	(内)明赤褐(外)橙	80	No.66・86。内面の風化が著しい 内外面に黒色部分
19	碗	口(12.1) 底5.5 高6.1	B+R+W+W'	(内)にふい橙 (外)橙	45	No.48。底部ケズリ 外面に黒色部分
20	碗	口12.0 底3.8 高6.5	B+R+W少+W' 少	(内)橙 (外)橙~にふい橙	95	No.108。器厚が薄い 外面上半に黒色部分
21	碗	口13.3 底4.5 高6.5	B+R+W	(内)橙 (外)にふい橙	70	No.3。底部ケズリ 外面に黒色部分
22	鉢	口12.8 底5.0 高9.2 胴13.8	B+R多+W	(内)黒(外)明赤褐	60	No.82。内面黒色
23	碗	口15.0 底4.5 高8.0	B+W多+W'+砂少	(内)灰黄~赤橙 (外)赤橙~にふい橙	85	No.7。内外面赤彩 内外面に黒色部分
24	碗	口(17.6)	B+R多+W	橙	20	No.36・38。風化が著しい
25	甗	口(17.1) 底4.3 高15.1	B+R+W+砂少	(内)にふい橙 (外)明黄橙~橙	45	No.58。底部ケズリ 内外面に黒色部分
26	甗	口17.2	B+R+W+W'+砂少	(内)にふい橙 (外)明黄橙~橙	70	No.4・5・6。内外面に黒色部分
27	鉢	口19.6 高12.8	B+R多+W+W'	明赤褐	60	No.68・69。内面に黒色部分
28	小型甗	口(13.1)	B少+R+W	(内)にふい橙 (外)明赤褐	40	No.27。内外面に黒色部分

29	小型甌	口14.8 底4.6 高13.1 胴15.2	B+R+W+W'	(内)にふい橙~橙 (外)橙~赤橙	70	No.7・8。底部ケズリ 内外面に黒色部分
30	小型甌	口(15.4) 胴(18.2)	B+R多+W	明赤褐	35	No.12・13。
31	小型甌	底5.9	B+R+W+W' +砂少	(内)にふい橙 (外)明黄橙	20	No.84。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
32	甌	口(17.0)	B+R+W	明赤褐	口縁 25	
33	甌	口(18.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 10	No.37。外面風化
34	小型壺	口(14.0)	B+W+礫多	橙~黒褐	口縁 20	
35	高坏	口(17.0)	B+R+W	橙	口縁 25	No.94。口縁端面部トリ 外面の風化が著しい
36	甌	底(6.0)	B+R+W+W' +砂少+礫少	(内)にふい橙 (外)橙	15	No.76。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
37	高坏	口16.7	B+R+W	橙	70	No.53。坏部風化 外面に黒色部分
38	高坏	口(14.1) 脚12.6 高10.6	B+R少+W+W' 少	橙	70	脚部内外面に黒色部分
39	高坏	口19.0 脚13.6 高15.2	B+R+W+W'	(内)橙~にふい橙 (外)赤橙~橙	70	No.28。坏部外面に黒色部分
40	高坏	口18.0 脚13.8 高14.8	B+R+W多	(内)明赤褐 (外)明赤褐~橙	80	No.30。
41	高坏	口(19.5)	B+R多+W	(内)橙 (外)橙~にふい橙	40	No.100。
42	高坏	口18.6 脚13.6 高15.7	B+R+W多	(内)明赤褐 (外)明 赤褐~橙~浅黄橙	100	No.24。口縁部内面に帯状の黒色部分 (重ね焼きの痕跡?)
43	ミニチュ ア	底3.5	B+R多+W	(内)明赤褐 (外)橙	60	No.21。
44	ミニチュ ア	底3.2	B+R+W	(内)橙 (外)にふい橙	60	No.47。内外面に黒色部分
45	ミニチュ ア	底3.0	B+R+W	橙	80	No.106。
46	ミニチュ ア		B+R+W	明赤褐	90	No.92。胴部外面に黒色部分
47	小型壺		B+R+W	橙	肩部 20	No.46。風化
48	埴	口(12.2) 底3.3 高14.7	B+R+W+W'	橙	80	No.1。
49	高坏	口(22.0)	B少+R+W+W'	橙	坏部 10	
50	高坏	口(20.1)	B+R+W	(内)明赤褐 (外)にふい赤褐	坏部 25	
51	高坏	口(18.4)	B+R+W少	橙	坏部 40	No.22。口縁端面部トリ
52	高坏	口(18.9)	B+R+W+W'	明赤褐	坏部 90	No.26。内外面に黒色部分
53	高坏	口(19.6)	B+W+W'	(内)橙 (外)明赤褐	坏部 50	内外面に黒色部分
54	高坏	口(17.0)	B+R多+W	橙	坏部 20	
55	高坏	口(18.0)	B+R+W	(内)橙 (外)にふい橙	坏部 25	No.34。
56	高坏	口(19.0)	R+W	橙	坏部 25	No.27・64。口縁端部付近外面の工具痕明瞭
57	高坏	口(20.0)	B+W	明赤褐	口縁 20	No.32。
58	高坏	口18.2	B+R+W	明赤褐	坏部 70	内面に黒色部分

59	高坏		B+R+W少	橙	坏部 20	
60	高坏		R多+W	にふい黄橙	坏部 30	No.64。内面風化
61	高坏		B+R+W	(内)明赤褐 (外)橙	坏部 40	No.18。
62	高坏		B少+W少	橙	70	No.93。
63	高坏		B+W+砂少	橙	70	No.87。
64	高坏	脚(13.4)	B+W+W'	橙	脚部 10	No.74。
65	高坏	脚17.6	B+R+W	浅黄橙～橙	60	No.101・105。
66	高坏	脚14.0	B+W+W'	(内)明黄褐～橙 (外)明黄褐～黒	脚部 70	No.95。内外面に黒色部分
67	高坏	脚(13.2)	B多+R+W多+W'	橙～明黄褐	脚部 60	No.60。
68	高坏		B+R+W	(内)明赤褐 (外)橙	脚部 70	No.96。
69	高坏		B+W	(内)明赤褐 (外)にふい橙	脚部 60	No.29。
70	高坏		B+R+W	(内)赤橙 (外)にふい橙	脚部 70	No.63。
71	高坏		B+R+W	橙	脚部 70	No.97。
72	高坏	口(17.8) 脚10.9 高13.3	B少+R+W少	(内)橙～明赤褐 (外)橙～にふい橙	40	No.17・89。台付椀? 外面に黒色部分
73	台付鉢	口14.8	B+R+W多+W'	(内)にふい赤褐 (外)にふい橙～明 赤褐	70	No.109。外面に黒色部分
74	台付鉢	口15.8 胴16.5	B+R+W	明赤褐	70	No.2。外面下半と内面に黒色部分が廻る
75	甕	口(18.6)	B+R+W	にふい橙	口縁 40	No.58。内面に黒色部分
76	甕	口19.3 胴23.3	B+R+W	(内)橙 (外)灰白～浅黄橙	60	No.110。胴部外面下半に黒色部分
77	甕	底7.0	W+W'+礫多	橙～にふい橙	底部 50	底部周辺に粘土貼付
78	甕	口19.2 胴25.8	B+R+W	にふい橙	60	No.14・15・16・23。内外面に黒色部分
79	甕		B+R+W+W'+砂少	(内)橙 (外)明橙	15	No.11。丸底 底部ケズリ 外面に黒色部分
80	甕	口(22.1)	B+R多+W+W'	明赤褐	15	No.56。口縁部外方に折り返し後、指頭押 内外面に黒色部分

に立ち上がり、幅0.12～0.44m、深さ0.06mの壁溝が北壁中央部を除いてほぼ全周している。カマドは東壁に構築され、全長0.92m、焚き口幅0.50mを測る。袖部は地山が掘り残され、「ハ」の字に開いている。燃烧部は不整形を呈している。火床面には灰が堆積し、よく焼けている。煙道部は削平されているものと思われる。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に設置されている。不整形丸方形で、南北1.01m・東西0.77m、深さ0.79mの規模をもつ。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。特別な施設は確認されていないが、壁溝が途切れている北壁中央部が入口部と想定される。隣接している第66号住居跡とは出土遺物の年代にそれほど差が認められず、両者の関連は興味深い。遺物は貯蔵穴周辺部からおもに出土し、土製不明品1点も検出されている。ほかに縄文土器14片がある。



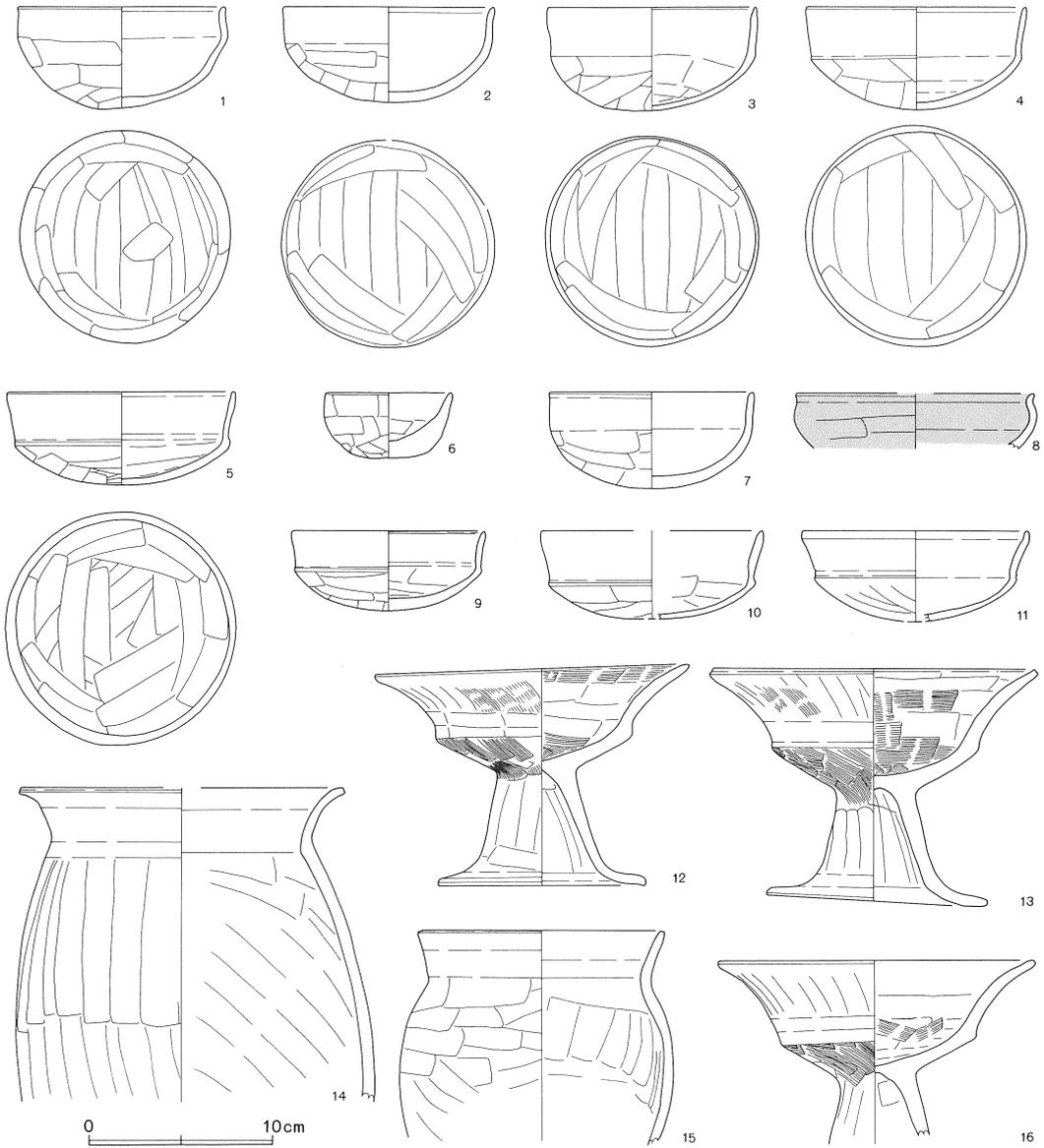
第79号住居跡

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。黄褐色土ブロック状。しまりあり。
- 2 褐色土 1より少量の黄褐色土混入。
- 3 褐色土 炭化物多く含む。黄褐色土少量混入。しまりあり。
- 4 黄褐色土 炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。黄褐色土若干混入。しまりあり。
- 6 暗赤褐色土 焼土堆積。炭化物若干含む。しまりあり。
- 7 黒褐色土 炭化物のうすい堆積。

第79号住居跡カマド

- A 褐色土 焼土若干、炭化物粒子多く含む。黄褐色土混入。しまりあり。
- B 褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- C 橙色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)主体。
- D 灰褐色土 灰主体。炭化物、焼土粒子・ブロック多く含む。しまり弱。
- E 赤褐色土 焼土面(火床面)。
- F 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)わずかに、炭化物粒子多く含む。黄褐色土少量混入。しまりあり。

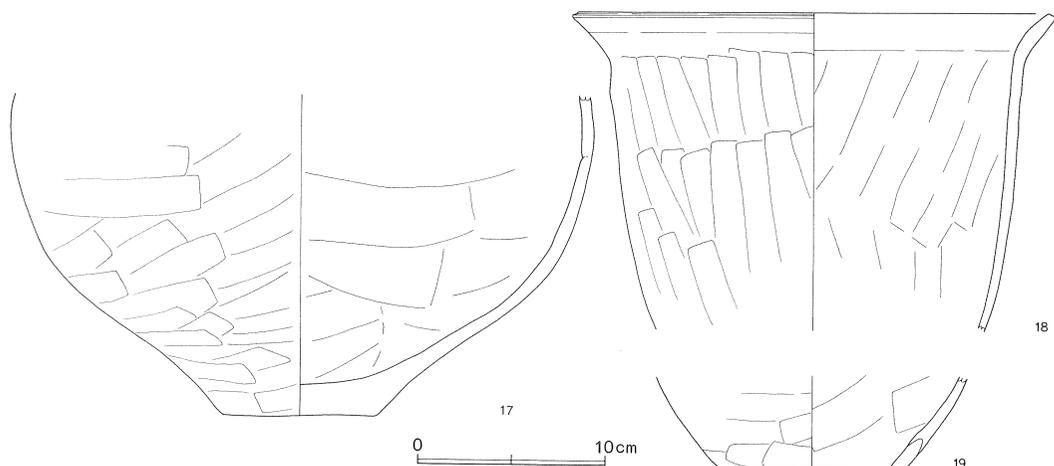
第425図 第79号住居跡



第426図 第79号住居跡出土遺物(1)

第79号住居跡 (第426・427図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.2 高5.5	B+R多+W	橙	100	No.10.外面に黒色部分
2	坏	口11.4 高5.2	B+R多+W	(内)にふい橙 (外)橙	95	No.13.外面に黒色部分
3	坏	口11.3 高5.6	B+R多+W	橙	100	No.1.口縁端部面トリ 内外面に黒色部分
4	坏	口11.8 高5.6	B多+R多+W	橙	100	No.11.口縁端部面トリ
5	坏	口12.4 高5.0	B+R多+W+W'	(内)淡橙(外)橙	100	No.7.口縁端部面トリ 外面に黒色部分



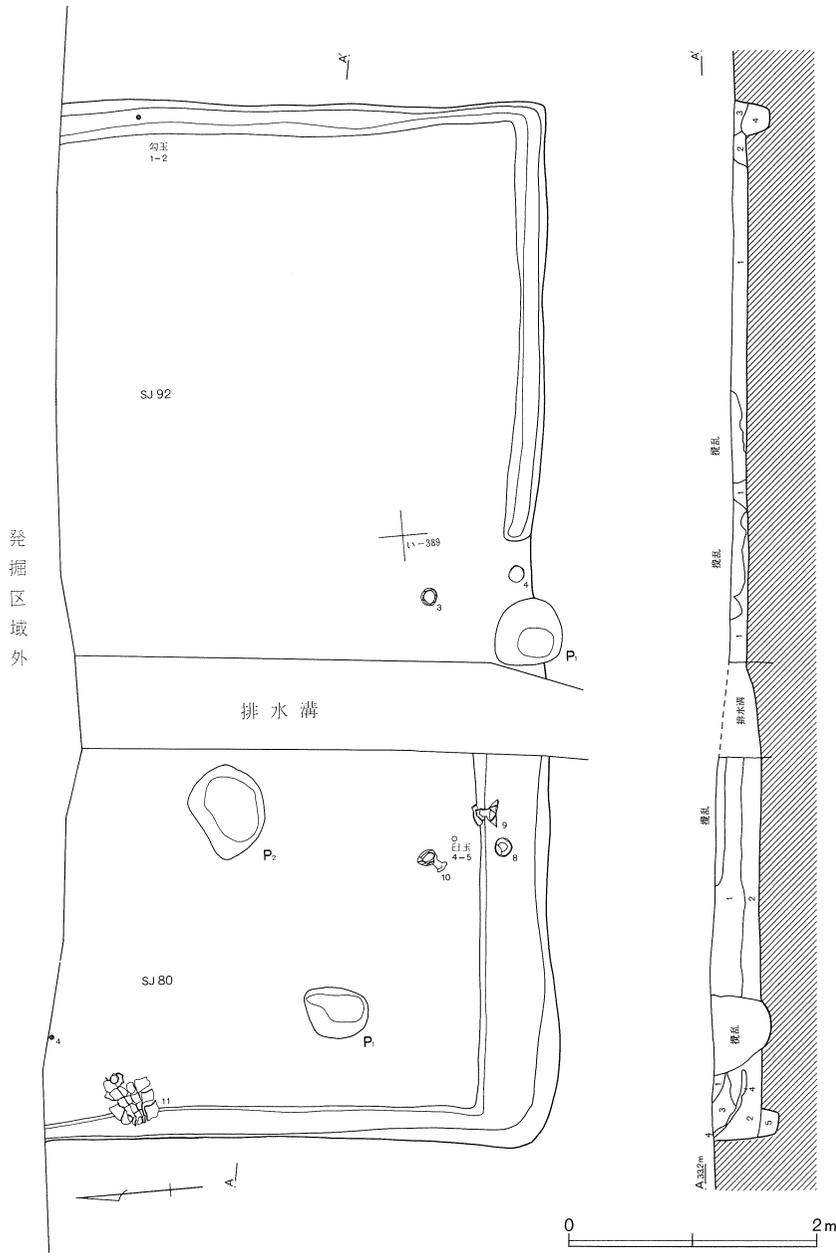
第427図 第79号住居跡出土遺物(2)

6	坏(ミニチュア)	口6.8 高3.5	B+R多+W	橙	90	No.9。外面に黒色部分
7	坏	口11.0 高5.2	B+R多+W	橙	80	No.12、貯蔵穴。
8	坏	口(12.7)	B少+W	赤橙	口縁 20	赤彩
9	坏	口10.4 高4.3	B+R多+W	橙	90	No.20。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
10	坏	口(12.0) 高4.8	B+R多	にふい黄橙	25	カマド。口縁端部面トリ 外面に黒色部分
11	坏	口(12.4) 高(5.0)	R	橙	30	風化著しい
12	高坏	口16.7 脚11.2 高11.8	B+R多+W	橙	95	No.16・17。
13	高坏	口17.5 脚11.9 高12.6	B+R多+W	橙	90	No.17。口縁端部面トリ
14	甕	口(17.6)	B多+R+W	(内)灰褐 (外)明褐灰	25	No.5。
15	小型甕	口13.1 胴(15.0)	B+R多+W	橙	40	No.2。胴部外面に黒色部分
16	高坏	口17.0	B+R多+W	橙	70	No.15。
17	壺	底8.2 胴31.2	B+R+W多	(内)にふい褐 (外)橙	20	No.18。胴部外面に黒色部分
18	甌	口25.1	B+R多+W	(内)橙 (外)浅黄橙~橙	30	No.14。
19	甌	底(10.0)	B+R+W+礫少	橙	底部 10	No.14。

第80・92号住居跡 (第428図)

ン—388・389、い—388・389Gridに位置し、北半が発掘区域外にかかっている。新旧関係は第92号住居跡が第80号住居跡よりも新しい。2軒のそれぞれの辺は、方位にほぼ合致している。

第92号住居跡の西壁付近を調査のための排水溝によって削平してしまったので、規模は明確では

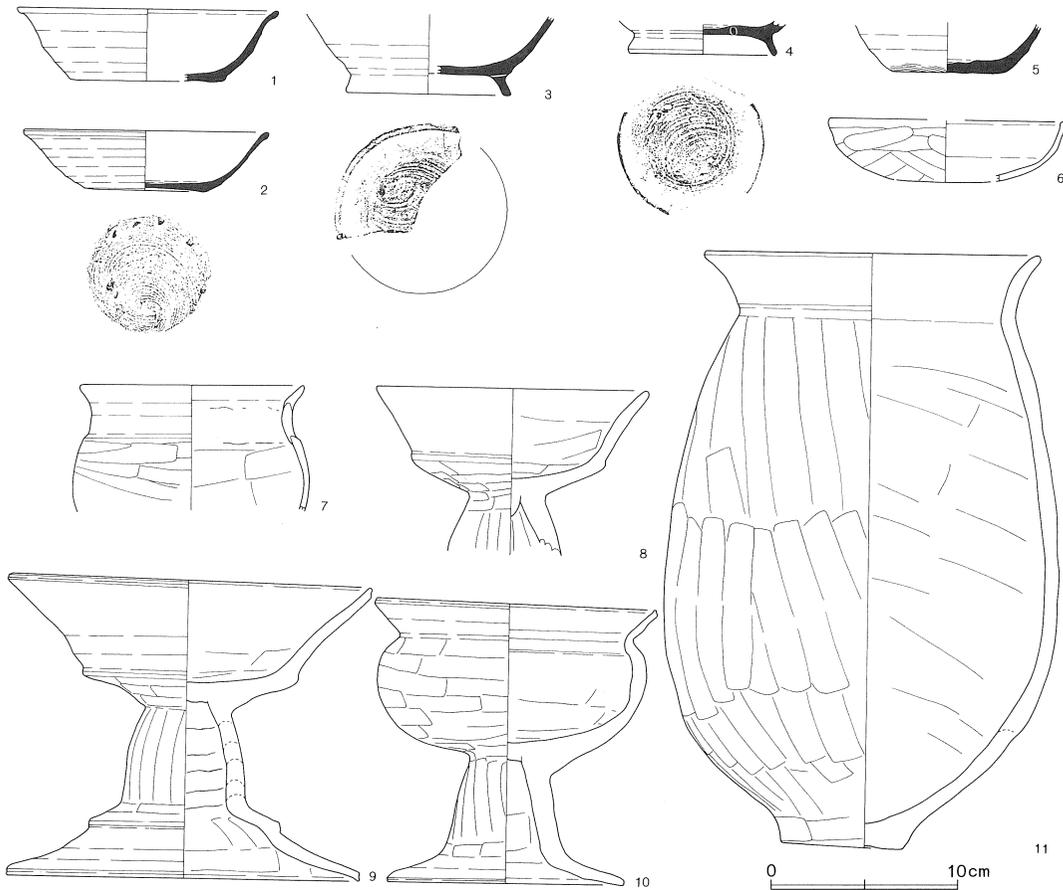


- 第80号住居跡
- 1 茶褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
  - 2 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
  - 3 褐色土 焼土・炭化物粒子・焼土ブロック(5mm)多量含む。しまりあり。
  - 4 茶褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(10mm)多量含む。しまりあり。
  - 5 黄褐色土
- 第92号住居跡
- 1 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
  - 2 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
  - 3 褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
  - 4 黄褐色土 黄褐色土ブロック(5~10mm)主体。焼土・炭化物粒子若干含む。褐色土混入。しまりあり。

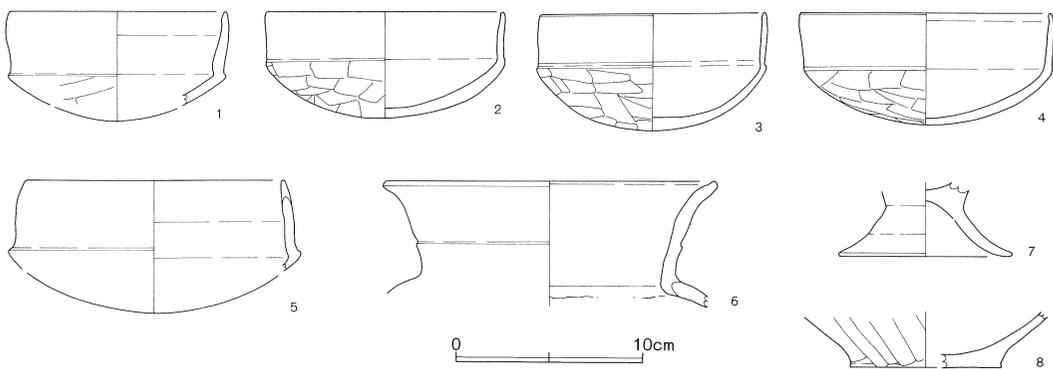
第428図 第80・92号住居跡

ない。第92号住居跡は一边が5 m前後で、深さは0.10~0.14mを測る。第80号住居跡壁は深さ0.36~0.41mを測り、第92号住居跡よりも深い。しかし東壁が第92号住居跡床面下に検出されていないことから、一边が3.20~3.80m程度と推定される。

第80号住居跡の壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.33~0.66m、深さ0.10~0.21mの壁溝が全周し



第429図 第80号住居跡出土遺物



第430図 第92号住居跡出土遺物

ている。ピットは2基検出されている。カマド・炉跡・貯蔵穴等は確認されていない。遺物は後世のものが混入し、明確に伴うものは高坏形土器3点、甕形土器1点、白玉1点、刀子1点である。第92号住居跡の壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝はほぼ全周している。壁溝の規模は、幅0.17～

第80号住居跡 (第429図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0)	W多	灰	20	ピット1。回転糸切り離し
2	碗	口13.0 底6.6 高3.0	B+W+礫少	灰褐	75	ピット2。回転糸切り離し
3	高台付碗	台(8.8)	R多+W	橙～にふい橙	下半部 30	回転糸切り離し後、高台ナデツケ 焼成不良
4	高台付碗	台6.0	B+W	褐灰	20	No.6。回転糸切り離し
5	坏	底(6.0)	W	灰	底部 10	回転糸切り離し
6	坏	口(12.6)	B+R少+W少	橙	40	内面風化
7	小型甕	口(12.0) 胴12.3	B多+R多+W	橙～にふい黄橙	上半部 25	ピット2。
8	高坏	口14.4	B+R多+W	橙	70	No.2。坏部内面に黒色部分
9	高坏	口19.2 脚18.8 高15.9	B+R+W	橙～明赤褐	95	No.1。口縁端部・脚端部面トリ 坏部に 黒色部分
10	高坏	口14.8 脚12.6 高15.0	B+R+W+W'	(内)明赤褐 (外)明赤褐～橙	90	No.3。坏部外面に黒色部分
11	甕	口17.8 底6.4 高31.7 胴21.0	B+R+W+砂少+礫少	にふい橙～にふい 赤褐	90	No.4。胴部外面下位に黒色帯、その下は 変色

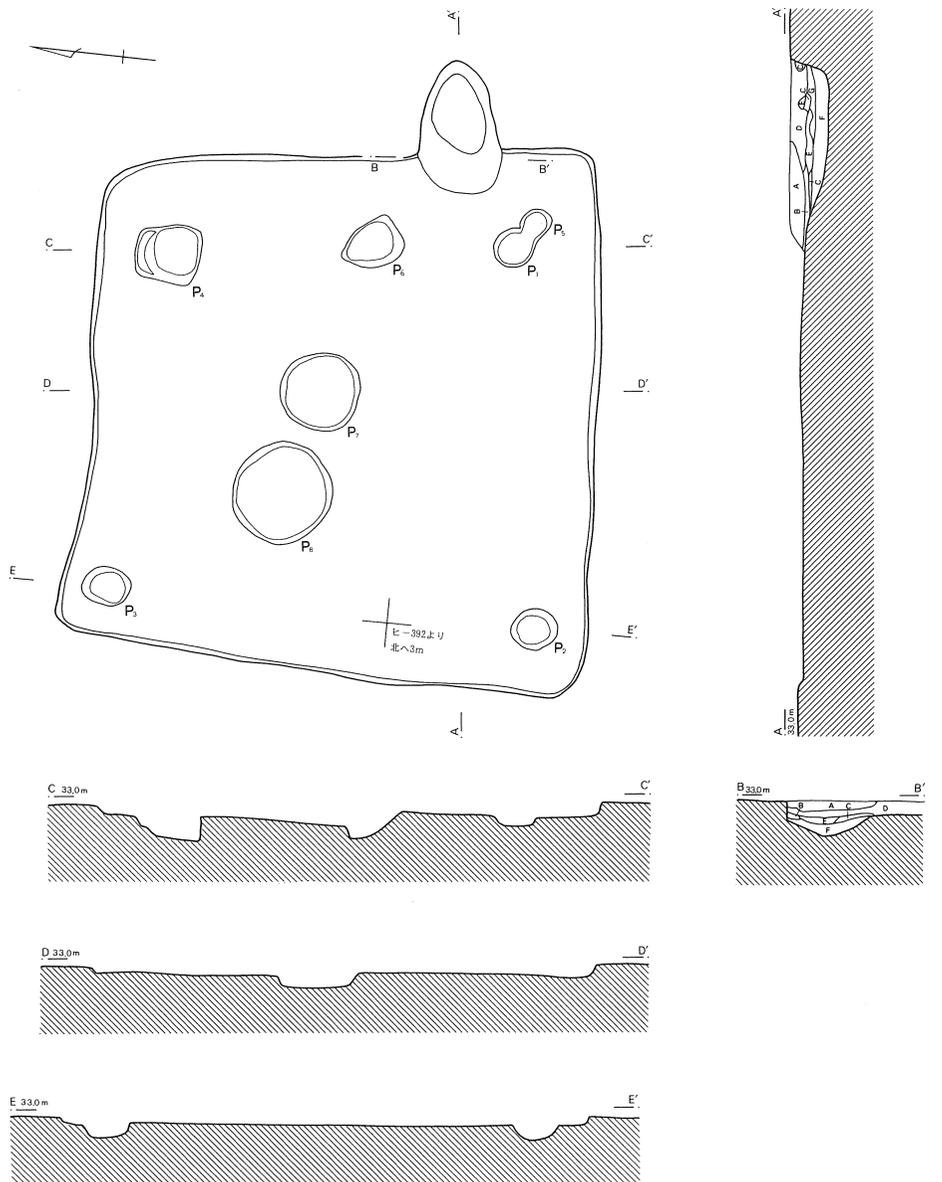
第92号住居跡 (第430図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(11.6)	R多+W	橙	20	風化著しい
2	坏	口12.6 高5.6	B+R多+W	(内)褐～暗褐 (外)褐～黒	85	全体に黒色
3	坏	口12.0 高6.2	B+R+W少	明赤褐～にふい橙	100	No.2。内面に黒色部分
4	坏	口(13.3) 高6.0	B+R多+W	(内)明赤褐 (外)明赤褐～橙	100	No.1。
5	坏	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 10	口縁端部は弱いヘラアテによる面トリ
6	壺	口(18.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 10	口縁端部面トリ 外面風化著しい
7	高坏	脚(9.2)	B+R+W+W'	橙	脚部 60	ピット1。
8	甕	底(8.0)	R+W+W'+礫多	橙～にふい黄橙	底部 25	底部ケズリ 底部黒色

0.28m、深さ0.13～0.20mを測る。ピットは南西コーナー部壁際に1基のみ検出されている。カマド・貯蔵穴等は確認されていない。遺物は少なく、坏形土器が中心である。また東壁溝の底面直上から土製勾玉1点が出土している。

第81号住居跡 (第431図)

ヒー391・392Gridに位置し、床面近くまで削平されている。第82号住居跡・第3号掘立柱建物

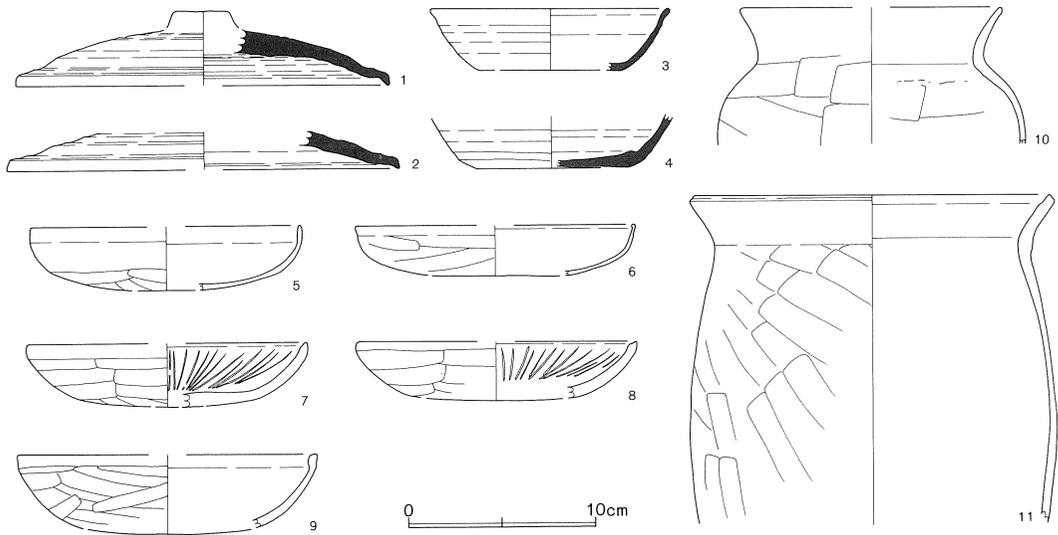


第81号住居跡カマド

- A 褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(5mm)多く含む。しまりあり。
- B 褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(5mm)若干含む。しまりあり。
- C 黄褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(5~10mm)多く含む。しまりあり。
- D 灰色土 灰層。焼土・炭化物粒子多く含む。しまり弱。
- E 黒褐色土 炭化物主体。灰、焼土粒子多く含む。
- F 黒褐色土 炭化物、焼土粒子多量含む。
- G 黒褐色土

0 2m

第431図 第81号住居跡



第432図 第81号住居跡出土遺物

第81号住居跡（第432図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(20.0)	W	灰	20	つまみ部分欠損
2	蓋	口(21.0)	W	灰	10	
3	坏	口12.8	W少+針	灰	40	回転糸切り離し
4	坏	底(8.0)	R+W	橙	底部 25	回転糸切り離し 酸化焰焼成
5	坏	口(14.4)	B+R+W+W'	橙～にふい黄橙	40	風化
6	皿	口(15.0)	B+W少+W' 少	橙	20	風化
7	坏	口15.0	B+R+W	橙	25	口縁端部ヘラアテ 放射状暗文
8	皿	口(15.0)	B+R多+W+W'	橙	30	放射状暗文
9	坏	口(16.0)	B+W+W'	橙	20	口縁端部ヘラアテ
10	甗	口(14.0) 胴16.2	B+W+W'	橙～にふい赤褐	口縁 10	
11	甗	口19.0	B多+R多+W+砂少+礫少	橙	30	

跡と重複し、新旧関係は第82号住居跡よりも新しく、第3号掘立柱建物跡よりも古い。平面形態は台形を呈し、覆土は暗褐色土である。炭化物・焼土粒子、砂粒、黄褐色土ブロックを少量含み、しまり・粘性は弱い。規模は主軸辺3.80～4.39m・南北4.12m、深さ0.04～0.08mを測り、主軸方位をN-87°-Eに向けている。壁溝は廻っていない。カマドは東壁に構築され、全長0.72m、焚き口幅0.65mを測る。燃焼部が壁外に掘り込まれ、鶏卵形を呈している。袖部は確認されていない。火床面は摺り鉢状に窪み、炭化物・焼土粒子が堆積している。貯蔵穴は検出されていない。ピット

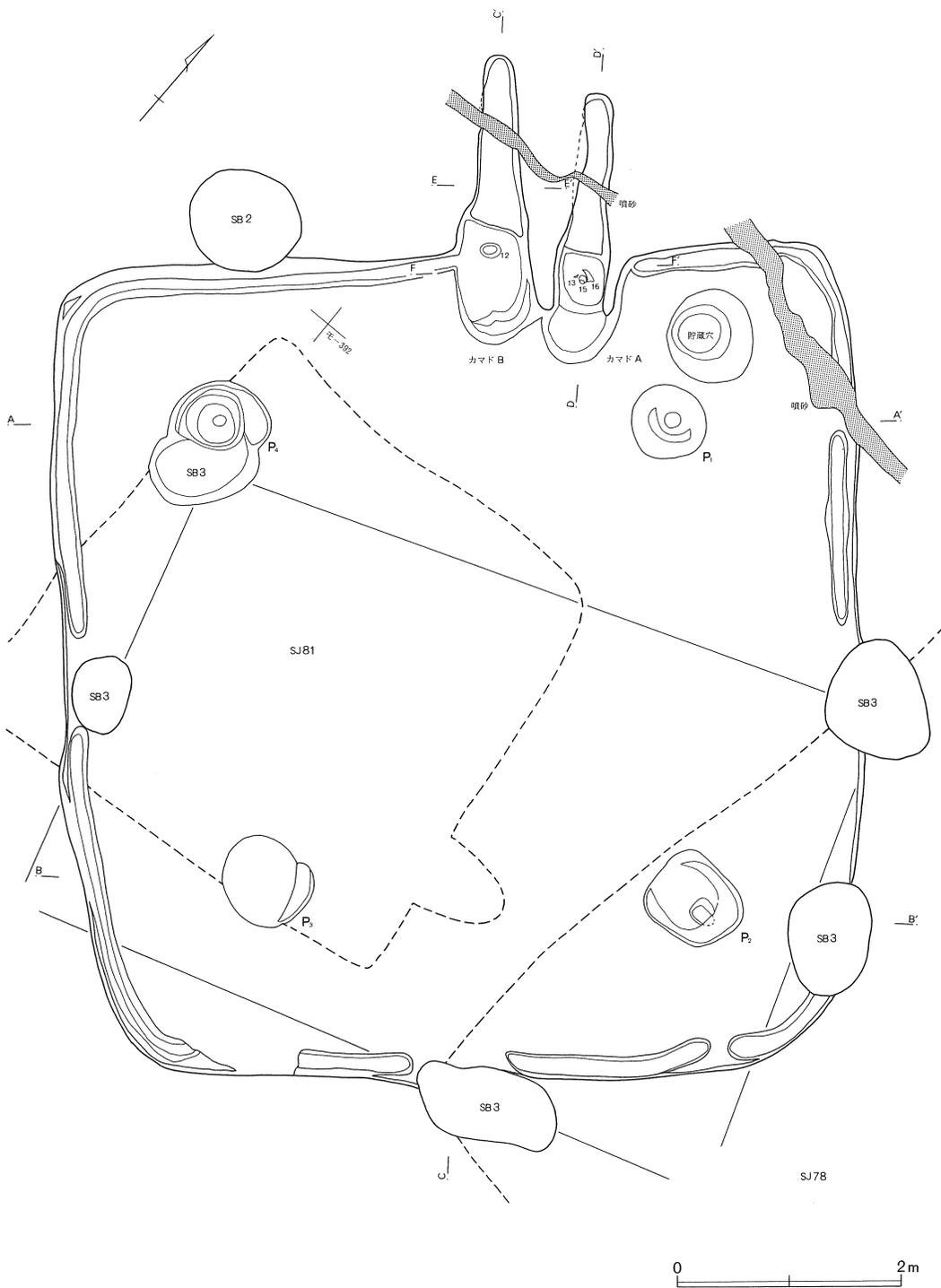
は8基検出され、柱穴は各コーナー部近くに掘り込まれている。なかでもカマドの前面にカマド幅の間隔でピットが存在している点は興味深い。遺物は少ない。

### 第82号住居跡 (第433図)

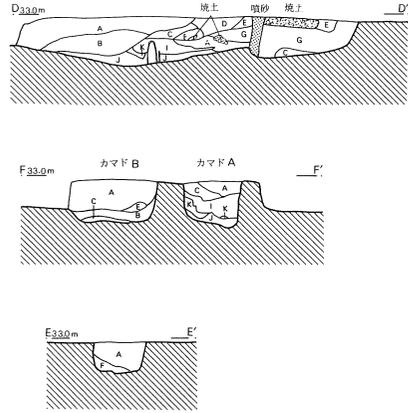
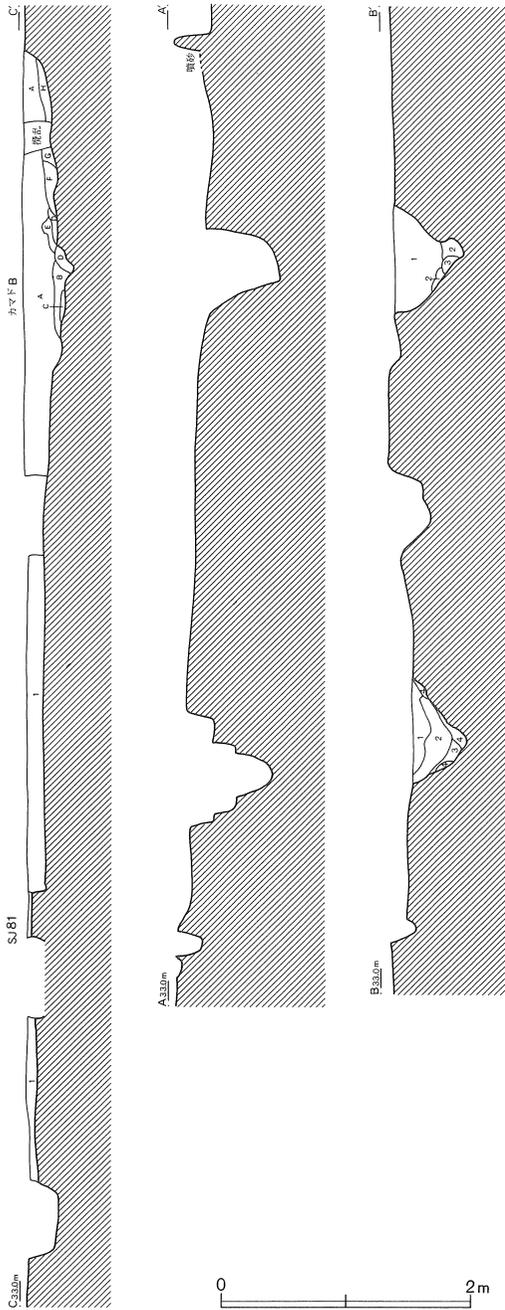
エー391、ヒー390・391・392、モー390・391・392Gridに位置し、北コーナー部からカマドにかけて噴砂の亀裂が東西方向に走っている。この影響によって、床面が噴砂の亀裂に向かってなだらかに傾斜している。第81・84・98号住居跡、第2・3号掘立柱建物跡、第3号溝と重複している。新旧関係は第84・98号住居跡よりも新しく、第81号住居跡、第2・3号掘立柱建物跡よりも古い。第3号溝との新旧関係は明確ではない。規模は主軸辺7.31m・短辺7.12m、深さ0.03~0.23mで、主軸方位はN-41°-Wを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、幅0.18~0.22m、深さ0.09~0.14mの壁溝が途切れながらもほぼ全周している。カマドは北西壁に2基並んで構築されている。東側に位置しているのがカマドAで、煙道部先端の天井が残存し、焼土化している。煙道部底面には噴砂の亀裂によって段差が生じている。全長2.42m、焚き口幅0.45mを測る。袖部は地山が掘り残され、燃烧部で若干すぼまっている。火床面は窪みを持ち、炭化物が堆積している。西側に位置しているカマドBは燃烧部が壁外に掘り込まれ、袖部は確認されていない。全長2.58m、焚き口幅

### 第82号住居跡 (第434図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.4 高4.2	B+R+W	橙	95	外面黒色
2	坏	口(11.8)	B+R+W少+W'少	浅黄橙	45	
3	坏	口(14.0)	B+W+W'	橙	25	
4	坏	口(16.0)	R+W+W'	橙	15	
5	坏	口(12.0)	B+R+W+W'	橙~黒褐	10	
6	坏	口(18.0)	B+R+W	橙~褐灰	40	
7	壺	口12.8	B+R少+W	褐灰	口縁 80	内外面黒色
8	甗	口(20.0)	B+W多	橙	口縁 35	
9	甗	口(19.6)	B+R+W	黄橙	口縁 75	口縁部内面に黒色部分
10	甗	口(20.0)	B+W多	橙	口縁 10	
11	甗	口16.8 底4.6 高26.8	B+R+W+砂少	(内)にふい赤褐 (外)橙	50	底部ケズリ 外面に黒色部分残
12	甗	底(9.0)	B+R+W	浅黄橙	底部 20	カマドB。風化が著しい
13	支脚	上端6.0	B+R+W	にふい黄橙	20	カマド。
14	支脚	上端5.5	B+R+W	にふい黄橙	25	
15	支脚	上端2.2 下端8.8 高19.1	B多+R+W+W'	(内)橙 (外)黄橙	100	カマド。外面にカマド二次焼成による粘土付着
16	支脚	上端2.5	B多+R+W+W'	にふい橙	40	カマド。カマド二次焼成による粘土付着



第433図



第82号住居跡カマドA

- A 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土多量含む。
- B 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土少量含む。
- C 褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土わずかに含む。
- D 褐色土 焼土粒子多く、炭化物粒子少量含む。赤味帯びる。
- E 褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)多く、炭化物粒子少量含む。
- F 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。黄褐色土多量混入。
- G 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子多く含む。
- H 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。灰混入。
- I 黄褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(10mm)少量含む。褐色土混入。
- J 黒褐色土 炭化物層。焼土・炭化物粒子多く含む。軟質。
- K 黒褐色土 炭化物層。焼土ブロック堆積。
- L 黄褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック少量含む。砂質。

第82号住居跡カマドB

- A 褐色土 焼土粒子・焼土ブロック(10~20mm)、炭化物粒子少量、黄褐色土多量含む。
- B 黄褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)多く、炭化物粒子少量、暗褐色土多く含む。
- C 黄褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)多量、炭化物粒子少量含む。
- D 灰色土 灰層。焼土・炭化物粒子少量含む。
- E 橙色土 焼土ブロック堆積層。炭化物粒子、灰少量含む。
- F 褐色土 焼土・炭化物粒子、焼土ブロック(5~20mm)多量含む。灰ブロック状。
- G 灰色土 焼土粒子少量、白色砂粒子含む。攪乱影響。
- H 褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)多量、炭化物粒子わずかに、灰少量含む。

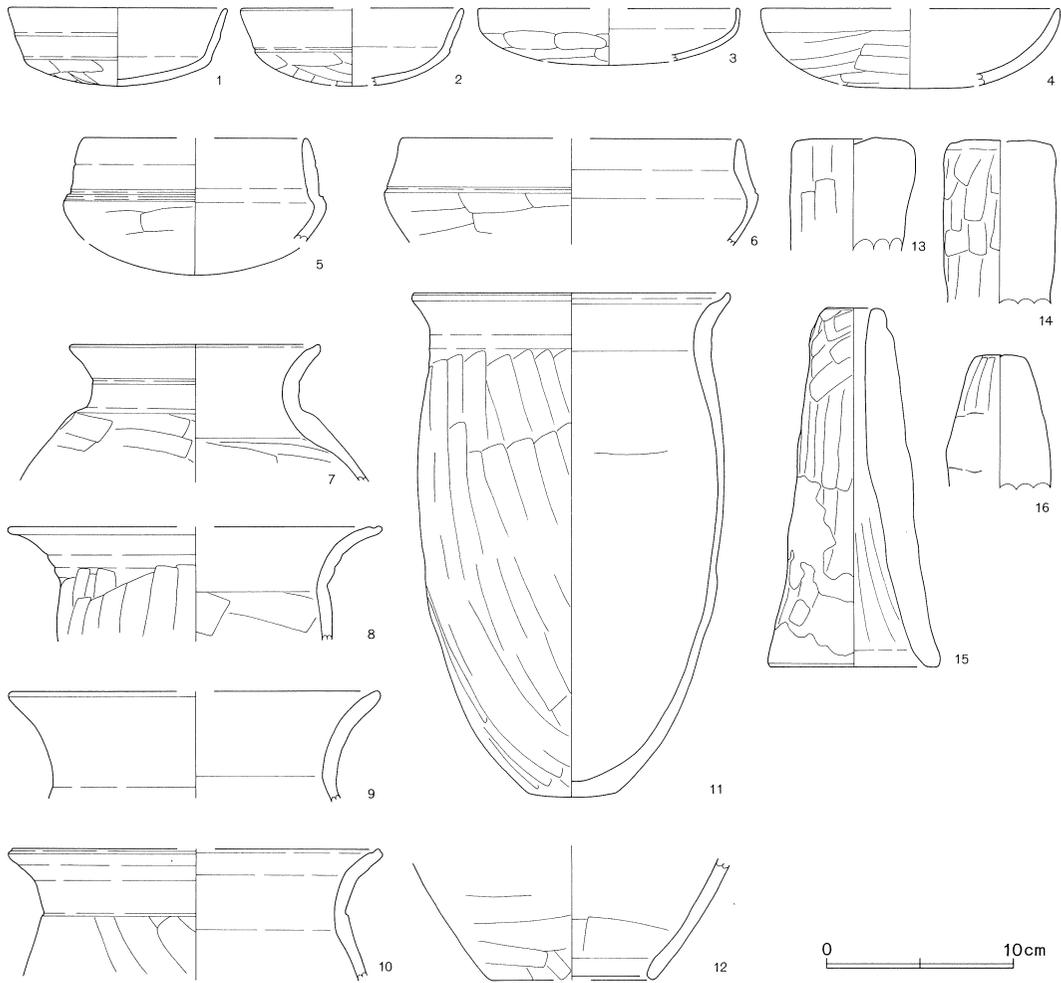
第82号住居跡ビット2

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土多く含む。
- 2 黒褐色土 焼土・炭化物粒子多く、焼土ブロック少量含む。
- 3 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、焼土ブロック含む。

第82号住居跡ビット3

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック多く含む。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物粒子多量、黄褐色土ブロック少量含む。
- 4 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。

第82号住居跡

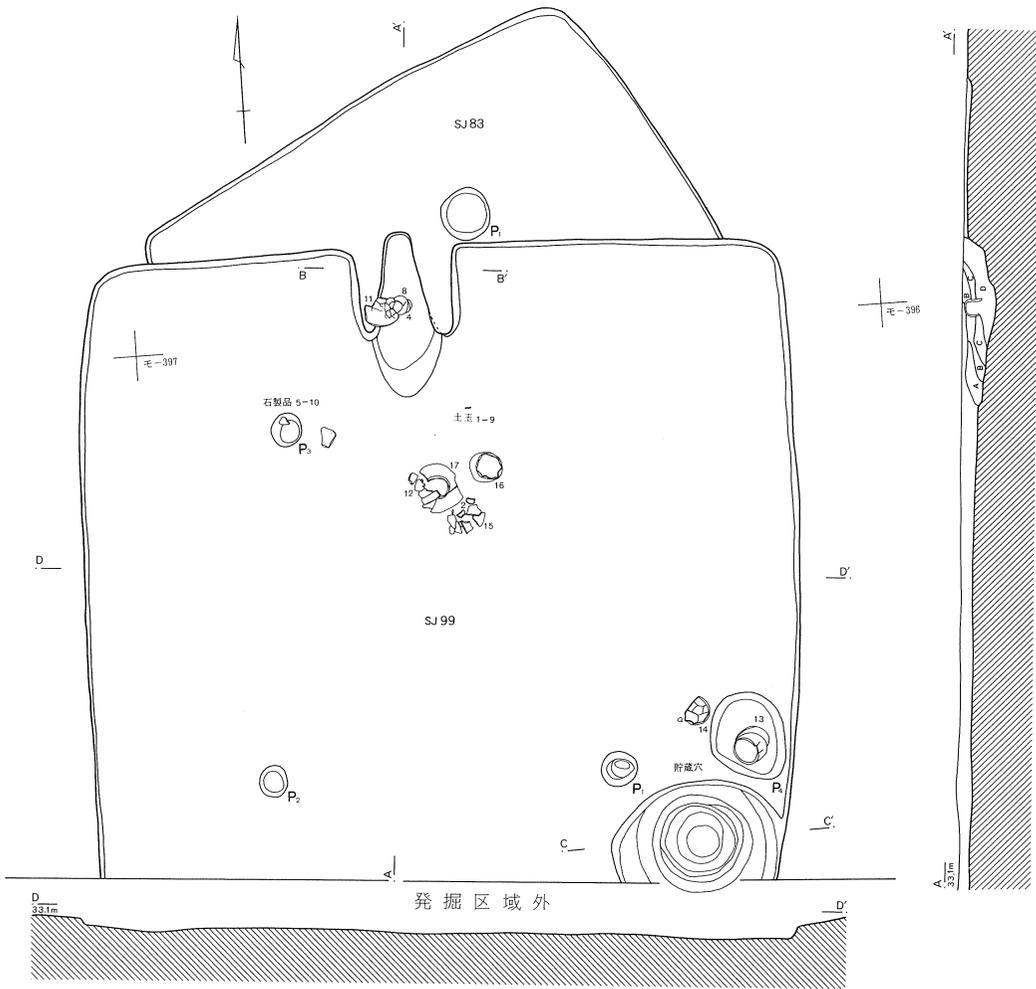


第434図 第82号住居跡出土遺物

0.58mを測る。火床面中央部はピット状に掘り込まれ、灰が溜っている。2基のカマドの内、地山が掘り残されている袖部をもつことからカマドAが住居跡構築時のもので、カマドBは新たに設置されたものと考えられる。一方の袖部は共有し、他方は燃焼部をより外方に掘り込んでいる。そのため燃焼部は歪な形態を呈している。貯蔵穴はカマド東側の北コーナー部に設置されている。南北0.82m・東西0.76m、深さ0.43mを測る円形である。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。遺物は比較的少なく、土錘1点、釘2点のほかに、縄文土器6片が出土している。

#### 第83・99号住居跡 (第435図)

ヒー396・397、モー396・397Gridに位置し、土取りによる削平のため残存状態はよくない。新旧関係は第83号住居跡が第99号住居跡よりも古い。



第83号住居跡

1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量混入。粘性やや弱。

第99号住居跡

1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量混入。粘性やや弱。

第99号住居跡貯蔵穴

1 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子少量含む。しまりあり。

2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子少量含む。しまりあり。黄褐色土ブロックが部分的に集中。

3 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子多く、黄褐色土ブロックわずかに含む。しまりあり。

4 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子わずかに、黄褐色土ブロック状に多く含む。しまりあり。

5 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子多く、黄褐色土粒子わずかに含む。しまりあり。

6 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。

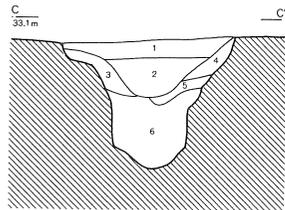
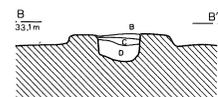
第99号住居跡カマド

A 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物粒子少量含む。しまり・粘性やや弱。

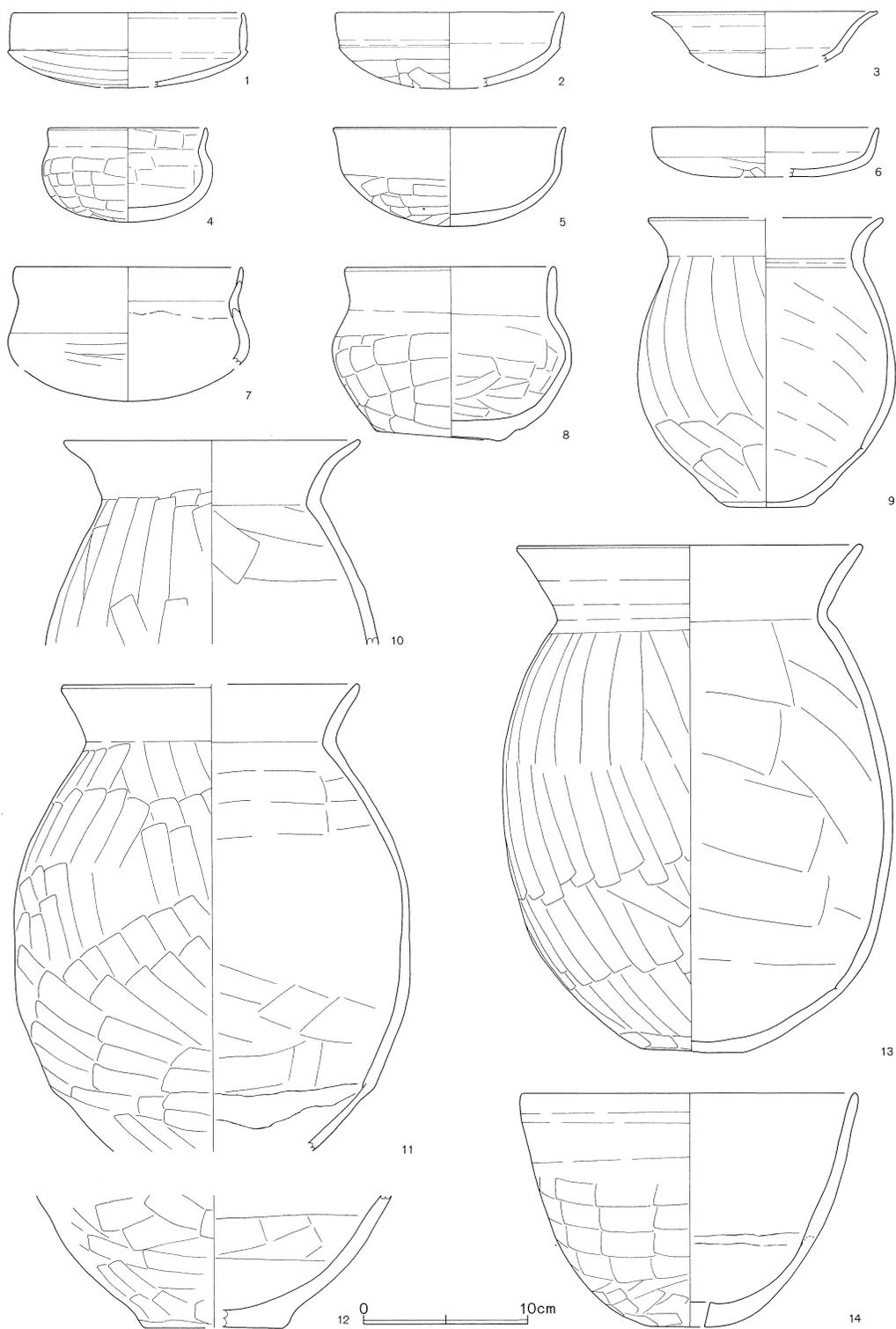
B 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物粒子少量含む。

C 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。

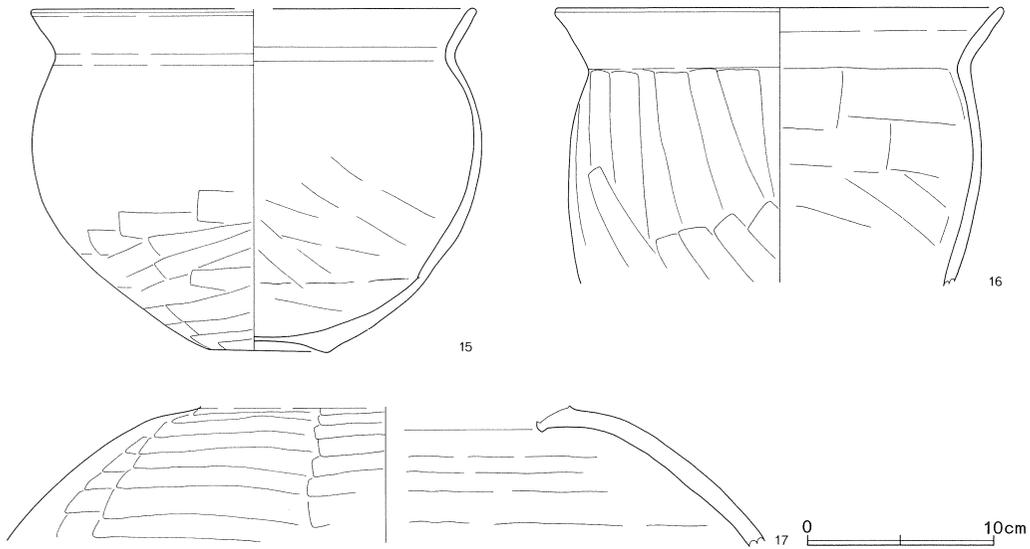
D 暗黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。



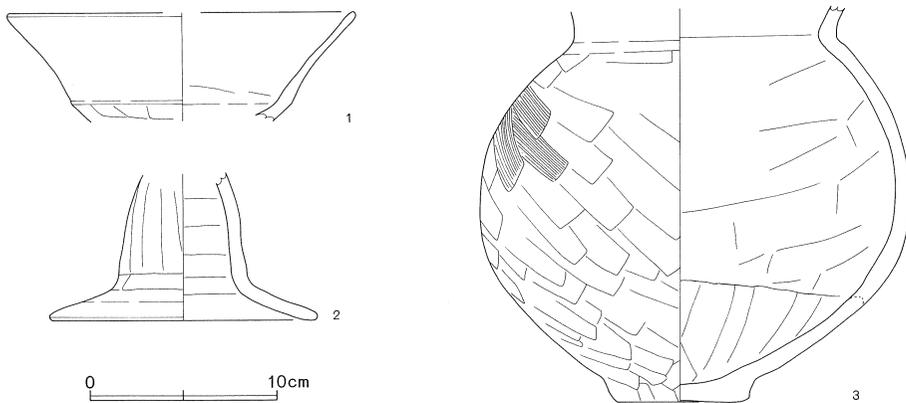
第435図 第83・99号住居跡



第436图 第99号住居跡出土遺物(1),



第437図 第99号住居跡出土遺物(2)



第438図 第83号住居跡出土遺物

第83号住居跡は一辺が4 m前後で、深さは0.02~0.04mを測る。ピットが1基検出されているのみで、カマド・貯蔵穴・壁溝等の施設は確認されていない。出土遺物も少ない。

第99号住居跡の南側は発掘区域外にかかり、規模は東西5.75m、深さ0.08~0.09mで、主軸方位はN-3°-Eを測る。壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築され、全長1.32m、焚き口幅0.55mの規模をもつ。袖部は地山を掘り残し、「ハ」の字に開いている。火床面は緩やかな窪みをもっているが、中央部だけはやや深い。貯蔵穴は南東コーナー部に設置され、東壁に接している。南端は発掘区域外にかかり、東西1.40m、深さ1.01mを測る。ピットは4基の内、3基が柱穴である。遺物はカマドおよび貯蔵穴周辺部から出土し、土師器のほかに石錘1点、土錘1点、土玉1点、縄文土器1片がある。

第83号住居跡 (第438図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	高坏	口(18.4)	B+R多+W	赤褐	坏部 30	内外面に黒色部分
2	高坏	脚14.0	B+R+W 量少し	にふい赤褐	脚部 60	内外面に黒色部分
3	甕	底6.7 胴22.2	B+R+W+砂少	(内)にふい橙(外)黒褐~にふい橙	70	胴部外面下半黒色

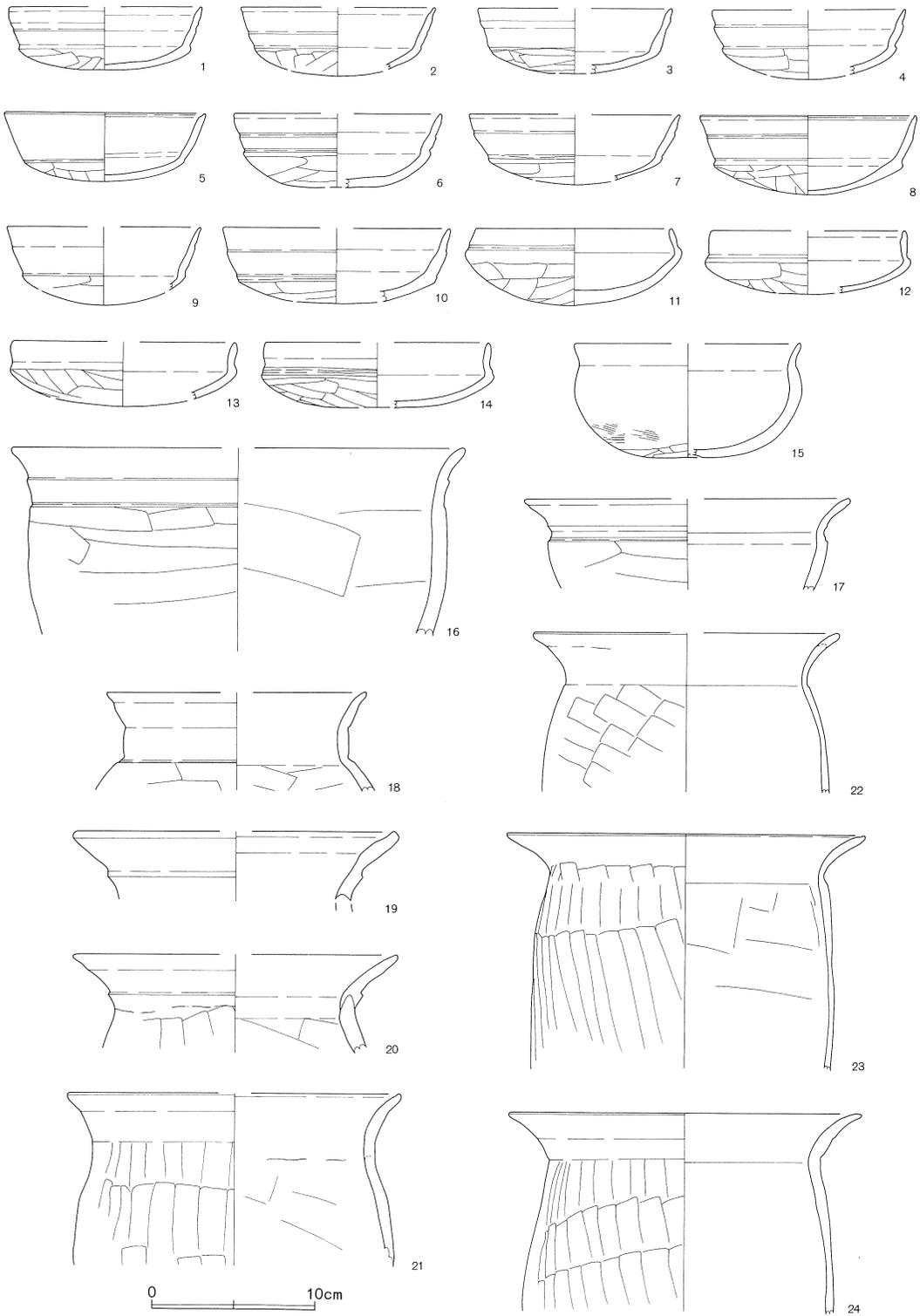
第99号住居跡 (第436・437図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(14.0)	B+R多+W	(内)浅黄橙(外)橙	30	
2	坏	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	20	No.6.
3	坏	口(13.8)	B+W+W'	浅黄橙~褐灰	口縁 10	口縁端部ヘラアテ 風化が著しく調整不明瞭
4	椀	口9.4 高5.7 胴10.3	B+R+W	(内)暗赤褐(外)赤褐~にふい赤褐	100	No.10. 胴部内面に黒色の付着物
5	坏	口14.0 高6.0	B+R+W	明赤褐	90	
6	坏	口(13.8)	B+R+W	橙	10	
7	椀	口(14.0)	B+R+W+W'	橙~にふい橙	上半部 20	
8	鉢	口12.6 底7.6 高10.3 胴14.4	B+R+W+砂多	(内)にふい赤褐(外)にふい橙	100	No.11. 底部ケズリ
9	小型甕	口(14.0) 底4.8 高17.6 胴16.3	B+R+W+砂多+礫多	にふい橙	40	
10	甕	口(18.0)	B+W+W' 多	にふい橙	上半部 20	胴部内面の風化が著しく、器面は剥離
11	甕	口(18.0) 胴24.0	B+R+W+砂少+礫少	(内)にふい褐(外)にふい褐~褐	40	No.12. 胴部外面中位に黒色の帯が廻る
12	甕	底(8.4)	B+R+W+砂少+礫少	にふい橙	底部 25	No.4. 底部ケズリ
13	甕	口20.8 底6.2 高30.6 胴23.6	B+R多+W+砂少+礫少	(内)にふい橙(外)褐灰~にふい橙	95	No.9. 胴部外面下位黒色
14	甕	口20.0 高14.2	B+R多+W	(内)赤褐~明赤褐(外)明赤褐	60	No.8.
15	大型鉢	口(23.6) 底6.3 高18.2 胴24.0	B+R多+W	(内)にふい赤褐(外)明赤褐	70	No.7. 底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
16	甕	口23.8	B+R+W+砂少	(内)にふい橙~黒(外)にふい橙~褐	60	No.5. 口縁部に黒色部分
17	大型壺		B+R+W+砂少+礫少	にふい赤褐~明赤褐	15	No.4. 外面に黒色部分

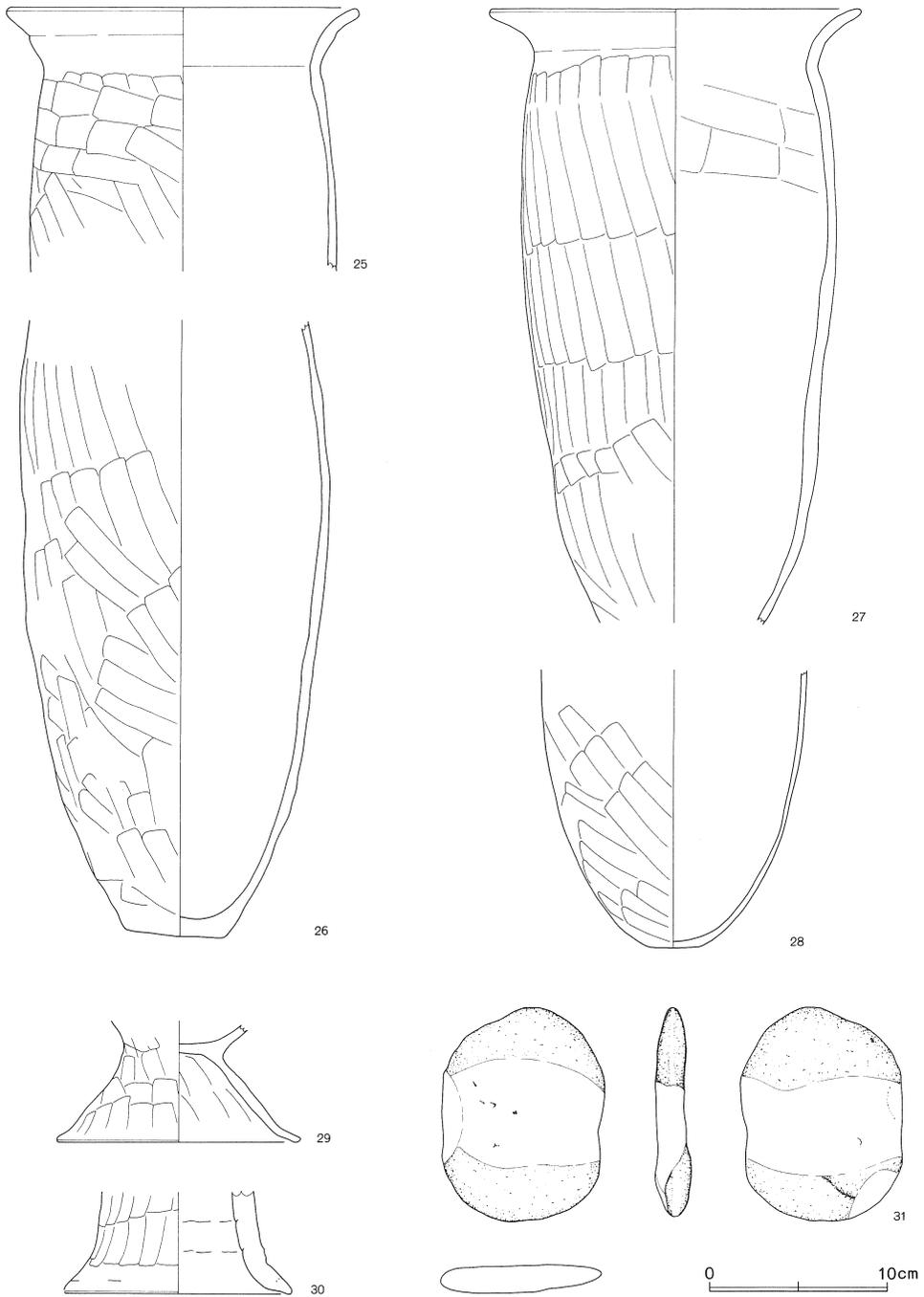
第84号住居跡 (第439図)

モ—390・391、セ—389・390・391Grid に位置している。噴砂の亀裂によって、床面には段差が生じている。第72・82・85・86・98号住居跡と重複している。新旧関係は第85・86号住居跡、第98号住居跡よりも新しく、第72・82号住居跡よりも古い。大型の住居跡であり、主軸辺9.12m・短辺7.97m、深さ0.18~0.29mの規模を測る。主軸方位を N—3°—E に向いている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.08~0.21m、深さ0.04~0.06mの壁溝が北東コーナー部と西壁中央部に確認され





第440图 第84号住居跡出土遺物(1)



第441図 第84号住居跡出土遺物(2)

ている。カマドは北壁に構築され、重複および噴砂の影響によって煙道部は明確ではない。袖部は地山を掘り残し、さらに外側に甕形土器（東側3個体、西側1個体）を倒立させて補強している。

第84号住居跡 (第440・441区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.0) 高3.9	B+R+W+W'	橙～浅黄橙	20	橙・浅黄橙土のマーブル状胎土
2	坏	口(12.0)	B+R少+W少+W'	にふい橙	10	口縁端部弱いヘラアテ
3	坏	口(12.0) 高(4.0)	B+R少+W+W'	にふい黄橙～黒褐	40	
4	坏	口(12.0)	B+W+W'	にふい黄橙	40	風化により調整不明瞭
5	坏	口12.2 高4.2	B+R+W	黄橙	90	No.12。
6	坏	口(22.8) 高(4.5)	B+R+W+W'	橙	40	No.25。
7	坏	口(13.0)	B+R+W+W'	橙	10	
8	坏	口13.2 高4.8	B多+R+W	(内)橙 (外)橙～黄橙	100	No.22。口縁端部沈線
9	坏	口(12.0)	W+W'+砂	橙	口縁 15	
10	坏	口(14.0)	B+R+W	灰白	10	内面は風化が著しく調整不明
11	坏	口12.0 高4.7	B+R+W+W'	(内)黒 (外)にふい褐	95	No.23。内面黒色
12	坏	口(12.0)	B+R+W+W'	橙	30	口縁端部ヘラアテ
13	坏	口(14.0)	B+R+W少	浅黄橙	20	
14	坏	口(14.0) 高(4.0)	W	にふい黄橙～黒褐	30	
15	碗	口(14.0) 高(7.0)	R多+W	橙	30	内面の風化が著しい
16	鉢	口(28.0)	B+R多+W+W'	橙	口縁 20	No.13。
17	鉢	口(20.0)	B+R+W+W'	浅黄橙	10	
18	甕	口(16.0)	B+R多+W+W'	浅黄橙	口縁 20	
19	壺	口(20.0)	B+R+W多	橙	口縁 25	風化が著しい
20	甕	口(20.0)	B+R+W少	橙	口縁 15	
21	甕	口(20.2)	B多+R+W+礫少	(内)橙 (外)にふい赤褐	口縁部 40	No.6。
22	甕	口18.6	B多+R+W	浅黄橙	口縁部 50	
23	甕	口21.8	B+R少+W+砂少	にふい褐	40	内外面に黒色部分
24	甕	口21.4	B多+R+W+砂多	明黄褐	35	No.1。口縁部内面に黒色部分
25	甕	口15.4	B多+R+W+砂少	(内)にふい黄橙 (外)橙～にふい黄橙	25	No.3。
26	甕	底5.5	B多+R+W多+砂少	(内)にふい褐 (外)橙～にふい橙	65	No.2・4。内外面に黒色部分
27	甕	口20.6	B多+R+W多+礫少	橙	70	No.5。胴部外面黒色
28	甕	底2.8	B多+W+砂多	(内)黒褐 (外)にふい黄褐	30	No.26。底部ケズリ 内外面黒色
29	台付鉢	台13.4	B+R+W	にふい黄橙	脚部 80	No.27。内外面に黒色部分
30	支脚	下端12.6	B+R+W+礫少	黄橙	20	No.11。

「ハ」の字に開き、焚き口幅は0.27mを測る。燃烧部から、石製子持勺玉が出土している。また石製白玉6点の内、4点がカマド周辺から検出されている。このことからカマドに関連した祭祀行為が行なわれていた可能性が高い。ピットは2基検出され、いずれも柱穴である。貯蔵穴は確認されていない。南西コーナー部南壁際には粘土が堆積している。用途・性格等は明確ではない。遺物はカマドおよび粘土堆積部から出土し、土錘1点、刀子1点、不明鉄製品1点、磨石1点(9.1×11.7×2.0cm・250g)、編物石6点のほか、打製石斧3点、凹石1点、須恵器4片、縄文土器9片がある。

#### 第85号住居跡 (第442図)

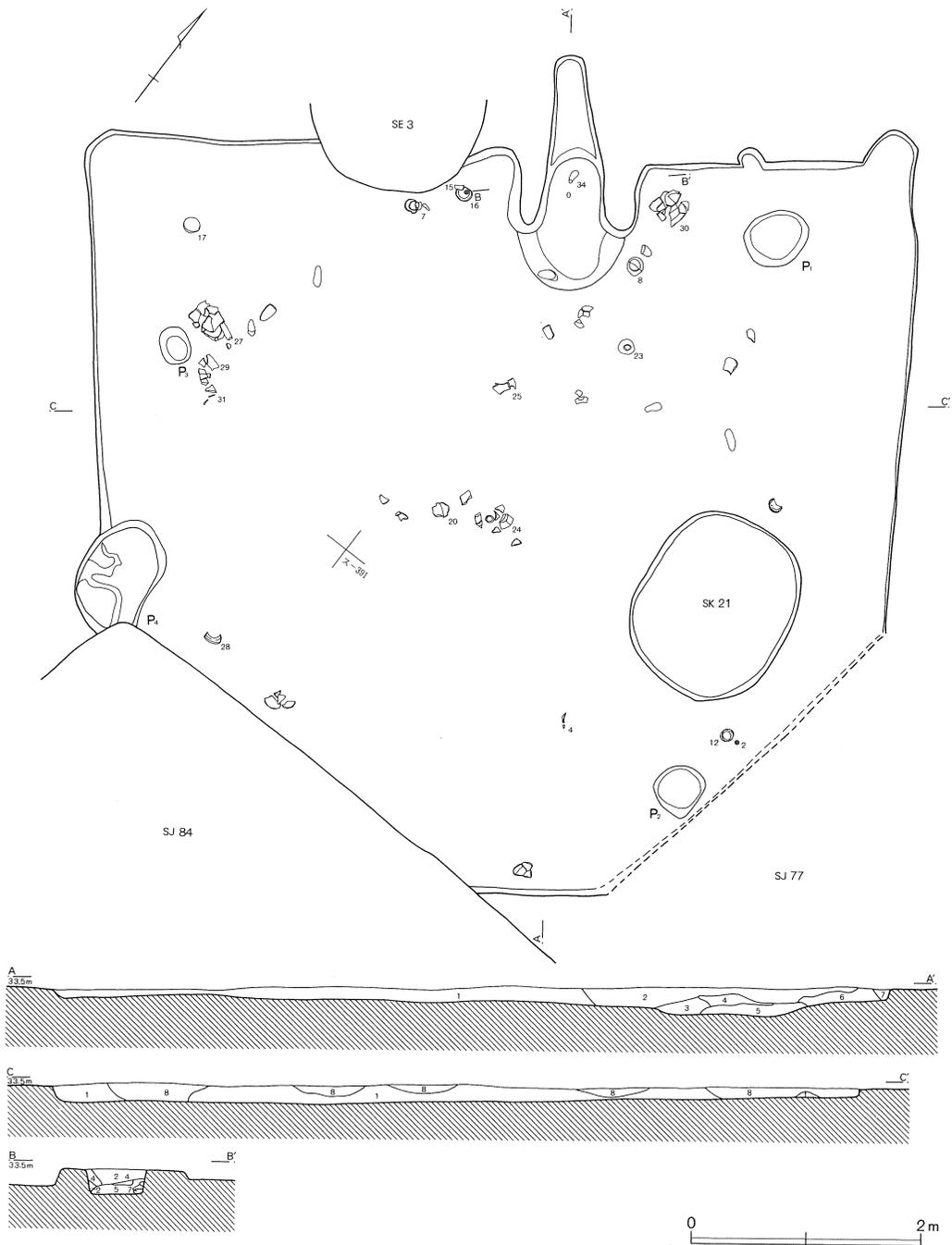
セー390・391、スー390・391Gridに位置している。第77・84・86号住居跡、第3号井戸跡、第21号土坑と重複し、新旧関係は第86号住居跡よりも新しく、第77・84号住居跡、第3号井戸跡よりも古い。第21号土坑との新旧関係は明らかではない。規模は主軸辺6.45m・長辺7.05m、深さ0.06～0.14mで、主軸方位はN-37°-Wを測る。土取りによる削平を受けているため浅く、壁溝は廻っていない。カマドは北壁に構築され、全長2.04m、焚き口幅0.73mの規模である。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は鶏卵形を呈している。摺り鉢状に掘り窪められ、火床面には焼土・炭化物・灰が堆積している。貯蔵穴はみられず、ピットは4基確認されている。遺物はカマド周辺部および中央部から出土し、白玉1点、編物石11点も検出されている。脚部が「ハ」の字に開いている大型の高坏形土器は特異な形態である。また酸化焰焼成で、須恵質の壺形土器の存在は注目される。

#### 第86号住居跡 (第445図)

セー391、スー391Gridに位置し、重複している第84・85号住居跡よりも古い。一辺5m前後の規模と推定され、削平によって、深さは0.12～0.14mと浅い。主軸方位はN-66°-Wを測る。壁溝は廻っていない。カマドが西壁に構築されている数少ない例である。煙道部先端が攪乱され、焚き口幅0.20mを測る。袖部は確認されていない。燃烧部は鶏卵形を呈し、火床面はよく焼けている。貯蔵穴は認められず、ピットは1基のみ検出されている。遺物はカマドを囲むように出土している。土師器のほかに、不明鉄製品1点、縄文土器1片がある。

#### 第87号住居跡 (第447図)

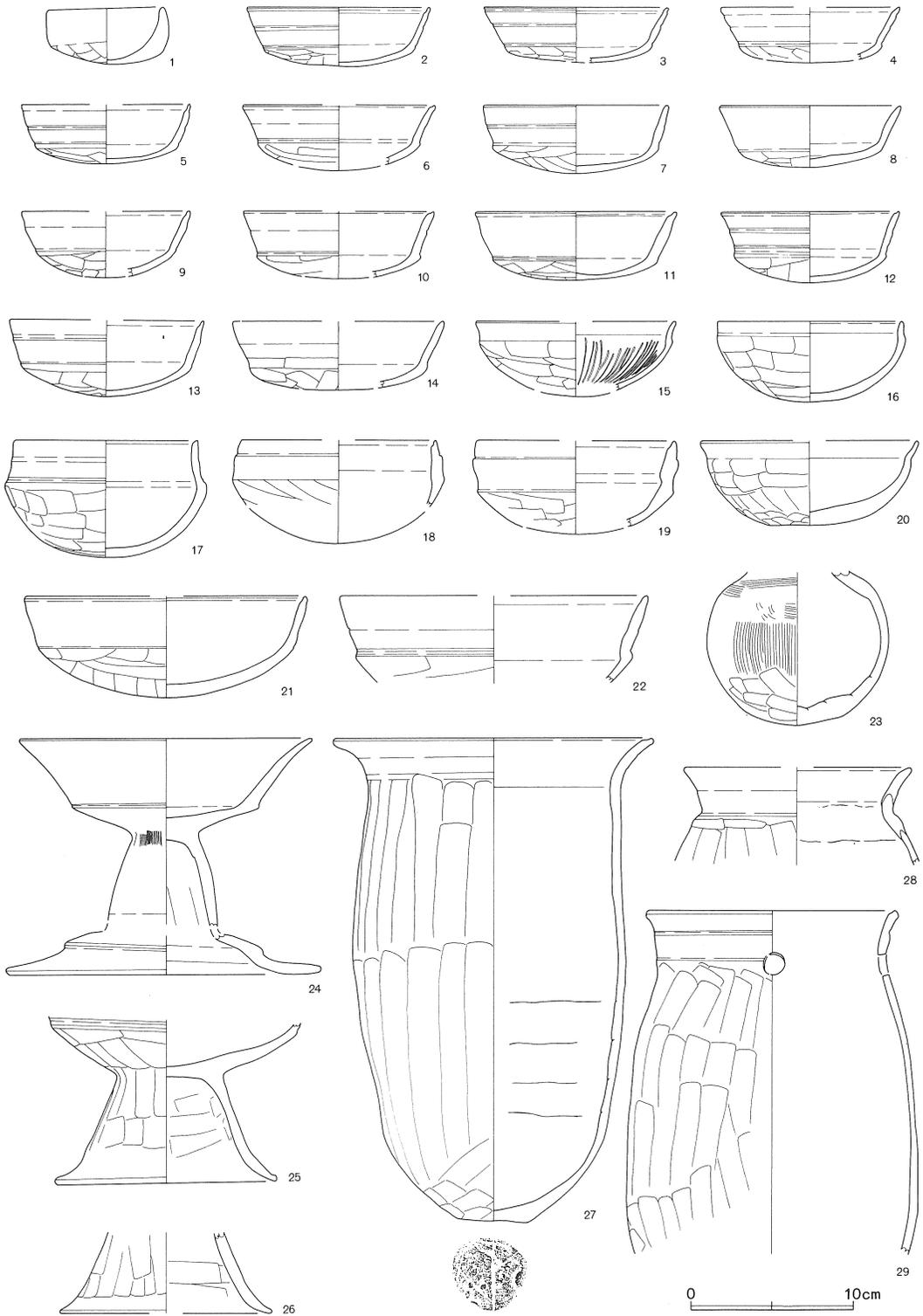
スー391、ンー390・391Gridに位置している。第3号井戸跡と重複し、新旧関係は古い。規模は主軸辺5.01m・長辺5.25m、深さ0.10～0.18mで、主軸方位はN-33°-Eを測る。壁はほぼ垂直



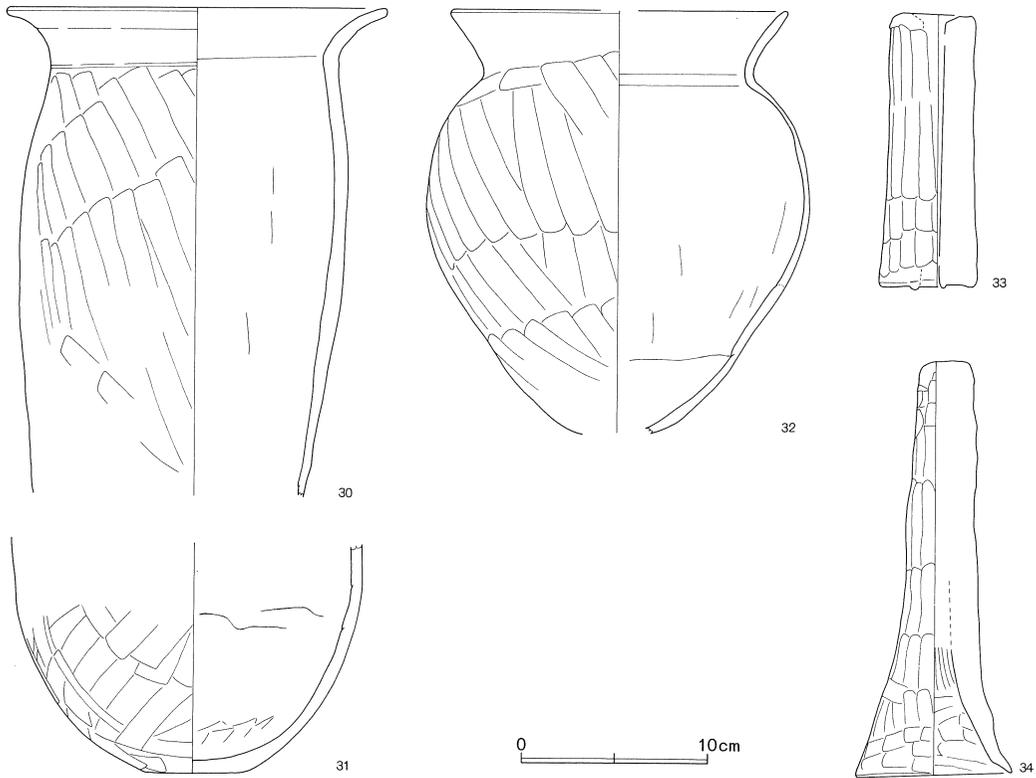
第85号住居跡

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土・白色土粒子多く含む。しまりあり。</p> <p>2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子少量含む。しまりあり。</p> <p>3 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子多く、灰わずかに含む。しまりあり。</p> <p>4 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子多く、灰少量含む。しまりあり。</p> | <p>5 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子、灰多量含む。やや軟質。</p> <p>6 黄褐色土 焼土粒子・ブロック(4~10mm)、炭化物粒子多量、灰わずかに含む。しまりあり。</p> <p>7 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。</p> <p>8 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。</p> |
|--|---|

第442図 第85号住居跡



第443图 第85号住居跡出土遺物(1)



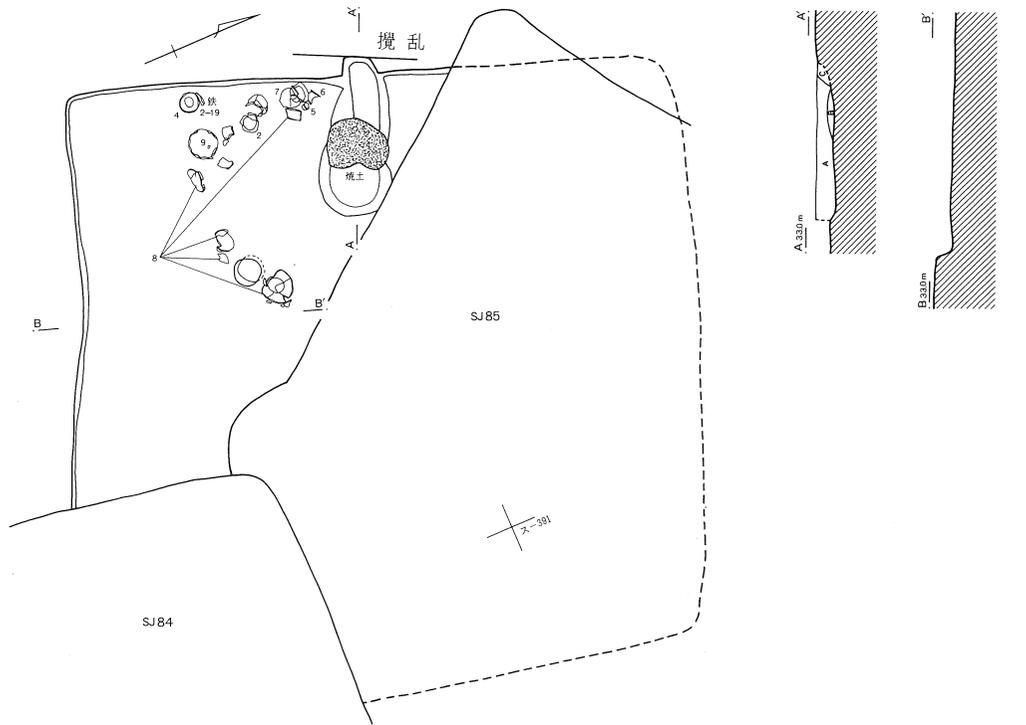
第444図 第85号住居跡出土遺物(2)

第85号住居跡(第443・444図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏(ミニチュア)	口7.1 高3.4	B+R+W	橙	75	外面に黒色部分
2	坏	口11.2 高3.6	B+R少+W少	橙	100	No.23。外面全体黒色
3	坏	口11.3 高(3.4)	B+R+W	橙	50	内外面に黒色部分
4	坏	口(11.0)	B+W	橙	口縁 40	No.18。
5	坏	口(10.4) 高3.6	B+W	橙~にふい橙	25	口縁端部ヘラアテ
6	坏	口(11.8)	B+R+W	赤褐	40	内外面に黒色部分
7	坏	口11.3 高4.2	B多+R少+W	浅黄橙	80	No.9。風化
8	坏	口11.1 高3.8	B+R+W	(内)橙~にふい赤褐 (外)橙	100	No.2。内外面黒色
9	坏	口(10.4)	B+R多+W	橙	40	口縁端部ヘラアテ
10	坏	口(11.8)	B+R少+W少	橙~黒	40	カマド。口縁端部ヘラアテ沈線
11	坏	口12.3 高4.2	B+R少+W少	浅黄橙	90	口唇部沈線 内外面黒色 風化
12	坏	口10.9 高4.3	B+R+W	(内)橙~にふい橙 (外)にふい橙~橙	100	No.17。口縁端面トリ 内外面に黒色部分

13	环	口(12.0) 高4.7	B+R+W	橙～黒褐	15	口縁端部ヘラアテ沈線
14	环	口(13.0)	B多+W	灰白	20	カマド。内面風化
15	环	口(12.2)	B+R+W	にふい赤褐	35	No.8。放射状暗文
16	环	口11.3 高4.9	B多+R多+W	橙	95	No.8。外面に黒色部分
17	鉢	口11.2 高7.2	B+R+W	(内)黒褐 (外)にふい橙	100	No.10。内外面黒色
18	环	口(12.0)	B+W	灰白～にふい橙	30	口縁端部ヘラアテ沈線
19	环	口(12.0)	B+R少+W	灰白～灰黄褐	20	口縁端部ヘラアテ
20	环	口(13.3) 高5.2	B+R多+W	橙	70	No.15。
21	环	口(17.3) 高6.2	B+W少	暗赤褐～にふい橙	40	内外面に黒色部分
22	环	口(19.0)	B多+W	橙	口縁 15	
23	壺		B少+R少+W	赤褐～明赤褐	70	No.4。肩部に爪の圧痕 酸化焙焼成
24	高环	口17.9 脚19.1 高14.5	B+R多+W	坏部-(内)赤黒～明 赤褐 (外)明赤褐 脚部-明赤褐	70	No.16。坏部内面黒色
25	高环	脚13.3	B+R+W	橙	40	No.7。
26	高环	脚(13.0)	B+W+W'	橙～灰白	脚部 40	
27	甕	口19.5 底4.3 高29.5	B+R多+W	(内)赤 (外)橙～赤	80	No.11。胴部外面に黒色部分 底部木葉痕
28	甕	口(14.0)	B多+R+W	橙	口縁 40	No.21。肩部内面に粘土紐積み上げ痕明瞭
29	甕	口15.2 胴(18.0)	B+R+W	橙	30	No.12。外面に黒色部分 口縁部に穿孔
30	甕	口20.3	B+R+W	橙～にふい橙	60	No.1。
31	甕	底5.2	B+R+W	橙	30	No.12。底部ケズリ 胴部外面に黒色部分
32	甕	口(17.9) 胴(20.6)	B+R+W	(内)黒褐 (外)にふい黄橙	40	内面は全体に黒色
33	支脚	上端3.8 下端5.0 高14.5	B+R+W	橙	100	
34	支脚	上端2.0 下端8.3 高22.2	B+R+W	橙	100	No.22。外面に黒色部分

に立ち上がり、幅0.14～0.28m、深さ0.02～0.08mの壁溝が南東コーナー部を除いてほぼ全周している。カマドは北壁に構築され、全長0.81m、焚き口幅0.56mの規模をもつ。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は方形を呈している。煙道部は削平されているものと思われる、燃烧部に比べて幅が狭いタイプのものであろう。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置され、P1と接している。円形で、南北0.81m・東西0.71m、深さ0.43mを測る。ピットは4基検出され、すべて柱穴である。壁溝が廻っていない南西コーナー部には土坑状の落ち込みが認められている。用途・性格等は明確ではない。遺物はカマド周辺部から出土し、甕・甑形土器の煮沸形態がまとまっている。また南西コーナー部西壁際に、編物石35点が集中して検出されている。ほかには、須恵器16片、縄文土器4片がある。



第86号住居跡カマド

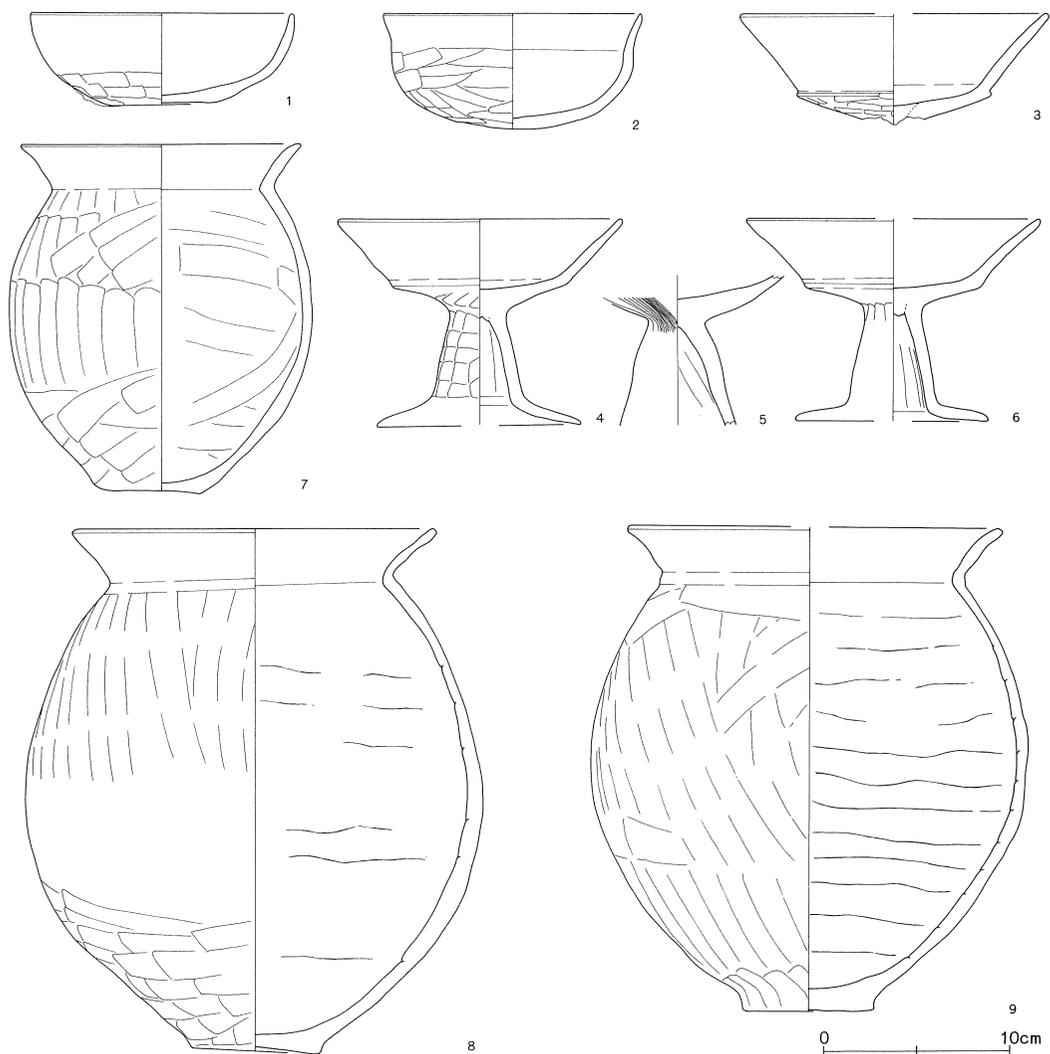
- A 黄褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子、褐色土多く含む。しまりあり。
- B 褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- C 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。



第445図 第86号住居跡

第86号住居跡 (第446図)

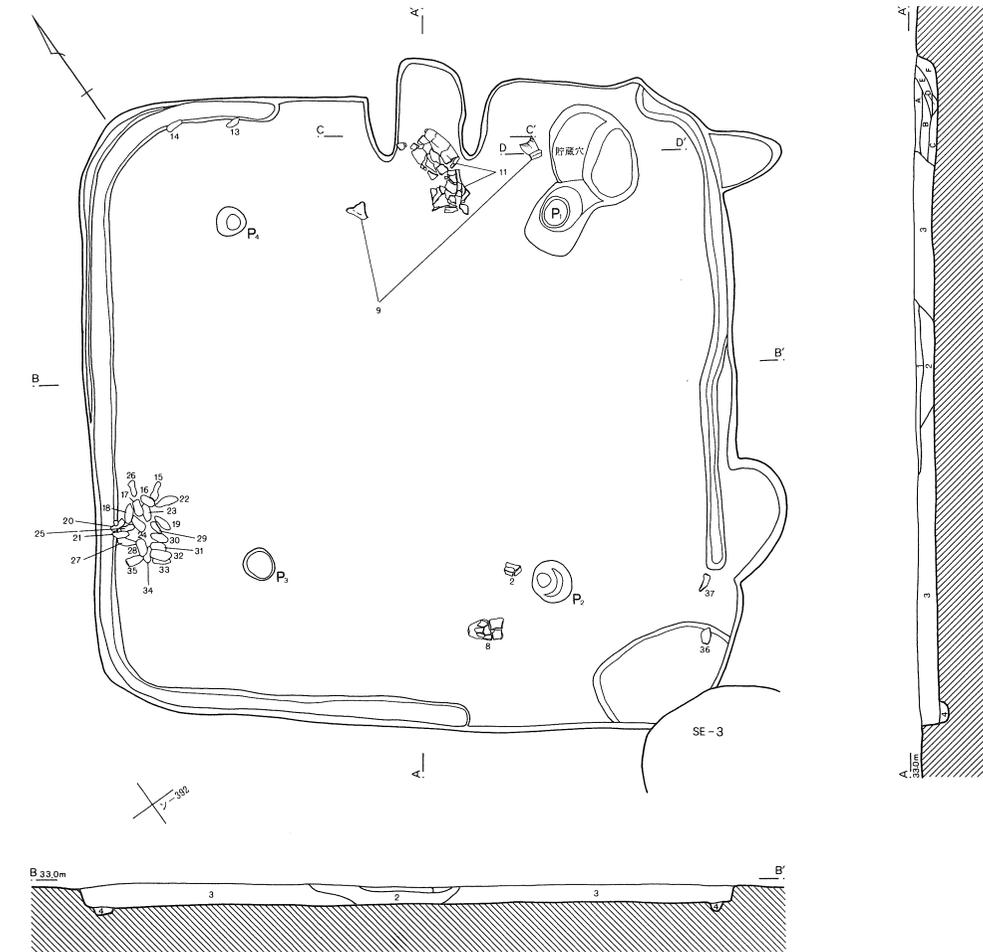
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口14.0 高4.8	B+R多+W	橙	70	外面にカマド二次焼成による粘土附着
2	鉢	口13.6 高6.2	B+R多+W少	橙	95	No.7。外面に黒色部分
3	高坏	口(16.2)	B+R多+W+W'	明赤褐	坏部 30	No.2。
4	高坏	口14.8 脚(10.8) 高11.0	B+R+W+W'	明赤褐	80	No.1。坏部外面に黒色部分
5	高坏		B+R+W+W'	明赤褐	30	No.11。内外面に黒色部分
6	高坏	口(15.4) 脚(10.0) 高10.8	B+R多+W+W'	明赤褐	45	No.12。
7	甕	口15.0 底5.4 高18.5 胴15.6	B+R+W+W'	にふい褐	95	No.9。内外面に黒色部分
8	甕	口19.0 底6.8 高27.8 胴23.6	B+R+W+砂少	にふい橙~褐	80	No.5・10・13・14・15。胴部外面下半黒色部分多 カマド二次焼成による粘土附着
9	甕	口(19.6) 底7.0 高26.0 胴22.8	B+R+W+砂少	(内)にふい褐 (外)にふい橙~赤褐	60	No.3。底部ケズリ 胴部外面上位に黒色部分が残、下位は熱を受けて赤く変色・剥離 粘土紐積み上げ痕



第446図 第86号住居跡出土遺物

第88号住居跡 (第450図)

ン—392・393、い—392・393Gridに位置している。規模は主軸辺4.93m・長辺4.97m、深さ0.28~0.36mで、主軸方位はN—4°—Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は南西コーナー部および北壁西半をのぞいて、ほぼ全周している。幅が0.12~0.32m、深さは0.04~0.08mである。カマドは北壁に構築され、全長1.14m、焚き口幅0.40mの規模である。袖部は地山を低く掘り残したものを基部としている。燃烧部は隅丸長方形で、立ち上がりは住居跡の壁と一致し、壁外には至っていない。火床面はよく焼け、灰が堆積している。煙道部は短い。支脚は基部が生焼けの状態、カマドで焼成した可能性がある。貯蔵穴は南東コーナー部に設置され、南北0.82m・東西0.90m、深さ1.53mを測る。方形を呈し、3段に掘り込まれている。ピットは7基検出され、P1



第87号住居跡

- 1 黒褐色土 炭化物多量含む。しまり・粘性弱。
- 2 黒褐色土 炭化物少量含む。1よりしまり・粘性ややあり。
- 3 褐色土 炭化物粒子微量含む。しまりややあり。
- 4 暗褐色土 壁溝覆土。

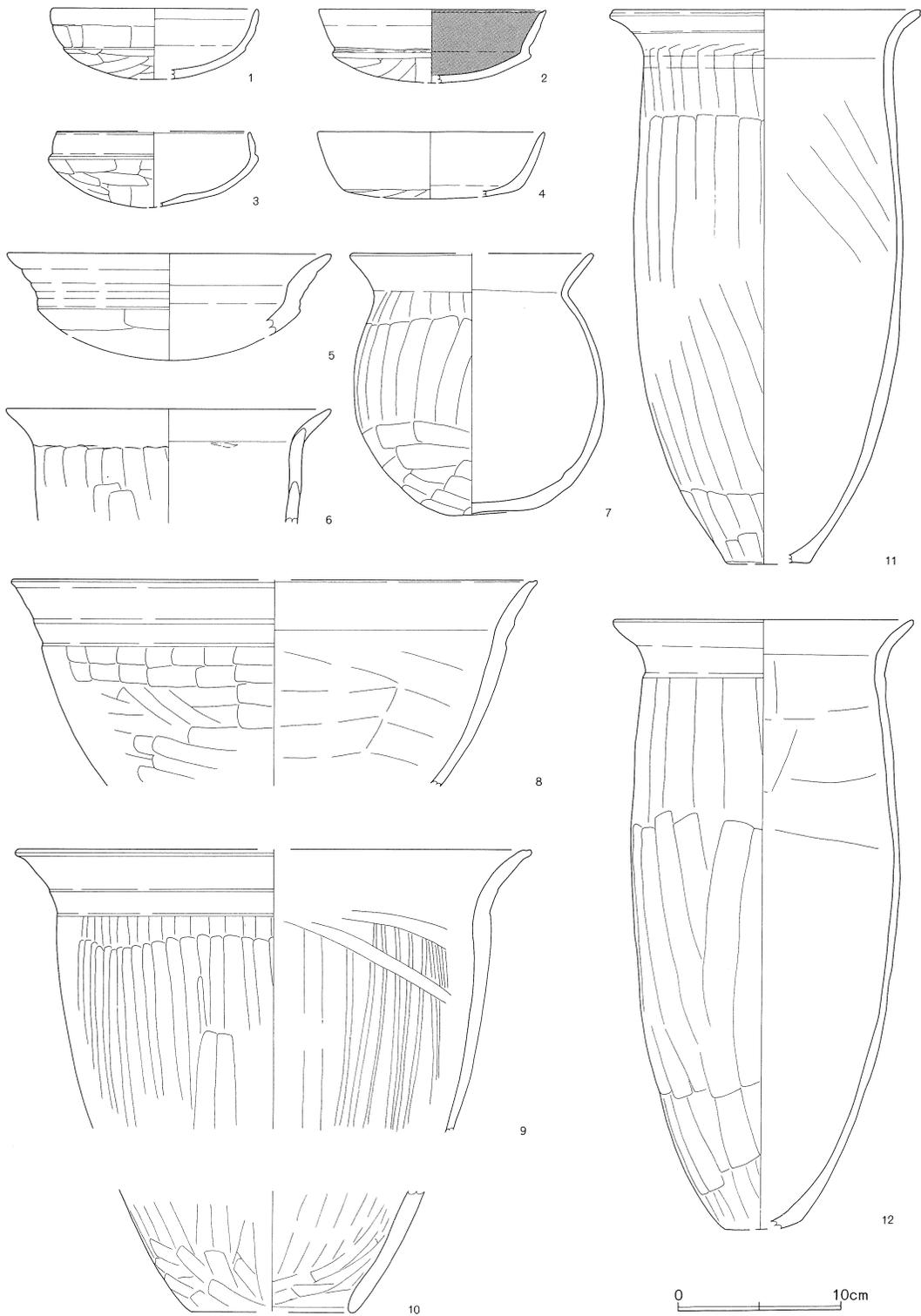
第87号住居跡カマド

- A 褐色土 炭化物粒子微量含む。しまりややあり。
- B 暗褐色土 焼土ブロック多量含む。
- C 褐色土 焼土粒子、炭化物少量含む。
- D 灰層 焼土粒子多量含む。
- E 褐色土 焼土粒子、炭化物多量含む。
- F 褐色土 Eより焼土粒子、炭化物多量含む。

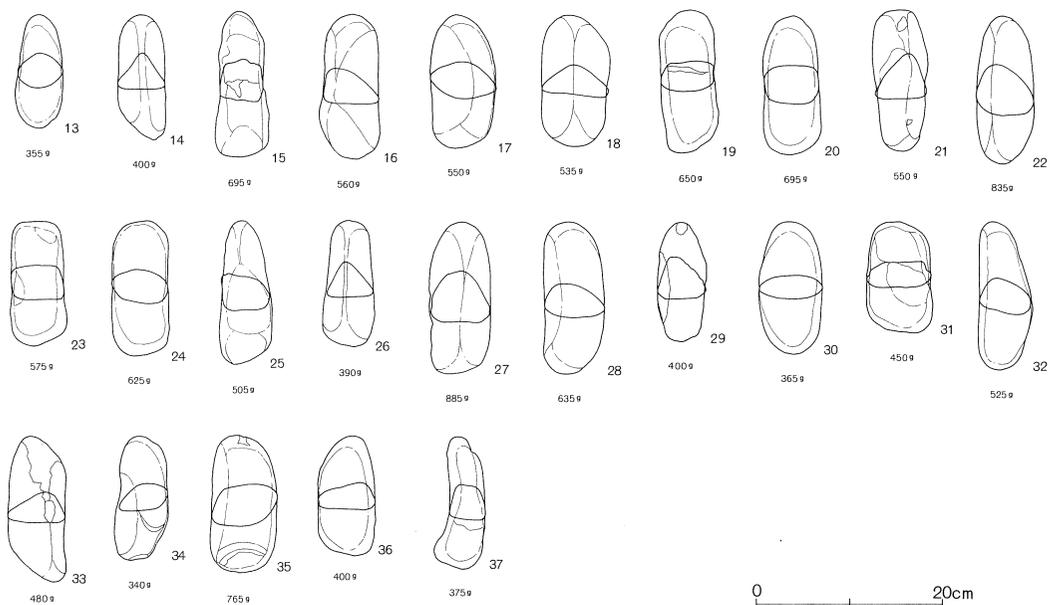
第87号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土ブロック少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子微量含む。しまりあり。

第447図 第87号住居跡



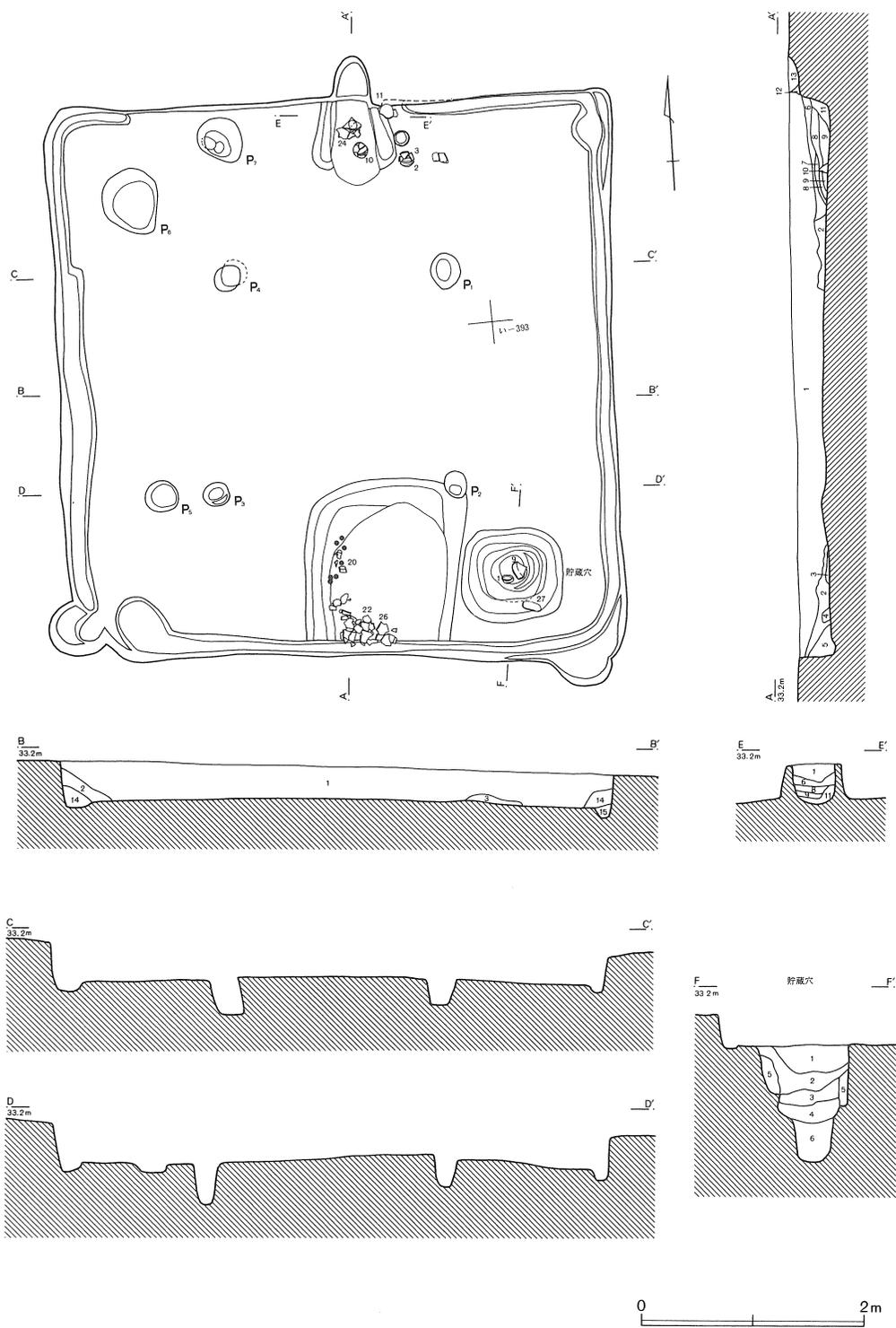
第448図 第87号住居跡出土遺物(1)



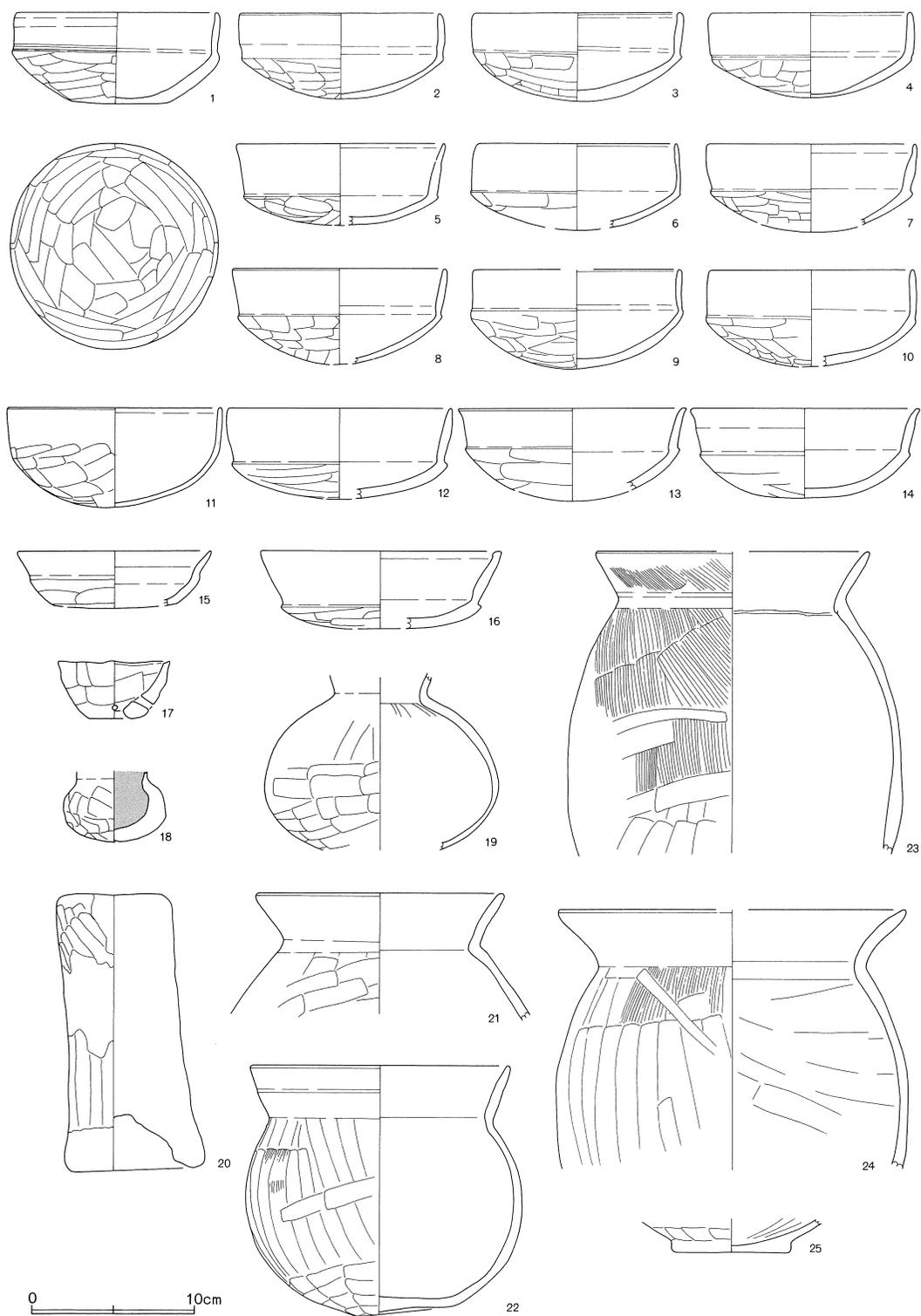
第449図 第87号住居跡出土遺物(2)

第87号住居跡(第448・449図)

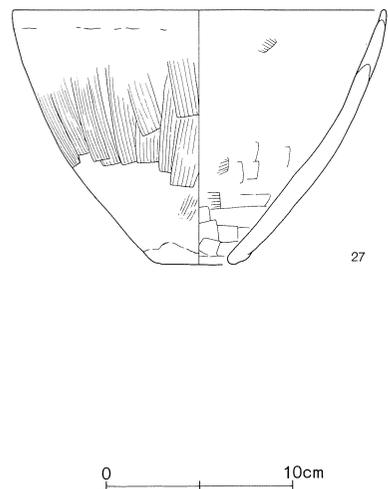
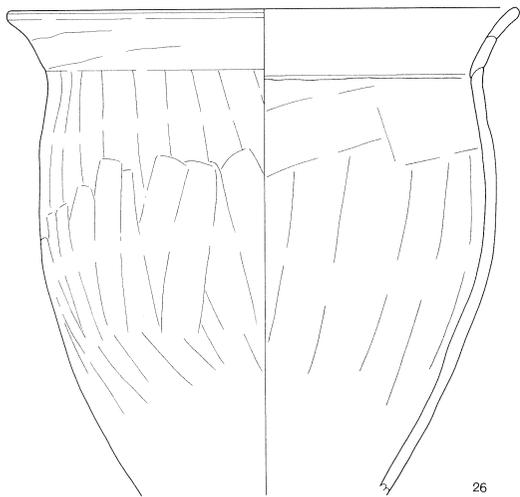
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.8)	B多+W+W'	(内)黒褐 (外)明黄褐	30	
2	坏	口(14.0) 底(4.5)	B+R多+W	黒褐	30	No.6. 口縁端部面トリ 内面黒色
3	坏	口(12.0) 高(4.5)	B+R+W+W'	黒褐	70	
4	坏	口(14.0)	B少+W+W'	橙	10	
5	坏	口(20.0)	B+W	橙	口縁 10	
6	甕	口(20.0)	R多+W	橙	口縁 10	内面風化
7	小型甕	口(15.0) 高16.0	B+R+W+W'+砂少	にふい橙	70	胴部内外面全体に黒色
8	鉢	口(32.2)	B+R+W+W'	浅黄橙	口縁 30	No.7. 内外面に黒色部分
9	甕	口(31.6)	B多+R+W+W'	(内)灰黄褐 (外)浅黄橙	口縁 30	No.5. 内外面に黒色部分
10	甕	底(9.6)	B+R+W+W'	(内)褐灰 (外)明褐灰	底部 30	土坑。
11	甕	口18.8 底5.1 高34.0	B+R多+W+礫少	橙~にふい橙	50	No.3・4. 内外面に黒色部分
12	甕	口(18.2) 底4.6 高(37.3)	B+R多+W+砂少+礫少	橙~にふい橙	90	



第450图 第88号住居跡



第451図 第88号住居跡出土遺物(1)



第452図 第88号住居跡出土遺物(2)

第88号住居跡

- 1 灰褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。黄褐色土、灰色粘質土混入。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。多量の黄褐色土、灰色粘質土混入。しまりあり。
- 3 褐色土 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 4 炭化物集中堆積層 焼土粒子含む。
- 5 暗褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 6 褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- 7 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 8 橙色土 焼土層。炭化物粒子少量含む。褐色土混入。
- 9 黒褐色土 灰層。焼土・炭化物粒子若干含む。軟質。
- 10 褐色土 ブロック状。混入物なし。しまりあり。
- 11 褐色土 灰多量含む。しまりあり。
- 12 黄褐色土 焼土ブロック(5~10mm)含む。しまりあり。
- 13 黄褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。灰色粘質土混入。
- 14 暗褐色土 炭化物粒子わずかに含む。灰色粘質土多く混入。しまりあり。
- 15 黄褐色土 灰色砂少量混入。しまりあり。

第88号住居跡貯蔵穴

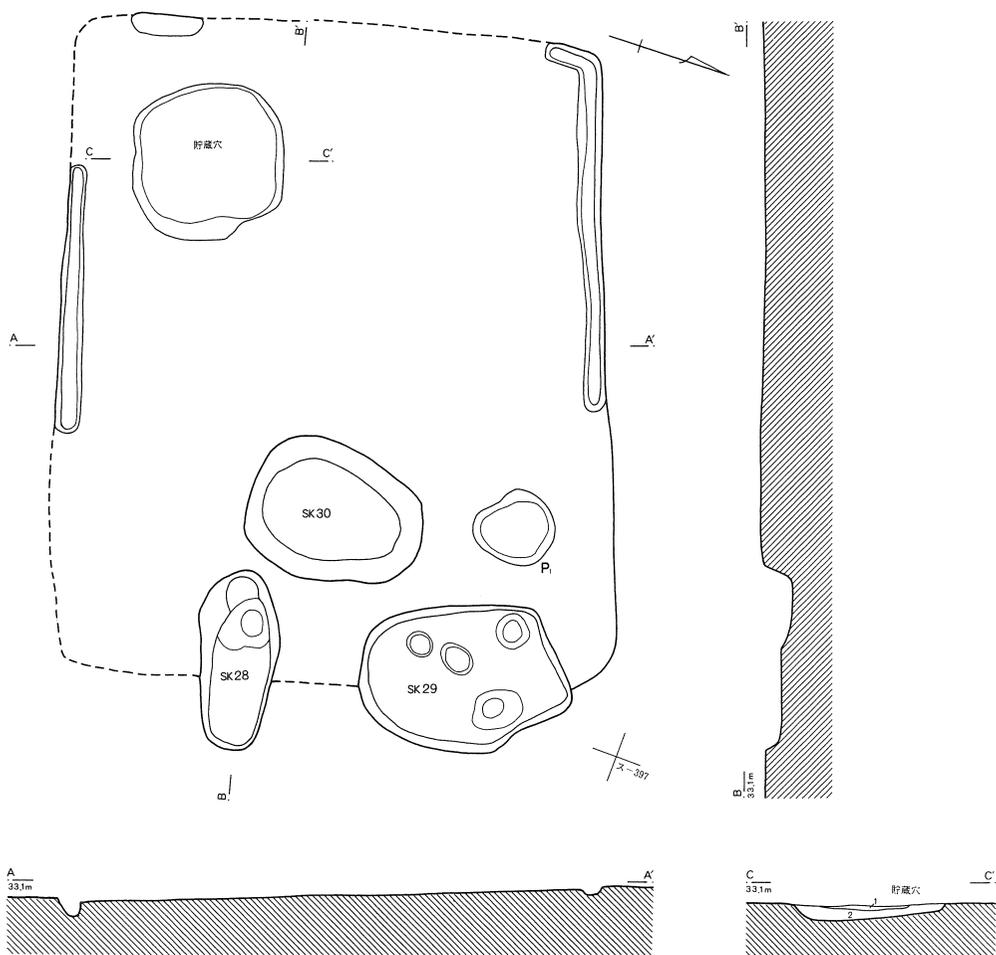
- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。黄褐色土、灰色粘土若干混入。しまりあり。
- 2 茶褐色土 焼土粒子わずかに、炭化物粒子多量含む。黄褐色土少量、灰色粘土若干混入。しまりあり。
- 3 茶褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。黄褐色土ブロック状。しまりあり。
- 4 茶褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 5 灰褐色土 地山か?。混入物なし。砂質強。
- 6 暗褐色土 しまりあり。

~P4が柱穴である。床面にはほぼ全面に貼床が施されている。カマドと対向する位置には、「コ」の字状に貼床が隆起している。「コ」の字に囲まれている内部も堅くしまっており、この部分が入口部と考えられる。遺物はおもに、カマド・貯蔵穴・入口部から出土している。出土位置は明確ではないが、土製模造鏡1点、土玉1点、ミニチュアの甗・壺形土器が検出されている。このことから、なんらかの祭祀行為が行なわれていたことが推定される。ほかに須恵器40片、灰釉陶器1片、編物石1点がある。

第88号住居跡の周辺にはピットが配されている。住居跡の南東コーナー部・南西コーナー部に重複しているものも含めて10基、また3mほど離れた地点からも5基検出されている。これらのピットは掘立柱建物跡の柱穴とも規模が異なり、規則性も認めることができない。第88号住居跡との関連や用途・性格等は明確ではない。

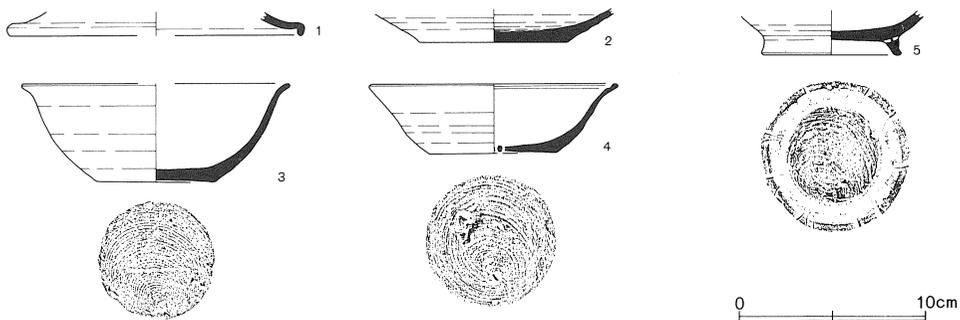
第88号住居跡(第451・452区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.4 底6.0 高5.6	B+R+W	橙	100	No.1。
2	坏	口12.3 高5.2	B+R+W+W'	橙	95	No.5。
3	坏	口12.8 高5.4	B+R多+W	黄橙	100	No.6。
4	坏	口12.3 高5.2	B+R+W	にふい黄橙	95	内外面に黒色部分
5	坏	口(13.0) 高5.0	B+R+W+W'	橙	25	貯蔵穴。
6	坏	口12.2	B+R+W+W'	橙	70	貯蔵穴。
7	坏	口(13.0)	R多+W	橙	30	
8	坏	口13.0 高5.8	B+R	にふい橙	90	貯蔵穴。口縁端面トリ
9	坏	口(12.7) 高6.0	B+R+W+W'	黄橙	80	No.2。
10	坏	口12.6 高5.9	B+R+W	赤橙	95	No.9。外面は黒色部分多く剥離部分あり
11	坏	口13.1 高6.1	B+R+W+W'	(内)橙～にふい赤 褐(外)にふい黄橙	75	No.8。口縁部内面は黒色
12	坏	口(14.0)	R+W+W'	にふい橙～黒	10	貯蔵穴。
13	坏	口(14.0)	B+R多+W	橙	40	口縁端面トリ
14	坏	口(14.0) 高5.5	B+R+W	橙	10	口縁端部ヘラアテ面トリ
15	坏	口(12.0)	B+W	にふい橙	25	
16	坏	口(14.8)	B+R+W+W'	橙	10	口縁端部ヘラアテ面トリ
17	甑(ミニ チュア)	口(7.0) 底(3.4) 高3.5 孔(1.0)	B+R多+W	橙	25	口縁端面トリ 穿孔
18	壺(ミニ チュア)	胴6.2	B+R+W	浅黄橙	80	内面赤彩 外面に黒色部分
19	埴	胴14.4	B+R多+W	橙	35	
20	支脚	上端5.3 下端7.4 高16.8	B+R+W	明赤褐	90	No.11。カマド焼成 粘土附着 下位は 生焼け状態
21	甕	口15.1	B+R+W	橙	口縁 70	貯蔵穴。
22	鉢	口15.8 底5.6 高15.2 胴17.1	B+R+W	橙	75	No.13。
23	甕	口(16.7) 胴(20.6)	B+R+W+礫少	(内)にふい黄橙 (外)橙	30	胴部外面に黒色部分
24	甕	口(21.2) 胴(21.6)	B+R+W	にふい黄橙	口縁 40	No.10。胴部外面に黒色部分
25	甕	底7.1	B+R+W+W'	(内)黒褐(外)橙	底部 90	貯蔵穴。
26	甕	口27.0	B+R+W+砂少	橙	40	No.13。
27	甑	口(20.0) 底(5.0) 高13.6	R多+W+W'	橙～浅黄橙	20	No.3。底部付近外面に粘土折り返し



第89号住居跡貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土粒子多量、炭化物粒子微量含む。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子多量、焼土・炭化物粒子少量含む。



第453図 第89号住居跡・出土遺物

第89号住居跡（第453図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(16.0)	W	灰	5	
2	坏	底(8.0)	W	暗灰～にふい赤褐	底部 40	回転糸切り離し 焼成不良
3	坏	口(14.4) 底6.3 高5.3	B+W+W'+礫少	灰	55	貯蔵穴。回転糸切り離し
4	坏	口13.4 底6.8 高3.7	B+W+砂少	灰	90	貯蔵穴。回転糸切り離し 口縁端部ヘラアテ
5	高台付椀	台7.6	B+W多	灰白	底部 100	回転糸切り離し後、高台ナデツケ

第90号住居跡（第455図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(15.4) 高(3.5)	B+R多+W	(内)明赤褐 (外)赤褐～黒褐	30	No.1・2。外面に黒色部分
2	甕	口(18.2)	B+W+砂少	黒褐～にふい赤褐	50	No.4。内外面とも全体に黒色
3	甕	口(19.8) 胴34.0	B+R多+W	橙	10	No.5。胴部外面に黒色部分
4	甕	底9.8	B+R+W+砂少	(内)にふい赤褐～ 赤褐 (外)明赤褐	15	No.1。内面に黒色部分
5	甕	口19.8	B+R+W+砂少	(内)にふい赤褐～ 明赤褐 (外)明赤褐	15	No.1。内外面に黒色部分
6	甕	口(21.0)	B+R+W+砂少+礫少	～にふい赤褐 (内)明赤褐 (外)橙	10	
7	甕	口20.6 底5.6 高31.8 胴20.8	B+R多+W+砂多+礫多	浅黄橙～橙	60	No.3。胴部外面に黒色部分

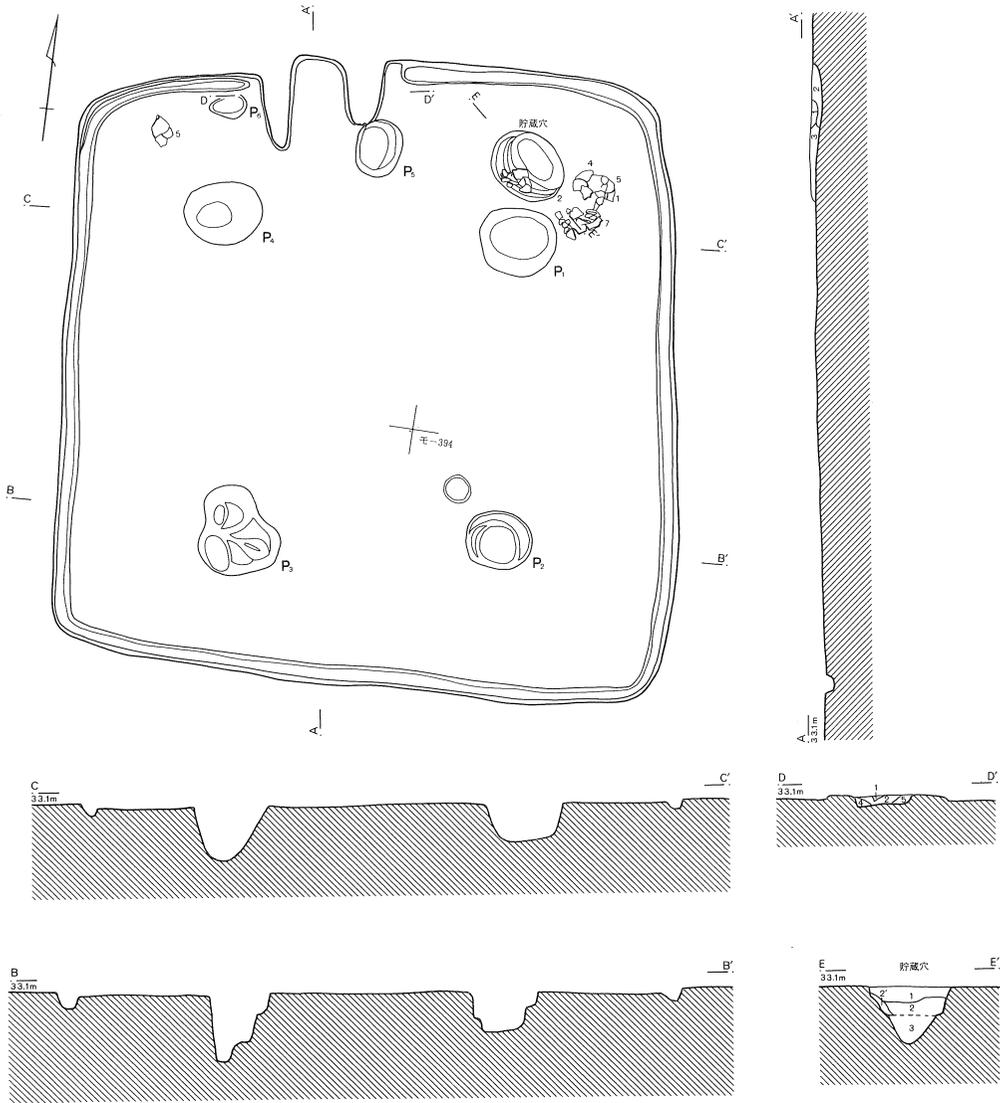
第89号住居跡（第453図）

モ—397、セ—396・397Gridに位置している。土取りによる削平を受けているため、北壁および壁溝の一部が確認されているに過ぎず、深さは0.01～0.05mとたいへん浅い。規模は東西4.36m・南北5.16mで、北壁の方位はN—75°—Eを測る。幅0.14～0.18m、深さ0.04～0.09mの壁溝が、北壁および南壁の一部に廻っている。西壁には壁溝の痕跡が認められている。貯蔵穴が南西コーナー部に設置されている。南北1.23m・東西1.21m、深さ0.16mで、不整円形を呈している。ピットは1基確認されている。遺物は少なく、須恵器19片の内、図示し得るものは5点である。ほかに刀子1点が検出されている。

東半部では第28～30号土坑と重複しているが、新旧関係は明らかではない。特に第28号土坑は位置および形態から、第89号住居跡のカマドの可能性もある。しかし覆土には炭化物粒子が比較的少量に含まれているが、焼土粒子が少量であることから、明確ではない。

第90号住居跡（第454図）

ヒ—393・394、モ—393・394Gridに位置し、土取りのため床面近くまで削平されている。覆土は暗褐色土で、しまり・粘性が弱い。規模は主軸辺5.06m・短辺4.93m、深さ0.02～0.07mで、主軸方位はN—7°—Wを測る。幅0.11～0.15m、深さ0.06～0.08mの壁溝がほぼ全周している。カマ



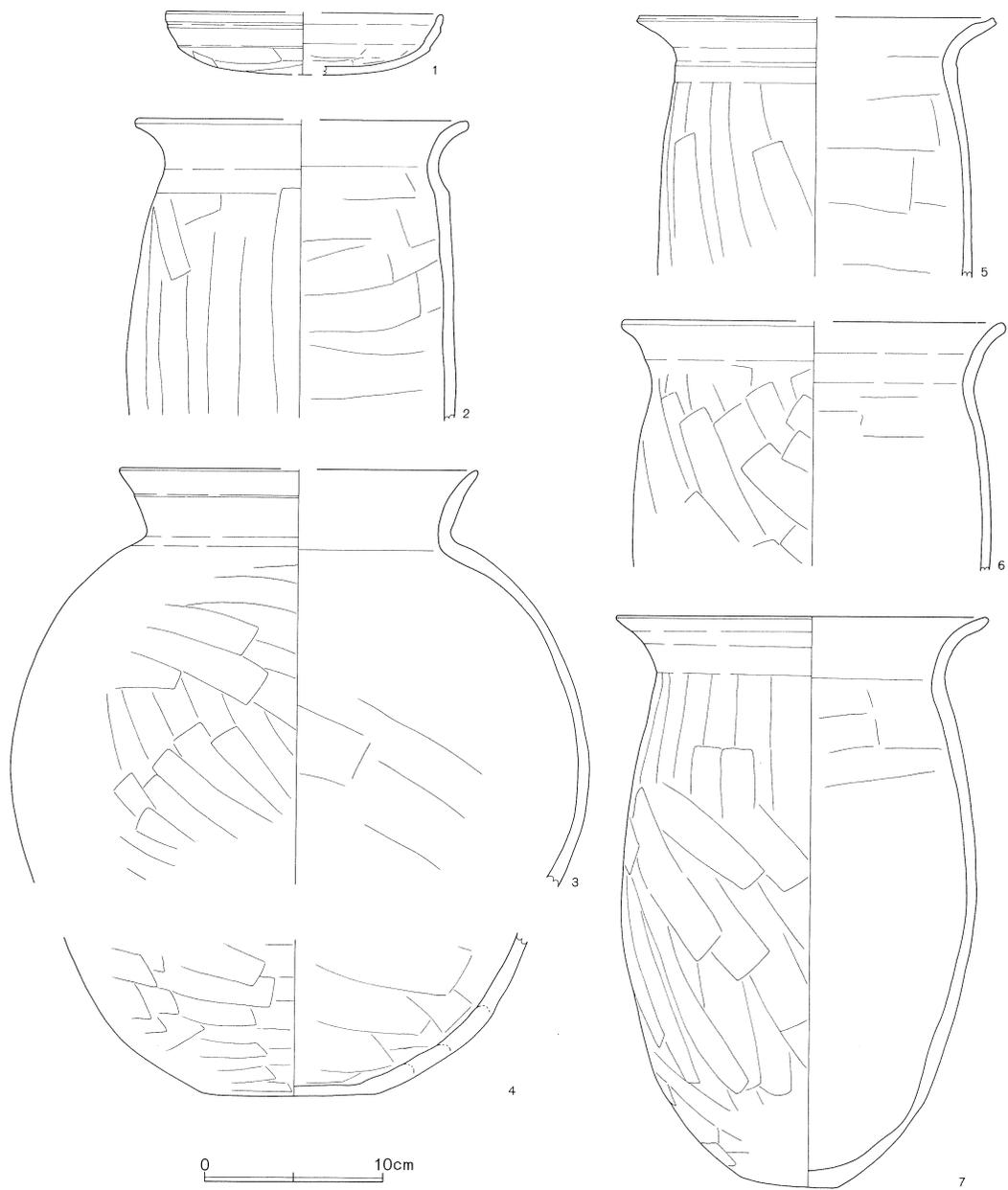
第90号住居跡

- 1 黒褐色土 灰層。焼土・炭化物粒子多く含む。しまり弱。
- 2 褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 3 褐色土 焼土粒子・ブロック(3mm)若干含む。しまりあり。
- 4 黄褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 5 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3mm)、炭化物粒子若干含む。しまりあり。

第90号住居跡貯蔵穴

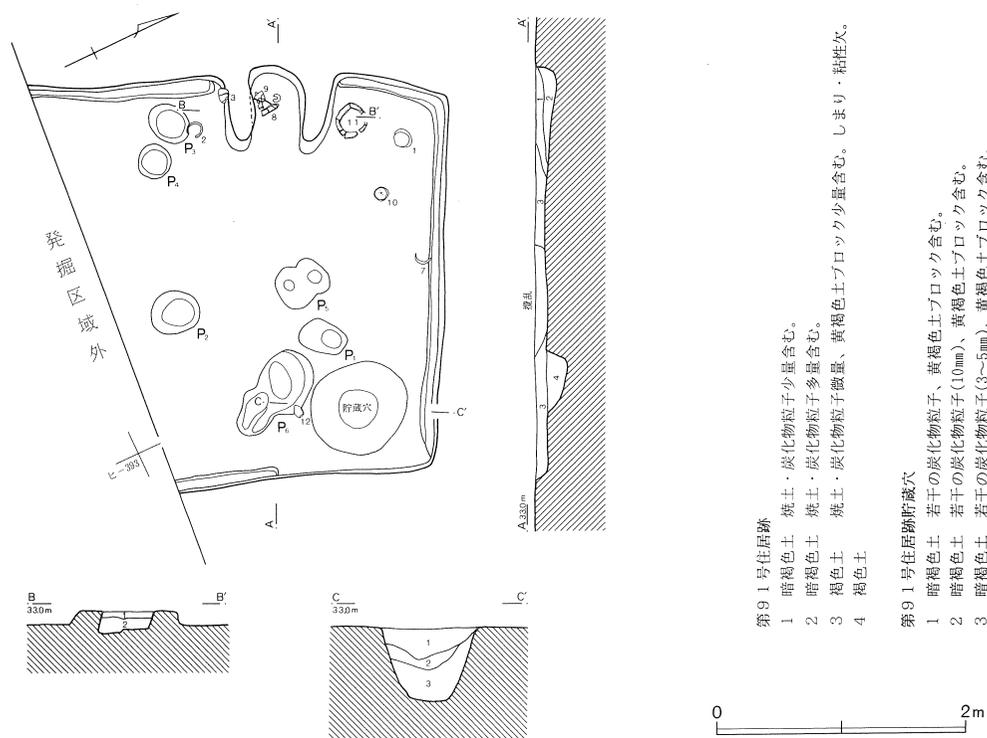
- 1 褐色土 砂粒少量、炭化物粒子微量含む。粘性欠。
- 2 暗黄褐色土 砂粒少量、炭化物粒子微量、黄褐色土ブロック(10mm)多量含む。粘性欠。
- 2' 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
- 3 褐色土

第454図 第90号住居跡



第455図 第90号住居跡出土遺物

ドは北壁に構築され、全長0.76m、焼き口幅0.50mの規模をもつ。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は方形を呈している。火床面はよく焼けている。煙道部は削平され、幅が燃烧部に比べて狭いタイプのものである。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置されている。円形で、南北5.03m・東西5.08m、深さ0.49mを測る。ピットは6基検出され、P1～P4が柱穴である。カマド両脇に位置しているピットの用途は明らかではない。遺物は少なく、貯蔵穴および周辺部から出土している。



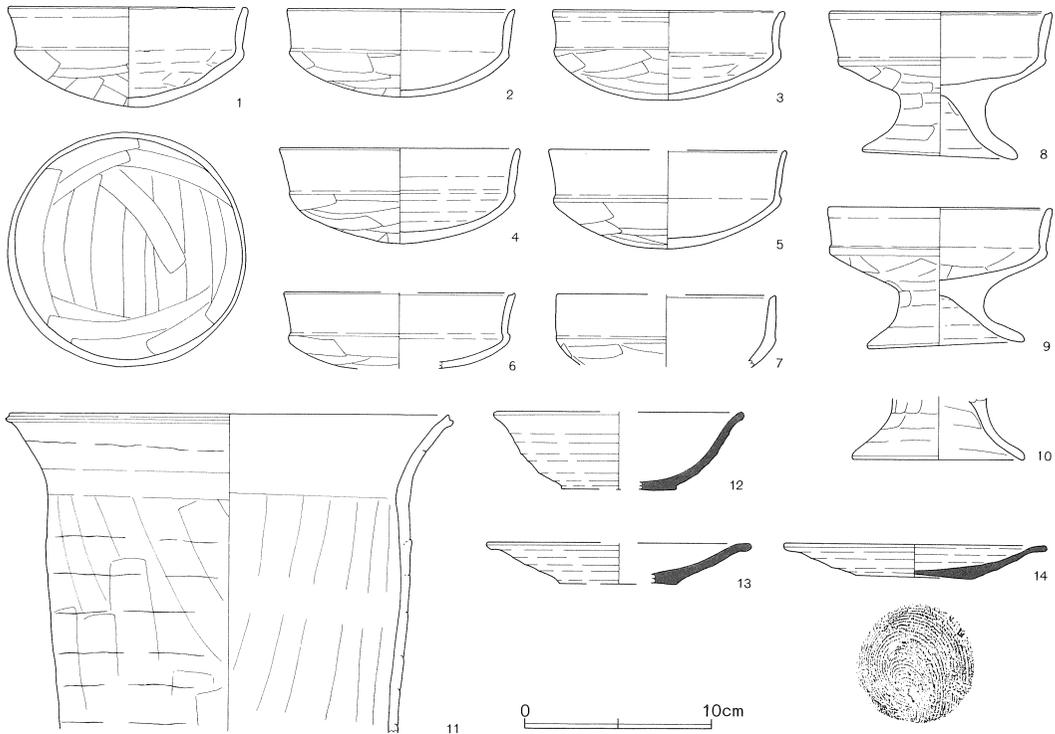
第456図 第91号住居跡

### 第91号住居跡 (第456図)

ヒ-392・393Gridに位置し、南半部が発掘区域外にかかっている。削平によって、深さは0.06~0.15mと浅い。規模は主軸辺3.31mで、主軸方位はN-75°-Wを測る。南北は4m前後と推測される。壁は傾斜をもって立ち上がり、幅0.07~0.11m、深さ0.05~0.07mの壁溝が北東コーナー部を除いてほぼ全周している。カマドは西壁に構築され、全長0.69m、焚き口幅0.45mの規模をもつ。袖部は地山が掘り残され、燃烧部は方形を呈している。火床面はよく焼けており、煙道部に向かって緩やかに傾斜している。煙道部は削平されているものと思われる。貯蔵穴は北東コーナー部に設置され、この部分には壁溝が廻っていない。南北0.73m・東西0.76m、深さ0.61mを測る円形である。ピットは6基検出されている。遺物はカマドおよび周辺部から出土し、後世のものも混入している。

### 第93号住居跡 (第458図)

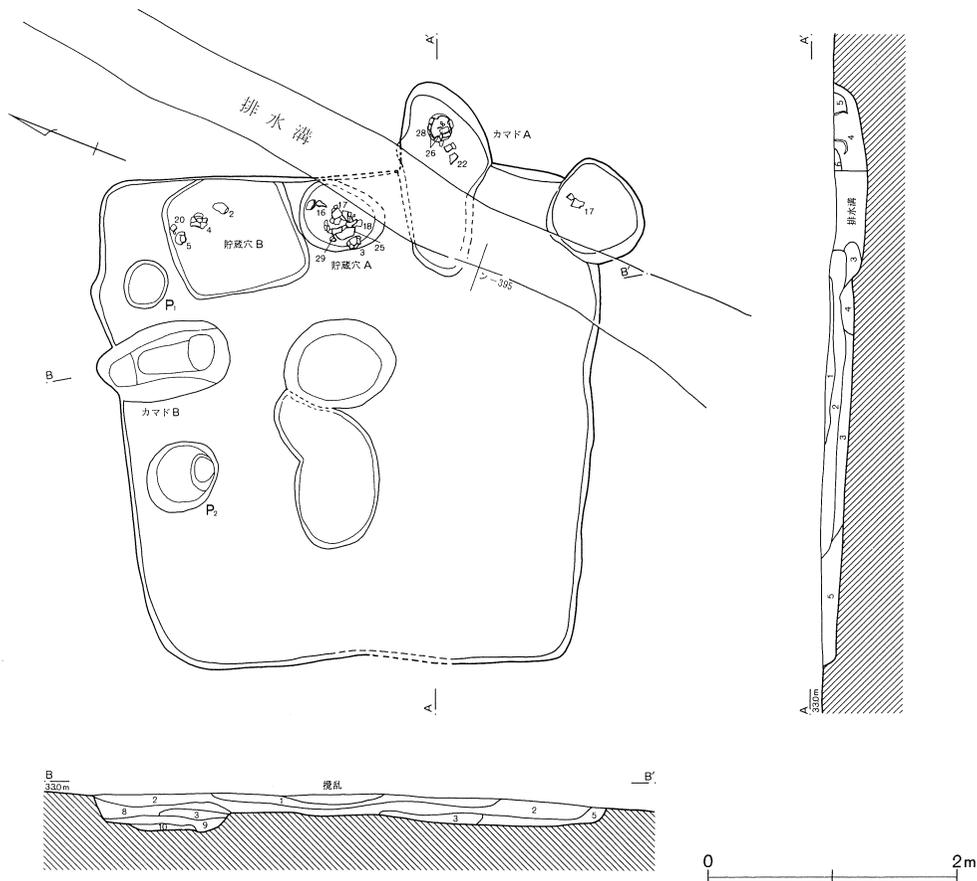
ス-394・395、ン-394・395Gridに位置し、調査のための排水溝によってカマド周辺部を削平している。規模は主軸辺3.90m・短辺3.80m、深さ0.02~0.14mで、主軸方位はN-69°-Eを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは2基構築されている。東壁に構築されているカマドAは、全長1.56m、焚き口幅0.68mの規模をもつ。燃烧部が壁外に掘り込ま



第457図 第91号住居跡出土遺物

第91号住居跡 (第457図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.8 高5.3	B+R+W	(内)暗赤褐~明赤褐 (外)にふい橙	100	No.3. 口縁端面トリ沈線の付着物 内面に黒色部分
2	坏	口12.2 高4.7	B+R多+W	にふい橙	80	No.7. 口縁端面トリ 外面に黒色部分
3	坏	口12.4 高4.8	B+R多+W	にふい橙	50	No.6. 口縁端面トリ 外面に黒色部分
4	坏	口12.8 高5.1	B+R+W+W' 少	にふい橙	75	口縁端面トリ沈線
5	坏	口(12.6) 高5.2	B+R+W	橙	45	口縁端面トリ
6	坏	口(12.4)	B+R多+W	にふい橙	20	口縁端面トリ
7	坏	口(11.8)	B+R+W	橙	20	No.1. 口縁端面トリ
8	高坏	口11.8 脚8.2 高7.7	B+R+W	にふい橙	90	No.9. 口縁端面トリ沈線
9	高坏	口11.8 脚8.4 高7.4	B+R+W	にふい橙	80	No.10. 口縁端面トリ 脚部に黒色部分
10	高坏	脚9.0	B+R多+W	橙	30	No.2.
11	甑	口23.4	B+R+W少+W' 少	橙	50	No.4. 粘土紐積み上げ痕
12	椀	口(13.0) 底6.2	B+R+W+礫少	(内)橙 (外)にふい赤褐	95	No.8. 回転糸切り離し
13	皿	口(14.0) 底6.2	B+W+礫少	褐灰	15	回転糸切り離し
14	皿	口13.9 底6.4 高1.7	B+W+礫少	褐灰	95	回転糸切り離し



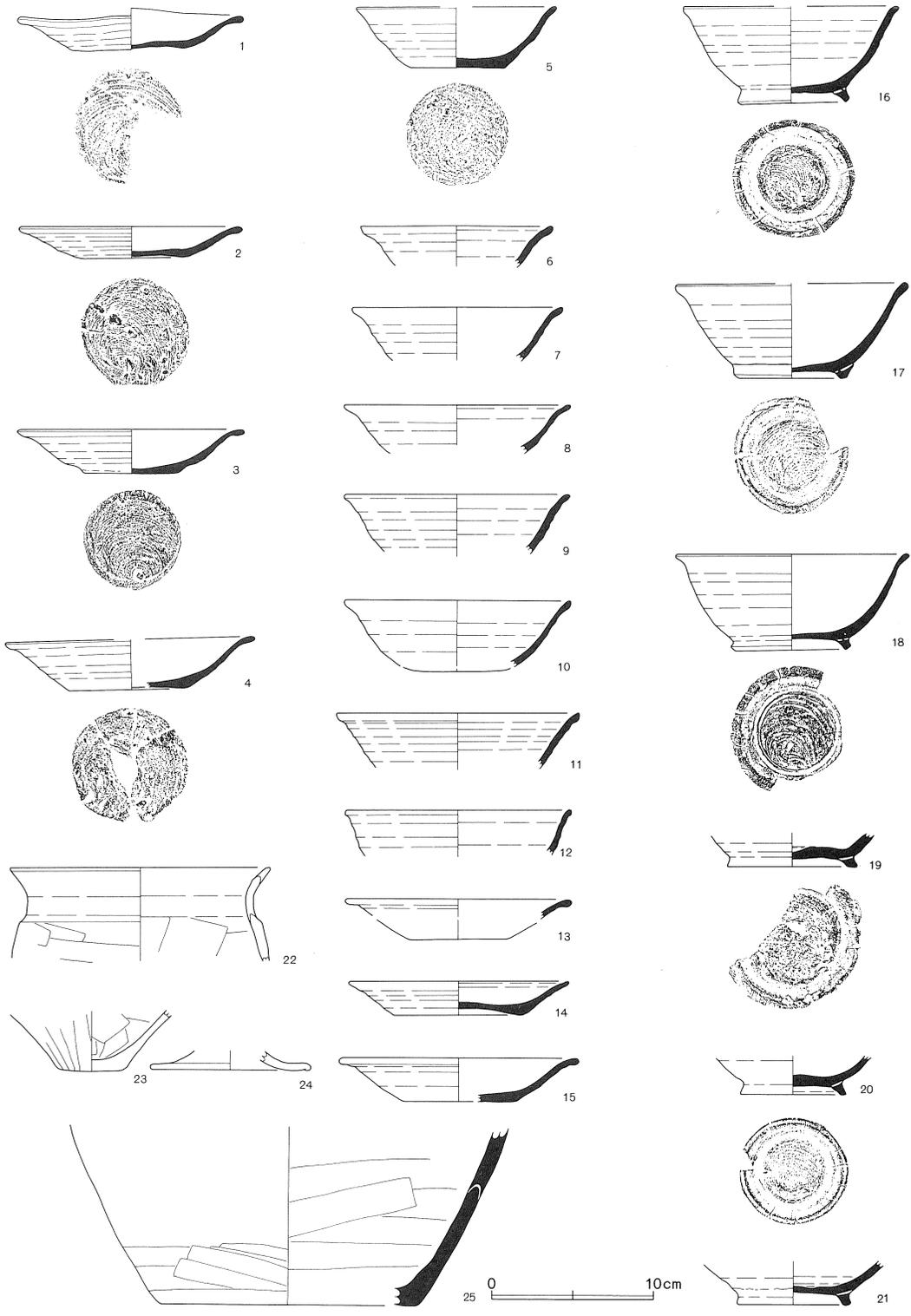
第93号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物少量、白色砂粒子多く含む。しまりあり。
- 2 茶褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物若干含む(部分的に集中)。しまりあり。
- 3 暗茶褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物多く含む。しまりあり。
- 4 黄褐色土 焼土粒子、炭化物わずかに含む。しまりあり。
- 5 暗茶褐色土 焼土粒子、炭化物わずかに含む。しまりあり。

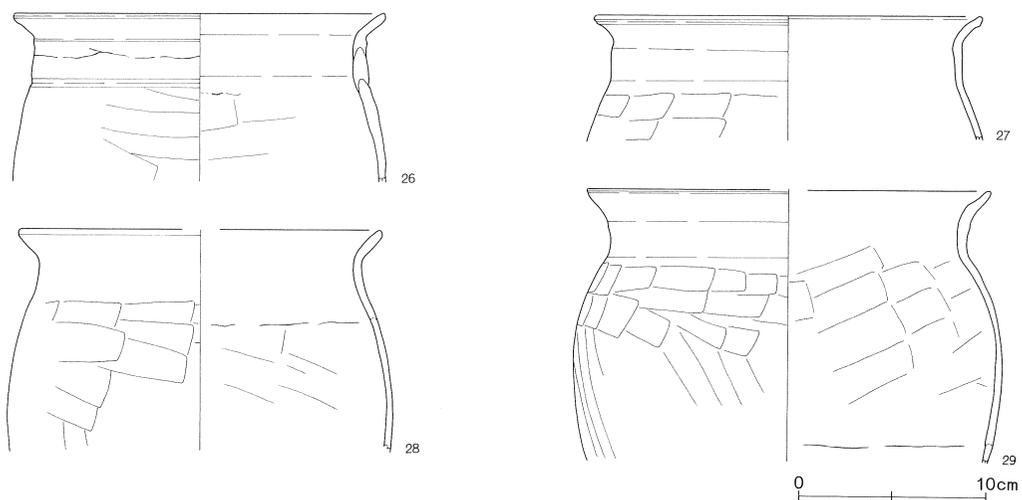
- 6 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)若干、炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 7 黒褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 8 褐色土 焼土粒子、炭化物多く含む。しまりあり。
- 9 黒褐色土 炭化物層。焼土ブロック(10~20mm)、茶褐色土ブロック混入。しまりあり。
- 10 暗茶褐色土 焼土・炭化物粒子若干含む。ブロック状に堆積。しまりあり。

第458図 第93号住居跡

れ、不整楕円形を呈している。摺り鉢状に掘り窪められ、火床面はあまり焼けていない。袖部は確認されていない。北壁に構築されているカマドBは、全長0.61m、焚き口幅0.23mの規模をもつ。然焼部は長鶏卵形を呈し、摺り鉢状に2段に掘り窪められている。火床面はあまり焼けていないが、炭化物が堆積している。袖部は確認されていない。カマドBの両脇にはそれぞれピットが検出されている。明確ではないが、カマドとの関連が想定され、興味深い。2基のカマドの併用・先後関係は明らかにできない。貯蔵穴は2基のカマドに挟まれている北東コーナー部に東壁に接して、2基並んで設置されている。カマドAの北側の貯蔵穴Aは鶏卵形で、南北0.70m・東西



第459图 第93号住居跡出土遺物(1)



第460図 第93号住居跡出土遺物(2)

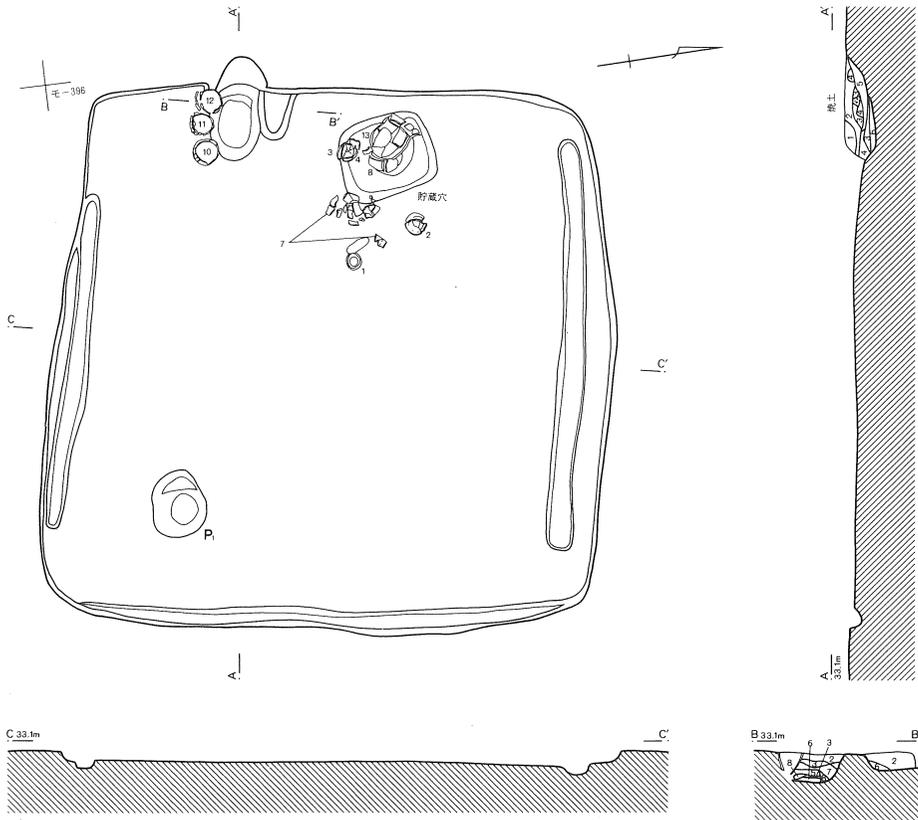
0.53m、深さ0.22mを測る。カマドBの東側の貯蔵穴Bは方形で、南北0.95m・東西1.02m・深さ0.24mを測る。2基の貯蔵穴A・Bの位置から、それぞれカマドA・Bに対応しているものと推測される。遺物はカマドA・貯蔵穴A・貯蔵穴Bからそれぞれ出土している。



第461図 第94号住居跡カマド周辺

第93号住居跡 (第459・460区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	皿	口7.0 底6.7 高2.2	B+R+W+W'	橙～灰	50	歪みが著しい 酸化焰焼成 回転糸切り離し
2	皿	口13.8 底6.2 高2.0	B+W+礫少	暗灰	85	No.10。カマドB。回転糸切り離し
3	皿	口14.0 底5.8 高2.7	B+R+W+W'+礫少	橙～灰	70	No.5。貯蔵穴。回転糸切り離し 焼成不良
4	皿	口(15.4) 底7.2 高3.1	B+R多+W少	橙～灰	60	No.11。風化が著しい 酸化焰焼成 回転糸切り離し
5	坏	口(12.4) 底5.9 高3.8	B少+W	灰	50	No.12。回転糸切り離し
6	坏	口(12.0)	W	暗青灰	10	
7	坏	口(13.0)	R+W+礫	灰黄～灰	10	焼成やや不良
8	坏	口(14.0)	R+W' 多	にふい橙～灰白	10	
9	坏	口(14.0)	B+W	灰	20	
10	坏	口(14.0)	R多+W+礫	橙	5	焼成不良
11	坏	口(15.0)	W+礫	橙～灰黄	10	焼成不良
12	坏	口(14.0)	W	灰	10	カマド。
13	坏	口(14.0)	W	灰	口縁 10	口縁部のみ残存 (傾きは不正確)
14	皿	口(13.6) 底(8.0) 高2.0	W	灰	30	回転糸切り離し
15	坏	口(14.8)	R多+W	にふい橙	30	回転糸切り離し 焼成不良
16	高台付碗	口(13.3) 台6.9 高6.1	B+W+W'+礫	灰	60	No.8・9・貯蔵穴。回転糸切り後、高台ナデツケ
17	高台付碗	口(14.4) 台6.9 高5.8	B+W+礫	灰	50	No.1・15。回転糸切り後、高台ナデツケ
18	高台付碗	口14.4 台7.4 高5.9	B+W多+W'+礫少	(内)黒 (外)橙～黒	70	No.13。酸化焰焼成 回転糸切り後、高台ナデツケ
19	高台付碗	台8.0	B+W多	灰	底部 60	回転糸切り離し後、高台ナデツケ 底部変形
20	高台付碗	台6.4	R+W	灰白	底部 100	No.12。回転糸切り離し後、高台ナデツケ
21	高台付碗	台(7.0)	B+R+W	灰白	底部 40	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
22	甕	口(16.0)	B+R+W+礫	橙	口縁 20	No.4。
23	甕	底6.0	B+R+W	(内)橙 (外)黒	底部 100	底部一方向のケズリ
24	台付甕	台(10.0)	B+R+W	橙	脚部 30	
25	甕		W多+W'	灰	下部 20	No.14。
26	甕	口(20.0)	B+R少+W+W'	橙	口縁 10	No.3・17。
27	甕	口20.5 高6.7	B+R+W	橙～にふい橙	口縁 50	
28	甕	口(19.2)	B+W+W' 少	(内)赤褐 (外)にふい赤褐	10	No.3。外面に黒色部分
29	甕	口(21.5) 胴23.2	B+R+W	(内)明赤褐 (外)橙	15	No.6。内外面に黒色部分



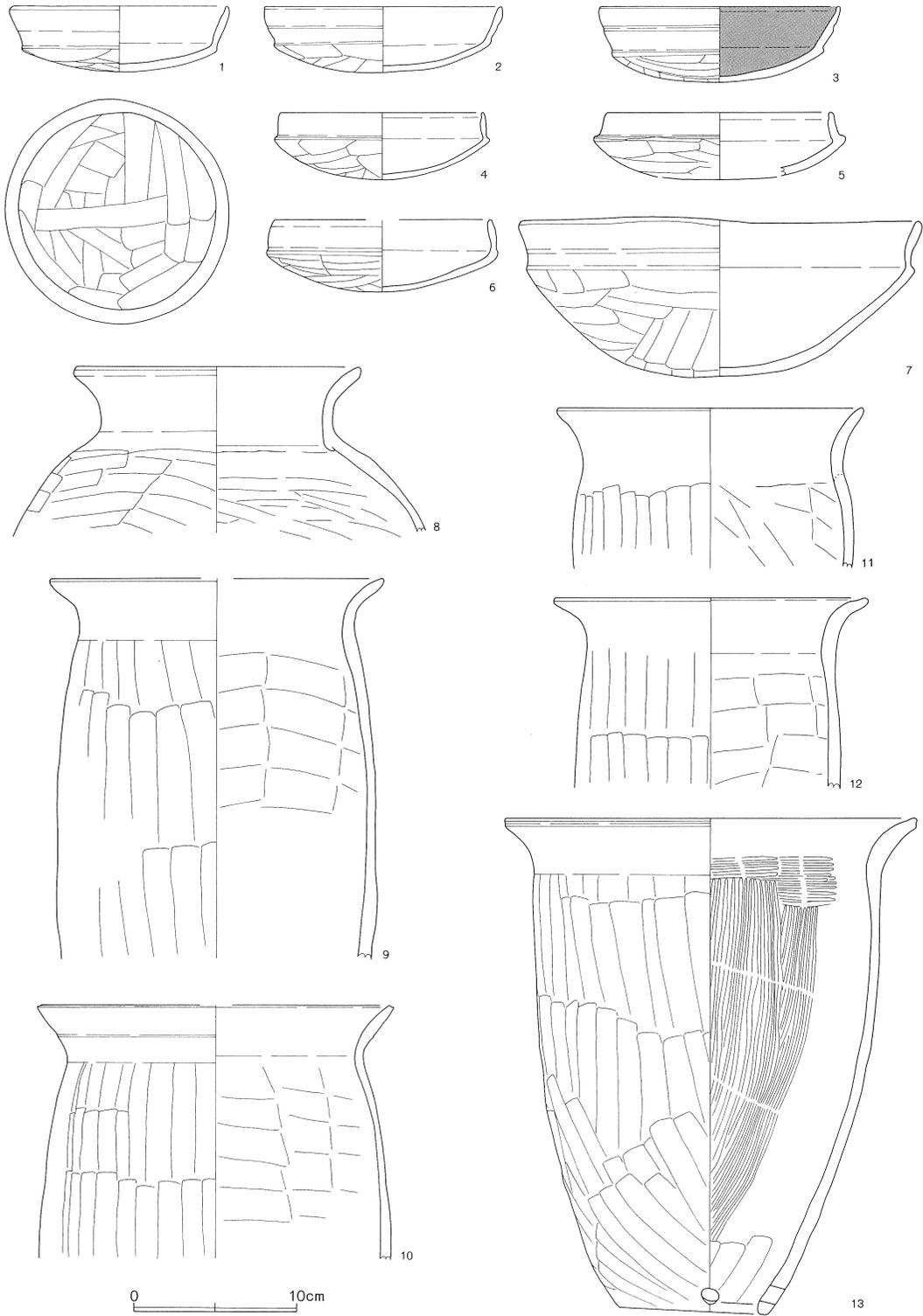
第94号住居跡

- |           |  |         |                                  |
|-----------|--|---------|----------------------------------|
| 1 褐色土     | 焼土粒子、炭化物少量含む。しまりあり。                            | 6 黄褐色土  | 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。            |
| 2 褐色土     | 焼土粒子・ブロック(3mm)、炭化物粒子若干含む。部分的に黄褐色土ブロック混入。しまりあり。 | 7 茶褐色土  | 焼土ブロック(10~20mm)多く、炭化物若干含む。しまりあり。 |
| 3 炭化物層    | 焼土粒子若干含む。しまり弱。もろい。                             | 8 暗茶褐色土 | 炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。               |
| 4 焼土ブロック層 | 炭化物若干含む。                                       | 9 暗黄褐色土 | 焼土・炭化物粒子多く含む。しまりあり。              |
| 5 暗黄褐色土   | 焼土ブロック(5~10mm)、炭化物粒子若干含む。しまりあり。                |         |                                  |

第462図 第94号住居跡

第94号住居跡 (第462図)

ヒ-395、モ-395Gridに位置している。削平を受けて、深さが0.08~0.16mと浅い。覆土は暗褐色土で、焼土・炭化物粒子を微量に含み、砂粒が混入している。しまり・粘性は弱い。規模は主軸辺4.33m・長辺4.49mで、主軸方位はN-80°-Wを測る。幅0.14~0.24m、深さ0.04~0.07mの壁溝が北壁・南壁に廻っている。本住居跡はカマドが西壁に構築されている数少ない例である。全長0.82m、焚き口幅0.30mの規模をもつ。南側の袖部は甕形土器を3個体並べて芯とし、北側の袖部は地山を掘り残して基部としている。燃烧部は隅丸方形を呈し、摺り鉢状に掘り窪められている。火床面はよく焼け、炭化物が堆積している。貯蔵穴はカマド北側に設置されている。0.16~



第463図 第94号住居跡出土遺物

第94号住居跡（第463図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	□13.2 高4.0	B+R+W	明赤褐	100	No.3。
2	坏	□14.2 高4.0	B+R+W	(内)にふい褐 (外)にふい褐～橙	95	No.1。全体に黒色
3	坏	□(14.4) 高4.6	B+R+W	(内)黒褐 (外)橙～褐	95	No.10。口縁部外面と内面は黒色
4	坏	□12.2 高4.0	B+R+W	にふい黄橙	95	No.9。全体に黒色
5	坏	□(14.0)	B+R+W	橙	30	口縁端部ヘラアテ
6	坏	□(13.2) 高4.3	B+R+W	橙	40	内外面に黒色部分
7	鉢	□24.0 高9.5	B+R多+W	明赤褐	80	No.2・5。
8	壺	□17.0	B+R+W+W'	明赤褐	20	No.7・カマド。内外面に黒色部分
9	甕	□20.2	B+R+W+砂多+礫多	(内)にふい橙 (外)橙	35	カマド。内外面に黒色部分
10	甕	□21.4	B+R+W+砂多+礫多	(内)にふい橙 (外)橙	25	No.13。胴部外面は黒色
11	甕	□18.6	B+R少+W+砂少	にふい黄橙	15	No.12。内外面に黒色部分
12	甕	□18.6	B+R+W+砂少+礫少	橙	20	No.11。
13	甕	□25.0 底9.0 高30.2	B多+R+W	橙	95	No.6。穿孔（2孔1対） 外面端部に黒色部分

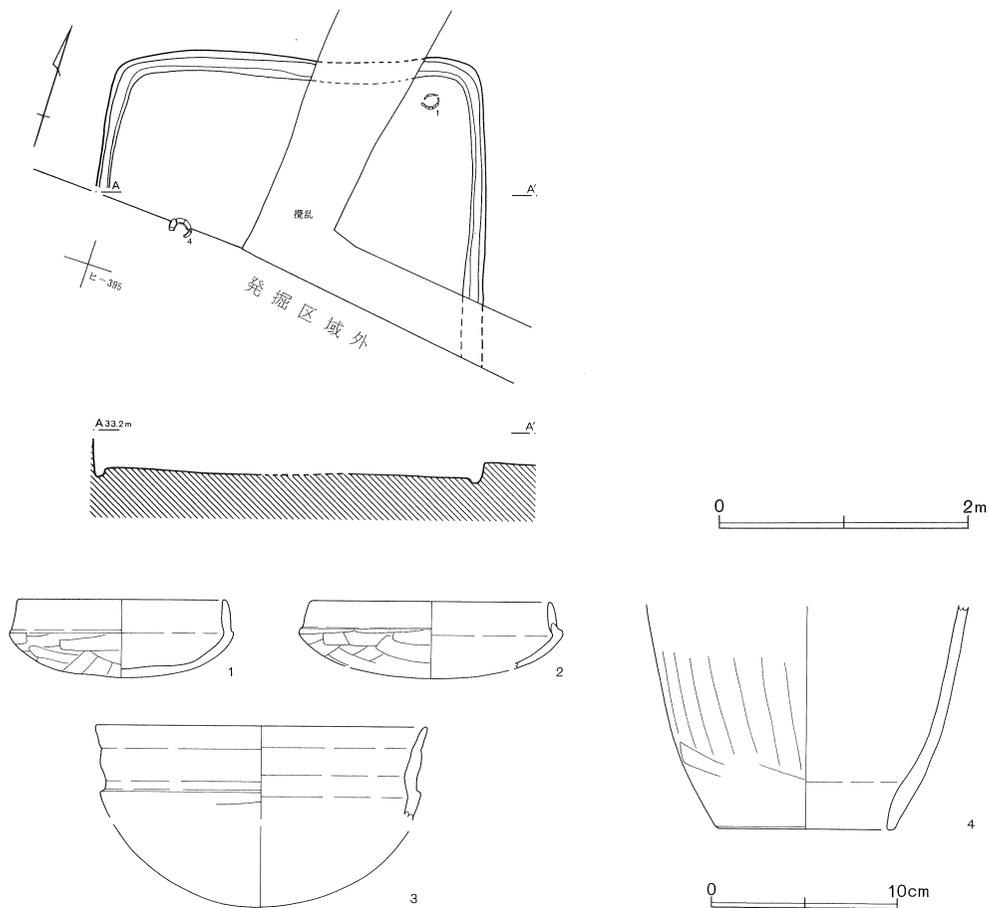
0.20mほど南北0.64m・東西0.78mの方形に掘られ、さらに中央部は東西0.39m・0.36mの円形に0.30mほど掘り込まれている。ピットは1基のみ検出されている。遺物は貯蔵穴および周辺部から出土している。土師器のほかに、須恵器2片、編物石1点がある。

第95号住居跡（第464図）

ヒ一394・395Gridに位置している。土取りによる削平を受けて、深さが0.10～0.17mと浅い。南半部は発掘区域外にかかり、また発掘区域内も大部分が攪乱を受けている。規模は一辺3.14mを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。幅0.12～0.18m、深さ0.05～0.06mの壁溝がほぼ全周している。カマド・貯蔵穴・ピット等の施設や貼床は確認されていない。遺物も少なく、土師器のほかに編物石1点が出土している。

第96号住居跡（第465図）

モ一395・396、セ一395・396、ス一395・396Gridに位置し、重複している第97号住居跡・第4号掘立柱建物跡よりも古い。規模は主軸辺6.56m・短辺6.54m、深さ0.10～0.18mであり、周辺のもの比べて、比較的大型の住居跡である。主軸方位はN-10°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。幅0.13～0.34m、深さ0.05～0.14mの壁溝が、所々途切れながらもほぼ全周している。カマドは北壁に構築されているが、重複している第3号掘立柱建物跡によって攪乱されている。規模は不明である。袖部は地山が掘り残されているものと思われる。火床面はよく焼け、灰が



第464図 第95号住居跡・出土遺物

第95号住居跡（第464図）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口11.0 高4.2	B多+R+W+W' 少	(内)灰白～浅黄橙 (外)浅黄橙～明黄褐	95	No.1。外面に黒色部分
2	坏	口(13.0)	B+R+W	浅黄橙～黒	25	
3	椀	口(18.0)	B多+R+W	にふい橙～灰褐	口縁 10	
4	甑	底9.6	B多+R+W+W' 少	浅黄橙～黄橙	20	No.2。外面に黒色部分

堆積している。貯蔵穴は南東コーナー部に接して設置され、この部分には壁溝が廻っていない。南北1.25m・東西1.57m、深さ0.50mを測り、隅丸方形を呈している。ピットは7基検出され、柱穴はP1～P3とP3～P5の2つの組み合わせが考えられる。このことから、痕跡等は確認されていないものの、住居跡が拡張されている可能性もある。遺物は貯蔵穴およびその周辺部から多量に出土し、坏・高坏形土器が中心である。ほかに須恵器4片、編物石1点、凹石1点が検出されている。



第96号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量含む。粘性欠。
- 3 暗褐色土 2より黒い。

第97号住居跡

- 1 暗褐色土 炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。

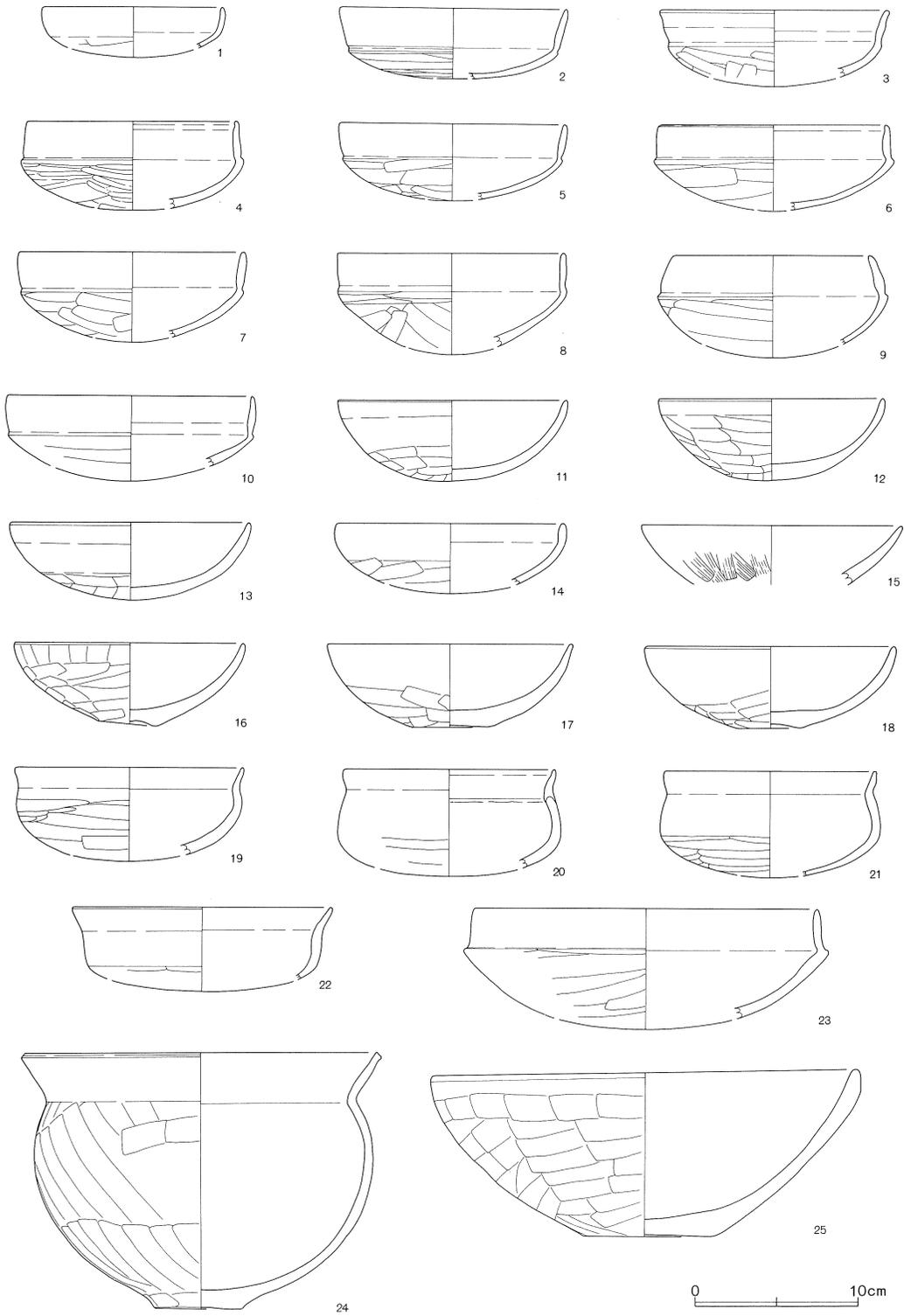
第96号住居跡カマド

- A 暗褐色土 焼土ブロック少量含む。
- B 焼土ブロック層。
- C 灰層 炭化物多量含む。
- D 暗褐色土 Aより焼土ブロック含む。

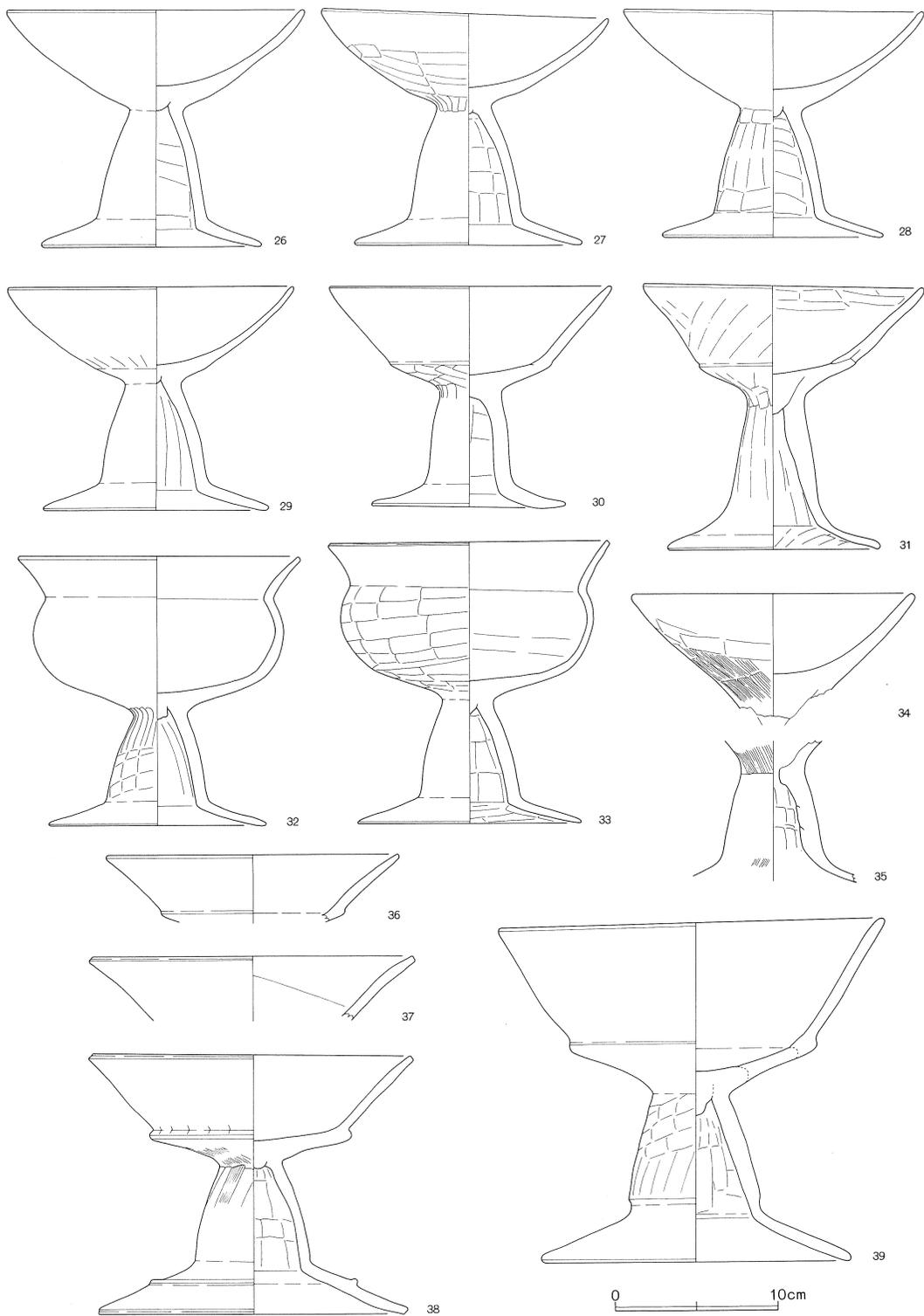
第97号住居跡カマド

- A 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。
- B 暗褐色土 Aより焼土・炭化物粒子少量含む。

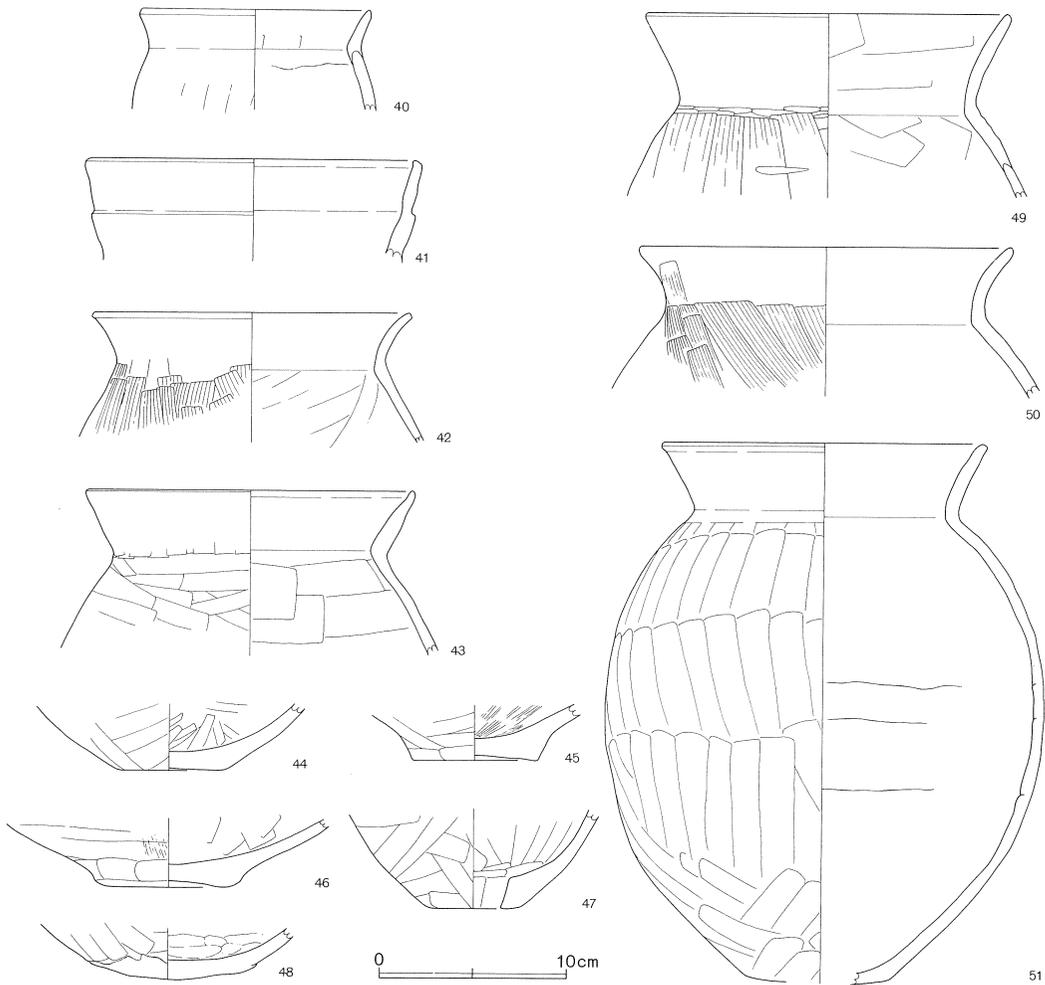
第465図 第96・97号住居跡



第466图 第96号住居跡出土遺物(1)



第467图 第96号住居跡出土遺物(2)



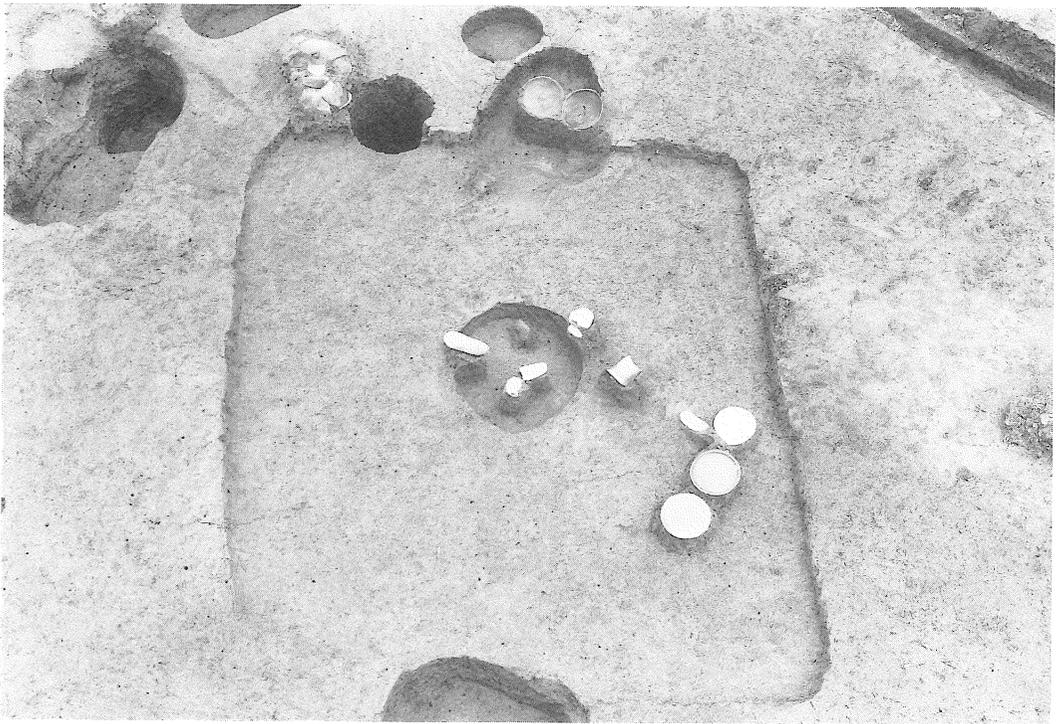
第468図 第96号住居跡出土遺物(3)

第96号住居跡(第466~468図)

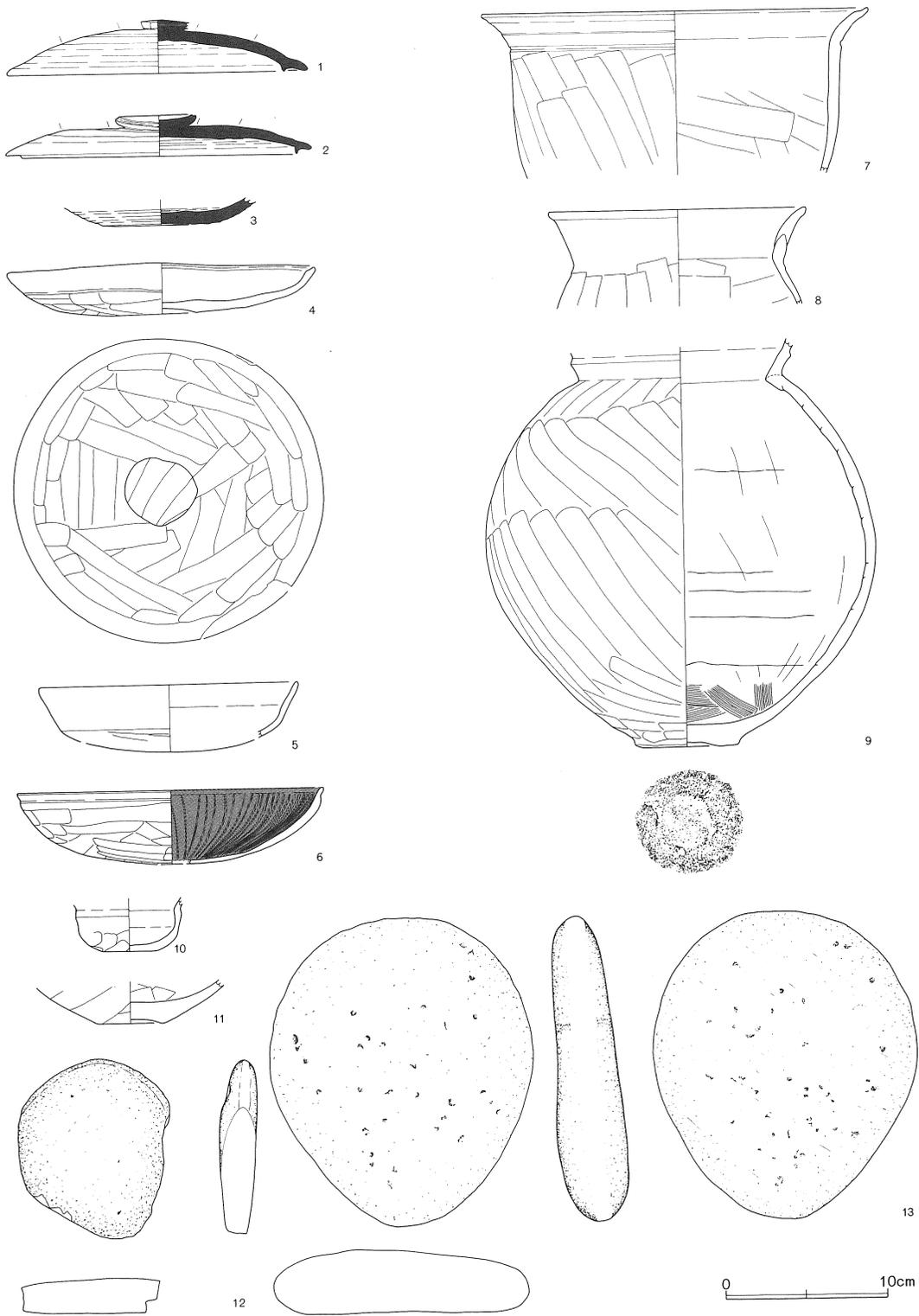
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(11.0)	R+W+W'	橙~黒褐	口縁 30	
2	坏	口(14.0)	B少+R少+W+W' 少	橙	10	
3	坏	口(14.0)	B+W+W'	橙	20	No.41。
4	坏	口(13.0)	R+W	橙~黒褐	40	口縁端部弱いヘラアテ
5	坏	口(14.0)	B+W	橙~黒褐	20	口縁端部弱い面トリ
6	坏	口(14.0)	B+R+W	橙	20	口縁端部ヘラアテ面トリ
7	坏	口(14.0)	W+W' 少	橙~黒褐	25	口縁端部弱いヘラアテ面トリ
8	坏	口(14.0)	B+R+W少	橙	30	

9	坏	口(12.0)	R多+W+W'	橙	40	内面風化
10	坏	口(15.0)	B+W+W'	橙	口縁 30	
11	坏	口14.0 高5.0	B+R+W+W' 少	(内)赤褐～明赤褐 (外)明赤褐～橙	100	No.60。内面に黒色の付着物と紅色の変色
12	坏	口13.6 高5.0	B+R+W+W' 少	明赤褐	100	No.61。
13	坏	口14.4 高4.8	B+R多+W+W'	明赤褐	100	No.63。器面風化
14	坏	口(14.0)	B+R多+W+W'	橙	20	
15	坏	口(16.0)	B+R+W	橙	20	No.13。
16	坏	口14.0 底3.7 高5.0	B+R+W+W' 少	橙	100	No.6。
17	碗	口(15.0) 底4.6 高5.1	B+W+W'	橙	40	No.59。内面風化著しい
18	坏	口15.0 底4.0 高5.0	B+R多+W+W'	(内)明赤褐 (外)明赤褐～橙	100	No.64。器面風化
19	碗	口(14.0)	R	橙	30	No.20。
20	碗	口(13.0)	W多+W'	橙～黒褐	15	No.30。
21	碗	口(13.0)	R+W+W'	橙～にふい褐	40	No.18。
22	碗	口(16.0)	B+R多+W+W'	橙	口縁 5	口縁端部面トリ 風化著しい
23	鉢	口(21.0)	R+W	橙	10	
24	鉢	口21.6 底5.3 高15.7	B+R+W+W'+砂少	赤褐	95	No.67。口縁端部面トリ 内外面に黒色部分
25	鉢	口25.6 底7.9 高10.0	B+R+W+W'+砂少	(内)明赤褐 (外)赤褐	100	No.8。胴部外面に黒色部分
26	高坏	口18.2 脚13.4 高14.5	B+R+W+W'	(内)明赤褐 (外)明赤褐～橙	100	No.11。坏部内面に黒色の付着物 外面に黒色部分
27	高坏	口17.4 脚13.8 高14.2	B+R+W+W'	明赤褐～橙	95	No.2。外面に黒色部分
28	高坏	口18.2 脚13.4 高13.9	B+R+W+W'	橙～明赤褐	100	No.9。外面に黒色部分
29	高坏	口17.4 脚13.6 高13.6	B+R+W+W'	赤褐	100	No.3・65。口縁端部面トリ 脚端部面トリ 外面に黒色部分
30	高坏	口17.2 脚11.8 高13.5	B+R+W多+W'	明赤褐	95	No.68。
31	高坏	口17.0 脚12.8 高16.1	B+R+W	にふい赤褐	80	No.7。坏部・脚部接合面積拡大のため線刻(投鋳技法と同様)
32	高坏	口17.0 脚13.2 高16.4	B+R+W+W'	橙	95	No.12。口縁端部面トリ
33	高坏	口17.0 脚13.8 高17.3	B+R+W+W'+砂少	明赤褐	95	No.13。口縁端部面トリ
34	高坏	口(17.0)	B+R+W+W'	(内)明赤褐～にふい赤褐 (外)赤褐～にふい赤褐	70	No.55。内外面に黒色部分
35	高坏		B+R+W+W'	(内)明赤褐～にふい赤褐 (外)赤褐～にふい赤褐	70	No.42。内外面に黒色部分
36	高坏	口(18.0)	W+W' 少	にふい赤褐	口縁 10	口縁端部ヘラアテ面トリ
37	高坏	口(20.0)	B+R+W	橙	口縁 25	口縁端部ヘラアテ面トリ

38	高坏	口19.4 脚18.8 高15.8	B+R+W+W' 少	明赤褐～橙	100	No.4。口縁端面トリ 脚端面トリ
39	高坏	口(23.4) 脚18.6 高20.7	B+R+W+W' 少	明赤褐	100	No.5・66。
40	甕	口(12.0)	W+W'	橙～にふい黄橙	口縁 30	
41	壺	口(18.0)	B+R+W	橙～黒褐	口縁 15	
42	甕	口(17.0)	B+W+礫	にふい橙	口縁 25	No.10。
43	甕	口(17.6)	B+R少+W+W'	にふい赤褐～黒褐	口縁 25	No.28。
44	壺	底6.0	W	橙	底部 80	底部ケズリ後周辺ナデ
45	甕	底6.6	R+W	にふい赤褐	底部 50	
46	壺	底8.0	R+W+W'+礫	橙～にふい橙	底部 100	No.15。
47	甕	底(5.0) 孔(3.0)	B+R多+W+W'	橙	底部 30	No.50。
48	壺	底8.4	R+W多	橙	底部 100	底部一方向のケズリ
49	甕	口(19.6)	B+R+W+W'+礫	にふい橙	口縁 20	No.44。
50	甕	口(20.0)	W+礫	橙～灰褐	口縁 20	No.39。
51	甕	口17.0 底(8.2) 高29.0 胴23.6	B+R+W多+砂多+礫多	にふい橙～褐	85	No.56。胴部外面下半黒色



第469図 第97号住居跡遺物出土状況



第470图 第97号住居跡出土遺物

第97号住居跡 (第470図)

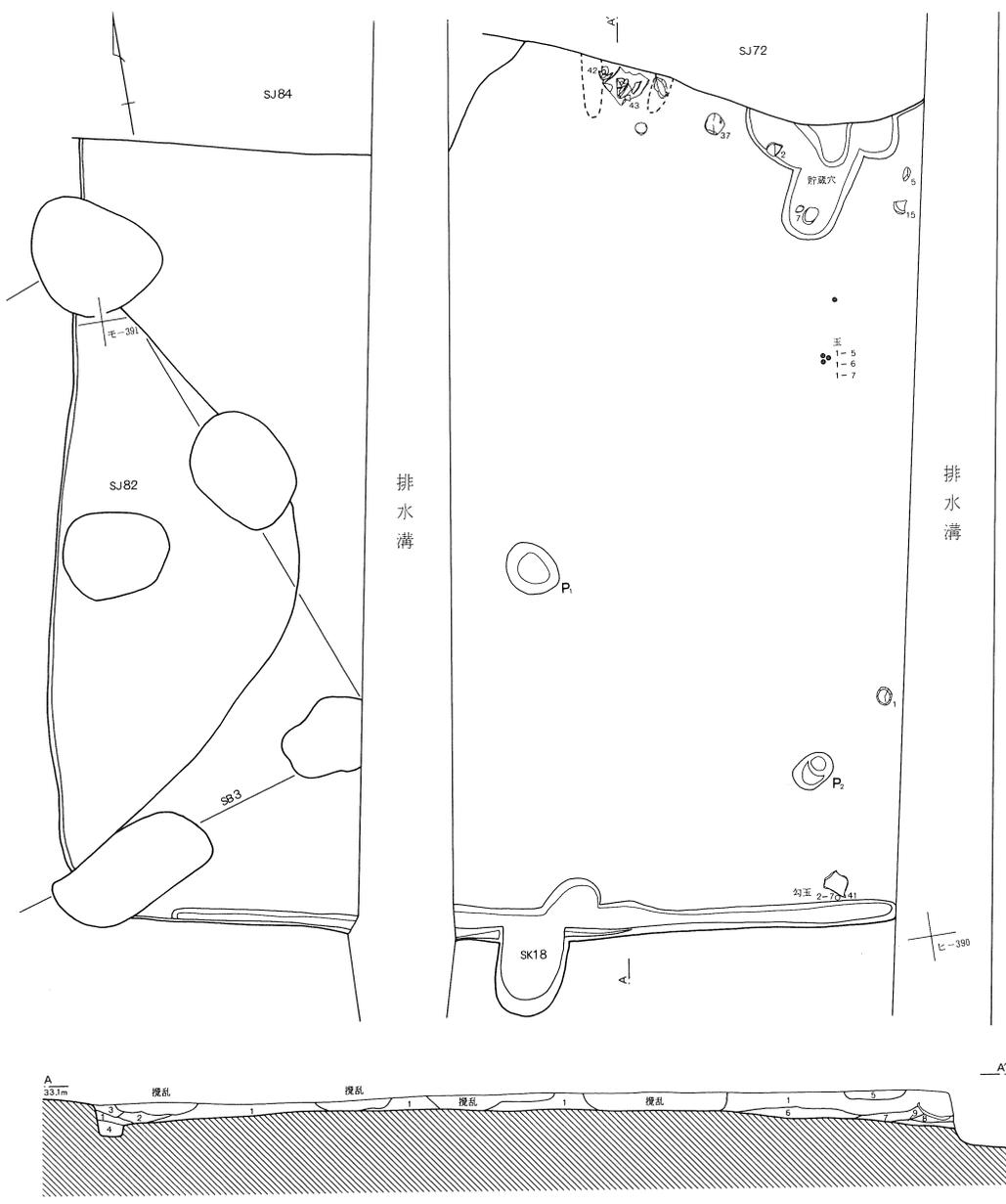
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口18.6 高3.5	B+W	灰	100	No.4。外面右回転ヘラケズリ ツマミ端部欠損
2	蓋	口(19.0) 高2.5 つまみ5.0	B+W+W'	灰	100	No.3。外面回転ヘラケズリ
3	坏	底(7.4)	W	灰	30	回転糸切り後、周辺ヘラケズリ
4	盤	口19.0 高3.1	B+R+W+W'	(内)橙 (外)暗赤褐 ~明赤褐	95	No.14。
5	坏	口(16.0)	B+R+W	明赤褐~暗赤褐	5	
6	坏	口19.0 高4.5	B+R+W+W'	(内)暗赤褐~橙 (外)橙	90	No.8。放射状暗文 内外面黒色
7	甕	口(24.0)	B+R多+W+W'	にふい橙	口縁 20	No.5。
8	甕	口(16.0)	B+W+W' + 礫	にふい橙	口縁 20	No.12。器面粗
9	壺	底6.5 胴24.4	B+R+W+W'	橙	90	No.1。胴部外面に黒色部分 底部周辺に粘土貼付
10	ミニチュア椀		B+R+W	橙	10	カマド。底部ケズリ
11	壺	底4.0	B+R+W	橙~黒褐	底部 50	No.11。底部ケズリ

第97号住居跡 (第465・469図)

セー395・396Gridに位置し、第96号住居跡の中に構築されている。第4号掘立柱建物跡とも重複し、新旧関係は第96号住居跡よりも新しく、第4号掘立柱建物跡よりも古い。規模は主軸辺2.64m・短辺2.22m、深さ0.08~0.10mで、主軸方位はN-58°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は廻っていない。カマドは東壁に構築され、全長0.76m、焚き口幅0.48mの規模をもつ。燃烧部が壁外に掘り込まれ、不整形で、摺り鉢状に掘り窪められている。住居中央部には円形の土坑が確認され、東西0.49m・南北0.65m、深さ0.19mを測る。貯蔵穴・ピットは検出されていない。遺物はカマドおよび土坑周辺部から出土し、第96号住居跡のものも混入している。ほかに、磨石2点(12:9.4×10.7×2.3cm・330g、13:19.0×18.4×4.3cm・1,865g)、編物石4点がある。

第98号住居跡 (第471図)

ヒー389・390・391、モー389・390・391Gridに位置している。住居跡中央部・東壁付近を調査のための排水溝によって削平している。第72・74・82・84号住居跡・第3号掘立柱建物跡と重複している。新旧関係は第72・82・84号住居跡・第3号掘立柱建物跡よりも古く、出土遺物から第74号住居跡よりも新しい。土取りによる削平のため、深さは0.18~0.22mと浅い。一辺が7.0~7.5mと大型である。主軸方位はN-9°-Eを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、幅0.10~0.17m、深さ0.06~0.11mの壁溝が南壁に廻っている。カマドは北壁に構築されているが、第72号住居跡との重複のため、焚き口部のみが検出されている。焚き口幅0.38mを測り、袖部は痕跡のみ確認されている。火床面はよく焼け、炭化物が堆積している。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に設置されている。円形で、さらに中央部が掘り込まれ、また南部分が張り出している。東西1.25m、深さ

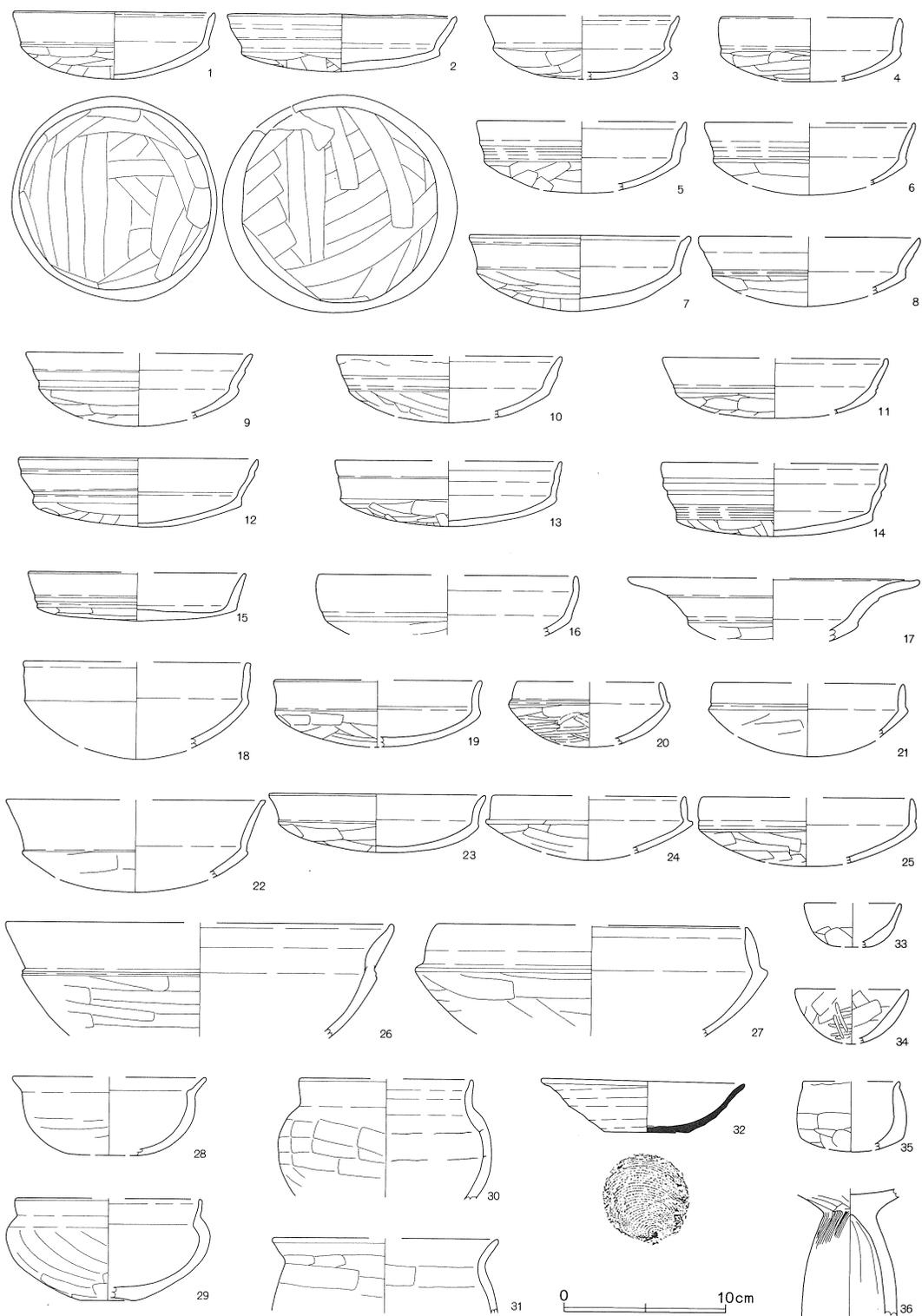


第98号住居跡

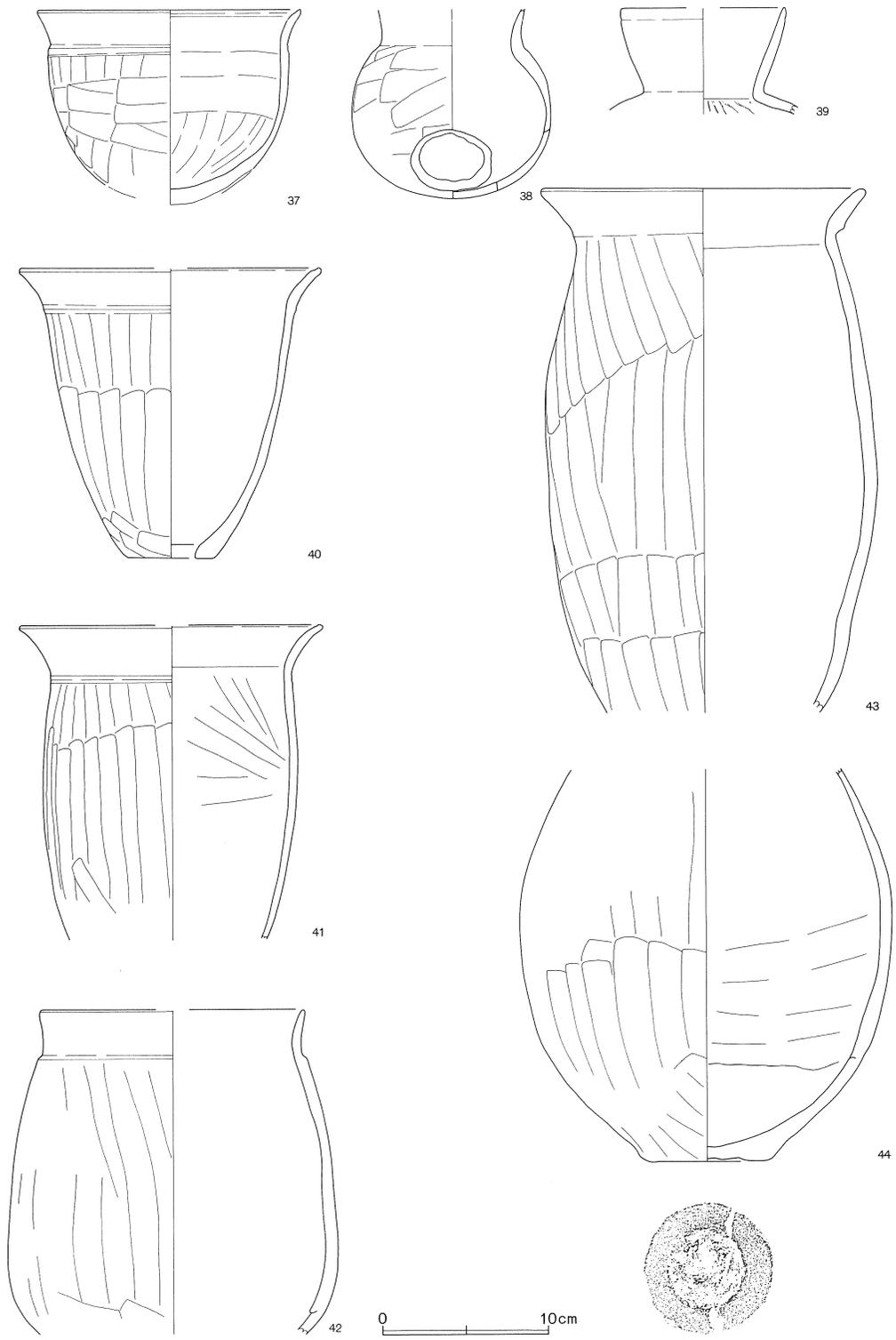
- 1 灰褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子多く含む。しまりあり。
- 4 褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり。
- 5 黄褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)わずかに含む。しまりあり。
- 6 灰褐色土 1に準ずる。焼土ブロック(3~5mm)若干含む。しまりあり。
- 7 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物若干含む。しまり・粘性あり。
- 8 赤褐色土 焼土ブロック層。灰混入。しまり欠。
- 9 黒褐色土 炭化物層。しまり弱。



第471図 第98号住居跡



第472图 第98号住居跡出土遺物(1)

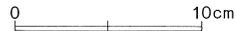


第473図 第98号住居跡出土遺物(2)

第98号住居跡(第472・473区)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.2 高4.1	B+R+W少	灰褐	95	No.3。口縁端面トリ 脆い
2	坏	口14.0 高3.6	B+W+W'	黒褐	95	No.10、カマド。口縁端面トリ沈線 内外面黒色
3	坏	口(12.0) 高(3.9)	R+W	橙～黒褐	20	口縁端面弱いヘラアテ
4	坏	口(11.0)	B+R+W	橙	20	貼り床一括。
5	坏	口(13.0)	B+R+W	橙	25	No.7。口縁端面ヘラアテ
6	坏	口(13.0)	B+R+W+W'	橙	30	口縁端面弱いヘラアテ
7	坏	口13.0 高4.7	B+R+W	橙	85	No.8・9。口縁端面トリ沈線 外面に黒 色部分
8	坏	口(13.6)	B+R+W	橙～浅黄橙	15	外面風化
9	坏	口(14.0)	B+R+W+W'	浅黄橙～にふい黄 橙	20	
10	坏	口(14.0)	B+W	橙	25	口縁端面弱いヘラアテ
11	坏	口(14.0)	B+W	橙～浅黄橙	20	口縁端面弱いヘラアテ
12	坏	口13.6 高4.2	B+R+W多	赤褐	75	内外面に黒色部分 器面粗
13	坏	口(14.0) 高4.0	W+W'	にふい橙～褐灰	25	
14	坏	口(14.0) 高4.5	R少+W+W' 少	橙	20	口縁端面弱いヘラアテ
15	盤	口(13.2) 高3.0	B多+R	にふい黄橙	30	No.6。外面に黒色部分
16	坏	口(16.0)	B少+R+W+W' 少	橙～浅黄橙	10	
17	高坏	口(18.0)	B+W	にふい橙～灰褐	坏部 10	口縁端面弱いヘラアテ
18	坏	口(14.0)	R多+W	にふい橙	25	口縁端面トリ 外面風化
19	坏	口(12.6)	B+R+W	橙	40	
20	坏	口(9.0)	B+R多+W	橙	45	
21	坏	口(12.0)	B+W	橙	20	
22	坏	口(16.0)	R+W+砂	橙	10	口縁端面トリ
23	坏	口(13.2) 高3.6	B+R+W少	橙	60	外面に黒色部分
24	坏	口(12.0)	B+W	にふい赤褐	25	口縁端面ヘラアテ
25	坏	口(13.0)	B+W+砂	橙	20	
26	坏	口12.6	W	灰	80	ピット2。回転糸切り離し 火だすき 風の痕跡
27	鉢	口(19.0)	B+R+W	橙	15	外面に黒色部分
28	碗	口(12.0)	B+R+W+W'	橙～黒褐	15	風化
29	鉢	口(11.2) 底3.2 高6.3 胴12.6	B+R+W	橙	20	口縁端面トリ

30	鉢	口(10.4) 胴13.2	B+R多+W	橙	25	
31	甕	口(14.0)	B+R+W	橙	口縁 30	
32	鉢	口(24.0) 高2.4	B+R+W	橙	口縁 10	
33	ミニチュア ア坏	口(6.0)	R+W	橙	20	風化
34	ミニチュア ア碗	口(7.0)	R+W	にふい橙	20	
35	ミニチュア ア碗	口6.0	R+W	橙	25	風化著しい
36	高坏		B+R+W	(内)にふい褐 (外)橙	脚部 20	
37	鉢	口16.6 高11.7	B+R+W	(内)橙 (外)橙~明赤褐	90	No.11。底部は熱を受けて器面剥離 帯状の黒色部分が残
38	鉢	胴12.0	B+R+W	橙	30	焼成後の穿孔 胴部に黒色部分
39	壺	口(10.0)	R+W	橙	口縁 25	風化
40	甕	口(18.0) 底5.4 高17.4	B多+W	にふい黄橙	30	外面に黒色部分
41	甕	口(17.8)	B+R+W+砂少	橙	15	No.1。胴部外面に黒色部分
42	甕	口(15.6) 胴(20.6)	B+R+W少	明赤褐	30	No.14。
43	甕	口19.5	B+R+W+礫多	橙	70	No.13、カマド一括。胴部外面下位黒色
44	甕	底8.1 胴22.4	B+R+W少	(内)灰黄褐 (外)橙	40	底部周辺に粘土貼付 底部黒色



第474図 第100号住居跡出土遺物

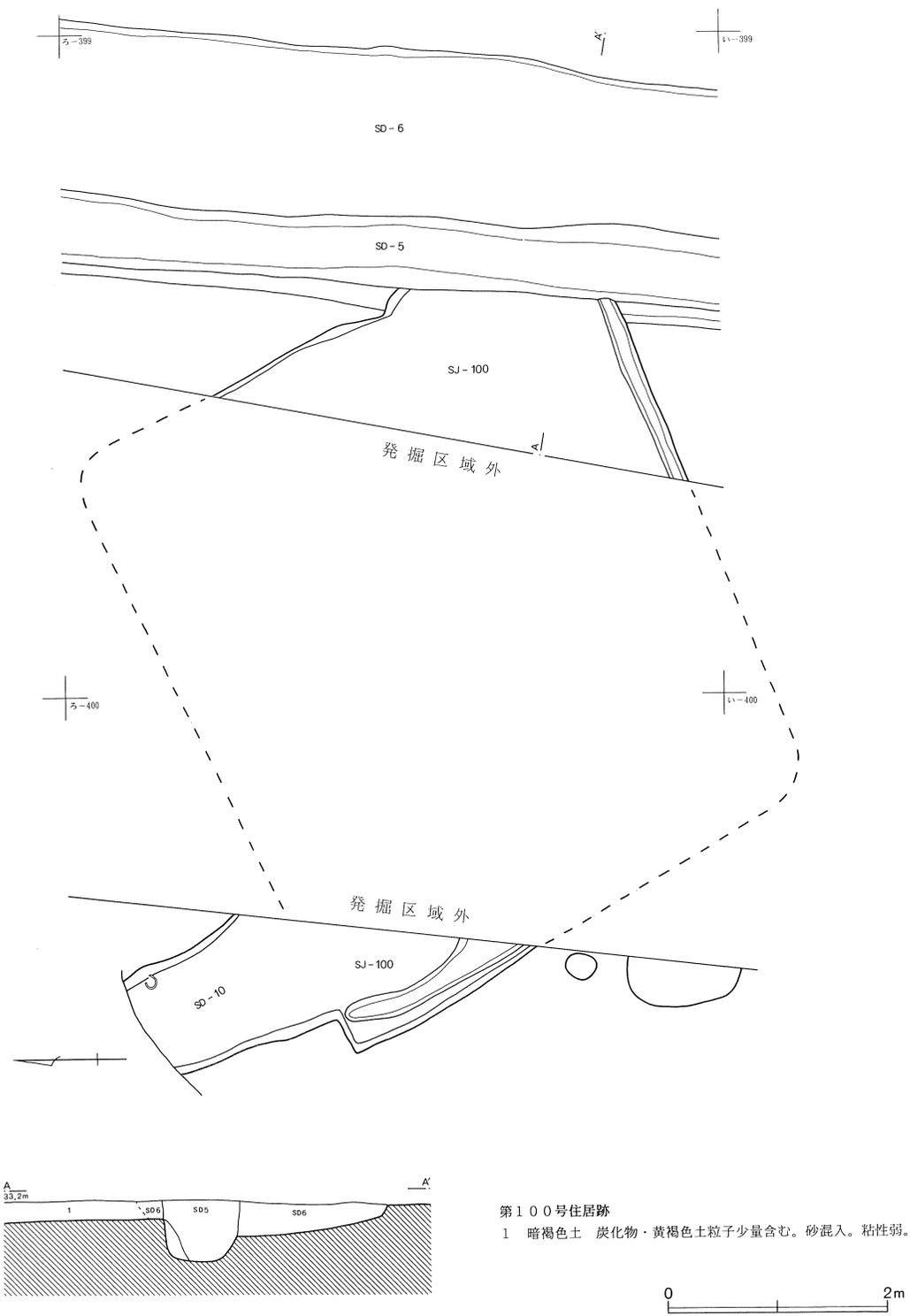
第100号住居跡 (第474図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(12.0)	B多+R+W	にふい橙~黒褐	口縁 5	
2	坏		W	灰	底部 20	回転糸切り離し

0.27mを測る。ピットは2基確認されている。遺物はカマドおよび貯蔵穴周辺部から出土し、重複している遺構からの混入品も認められている。石製勾玉1点、土製小玉3点、土錘6点、編物石2点、石鏃1点も検出されている。

第100号住居跡 (第475図)

いー399・400Gridに位置し、第2・3発掘区にまたがっている。大部分が発掘区域外にかかり、東コーナー部・西コーナー部のみ確認され、それぞれ第5・10号溝と重複している。規模は推定で東西5.80m・南北5.15mを測る。カマド・貯蔵穴・ピットは検出されていない。



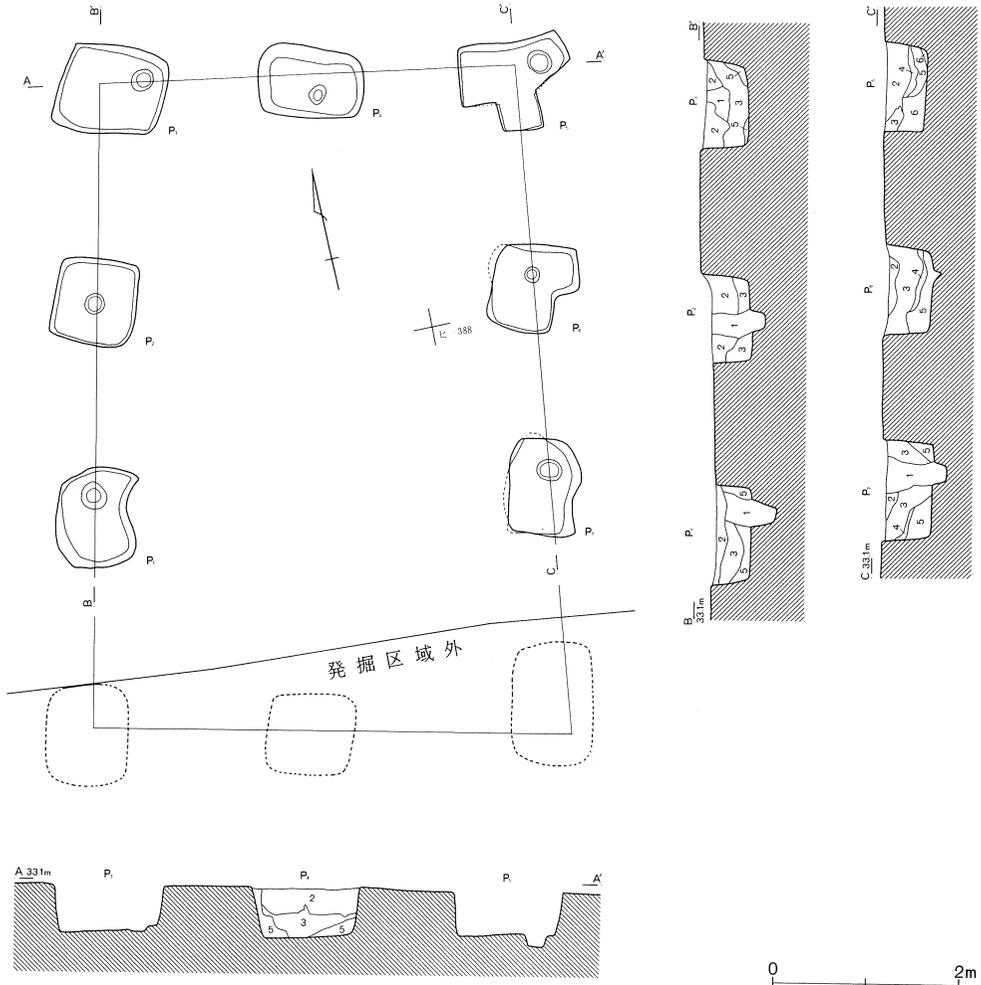
第100号住居跡  
 1 暗褐色土 炭化物・黄褐色土粒子少量含む。砂混入。粘性弱。

第475図 第100号住居跡

## (2) 掘立柱建物跡

### 第1号掘立柱建物跡 (第476図)

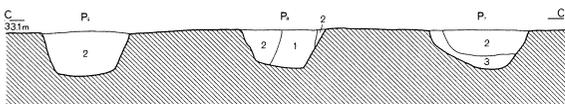
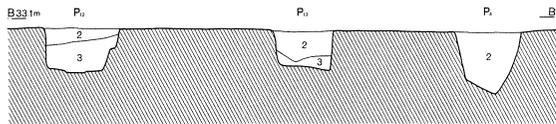
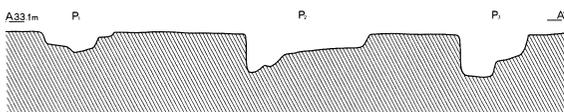
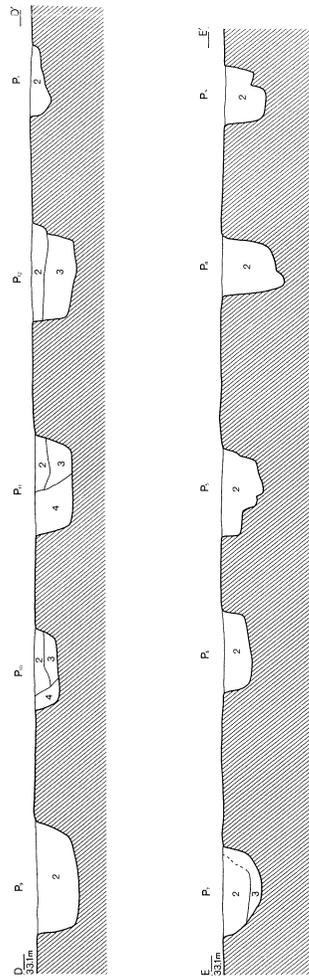
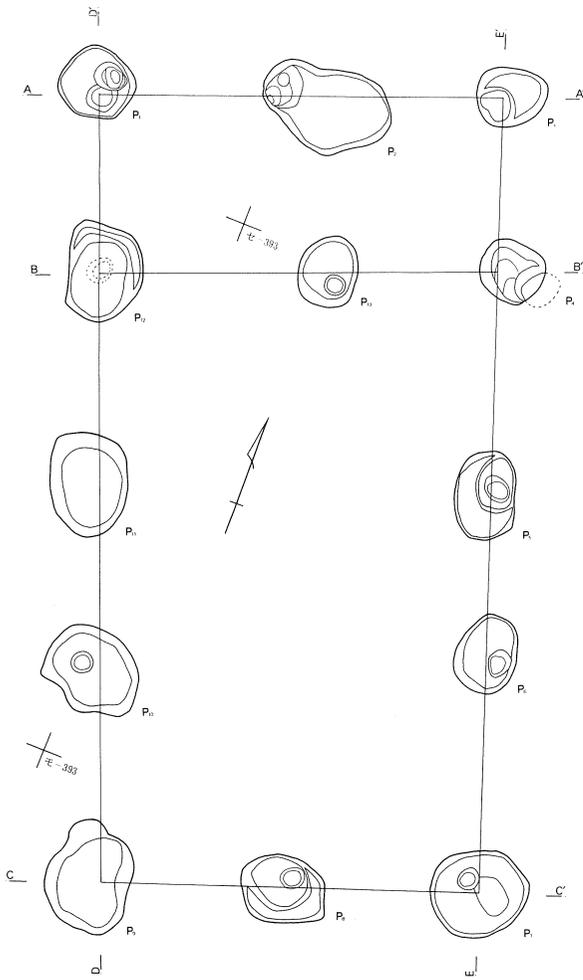
エ—387・388、ヒ—387・388Grid に位置し、第67・74号住居跡と重複している。桁行3間×梁行2間(4.50m)の建物と考えられ、南面列が発掘区域外にかかっている。南側の梁行が長い台形



#### 第1号掘立柱建物跡

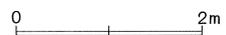
- 1 暗灰褐色土 焼土粒子(5~10mm)、炭化物粒子、暗黄色土、粘土少量含む。  
しまり・粘性あり。
- 2 暗茶褐色土 焼土粒子(3mm)、炭化物粒子(3mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 茶褐色土 焼土粒子(10mm)、炭化物粒子(5mm)、暗黄褐色土ブロック(3~5mm)  
少量含む。しまり・粘性あり。
- 4 灰褐色土 砂主体。暗黄褐色土ブロック(2mm)含む。しまり・粘性欠。
- 5 暗褐色土 焼土粒子(10mm)、炭化物粒子(5mm)少量含む。しまり・粘性あり。
- 6 暗黄褐色土 焼土粒子(1~2mm)少量含む。しまり・粘性あり。

第476図 第1号掘立柱建物跡

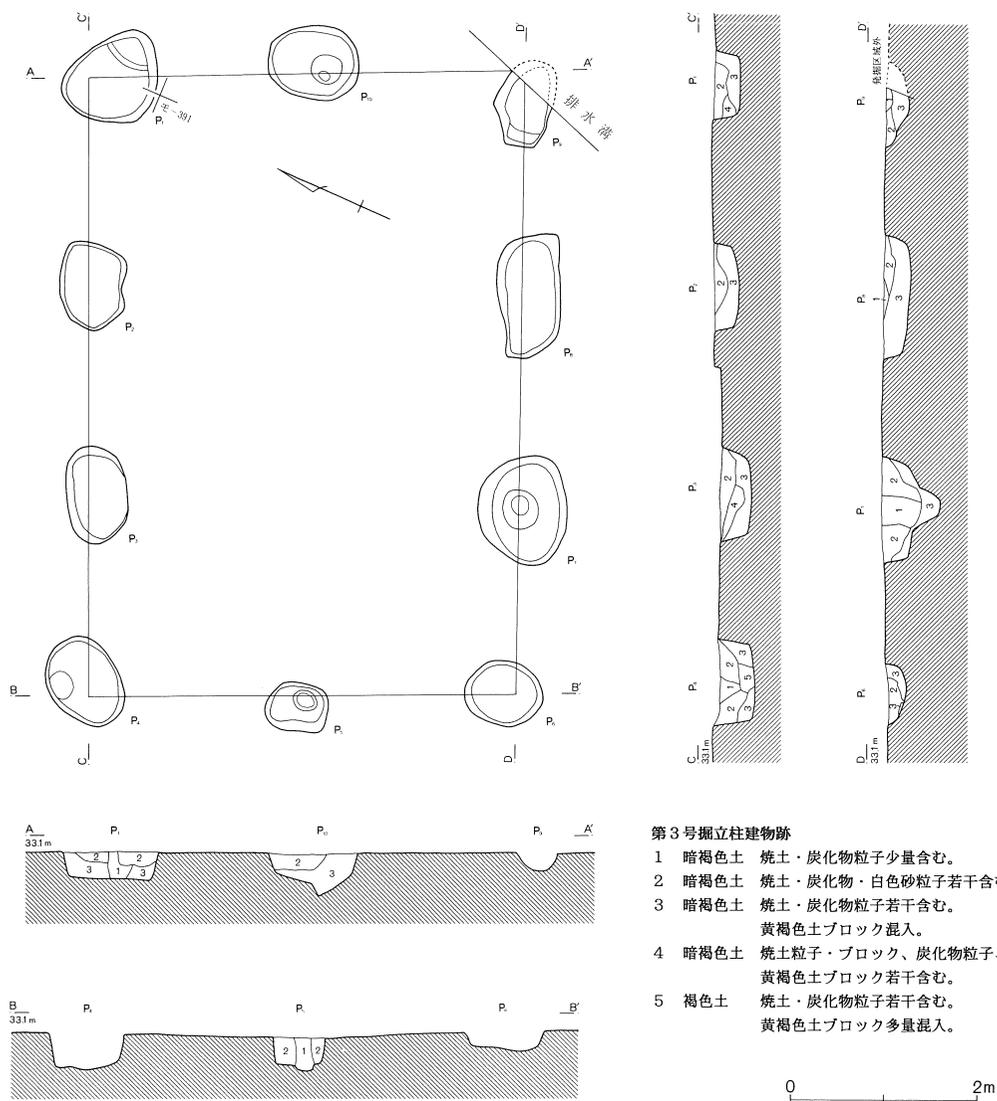


第2号掘立柱建物跡

- 1 黒褐色土 粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック(1cm)含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量、黄褐色土ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 2より黄色い。

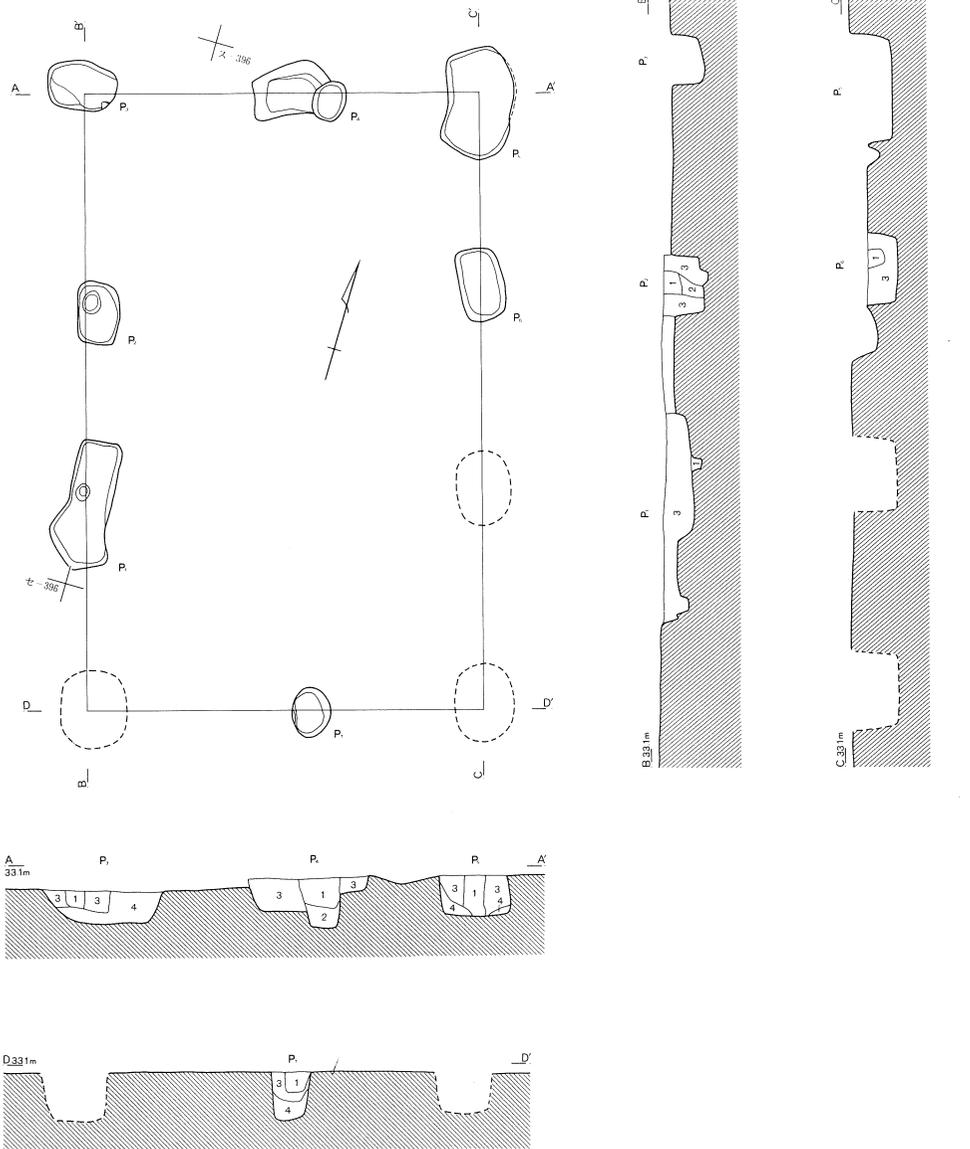


第477図 第2号掘立柱建物跡



第478図 第3号掘立柱建物跡

を呈している。主軸方位はN-10°-Eを測る。柱間は梁行が2.25m、桁行は2.05~2.35mで、中央1間は狭い。柱掘形は方形を基本とし、平均0.87×1.06mの規模である。深さは0.38~0.56mで、概ね直に掘り込まれている。底面は平坦である。柱痕は7基すべての柱穴から確認されているが、直線的には並ばず、特に北面の梁行では著しい。柱材の歪みを柱痕の位置によって調整しているものと思われ、その影響を受けて、柱掘形も変形している。また柱掘形の方向は主軸方向とも異なっている。柱痕は柱穴よりも深く掘り込まれ、覆土には少量の粘土が含まれている。遺物は重複している遺構のものが混入し、明確に本掘立柱建物跡に伴うものかの判断はつかない。

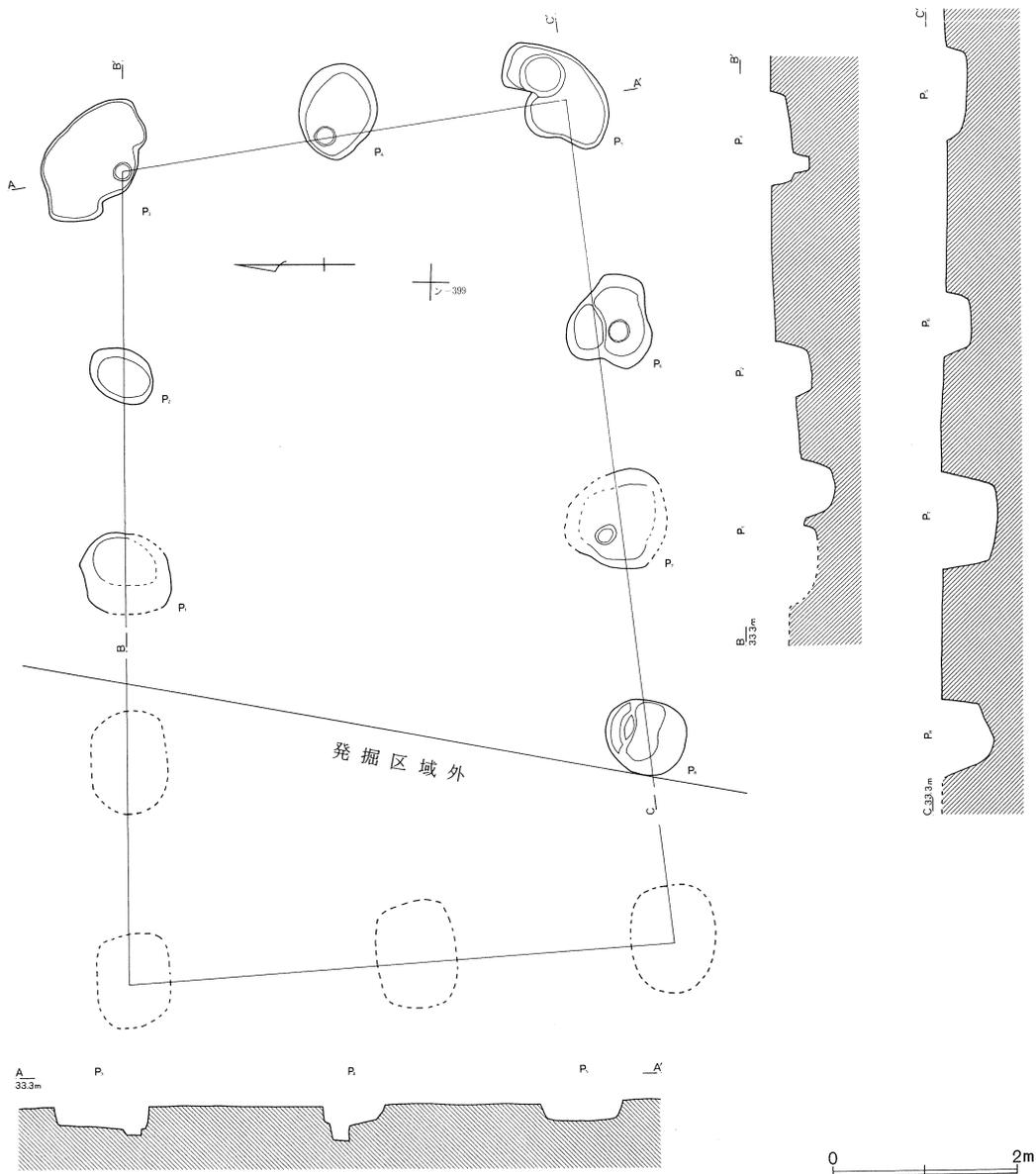


第4号掘立柱建物跡

- 1 黒褐色土 柱痕。焼土粒子多量、炭化物粒子少量含む。  
黄褐色土ブロック混入。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック多量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、褐色土粒子微量含む。

0 2m

第479図 第4号掘立柱建物跡

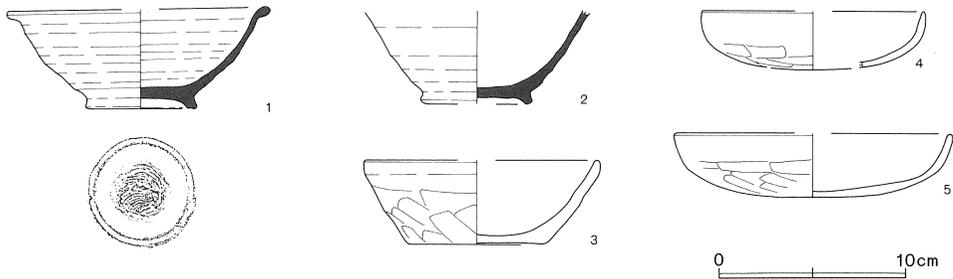


第480図 第5号掘立柱建物跡

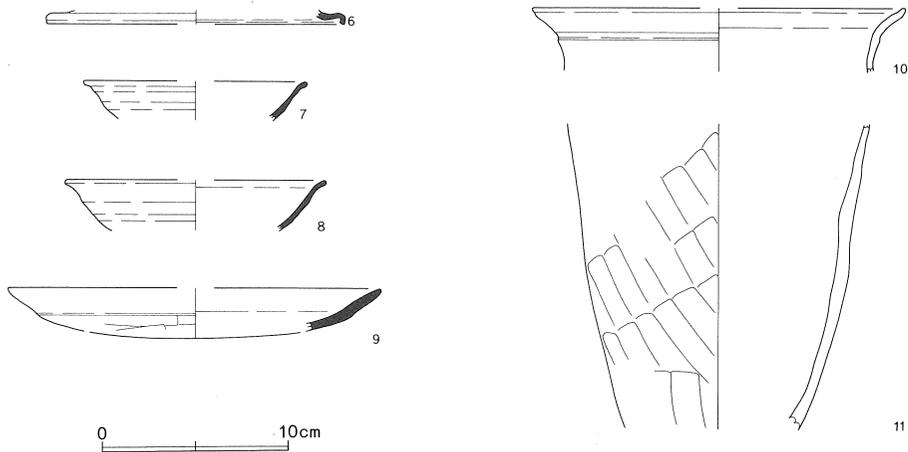
### 第2号掘立柱建物跡 (第477図)

ヒ—392、モ—392・393、セ—392・393Gridに位置し、第82号住居跡・第22号土坑と重複している。桁行3間(6.43~6.53m)×梁行2間(4.08~4.31m)の母屋に1間(1.89m)の底部が付属されている。主軸方位はN—17°—Wを測る。梁行の柱間は西側の方が広く、それぞれは一定していない。北面は西から2.57m・1.74m、南面は西から2.06m・1.91mである。特に底部が付設されている北面での差が大きい。桁行の柱間は中央1間が狭く1.88mで、ほかは平均2.30mのほぼ等間

SB2



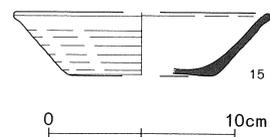
SB 3



SB4



SB5



第481図 掘立柱建物跡出土遺物

隔に配されている。柱掘形は楕円形を基本とし、規模は母屋と庇部では平面的には遜色がない。母屋は平均0.70×0.94m 庇部は中央部の規模が大きく0.94×1.43m、ほかは0.70×0.77mを測る。一方断面的には差があり、母屋が0.28～0.68m、庇部は0.14～0.28mで、浅い。柱痕は母屋で7基、庇部ではすべて確認されている。柱痕はほぼ直線的に並び、0.15～0.20mのわずかなズレを計測する程度である。遺物は柱掘形および柱掘形によって区画された範囲の遺構確認面から、土師器445片、須恵器49片が出土している。他の遺構との重複が少ないことから、本掘立柱建物跡に伴うものと思われる。

掘立柱建物跡 (第481図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	高台付椀	口(14.0) 台6.0 高5.4	B+礫少	灰	40	SB2 回転糸切り離し後、高台ナデツケ
2	高台付椀	台(5.4)	B+R+W	にふい橙~灰	30	SB2 回転糸切り離し後、高台ナデツケ 酸化焰焼成
3	坏	口12.4 底7.0 高4.5	B+R少+W少	褐灰~にふい橙	60	SB2
4	坏	口(11.8)	B+W少	橙	口縁 20	SB2
5	坏	口(14.6) 高3.4	B+R+W少	橙	口縁 25	SB2
6	蓋	口(16.0)		灰	口縁 10	SB3 No.1。
7	坏	口(12.0)	B+R	浅黄橙	10	SB3 No.5。酸化焰焼成
8	坏	口(14.0)	W	灰	10	SB3 No.7。
9	皿	口(20.0)	B+R+W	灰	口縁 10	SB3 No.6。
10	甕	口(20.0)	B+W+W'	橙	口縁 10	SB3 No.3。
11	甕		B多+R多+W	(内)橙 (外)橙~にふい橙	30	SB3
12	坏	口13.6	W+礫少	灰	口縁 25	SB4
13	坏	底5.6	B+W+礫少	灰	40	SB4 回転糸切り離し
14	坏	底6.2	B+W	灰~明褐灰	30	SB4 回転糸切り離し
15	坏	口(13.5) 底(7.8) 高3.4	B+W	灰白	口縁 30	SB5 回転糸切り離し 風化著しい

第3号掘立柱建物跡 (第478図)

エー391、ヒー390・391、モー390・391Gridに位置し、第81・82・98号住居跡と重複している。桁行3間(6.75m)×2間(4.65m)の建物跡である。主軸方位はN-68°-Eを測り、桁行を東西に向けている。梁行の柱間は2.16~2.54mと一定せず、北側の方が広い。桁行の柱間は東から西に向かって狭くなり、平均2.39m・2.28m・2.08mを計測する。柱掘形は隅丸方形を基本とし、平均0.73×1.00mの規模である。深さは0.30m前後の浅いものが多く、概ね直に掘り込まれている。底面は平坦なものが多い。柱痕は3基の柱穴から明確に確認されている。またP4からも柱痕状の痕跡が認められているが、これを柱痕として柱痕間を直線で結ぶとたいへん歪な建物跡が復元される。遺物は土師器318片、須恵器15片、白玉1点、不明鉄製品1点、縄文土器2片が出土している。第3号掘立柱建物跡は全面が他の遺構と重複していることから、これらの遺構からの混入品が多く含まれているものと思われる。

第4号掘立柱建物跡 (第479図)

セー395・396、スー395Gridに位置し、第96・97号住居跡と重複している。桁行3間(6.60m)×梁行2間(4.26m)の建物跡で、主軸をN-17°-Wに向けている。土取りによる削平を受け、南西コーナー部1基、南東コーナー部2基の柱掘形は検出されていない。梁行の柱間は北面の西側

が2.34m、東側が1.92mを測る。桁行の柱間は中央部が2.04mと若干狭く、北側は2.22m、南側は推定で2.36mである。柱掘形は方形を基本とし、平均0.52×0.78mを測る。深さは0.33～0.43mと比較的浅いが、南面のP7のみは0.52mとやや深い。ほぼ直に掘り込まれ、底面は平坦である。柱痕は不明瞭ながらも総ての柱穴から断面によって確認されている。遺物は土師器84片、須恵器16片、白玉1点が出土しているが、大半の部分が重複していることから、明確に本掘立柱建物跡に伴うものかどうかの判断はつかない。

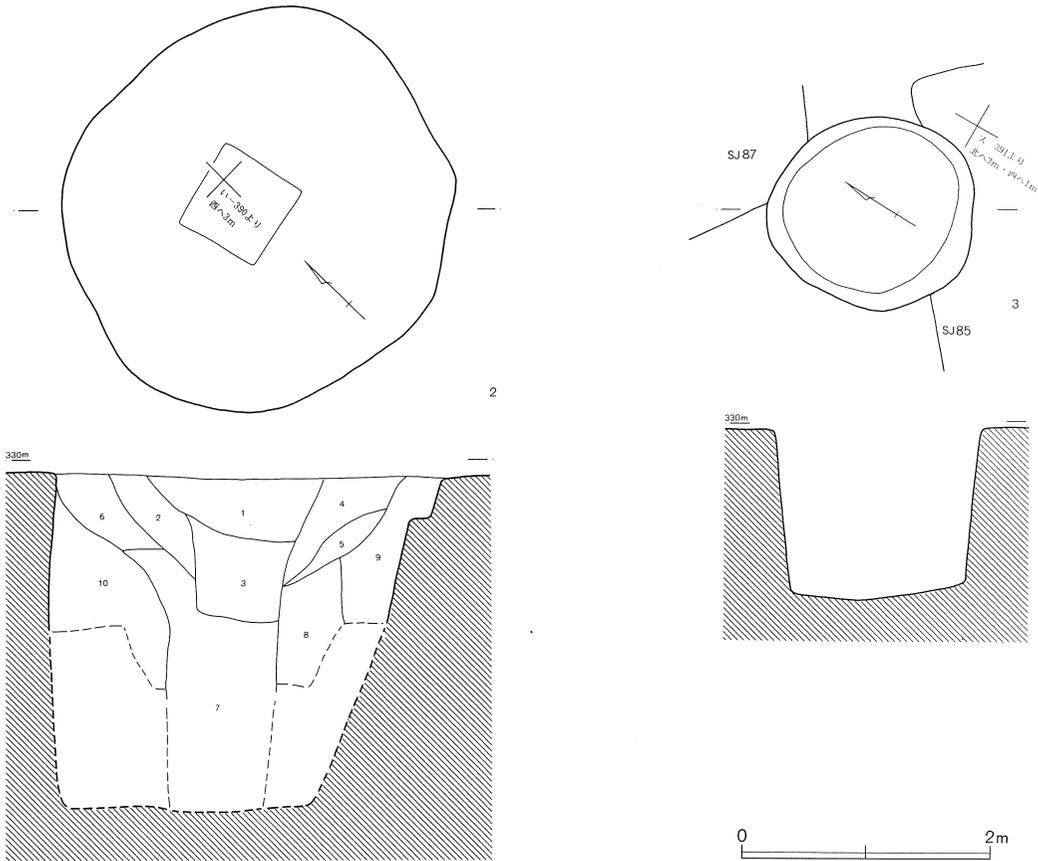
#### 第5号掘立柱建物跡（第480図）

スー398・399、ンー398・399Gridに位置し、第5・6・7・9号溝と重複している。西側が発掘区域外にかかっている。他の掘立柱建物跡を考慮にいと桁行3間×梁行2間の建物跡とも考えられるが、P4に対応すべき柱穴が検出されていないことから、桁行4間×梁行2間の建物跡と想定している。主軸をN-84°-Eに向けている。東面の梁行長は4.90mを測り、西面はこれに比べて長くなる台形を呈している。東面梁行の柱間は北から2.24m・2.66mである。桁行の柱間は中央2間が狭くなる傾向が窺われる。北面は東から2.24m・2.06m、南面は東から2.58m・2.17m・2.18mを測り、南北面でのバラツキが大きい。柱掘形は円形を基本とし、0.56×0.76m～0.93×1.30mと規模はまちまちで、平均は0.87×1.05mである。深さは0.20m前後と浅く、P7・P8だけは0.60mと深い。柱痕は柱穴8基のうち5基で確認されているが、すべてを直線的に結ぶことはできない。遺物は土師器120片、須恵器8片が出土しているが、図示し得る遺物は須恵器坏形土器1点のみである。重複している溝の年代が明確ではないが、検出された遺物の年代を第5号掘立柱建物跡の年代として捉えられそうである。ほかに白玉1点がある。

### (3) 井戸跡

#### 第2号井戸跡 (第482図)

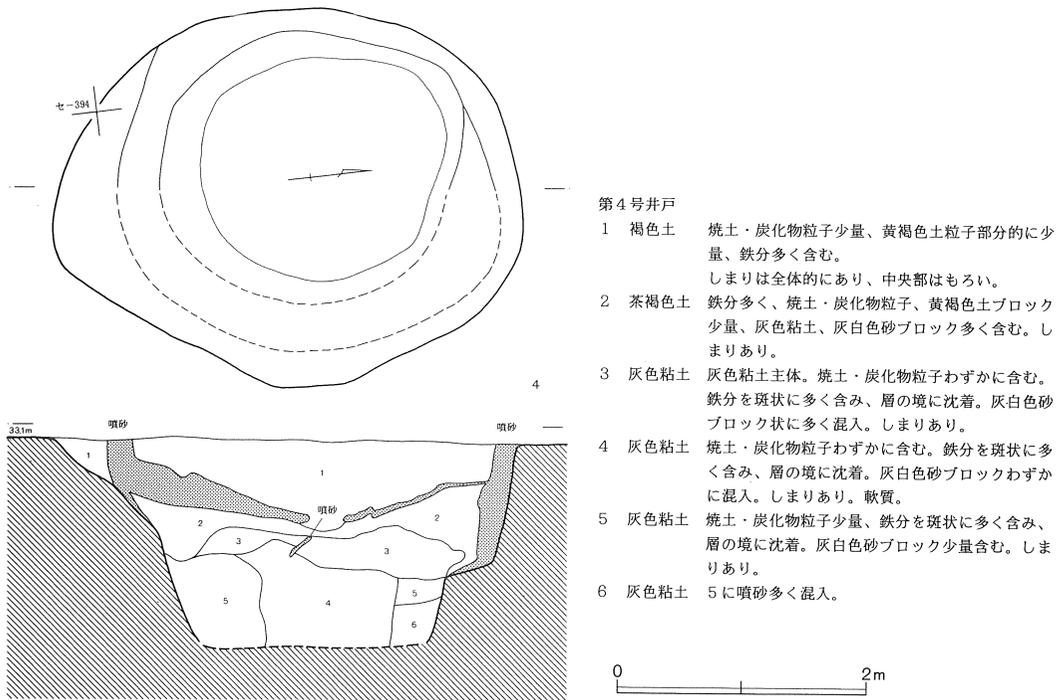
ン—390、い—390Grid に位置している。不整円形を呈し、東西3.15m・南北2.95mを測る素掘りの井戸跡である。深さは2m以上あり、調査の安全を計るため全掘していない。ピンポールを差し込んだ感触から、深さは2.5~3.0mと推定される。深さ1.70m以下の部分については水溜部が設



#### 第2号井戸

- 1 黒褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子微量含む。しまり欠、粘性やや欠。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまり・粘性やや欠
- 3 黒褐色土 1より茶色い。焼土粒子少量、炭化物粒子多量含む。粘性ややあり。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子微量、黄褐色土ブロック多量含む。黄色味をおびる
- 5 暗褐色土 4より黄褐色土ブロック少量含む。
- 6 暗褐色土 4・5より小粒径の黄褐色土ブロック含む。
- 7 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック微量含む。しまり・粘性欠。
- 8 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。
- 9 暗黄褐色土 焼土ブロック、炭化物・暗褐色土粒子微量含む。
- 10 暗黄褐色土 炭化物・暗褐色土粒子微量含む。

第482図 第2・3号井戸



第483図 第4号井戸

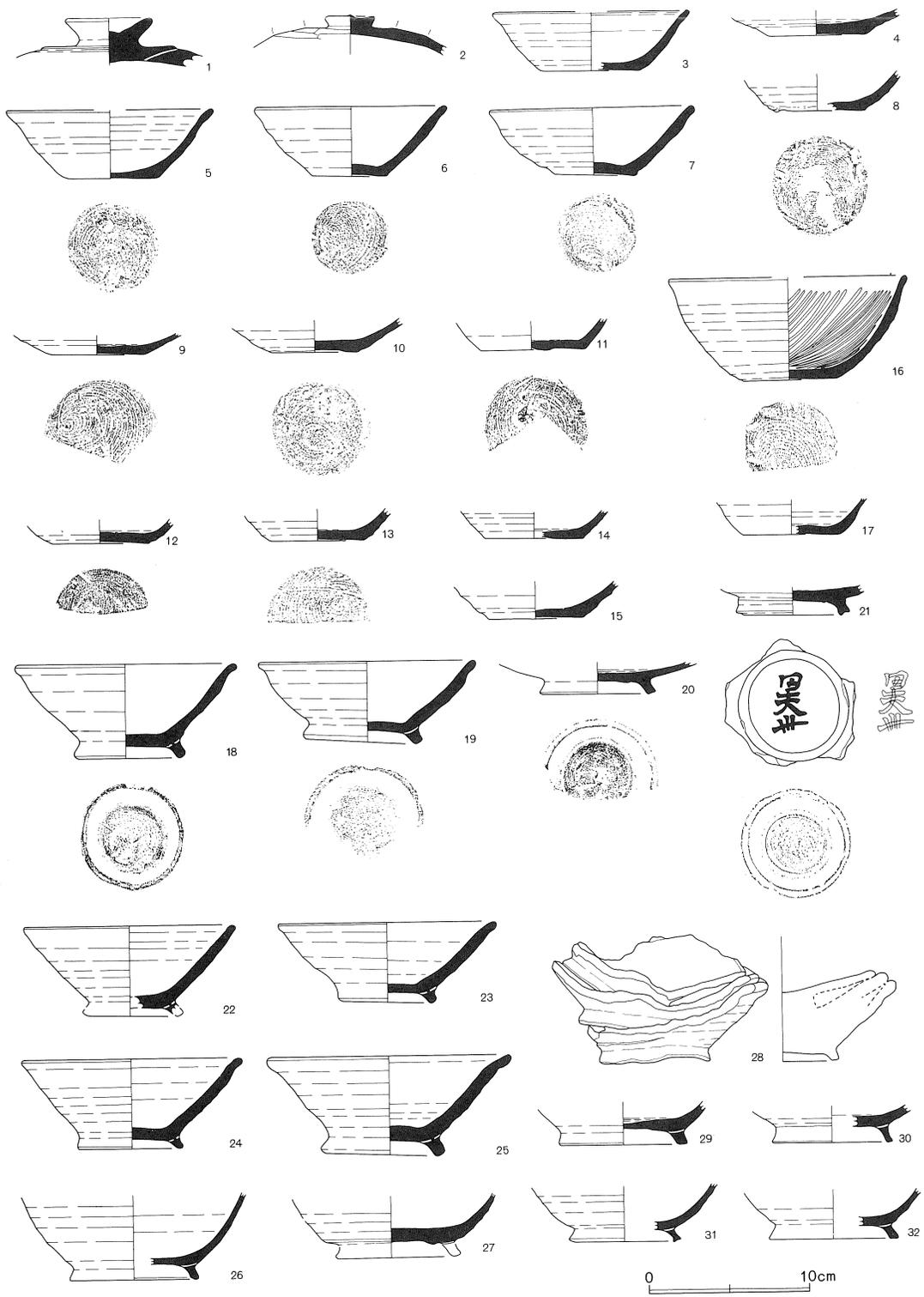
置され、東西0.73m・南北0.71mを測る方形を呈している。ピンボールによって石組や木枠・曲物などの有無を確認したが、これらは確認されていない。遺物は多く、須恵器が主体に出土している。3個体が焼成時に癒着している高台付椀形土器の存在は、現在発見されていないものの、周辺での須恵器生産を想起させる。また「田夫□」の墨書土器は、第19号土坑の墨書と同一人物の筆跡である可能性がある。さらに内外面に粘土紐積上痕を明瞭に残存している筒形土器は、遺構としては検出されていないが、井戸祭祀と関連する遺物と考えられる。ほかに土玉4点がある。

### 第3号井戸跡 (第482図)

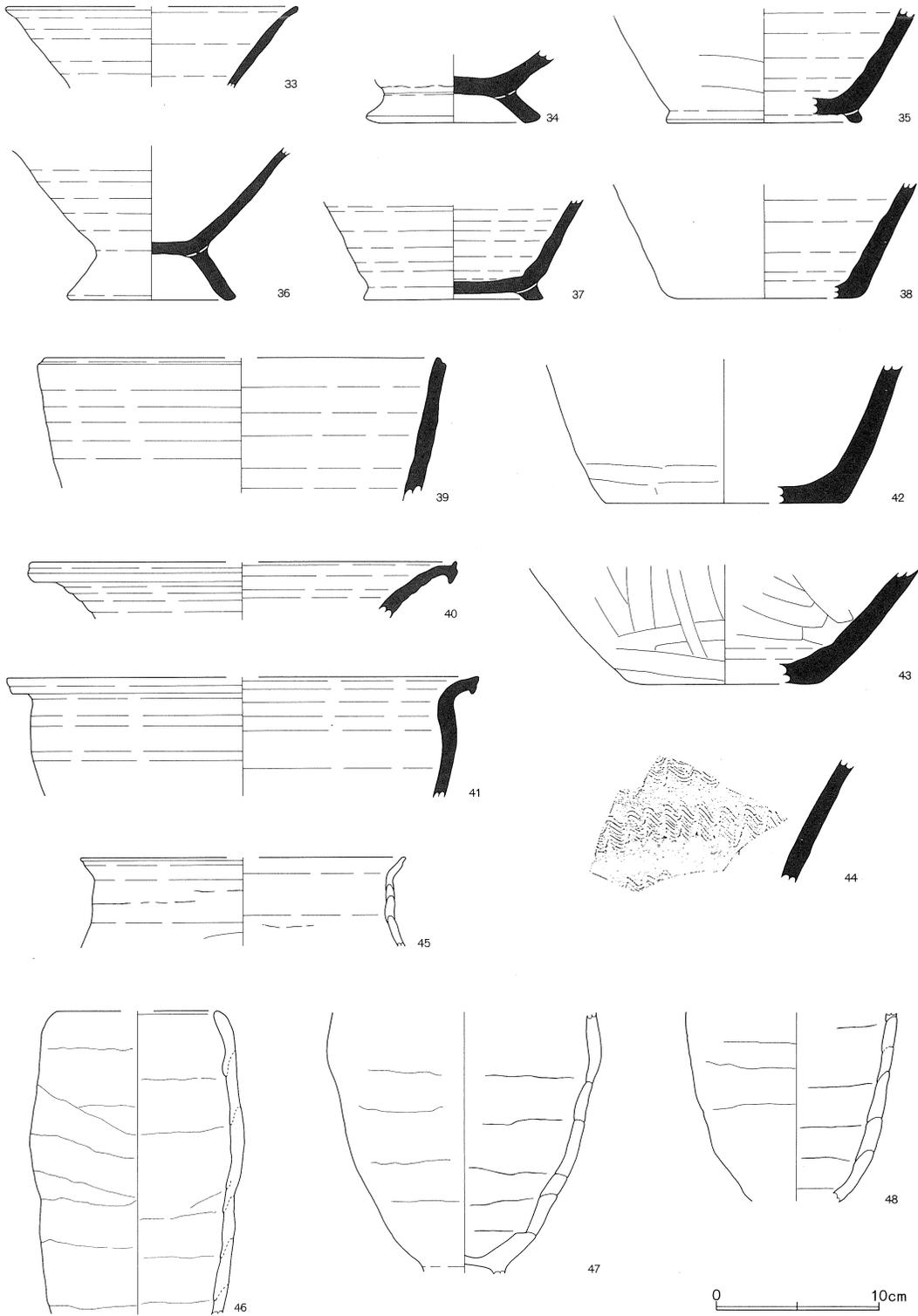
スー391Gridに位置し、第85・87号住居跡と重複している。円形を呈し、規模は東西1.55m・南北1.60m、深さ1.36mを測る。ほぼ直に掘り込まれる素掘りの井戸跡で、底面は平坦である。遺物は少ない。

### 第4号井戸跡 (第483図)

モー393、セー393・394Gridに位置し、噴砂の亀裂が入り込んでいる。不整楕円形を呈し、規模は東西3.04m・南北3.74mを測る。遺跡の冠水のために全掘できなかったが、深さ1.65mと推定される。素掘りの井戸跡で、段を形成して掘り込まれている。遺物は少ない。



第484图 第2号井戸出土遺物(1)



第485図 第2号井戸出土遺物(2)

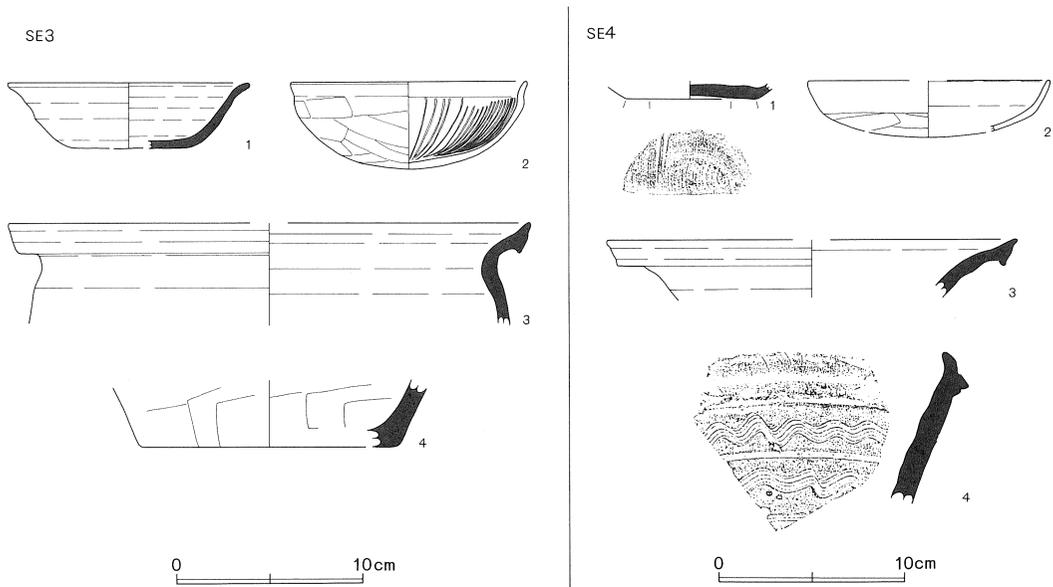
第2号井戸 (第484・485図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	つまみ5.4	B+W多	にふい黄橙	つまみ 100	
2	蓋	つまみ3.2	B+R多+W	暗灰～灰白	20	焼成不良
3	坏	口(12.4) 底(6.0) 高(3.7)	W+礫 量多い	暗灰	20	回転糸切り離し
4	坏	底(6.0)	B+W	灰	底部 30	回転糸切り離し
5	坏	口(13.0) 底5.8 高4.3	B少+W	オリーブ灰	45	回転糸切り離し
6	坏	口12.0 底4.7 高4.3	W+W'	灰	90	回転糸切り離し
7	坏	口12.6 底5.1 高4.2	B+W	灰	90	回転糸切り離し 内面油芯状のス (灯明皿?)
8	坏	底6.0	W+礫少	灰	40	回転糸切り離し
9	坏	底6.0	B+W	灰白	底部 60	回転糸切り離し
10	坏	底5.6	B+W+礫	灰	40	回転糸切り離し
11	坏	底6.4	R+W	灰～にふい褐	底部 50	回転糸切り離し
12	坏	底(6.0)	B+W	灰白	底部 45	回転糸切り離し
13	坏	底6.0	W	灰	底部 50	回転糸切り離し
14	坏	底(6.1)	R+W	灰白	底部 20	回転糸切り離し
15	坏	底(6.0)	B+R少+W	にふい橙～灰黄	底部 45	回転糸切り離し 焼成不良
16	坏	口14.6 底5.8 高6.4	B+W	灰	60	放射状暗文 回転糸切り離し
17	坏	底(6.0)	W+W'	暗灰	底部 30	回転糸切り離し 内面に重ね焼きの痕跡
18	高台付椀	口13.8 台6.8 高5.9	B+R+W	にふい黄橙	100	回転糸切り離し後、高台ナデツケ 酸化焰焼成
19	高台付椀	口13.6 台7.4 高5.0	B+W	暗灰	95	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
20	高台付皿	台7.2	B+W+W'	灰白	底部 60	回転糸切り離し後、高台部ナデツケ
21	高台付椀	台7.0	B+W	灰	30	回転糸切り離し後、高台部ナデツケ 墨書「田夫世」
22	高台付椀	口13.2	B+R+W	灰～浅黄	65	回転糸切り離し後、高台ナデツケ 風化著しい
23	高台付椀	口13.4 台6.1 高5.0	B+W+W'	灰～黒	95	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
24	高台付椀	口13.8 台6.5 高5.6	B+R多+W少	灰	90	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
25	高台付椀	口15.2 台7.7 高6.2	B+W	灰	100	回転糸切り離し後、高台ナデツケ (糸切り痕不明瞭)
26	高台付椀	脚(8.0)	B少+W	灰	20	回転糸切り離し後、高台部ナデツケ
27	高台付椀	台7.2	B+W	灰白	底部 100	回転糸切り離し後、高台ナデツケ (高台部欠損) 風化著しい
28	高台付椀		B+W	灰		回転糸切り離し後、高台部ナデツケ 焼成時に3個体が接着
29	高台付椀	台(8.0)	B+W	灰	脚部 30	回転糸切り離し後、高台部ナデツケ

30	高台付碗	台(7.4)	R+W	灰～灰白	底部 30	高台ナデツケ
31	高台付碗	台(7.0)	B+W	灰	底部 10	回転糸切り離し後、高台部ナデツケ
32	高台付碗	台(8.0)	W	灰	高台部 30	回転糸切り離し後、高台部ナデツケ
33	高台付杯	口(18.0)	B+R多+W	灰～橙	20	焼成不良
34	高台付碗	台10.6	B+R+W	灰		切り離し後、高台ナデツケ
35	高台付甕	台(12.0)	B多+R+W	淡黄	底部 30	
36	脚付碗	脚10.4	B+W	灰	40	脚部回転ナデ
37	高台付甕	台(11.0)	R+W	(内)灰白 (外)にふい橙	底部 15	焼成不良
38	甕	底(12.0)	W多+W'	暗灰	底部 25	底部ヘラケズリ
39	壺	口(25.0)	B	灰白	口縁 20	
40	甕	口(26.2)	W	暗灰	口縁 10	
41	鉢	口(29.0)	W	灰	口縁 10	
42	甕		B+W+礫	灰	底部 25	
43	甕		B+W	灰～オリーブ灰	底部 10	風化
44	壺		W	暗灰		外面ナデ後、波状文 内面ナデ 内外面自然釉
45	甕	口(20.0)	B少+W+砂	橙	口縁 10	
46	甕	口(9.8)	B+W	にふい橙	30	粘土紐積み上げ痕明瞭
47	甕		B+W	にふい橙	40	粘土紐積み上げ痕明瞭 焼成良好
48	甕		B+W	にふい橙	30	粘土紐積み上げ痕明瞭(左廻り) 焼成良好

### 第3・4号井戸(第486図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	杯	口(13.0) 底(7.0) 高(3.5)	W	灰	20	SE3 回転糸切り離し
2	杯	口12.7 高4.6	B+R多+W	橙	60	SE3 放射状暗文
3	甕	口(28.0)	R+W多	にふい黄橙	口縁 5	SE3 焼成やや不良
4	甕	底(14.0)	W	灰	底部 10	SE3 底部ケズリ
1	杯	底7.0	W+針少	灰白	底部 50	SE4 回転糸切り離し後、周辺ヘラケズリ
2	杯	口(13.0)	B+W+W'	橙	20	SE4
3	甕	口(22.0)	W+礫	褐灰	口縁 5	SE4
4	甕		W多	灰		SE4



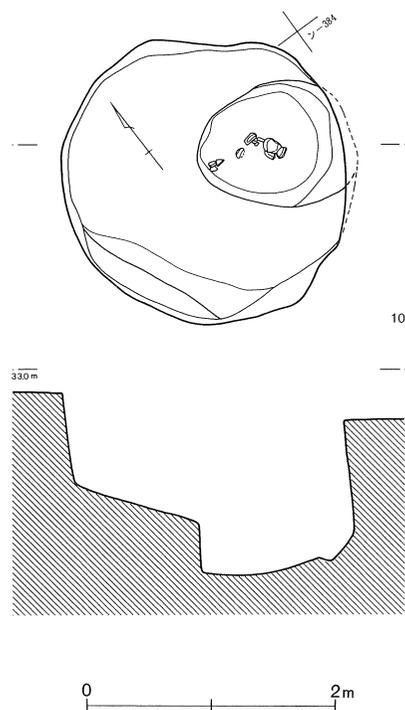
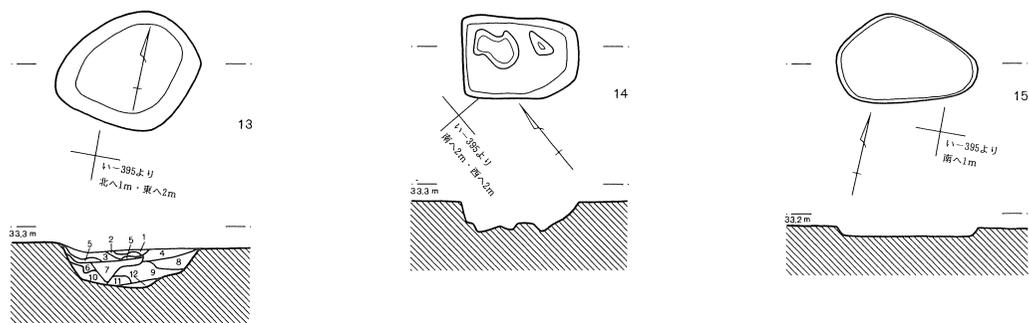
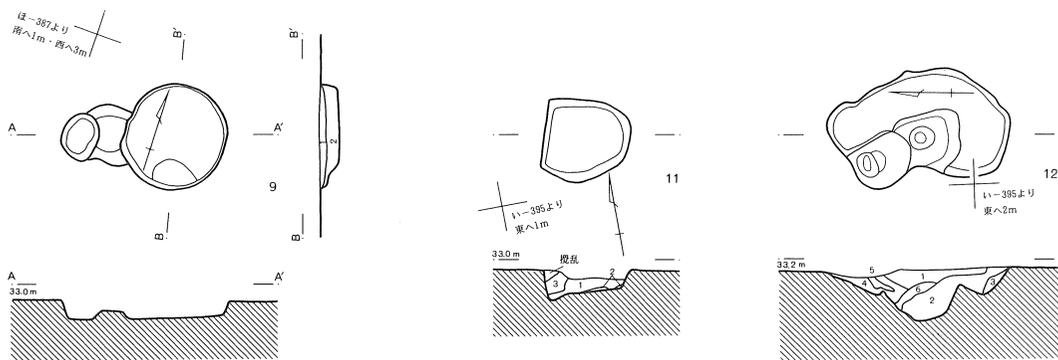
第486図 第3・4号井戸出土遺物

#### (4) 土坑 (第487・488・489・490図)

第2発掘区からは、24基の土坑が検出されている。2～3基を中心にして、多いものでは7基の土坑によって群が構成されている。これらは住居跡に近接して位置していることから関連が想定されるが、それを証明する明確な根拠は得られていない。もし仮に関連するものとしても、用途・機能等は不明である。規模・形態はさまざまである。円形もしくは長方形を呈し、約1～2mを測るものが多く、掘り込みは比較的浅い。遺物は14基の土坑から図示し得る遺物が出土している。概ね奈良～平安時代前半のものである。ほかに第30号土坑からは不明鉄製品1点、第42号土坑からは不明石製品が検出されている。

第19号土坑 (第488図) はスー391・392、ンー392Grid に位置している。不整形を呈し、規模は東西1.43m・南北1.74m、深さ0.48mを測る。レンズ状に掘り込まれ、北コーナー部は深く窪められた後、急激に立ち上がっている。覆土は暗褐色土で、灰、焼土・炭化物粒子が多量に含まれている。粘性に欠ける。遺物は須恵器の坏・高台付椀形土器を中心として、多量に出土している。これらの須恵器は還元焰焼成で焼かれているものの、通常の須恵器生産窯焼成のものに比べて、たいへん焼きが甘い。これは胎土の分析の結果でも証明されている。覆土に多量の灰、焼土・炭化物粒子が含まれ、焼きの甘い須恵器が多量に出土していることから、須恵器の焼成遺構の可能性が高い。構造は明確ではないが、北コーナー部の窪みが焚き口もしくは煙出の施設とも考えられる。底面はあまり焼けていない。出土遺物のなかには、「田□世」と書かれている墨書土器が含まれている。これは第2号井戸跡と同一人物の筆跡と思われる。ほかに不明鉄製品1点もある。

第22号土坑 (第488図) はモー392・393、セー392・393Grid に位置し、第2号掘立柱建物跡と重



第9号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・ローム粒子含む。しまり・粘性弱。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子若干混入。

第11号土坑

- 1 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(5mm)、炭化物多く含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土粒子、炭化物わずかに含む。しまりあり。
- 3 褐色土 焼土粒子、炭化物若干含む。しまりあり(攪乱?)。

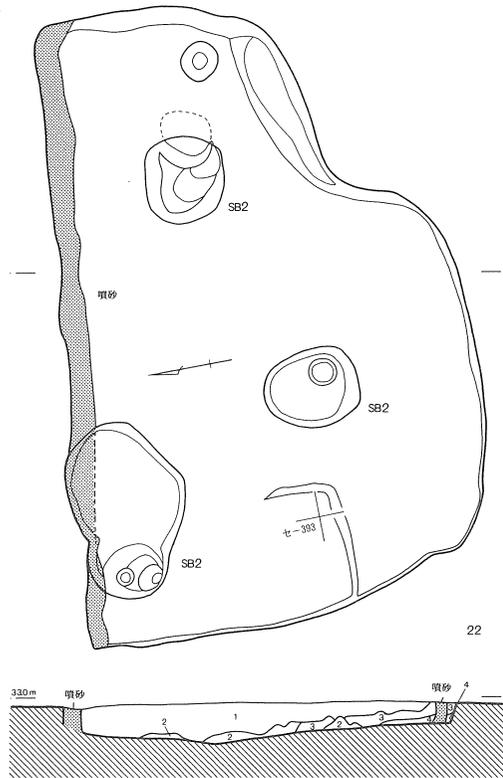
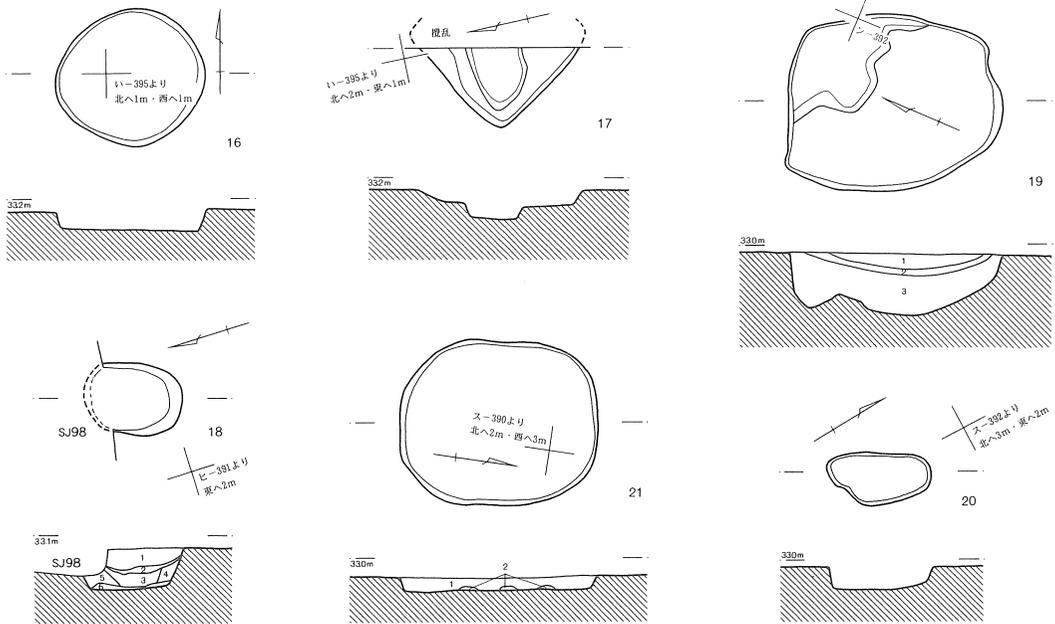
第12号土坑

- 1 褐色土 焼土・炭化物粒子多く、焼土ブロック(5~10mm)多量含む。しまりあり。部分的灰層。
- 2 灰褐色土 焼土粒子わずかに、炭化物若干含む。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 炭化物わずかに含む。しまりあり。
- 4 灰褐色土 焼土粒子・ブロック(5~10mm)、炭化物多く含む。しまりあり。
- 5 灰層
- 6 暗褐色土 焼土粒子、炭化物若干含む。しまりあり。

第13号土坑

- 1 黄褐色土 焼土粒子わずかに含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 焼土粒子・ブロック(3~5mm)、炭化物若干含む。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 焼土粒子、炭化物わずかに含む。やや軟質。
- 4 灰黄褐色土 焼土粒子、炭化物若干含む。灰混入。しまりあり。
- 5 黒褐色土 炭化層。焼土粒子・ブロックわずかに、炭化物多く含む。軟質。
- 6 黒褐色土 焼土粒子、炭化物多量、焼土ブロック(5~20mm)含む。しまり欠。
- 7 褐色土 焼土粒子多量、炭化物若干、焼土ブロック(5~20mm)含む。しまりあり。
- 8 暗黄褐色土 焼土粒子・ブロック(5~20mm)、炭化物多く含む。しまりあり。
- 9 褐色土 焼土粒子多量、炭化物、焼土ブロック(3~5mm)若干含む。しまりあり。
- 10 黒褐色土 6より炭化物少ない。
- 11 褐色土 9より炭化物多い。しまり欠。
- 12 黄褐色土 炭化物わずかに含む。しまりあり。

第487図 第2発掘区土坑(1)



第18号土坑

- 1 褐色土 炭化物粒子若干含む。しまりあり。
- 2 褐色土 焼土・炭化物粒子若干、黄褐色土粒子少量含む。しまりあり、粘性弱。
- 3 褐色土 焼土・炭化物・黄褐色土粒子わずかに含む。しまりあり、粘性弱。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに含む。しまりあり、粘性弱。
- 5 褐色土 焼土・炭化物粒子若干、白色粘土ブロック少量含む。粘性あり。
- 6 黄白色粘土層

第19号土坑

- 1 暗黄褐色土 炭化物粒子微量含む。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子、灰多量含む。粘性欠。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。粘性欠。

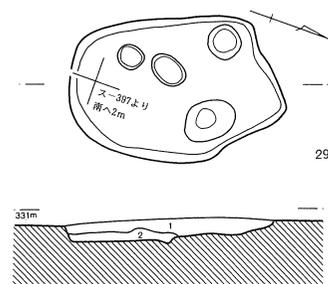
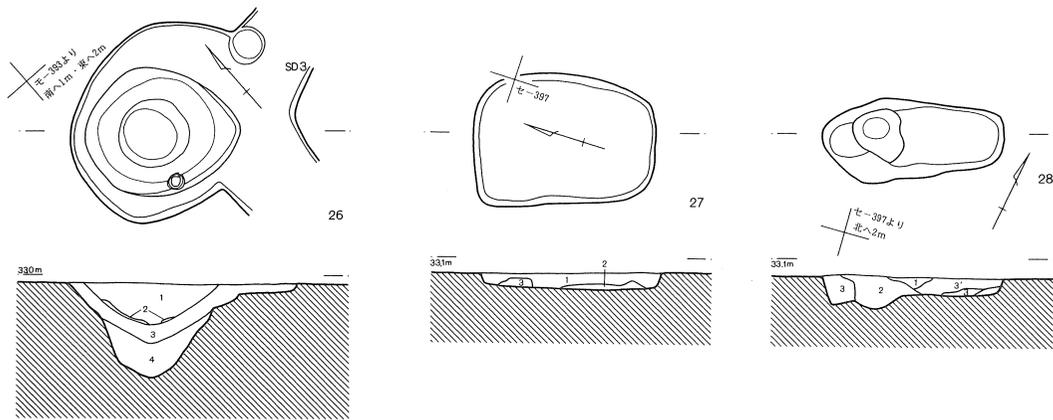
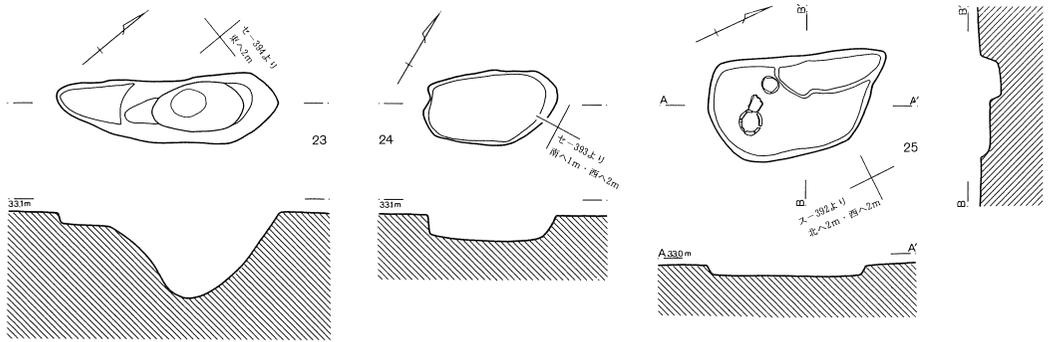
第21号土坑

- 1 黒褐色土 焼土・炭化物粒子多く、焼土ブロック少量含む。しまりあり。
- 2 黄褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。しまりあり。

第22号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。灰色砂多く、部分的に黄褐色土ブロック状混入。しまりあり。
- 2 黄褐色土 ブロック状堆積。焼土・炭化物粒子わずかに、暗褐色土少量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土少量含む。鉄分3・4層間堆積。しまりあり。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土ブロック多く含む。しまりあり。

第488図 第2発掘区土坑(2)



第26号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。しまりあり。
- 2 黒色炭化物堆積層
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土・灰色粘土ブロック少量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 焼土・炭化物粒子わずかに、黄褐色土・灰色粘土ブロック多く含む。しまりあり。

第27号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土粒子少量含む。
- 3 茶褐色土

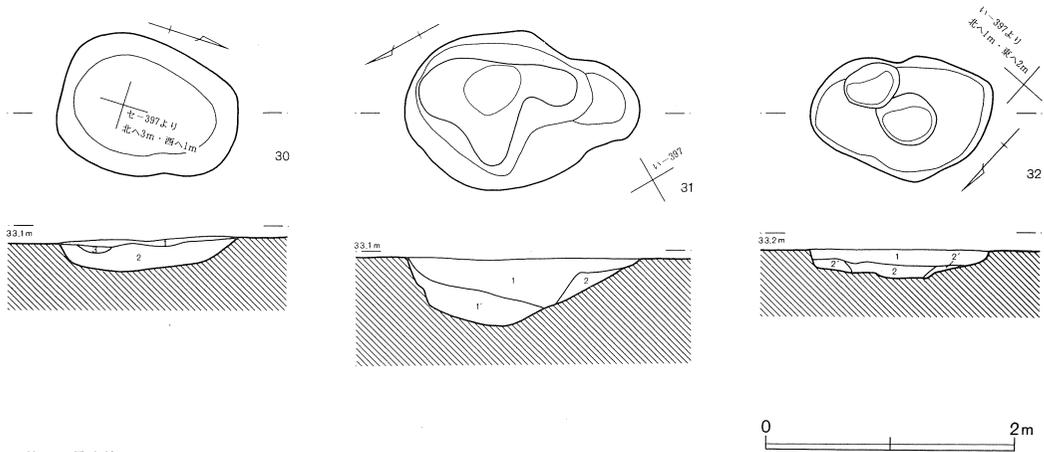
第28号土坑

- 1 褐色土 焼土粒子微量含む。
- 2 炭化物層 焼土粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子少量、炭化物粒子多量含む。
- 3' 暗褐色土 焼土・炭化物粒子少量含む。

第29号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。

第489図 第2発掘区土坑(3)



第30号土坑

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子多量含む。しまりやや欠。
- 2 暗褐色土 焼土粒子少量、黄褐色土ブロック多量含む。
- 3 暗褐色土 炭化物粒子多量含む。しまり・粘性欠。

第31号土坑

- 1 暗褐色土 炭化物粒子多量、白色粘質土粒子少量含む。
- 1' 暗褐色土 炭化物粒子多量、白色粘質土・灰色粘質土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量含む。

第32号土坑

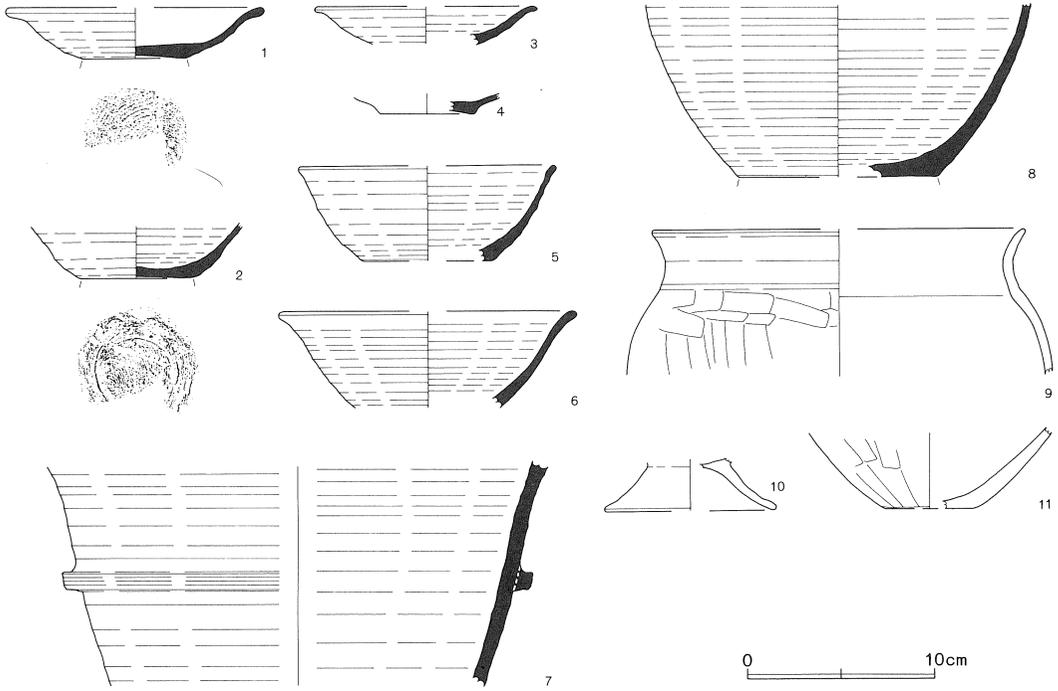
- 1 暗褐色土 炭化物粒子多量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。
- 2' 暗褐色土 炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック多量含む。

第490図 第2発掘区土坑(4)

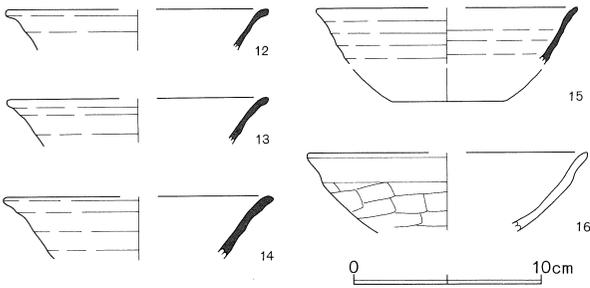
複している。東に張り出しがある方形を呈し、北壁は噴砂の亀裂によって壊されている。規模は東西5.08・3.35m、南北は推定3.27・2.10m、深さ0.34mを測る。底面には起伏があり、南東コーナー部にはピットが確認されている。用途・性格は不明で、第2号掘立柱建物跡との関連は認められない。遺物は土師器の坏形土器を中心に、土玉1点も出土している。

第26号土坑(第489図)はヒ-392Gridに位置し、屈曲している第3号溝コーナー部外側と重複している。円形を呈し、東西1.67m・南北1.38m、深さ0.75mを測る。階段状に掘り込まれ、底面は狭い。覆土は暗褐色土を主体とし、途中炭化物が堆積している。用途・性格および第3号溝との関連は明確ではない。遺物は図示し得るものが坏形土器1点のみである。

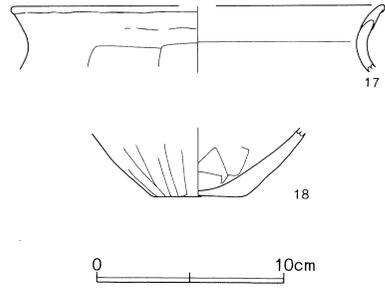
SK11



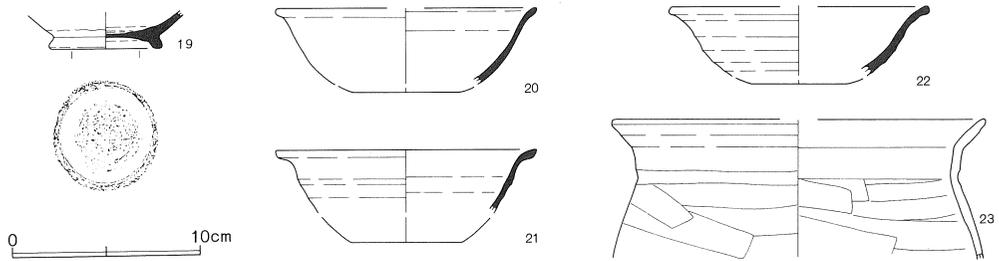
SK12



SK13

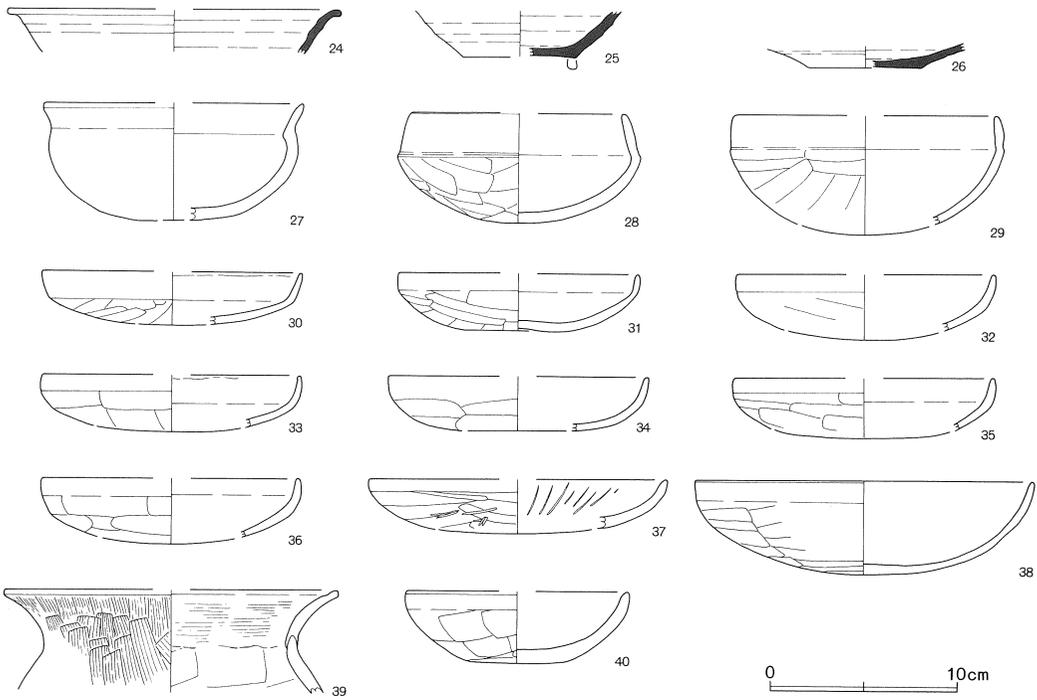


SK20

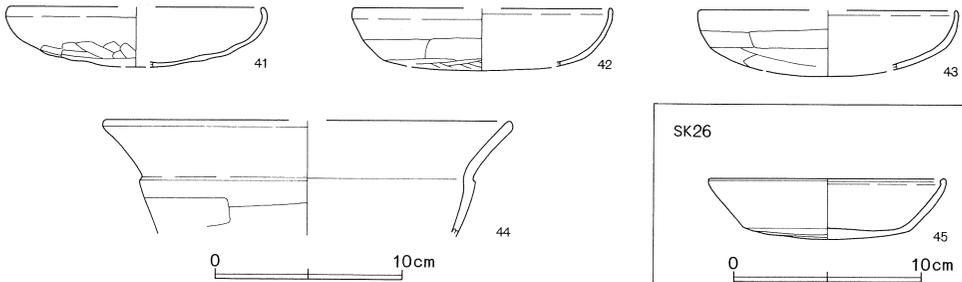


第491图 第2 発掘区土坑出土遺物(1)

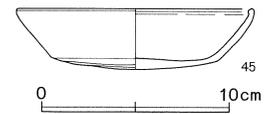
SK22



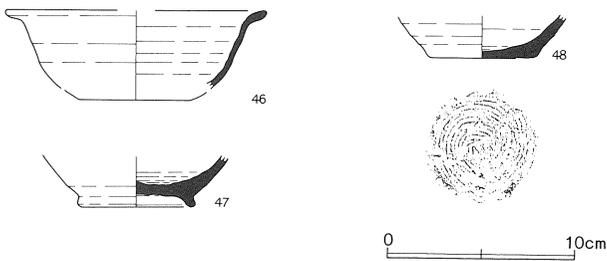
SK23



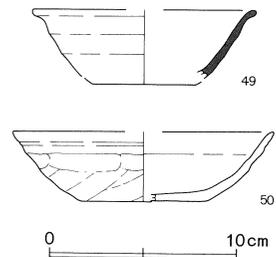
SK26



SK27

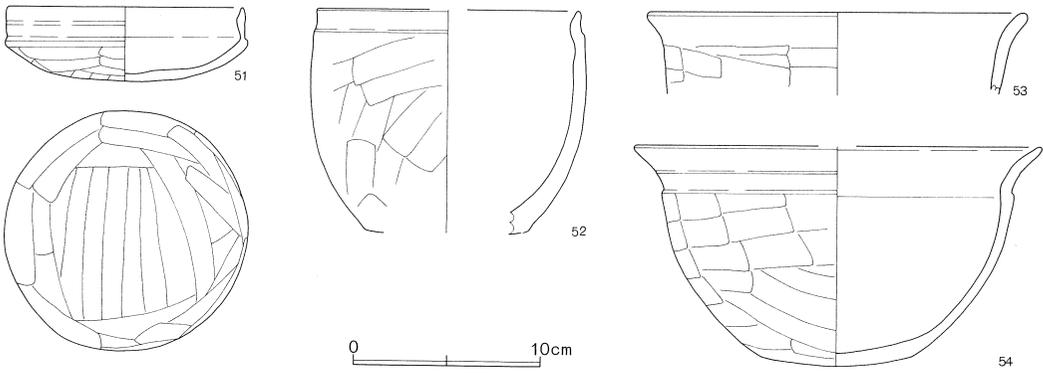


SK28

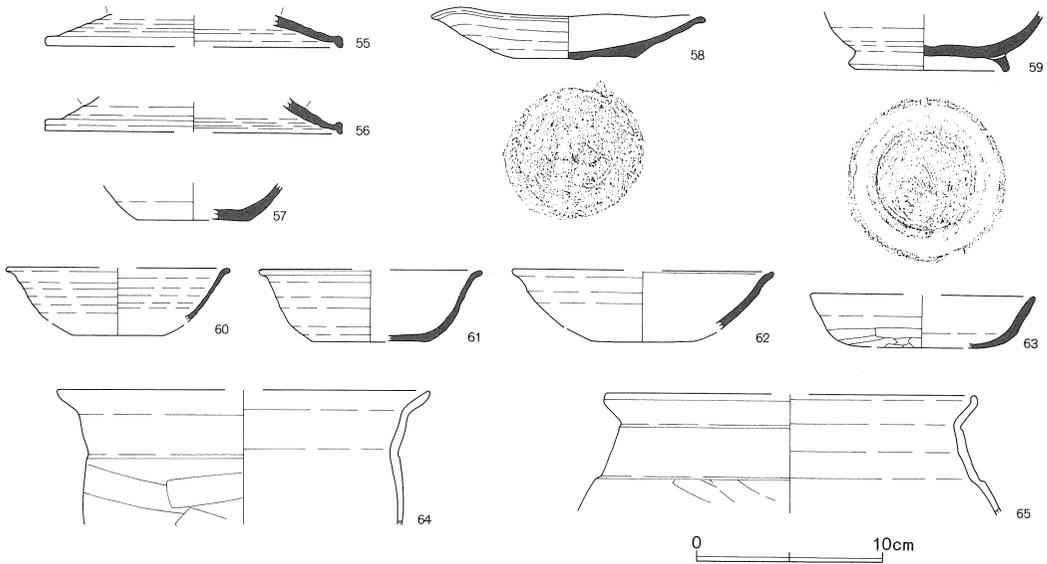


第492図 第2発掘区土坑出土遺物(2)

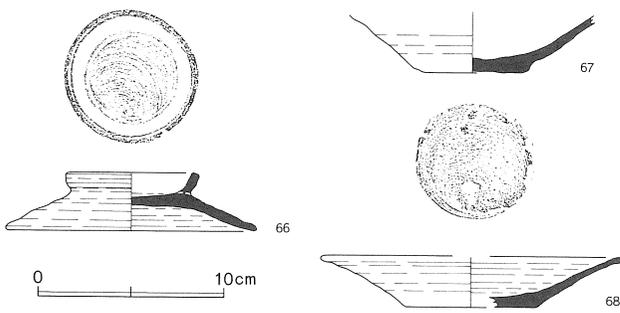
SK25



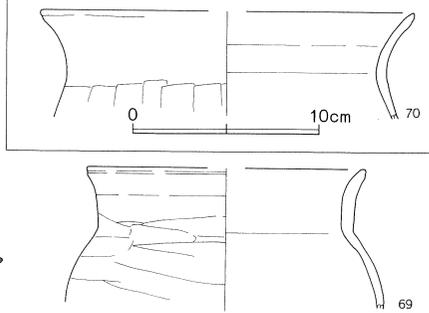
SK29



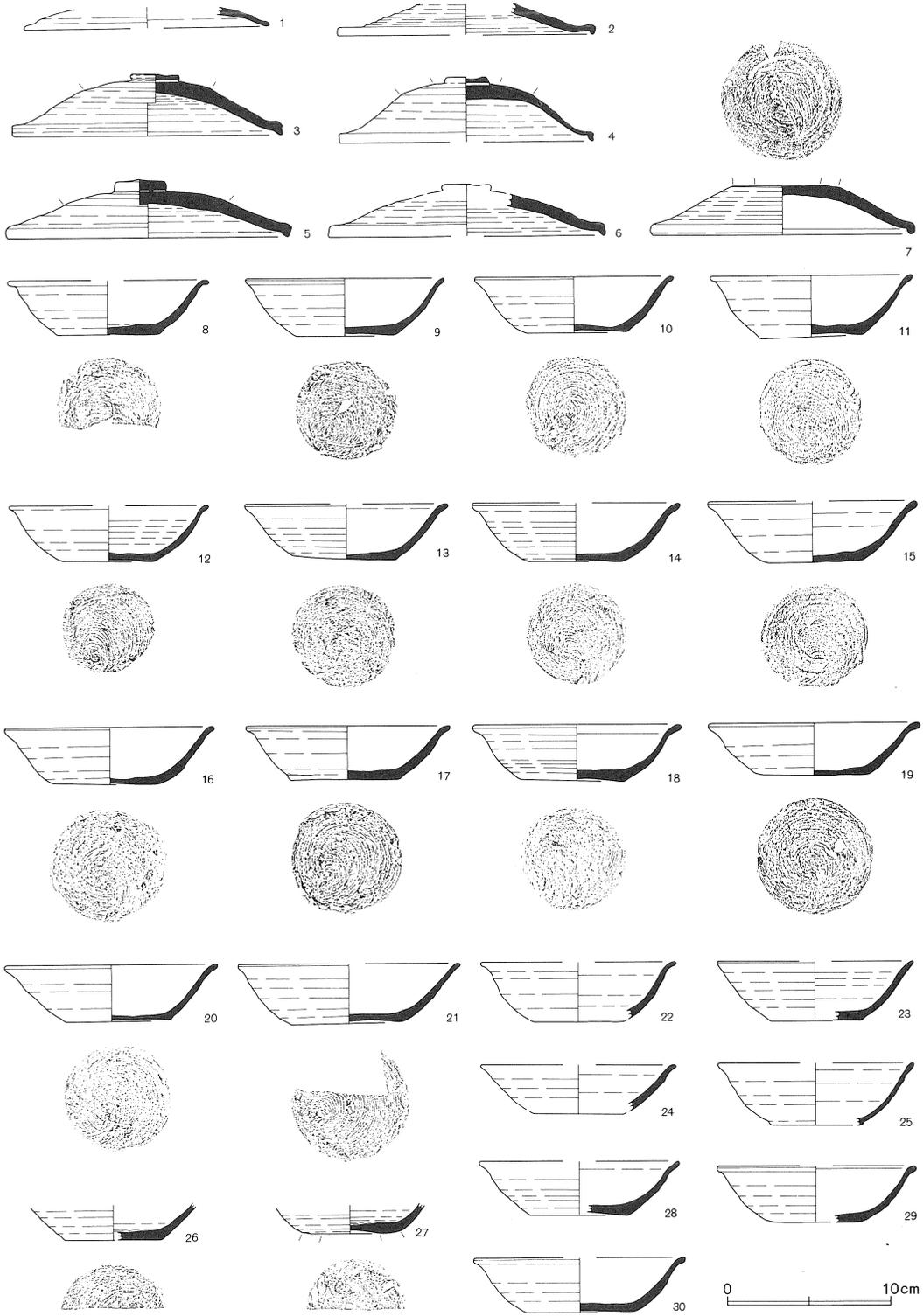
SK30



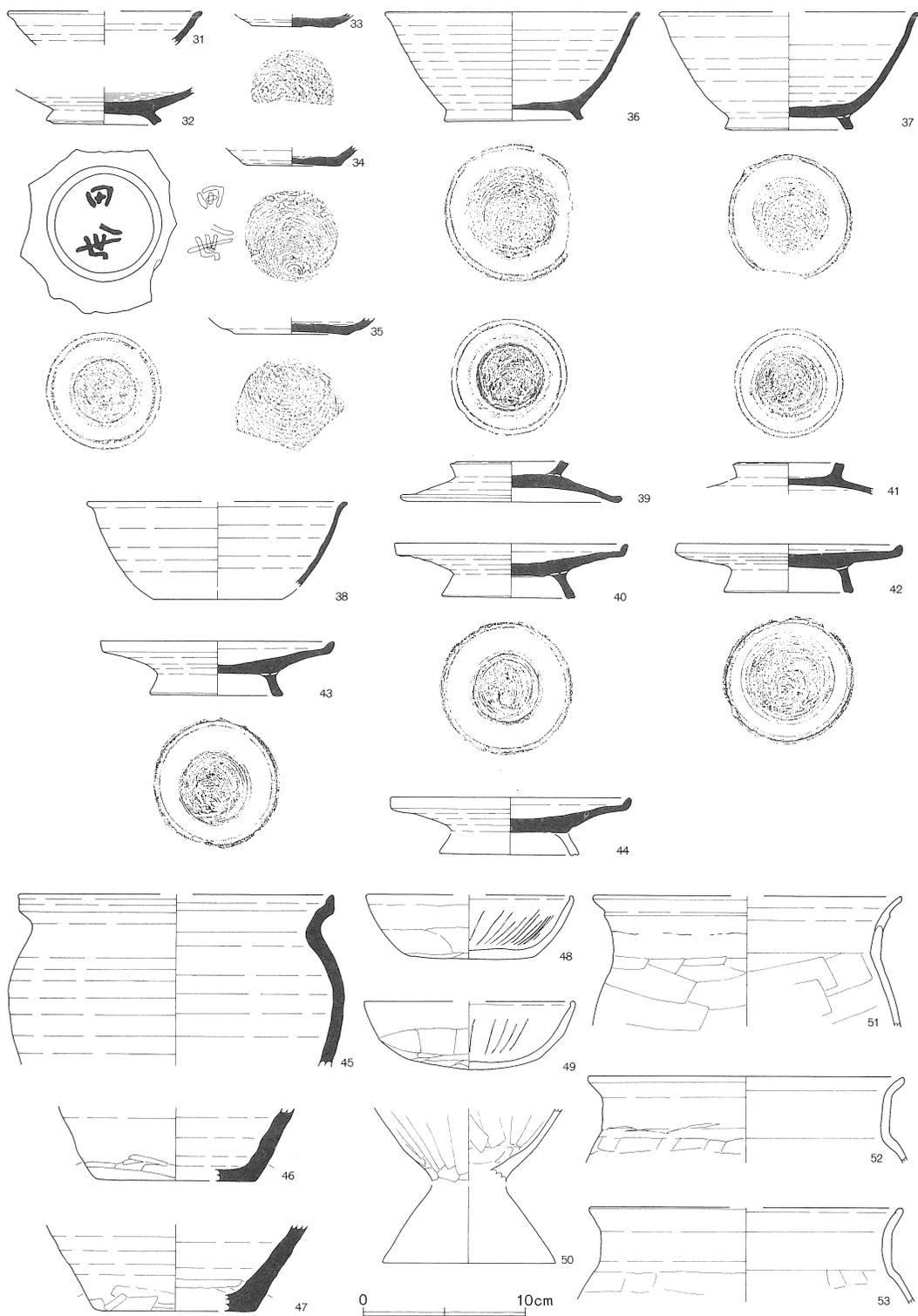
SK32



第493図 第2発掘区土坑出土遺物(3)



第494图 第19号土坑出土遗物(1)



第495图 第19号土坑出土遺物(2)

第2発掘区土坑（第491～493区）

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口(13.6) 底(5.6) 高2.7	B+W+礫少	灰白～灰	30	SK11 回転糸切り離し
2	坏	底6.0	B+W+礫少	灰白～灰	30	SK11 回転糸切り離し
3	坏	口(11.5)	B+W+礫少	灰	口縁 20	SK11
4	坏	底(5.0)	W	灰	底部 10	SK11 回転糸切り離し
5	坏	口(13.6)	R+W	灰	口縁 10	SK11
6	坏	口(15.4)	R多+W	灰白～にふい橙	口縁 15	SK11
7	羽釜		B+W	灰	10	SK11 突帯ナデツケ
8	壺	底(10.6)	B+R	灰～浅黄橙	底部 25	SK11 回転糸切り離し
9	甗	口(20.0)	B+R+W	橙～にふい橙	口縁 20	SK11 胴部外面黒色部分
10	高坏	脚9.2	B+R+W	橙	脚部	SK11 内面黒色
11	甗	底(4.8)	B+R+W少	浅黄橙～にふい橙	底部 20	SK11 底部ケズリ
12	坏	口(14.0)	B+W	灰	口縁 10	SK12
13	坏	口(14.0)	R+W+W'	にふい黄橙～灰黄	5	SK12 焼成不良
14	坏	口(14.4)	R+W+W'	にふい黄橙～黒	20	SK12 焼成不良
15	坏	口(14.0)	R多+W+W'	にふい黄橙	10	SK12 焼成不良
16	坏	口(15.0)	B+R+W	橙	30	SK12
17	甗	口(20.0)	B+R+W	橙	口縁 5	SK13
18	甗	底5.0	B+R+W+W'	橙	底部 50	SK13 底部1方向のケズリ
19	高台付碗	台6.0	B+W多	灰	底部 100	SK20 回転糸切り離し後、高台ナデツケ 内面に重ね焼き痕
20	坏	口(14.0)	B+W	灰	10	SK20
21	碗	口(14.0)	W	灰	5	SK20 口縁端面トリ
22	坏	口(14.0)	B+W	灰	20	SK20
23	甗	口(20.0)	B+R+W	(内)橙 (外)黒褐	口縁 10	SK20
24	坏	口(18.0)	B+W	灰白	5	SK22 内面自然釉付着
25	高台付碗	台(6.0)	W	灰	20	SK22 回転糸切り離し後、高台ナデツケ (欠損)
26	皿	底(6.0)	W	暗灰～赤灰	底部 40	SK22 回転糸切り離し
27	碗	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	20	SK22 風化著しい
28	坏	口(11.2) 高5.8	B+R+W	橙	45	SK22
29	坏	口(14.0)	B+R+W	橙～にふい橙	20	SK22

30	皿	口(14.0)	B+R+W	橙~にふい黄橙	30	SK22
31	皿	口(13.0) 高3.1	B+R+W+W'	にふい橙	40	SK22
32	坏	口(14.0)	B+R+W	橙	20	SK22 風化著しい
33	皿	口(14.0)	B+R+W+W'	橙	30	SK22
34	坏	口(14.0)	B+W	橙	30	SK22
35	皿	口(14.0)	B+R+W	橙	30	SK22
36	皿	口(14.0)	B+R+W少	橙	40	SK22
37	皿	口(16.0)	B+R+W	にふい橙	30	SK22 放射状暗文
38	坏	口18.0 高5.0	B+R+W	にふい橙~橙	40	SK22 外面黒色
39	甕	口(18.0)	B+R+W+W'	にふい橙	口縁 20	SK22
40	坏	口(11.7) 高3.8	B+R+W多	橙	35	SK22 風化
41	坏	口(14.0)	B+W	橙	20	SK23 表面粗
42	坏	口(14.0)	B	橙	30	SK23
43	坏	口(14.0)	B+W+W'	橙	20	SK23 内面風化著しい
44	鉢	口(22.0)	B+W	橙	口縁 10	SK23 口縁端部弱い面トリ
45	坏	口(12.6) 底8.8 高3.2	B+R+W+W' 多	浅黄橙~褐灰	95	SK26 内外面黒色部分
46	坏	口(14.0)	W	灰	20	SK27
47	高台付碗	台6.4	R+W	にふい赤褐	底部 100	SK27 底部から高台部ナデ 焼成不良
48	坏	底6.6	B+W	灰白	底部 100	SK27 回転系切り離し
49	坏	口(12.0)	W	灰~にふい橙	5	SK28
50	坏	口(14.0) 底(7.0) 高3.8	B+R+W+W'	橙	20	SK28 底部1方向のケズリ
51	坏	口12.5 高4.0	B+R+W+W'	橙	100	SK25 外面黒色部分
52	鉢	口(14.0) 胴14.8	B+R	浅黄橙	20	SK25 外面黒色部分
53	甌	口20.0	B+R少	浅黄橙	口縁	SK25
54	鉢	口(21.6) 底8.0 高11.8	B+R	浅黄橙~橙	25	SK25 胴部外面黒色部分
55	蓋	口(16.0)	B+W	灰	30	SK29
56	蓋	口(16.0)	B+W多	灰	5	SK29
57	坏	底(6.0)	R+W	灰白	底部 30	SK29 回転系切り離し
58	皿	口14.6 底6.5 高2.5	W+礫少	青灰	100	SK29 回転系切り離し 歪みあり
59	高台付碗	台8.2	B少+R少+W+W'	灰	底部 100	SK29 回転系切り離し後、高台ナデツケ

60	坏	口(12.0)	R+W	灰	30	SK29
61	坏	口(12.0)	W+W'	灰	30	SK29 回転糸切り離し
62	坏	口(14.0)	B+R+W	灰黄	10	SK29
63	坏	口(12.0)	B+R+W	にふい橙	30	SK29
64	甕	口(20.0)	B+R+W	橙	口縁~肩部 10	SK29
65	甕	口(20.0)	B+R+W+W'	橙	口縁 20	SK29 口縁端部内傾
66	蓋	口13.4 つまみ7.1 高3.1	B+W+礫少	灰		SK30 天井部回転糸切り離し後、つまみナデツケ
67	坏	底5.6	B+W+W'	灰	50	SK30 回転糸切り離し
68	皿	口(16.2) 底(7.0) 高2.7	W	灰	30	SK30 回転糸切り離し
69	甕	口(15.0)	B+R少+W+W'	橙	口縁 30	SK30
70	甕	口(20.0)	B+W+W'	橙	口縁 20	SK32

第19号土坑 (第494・495区)

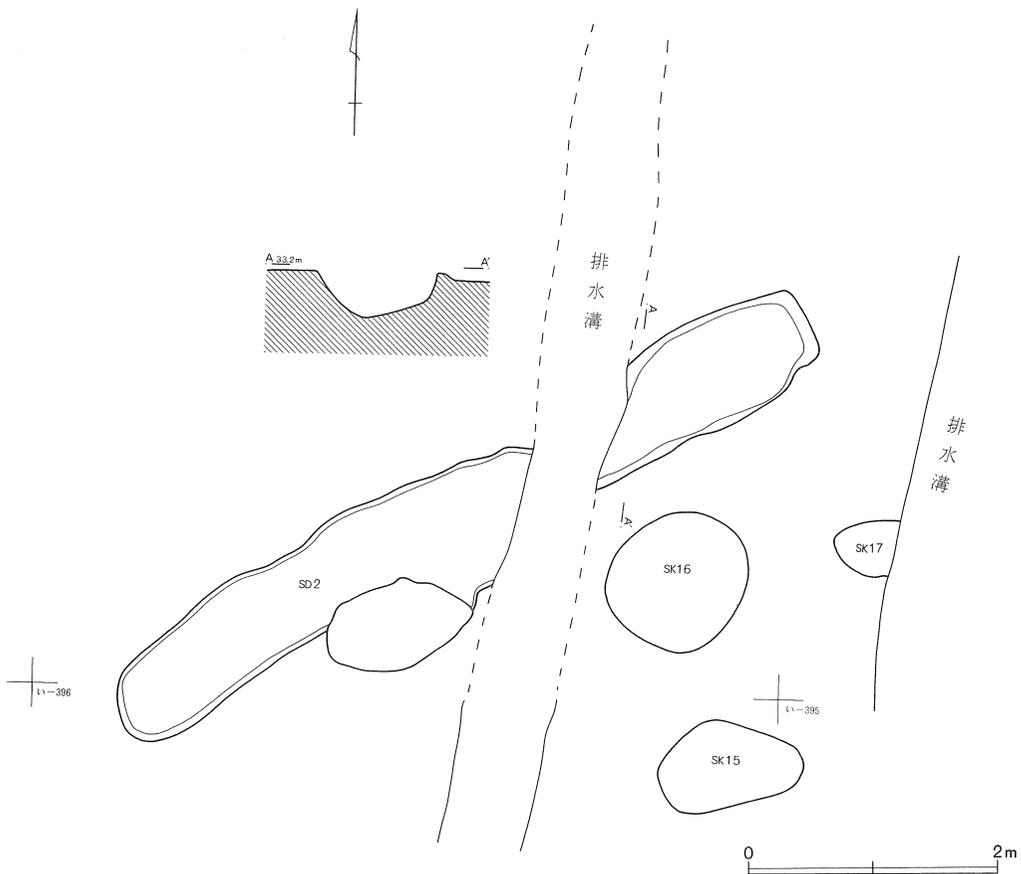
No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口(15.0)	W	灰	10	
2	蓋	口(15.8)	B+W	灰	10	つまみ部分欠損
3	蓋	口16.4 つまみ3.0 高3.8	B+W+礫少	灰	80	
4	蓋	口(15.6) つまみ2.4 高(4.0)	B+W+礫少	灰	40	上半部外面ヘラケズリ(右回転) 天井部回転糸切り痕
5	蓋	口17.2 つまみ3.1 高3.5	B多+W	灰黄	85	
6	蓋	口(17.0)	B+W多+W'	灰	40	
7	蓋	口16.2	B+R少+W	灰黄	90	回転糸切り後、周辺ヘラケズリ(右回転) 風化
8	坏	口(12.2) 底(6.0) 高(3.3)	R少+W	灰	10	回転糸切り離し
9	坏	口12.2 底6.0 高3.5	B+R少+W+W'	灰	65	回転糸切り離し
10	坏	口12.2 底6.1 高3.4	B+W+礫少	灰	90	回転糸切り離し
11	坏	口12.4 底6.2 高3.6	W多+W'+礫少	暗青灰	70	回転糸切り離し
12	坏	口(12.2) 底5.6 高3.4	B+R少+W	オリープ灰	45	回転糸切り離し
13	坏	口(12.4) 底6.3 高3.3	B+R+W	灰	60	回転糸切り離し
14	坏	口(12.8) 底5.5 高3.6	B+W	灰	45	回転糸切り離し
15	坏	口(12.8) 底5.7 高3.7	B+R+W	灰白	60	回転糸切り離し
16	坏	口12.8 底6.4 高3.5	B+W+礫少	灰	90	回転糸切り離し
17	坏	口12.5 底6.6 高3.3	B+W多+W'+礫少	暗青灰	100	回転糸切り離し

18	坏	口12.8 高3.6	底6.4	B+W+W'	灰	70	回転糸切り離し
19	坏	口13.0 高3.2	底6.3	B+R少+W+W'+礫	暗オリーブ灰	100	回転糸切り離し
20	坏	口13.0 高3.5	底6.4	B+R+W多+砂少	暗緑灰	70	回転糸切り離し
21	坏	口13.6 高3.7	底6.7	B+W+礫少	灰	50	回転糸切り離し
22	坏	口(12.0)		R+W	灰白	20	底部欠損
23	坏	口(12.0)		B+W+W'	灰	30	回転糸切り離し
24	坏	口(12.0)		R+W	灰白～淡橙	30	底部欠損 焼成やや不良
25	坏	口(12.0)		W+礫少	灰	20	底部欠損
26	坏	底(6.0)		R+W	灰	底部 40	回転糸切り離し
27	坏	底6.0		R+W	灰	底部 50	回転糸切り離し 周辺部ナデ
28	坏	口(12.2) 高(3.3)	底(6.0)	R多+W	橙～灰黄	20	回転糸切り離し 焼成不良
29	坏	口(12.2) 高3.4	底5.6	B+R+W	灰	50	回転糸切り離し
30	坏	口(13.0) 高3.4	底6.6	B+W多	灰	50	回転糸切り離し
31	坏	口(12.0)		B+W+針	灰白	20	底部欠損
32	高台付椀	台7.1		B+W+W' 少+礫少	灰	40	回転糸切り離し後、高台部ナデツケ 墨書「田夫世」
33	坏	底5.0		B+W	灰	底部 60	回転糸切り離し
34	坏	底(6.0)		針	灰白	底部 100	回転糸切り離し
35	坏	底7.0		B+R+W	灰黄	底部 60	回転糸切り離し
36	高台付椀	口15.6 高6.7	台8.5	B+W	灰	70	回転糸切り離し後、高台ナデツケ
37	高台付椀	口(16.0) 高7.2	台7.8	B+W多+W'	灰	40	高台ナデツケ 端部ヘラアテ
38	椀	口(16.0)		W	灰	10	底部欠損
39	蓋	口13.6 高2.5	つまみ7.3	B+R+W	褐灰～にぶい橙	65	回転糸切り後、つまみ部分ナデツケ
40	高台付皿	口14.3 高3.3	台8.2	B+W多	褐灰	95	回転糸切り後、高台ナデツケ 内面に 重ね焼き痕(高台径大)
41	蓋	つまみ6.8		B+W+礫少	灰	つまみ100	回転糸切り後、つまみナデツケ
42	高台付皿	口13.8 高3.0	台8.0	B+W+W'	灰	100	回転糸切り後、高台ナデツケ 内面に 重ね焼き痕
43	高台付皿	口14.4 高3.3	台8.2	B+R少+W	灰黄	100	回転糸切り後、高台ナデツケ
44	高台付皿	口14.6		B+W多+W	褐灰	80	回転糸切り後高台ナデツケ(高台欠失) 内面重ね焼き痕
45	甕	口(19.4)		W+礫少	灰	上半部 15	
46	甕	底(10.0)		W	灰	底部 15	底部ケズリ
47	甕	底(10.0)		W	灰	底部 25	底部ケズリ

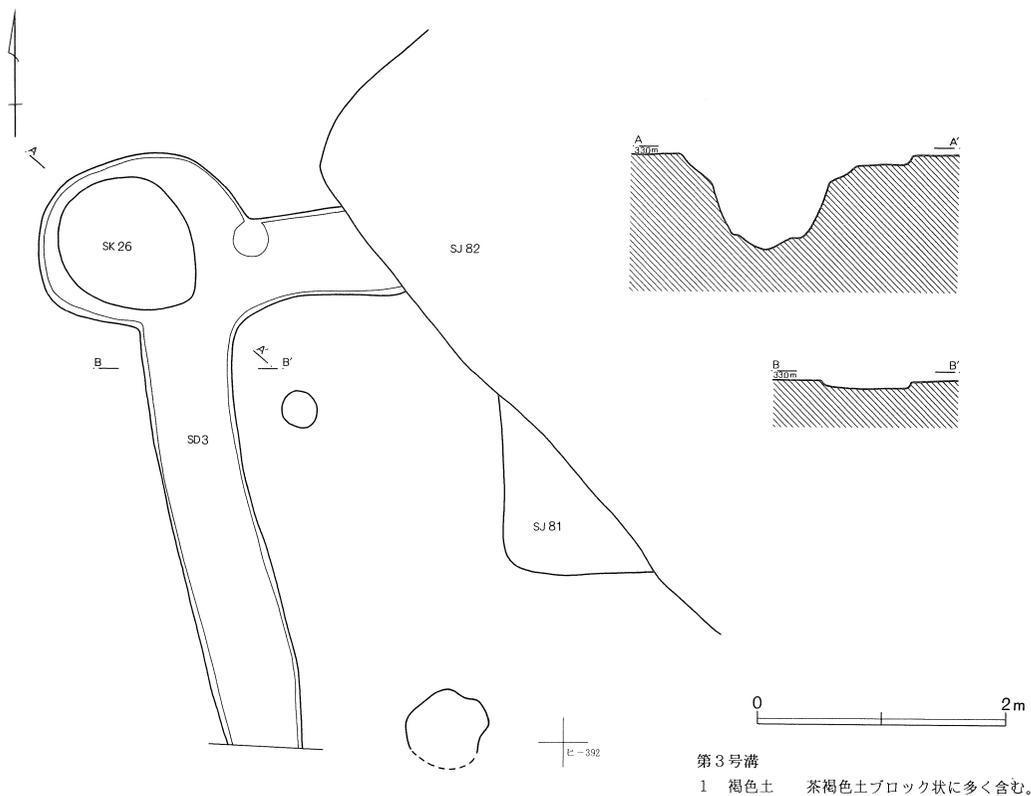
48	坏	口(12.6) 高3.9	B+W少	橙	40	放射状暗文
49	坏	口(13.0) 高4.2	B+W	にふい橙	55	粗雑な放射状暗文
50	台付甗	台(5.0)	B+W+W'	橙	胴部下位20	
51	甗	口(19.0)	B+R多+W+W'	橙	口縁 10	
52	甗	口19.4	B+W多+W'	橙	口縁 95	
53	甗	口(19.3)	B+W	橙	口縁 30	

(5) 溝

第2発掘区からは、溝8条が検出されている。いずれも、発掘区西半部に位置している。幅が狭く、浅いものが多い。第2～4号溝は、それぞれ独立している。一方、第5～8号溝は一地域に集中し、平行して走っている。遺物は第4・5・8号溝から出土しているが、たいへん少ない。特に第4号溝には時期の異なる遺物が存在している。



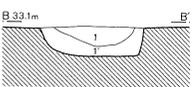
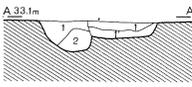
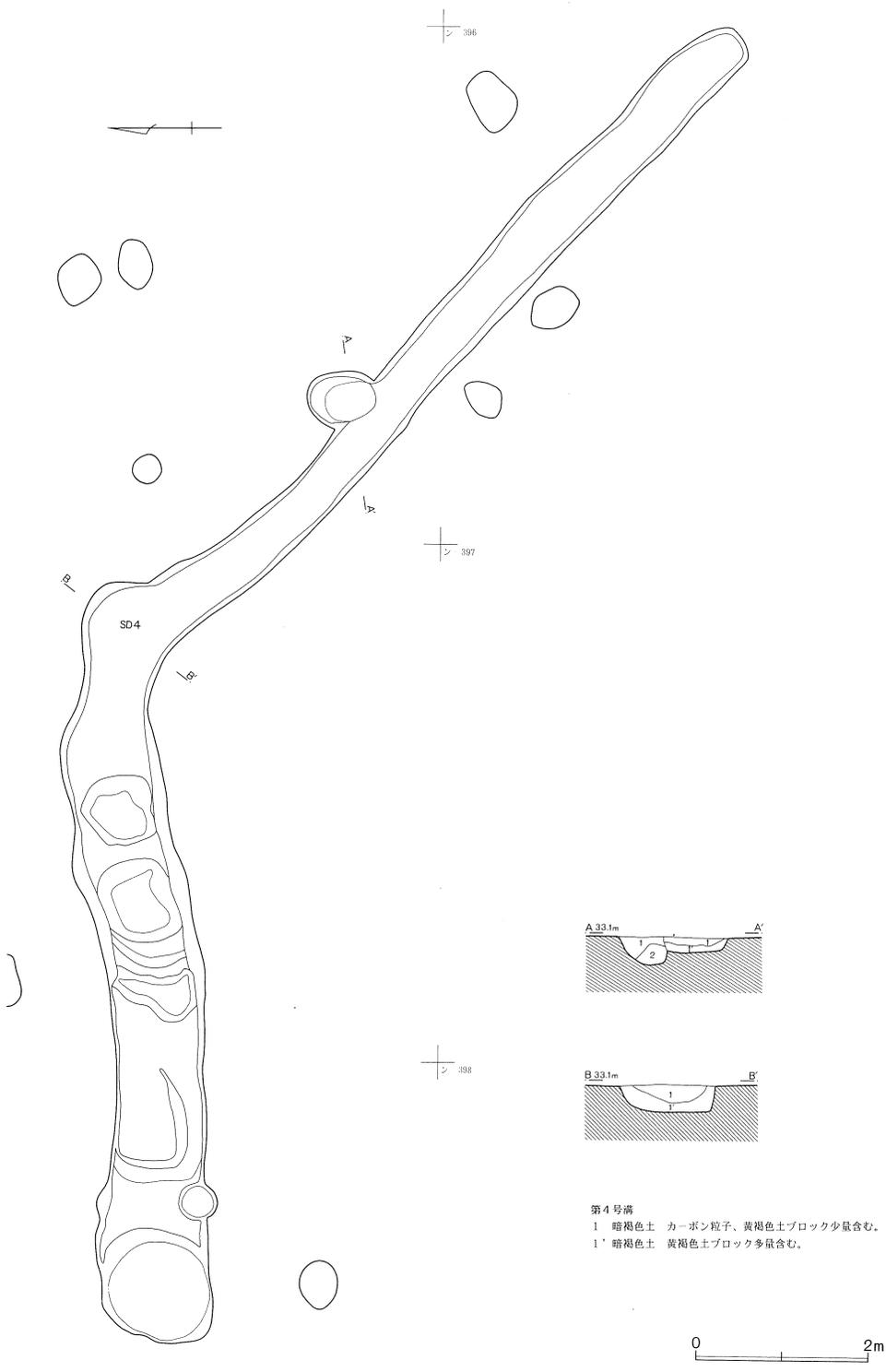
第496図 第2号溝



第497図 第3号溝

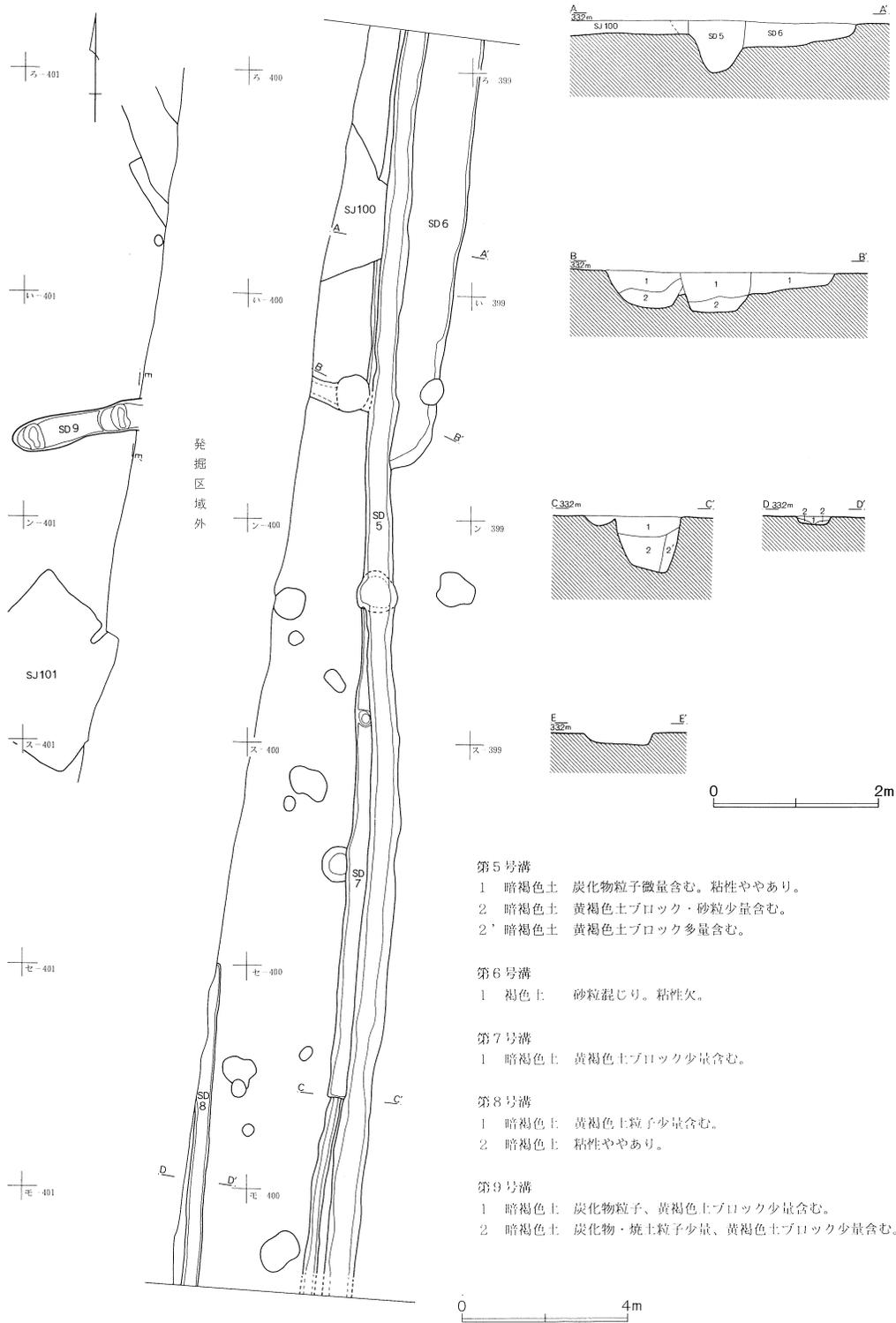
第3号溝は（第497図）はエー392、ヒー392Gridに位置し、ほぼ方位と平行して、直角に屈曲している。コーナー部では第26号土坑と、東側では第82号住居跡と重複している。幅が70cm弱で、深さは10cmにも満たない。第4号溝（第498図）はスー396、ンー396・397・398Gridに位置し、中央部で屈曲している。幅0.50～0.87m、深さ0.14～0.23mを測る。底面は、東から西に緩やかに傾斜している。

第5・6・7号溝（第499図）は平行しながら重複し、第2発掘区西端をほぼ南北に走っている。第100号住居跡・第5号掘立柱建物跡と切りあっている。またこれらと平行する第8号溝も検出されている。さらに第9号溝（第499図）は第5～7号溝と、ほぼ直角に交差している。第6号溝（第499図）を除いて、幅は30cm前後と狭い。発掘区域外にかかっており、全長等は不明である。深さは浅いものの、底面は北から南に緩やかに傾斜している。第5～8号溝は方向性や規模等から、それぞれ関連性をもっている遺構と想定される。これら4条の溝は、削平による影響を考慮にいれなければならないが、住居跡の分布密度がきわめて薄い地域を截ち割るように位置している。このことから集落の区画などの機能が考えられる。



第4号溝  
 1 暗褐色土 カarbon粒子、黄褐色土ブロック少量含む。  
 1' 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量含む。

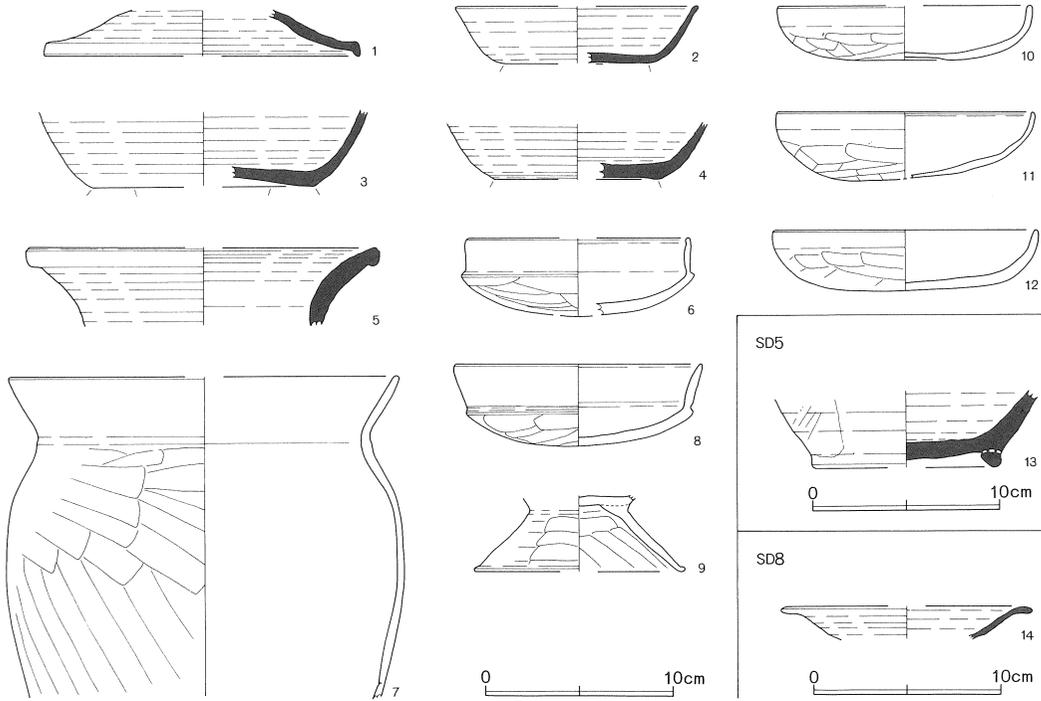
第498図 第4号溝



- 第5号溝
- 1 暗褐色土 炭化物粒子微量含む。粘性ややあり。
  - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・砂粒少量含む。
  - 2' 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量含む。
- 第6号溝
- 1 褐色土 砂粒混じり。粘性欠。
- 第7号溝
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
- 第8号溝
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量含む。
  - 2 暗褐色土 粘性ややあり。
- 第9号溝
- 1 暗褐色土 炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量含む。
  - 2 暗褐色土 炭化物・焼土粒子少量、黄褐色土ブロック少量含む。

第499図 第5・6・7・8・9号溝

SD4



第500図 第2発掘区溝出土遺物

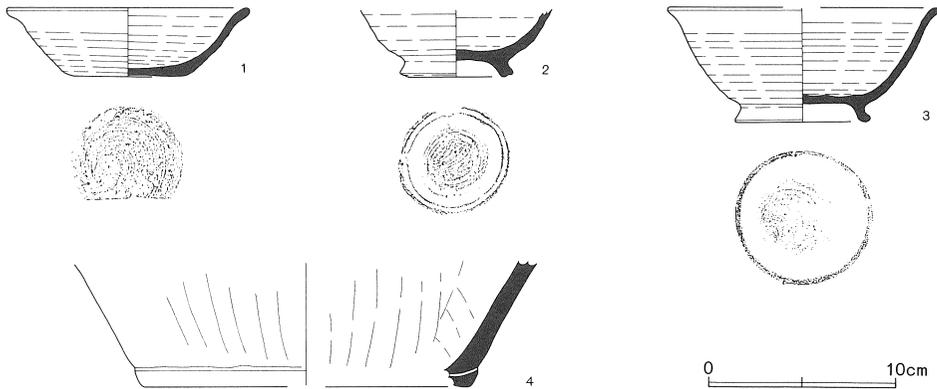
## (6) ピット

ピットは他の遺構の位置していない間隙に掘り込まれている。概ね数基が密集しているが、規則性は認められない。また周辺の遺構との関連も明らかではない。出土遺物も少なく、年代も定かではない。このため、用途・性格・機能等を明確にすることはできない。

第1号掘立柱建物跡の北東、ヒ-397・388Gridにはピットが6基と4基の列が平行している。それぞれの列のピットは等間隔に配されている。一方、両列の間隔は異なっている。また周辺の遺構との関連も明らかではない。ピットが規則的に並んでいることから柵列の可能性もあるが、機能・性格は明確にはできない。ここでは柵列の可能性を指摘するに留める。

第2発掘区溝 (第500図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	蓋	口16.8	W+針	灰白～灰	15	SD4 端部濃灰色
2	坏	口(12.8) 底(7.6) 高3.0	W+針	にふい赤橙～灰	45	SD4 底部回転ヘラケズリ 酸化焙焼成 口縁端部濃灰色
3	坏	底(12.0)	W+針	灰	底部 45	SD4 底部手持ちヘラケズリ後、周辺回 転ヘラケズリ
4	坏	底(8.6)	B+W+針	灰白～浅黄橙	底部 25	SD4 底部回転ヘラケズリ
5	甕	口18.6	B少+W	灰	口縁 20	SD4
6	坏	口(11.8)	B+R+W	にふい橙	25	SD4
7	甕	口(20.8) 胴21.3	B+R+W	橙	口縁 40	SD4
8	坏	口13.0 高4.3	B+W	黒～にふい褐	60	SD4 外面黒色
9	台付甕	台(11.0)	B+R+W	にふい橙～褐灰	脚部 60	SD4 内外面黒色
10	盤	口13.4 高2.9	B+W	にふい黄橙	40	SD4
11	盤	口13.6 高3.6	B+W	にふい橙	95	SD4
12	盤	口14.0 高3.8	B+R+W少	黄橙	60	SD4
13	壺	底(10.0)	B+R+W	灰白～灰オリーブ	底部 30	SD5 底部ヘラケズリ後、高台ナデツケ 外面部分的に自然釉残
14	皿	口12.6	B+W	灰	20	SD8



第501図 第2発掘区ピット出土遺物

第2発掘区ピット (第501図)

No.	器種	大きさ(cm)	胎土	色調	残存率(%)	備考
1	坏	口12.8 底5.6 高3.7	B+W+礫少	灰白	60	セ-399 G ピット 1。回転糸切り離し
2	坏	底6.0	W	灰	40	セ-399 G ピット 2。回転糸切り離し後 高台ナデツケ
3	高台付碗	口(14.5) 台7.2 高6.0	B+W+礫少	灰白	40	モ-397 G ピット 2。回転糸切り離し後 高台ナデツケ
4	甕	底(17.6)	W+礫少	灰	底部 20	モ-398 G ピット 1。